



現代日本語におけるオノマトペの用法解明と中国人
日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言
—コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって—

張, 晶鑫

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2020-03-25

(Date of Publication)

2021-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7648号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007648>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博士論文

現代日本語におけるオノマトペの用法解明と
中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言
ーコーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐってー

2020年1月

神戸大学大学院国際文化学研究科

張 晶鑫

(目次)

第I部 研究の枠組み.....	7
序章	7
1.1 はじめに	7
1.1.1 日本語におけるオノマトペの重要性.....	7
1.1.2 日本語教育におけるオノマトペの重要性.....	8
1.1.3 先行研究の課題と本論文の独自性.....	9
1.2 本論文の目的と構成.....	10
第2章 研究対象としてのオノマトペ.....	15
2.1 オノマトペの名称と定義.....	15
2.1.1 オノマトペの名称.....	15
2.1.2 オノマトペの定義.....	18
2.2 オノマトペの分類.....	21
2.3 オノマトペの語彙化および一般語彙との関係.....	24
2.4 日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの位置づけ.....	28
2.4.1 国語辞書におけるオノマトペ.....	28
2.4.2 日本語教科書におけるオノマトペ.....	29
2.4.3 オノマトペ専門辞書におけるオノマトペ.....	32
2.4.4 日本語学習者の作文におけるオノマトペ.....	35
2.5 オノマトペ研究の現状.....	37
2.6 まとめ.....	39
第3章 先行研究.....	40
3.1 日本語学の観点からの研究.....	40
3.1.1 オノマトペの音韻的特徴を扱った研究.....	40
3.1.2 オノマトペの形態的特徴を扱った研究.....	46
3.1.3 オノマトペの統語的特徴を扱った研究.....	61
3.1.4 オノマトペの意味的特徴を扱った研究.....	72
3.1.5 オノマトペの使用実態を扱った研究.....	81
3.2 日本語教育学の観点からの研究.....	84
3.2.1 オノマトペ重要語彙の選定.....	84

3.2.2	オノマトペ教材の収録調査.....	92
3.2.3	オノマトペ指導の実践報告.....	96
3.2.4	学習者のオノマトペ使用実態の調査.....	101
3.2.5	オノマトペの中日対照の比較研究.....	104
3.3	まとめ.....	117
第4章	リサーチデザイン.....	118
4.1	使用するデータ.....	118
4.1.1	現代日本語書き言葉均衡コーパス.....	118
4.1.2	日本語話し言葉コーパス.....	124
4.1.3	名大会話コーパス.....	128
4.1.4	中日対訳コーパス.....	131
4.1.5	多言語母語の日本語学習者横断コーパス.....	138
4.1.6	日本語学習者書き言葉コーパス.....	144
4.2	研究対象とするオノマトペとその分類.....	149
4.2.1	研究対象とするオノマトペ.....	149
4.2.2	本論文におけるオノマトペの分類.....	150
4.3	使用する統計手法.....	152
4.3.1	仮説検定.....	153
4.3.2	多変量解析.....	154
4.4	まとめ.....	158
第II部	オノマトペの言語特性の解明.....	159
第5章	重要オノマトペの特定.....	159
5.1	本章の目的と構成.....	160
5.2	リサーチクエスション.....	160
5.3	研究手法.....	161
5.4	結果と考察.....	163
5.4.1	RQ1 辞書調査.....	163
5.4.2	RQ2 コーパス調査.....	165
5.4.3	RQ3 重要オノマトペの特定.....	166
5.5	まとめ.....	171

第6章	オノマトペの音韻的特性	173
6.1	本章の目的と構成	173
6.2	リサーチクエスチョン	174
6.3	研究手法	175
6.3.1	分析対象	175
6.3.2	調査手順	175
6.4	結果と考察	178
6.4.1	RQ1 モーラ数	178
6.4.2	RQ2 音素の種類	179
6.4.3	RQ3 音素の結合パターン	181
6.4.4	RQ4 一般語彙との比較	183
6.5	まとめ	198
第7章	オノマトペの形態的特性	200
7.1	本章の目的と構成	200
7.2	リサーチクエスチョン	202
7.3	研究手法	202
7.4	結果と考察	204
7.4.1	RQ1 既存の分類枠組みの問題点の整理	204
7.4.2	RQ2 本論文における新しい分類枠組み	210
7.4.3	RQ3 重要なオノマトペ形態	216
7.4.4	RQ4 内省判断から見た意味特性	218
7.5	まとめ	220
第8章	オノマトペの統語的特性	222
8.1	本章の目的と構成	222
8.2	リサーチクエスチョン	224
8.3	研究手法	224
8.4	結果と考察	229
8.4.1	RQ1 オノマトペの後接要素特性	229
8.4.2	RQ2 重要スル型オノマトペ動詞の典型例と説明モデル	231
8.4.3	RQ3 スル型オノマトペ動詞の動詞性	235

8.5	まとめ	239
第9章	オノマトペの意味的特性—多義性・類義性—	241
9.1	本章の目的と構成	241
9.2	研究課題とリサーチクエスチョン	242
9.3	研究手法	243
9.3.1	研究課題1	243
9.3.2	研究課題2	244
9.3.3	研究課題3	245
9.4	結果と考察	247
9.4.1	研究課題1 多義オノマトペ	247
9.4.2	研究課題2 オノマトペ同士	256
9.4.3	研究課題3 オノマトペと一般語彙	265
9.5	まとめ	274
第10章	オノマトペの使用環境と使用実態	276
10.1	本章の目的と構成	276
10.2	リサーチクエスチョン	277
10.3	研究手法	278
10.3.1	分析対象	278
10.3.2	使用するデータ	279
10.3.3	分析手順	280
10.4	結果と考察	282
10.4.1	RQ1 話者属性	282
10.4.2	RQ2 産出環境	289
10.4.3	RQ3 産出モード	299
10.4.4	RQ4 オノマトペの使用量と多様性を決定するモデル	302
10.5	まとめ	302
第III部	中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導	305
第11章	中国語と日本語オノマトペの対照	305
11.1	本章の目的と構成	305
11.2	リサーチクエスチョン	308

11.3	研究手法	308
11.3.1	使用するデータ	308
11.3.2	分析手順	310
11.4	結果と考察	315
11.4.1	RQ1 枝分かれ率の高いオノマトペ（語形・語義）	315
11.4.2	RQ2 枝分かれ率の高いオノマトペタイプ（形態・品詞）	322
11.4.3	RQ3 『ナミヤコーパス』を用いた検証	329
11.4.4	RQ4 日本語オノマトペの中国訳の実例	333
11.5	まとめ	335
第12章	中国人日本語学習者のオノマトペ使用の横断調査	337
12.1	本章の目的と構成	337
12.2	リサーチクエスチョン	339
12.3	研究手法	339
12.4	結果と考察	341
12.4.1	RQ1 中国語母語話者のオノマトペ使用の特徴	341
12.4.2	RQ2 異なる習熟度レベルの中国語母語話者のオノマトペ使用の特徴	350
12.4.3	RQ3 異なる習熟度レベルの中国語母語話者の相対的位置づけ	356
12.5	まとめ	357
第13章	中国人日本語学習者のオノマトペ使用の縦断調査	359
13.1	本章の目的と構成	359
13.2	リサーチクエスチョン	361
13.3	研究手法	362
13.3.1	使用するデータ	362
13.3.2	分析手順	364
13.4	結果と考察	365
13.4.1	RQ1 オノマトペの使用量変化	365
13.4.2	RQ2 使用する具体的なオノマトペ変化	372
13.4.3	RQ3 オノマトペの誤用タイプ変化	380
13.5	まとめ	385
第14章	終章	387

14.1 本論文で得られた知見	387
14.2 本論文の教育的応用	388
14.3 本論文の課題と今後の方向性	408
14.4 おわりに	410
参考文献	411
付録	421
謝辞	459

第 I 部 研究の枠組み

序章

1.1 はじめに

日本語教育が広まりつつある中で、初中級レベルだけでなく、上級・超上級レベルを目指す学習者も増え続けている。従来の日本語教育では、語彙についていうと、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞といった中核的品詞の指導にとどまっており、上級・超上級レベルの学習者が求める「生きた」日本語を読み書きするための語彙は十分に指導されていない。この一例が日本語オノマトペである。本論文は、日本語オノマトペの諸相を科学的に解明し、得られた知見をふまえ、中国人日本語学習者を対象としたオノマトペ指導に対して具体的な提言を行うことを目指す。以下、日本語におけるオノマトペの重要性、日本語教育におけるオノマトペの重要性、また、本論文の独自性について述べる。

1.1.1 日本語におけるオノマトペの重要性

従来、オノマトペは日本語研究の中で、周辺的なテーマとされてきた。しかし、近年オノマトペに対する関心が高まってきている。日向(1990)はオノマトペの重要性について、「オノマトペの形態、文法的性格、意味領域、基本語彙(語数)、アクセント、文字表記、表現性といった方面について、すなわち、語構成、文法、意味、基本語彙、音声、表記など日本語のすべての問題に広く深くかかわっている」と述べている。

このように、こうした機能を持つオノマトペは、種類も多く、表現力の幅も広い。まず種類についていえば、山口(1987)は印欧語族の中で特にオノマトペの数が多い英語と比べても、日本語はさらにその5倍以上のオノマトペを持つと述べている。また、秋田(2017)は、南インド・アフリカ・朝鮮半島の言語を除くと、世界の諸言語の中で日本語はオノマトペの数が最も多いとしている。実際、小野(2007)は日本語にける重要なオノマトペとして4500もの具体的な語の実例を列挙している。

次に、オノマトペの表現の幅についてであるが、田守(2002)は、オノマトペは一般語彙よりも生き生きとした臨場感に溢れ、繊細かつ微妙な描写を可能にすることから、日本語に不可欠な言語要素であると指摘している。日向(1990)は、理屈で説明すれば長々となってしまうたり、理屈ではうまく説明できないような内容もオノマトペを使えば、感覚的にヴィヴィッドに描き出すことができると述べている。山口(1986)は、オノマトペ(音象徴語)なしでは、会話を進めようとしても、言いたいことが的確に表現できず四苦八苦

することになると述べている。

以上で述べたように、日本語においてオノマトペはきわめて多くの種類を持ち、かつ幅広い表現力を持つ重要な語彙単位であると言える。

1.1.2 日本語教育におけるオノマトペの重要性

このように、日本語語彙の中で重要な位置を占めているオノマトペであるが、外国人日本語学習者の立場から見ると、その習得は必ずしも容易でない。山口（1986）は、外国人にとって、音象徴語（オノマトペ）程理解しにくい言葉はないと述べている。また、ツイガルニツカヤ（2007）も 120 名の中上級の学習者及び 140 名の日本語教師を対象にアンケート調査を行った結果、学習者教師の双方が、オノマトペが高頻度であるにもかかわらず、学習が困難であると感じていることを明らかにした。中国人日本語学習者は、一般に、漢字や漢語の習得については有利な立場にあるが、オノマトペに関して言えば、「感覚的で、規則性がないため、中国人学習者にとっては助詞や敬語の使い分けといった文法的な問題以上に難しい」とされる（張、1989）。

このように、多くの日本語学習者がオノマトペを難しく感じている原因としては、3つの点が挙げられる。

1 点目は、日本語教育の根拠となる日本語学において、オノマトペの範囲やその音韻的特徴、また、意味機能が必ずしも完全に解明されていないということである。2 点目は、上記の点とも関連するが、一般的な日本語教材においてオノマトペが十分に扱われていないということである。日本語教材の多くは会話スキットを中心に構成されており、その中に偶然オノマトペが含まれている場合はあるものの、オノマトペという単位を立ててその種類や用法を教える教材はほとんど存在しない。最後に、3 点目は、以上の状況をふまえ、日本語教育全般において、オノマトペの指導がほとんどなされていないということである。多くの日本語教師は名詞・動詞などの主要品詞、また授受表現や条件文といった主要な文法項目については時間を割いて扱うが、オノマトペは周縁的なものと見なし、正面から教えることはほとんどない。

以上をまとめると、日本語教育においてもオノマトペの位置づけは必ずしも十分ではなく、今後学習者の理解を深めるための教育的なアプローチが必要とされている現状にある。

1.1.3 先行研究の課題と本論文の独自性

すでに述べたように、オノマトペは日本語語彙体系の中で重要な位置を占めているが、日本語教育においては十分に扱われていない。このため、日本学においても日本語教育学においても、オノマトペを扱った多くの先行研究が存在する。それらは各々の立場から重要な知見を示しているが、そうした先行研究には3つの問題点があるように思われる。

1つ目は、従来の研究の多くが主観的・内省的もので、実際の言語データに基づく客観的・科学的な研究の数が必ずしも多くないということである。2つ目は、コーパスを利用した研究であっても、単に頻度を紹介するだけで、その背後に潜むモデルの解明を目指したものが少ないということである。3つ目は、日本語学の研究と日本語教育学の研究はそれぞれ異なる基盤に立脚しており、両者を組み合わせた研究はきわめて少ないということである。

以上をふまえ、本論文では以下の3つの独自の方向性を目指す。

まず1点目は、従来の内省重視型言語研究にかえて、幅広いコーパス調査を行うことで、現代日本語におけるオノマトペの用法を客観的に解明することである。コーパスとは、言語資料を大規模に収集・電子化したもので、言語学研究及び言語教育学研究に極めて有益なものである。例えば、石川（2012）はコーパスを駆使して大規模なデータを根拠として言語の特性やパターンを解明できると述べている。また、砂川（2010）は、コーパスは日本語教育にも有益であり、語彙表の作成や語法研究の精緻化に有用であると述べている。さらに、石川（2008）は、コーパスに基づく教材開発・教材分析・カリキュラム開発はいまだ全面的に行われていないものの、近い将来、そうした方向が実現するだろうと述べている。こうしたコーパスの利点はオノマトペ研究にも当てはまる。従来、どのオノマトペをどの程度まで、どの順番で学ぶべきかは教師の主観や直感で決められてきたが、コーパス調査を行うことで、学習すべきオノマトペの種類やその意味用法を客観的に解明することが可能となる。この点に関して、秋元（2007）も、重要オノマトペリストの作成においてコーパスの活用が有効であると述べている。

2点目は、コーパスから得られた数量的事実の記述にとどまらず、それらを多様な統計手法を使ってモデル化し、言語事象を数理的に把握することである。頻度の差に関して、各種の検定を行うのみならず、主成分分析、因子分析、クラスター分析、コレスポンデンス分析といった多変量解析によって、データの内部構造を可視化するとともに、判別分析や重回帰分析によって言語事象を数理的にモデル化することを目指す。こうしたアプローチ

は日本語におけるオノマトペの使用をモデル化するだけでなく、学習者にとっても、わかりやすいオノマトペの使用基準を示すことにもつながる。

3点目は、コーパス調査から得られた知見に基づき、日本語学と日本語教育学を連結させ、実際の学習者が使用できるオノマトペ指導教材の開発を目指すことである。すでに存在する辞書や参考資料においては、オノマトペの高頻度性、使用ジャンル、意味用法、さらに、感覚・感性に訴えるオノマトペの固有イメージやニュアンスといった点については必ずしも解明されていない。このことをふまえて、本論文は体系的・網羅的コーパス調査により、オノマトペのふるまいを洗い出し、学習者がオノマトペを完全に理解し、自然な形で使用できるようになる具体的な提言を行う。

これらの個々の観点に着目した先行研究も存在しているが、3つの観点を1つの研究で同時に扱っている点が本論文の最たる特徴であり、この点において、本論文は従来の日本語学研究または日本語教育研究に新しい知見をもたらすものになりうると言えるだろう。

1.2 本論文の目的と構成

上記をふまえて、本論文は(1)現代日本語における重要オノマトペの特定、(2)多角的な観点から現代日本語における重要オノマトペの用法の解明、(3)学習者の実際のオノマトペ使用特性の考察、(4)中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導システムの開発、の4点を目的とする。なお、世界には様々な日本語学習者が存在するが、本論文では母語別にみて最も数の多い中国人日本語学習者を直接の研究対象とする。

なお、以上の4点を議論する場合、問題になるのは、オノマトペに関して、「何をどこまで」学ばせるのかということである。前者については、学習者が優先して学ぶべき重要なオノマトペを具体的に特定する。また、後者については、単に表面的な意味理解のみならず、オノマトペの持つ固有のニュアンスやイメージの深い理解を目指す。

オノマトペに関して、「どこまで」学ばせるべきかを考える場合、飛田・浅田(2002)が言う「桃の実構造」を使って説明することが適当であろう。飛田・浅田(2002)は日本語において名詞や動詞にかかわる語文(形容詞、副詞)の意味について、それらは知的・客観的の「意味の核」と、ニュアンスや心理といった情緒的な色彩の濃い「意味の肉」の二層構造をなしているとする。「意味の核」の中には、知的概念のほか、意味のジャンル、文体上の特色、文法上の用法、使用者・対象の制限などの要素が含まれている。

表 1-1 修飾語の意味の「桃の実二重構造」

意味の核	意味の肉
知的概念	イメージ
意味のジャンル	ニュアンス
文体上の特色	暗示された心理（日本人共通文化）
文法上の用法	
使用者・対象の制限	

オノマトペについても、「意味の核」のみならず、「意味の肉」を合わせて学習者に理解させることが重要であると言えるだろう。

ただし、ここで留意すべきは、飛田・浅田（2002）のいう「意味の核」が「知的概念」とその他（意味のジャンル、文体上の特色、文法上の用法、使用者・対象の制限）の2種に下位区分できるということである。「知的概念」とその他を区別する理由を身近な語を例にとって考えてみたい。

ここでは、一般的に類義語とされる「すべて」と「全部」について検討する。以下は『大辞林』における2語の定義である。

「すべて」

（名）全部，みんな。「関係者一が賛成した」「事件の一を詳しく報道する」

（副）一つの残りが無いさま。ことごとく。全部。「問題はー解決された」

「全部」

ある物事のすべて。皆。全体。「会員一の意見」「一使ってしまう」

上記で明らかのように、「すべて」の意味は「全部」とされ、「全部」の意味は「すべて」とされる。このことは、「すべて」と「全部」が同一の「知的概念」を持つことを意味するが、一方、その他の意味のジャンル、文体上の特色、文法上の用法、使用者・対象の制限について、2語は必ずしも一致しない。以下の例を見よう。

(1) もう一つ重要なものは言語の環境，中国語で「語境」と言うものだ。それは毎日，まわりの人々の話すことや見ることや聞くことや全部（⇒すべて）のことを表現する

言葉 (⇒言葉である)。(日本語学習者作文コーパス CG035)

(2) あとは読むことだ。これは私が本当にたくさんのはこちらからもらったのだ。読むときは口, 耳, 脳, 目が全部 (⇒すべて) 利用できる。(日本語学習者作文コーパス CN010)

この2つの用例はすべて日本語学習者が書いた作文のなかの一部であるが, 母語話者の添削により, 学習者が用いた「全部」は「すべて」に書き直された。その理由は「文体」が間違っているからである。この二つの文章はいずれも「だ」体「である」体を用いる論述文であり, このような場合は「すべて」しか使用できない。ここで重要なのは, 「知的概念」が同じであっても, 意味のジャンル, 文体上の特色, 文法上の用法, 使用者・対象の制限の点で違いが生じる場合がきわめて多いということである。

したがって, 本論文では学習者に期待するオノマトペ理解の水準を表す新たな枠組みとして, 「桃の実の三重構造」を提唱したい。桃の実には種があるが, 種は硬い外壁の中に柔らかい種子を持つ, また, 種の周りには桃の実態に相当する果肉が存在する。このように考えてくると, 「知的概念」は種の中にある種子成分に相当する。また, 「意味のジャンル, 文体上の特色, 文法上の用法, 使用者・対象の制限」の4点は種を取り巻く外壁に相当する。これらが決まることで, 種の内部すなわち「知的概念」が固定する。種を取り巻く桃の果肉は「イメージ, ニュアンス, 文化」に相当するものである。

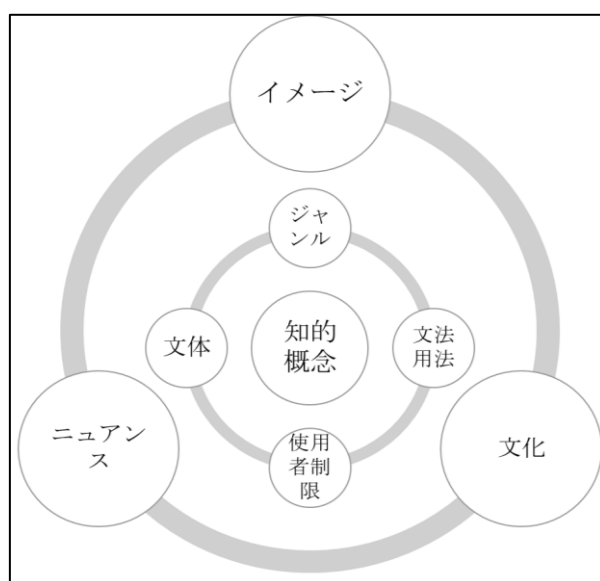


図 1-1 桃の実三重構造

すでに述べたように、本論文は学習者が種の中身である「知的概念」のみならず、種の外壁である「意味のジャンル、文体上の特色、文法上の用法、使用者・対象の制限」、さらには、桃の果肉に相当する「イメージ、ニュアンス、文化」までを連続的かつ立体的に理解できるようになることを目指すものである。

以上の目的をふまえ、本論文は以下の構成を取っている。

本論文は全 3 部、全 14 章で構成される。まず、第 I 部では研究の枠組みを説明する。序章において、本論文の位置づけと研究意義と重要性を述べる。その後、第 2 章では、研究対象とするオノマトペの名称、定義、分類及び一般語彙との関連性を概観する。次に、日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの位置づけとオノマトペ研究の現状を概観する。第 3 章では、従来のオノマトペに関する先行研究を、音韻的・形態的・統語的・意味的特徴および使用特性の解明を目指す日本語学の観点からなされた研究と、重要オノマトペの選定、オノマトペの教材収録調査、学習者のオノマトペ使用実態調査を目指す日本語教育学の観点からなされた研究、の 2 つに分けて整理する。第 4 章では、本論文で使用するデータ、調査対象とするオノマトペ及び使用する統計手法を体系的に説明する。

第 II 部では、オノマトペの言語的特性を解明するために、オノマトペを多角的に分析する。オノマトペについて議論しようとする場合、(1) 重要語彙項目、(2) 音韻特徴、(3) 形態特徴、(4) 統語特性、(5) 意味特性、(6) 使用状況、などについて正確に把握する必要がある。そこで、第 II 部に含まれる 6 つの章でこれらの問題を順に論じていく。第 5 章では、母語話者の内省判断の集大成とされる辞書の体系的な調査と大規模コーパスの調査という 2 つの方法論により、日本語学および日本語教育にとって特に重要とされるオノマトペの選定を行う。第 6 章では、オノマトペの音韻的特徴をモーラ数、音素の種類、音素の結合パターン、の 3 つの観点からとらえ、一般語彙と比較しながら、オノマトペの音韻的特徴の解明を目指す。第 7 章では、オノマトペの形態特性に関して、既存のオノマトペ形態の分類枠組みの問題点を明らかにした上で、本論文におけるオノマトペ形態の新しい分類枠組みの提案と、学習者に優先的に提示すべき形態の特定を行う。あわせて、先行研究で指摘された個々のオノマトペ標識の持つ意味合いが母語話者の内省判断で支持されるかどうかの検証も行う。第 8 章では、オノマトペの統語特性に関して、オノマトペの後接要素の特性の解明、オノマトペが取りうる様々な品詞の中で特に重要な動詞用法に注目し、動詞化重要語の選定と動詞化の説明モデルの構築、スルと結合して動詞になったスル型オ

ノマトペ動詞の動詞としての自立性の検証を行う。第9章では、オノマトペの意味特性を探るため、多義オノマトペの分析（「ぐっと」）、類義オノマトペ間の比較（「しっかり」／「きちん（と）」／「ちゃん（と）」）、オノマトペと類義一般語の比較（「だんだん」／「徐々に」／「次第に」）の3点を行い、望ましい辞書記述の提案を行う。第10章では、オノマトペの使用環境と使用実態の関係性に注目し、コーパスに含まれる様々な内容ジャンルごとにオノマトペの出現傾向がどのように変化するか、話し手の性別や年齢といった属性によってオノマトペ使用がどのように変化するかを概観する。

第Ⅲ部では、以上で明らかになった知見を日本語教育に生かす方向を考えるため、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の問題点を探り、その改善の方策を提示することを目指す。第11章では中日両言語におけるオノマトペの対照を行う。対照分析において重要になるのは、1つのオノマトペが何種類の中国語に訳し分けられているかということである。本論文では「枝分かれ率」という指標を独自に考案し、中国人日本語学習者にとってのオノマトペ習得難度を予測する。第12章では使用量・多様性・使用語・誤用の点で、中国人日本語学習者は日本語母語話者や他の学習者と比べ、どのような特徴を示すのか、習熟度の異なる中国人日本語学習者はそれぞれどのような特徴を示すのかを横断学習者コーパスを用いて調査し、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の特性を明らかにする。第13章では第12章の横断学習者コーパス分析で得られた知見を新たな観点から確認するため、新たに縦断学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴ってオノマトペ使用傾向や誤用傾向がどのように変化していくかを実証的に観察する。第14章では本論文で行った調査を章ごとに整理し、教育的応用と課題を示す。

第2章 研究対象としてのオノマトペ

以上の序章において本論文の意義と独自性、目的と論文の構成について概観してきた。以下では、(1) オノマトペの名称と定義、(2) オノマトペの分類、(3) オノマトペの語彙化及び一般語彙との関係、(4) 日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの重要性、(5) オノマトペ研究の現状の5点について概観する。

2.1 オノマトペの名称と定義

2.1.1 オノマトペの名称

オノマトペは「わんわん」「ぴかぴか」「いらいら」といった語の総称として広く使われているが、オノマトペはもともとギリシャ語に由来したもので、*onoma* = name; *poiein* = to make, すなわち *the making of words; coining a name* (言葉を作る) の意味であった。

現在では「オノマトペ」という名称が広く用いられているが、日本語学の歴史の中では様々な類似の用語が使われてきた。表2-1は中里(2017)の整理によるものである。ただし、「*」を付したものについては筆者が独自に加えたものである。また、個々の名称の現在における実態を探るため、国立情報学研究所が運営する学術論文や図書・雑誌などの学術情報データベース CiNii Articles を利用し、得られた頻度情報を付記している。なお、特徴タイプ(5)について、中里(2017)は「外来語に由来するもの」としているが、本論文では(1)～(4)と整合するため、「特定の内容を前提としないもの」というラベルを付与しておく。

表2-1 オノマトペの名称

特徴タイプ	名称	出典	頻度
1) 修辞法として 名付けられたもの	聲喩法	島村龍太郎『新美辞学』(1902)	0
	聲容模写法	高木武『文章作法講話』(1912)	0
	擬態法	五十嵐力『修辞学大要』(1923)	0
2) 音声を写す、 または音声で写 すという意識で 名づけられたもの	擬声語	湯澤幸吉郎「擬声語の収集」『国語史概説』(1943)	78
	擬音語*	春日和男「古事記の擬音語」『福岡商大論叢』1(3)(1950)	102

の	写声語	小嶋孝三郎「一茶と写声語」『論究日本文学』5号(1956)	6
	音マネ語	大久保忠利「コトバの心理」『コトバの著作集1』(1952)	0
	うつし	石垣幸雄「ウツシの母音」『計量国語学』9号(1959)	2
3) 象徴性に注目したものの	象徴音	小林英夫「国語象徴音の研究」『文学』1巻8号(1933)	1
	象徴辞	朝山信彌「語尾『に』を有する古代象徴辞の一問題」『国語国文』10巻2号(1940)	6
	ユカリ	石垣幸雄「品詞論(3) 象徴詞」『IZUMI』58号(1962)	
	象徴語	マツサカタダノリ「象徴語ノ性格ト機能」『カナノヒカリ』536ゴウ(1967)	16
	象徴詞	山口仲美「平安時代の象徴詞—性格とその変遷過程—」『共立女子大学短期大学部(文科) 紀要』14(1971)	13
	音象徴詞	猿田知之「平家物語に現われた音象徴詞の性格」『立教大学日本文学』35号(1976)	0
	音象徴語	西尾寅弥「音象徴語における意味・用法の転化の一類型」『副詞語の研究』(渡辺実編)(1983)	31
4) 語に表す対象が2種あることを表しているものの	聲貌	三矢重松『高等日本文法』(1908)	0
	擬声擬態語	寿岳章子「擬声語の変化」『西京大学人文学人文』7号(1956)	14
	擬音擬態語*	生越まり子「日本語の擬音・擬態語教授上の問題点--朝鮮語・韓国語を母語とする人々に対して」『日本語教育』68号(1989)	13
	繪聲の語	森鷗外「『言語の起原』附記」(1903)	0

	擬音語・擬態語 *	宮地裕「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学 115 号 (1978)』	237
	擬声語・擬態語 *	前島年子「時代を通して見た擬声語・擬態語」『日本文学』28 号 (1967)』	5
	擬音語・擬容語 *	小林英夫「擬音語と擬容語」『言語生活』171 号 (1965)』	2
5) 特定の内容を前提としないもの (外来語に由来するもの)	オノマトペ	小嶋孝三郎「現代短歌におけるオノマトペ」『国語と国文学』39 卷 7 号 (1962)』	984
	オノマトペア	頼惟勤「漢語オノマトペア」『言語生活』4 号 (1964)』	4

注：調査時点は 2017 年 9 月 21・22 日

表 2-1 からわかることは 3 点ある。

1 点目は、オノマトペに相当する言語学上の用語が 20 種以上存在するという点である。長い日本語研究の歴史の中で様々な用語が提唱されてきたということは、オノマトペの持つ用法がきわめて多岐にわたることを示唆していると言えるだろう。

2 点目は、中里 (2017) のいう 5 つの特徴タイプごとに総頻度をみると、(5) 特定の内容を前提としないものが圧倒的に多いということである。特定の内容を前提としないものが 988 例、次に 2 種類の機能を持つ (4) 番が 261 例、それから音声を写し取るということを示すものが 188 例、象徴性に注目したものは 67 例である。一方、修辞法としての用法は現代日本語の研究でほとんど注目されていないように思われる。ここで、特定の内容を前提としない「オノマトペ」「オノマトペア」といった語がもっとも多く使われているということはオノマトペの機能を何らかの具体的な言葉で言い表すことが難しいことを示していると言えるだろう。オノマトペというのは一種の「umbrella term」として使われている状況が明らかになった。

3 点目は、オノマトペを除いていけば、擬音語・擬態語という用語の頻度がきわめて高いということである。このことは、音と様態を写し取ることがオノマトペの主な機能であることを示唆していると言えるだろう。

なお、すでに述べたように、オノマトペという語の初出は 1962 年で比較的新しい。しかし、言語学用語としてのオノマトペは近年急速に普及している。この点を明らかにする

ため、前述の CiNii Articles を利用し、1960 年から 2017 年にかけてのオノマトペという用語の使用状況を調べてみよう。

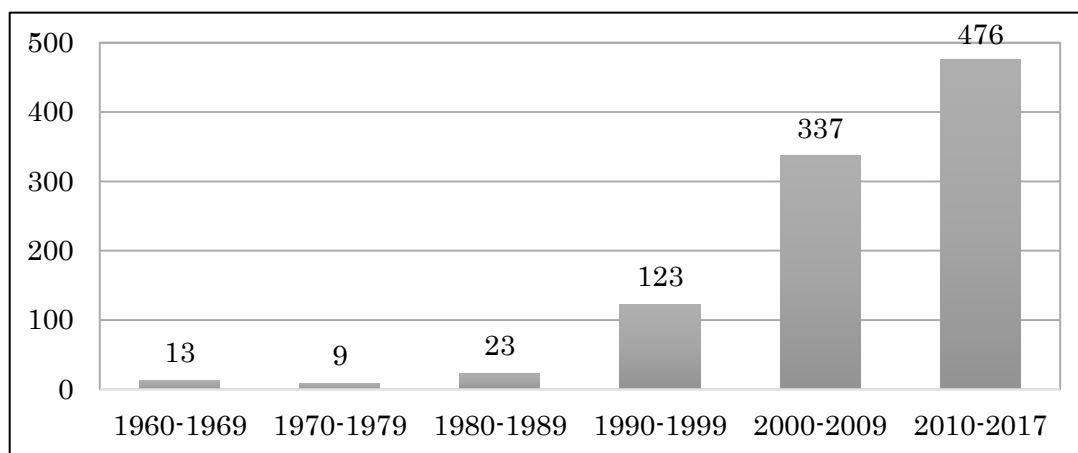


図 2-1 オノマトペ研究の年代変化

上記に示されるように、様々な関連する用語がやがてオノマトペに一本化され、オノマトペという用語が日本語研究の中で標準的な言語学用語として確立してきたことがここからわかる。

2.1.2 オノマトペの定義

前節の調査により、現代において、日本語研究で最も広く使用されている用語はオノマトペであり、擬音語・擬態語がそれに次ぐことが明らかになった。そこで、一般的な意味合いを確認するため、日本語国語辞書として「広辞苑（第 6 版）」「大辞林（第 3 版）」「新明解国語辞典（第 6 版）」の 3 種、日本語学の研究における位置づけを知るために日本語学事典「新言語学事典（1971）」「現代言語学事典（1988）」「言語学大辞典（1989）」の 3 種、日本語教育学における位置づけを知るために「日本語教育事典（1982）」「新版日本語教育事典（2005）」の 2 種、を取り上げオノマトペ・擬音語・擬態語の 3 語の定義を見ていくとする。

表 2-2 辞書におけるオノマトペの定義

辞書	オノマトペの定義

国語辞書	広辞苑	オノマトペア : (onomatopoeia) (言) 擬音語に同じ。
	大辞林	(フランス onomatopée) 擬音語・擬声語・擬態語を包括的に言う語。
	新明解国語辞典	(フランス onomatopée) 「声喩・擬音語」の総称。
日本語学事典	新言語学事典	記載なし。
	現代言語学事典	記載なし。
	言語学大辞典	記載なし。
日本語教育学事典	日本語教育事典	記載なし。
	新版日本語教育事典	記載なし。

上表で明らかのように、オノマトペの定義は辞書間によって異なる。『広辞苑』『新明解』はオノマトペを擬音語と同じであると定義しており、『大辞林』は擬音語の範囲を超えて、擬声語、擬態語もオノマトペの包括範囲に属すると定義している。また、日本語学ないし日本語教育学の文献においてはオノマトペに関する記載は見られなかった。

表 2-3 辞書における擬音語の定義

	辞書	擬音語/擬声語の定義
国語辞書	広辞苑	(onomatopoeia) 実際の音をまねて言葉とした語。「さらさら」「ざあざあ」「わんわん」など。擬声語。広義には擬態語も含む。オノマトペア。オノマトペ。
	大辞林	擬声語を参照。擬声語：事物の音や人・動物の声などを表す語。「ざわざわ」「わんわん」「しくしく」の類。擬音語・写声語。
	新明解国語辞典	音や声をまねて表わした言葉。例：がたがた、わんわん。
日本語学事典	新言語学事典	記載なし。
	現代言語学事典	動物の鳴き声や水の流れる様子など、自然界の音を模倣したり、それを象徴的に再現すること、またそのような語を指す。
	言語学大辞典	記載なし。

日本語教育学事典	日本語教育事典	生物の声や無生物の出す音を表す語。
	新版日本語教育事典	外界の物音・人の声・動物の鳴き声などを言語音で模写したもの。

上表に示されるように、擬音語・擬声語について国語辞書においても日本語学においても日本語教育学においても両者が区別されておらず、その違いもはっきりと示されていない。

表 2-4 辞書における擬態語の定義

辞書		擬態語の定義
国語辞書	広辞苑	視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語音で表現した語。「にやにや」「ふらふら」「ゆったり」類。→擬音語・擬声語。
	大辞林	物事の状態や様子などを感覚的に音声化して表現する語。「にやにや」「うろうろ」「じわじわ」「びかり」「ころり」「てきぱき」などの類。
	新明解国語辞典	身ぶり・状態の感じを表わした言葉。例：にっこり，ゆらゆら
日本語学事典	新言語学事典	記載なし。
	現代言語学事典	実際には音を伴わないのに，あたかも音を発しているかのように，人や事物の状態を描写する語。
	言語学大辞典	象徴語彙の1種。象徴語彙とは，聴覚などの感覚に感ずるところを表すもの，さまざまな心情に感ずるところを相的に表現したもの
日本語教育学事典	日本語教育事典	動作・状態などを音で象徴的に表現する語。
	新版日本語教育事典	さまざまな音や声の与えるイメージに意味を重ね合わせ，実際には音響を伴わない外界の事象をも言語音で描写するもの。

擬態語について、ほとんどの文献はその意味を「状態」に集約しているが、『言語学大辞典』に言及されている「心情」については共通認識がまだ存在しない。このように、オノマトペのみならず、その内部構成となる擬音語や擬態語についての記述は必ずしも適切ではない。このような問題が生じる原因はオノマトペそのものの内部構成が明らかにされていないからである。

以上、国語辞書、日本語学、日本語教育学におけるオノマトペ及びその関連用語の定義を確認してきたが、その記述は必ずしも一致しておらず、また、その意味するところも必ずしも明らかではないことが明らかになった。これは、すでに述べたように、日本語研究の中でオノマトペの定義が必ずしも一意に定まっていなかった状況を示すものである。

2.2 オノマトペの分類

前述したように、オノマトペの定義が定まらないのはオノマトペの内部構成がはっきりしていないからである。そこで、本節では従来のオノマトペの分類を概観したうえで、オノマトペのより良い定義を試みる。

丹野（2005）によると、最初に日本でオノマトペ研究を始めたのは江戸時代の国学者鈴木胤氏であるという。彼が書いた『雅語音声考』（1816）では音象徴に起源をもつ和語の実例を集め、以下の4種類に分類している。

- (1) 鳥獣虫の声をうつせる言 郭公ノホトトキ、鶯ノウクヒなど
- (2) 人の声をうつせる言 吹ノフ、吸ノスなど
- (3) 万物の声をうつせる言 サヤグソヨグノサヤソヨ、タタクノタタなど
- (4) 万の形有様意しわざをうつせる言 明、赤、有、有有など

上記の4種類の分類のうち(1)(2)(3)は「声」の写しとりで、すなわち現代の「擬音語」に相当する。また、(4)は物事の「しわざ」で、現代の「擬態語」に相当するが、明らかに初期の研究の重心は「音」の写しとりにあり、擬音語と擬態語を対等な関係として位置付ける見方は中心的ではなかった。タイトルの『音声考』から窺えるように、音を写しとったものとして、オノマトペをとらえていたのがオノマトペ研究の最も初期の姿であったと言えるだろう。

ところが、時代の進展の中で、オノマトペは、ただ音を機械的に写しとるだけではなく、

様態を模倣し、更には特殊な意味機能を持つ語群であるという認識が広まってきた。たとえば、小林（1933）の定義を見てみよう。

擬音語とは、語音をもって自然音を写そうとしたもの。写される内容も写す手段も共に音響世界である。

擬容語とは、ある種の態度を自然音に相当語音をもって、類推的写したものの。

確かに、擬音語、擬態語という2つの言葉を対比的に並べることによって、2種類のものが存在することははっきり打ち出されている。しかし、擬音語や擬容語のコアとなる「自然音」と「態度」はきわめて制限されており、自然でない他の音はどうなるのか、または、「態度」以外のものがどうであるのかははっきりしない。

そこで、金田一（1978）は上記の問題をふまえ、擬音語・擬態語の模写と象徴の特質から以下の5つの分類を提案している。

表 2-5 金田一春彦（1978）の擬音語擬態語の定義及び分類

大分類	下位分類	用例
擬音語：外界の音を写した言葉。	擬音語：無生物の音を表すもの。	きつつき 啄木こつこつ印形彫る。
	擬声語：生物の声をあらわすもの。	仔山羊がめうめう乳飲みに。
擬態語：音を立てないものを音によって象徴的に表す言葉。	擬態語：無生物の状態を表すもの。	星がきらきら輝く。
	擬容語：生物の動作容態を表すもの。	狐がきよろきよろ骨盗りに。
	擬情語：人間の心の状態を表すもの。	さっきからいらいらしていた。

金田一（1978）の分類では、擬音語は無生物・生物の区別によって2つに、擬態語は無生物・生物・人間の基準によって3つのグループにさらに下位分類できる。研究の視点は鈴木（1916）が最初に示した「擬音語中心」から、小林（1933）が示した「擬音語・擬態語（擬容語）の対等」へと変化したが、金田一（1978）は「擬音語」より「擬態語」の方を逆に重要視することにより、オノマトペ研究の基盤を大きく変化させたと言える。しか

し、金田一（1978）の分類においても、人間の心の状態以外の感覚についてははっきり言及されていない。

そこで、笥・田守（1993）は金田一（1978）の枠組みを「音性」「声性」「心性」「有生性」「表層性」の5つの素性からさらに細分化している。

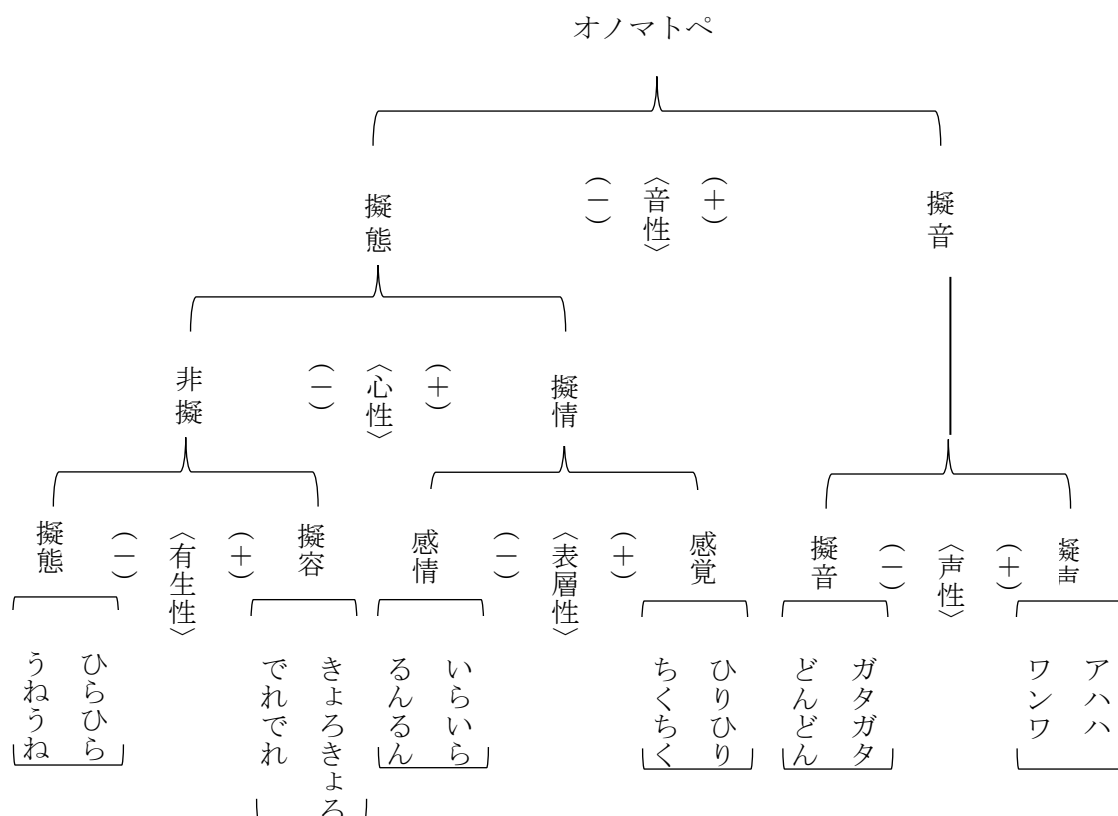


図 2-2 笥・田守（1993）のオノマトペの分類図

擬音語の分類は金田一（1978）とは変わらないが、擬態語の分類は、コアが生物・無生物・人間の観点から心性の有無，すなわち人間の感情・感覚の有無に代わり，大きく二分されることになる。また，金田一（1978）とは異なり，人間の心の状態をまとめてみるのではなく，表層に留まる感覚か，心に届く感情かによってさらに分類している。従来の 2 分類から最終的に 6 種の分類が提案されている。笥・田守（1993）はオノマトペの性質を全面的・体系的に突き止めようとした研究であるが，擬情の中において感情のある動作については配慮されていない。たとえば，「ばたばた」は落ち着きがなく足音を立てて動く様子であると同時に，急ぐ気持ちも含んでいるわけで，非擬情には区分されにくいと考えら

れる。

以上でみてきたように、オノマトペ研究は、擬音語中心から擬態語中心へと変化し、その内部分類を様々な観点から行おうとした研究も多い。しかし、すでに述べたように、その内部の分類は必ずしも十分ではなく、課題も残されている。

2.3 オノマトペの語彙化および一般語彙との関係

前節ではオノマトペの分類を概観してきたが、オノマトペの内部構造やさらにどこまでオノマトペと考えていいのかもはっきりされていない。このように考えれば、オノマトペの内部分類だけでなく、オノマトペと一般語彙との境界を考える必要もある。たとえば、「どぎゅん、どきどき、驚く」はすべてオノマトペに属するが、明らかに現代日本語の中ではこれらは異なるレベル段階にある。こうしたことから、先行研究は「どぎゅん」のような臨時オノマトペから、各種の段階を経て一般語彙に至る連続的階層モデルを提案している。

小林（1976）は、言語の「意義」と「音相」の関係について恣意的なものや喚起的なものが存在することから、言語記号を無縁的記号（恣意的なもの）と有縁的記号（喚起的なもの）に区分し、さらに、有縁的記号を間接的なものと直接的なものに下位区分している。まず、無縁的記号とは、ある種の状態を自然音とは何ら対応しない語音で示したものであるとされる。一方、有縁的記号とは、ある種の状態と結びついた自然音と関連付けられた語音で示したものである。また、対象を直接的に写しとるのは擬音語であり、間接的に写しとるのは擬容語であるとされている。図で表せば、以下の通りとなるが、擬容語は有縁的記号と無縁的記号の中間にあり、音と意味の間に有縁的な結びつきがあるものの、国語別・方言別によって不安定な部分もあると小林（1976）は述べている。

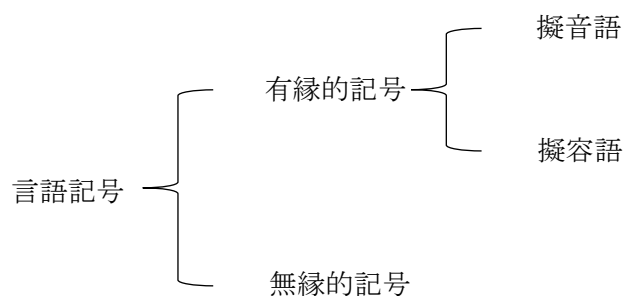


図 2-3 小林（1976） pp.257 より引用

以上でみたように、小林（1976）は「言語記号」の分類であった。しかしながら、広義の言語には記号化される前の音そのものも含まれる。川田（1988）はこの記号化される前の音も組み込んで以下の分類モデルを提示した。

言語音Ⅰ：言語音とそれによって意味されるものとの結び付きが恣意的なもので、外延化された意味によって伝達が行われる領域。

言語音Ⅱ：非言語音を言語音が表す、あるいは音以外の感覚を言語音で表す等、表象作用によって伝達が行われる領域。

言語音Ⅲ：直接には何も模倣したりしていず、音声が感覚に訴えるものによって伝達を行う領域。

ここで、言語音Ⅰとは小林（1976）のいう無縁的記号に相当するもので、一般語を指し示すものである。また、言語音Ⅱとは小林（1976）のいう有縁的記号に相当するもので、いわゆるオノマトペはここに入る。言語音Ⅲとは赤ん坊の泣き声のようにそれ自身で何かを指し示すことなく、生理的な状態で発声された音である。なお、石黒（1993）はこの枠組みをふまえ、言語音の表出は言語音Ⅲ→言語音Ⅱ→言語音Ⅰの順番に出現するとしている。また、石黒（1993）は川田（1988）の言う言語音Ⅱの中には、擬声語と擬態語の2種類があるとし、すでに述べた出現順序で言えば、先に擬声語が、次に擬態語が出現するとしている。

なお、ここで注目すべきは、石黒（1993）がオノマトペを含む言語音Ⅱと言語音Ⅰの境界が明確ではないと述べていることである。加えて、筆者は言語音Ⅱと言語音Ⅲの境界もまた曖昧であることを指摘しておきたい。というのも、赤ん坊の泣き声を仮に「おぎゃー」という言葉で写しとればそれが言語音Ⅱ（オノマトペ）と認定されるからである。

以上ではオノマトペとその他の語・音に関するモデルを紹介してきたが、オノマトペ自身の内部区分の精緻化を図った研究も存在する。ここでは筧（1993）、角岡（2007）、Akita(2009)の3つのモデルを紹介する。

まず、筧（1993）は①引用性：引用として括弧内に入るか、引用を示す助詞の「と」を取るかどうか、②語彙変化：時制の変化を示す「活用」が見られるかどうか、という2つの基準を設け、オノマトペの語彙化程度を4つの段階に分けている。

第1段階として臨時形が考えられる。たとえば、映画の広告に見られた「ガビューンと日本上陸！カーリ・スー」の「ガビューン」,「キャピキャピ・ギャル」の「キャピキャピ」などである。第2段階は「ト」を伴い、かつ「語形変化」をしないものである。日本語のオノマトペはほとんどこの部類に属する。さらに、「と」の結びつきが義務的なもの（ぱさっと、きとんと、せっせと）と随意的なもの（ぶらぶら、ぽつきり、ぼんやり）に分類している。第3段階は「と」が起こらず、「語形変化」をなす類である。代表的なのは「する」である。たとえば、「びっくりする」の間に「と」が挿入されず、「びっくりした」のように時制の変化が伴う。第4段階は語源的にはオノマトペであったものが、語彙化の程度が進んで、一般語彙と区別されなくなったものである。たとえば、「驚く」「騒ぐ」などがある。

次に、角岡（2007）は「真正オノマトペ」と一般語彙の関係について、以下のように図式化している。

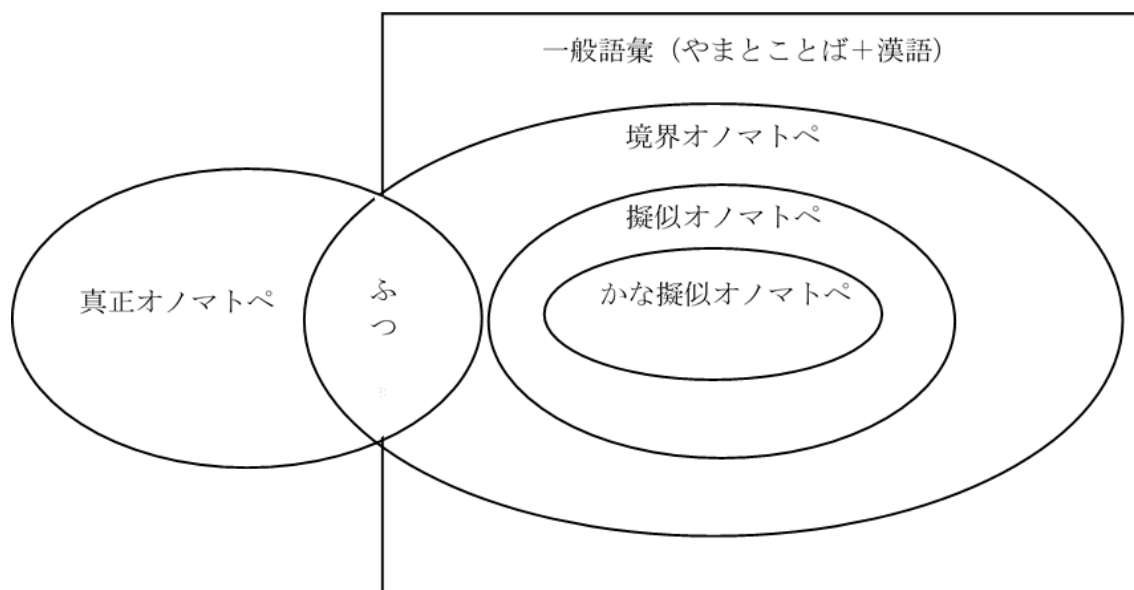


図 2-4 オノマトペと一般語彙の関係（角岡，2007，pp.16 より）

角岡（2007）によれば、「真正オノマトペ」とは名詞・動詞・形容詞などの実詞の語源を持たず、文字通りの純粋なオノマトペの語類である。また、一般語彙のなかでもオノマトペに近いものがあり、それらは「境界オノマトペ」「擬似オノマトペ」「かな擬似オノマトペ」の3段階で下位分類できるとされている。ここで、「境界オノマトペ」とは名詞・動詞・形容詞などの実詞から派生したもので、形態的・音韻的面上においてオノマトペに似た

語感を示す語類である（例：躊躇）。また、上記のほかには漢語の起源持つ語類は「擬似オノマトペ」と呼び、そのうち、日本語母語話者にとって漢語起源という認識が薄い語群は「かな擬似オノマトペ」（例：あくせく：齷齪，こつこつ：兀兀）と呼ぶ。なお、「ふ」「つ」とは語基そのままの形で形成されたオノマトペである。規範的な語形から大きく外れていることから「オノマトペらしくない」と角岡（2007）は考えたので境目に置いた。

また、Akita(2009)はオノマトペの類像性（Iconicity）に注目している。類像性とは言葉が何かの対象を写し取っていることをいう。Akita(2009)はいわゆるオノマトペと一般語の間に以下のような関係が存在すると指摘している。

語彙的類像性階層(the Lexical Iconicity Hierarchy)：

臨時オノマトペ>擬声語>擬音語>擬態語>擬情語>一般語

以上の3つのモデルを筆者の観点で整理すれば以下の表になる。

表 2-6 先行研究におけるオノマトペと一般語彙の関係

	筧 (1993)	角岡 (2007)	Akita(2009)
総段階数	4 段階	5 段階	6 段階
第 1 段階	階臨時的使用	真正オノマトペ	臨時オノマトペ
第 2 段階	「ト」形の副詞的使用	かな擬似オノマトペ	擬声語
第 3 段階	「する」動詞使用	擬似オノマトペ	擬音語
第 4 段階	一般語彙	境界オノマトペ	擬態語
第 5 段階		一般語彙	擬情語
第 6 段階			一般語

上表に示されるように、筧（1993）は語の用法、角岡（2007）は語の起源、Akita（2009）は語の写しとり方、それぞれ異なる観点に注目しており、オノマトペ内部についていずれの場合も様々な段階があることを指摘している。

以上でオノマトペと一般語彙との関係を概観してきた。オノマトペのなかには一般語彙とは非常に近く、段階を経て一般語彙になれるものもあれば、語彙段階が非常に低いレベ

ルのものもある。オノマトペ研究を行う場合、対象とするオノマトペを明確に定義することがきわめて重要であると言えるだろう。

2.4 日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの位置づけ

すでに述べたように、オノマトペは、現代日本語の語彙体系の中で非常に重要な位置を占めているが、一方、日本語研究や日本語教育においては必ずしも十分に扱われていない。このことを確認するために、以下では、(1) 国語辞書、(2) 日本語教科書、(3) オノマトペ辞典、(4) 日本語学習者による作文、の4種を取り上げ、オノマトペの扱われ方や用いられ方に多くの問題が残されていることを指摘したい。

2.4.1 国語辞書におけるオノマトペ

辞書というのは、日本語研究の成果をわかりやすくまとめたものであり、日本語学習者にとって学習の大きな助けとなるものである。しかしながら、国語辞書にはオノマトペが収録されない場合が多く、収録されても、その記述は必ずしも十分ではないという問題がある。たとえば、学習者が「がっ(と)」「にゃん」「ちんどん」「どんぱち」「ぼつんぼつん」といった語の意味を調べる場合、一般に辞書を引くわけであるが、表 2-7 に示されるように、該当語の記述が見つからない場合が多い。

表 2-7 国語辞書におけるオノマトペの収録状況

	広辞苑 (第 6 版)	大辞林 (第 3 版)	新明解国語辞典 (第 6 版)
がっ (と)	×	×	×
にゃん	×	×	×
ちんどん	×	×	×
どんぱち	○	○	×
ぼつんぼつん	○	×	×

以上で明らかなように、オノマトペについては立項していないものが多い。語によっては立項している辞書と立項していない辞書が分かれるなど、辞書においてオノマトペは正しい形で体系的に扱われていないことが明らかになった。

2.4.2 日本語教科書におけるオノマトペ

次に、主な日本語教科書におけるオノマトペの扱いを概観する。ここで言及するのは、『みんなの日本語』『総合日語』『新編日語』『基礎日語総合教程』の4種類である。

まず、『みんなの日本語』（2009年、北京大学出版社）は世界中で広く使われている教科書である。しかしながら、以下のようにオノマトペが会話文に出現している事例はあるものの、オノマトペが独立した指導項目にはなっていない。

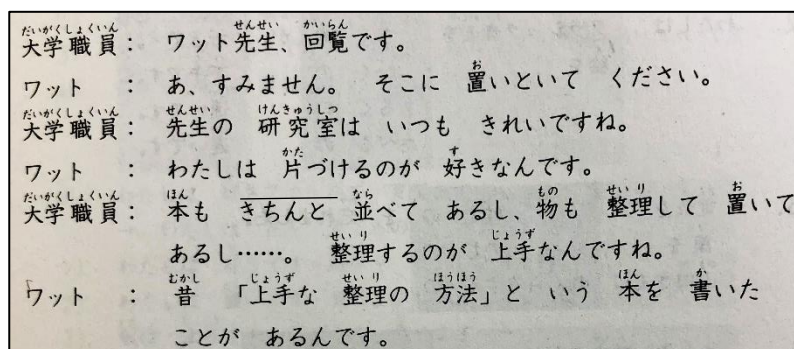


図 2-5 『みんなの日本語』におけるオノマトペ用例

次に、中国で広く使われる日本語教科書である『総合日語』（2009年、北京大学出版社）を見てみると、以下のような解説がみられる。

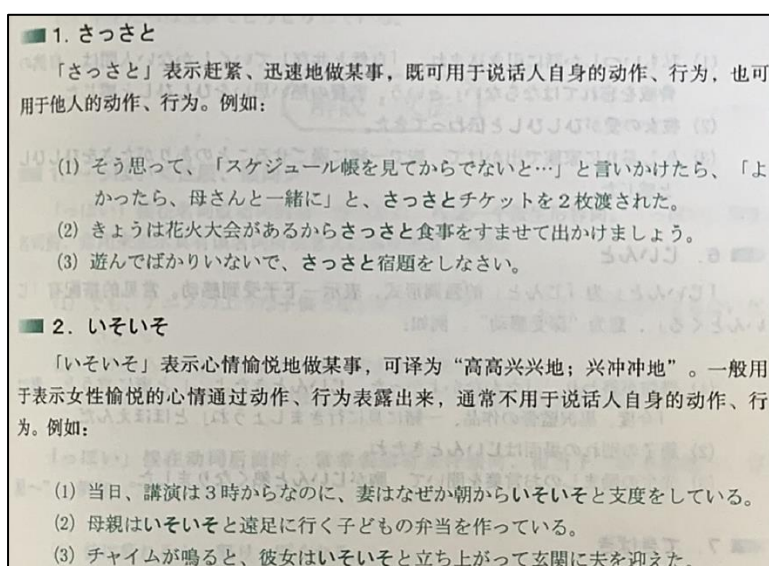


図 2-6 『総合日語』におけるオノマトペ用例

上記の図に示されるように、『総合日語』は、『みんなの日本語』の場合とは異なり、偶然に出現したオノマトペについて項目をたてて解説を行うが、やはりオノマトペは体系的に扱われていない。

しかしながら、中国の日本語教科書の中にはオノマトペをかなり手厚く扱ったものも存在している。たとえば、『新編日語』（1993年、上海外語教育出版社）と『基礎日語総合教程』（2010年、高等教育出版社）である。まず、『新編日語』もまた、『総合日語』と並んで中国で広く使用されている日本語教科書である。オノマトペについて以下のような記述がある。

「次のように、物音や動物の鳴き声を表わす語を擬声語とといいます。

雨戸がガタガタと鳴る。

太鼓をトントンとたたく。

メーメーと羊が鳴く。

ワンワンと犬が吠える。

また、次のように、物事の状態や身ぶりなどを、その感じがよく現われるように示す語を擬態語とといいます。

蝶がひらひら飛んでいる。

本が箱にぎっしりつまっている。

腕をぐるぐる回す。

擬声語と擬態語は音節の組み合わせ方が、規則的な体系をなしているものがたくさんあります。また、現代の文章では、擬声語は片仮名で書かれることが多いが、擬態語は平仮名も用いられ、表記は一定していません。

『新編日語 4』第十三課より

『みんなの日本語』と『総合日語』に比べて、『新編日語』は相対的にオノマトペを積極的にカリキュラムに入れて教える傾向がみられる。しかし、オノマトペの持つ言語特性について説明があるものの、その説明が簡略的なものであり、必ずしもオノマトペの特性を十分に記述しつくしたわけではない。

次に、『基礎日語総合教程』（2010年、高等教育出版社）を見てみよう。この教科書は、これまでの言語知識を活性化させるための「導入」セクション、新しい文章を読む力を鍛

えるための「観察」セクション，すでに出現した文法や知識を整理したりまとめたりする「発見」セクション，以上の段階を積み重ねて，学生のアウトプットを引き出すための「応用」セクション，の4つのセクションで構成されている。このうちの「発見」セクションに以下のような記載がある。

文章（ステップ1,2）に「ぽつんぽつん」「べたべた」などのことばが出ている。このような言葉は総称して，オノマトペ（onomatopée 擬音語・擬態語）という。

日本語の「オノマトペ」の語数は中国語の数倍あると言われ，日常の言語生活ではオノマトペを使わない方が不自然だと言えるほど多用されている。ただし，硬い文章や発言，たとえば学生のレポートや論文，フォーマルな場面での挨拶などには使用しない。

オノマトペの形はかなり単純で，「キラキラ」などの ABAB 型が最も多く，「キラッ」「ポロリ」などの ABC 型がそれに続く。音，形態の面では特殊音（長音，撥音「ン」，促音「ッ」，と語尾の「～リ」「～ン」）がよく用いられる。オノマトペを用いることによって，生き生きした表現をすることができる。

練習問題 1：今まで習ったオノマトペを探し出し，分類しなさい。

①形態による分類 例：ABAB 型 くすくす ころころ どんどん

②意味による分類 例：いろいろな音・声 ころころ さらさら わんわん

練習問題 2： 次の文を読んで，下線部のオノマトペの意味を考えたり，調べたりしなさい。

①あっさり

→日本料理は，中華料理や洋食に比べて，味があっさりしていると言われている。

→きのうの試合はがんばれば勝てると思っていたのに，10対1であっさりと負けてしまった。

練習問題 3：以下のオノマトペについてグループ内で手分けをし，意味を調べて，例文を作りなさい。

どんどん にこにこ ぽつぽつ ゆらゆら

このように、『基礎日語総合教程』にはオノマトペに関する豊富な情報が記載されている。しかしながら、筆者が見た限りではこうした教材はごく例外的なものであり、現在日本または海外で使用されている日本語教科書の大部分においてはオノマトペがほとんど体系的に扱われていないのが実状である。

2.4.3 オノマトペ専門辞書におけるオノマトペ

すでに述べたように、一般の国語辞書においても、また、日本語教科書においても、オノマトペは十分に紹介されていない。もちろん、オノマトペに特化した専門辞書も出版されているが、そこにもいくつかの問題点が見られる。ここでは（1）収録語数、（2）収録項目、（3）語義記述の3点に絞って問題の概要をまとめておきたい。なお、ここで調査に使用するのは、天沼（1974）『擬音語・擬態語辞典』、浅野（1978）『擬音語擬態語辞典』、阿刀田・星野（1995）『擬音語擬態語使い方辞典』、飛田・浅田（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』、山口（2003）『暮らしの言葉：擬音・擬態語辞典』、小野（2007）『日本語オノマトペ辞典』の6種のである。

まず（1）、それぞれのオノマトペ辞書が掲載しているオノマトペの見出し語数に注目してみよう。

表 2-8 6種のオノマトペ辞書の見出し語数

天沼	浅野	阿刀田・星野	飛田・浅田	山口	小野
1565	805	738	1064	1381	4564

上表で明らかのように、見出し語数は738種から4564種まで6倍以上の開きがある。このことは、オノマトペがどの程度存在するのかという点について明確な立場は存在しないことを強く示している。

次に（2）について収録される項目を確認するために、ここで「あ」行のものを抽出して比較してみよう。

表 2-9 辞書における「あ」行オノマトペ

天沼	あーん, あたふた, あっさり, あっぷあっぷ, あんぐり	5種
浅野	あーん, あたふた, あっさり, あっぷあっぷ, あんぐり	5種
阿刀田・ 星野	あーあ, あーん, あたふた, あっ, あっさり, あっぷあっぷ, あんぐり	7種
飛田・浅 田	あたふた, あっけらかん, あっさり, あっぷあっぷ, あべこべ, あやふや, あんぐり	7種
山口	あーん, あたふた, あっけらかん, あっさり, あっぷあっぷ, あはは, あんあん, あんぐり	8種
小野	あーん, あおーあおー, あおらあおら, あくあく, あぐり, あけらかん, あたふた, あっか, あっけらかん, あっさり, あっはっは, あっばっば, あっばとっば, あっばらばー, あっはん, あっぷあっぷ, あっぺとっぺ, あはあは, あばあば, あばちやば, あはは, あぶあぶ, あぶあぶ, あふらあふら, あへあへ, あべこべ, あむあむ, あやふや, あらり, あわあわ, あわわ, あん, あんあん, あんぐり, あんけ, あんごり, あんざり, あんじり	38種

上表に示されるように、収録数が異なるだけでなく、収録項目にも食い違いが存在する。たとえば、阿刀田・星野と飛田・浅田の2つの辞典の収録数は同じく7種であっても、その収録項目を詳しくみれば、それぞれ3種の固有のオノマトペが挙げられている。阿刀田・星野の場合は「あーあ」「あーん」「あっ」、飛田・浅田の場合は「あっけらかん」「あべこべ」「あやふや」が該当する。このことから、どのような語をオノマトペと認めるかは研究者によって大きく異なることがわかる。

さらに、意味記述を確認するために、ここで6種ともに共通して収録される「あっさり」の記述を取り上げて比較することとしよう。

表 2-10 6種オノマトペ辞書における「あっさり」の記述

辞書	定義	用例
天沼	食べ物・飲み物などの味, あるいは, 物事の状態・あり様など, また, 性質・気	夏の風物, 冷や麦は, 手軽で〜としておいしい。

	質などがしつこくない、重々しくない、濃厚でない様子。単純・簡単・淡泊・いさぎよい・薄いなどの様子。	これは、政治的には、勝てないとわかった相手には、～頭を下げることになる。もう少し～した柄はありませんか。
浅野	①味、色などが濃くないようす。また、様式や形状などが複雑でない状態。 ②人間の気性、態度が、執拗でなく、思い切りのよいようす。また、案外にもろい、たやすいの意にも用いる。	①京都の料理は万事うす味にあっさり味付けをする。 ②莫大な財産を、あっさりと寄付して平気である。
阿刀 田・星 野	①色、味などの濃度が薄いようす。 ②形態、様式が複雑でなく、簡素であるようす。 ③態度、性格がしつこくなく、思い切りのよいようす。	①昼食には山菜の持ち味を生かしてあっさり調理された食事が供された。 ②白地に線がき、そろいゆかたの柄ゆきもあっさりしていて涼しげだ。③工場買取となればあれこれ条件をつけてくると思ったのに、こっちの言い値であっさり承諾した。
飛田・ 浅田	①執着が少なく淡泊である様子を表す。 プラスイメージの語 ②物事が簡単に決着がつく様子を表す。 ややプラスイメージの語	①和食は一般にあっさりしている。 ②羽生先輩に一番挑んだがあっさり負けてしまった。
山口	①人の態度や性格などが、しつこくなく思い切りのよい様子。 ②手軽に簡単に物事を行ったしまう様子。 ③味・色・形などが淡泊であったり簡素であったりすること。	①今年度と同額九兆四千億円の公共事業関係費をあっさりのんだ。 ②あっさりとナゾ解きを試みせた。 ③以外にあっさりした味で、うっかりしていると 2 人前でもペロリと行けちゃうの。
小野	①人やものごとの状態・性質が淡泊であるさま。 ②意外に手数がかからないさま。簡単に。手軽に。	①大体が、日本料理、日本式の食べ物のことなどで、総てあっさりしている。 ②空地は明日にでも同じような安普請の家にあっさり塞がれてしまう運命を

		待っているというふうである。
--	--	----------------

上表に示されるように、辞書によって語義数が異なるのみならず、語義記述も異なっていることがわかる。まず、語義数についていえば、1 から 3 まで主要語義の数がずれている。また、重要語義の順番にもずれが見られる。通例、辞書では 1 番目に取り上げられた語義が最も重要な語義とされるが、天沼（1974）、浅野（1978）、阿刀田・星野（1995）の 3 種では、味や色などに関する意味がもっとも重要な語義とされ、飛田・浅田（2002）、山口（2003）、小野（2007）の 3 種では、態度や性格などに関する意味がもっとも重要であるとされている。このように、同じ語に対し、オノマトペ専門辞書においてもその記述に違いがみられ、オノマトペの記述の更なる精緻化が求められる。

2.4.4 日本語学習者の作文におけるオノマトペ

すでに述べたように、オノマトペは外国人日本語学習者にとって非常に難しいものである。学習者は具体的にどのような問題を抱えているのかを検証するために、ここで、『日本語学習者作文コーパス』に収集されている中国人日本語学習者の用例をみてみよう。

『日本語学習者作文コーパス』とは、初級から上級までの中国語母語話者及び韓国語（朝鮮語）母語話者の日本語学習者 304 名の作文データを収録したものである（語数の合計は 113,554 語）。作文のテーマとしては、「外国語が上手になる方法について」（192 名分）と「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」（112 名分）がある。なお、以下の用例で示された訂正例は筆者によるものではなく、コーパスの構築に当たって母語話者によるものである。

- (1) 助詞の使い方は難しいから、ちやんど（⇒ちゃんと）理解しか文句と文章が分からない。
- (2) 単語をきっちりと（⇒きちんと）暗記した後は、大量日本語の番組を見なわけいけない。
- (3) それと、できたのもの少くないが、日本語に対して嫌感がとんとん（⇒どんどん）増えていく。
- (4) 小さい時、外国語がべらべら（⇒ぺらぺら）の人にととても羨ましいだ。中学から、英語を勉強が始める。

(5) 単語や文毎日暗譜し、ふつうすっかり (⇒しっかり) 勉強すれば、大丈夫だと思う。

(6) 特に、たくさん日本語の単語の書き方が中国語と似ているが、実に意味がぜんぜん違う。それ単語がはっきり (⇒しっかり) 覚えなければならない。

(7) 漢字が正しく書けなくなったり、何でもネットからコピーして、自分がどんどん (⇒だんだん) 考えられなくなったりするのは一番見られる現象である。

(8) 知らない言葉の意味があったら、すぐその場で意味を調べ、頭の中に入れる。だんだん (⇒徐々に) 文造りの構成がわかったら、自分なりの文を書くのをチャレンジします。

(9) 外国語がうまくなる方法 日本語を勉強するのは時間しだいに難しくなった。しかし、有数な習った方法を掌握すればますます (⇒ずっと) 簡単になった。

(10) 最初、ちょっと難しくて照れくさいの気がして、言われば言うほど、会話はすらすら (⇒スムーズ) になっていると考える。

(11) 幸い、いま中日の交流がしげしげ (⇒活発に) なって、それを機会としてできるだけ日本人につきあいとしたほうがいい。

(12) もちろん、それらの上に発表している情報が正しくない場合も時々あるけど、情報の出所ははっきり (⇒はっきりしている) ので、受^マ◆である私達にとっては担任して責任を持っている会社がどちかがわかるので安心する。

(13) つきのページは何か私に待っているかなというわくわくな (⇒わくわくした) 気持が満喫するから。

(14) 日本人はほんどうに耐心し、熱心でした。私のわからない単語しおしへでした。その後私は日本語でだんだん喜きです (⇒好きになりました)。

以上の用例に示したように、学習者の使用例はまちまちであり、質的に分類すれば大きく4種に分けられる。(1)～(4)は語そのものに関する誤り、(5)～(7)はオノマトペ同士の混同、(8)～(11)はオノマトペと一般語彙との混同、(12)～(14)は統語的誤りである。ここで注目すべきは、(1)(3)(4)の有声音無声音の混同と(2)の促音の位置の間違いのような低いレベルの誤りから、(12)(13)(14)のようなアスペクトや語の接続のような高いレベルまで、誤りの幅が広く、初中級学習者にもかかわらず、上級者にもみられることである。これらの誤用例は、中国人日本語学習者が語彙レベルにおいても、統

語レベルにおいてもオノマトペを十分理解しておらず、習得上多くの問題を抱えていることを示している。こうした問題点を突き止めたうえで、適切な指導案が求められているであろう。

以上、国語辞書、日本語教科書、日本語オノマトペ専門辞書、日本語学習者の作文におけるオノマトペの取り扱いを概観してきたが、いずれの場合も多くの問題が残っている。これからの日本語教育研究において、オノマトペに関する問題点を精査したうえで、より良く精選された語およびその用例、精緻化された意味用法記述、効率の良い提示案が求められている。

2.5 オノマトペ研究の現状

すでに述べたように、オノマトペ研究は鈴木（1916）に遡る。このように、オノマトペ研究は長い歴史を持つが、過去から現在に至るまで常に同程度の関心が払われてきたわけではない。総じていうと、オノマトペに対する関心はこの30年間の間に大きく高まっているように思える。この動きの中で、オノマトペ研究は量的にも、また内容の多様性においても、大きく広がっていた。この点を確認するため、以下ではオノマトペについて書かれた論文の量と内容を概観しておくこととしたい。また、ある分野についての研究の量や内容を概観する際、CiNii Articlesを参照することができる。これは国立情報学研究所が運営する学術論文や図書・雑誌などの学術情報データベースであり、タイトルに含まれる語で検索を行うことができる。

まず、オノマトペ研究の量の調べるため、「オノマトペ、擬音語、擬態語、擬容語、擬声語、音象徴語」を検索対象として論文数を調査したところ、図2-6の結果を得た。

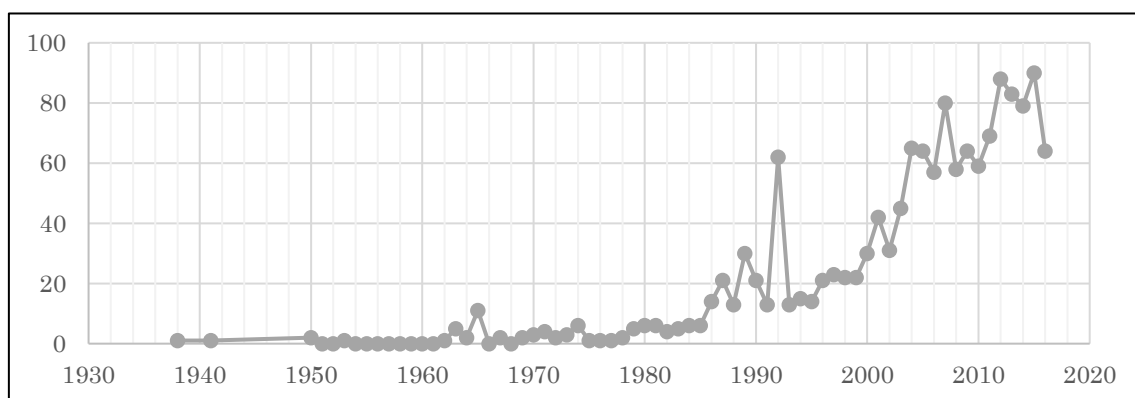


図2-7 オノマトペに関する研究の年代推移

上図で明らかのように、オノマトペに関する論文は 1930 年代から出版されているが、その数が急速に増加したのは 90 年代以降のことである。以降、若干の上下はあるものの、ほぼ一貫して研究の数は増加している（なお、1992 年にオノマトペ論文の数が例外的に多くなっているが、これは同年に『方言資料叢刊 2』が刊行され、この中で特集「身体感覚を表すオノマトペ」が集中的に研究されたためである）。

次に、オノマトペ研究を扱っている分野や注目されている言語現象について調べる。前述の CiNii Articles にはテーマ別分類は対応していないので、まず 2016 年に刊行された論文全 57 本を検索し、筆者が手作業で分類を行った。その結果、主な分野としては大きく 9 種類におよび、それぞれの論文数は以下ようになる。

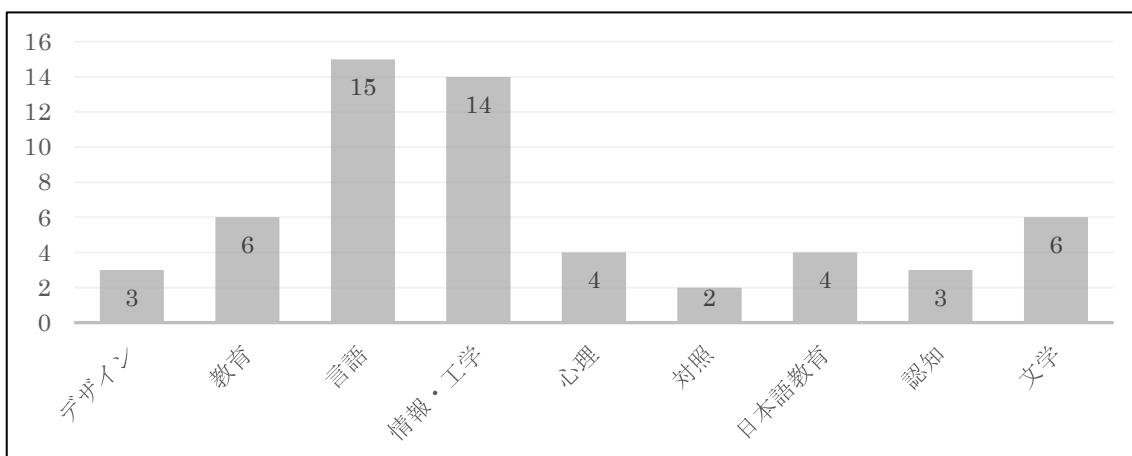


図 2-8 オノマトペに関する研究分野

上図からわかることは 3 点ある。1 点目は最新の研究の関心は言語学のみならず、医学、工学、情報などの分野にも幅広く広がっていることであるということである。たとえば、オノマトペと感覚や五感の関連性に注目して商品のネーミングを研究した村山（2016）や工学的知見に基づき、オノマトペが喚起するイメージの推定を行った清水・坂本（2011）などの研究が存在する。

2 点目は日本語教育に関する研究も存在するが、その数は相対的に限定されているということである。具体的には、日本語学習者のための基本語彙を選定した獅々見（2016）や日本語学習者のオノマトペ指導案の開発を行った許（2016）などの研究が挙げられる。

3 点目は、当然のことであるが、全体の中で言語学を基盤とした研究は最も多いという

ことである。では、これらの研究はオノマトペのどのような言語的側面に注目しているの
であろう。手作業で分類を行ったところ、以下の結果を得た。

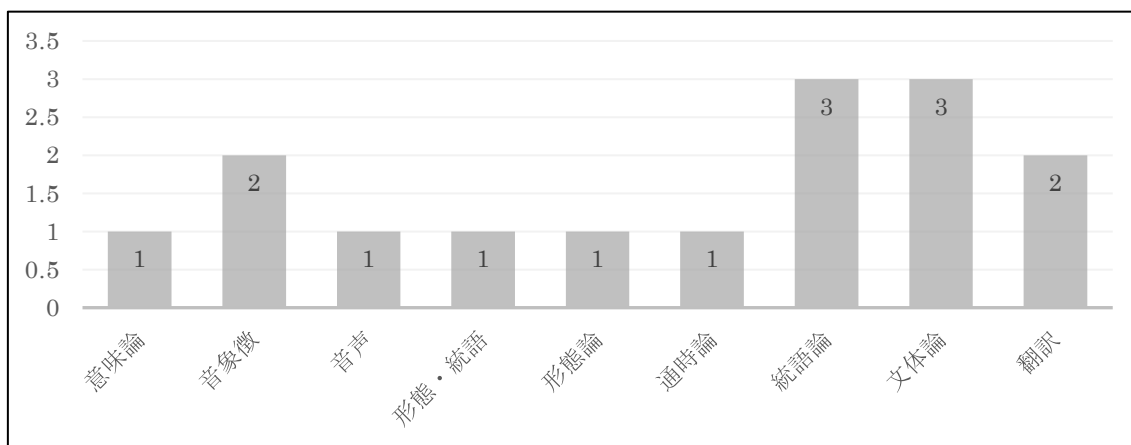


図 2-9 2016 年における言語分野の内訳

上図で明らかのように、最近の研究はオノマトペに関して様々な観点から言語学的に探
究を行っている。相対的に多いのは文体論、統語論、音象徴、翻訳などである。なお、研
究の大部分は筆者が集めた用例を質的に研究したものである。本論文が試みをしているコ
ーパス準拠型の研究は調べた限りでは 15 文中 1 本に限られていた（獅々見（2016））。

以上でみてきたように、オノマトペに関する研究は 1990 年頃から急速に増加し、かつ、
扱われる内容も多岐にわたることが確認された。しかしながら、本論文が目指そうとして
いるコーパスに基づく言語学・日本語教育学連合型研究は必ずしも多くないことも分かっ
た。

2.6 まとめ

以上本章では、2.1 でオノマトペの名称と定義の問題、2.2 でオノマトペの分類の問題を
扱った。2.3 ではオノマトペの語彙化問題と一般語彙との関係を概観し、2.4 では国語辞
書・日本語教科書・オノマトペ専門辞書・日本語学習者作文におけるオノマトペの位置づ
けを概観し、2.6 では今まで行われてきた研究の量と内容を紹介した。

第3章 先行研究

第2章では研究対象としてのオノマトペの諸相に注目し、オノマトペの定義・分類・語彙化・研究の現状とその内容的広がりについて概観してきた。本章では、オノマトペに関する主要な先行研究をまとめることとしたい。もっとも2.6で触れたように、オノマトペに関する研究は近年では1年間に50本以上出されており、その研究の蓄積は膨大なものとなる。そのすべてを網羅することはもとより不可能であるため、ここではオノマトペの日本語学および日本語教育学的観点から出されたオノマトペ研究のうち、特に重要であると思われるものに限ってレビューを行う。また、オノマトペに関する先行研究は(1)主として日本語学にかかわる研究と、(2)主として日本語教育学にかかわる研究に大別される。前者については(1-1)オノマトペの音韻的特徴に注目した研究、(1-2)オノマトペの形態的特徴に注目した研究、(1-3)オノマトペの統語的特徴に注目した研究、(1-4)オノマトペの意味的特徴に注目した研究、(1-5)オノマトペの使用特性に注目した研究に細分化される。また、後者については(2-1)重要オノマトペの選定研究、(2-2)教材におけるオノマトペ収録状況調査、(2-3)オノマトペの中日対照研究、(2-4)学習者によるオノマトペ使用実態の調査を行おうとした研究に細分化される。以下それぞれ順に見ていくこととする。

3.1 日本語学の観点からの研究

すでに述べたように、オノマトペは日本語の語彙体系の中で非常に重要な位置を占めている。このことから、オノマトペのふるまいを多角的に解明しようとした研究が多い。その中で、特に集中的に研究されているのがオノマトペの音韻的特徴、形態的特徴、統語的特徴、意味的特徴、使用特性の5つである。以下はこの5つに関する研究を紹介していく。

3.1.1 オノマトペの音韻的特徴を扱った研究

オノマトペには様々なものがあるが、「どきどき、ぴかぴか、がたがた」など、音韻的に際立ったものがきわめて多い。このことから、オノマトペの音韻面に注目した研究は数が多く、ここでは(1)オノマトペの音韻の独自性を指摘した研究、(2)オノマトペの音韻の記述をした研究、(3)オノマトペの音韻のモデルを目指した研究の3種に分けて主要な研究を紹介していくこととしたい。まず(1)について、金田一(1978, pp:9-11)はオノマトペの特有の性格について、以下のように述べている。

(1) 言語には一般にソシユールの言ったように、その音と意味とが非必然的な性格がある。が、擬音語・擬態語（オノマトペ）には、必然的と言えないまでも、ある程度合理的な結びつきがある。

(2) ことに擬音語は、外の音に少しでも近い音を求めることから、ほかの単語には用いられないような特別の音を、用いることもないではない。風の音：びゅーびゅー

(3) 音と意味の関係が、比較的合理的に結ばれているところから、新しい音の組み合わせでも意味が理解されやすく、そのために、新作がどんどん許されるという性質をもつ。

上記に示されるように、オノマトペはその他の語彙とは異なり、写しとろうとしている人物や現象の近似音で表記されるところに最大の特徴があると言える。

次に(2)について、オノマトペの音韻を記述的調査した研究としてここでは、城岡(1998)、李(2001)、丹野(2005)の3つの研究を取り上げる。

まず、城岡(1998)は阿刀田(1993)の辞典に含まれている1602種および自身の判断に基づきオノマトペと判断した233種、あわせて1835種のオノマトペをデータとして一般語彙(フロッピー版語彙分類表の平仮名のデータ27430種、『岩波国語辞典』の見出し語56246種、知恵蔵の外来語データ8021種)と比較し、オノマトペの音韻的特徴を明らかにした。以下はその詳細である。

表 3-1 城岡(1998)(括弧は比率を示す)

	オノマトペ		分類語彙表		岩波国語辞典		知恵蔵外来語	
	語頭	全体	語頭	全体	語頭	全体	語頭	全体
合計	1835	6782	27430	106923	56246	210793	8021	45871
ア行	66 (3.6)	145 (2.1)	3544 (12.9)	18646 (17.4)	6517 (11.6)	38093 (18.1)	1173 (14.6)	3975 (8.7)
カ行	478 (26.0)	1141 (16.8)	5238 (19.1)	19611 (18.3)	12005 (21.3)	38848 (18.4)	906 (11.3)	4295 (9.4)
サ行	267 (14.6)	699 (10.3)	4992 (18.2)	14607 (13.7)	11929 (21.2)	30990 (14.7)	1244 (15.5)	5476 (11.9)

タ行	226 (12.3)	859 (12.7)	3835 (14.0)	13070 (12.2)	7406 (13.2)	24533 (11.6)	968 (12.1)	6093 (13.3)
ナ行	76 (4.1)	145 (2.1)	1434 (5.2)	4121 (3.9)	2427 (4.3)	7192 (3.4)	241 (3.0)	1328 (2.9)
ハ行	622 (33.9)	1045 (15.4)	4156 (15.2)	8556 (8.0)	8111 (14.4)	16614 (7.9)	2088 (26.0)	5369 (11.7)
マ行	59 (3.2)	119 (1.8)	1988 (7.2)	6331 (5.9)	3294 (5.9)	10923 (5.2)	580 (7.2)	2141 (4.7)
ヤ行	18 (1.0)	75 (1.1)	1160 (4.2)	2422 (2.3)	2060 (3.7)	4216 (7.7)	80 (1.0)	163 (0.4)
ラ行	6 (0.3)	927 (13.7)	831 (3.0)	9561 (8.9)	2020 (3.6)	16170 (7.7)	683 (8.5)	5988 (13.1)
ワ行	17 (0.9)	59 (0.9)	252 (0.9)	1107 (1.0)	474 (0.8)	1728 (0.8)	58 (0.7)	194 (0.4)
促音	0	739 (10.9)	0	1589 (1.5)	0	3021 (1.4)	0	1614 (3.5)
撥音	0	531 (7.8)	0	7302 (6.8)	3	16646 (7.9)	0	3537 (7.7)
長音	0	298 (4.4)	0	0	0	1808 (0.9)	0	5698 (12.4)

上表よりわかることは4点にまとめられた。まず1点目は語頭ハ行音，カ行音は一般語彙より多いということである。ハ行音について，オノマトペは33.9%の割合を占めているが，一般語彙は15.2%の割合を占めている。カ行音についてオノマトペは26.0%であったが，一般語彙は19.1%だけにとどまった。次に，2点目は一般語彙に見られる「混濁現象」はオノマトペにはみられないということである。たとえば，外来語の「バイパス」，和語の「のっぺらぼう」，漢語の「文法」のいずれの場合も|p|と|b|が混在しており，しかしながら，このような現象はオノマトペには観察されなかった。3点目は，濁音は清音より多いということである。清音|p|は42.9%で，濁音|b|は37.1%，清音|h|は20.0%，濁音

|g|は 54.8%，清音|k|は 45.2%であった。最後に 4 点目は，語頭ア行音は一般語彙より少ないということである。語頭音についてオノマトペは 3.6%であったが，一般語彙は 12.9%であった。このように，オノマトペを構成する子音についての特徴は明らかになったが，母音についての分析はまだ残されている。

上記の研究でオノマトペを構成する子音についての特徴は明らかになったが，母音についての分析はまだ残されている。このことをふまえ，李（2001）は大坪（1988）のオノマトペの音韻調査をふまえ，『日本語の感覚』及び『生きるヒント』に出現する和語と漢語の音韻調査を加えてオノマトペを構成する母音・子音の特徴を分析した。母音に関して言えば，2 つの特徴が挙げられる。1 つは，オノマトペは和語・漢語と同様，|a||o|の頻度が高いということである。もう 1 つは，オノマトペは和語・漢語に比べて，|e|の頻度が極端に低いということである。子音に関して言えば，(1) 和語・漢語と同じように，無声阻害音|k, s, t, h|の頻度が高いが，|p|音は和語・漢語より頻繁に出現すること，(2) 有声阻害音|g, z, d, b|は和語より相対的に多いこと，(3) 拗音類は和語には表れないのに対して，オノマトペには漢語と同じぐらい出現すること，(4) 鼻音|m, n|の比率は和語より低い，流音|r|の比率はきわめて高いことが明らかになった。

李（2001）により，オノマトペの母音・子音音素の特徴が明らかになったが，しかしながら，母音・子音特徴を調査するために，オノマトペのモーラ数を調査する必要もある。丹野（2005）は天沼（1974）の『擬音語・擬態語辞典』に収録されているすべてのオノマトペ 1555 語を対象にオノマトペのモーラ数，母音・子音特徴を考察した。まず，モーラ数から見れば，4 拍（48.87%）>3 拍（32.07%）>6 拍（7.08%）>2 拍（6.89%）>5 拍（3.80%）>8 拍（1.16%）>7 拍（0.13%）という順番となり，XYXY 型は全体の 3 割に近いことが明らかになった。母音については，「い」（27.04%）>「う」（23.75%）>「お」（23.17%）>「あ」（19.88%）>「え」（6.13）の頻度順となった。また，子音については，「が行」「ば行」などの濁音，半濁音が多くみられ，鼻音が少ないことが示された。以下はその結果のまとめである。

表 3-2 丹野（2005）語頭音分布

音	割合	音	割合	音	割合	音	割合
い	27.04	が	15.04	ざ	7.81	ま	3.09

う	23.75	ぱ	14.33	た	7.61	あ	2.58
お	23.17	か	11.87	は	7.03	や	1.22
あ	19.88	ば	9.36	だ	6.19	わ	0.96
え	6.13	さ	8.06	な	4.45	ら	0.32

以上で示したように、オノマトペの音韻については計量的データをふまえて正確に記述する研究は広く行われている。しかしながら、なぜこのような特有の音韻パターンが存在するのかという点を考えるためにはオノマトペの音韻構造のモデル化が必要となる。

最後に (3) オノマトペの音韻モデルの構築を目指した研究としてここでは小林 (1965) と那須 (2002) を取り上げる。

小林 (1965) は語基の結合型に注目して、タテ・ヨコにローマ字を配した基盤目のあみを作った。そのローマ字の順位は、破裂音、摩擦音、鼻音、流音、半母音、母音であり、また、無声音の次に有声音を配した。その結果は下表のとおりである。

表 3-3 小林 (1965) 語基音素結合パターン

	p	b	h	t	d	k	g	s	z	m	n	r	w	y	v
p				◎		○		◎				◎	○	○	
b				◎		○		○				◎	○	○	
h				○		○		○			○	○	○	○	○
t		○			○	○			○			◎			
d		○		○		○		○				○		○	
k		○		○	○			○			○	◎		○	
g		○		◎		○		○	○	○	○	◎	○	○	○
s	○	○		○		○	○				○	○	○	○	○
z		○		○		○		○				◎	○		
m				○		○	○	○	○			○		○	
n				○		○		○				○		○	
r															
w						○						○			○

y		○		○								○			○
v				○	○	○		○			○	○		○	

注：タテを第1音節とし，ヨコを第2音節とする。

eを除いて他の4つの母音を持ちうるものは二重丸で表す。

上表からわかることは4点ある。1点目は，rは第1音節に出現しないということである。2点目は，hは第2音節に出現しないということである。3点目は，第1と第2の音節には同じ音節が出現しないということである。ppからvvにいたる対角線上の柵目がすべて空白であることはその証拠である。4点目は，4種の母音と結びつけるのは第2音節が無声音またはrで始まるものに限るということである。

小林(1965)の研究により，オノマトペの語基の音素には結合できるものとできないものが存在することがわかった。また，語幹(語基)から音韻的語形成のメカニズムを解明しようとした試みとして那須(2002)は，重複形(ぴかぴか)，接辞形(ぼきん)，強調形の3つのタイプの語形成プロセスを取り上げ，その適正条件が音節およびモーラの構造に基づいて導き出せることを論じた。下図はその語形成の相互関係を示したものである。楕円は語形成のプロセスを表し，実線はプロセス間の派生関係を示している。「S重複」は語頭型重複語を(従来のABAB型，例：ぴかぴか)，「P重複」は重複子が任意の数だけ生成される派生構造(ぴかぴかぴかっ)を指している。

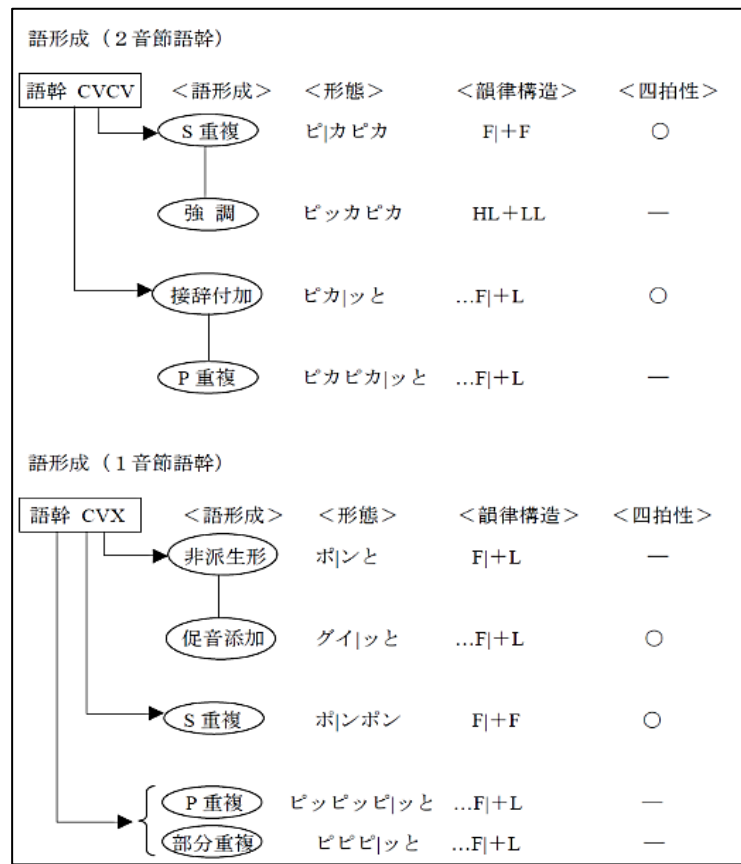


図 3-1 那須 (2002) オノマトペ語形成プロセス

以上、オノマトペの音韻的特徴について、オノマトペの音韻の独自性、オノマトペの音韻の記述及びオノマトペの音韻のモデルを目指した研究の3種類を概観した。オノマトペのモーラ数、音素の種類、音素の結合パターンに注目した先行研究は多く、オノマトペの音韻特性を特定するうえで重要な知見を示している。しかしながら、これらの先行研究はそれぞれ異なるデータを使って異なる問題を扱っており、統一的な観点でオノマトペの音韻的特性の諸相を分析した研究はほとんど存在しない。

3.1.2 オノマトペの形態的特徴を扱った研究

オノマトペの形態的特徴の1つは、オノマトペは語基（語根）とその他の付属要素によって形成されるということである。その他の付属要素はオノマトペ標識と呼ばれている。これは Waida(1984)によって提唱された概念で、具体的に反復、促音、「り」、撥音のことを指す。たとえば、「ころころ」「ころっ」「ころん」「ころり」の場合は、「ころ」が語基（語根）で、「っ」「り」「ん」「反復」などはオノマトペ標識となる。オノマトペの形態特徴に

ついて、先行研究は主に 2 つの観点に注目している。1 点目は、オノマトペの形態分類である。2 点目はオノマトペ標識に関する考察である。以下はまず、オノマトペの形態はどのように分類できるかを確認する。次に、オノマトペ標識はそれぞれどのような意味合いを表しているかに注目する。

3.1.2.1 形態分類

いわゆるオノマトペには「ひらひら」「どんどん」などの形態もあれば、「ぞっ(と)」「しっかり」などの形態もある。こうした形態的多様性はオノマトペの大きな特徴であり、先行研究は、オノマトペの取りうる形態を分類・整理することを重要な研究目的としてきた。ここではオノマトペの形態分類にかかわる研究として以下の 6 点を挙げる。

表 3-4 オノマトペ形態分類研究の一覧表

年号	分類の数
小林 (1933)	2/14/25
金田一 (1978)	18
大坪 (1989)	2/4
田守・スコウラップ (1999)	3/22
日向・笹目 (1999)	4/48
角岡 (2007)	13

上記のように分類数が大きく異なっているのはオノマトペの形態分類に関して、様々な視点や立場が存在することを示している。以下順に各区分を概観していくこととしよう。

まず 1 点目として、小林 (1933) は集团的事実 (中核的事象) と散在的事実 (周辺的事象) の 2 つの観点から、語基音節の数に基づいてオノマトペを 25 種類に分類している。言語研究を行う際に集团的事実を先に対象とすべきと主張している。というのも、集团的な事実は、範疇論的・文法論的な知見から見れば、中心的な事実にあたるからであるとしている。

表 3-5 小林 (1933) の分類

	音節タイプ	下位分類	例
1. 集团的事実	A. 語基一音節	a. 長音延長反復	げーげー
		b. 撥音延長反復	がんがん
		c. 促音延長と付	きつと
	B. 語基二音節	a. 非延長反復	きらきら
		b. 撥音延長	かたん
		c. 促音延長と付	びたつと
	C. 語基二音節り延長	a. 非延長	びたり
		b. 促音延長	びつたり
		c. 撥音延長	まんじり
2. 散在的事実	D. 語基交替		ちらほら
	E. 語基二音節延長と付	a. 促音延長	どっかと
		b. 撥音延長	むんずと
	F. う延長	a. 語基二音節非延長	ずぼら
		b. 語基二音節長音延長	ぐーらた
		c. 語基二音節促音延長	ふっくら
		d. 撥音延長	まんだら
		e. 語基三音節非延長	のべたら
	G. 二音節語		びた
	H. 三音節語		にやけ
	I. 四音節語		ぞっこん
J. 六音節語 (2*3)		つんつるてん	
K. 六音節語 (3*2)		しどろもどろ	
L. 八音節語		おっかなびっくり	
M. 接頭辞		ちよろまかす	
N. 接尾辞		ふとっちょ	

上記に明らかなように、最も初期のオノマトペの研究において、オノマトペの形態は「語基（語根）＋その他の要素」と定義され、語の長さが分類基準になるべきであるという見

解が示されている。

2点目として、金田一（1978）はオノマトペの形態を以下の18種に分類している。

表 3-6 金田一（1978）

分類	例
(1) 1拍語のもの	ふ（と）、つ（と）
(2) 1拍の語根+「い」「ん」「っ」	つい（と）、ふい（と）、ぽん（と）、かっ（と）
(3) 2拍の語根のもの	がぼ（と）、ぴた（と）、にゃお
(4) 1拍の語根に+「い」「う」「ん」「っ」のうちのもので2箇	ごうん、ぼいん、ぼうっ
(5) 2拍の語根+「っ」の形のもの	ごろっ（と）、ばさっ（と）、ぱたっ（と）
(6) 2拍の語根+「ん」のもの、	かちん（と）、こつん（と）、どきん（と）
(7) 2拍の語根+「り」の形のもの	ぐるり（と）、ごろり（と）、つるり（と）
(8) (7)の1種「り」でないもの。古風な語	うらら、しとど、そよろ、とどろ
(9) 2拍の語根の間に、つめ、はねの 入ったもの	ざんぶ（と）、むんず（と）、かっか（と）、さ っさ（と）
(10) (7)の形の第1拍と第2拍の間に、 はねる音、つめる音の入ったもの	あんぐり、ぐんにやり、こんがり、あっさり、う っとり、がっかり
(11) 2拍の語根の繰り返し、ことに第2 音がラ行のものが多い	からから、かりかり、くりくり、いそいそ、つる つる
(12) 前項に似て類音のものを重ねるもの	あたふた、かさこそ、からころ、てきぱき
(13) 全く似ていない2拍を重ねたもの	がたびし、そそくさ、すたこら、ぱちくり
(14) 2拍語+「りん」「りっ」の形	くるりっ（と）、ころりん
(15) 5拍のもの	ころりんこ（と）、けろりかん（と）
(16) (7) (8) (9)の繰り返し	ぐでんぐでん、ころりころり、ごろんごろん
(17) (16)に似てあとのものは、多少 形のちがうもの	しどろもどろ、でんやわんや、のらりくらり

(18) その他の6拍もの	こけこっこう, すってんてん, つんつるてん
---------------	------------------------

金田一（1978）もオノマトペの形態を「語基（語根）＋その他の要素」と認定しているが、小林（1933）に比べ、以下の3つの点で分類の精緻化が図られた。1点目は、語の長さを数える単位を音節ではなく、モーラ（拍）としたことである。これによって実際に発声される音により近い単位でオノマトペの長さを議論することが可能になった。2点目は、オノマトペの長さを議論する際に、単語全体の長さに注目するのではなく、語基部分の長さのみに注目しているということである。これによってオノマトペの形態的な長さがより多面的に議論されることとなった。そして3点目は、オノマトペに付加される要素としてより幅広いものを議論の対象としたことである。小林（1933）では促音の「っ」、撥音の「ん」、「り」、と「ウ延長」の4種類だけがあげられているが、金田一（1978）ではこれらに加えて「い」「りん」、「りっ」の3種も加えられている。上記で見たように小林（1933）で始まったオノマトペの形態分類は、金田一（1978）によって内容的な精緻さが大きく高まった。しかし、金田一（1978）の研究では語の長さと言語基の長さがどのように関係しているのかがはっきりしていないという問題も残されている。

3点目として、大坪（1989）はオノマトペ（同論文では擬声語と呼ぶ）を以下の4種類分類している。さらに、また、昭和22年1月から昭和29年7月までに雑誌『中央公論』『改造』『文芸春秋』に掲載された小説571編に出現したオノマトペ1760語と天沼寧編『擬音語・擬態語辞典』に収められたオノマトペ1532語を形態タイプ別に調査した。その結果は以下のとおりである。

表 3-7 大坪（1989）の分類

分類	定義	例	現代小説	辞典	
単一型	音節の多少によらず、構造の単一なもの	つ, ふ, がば, さっ, ひ よい, ぷつん	844 (47.9%)	832 (54.3%)	
複合型	単純反復型	単一型をそのまま反復したもの	きき, はらはら, さっさ っ, こっくりこっくり	758 (43.1%)	567 (37.0%)
	修正反復型	単一型を反復する際に、一部を変形したり、	かさ→かさこそ, どさ→ どさくさ, さっ→さっ	116 (6.6%)	116 (7.6%)

		削除したり，他の要素を添加したりするもの	さ，ばた→ばたばたっ，		
	合成型	単一型と単一型とを，または単一型と反復型とを組み合わせたもの	ぱち・くり→ぱちくり， がた・ぴし→がたびし， のんべん・だらり→のんべんだらり	42 (2.4%)	17 (1.1%)

大坪（1989）は従来の語の長さや語基の長さの問題を改善するために，語の長さに注目するのではなく，語の構成パターンに注目してオノマトペ形態の整理を図った。上記に示されるように，従来の研究の18種や25種の分類が4種類に集約され，より整理された分類枠組みが示されている。しかしながら，「こっくり」と「こくり」は同じく単一型に分類されるわけであるが，これらの2語は促音があるかないかという点において明らかな形態上の違いも見られ，単一型についての更なる整理も残されている。

4点目として，田守・スコウラップ（1999）は以下の3大分類・22下位分類を行っている。

表 3-8 田守・スコウラップ（1999）の分類

基本形	形態	例
1 モーラ	CV	ふ（と），つ（と）
	CVQ	ちゅっ，ふっ，はっ，ほっ，かっ，きゅっ
	CVN	ばん，ぼん，ちょん，かん，こん，にゃん
	CVV	がー，ぐー，ぎゃー，ぎゅー，かー，きゃー
	CVVQ	ばーっ，ふーっ，かーっ，ぱーっ，さーっ
	CVVN	ばーん，がーん，ごーん，きーん，かーん
2 モーラ	CVQ-CVQ	くっくっ，きゃっきゃっ，きゅっきゅっ
	CVN-CVN	ばんばん，ぼんぼん，かんかん，ぱんぱん
	CVV-CVV	がーがー，ぎゃーぎゃー，かーかー
	CVCV	がば，ぐい，はた，ひし，ひた，びた，ぴよ
	CVCVQ	ばたっ，ばさっ，ぱらっ，ぐさっ，ころっ

	CVCVri	ばたり, ばさり, ばらり, ぐさり, ころり
	CVCVN	ばたん, ぼとん, どきん, ごろん, こつん
	CVQCV	どっか, はっし, すっく
	CVNVCV	むんず, ざんぶ
	CVQCVri	ばっさり, ばったり, がっくり, ぐったり
	CVNVCVri	ぼんやり, ふんわり, げんなり, こんがり
	2モーラの反復	ばさばさ, ばたばた, ころころ, きらきら
	2モーラの反復の変種	がさごそ, がたごと, からころ, どたばた
	CVCVri 反復	ばたりばたり, ぼとりぼとり, どきりどきり
	CVCVN 反復	ばたんばたん, ぼとんぼとん, どきんどきん
その他	特殊形態	ほうほけちょう, こけこっこう, すっからかん

上記に示されるように、田守・スコウラップ（1999）は大坪（1989）を継承したというよりも小林（1933）と金田一（1978）の流れにつながるものと位置付けられる。田守・スコウラップ（1999）は従来の研究に対して3つの点で改善を行い、分類の更なる精緻化を目指した。1点目は、語の最も基本的な成分である語基に限定して議論するという点である。これにより、金田一（1978）に含まれていた2つの単位の混在という問題が解消された。2点目は、語の音を文字の単位で表記するのではなく、子音と母音のパターンで整理したことである。これにより、異なる音であっても同じ音構成パターンを持つものの共通性が明らかにされた。3点目は、様々な小分類を並列的に羅列するのではなく、全体を大きく分ける観点として1モーラ/2モーラ/その他という大きな枠組みを設定したことである。これにより、従来様々な小分類が並列されていた問題が解消され、オノマトペの形態的性質がより明確に示されることとなった。しかしながら、上記に示されているように、語基は主に1モーラのもものと2モーラのものに分けられたわけであるが、「すっからかん」などの語も存在するように語基の認定が難しい特殊なものについてどのように処理すべきかを考える必要もある。また、語基以外の他の要素として、「なし」「っ」「り」「ん」「反復」「長音」を挙げているが、金田一（1978）で取り上げられた「い」「りん」, 「りっ」は注目されなかった。この違いはオノマトペの形態を考える際に大きな問題となる。というのも、たとえば、「ふ」「っ」および「ふい」「つい」の扱いは認識によって大きく変わって

くるからである。

5点目として、日向・笹目（1999）は浅野鶴子（1978）編の『擬音語・擬態語辞典』に取り上げられた見出し語 804 語と、同類語や類義語として触れられた 843 語、合計 1647 語を対象に、オノマトペの形態上の分類を行った。具体的な分類は以下のとおりである。小分類から見れば、48 種が挙げられている。

表 3-9 日向・笹目（1999）の分類

大分類	小分類	例	頻度
一回語形	Aい	ぐい、すい	6
	Aいっ	ぐいっ、ぶいっ	3
	Aいーっ	すいーっ	1
	Aん	うん、かん	36
	Aっ	うっ、かっ	43
	Aー	うー、かー	37
	Aーん	あーん、うーん	29
	Aーっ	うーっ、かーっ	44
	AB	かつ、がば	16
	ABん	かくん、がしゃん	102
	ABっ	うかつ、うとっ	212
	ABり	がくり、かさり	141
	AんB	ざんぶ、むんず	3
	AっB	かっか、さっさ	13
	AんBり	あんぐり、うんざり	25
	AっBり	あっさり、うっかり	103
	AっBら	うっすら、ぎっちら	4
	ABーん	うおーん、うわーん	28
	AっBん	かっくん、がっくん	9
	AっBーん	どっかーん	1
ABーっ	がばーっ、ぐうーっ	20	

	その他	ぐーすか, そそくさ, のほほん, ぴーちく	5
重なり語形	AんAん	うんうん, おんおん	37
	AっAっ	かっかっ, きゃつきゃっ	26
	AーAー	かーかー, きーきー	39
	ABAB	かさかさ, がしゃがしゃ	419
	ABんABん	がくんがくん, かたんかたん	50
	ABりABり	きりりきりり, くらりくらり	36
	ABらABら	うつらうつら	1
	AっBAっB	あっぷあPっぷ, かっぽかっぽ	10
	AっBんAっBん	かっちんかっちん, こっちんこっちん	9
	AっBりAっBり	こっくりこっくり, のったりのったり	4
	AーんAーん	うーんうーん, こーんこーん	5
	ABっABっ	きちっきちっ, くるっくるっ	13
	AっBらAっBら	ぎっちらぎっちら	1
	AーっAーっ	さーっさーっ, ざーっざーっ	2
	AっAっAっ	はっはっは	1
	AんBAんB	わんさわんさ	1
	その他	おそるおそる	1
変則重なり語形	ABB	うふふ	1
	ABBっ	ぶるるっ, ぷるるっ	2
	ABCB	あたふた, うとちよろ	22
	ABCD	かさこそ, かたこと	5
	AらりAらり	ちらりほらり, ぬらりくらり	3
	AっBらCっDら	えっちらおっちら	1
	ABABっ	かさかさっ, かたかたっ	34
	ABんCDん	かたんことん, からんころん	4
	その他	からりころり, きんきらきん	11
その他	かたびし, きんきんぎらぎら, すってんころりん	27	

日向・笹目 (1999) と田守・スコウラップ (1999) は同じ年に出版された論文であるが、田守・スコウラップ (1999) はすでに述べたように、小林 (1933)、金田一 (1989) と同様、長さを重視しており、日向・笹目 (1999) は大坪 (1989) と同様、オノマトペの語形成を重視している。これまで見てきたように、すべての先行研究は語基と語基に付属するものを手掛かりにオノマトペの分類を行っているが、(1) オノマトペの形態分類は語の長さに基づいて行うべきか語基の長さに基づいて行うべきか、(2) 語基に付属する要素として取り上げられるべきものはなんであるのか、という 2 点については先行研究においても共通理解がなされていない。そこで、日向・笹目 (1999) は前者の問題の解決として、語の長さと言基の長さの代わりに、大坪 (1989) と同様、語の形成パターンに注目することにした。後者の問題の解決として、先行研究の多くに注目されている「なし」「っ」「り」「ん」「反復」「長音」のほかに少数の研究に挙げられた「い」「ら」も枠組みに取り込んだ。これにより、従来の先行研究に比べ、取り扱うオノマトペ標識の種類が最も多いものとなった。しかしながら、上表の「その他」に示されるように、分類できないものも存在し、分類枠組みを精緻化する余地が残されている。

最後に 6 点目として、角岡 (2007) は Kakehi et al.(1996)で示されたオノマトペリストに加除を加え 1652 種類のオノマトペデータベースを作成し、それらを 13 種類の形態タイプに分類した。加えて、それぞれの構成頻度も調査した。

表 3-10 角岡 (2007) の分類

分類	例	頻度
語基そのもの	ふ, つ, ひし	19
音素交替形	がさごそ, からころ	43
語基交替形	すってんころり, のらりくらり	46
完全反復形	がさがさ, ごそごそ, ころころ	696
不規則反復形	あはは, かつか, ぶるるっ	32
リ延長強勢擬容語	あっさり, うんざり	133
リ接辞	きらり, ぐらり	141
N	ことん, からん	127
Q	にゅっ, さっ, ことっ	274

R	あーん, ぶーん, きー	32
R+N	うおーん, ばーん, うわーん	29
R+Q	にゅーっ, うおーっ, ばーっ	54
その他	ぺたんこ, どっきん, ぞっこん	26

これまで見てきた小林 (1933), 金田一 (1978), 田守・スコウラップ (1999) は語の長さや語基の長さを手掛かりに分類を行っており, 大坪 (1989), 日向・笹目 (1999) は語の形成パターンを手掛かりに分類を行っている。これらに比べ, 角岡 (2007) は以下の2点で先行研究を進歩させた。1点目は, 長さに注目するのではなく, 語の形成パターンに注目するということである。これにより, オノマトペ形態について語の長さより語形成の方がより重要視され, 研究の基盤が大きく変わった。2点目は, 従来の語形成研究が語基の単一性や複合語もしくは重なる語性に注目しているが, 角岡 (2007) はオノマトペ標識に重点を置いて分類を行っているということである。従来オノマトペ語基とオノマトペ標識が並列的に羅列されていたが, 角岡 (2007) によりオノマトペ標識が重要視されるようになった。しかしながら, オノマトペ標識の分類は必ずしも十分なものではなく, その他に分類された「どっきん」や「ぞっこん」などは Q+N という項目を立てて分類しようという見解も考えられる。

以上で, 小林 (1933) から角岡 (2007) までの6種類のオノマトペ形態分類を概観してきた。70年間の研究史においてオノマトペの形態分類を進める中で, オノマトペの持つ様々な形態的特徴が浮かび上がってきたと言える。しかしながら, 課題も残されている。というのも研究者によって注目する観点や分類の精疎などに違いが残されているからである。この問題は, 実際に存在するオノマトペをすべて並列に見なし, 分類を行おうとしていることに起因すると考えられる。つまり, 存在するオノマトペの形態に注目するだけでなく, その形態がどのようなプロセスで生じているのかを見ることでオノマトペの形態分類に新しい視点を加えることができる。この点について, 川崎 (2016) は1つのオノマトペが以下のような過程を経てその形態的複雑性を増していくモデルを提案した。

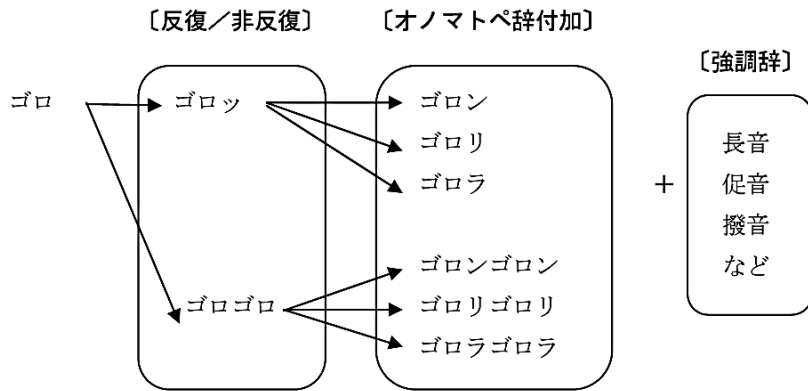


図 3-2 語基「ゴロ」からの派生

このようなモデルを設定することで、従来のオノマトペの形態分類をより単純化することができるだけでなく、従来の研究で「オノマトペ標識」とされてきた概念を新たな視点から見直すことができる。この点について川崎（2016）では、Waida(1984)の指摘したオノマトペの標識の不十分な点を次のように指摘している。

『ばったーん』などに出てくる長音は Waida（1984）ではオノマトペ標識に含まれていないが、『ばったん』と『ばったーん』は別語形として扱う研究があり、オノマトペ標識に含むのか否かといった問題が生じる。また、促音などは「暑い」を強調した「あっつい」などにも出てくることなど、オノマトペに特徴的であるかどうかといった問題がある。」

そこで、川崎（2016）はオノマトペ標識という言葉を使わずに、オノマトペ辞という用語を用い、オノマトペ辞に含む要素を促音、撥音、「リ」、「ラ」の4つとし、さらに促音は非反復形に付加される基本的な要素として、他のオノマトペ辞と区別した。さらに、多くの先行研究で挙げられた反復と長音はオノマトペ辞に含まれず、反復は語基からオノマトペが派生する最初の段階において重要な判断指標の1つとされ、長音は強調を表す強調辞として扱われた。創造性が高いとされるオノマトペの派生段階において、語基の非反復か反復かが第一段階、オノマトペ辞が非付加か付加かが第二段階、長音などの強調辞が非付加か付加かが最後の段階である。このように、オノマトペの語形のバリエーションが豊かになるとされている。

また、川崎（2016）は、山形県寒河江市方言に使用されている方言オノマトペを対象に、

オノマトペの語構成を4つのタイプに分類した。それぞれ、語基レベル習慣化タイプ、語レベル習慣化タイプ、意味習慣化タイプ、そして1拍語基のタイプである。語基レベル習慣化タイプとは語基から派生するオノマトペが多く、さらに、派生する時に語基の意味はそれほど変化しないものを指す(例:ころ)。すなわち、このタイプのものは語基レベルで意味や形が比較的定着しているものである。語レベル習慣化タイプとは、語基から派生する語形がきわめて少なく、語基とオノマトペ辞が一体化されたものである(例:わら→ワラワラ準備してきた(急いで準備してきた))。意味習慣化タイプとは、特定の意味の中で、多数の語が存在する場合のものである(例:「チョット」「チェット」「チョコラット」)。1拍語基のタイプについては語基の意味が捉えにくいものが多く、使用頻度が高いという特徴があると指摘している。このうち、語基レベル習慣化タイプと語レベル習慣化タイプは共通語と同様、方言にもたくさん見られる。それに対し、意味習慣化タイプは共通語には少ないが、方言には多く見受けられるとされている。しかしながら、川崎(2016)が提案したモデルはすべてのオノマトペに適用できるかどうかは検証されておらず、また、方言をめぐる語形成パターンは共通語にも見られるかという疑問も残されている。

以上でオノマトペの形態分類にかかわる7本の研究論文を見てきた。オノマトペ形態の分類基準が研究者によって大きく異なり、分類枠組みに関しても様々なズレが存在することが確認できた。オノマトペ形態は4種から48種まで開きが大きく、角岡(2007)で示された頻度順位と大坪(1989)で示された頻度順位も異なっている。角岡(2007)では「完全反復」が一番多く出現しているとされているが、大坪(1989)の分類では二番目となった。以上をまとめると、オノマトペの形態上の特徴を明らかにするため、多くの研究で触れられてきたオノマトペの語基とオノマトペ標識の分類を改めて整理する必要性が示された。また、多くの研究が明らかにしようとしている各分類の出現頻度順位についても、いままではタイプ数のみに注目しており、それぞれの語の出現頻度、つまり実際のトークン数は考慮されていない。同じ種類の語であっても、現代日本語の中で高頻度に使用されるものとほとんど使用されないものを同等に扱うことは、教育的観点から見れば必ずしも適切であるとは言えないだろう。

3.1.2.2 オノマトペ標識に関するもの

日本語学習者にとってオノマトペの難しさの1つは、学習者の持つ一般的な日本語知識からは、個々のオノマトペの意味が想像できず、また、暗記しようとしても、記憶の際の

手掛かりがほとんど存在しないということである。ただし、この点については、複数のオノマトペに共有されているオノマトペ標識を理解することで、意味がある程度類推できるようになるとする立場も存在する。たとえば、田守・スコウラップ（1999）は「オノマトペと考えられている語彙の形態と意味の関係は恣意的ではなく、何らかの形で相関している」と述べている。日向（1989）も「オノマトペには一般語とは違った感覚的な音の響きやイメージがあり、語の形態にもある程度の規則性があり、その感覚性を強めていることである。擬音語・擬態語は一般語が無契性であるのに対して有契性であることが大きな特徴である」と指摘している。この点をふまえ、玉村（1989）はオノマトペの指導に関して、「個々の語の微妙なニュアンスを教えることは必ずしも容易なことではないので、性急な指導を避け、語彙範疇（たとえば、果敢な態度であり、湯の沸騰さま、爽快感など）を指示することを第一義的に考えるべきであり、次いで、型の持つ一定の意義、たとえば、畳語形式の反復・継続性、末尾の促音節の一回性・急迫性などについて指導することが有効であると考え」と述べている。オノマトペの意味に関しては、多くの先行研究が様々なオノマトペに共有される形態的特徴と意味の関係に注目している。すでに述べたように、多くの先行研究は、形態的特徴として反復、促音、「り」、撥音と母音長音化といった要素を取り上げ、これらの要素をオノマトペ標識と呼んでいる。また、オノマトペ標識のそれぞれについて、その代表的な意味が記述されている。

天沼（1974）は「チラ」を例としてオノマトペ標識による語形と意味変化の関係を論じている。たとえば、「チラチラ」はごく一般的な表現であり、ある期間にわたって、不定な時間間隔をおいて、数回聞いたなどの場合に用い、「チラチラッ」は、短期間のうちに、いわば集中的に数回聞いたが、その後は一向に聞かなくなったようなことが想像される場合に用いると述べている。「チラリチラリ」は「チラチラ」とほぼ同じ意味であるが、その時間間隔はかなり長いとしている。また、「チラ」、「チラッ」、「チラリ」の3語の意味の違いや使い分けの基準についてはその説明が非常に難しいと述べている。

同様の研究として、金田一（1978）は「ころ」を例にとってオノマトペ標識の問題を論じている。金田一（1978）によれば、「ころっ」は転がりかけること、「ころん」は弾んで転がること、「ころり」は転がって止まること、「ころころ」は連続して転がること、「ころんころん」は弾みをもって勢いよく転がること、「ころりころり」は転がっては止まり、転がっては止まること、「ころりんこ」は、一度は転がりしたが、最後に安定して止まって、二度と転がりそうもないことを表すとしている。

また、議論の対象を具体的な語のレベルからオノマトペ標識のレベルに昇華させ、反復、促音、「り」、撥音、母音長音化といったオノマトペ標識の持つ意味特性を論じた研究もある。田守・スコウラップ（1999）は、反復は「音や動作の繰り返さないしは連続」を、文末促音は「瞬時性」「スピード感」「急な終わり方」を、語中促音は「強調」を、「り」は「ゆったりした感じ」ないしは「完了」を表すと述べている。また、語末に撥音を持つオノマトペは大半が擬音語で、「共鳴」を表し、「母音長音化」は自然界の物理的に長い音を描写するのに用いられると述べている。

一方、小野（2007）によれば、反復は音や動作・状況などが継続したり繰り返されたりしているということを、促音は音や動作・状況などがあるところで瞬間的な区切りがつくということを、「り」は音や動作・状況などがひとまとまりにしたということを、撥音は音や動作・状況などがとりあえず終わりはするが、その結果が残存したり、余韻が残るということを、母音長音化は音や動作・状況などがある程度続くということをそれぞれ表現しているとされる。

また、角岡（2007）では、反復は表現する動作や音が繰り返されていること、あるいは描写している様態の程度が大きいということを表しているとしている。これに対して、語末促音は表現している様態が短いこと、あるいは動作が急であることを表し、語中促音は強調を表していると主張している。また、「り」は主に動作が完了している状態あるいはある程度音が響いていることを、撥音は動作・様態が相対的に長く持続しているあるいは音声が反響していることを、母音長音化は描写している様態が時間的に長く持続していることあるいは強調として用いられることを表すと述べている。

さらに、浜野（2014）では、反復はものがぶつかるといった運動が実際に数回連続して行われたこと、運動する物体が複数分布していること、頻度が高いことを表すと述べている。また、語末促音は音や運動が急激で、唐突に終結、収束することを表し、「り」は運動がゆったりとあるいは静かに起こることを表すと述べている。次に、語末撥音は C(子音)V(母音)タイプと CVCV タイプに分けられ、前者は音や運動が余韻ないしは反動・跳ね返りを伴うことを、後者は余韻のある音、または、運動の力が余って、跳ね返りを伴うか、反動を感じるか、あるいは、それが可能な状態を表すとされている。それらに対して、語中促音と語中撥音は運動に強い力が加わっていること、あるいは、状況が著しいことを表すと主張している。母音長音化について、撥音の前では、語末の撥音であらわされる運動の反動が持続すること、促音の前では、接触があり、それから以前と同じ方向に運動が継

続することを表すと述べている。

しかしながら、何をもちてオノマトペ標識とするのか、また、それぞれのオノマトペ標識がどのような意味を持っているのかという点について先行研究の見解は必ずしも一致していない。現状は、それぞれの研究者が自身の判断で様々な意味を述べている段階であり、こうした枠組みをそのまま学習者に示すことは適切でないだろう。日本語教育の観点から見れば、実際の言語データを根拠としてオノマトペ標識の頻度を確認し、学ぶべきオノマトペ標識とその意味を精選していくことが有用であると言えるだろう。

3.1.3 オノマトペの統語的特徴を扱った研究

すでに述べたように、オノマトペは特有の音韻的・形態的特徴を持つが、加えて、統語的にも際立った特徴を持つ。オノマトペの統語的特徴の最たるものは様々な後接要素に従い、様々な機能として機能するという点である。たとえば、以下の例を見てみよう。

どきどきが止まらない。→名詞的用法

今の気分はどきどきだ。→形容動詞

どきどき興奮する。→副詞用法

どきどきしながら聞いていた。→動詞用法

上記で明らかのように、オノマトペは名詞、形容動詞、副詞、動詞などとして機能する。また、オノマトペがどの品詞として機能するかはオノマトペの直後の位置に出現する後接要素の内容によってある程度決定されると考えられる。この点をふまえ、多くの研究者がオノマトペの取りうる後接要素のパタン化、オノマトペがそれぞれの品詞となった場合の用法の解明を試みてきた。ここでは、(1) 後接要素の研究、(2) 副詞的用法の研究、(3) 動詞的用法の研究、の3つに分けて先行研究の概観を行っていく。

(1) 後接成分とその機能

オノマトペの直後の位置に出現する後接要素を対象とした研究としてここでは星野(1991)、加藤・坂口(1996)、三上(2003)の3つの研究を概観する。

星野(1991)は水谷静夫が著した構文解析の帰属に当てはめ、「リ」型の擬態語を「情況語」として捉え、「ト、ニ、φ」などの後続要素を分類した。

表 3-11 星野（1991）におけるオノマトペ後接成分分類

擬態語	情況化					修飾語 連用	連体		
	に	φ	と	とする	する		な	の	だ
がっかり					+				
うんざり					+				+
あっさり		+	+	+	+	+			
うっかり		+	+		+	+			
ずっしり			+	+		+			
たっぶり	+	+	+		+	+	+	+	+
ぴったり		+	+	+	+	+	+	+	+
ぐったり		+		+	+	+			
ずっしり			+	+		+			
さっぱり		+	+	+	+	+			+
ずばり		+	+			+			
ぐっしょり		+				+			

加藤・坂口（1996）は、星野（1991）が助詞の問題と品詞の問題を混同して議論することに問題があるとし、オノマトペの後接成分については下表のように階層分類を試みている。

表 3-12 加藤・坂口（1996）におけるオノマトペ後接成分分類

分類タイプ		後接成分									
	タイプ	オノマトペ	φ			ト			ニ		
			ダ	ス	用	ダ	ス	用	ダ	ス	用
A系											
	併用型	ツルツル ク シャクシャ ヌメヌメ	○	○	○	—	○	○	—	○	○

	形式動詞型	サラサラ ゴ ワゴワ	○	○	×	—	○	×	—	○	×	
	一般動詞型	ビリビリ ビ ッショリ	○	×	○	—	×	○	—	×	○	
	例外	程度 副詞	タップリ	○	○	○	—	○	○	—	×	×
		結果 副詞	カチカチ キ チキチ カラ カラ	○	×	×	—	×	×	—	○	○
B系	併用型	アッサリ イ ソイソ ウネ ウネ	×	○	○	—	○	○	—	×	×	
	形式動 詞型	擬情 語	アタフタ ク ラクラ ムッ	×	○	×	—	○	×	—	×	×
	一般動 詞型	擬音 語	カサカサ ガ ラリ ダラリ	×	×	○	—	×	○	—	×	×
	例外	副詞	ウッカリ	×	○	○	—	×	×	—	×	×

このように、オノマトペの後接要素が体系的に分類され、オノマトペと後接要素の組み合わせパターンが2段階で整理された。

しかしながら、上記で見たように、「ダ」はそもそも「ト」や「ニ」とは共起しないため、この分類枠組みを更に整理できると考えて、三上（2003）は上級日本語教材に見られるオノマトペの後接成分とその機能に基づき、以下のような7種類の再分類を行った。さらに、従来の研究の組み合わせパターンの有無だけでなく、三上（2003）は教材の客観的な調査により、どの組み合わせパターンがもっとも多く出現するのかという頻度調査も加えた。

表 3-13 三上（2003）におけるオノマトペの後接成分分類

資料	(と) V	～ (と)	～と/に V・な	～とし た・し	～ (と)	～ (の)	～だ・ 名詞・	合計
----	-----------	----------	-------------	------------	----------	----------	------------	----

		する	る	ている	A	N	他	
中級 J501	25	12	-	2	1	-	1	41
上級日本語	27	6	1	4	2	1	-	41
上級読解	42	14	2	5	-	1	1	65
日本への招待	25	5	2	4	-	6	4	46
トットちゃん	10	3	1	1	1	3	7	26
ネパール	12	4	2	1	-	1	3	23
合計	141	44	8	17	4	12	16	242
出現割合 (%)	58.3	18.2	3.3	7	1.6	5	6.6	100

上表で明らかなように、約 6 割のオノマトペは副詞として使用され、2 割は動詞として使われる。三上（2003）の頻度調査により、オノマトペは主として副詞と動詞に使われることが明らかになった。

以上で述べたように、オノマトペには様々な要素が後接し、かつ、そこには一定の計量パターンがあるように思われる。こうした後接要素により、オノマトペはある特定の品詞的位置づけが与えられる。また、すでに述べたように、オノマトペが取りうる品詞としては名詞、形容動詞、副詞、動詞の 4 種類があるわけであるが、三上（2003）の調査により、この中で特に重要になるのは副詞的用法と動詞的用法であることが明らかになった。以下各々について見ていこう。

(2) 副詞用法

オノマトペの副詞的用法として筧・田守（1993）は、オノマトペの副詞的用法が意味上 4 種類に大別されることを指摘している。

表 3-14 筧・田守（1993）のオノマトペ副詞機能分類

分類	定義	用例
様態副詞	動作にかかわる様々な様態、出来事の起こり方ないしはあり方を記述するもの。	さっと飛び出す パンパン叩く
結果副詞	作用ないしは動作によって状態変化がもたらさ	くたくたに疲れる

	れ, その結果変化した主体あるいは対象の状態を記述するもの。	ガリガリにやせこける
程度副詞	状態性の意味をもつ語にかかっているその程度を限定する副詞である, と一般に規定されている。	めっきり減った ちょっぴりある
頻度副詞	動きそのものの実現され方ではなく, 実現された事実の回数てきなあり方	チョイチョイ見上げる ドシドシ使う

以上でみてきたように, オノマトペの重要用法である副詞的用法については, 様態副詞, 結果副詞, 程度副詞, 頻度副詞の4つの用法が存在することが明らかになった。

(3) 動詞的用法

すでに述べたように, オノマトペは特定の後接要素を伴うことで様々な品詞の位置づけを与えられるわけであるが, そのうち量的にも意味的にも重要になるのは動詞用法である。多くの研究者がオノマトペの動詞用法を様々な観点で分類をしようとしている。筧・田守(1993)は語の形態からオノマトペ動詞を8種に分類している。姫野(2005)は動詞的用法として使用されるものの中に, 他のものと許容するものとしなないものが存在することを指摘している。また, 意味に基づく分類として西尾(1988)は4分類, 鷲見(1996)は11分類, 影山(2006)は7分類, 鈴木(2012)は6分類, 伊東(2015)11分類を提唱している。以下順に見ていくこととしよう。

まず, 語形態にかかわる研究として筧・田守(1993)は以下の8分類を示した。

表 3-15 筧・田守(1993)のオノマトペサ変動詞形態分類

(1) CVQ	はっとする, ほっとする, すっとする, かつとする
(2) CVN	しゃんとする, しんとする, つんとする, ばんとする
(3) 2モーラ反復形	ばたばたする, どきどきする, にやにやする, うきうきする
(4) (C) VQCVri	ぐったりする, さっぱりする, むつつりする, うっとりする
(5) (C) VN CVri	ぼんやりする, さっぱりする, むつつりする, うっとりする
(6) (C) VCVQ	にこっとする, すかっとする, きちっとする, うかっとする

(7) CVCVN	がらんとする, つるんとする, だらんとする, どろんとする
(8) 2 モーラの部分反復	うろちょろする, どぎまぎする, どたばたする, のらくらする

このように、オノマトペの動詞用法には様々な語形成のパターンが存在することが確認された。

ただし、ここで注目すべきはこうしたオノマトペの動詞用法の中には動詞としてのみ使用される場合と動詞用法以外を許容する場合が存在するという点である。この点に関して、姫野（2005）は以下の3分類を示している。

表 3-16 姫野（2005）の分類

大分類	下位分類	例
「する」を伴わない類	a.共起する動詞に制限のあるもの	ずらりと, ぶかぶか
	b.共起する動詞にあまり制限のないもの	どンドン, すっかり
「する」と他の動詞をともに伴う類		
「する」のみを伴う類	a.制限なし びっくり, がっかり	にっこり, うとうと
	b.制限あり	ほっそりしている, くりっとしている

上記に示されるように、オノマトペ動詞用法という場合、ここには上記のパターン2とパターン3の両方が含まれていることに注意する必要があるだろう。

次に、オノマトペの動詞用法を意味の観点から分類した6種類の研究について見ていく。

まず、1点目として西尾（1988）は天沼（1974）の『擬音語・擬態語辞典』と小田切編『日本の短編小説—昭和（下）』をデータとして、テンス・アスペクトの観点からスル型オノマトペ動詞を4つのグループに分類している。

表 3-17 西尾（1988）の分類：

分類	例
①「～している, した体言」で使われるもの（うらうら, がっしり）	うらうら, がっしり

②「する」のみで使われ、瞬間的な動きを表すもの（びくっ、はっ）	びくっ、はっ
③「する」とそれに対立する「している」の形を持ち、「している」形は変化の結果の継続を表すもの（ほっ、ぐったり）	ほっ、ぐったり
④「する」とそれに対立する「している」の形を持ち、「している」は動作の継続を表すもの（ぶるぶる、うろうろ）	ぶるぶる、うろうろ

語形の点で言えば、上記の4グループ以外に明言されていない形式（下表）もあり、どの形式まで許容するのかについては必ずしも明らかではない。以下は筆者によるようやくである。

表 3-18 西尾（1988）におけるスル型オノマトペ動詞のタイプ分類（筆者による要約）

グループ	する	する体言	した体言	している	している体言
①	?	?	○	○	?
②	○	×	×	×	?
③④	○	?	?	○	?

2点目として鷺見（1996）は上記の問題をふまえ、(1) 状態動詞／動作性動詞、(2) 継続動詞／変化動詞／瞬間動詞、(3) 性質表現化する動詞／しない動詞、という3つの枠組みから西尾（1988）の分類を細分化し、11グループの分類を提案している。このうち、非動作性状態動詞とは、ル形で現在を表し、テイル形を持たない（ある、価する）もの、動作性状態動詞とは、ル形で現在を表し、テイル形を持つ（似合う、聞こえる）もの、動作性（非状態）動詞とはル形で現在を表わさず、テイル形を持つ（笑う、終わる）もの、動作性形容詞的状态動詞とは、テイル形が一般的で、ル形は必ず条件句を伴う（太る、あかぬける）もの、形容詞的状态動詞とは、テイル形（連体用法:タ形）のみで使われ、ル形を持たない（すぐれる、ありふれる）ものである。

次に、継続動詞とは、動きの進行を表す「長い間-ル」「-始める」「-続ける」「-ながら」(遊ぶ、読む)もの、変化動詞とは時間の経過を伴う変化を表す「だんだん-テクル」(やせる、腹が立つ)もの、瞬間動詞とは、瞬間的な変化を表す「-タ瞬間」「-たまま」

(止まる, 見つめる) ものである。

最後に, 性質表現化する動詞 (性質表現化動詞) とは, 主体の特徴を表現する語として使うことができ, 「～は-テイル」と「～は -タ人だ」を同じ状況で使うことができる (ふける, ばかげる) のものであり, 性質表現化しない動詞 (非性質表現化動詞) とは主体の特徴を表現する語として使うことができなく, 「～は-テイル」と「～は-タ人だ」を同じ状況で使うこともできない (働く, すわる) ものである。

表 3-19 鷲見 (1996) の分類

分類	例	解説
動作性状態・変化・非性質表現化	いらいら, うずうず	ル形で現在時を表しテイル形を持つ
動作性・継続・非性質表現化	うろうろ, ごろごろ	①ル形で未来を表しテイル形を持つ
	いじいじ, いそいそ	②「よく～ル」形いえるが, 現在時と未来を泡ラスことなく, 時を表す表現と共起しない
動作性・継続・性質表現化	のんびり, ふらふら	未来を表すことができる
動作性・変化・非性質表現化	あっふあっふ, はーはー	①ル形を持ち, 条件句を必要としないから動作性動詞
	うんざり, がつがつ	②ル形を持ち継続時間を持つ
	さっぱり, すーっと	③A グループは, 感覚・心理変化を表す。タで発話時の心的状態を表す
	がやぎゃ, ざわざわ	③B グループは, 主体が複数で, 場面や場所を指している
	うっとり, がっかり	③C グループは, 「～タ瞬間」「～タまま」と言える瞬間動詞的な変化動詞である。
動作性・変化・性質表現化	だらっと, つんつん	変化動詞で, 「～タまま」といえる瞬間動詞である
動作性・瞬間・非性質表現化	あんぐり, かつと	瞬間的な心理的感覚的動きで, テイルになりにくい。

動作性形容詞的状態・変化・非性質表現化	ぴんぴん, よぼよぼ	変化動詞, テイルといえない, 形容詞的性格化
動作性形容詞的状態・変化・性質表現化	むっとり, がさがさ	①「いつも～テイル」といえる
	がしっと, がっしり	②「いつも～テイル」といえない, 「体格の変化」を表す
形容詞的状態・非性質表現化	うじゃうじゃ, うようよ	テイルのみ使われ, 性質表現することがない
形容詞的状態・性質表現化	あっさり, きっちり	テイル形のみ使われ, 性質表現化する
その他	あーん, うっかり	上記の 10 グループに属さないもの

鷲見 (1996) の分類はきわめて網羅的なものであるが, 「その他」に分類される語の性質がはっきりしないとといった制約も残されている。

3 点目として影山 (2006) は語彙概念構造 (LCS) の観点から擬態語動詞を 7 タイプに整理している。

表 3-20 影山 (2006) の分類

	分類	解説	例
A ガ格主語が「外項」の位置にある (非能格動詞・他動詞)	Type1	主語が意図的に活動する。	一家の主は毎日, あくせくする。
	Type2	主語が対象に働きかけを行う。	母親が赤ちゃんの背中をトントンする。
	Type3	主語が場所を意図的に移動する。	旅行者が観光地をうろうろする。
	Type4	主語が心理的状态の変化を被る。	私は試験の結果にがっかりした。
B ガ格主語が「内項」の位置にある (非対格動詞)	Type5	話者が身体部分の以上な動きを感じる。	頭がずきずきする。
	Type6	人が物体の異常な動きを感じる。	椅子がグラグラする。
	Type7	物体が何らかの性質を持っている。	スープの味があっさりしている。

		る。	
--	--	----	--

影山（2006）は文構造の観点からオノマトペが文脈の中で働く役割とその意味ニュアンスを明らかにしたが、どのタイプが優先的であるかは必ずしも示されていない。

4点目として鈴木（2012）は、日本語オノマトペを「スル／シテイル／ダ」という3つの形式から6種類に分類している。

表 3-21 鈴木（2012）の分類

分類	テンス・アスペクト	解説	例
A	スル	非状態，継続解釈不可，変化性なし	いらっ
B	スル／シテイル	a 非状態，継続解釈か，変化性なし	うろうろ
		b 非状態，変化性あり，非心理	はっきり
C	シテイル	状態，直接感覚以外，程度性あり	あっさり
D	ダ	状態，直接感覚以外，程度性なし	かんかん
E	シテイル／ダ	状態，直接感覚以外，程度性無指定	びかびか
F	スル／シテイル／ダ	a 状態，直接感覚	ごわごわ
		b 非状態，変化性あり，心理	がっかり

上記の分類の基準は以下のように図式化できる。

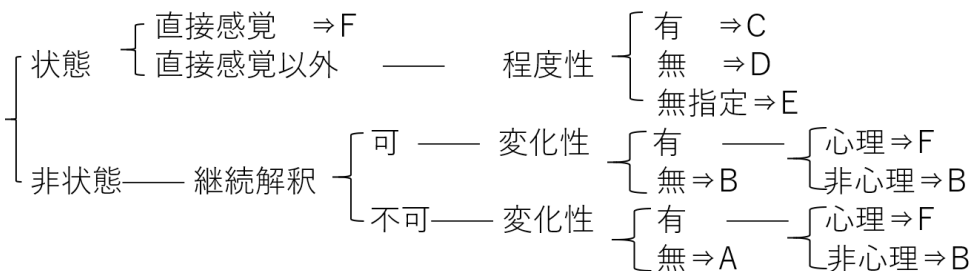


図 3-3 鈴木（2012）の分類体系

オノマトペ述語の形式が上記の6つの基準によって体系的にまとめられることが示されている。まず、アスペクトの要因が大きくかかわっており、状態性の有無によって2つ分

かれる。次に、継続性・直接感覚含意の有無によってさらに分類される。そのうえで、程度性、心理性、変化性といった性質によって、オノマトペ述語の形式を説明することができる。しかしながら、上図に示されるように、FやBは複数のグループに同時に分類されており、分類の更なる精緻化の可能性が残されている。

最後に5点目として伊東（2015）は、『現代日本語書き言葉コーパス』をデータとしてスルと結びつきやすいオノマトペの特定を行った。その結果をまとめると、以下の表となる。

表 3-22 伊東（2015）の分類

条件	下位分類	例
感情・感覚表現	①感情・感覚表現（継続性があるもの）	いらいら，わくわく
	②感情・感覚表現（変化結果の継続性があるもの）	びっくり，がっかり
	③感情・感覚表現（継続性がないもの）	いらっ，むかつ
動き・状態	④動作性が高いもの（意志性があるもの）	ぶらぶら，うろうろ
	⑤動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）	おろおろ，きよろきよろ
	⑥動作性が中程度のもの（継続性があるもの）	にこにこ，ぎくしゃく
	⑦動作性が低いもの（意志性があるもの）	ごろごろ，のんびり
	⑧動作性が低いもの（意志性がないもの）	めそめそ，だらだら
「させる」と結びつくもの	⑨「させる」と結びつくもの（再帰用法）	ばたばた，ひらひら
	⑩「させる」と結びつくもの（他動詞的な用法）	いらいら，どきどき
性質	⑪性質	さばさば，ねばねば

伊東（2015）は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）をデータとして、スルと結びつきやすいオノマトペには感情・感覚、動き・状態、使役、性質にかかわるものが多いとしている。しかしながら、なぜこれらと多く結びつくのか、また、これらのうち優先的な意味タイプにはどのようなものがあるのかといった点については明確になっていない。

オノマトペの動詞用法に関する7本の研究を見てきたが、ここで重要なことは研究者に

より、オノマトペの動詞用法の意味分類が様々に食い違っているということである。このことはオノマトペ動詞用法の多様性を示すと同時に、その用法が必ずしも明確に区分できないことを示唆していると言えるだろう。

以上、オノマトペの統語的特徴について、後接要素の研究、副詞的用法の研究、動詞的用法の研究、の3つに分けて先行研究を概観した。しかしながら、オノマトペの取りうる後接要素のパタン化を試みた研究が多いが、後接要素の分類基準には助詞の問題と品詞の問題を混同して議論する問題があり、典型的な後接要素は何か、典型的な品詞は何か、不明な点が多い。また、オノマトペの持つ様々な用法の中で、最も重要な動詞用法に関して、典型的なスル型オノマトペ動詞にはどのようなものが多いかといった点について明確な立場が示されていないなど課題も多く残されている。

3.1.4 オノマトペの意味的特徴を扱った研究

オノマトペは感性や感覚に強く根付いたもので、(1) 1つの語が多くの意味を持ち、かつ、(2) 類義語がほかに多く存在する、という固有の特徴を持つ。まず、(1)の語義の多義性についていうと、たとえば、「ぐっと」という語の意味は辞書によって7つも記載されている。次に、(2)の類義性についていうと、たとえば、「だんだん」というオノマトペは「おいおい」という類義オノマトペを持つだけでなく、「徐々に」や「次第に」という一般類義語も持っている。こうしたオノマトペを指導していく場合、オノマトペの多義性と類義性は指導の難度を高める。というのも、オノマトペに限らず、多義語や類義語の習得は一般的に難しいものとされているからである。

以上をふまえ、本論文では、まず言語学的関心に基づくものとして、(1) 個別の多義語を取り上げた研究、(2) 個別の類義語を取り上げた比較研究を概観する。その後、日本語教育的関心に基づくものとして、(3) 多義語の習得や指導に関する研究、(4) 類義語の習得や指導に関する研究を順に概観していく。このうち、(2)について、本論文ではさらに、

(2-1) 一般類義語を扱った研究、(2-2) オノマトペと一般語彙の比較を扱った研究、(2-3) 類義オノマトペ同士の比較を扱った研究の3種類に分け、(4)について、一般多義語を扱った研究と多義オノマトペを扱った研究の2種類に分けて概観していく。また、(3)と(4)について、オノマトペの多義性や類義性を直接の研究課題としたものはほとんど存在しないことから、本論文ではオノマトペにかかわらず多義語や類義語全般を調査対象とした研究を紹介することとする。

まず、(1) について、多義語を扱った研究は、すでに述べたように、一般多義語を取り上げた研究と多義オノマトペを取り上げた研究に分けられる。ここでは前者として、国広 (1986)、李 (2018)、有菌 (2017)、今井 (2016) を紹介し、後者として、陳 (2015)、呂 (2003)、三上 (2007b) を紹介する。

多義語の定義について、国広 (1986) では、多義語とは「意味的に関連付けられる二つ以上の意味を持つ語」としている。さらに、語義研究の問題点として、多義語をめぐる問題を第一に挙げている。このことは、多義語問題の重要さと難しさを示唆している。

李 (2018) は、メタファーとメトニミーの観点から動詞「おさえる」の持つ 7 個の語義の語義間の関係性を下図のように図式化している。実線は「メタファー」を表し、点線は「メタファー+メトニミー」を表している。図上の 1 は「人が身体・生き物・もの（のある部分）に力や重みを加えて元の場所・状態から動かない・離れないようにする」という意味を、2 は「人が身体部分に対して手やものを覆うようにあてる」という意味を、3 は「人や組織が相手の行為・活動の実現を何らかの方法でおしとどめる」という意味を、4 は「人や組織がある物事の状態に対しある限度を超えないようにする」という意味を、5 は「人が自分の欲望や感情の高ぶりを何らかの方法でおしとどめる」という意味を、6 は「人や組織が他の人・組織・もの・場所に対して支配下におかれたものとして確保する」という意味、7 は「人がある事柄に対して重要な点を理解・把握する」という意味を表している。

「おさえる」の多義構造

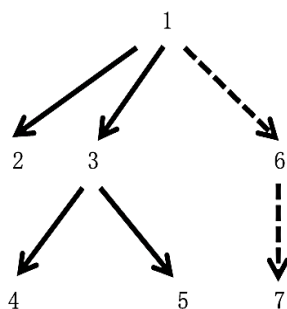


図 3-4 「おさえる」の意味ネットワーク (李, 2018 より引用)

同じ認知言語学の観点から多義語問題を扱った研究として有菌 (2017) は、メタファーとメトニミーの観点から動詞「持つ」の持つ 12 個の語義の語義間の関係性を明らかにし

た。破線は「メタファー」、二重実線は「メトニミー」、細かい実線は「シネクドキー」を表している。

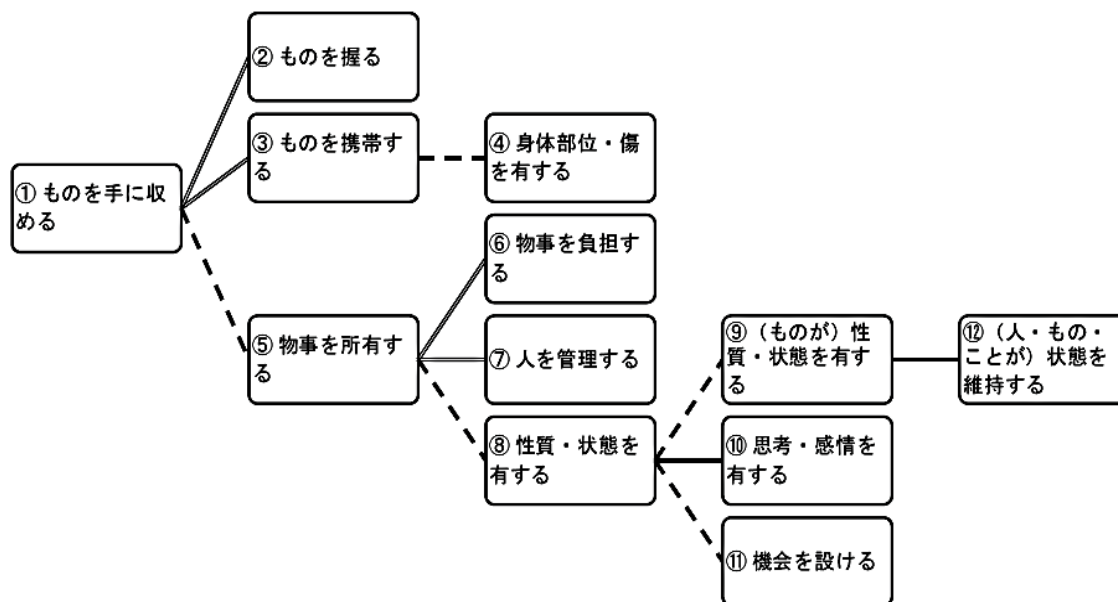


図 3-5 「持つ」の意味ネットワーク (有菌, 2017 より引用)

上記の 2 つの研究はいずれも認知言語学の観点から多義語の語義間の関係性を明らかにしようとした研究である。また、認知言語学の研究方法とは別に、コーパス言語学の観点から多義語の問題を扱った研究もある。今井 (2016) はコーパス調査をふまえた多変量解析法の 1 つであるクラスター分析を用いて多義語の語義分類の可能性を検討した。具体的に、多義語「切る」を分析対象として、『筑波ウェブコーパス』からヲ格を持つ共起名詞 (頻度 50 以上のもの) をケースに、語彙分類表の分類を変数にしてクラスター分析を行った。その結果、「口火を切る、火蓋を切る」のような慣用表現で比喻性の高いものがクラスター化に影響を及ぼし、名詞の意味から完全なクラスター化することはできないということを明らかにした。このように一般多義語の場合は、認知言語学の観点からなされた研究とコーパス言語学の観点からなされた研究の 2 種類に分けることができる。

多義オノマトペについて、陳 (2015) はオノマトペ「しっとり」の様々な語義間の相互関係と語義別の定着度を考察し、以下の意味ネットワークを明示した。

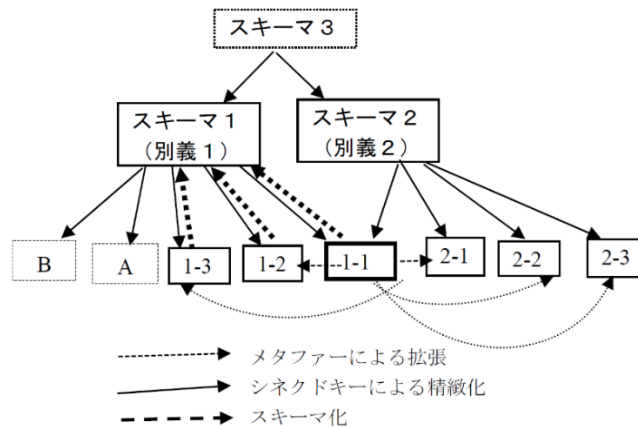


図 3-6 「しっとり」の意味ネットワーク(陳, 2015 より引用)

図上の数字化された意味の詳細は以下のとおりである。

別義 1 <対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-1 <対象に水分があると触感で感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-2 <色に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 1-3 <音声に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

事例 A <匂いに潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

事例 B <味に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2 <対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2-1 <人間の全体像に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>
>

別義 2-2 <物理的空間に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

別義 2-3 <人の営みによって作られたものに潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>

陳 (2015) では、別義 1-1 がプロトタイプの意味であり、最も容易に喚起され、定着度が最も高いとしている。また、スキーマ 1 (別義 1 <対象に潤いがあると五感で感じられ好ましく捉えられるさま>) とスキーマ 2 (別義 2 <対象に潤い及び落ち着きがあると感じられ好ましく捉えられるさま>) の間に、スキーマ 3 <対象に潤いがあると感じられ好ましく捉えられるさま> が抽出され、スキーマ 3 の定着度が最も低いとしている。

呂 (2003) は心理学・認知言語学では経験基盤の立場に基づく理想認知モデル (Idealized Cognitive Model, ICM) をふまえ、「ころころ／ころっ」及び「ごろごろ／ごろっ」を例に

とって、オノマトペ比喻の理解プロセス及びオノマトペの多義性を支えるスキーマを明らかにした。合わせて、「ころころ／ころっ」及び「ごろごろ／ごろっ」の中国語訳としての「滚滚 (gun gun)」や英語訳としての動詞“roll”との比較を通してオノマトペの理解プロセスの普遍性と差異を考察した。結果は下表のとおりである。

表 3-23 日本語・中国語・英語の「転がる」にかかわるオノマトペ意味分布

	日本語	中国語	英語
語彙	ころころ／ごろごろ	滚滚 (gun gun)	roll (動詞)
前提条件 の制約	固形物体, 大きさに区 別あり	固形物体／流動体, 大きさに 区別なし	固形物体／流動体, 大きさに区別なし
聴覚	雷, 車輪, 蛙, 笑い声	無し	雷
視覚	形状表現あり 回転 固形物体の回転移動 変化のメタファー 複数／多数	形状表現あり 回転 固形物体／流動体の回転移 動 変化のメタファー無し 数量表現なし	形状表現あり 回転 固形物体／流動体 の回転移動 変化のメタファー 数量表現なし
触覚	異物感	無し	無し
注		温度表現と共起する。色表現 とも共起するが「色」の意味 を強化するものではない。	

上表に示されるように、まず、上記の4語はともに具体的な様態から抽象的な事態までを描写することができ、多くの感覚を表現することができるということが明らかになった。次に、中国語の「滚滚」と英語の“roll”との比較により、多義性に対してスキーマ分析手法の有効性が示された。最後に、同じスキーマから発生した多義性には普遍的な部分もある一方、どの方向へ意味拡張するかは文化によって異なることが明らかになった。

三上 (2007b) はオノマトペの意味拡張モデルを「痕跡的認知」と「予期的認知」に分けている。「痕跡的認知」とは、国広 (2005) によれば、人間が物の形や位置関係を実際には起こらなかった変化の結果として認知することである。例として、「ごろごろ」「ばらばら」

「ぶくぶく」「がりがり」などがある。「予期的認知」とは、未来に起こることを予期して表現したものである。例として、「かちかち」「つるつる」などが挙げられる。三上 (2007b) では、多義オノマトペの意味用法を説明する際に、「メタファー」や「メトニミー」からだけでは不十分で、過去に起きた事態を時間軸上で捉えた「痕跡的認知」と、これから起きる可能性のある事態を時間軸で捉えた「予期的認知」が働いている可能性を示している。ただし、これらの認知タイプが観察されたのは、形態が ABAB であるオノマトペのみで、他の形態についての考察の余地はまだ残されている。

以上の3つ研究はいずれも、認知言語学の観点から多義オノマトペの分析を行ったものである。一般多義語の場合は認知言語学とコーパス言語学の2つの観点も存在することをふまえば、コーパス言語学の理論に基づいて多義オノマトペを扱うことの有効性と可能性が示唆された。

次に、(2) について、個別類義語を取り出して使い分け指針を明らかにしようとする研究は、(2-1) 一般類義語の比較研究、(2-2) オノマトペと一般語彙の比較研究、(2-3) 類義オノマトペ同士の比較研究の3種類に分けられる。

まず、(2-1) として、越 (2013) は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』に含まれている文学ジャンルデータを利用して、「やっと」「ようやく」の文体の差、共起述語の差を明らかにした。2語の違いに関して、「やっと」はくだけた文章に使用され、主として具体的な人や物事の空間的な状況や人の行為を表すのに対し、「ようやく」は主として改まった文章に使われ、事態の時間の経過と順序を表すということが明らかになった。

李 (2010) は、認知言語学のプロフィールとベースという観点から、「たちまち」「あつという間に」「またたく間に」の3語の意味分析を行った。3語の類似点(同一ベース)は話し手がある事柄に対して短時間で成立・実現させることにあり、相違点(プロフィールの違い)は、「たちまち」は変化前(先行の事柄)の状況に、「あつという間に」は変化の結果(成立点)に、「またたく間に」は変化そのもの(過程)に注目しているということにあるとされている。

石川 (2014) は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、自作の新聞データ(2013年11月～2014年1月:63000件)、自作のツイッターデータ(3万語)を資料として、頻度調査、共起語調査、共起語ネットワーク分析、母語話者の内省判断の4つのアプローチから「辞書」と「辞典」の差異を明らかにした。その結果、「辞書」は総称性、「辞典」は個別性を持っていることが明らかになった。

以上で見てきたように、現代日本語において、類義語の問題は広く研究されており、類義語の重要性が示された。また、一般類義語の場合も一般多義語の場合も認知言語学の観点からのものとコーパス言語学の観点からものに分けられる。

(2-2) について、仁田(2002)、パリハワダナ(2008)、江(2013)の3つの研究を紹介する。3種はともにオノマトペ『だんだん』とその類義表現との比較を行った研究である。

まず、仁田(2002)は、『次第に、次第次第に、だんだん(と)、徐々に、おいおい(と／に)、漸次、など』は変化の進展性を表し、『いよいよ、ますます、どんどん、少しずつ、…』などは変化の程度性拡大に関わっている」と述べ、6種類の語を基本的に同義語であるととらえている。それらの意味は、「変化の進展性」という抽象的な形でまとめられており、類義語間の表記、意味、使用環境、使い分けについての言及が見られない。

次に、パリハワダナ(2008)は35冊の小説と4ヶ月分の読売新聞に出現した「だんだん」「次第に」「徐々に」を分析対象とし、頻度・意味傾向(漸次性の描写の仕方)・共起述語タイプ(意志性述語との馴染みややすさ)・文体特徴の4つの観点から、主要3語の使い分け指針の特定を試みた。その結果、「次第に」(390例)は時間と共に緩やかに拡大していく進行を表し、意志性述語と馴染みにくく、文語的な特徴を持つとされている。「だんだん」(251例)は段階ごとに少しずつ拡大していく進行を表し、意志性述語との馴染みややすさは3語の中で最も中間的であり、口語的な特徴を持つと指摘している。「徐々に」(205例)は時間的区分ごとに少しずつ量的に拡大していく進行を表し、意志性述語と馴染みやすく、文語的な特徴を持つとされている。

最後に、江(2013)は、8冊の小説から用例を集めて「だんだん」(237例)、「じょじょに」(215例)、「しだいに」(281例)、「ますます」(238例)、「どんどん」(248例)の5語の頻度や意味的ニュアンス、また、それぞれの共通点と相違点について比較を行った。相違点について、「どんどん」は、特に複数主体と量的変化事態と共起しやすく、「ますます」は、時間的限定性を持たない文で使用され、文末に状態性述語と共起可能であるとした。しかしながら、「だんだん」「じょじょに」「しだいに」の相違点についての言及は見られなかった。5語の共通点については、時間的限定性を持つ文に用いられること、変化性を持つ進展的な事態に多く用いられること、「ていく」「てくる」「ている」「つつある」のような変化の進展を表すアスペクト形式と共起しやすいこと、実現された事態を表すこと、単一の主体の場合が多いことを指摘している。

(2-3) について、郜楓(2006)は「しみり」「しみじみ」を対象に、2語と共起する

動詞の比較を行った。2語は「話す」「語る」のような発言動詞と共起する点で言い換えられるが、「しみじみ」は心理動詞と共起しやすく、「しんみり」は心理動詞の中で懐旧感や意図性にかかわるものと共起しにくい。「しんみり」は悲しい・寂しい気持ちによる静かでしめやかな雰囲気を表すことに独自性を持ち、「しみじみ」は感謝・感心する言葉と共起することに独自性を持つことが明らかになった。

以上言語学的関心に基づくものを概観してきた。先行研究において様々な多義語や類義語が分析事例として分析され、これらの語の持つ様々な意味はどのように整理できるのか、複数の類義語間の関係性は何であるのかといったことに注目している。また、多義語の場合も類義語の場合も、認知言語学の観点からものが主流であり、コーパス言語学の観点から、また、得られた頻度データを客観的な統計手法を使って分析する研究は未だに多くない。本論文ではオノマトペの多義性や類義性に注目するわけであるが、従来の内省や主観的な研究にあえて、大規模コーパス調査をふまえ、種々の仮説検定を行うのみならず、データ間の内部関係を統計手法により可視化するとともに、データに隠れているモデルの構築も行う。この点は従来の研究に比べ本論文の特徴であり独自性でもある。

(3) について、今井 (1993) の研究を紹介する。今井 (1993) は、外国語学習者の外国語にとって辞書の記述だけでは、多義語間の相互関係や全体構造を把握することができいと指摘している。また、外国語学習者が抱く多義語学習の問題点を探るために、まず、日本人大学生 45 名、アメリカ人大学生 68 名に高頻度語 “wear” を使った 17 文の慣用文と 13 文の非文、合計 30 文をカードで提示し意味分類をさせる実験 (カード分類) を行い、得られた頻度を基に類似性行列を作り非計量的多次元尺度解析分析を行った。次に、日本人大学生 44 名、アメリカ人大学生 54 名に、“wear” を使った 30 文を提示し、4 段階で受容できるかどうかの許容度を測った。その結果、母語話者の特徴は、(1) 意味クラスターの連鎖からなる整然とした内的構造を持っていること、(2) 用例が適切であるかどうかとは関係なく、意味・用例が慣用的である限り、語のもともとの字義どおりの意味も、比喩的・意味的に転用された意味も区別なく受容することである。これに対し、日本人英語学習者の特徴は、1) 大まかなレベルではクラスターの同定ができるが、クラスター内、クラスター間の構造に論理的なまとまりがなく、2) “wear” の意味として確信を持って受容するのは日本語の「着る」の意味範囲のみであり、受容評定は、「着る」に対応する用法からの距離で決まり、意味の慣用性とはほとんど関係がないということである。この問題について、今井 (1993) 「外国語教育の初めから、語の意味はカテゴリーとして理解されるべ

き」であるとし、また語の意味は常に「辞書の定義と等しいものではないこと、辞書の定義と等しくても母国語 X と外国語 Y のカテゴリーの範囲や内的構造が違うものであることを、例を用いて明らかにすべきである」と主張している。このように、学習者と母語話者間に多義語に対する受容度は異なっていることが明らかになった。

(4) について、中道 (1986)、三井 (2017)、坂口 (2014) を紹介する。

中道 (1986) の定義によれば、類義語とは、「構造的意味論の用語で言えば、二つの意味素の間で、多くの意義特徴が共通している」ということである。さらに、類義語の問題点について、次のように述べている。

類義語間の意味の異同について学習者にとって一番大きな問題となるのは、同じレベルの文体や同一の文脈の中でそれぞれの意味領域を分かち合い、厳密には類義的な語の一方と排他的な関係で用いられる可能性のある語である。

このように類義語、特に同じ文脈において使い分ける場合、学習者にとって特に問題になることが示唆された。

三井 (2017) では、日本語学習者が抱く類義語学習の問題点を探るために、日本の大学院に在籍している 11 名の学習者 (学習歴 4 年以上) を調査対象としてアンケート調査を行った。その結果、学習者が類義語を学ぶときに、「話すときや書くときにどれが適切なのかがわからない」(10 人)、「類義語間の違いがわからない」(6 人)、「母語の訳と意味や使用状況が異なる」(5 人) といった点について難しさを感じることを、その解決策として、辞書で調べる (7 人)、先生や友達に聞く (4 人)、インターネットで検索する (1 人) といった方法が効果的でないことが明らかになった。その後 11 名のうちの 2 名 (博士後期課程在籍) を調査対象としてフォローアップインタビュー調査を行い、いずれの学習者も類義語の使用についてどれを使うべきかを迷った経験があるということが明らかになった。このように、類義語の問題は初級学習者でなく、上級学習者にとっても難しいことが裏付けられた。

上記の研究に示されるように、学習者は類義語の使い分けについて様々な困難点を抱えているわけであるが、ではこうした学習者を対象に、日本語母語話者はどのような指導を行うべきであろうか。この点に関して、坂口 (2014) は、日本語教師養成講座の受講者 (15 名) が類義語分析において行う「言語特徴分析」を観察し、分析技術の熟達度の低い日本

語母語話者が類義語の弁別的特徴を説明する手続きを明らかにした。具体的に「しんけん／ねっしん、なでる／さする」を10分間で分析して記述するという課題を実施した。その結果、意味内容に焦点化する傾向があるが、説明が簡潔過ぎて意味がかえって分かりにくいこと、類義語の中心的で本質的な意味内容から乖離すること、同一観点からの対比によって類義語ペアの差異を説明する傾向がある。ただし、この方法は類語語の片方に有用で、もう片方の語の分析に適さないという問題もあることが明らかにされた。このように、類義語は、学習者のみならず、類義語の指導訓練を受けなかった母語話者にとっても困難なものであることが示唆された。

以上でオノマトペの意味用法に関する研究を見てきたが、ここで重要なことはオノマトペの意味用法を記述する際に、類義語間の関係と多義語語義間の関係を明らかにすべきということである。この点は、感性・感覚の言葉であるとされるオノマトペにとって特に重要である。その意味用法をどのように記述すれば学習者にとってわかりやすいかということは日本語学においても、日本語が教育学においても大変重要な意義を持つと同時に大きな課題でもある。

3.1.5 オノマトペの使用実態を扱った研究

以上ではオノマトペの音韻的・形態的・統語的・意味的特性を明らかにしようとする研究を概観してきた。オノマトペの持つ様々な言語特性の中で、もう1つ重要なのは、オノマトペが実際にどのように使われているかということである。オノマトペ使用特性を明らかにするために、発話場面や話者属性との関係についての調査が不可欠である。ここでは発話場面によるオノマトペ使用の違いを明らかにしたスコウラップ(1993)の研究及び、話者属性によるオノマトペ使用の違いを明らかにした赫(2017)と早川(2000)の研究を紹介する。

まず、スコウラップ(1993)は、日本語オノマトペがどのようなところで用いられるのか、あるいは用いられないのかを書き言葉と話し言葉別に考察した。まず、書き言葉として、(1)3冊の児童書から3000字ずつ、(2)3冊の中高生向けの小説から3000字ずつ、(2)3冊の一般的な小説から3000字ずつ、(3)3編の学術論文、(4)『毎日新聞』の1日分の記事全体、(5)スポーツ新聞三紙(『日刊スポーツ』『産経スポーツ』『スポーツニッポン』)の相撲と野球に関する記事1日分、(6)3編の漫画から3000字ずつ、を抽出して、書き言葉におけるオノマトペの使用状況を調査した。次に、話し言葉として、自然会話の

録音を書き起こした 1969 年～1974 年の雑誌『言語生活』の 29 対話を資料として話し言葉における使用状況を調査した。さらに、2 人の日本語母語話者に 29 対話の形式度 (formality) を 10 点満点で判定してもらい、オノマトペの使用量と形式度との関係を調べた。その結果は以下のとおりである。

表 3-24 書き言葉におけるオノマトペ

ジャンル	テキスト	千字当たり頻度	ジャンル	テキスト	千字当たり頻度
児童文学	テキスト 1	13.33	学術論文	テキスト 1	0
	テキスト 2	8		テキスト 2	0
	テキスト 3	18		テキスト 3	0
中高生向けの小説	テキスト 1	3	新聞	毎日新聞	0.33
	テキスト 2	1		相撲	3.55
	テキスト 3	2.67		野球	1.03
一般小説	テキスト 1	本文 2.33	漫画	テキスト 1	吹き出し 2.33
		対話 1.33			独立 18.97
	テキスト 2	本文 2.67		テキスト 2	吹き出し 1.33
		対話 1.33			独立 18.62
	テキスト 3	本文 0.67		テキスト 3	吹き出し 0.67
		対話 0.00			独立 8.71

表 3-25 話し言葉におけるオノマトペ

対話全体	2.09 (千字当たり頻度)
1-3.9 形式度	5.8 (1 対話あたり)
4-6.9 形式度	6.2 (1 対話あたり)
7-10 形式度	0.8 (1 対話あたり)

なぜこのような分布になるかに関して、スコウラップ (1993) はオノマトペの談話的特性を 4 点にまとめた。1 点目は、形式的な談話では、書き手も話し手も個人的な関わりを示唆するような語をできるだけ避け、オノマトペは出現しにくいという点である。したが

って、調査対象のうち、学術論文ではまったくオノマトペが使用されていない。2点目は、読者あるいは聞き手の注目を引くために、オノマトペが用いられやすいという点である。このため、子どもに強く訴えかける必要がある児童書、潜在的な読者に訴えかけ購入を促す必要があるスポーツ新聞においてオノマトペの出現頻度が高くなっている。後者についてはスポーツ新聞の中でも、特に見出し語にオノマトペが多いと述べられている。3点目は、オノマトペは意味が簡潔に濃縮された語で、その場にふさわしい表現を即座に提供してくれるという点である。4点目は、オノマトペは主として五感で感じ取れるような性質を表すのに用いられるので、より具体的なあるいは即物的な描写に出現しやすいという点である。これらの2つの点は児童文学やスポーツ新聞などでオノマトペが比較的多く出現することと関係しているであろう。

次に、オノマトペの使用が話者の性別や生年代に影響されるかどうかを考察した研究を2点紹介する。

まず、赫(2017)では、男性向けファッション誌・女性向けファッション誌におけるオノマトペ使用の特徴の違いを明らかにし、ファッション誌におけるオノマトペの使用は、ジェンダーに対するステレオタイプを反映しており、男性誌と女性誌でオノマトペ使用量に違いがあることが示された。使用するデータは2012年1月から12月に発行された女性ファッション誌、男性ファッション誌それぞれ5種60冊である。その結果、女性誌の方がオノマトペの使用が多く(2.23回>1.28回)、男性誌は「しっかり」「ほっこり」「くた」系を多用、女性誌は「きちん」系、「ふわ」系、「ゆる」系、「きら」系を多用することが明らかになった。

次に、早川(2000)では早川他(1999)で抽出された食感覚を表すオノマトペ53語(お茶の水女子大学調理学研究室員31人に食感覚を表現するオノマトペを思いつく限り挙げてもらった155語と辞書や文献に挙げられた186語から、重複を除いて192語を選び、さらに日本語として不自然なものや食べ物に関係のないものを除いた残りの152の中の類似用語をまとめ62語を得た。この62語に対して31人の専門家のうち15人以上食感覚を表現すると判断した53を選定した)に対して性別・年齢別に分類を行った。具体的な手法として、まず830人に「食べるときに生じる感覚を表現していますか」という問いにyes/noの2択で答えさせるアンケート調査を行い、次に、得られた結果に基づいてコホート分析(何かの条件や属性によって分類することである)を行いオノマトペの食感覚認知度を計算した。その結果、(1)性・年齢に共通した認知度の高いもの(こってり、こりこり、

さくさく), (2) 性別の傾向 (女性: しっとり, ぎとぎと), (3) 年齢別の傾向 (若年層: しゅわしゅわ, ぷるぷる), の3つの観点から, 53語を8つのグループに分類し, 性別と年齢によるオノマトペ使用に違いがあることを明らかにした。

以上で, オノマトペの使用量はテキストタイプやテキストの想定読者の性別・年齢などの要因によって大きく異なっていることが明らかになった。しかしながら, スコウラップ (1993)についていえば, もとのサンプルサイズが3000字で比較的短いこと, 赫 (2017)についていえば, 分析した雑誌の数量が60冊で限定されていること, さらに早川 (2000)についていえば, アンケート協力者が830人で多いものの, 調査の対象が食感覚を表すオノマトペに限定されていることなど, それぞれ制約も残されている。幅広いオノマトペについて, 大量のデータを使って使用特性を分析した研究は必ずしも多くない。

3.2 日本語教育学の観点からの研究

すでに述べたように, オノマトペは日本語の語彙の中で大きな役割を果たしており, 日本語学習者にとってもオノマトペ習得のニーズは高い。ただし, 日本語教育におけるオノマトペ指導を充実していくためには, (1) どのようなオノマトペを教えるべきか, (2) 従来の教材でオノマトペが十分に教えられるか, (3) 学習者がオノマトペをどのように使用しており, どのような問題を抱えているのか, の3点を明らかにすることが不可欠である。以下, これらに関する研究を順に見ていくこととする。

3.2.1 オノマトペ重要語彙の選定

すでに述べたように, 日本語研究においてオノマトペ指導を行う場合, 最も重要なことは, どのようなオノマトペを何語程度教えるべきなのかということである。この点を明らかにするために, 多くの研究者が様々オノマトペ重要語リストを開発してきた。以下は多くの先行研究から玉村 (1989), 坂口 (1995), 三上 (2007), 黄 (2011), 岡谷 (2015), 獅々見 (2016), 曹 (2016) を取り上げ, それぞれの研究で用いられた採録手法と最終的に選ばれた語数を筆者がまとめたものである。

表 3-26 オノマトペ重要語彙の選定に関する先行研究

研究	手法	語数
----	----	----

玉村 (1989)	国立国語研究所(1984)で示された『日本語教育のための基本語彙調査』から、25点以上のオノマトペ(同研究では「音象徴語」と呼称される)を最重要語18語、得点24点以下のオノマトペを重要語42語、合計60語を抽出した。同調査は、日本語教育・国語学・言語教育など専門家22人分の『分類語彙表』の約36,000項目の主観的・経験的判定法によるものであり、満点40点であった。	60
坂口 (1995)	小学校1年生から中学校3年生までの国語科教科書における使用頻度の高いものと使用レンジが広いもの、および4種の語彙調査資料において同類語の多いものを抽出した。	107
三上 (2007)	すでに出版されている8種の基本語彙文献のうち、3種以上の文献に選定されている87語を基本オノマトペの原案とした。そのうえで、初級後半から中級段階の指導・学習にとって真に基本的かつ必要な語であるかを検討するため、学習者にとって意味用法が限られておりかつ理解が難しいものを削除し、先行研究において2種以上に収録されているものまたは実際の生活で遭遇しやすいものを追加し、最終的に70語の基本語彙を選定した。	70
黄(2011)	三上を選定した70語の基本オノマトペのうち、BCCWJにおける頻度の低い3語を削除し、「する」との共起度の高い141語を加え、合計208語からなる日本語学習者が「日本語を読むため」に必要な基本オノマトペリストを作成した。	208
岡谷 (2015)	小学校1年から6年までの国語教科書5種ずつ、合計30冊を集め、6学年中3学年以上に出現するものを抽出し、さらに、この中から類義語のうちの低頻度語や低範囲語を削除し、初級から学習するオノマトペを提案した。	92
獅々見 (2016)	『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1・2』『BTSJによる日本語話し言葉コーパス—日本語会話1(初対面・友人、雑談・討論・誘い)』におけるオノマトペの出現頻度および458名の母語話者を対象とした聞き親密度、使用頻度親密度を根拠として主成分分析を行い、主成分得点が-1.5以上のものをオノマトペ基本語彙とした。	252

曹(2016)	「現代雑誌 200 万字言語調査」(2001 年度～2005 年度実施)と「BTSJ による日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声)2011 年版」における使用頻度, 旧日本語能力試験 JLPT での出現回数, 日本で出版された教科書と中国で出版された教科書における教科書出現数を調査し, これらを合成して得点が 3 以上のものを日本語教育で教えるべきオノマトペとした。	286
---------	---	-----

では, それぞれの研究において具体的にどのようなオノマトペが重要語とされたのだろうか。以下はその一覧である。

表 3-27 先行研究における重要オノマトペ

研究	重要語
玉 村 (1989)	ちようど, ゆっくり, きつと, はっきり, もつと, ずっと, ちよつと, びっくり, やつと, すっかり, ようやく, きちんと, しっかり, ぼんやり, ちゃんと, ちつとも, がっかり, にこにこ, ばらばら, あべこべ, そっくり, さっぱり, ぴったり, さっさと, どんどん, どつと, ずるずる, ぱつと, ふと, じつと, ふらふら, どきどき, ぐるつと, すらすら, つい, でこぼこ, ずらり, そろそろ, うんと, たっぷり, ぎっくり, ざつと, うっかり, はつと, ぎょつと, ぐっすり, すっきり, ほつと, いらいら, きっぱり, ぺらぺら, こっそり, まごまご, ぐずぐず, ぴかぴか, きらきら, そつと, あっさり, アハハ, ハハハ
坂 口 (1995)	びっくり, ぴったり, たっぷり, すっかり, じつ, ほつ, ちゃん, ゆっくり, しっかり, もつ, さっぱり, もわん, そろそろ, きちん, ずつ, どんどん, いらいら, だんだん, はっきり, きつ, さつ, うん, ぐつ, ざつ, うっかり, そつ, とうとう, やつ, そっくり, もりもり, にこにこ, どつ, はつ, きらきら, ぴかぴか, ひょい, ぐんぐん, ぴん, がっしり, がたがた, ぐるり, ぽつん, ふわふわ, どん, にやにや, かつ, ゆうゆう, ぐずぐず, ころころ, どきつ, ぎらぎら, さらさら, ぱっちり, ぼかぼか, じつとり, ばしゃばしゃ, ぴょん, ぶつぶつ, どうかどか, ばたり, にこつ, うつとり, くりくり, じりじり, すらり, びしょびしょ, ふうつ, ふさふさ, ふわり, ぽつり, ずんずん, おいおい,

	<p>おどおど, そわそわ, はたり, はらはら, ふにゃふにゃ, ぼうっ, ぽんぽん, くんくん, ふっ, いそいそ, ごしごし, しーん, しんしん, しげしげ, じたばた, せかせか, ぜいぜい, まじまじ, すっく, どっさり, うんざり, かつか, ぎっちり, くつきり, こんこん, じっくり, すってんころりん, とっくり, ほっそり, わっと, ずうっ, ぼんやり, にっこり, すっかり, ほっ</p>
三 上 (2007)	<p>あっさり, いらいら, うっかり, うろうろ, うんざり, がたがた, がっかり, がやがや, からから, がんがん, きちんと, ぎっしり, きらきら, ぎりぎり, ぐっすり, ぐっと, くるくる, ぐるぐる, げらげら, こっそり, ごろごろ, ざあざあ, さっさと, さっと, ざっと, さっぱり, さらさら, しっかり, じっくり, じっと, じろじろ, すっかり, すつきり, すっと, すらすら, ずらり, そっくり, そっと, そろそろ, ぞろぞろ, たっぷり, ちゃんと, ときどき, どっと, どんどん, にこにこ, のろのろ, のんびり, ばたばた, はっきり, ぱったり, はっと, ぱっと, はらはら, ばらばら, ぴかぴか, びっくり, ぴったり, ふと, ふらふら, ぶらぶら, ぶるぶる, ペこペこ, ぺらぺら, ぼうっと, ほっと, ぼんやり, めちゃくちゃ, ゆっくり, わくわく</p>
黄 (2011)	<p>はっきり, しっかり, ちゃんと, ゆっくり, どんどん, じっと, すっかり, びっくり, きちん, ふと, そろそろ, そっと, たっぷり, ほっと, ぼんやり, そっくり, さっぱり, ぴったり, あっさり, ばらばら, ぎりぎり, すつきり, さっと, はっと, のんびり, じっくり, さっさ, めちゃくちゃ, ぱっと, こっそり, ぐっと, いらいら, うっかり, がっかり, きっちり, にこにこ, きっぱり, ふっと, にっこり, ときどき, ひっそり, うんざり, ぐるぐる, すっと, ぴんと, ずばり, ぼろぼろ, きらきら, ざっと, ごろごろ, さらさら, ふらふら, どっと, ぶつぶつ, うろうろ, ぶらぶら, くつきり, ぎゅうっ, ぞっと, くるくる, かつと, むっと, ぎよっ, にやにや, うっすら, うっとり, ばたばた, ぱったり, ぐったり, だらだら, がたがた, ずらり, せっせ, ぐずぐず, こっこつ, ずるずる, びっしり, わくわく, すっぽり, ちょっぴり, ちらちら, じわじわ, ぱりぱり, ふっくら, ぎっしり, しっとり, ぴかぴか, がっちり, ぽかん, じりじり, がっくり, しんと, ばらばら, ごちゃごちゃ, すんなり, とんとん, おずおず, ぐっすり, がっしり, のろのろ, つるつる, どろどろ, し</p>

	<p> っくり, ひらひら, ぶるぶる, ぐんぐん, はらはら, まじまじ, がんがん, て きばき, ぞろぞろ, からから, ぼっちり, ぼっかり, きよとん, がらがら, ぎ くしゃく, ころころ, べったり, ふわふわ, ぐんと, ひんやり, ぼんぼん, ご たごた, びくびく, うとうと, ゆらゆら, どっしり, ぺらぺら, きよろきよろ, ぞくぞく, こそこそ, どんと, きゅうっ, ひそひそ, そそくさ, もやもや, が らん, すーっ, べたべた, よろよろ, どんより, がらり, するする, おろおろ, ぎらぎら, さらり, ぱちぱち, じろじろ, ぴりぴり, やんわり, ほんのり, お っとり, くよくよ, すらすら, どっぷり, かちかち, がりがり, ごしごし, パ ンパン, めっきり, おどおど, そわそわ, ぐちゃぐちゃ, いそいそ, くしゃく しゃ, くたくた, ごつごつ, するり, ひよっこり, くらくら, のこのこ, もじ もじ, ぼつぼつ, ずたずた, わいわい, かりかり, くだくど, つんと, ばんば ん, ペこペこ, きびきび, ふんわり, ぐいぐい, こんもり, とつと, ふらり, ぼそぼそ, びっしょり, ざわざわ, ちらほら, ひたひた, ちよくちよく, つや つや, びくつと, ぴたっ, ぼろぼろ, かんかん, ずんずん, どっさり, ちやほ や, ぐらぐら, すべすべ, しょんぼり, ずんぐり, にんまり, ひくひく, ぼっ ちやり </p>
岡 谷 (2015)	<p> はっきり, しっかり, ずっ, ゆっくり, びっくり, じっ, すっかり, どんどん, きちん, そっ, とんとん, うん, ときどき, ちゃん, ぴったり, きらきら, に こにこ, ほっ, ふわふわ, わくわく, ぴかぴか, ぱっ, ぴよん, にっこり, ぼ んやり, ばたばた, はっ, ぐっ, こんこん, つるつる, どっさり, ぎゅっ, た っぷり, ぶるぶる, ぐんぐん, そろり, とことこ, がたがた, ぴん, ゆらゆら, うっとり, ぐるぐる, こっそり, さっ, そっくり, がっかり, くるくる, さっ ぱり, そろそろ, ひょい, ひらひら, わんわん, ぼうっ, ぐったり, うきうき, ころころ, じっくり, すいすい, ぞろぞろ, ぱちぱち, さっさ, ちょこん, ど っ, ざわざわ, しげしげ, ひよっ, がらがら, ごろごろ, しいん, せっせ, ど ん, のんびり, ふっ, ぼつん, ちらちら, つんつん, わいわい, わん, かんか ん, きっぱり, すべすべ, どきん, ぼん, きっ, ちょい, ちょっぴり, でこぼ こ, ばんばん, ひっそり, ぶつぶつ, ふらふら, ぶらぶら </p>
獅 々 見	<p> ずっ, ちゃん(確実), びっくり, ずーっ, そろそろ, ぎりぎり, どんどん(勢) </p>

(2016)	<p> いよく), はっきり, ちゃん (折り目正しい, 決まり), しっかり (堅実), ゆっくり, ちゃん (うまいぐあいに, まさしく), にこにこ, ほっ, のんびり, ぼっ, ぴったり, ぱっ, さっぱり (味覚爽やか), さっさ, きちん, そっく り (似ている), しっかり (真剣), だらだら, うっかり, いらいら, めちゃ くちゃ (筋道), しっかり (量十分), どきどき, ぼろぼろ, きっちり (曖昧 さなし), わくわく, すっきり, すっかり, さっぱり (全くだめ), ごしごし, ばらばら, そっこり, めちゃくちゃ (程度が甚だしい), ぼさぼさ, うろうろ, ぐっすり, たっぷり, すらすら, ちらっ, だろどろ, ぐちゃぐちゃ, めちゃめ ちゃ, ぺらぺら, からっ, べたべた, ぼりぼり, きっちり (端数なし), ぎゅ うぎゅう, ぶらぶら, じっ, ごちゃごちゃ (未整理未整頓), ぶかぶか, べ らべら, こってり, ぼちぼち, ぐるぐる, ふわふわ, がらっ, きよろきよろ, ぐるっ, ふらふら, うとうと, ちらちら, ちゃらちゃら, おっとり, じっ, き ちっ, ぱっちり, そわそわ, ぼんやり, ごろん, ゆったり, てっきり, こそこ そ, さっ, ざっ, ふらっ, びくっ, ぎっしり, じっく, ぶつぶつ, きらきら, ひよっ, くらくら, どんどん (たたく音), どん (重いもの), ごちゃごち ゃ (無秩序), きゃーきゃー, ずらっ, むっ (不機嫌), ちょこちょこ (少し ずつ), ずばっ, ぴりぴり, きっぱり, がりがり (痩せている), ぴかぴか, べったり, べろんべろん, しーん, ごたごた, ばたばた, ざらざら, ちょい, とんとん, わいわい, ばらばら (めくる), ちよくちよく, ふさふさ, しっく り, きゃー, がつがつ, ぐーん, もりもり, ちょこっ, がんがん (勢いよく), ははは, どさくさ, ちょこちょこ (何度も), すんなり, ぱったし, むっ (熱 気), ずばずば, ちやほや, ぶよぶよ, でこぼこ, ぴっかぴか, ぶすっ, はー っ, じゃらじゃら, すかっ, ぎゃー, しん, ざーっ (大雑把に行う), ばんば ん, こんこん, きゅっ, ちょこちょこっ (簡単にする), でれでれ, ぴんぴん, がーん (ショック), おどおど, あはは, がやがや, わーわー (騒ぎ声), す ばっ, ぐたぐた, ぽつん, ざーっ (電気機器の音), むんむん, にやっ, かつ かつ, ふー, わーわー (騒いでいる), ぼそっ, すーっ, がーん (ぶつかる), むかっ, ぼろっ, ほろっ, がたっ, ぴんぽん, ぐいぐい, ひしひし, ちまちま, がっちり, はー (息を吐く音), うかうか, ちゃらんぼらん, むしゃむしゃ, </p>
--------	---

	<p>どっしり, ぬくぬく, ざつくばらん, ぱちっ, ぱぼっ, べろん, ぼーっ (広がっている), ぱらぱら (集まりが悪い), みっちり, しっとり, ぴんぼーん, うようよ, むらっ, がちゃがちゃ, たじたじ, てくてく, かつっ, ぼん, ぼーん (激しくたたく音), ぼーっ (勢いよく), ぴっ, ぼろぼろ, がりがり (噛む音), がーっ (勢いよくする), がんがん (たたく音), ほんわか, ぽっくり, ずかずか, どっ, ぼーん, がばがば, ぽっきり, げっ, ばんばん, ぼーん (勢いよくする), かつちり, くるくる, ぴーぴー, じゃーん, きゅーん, がぼっ, どん (大量, 多額), うはうは, はー (息を吐く), がっ, うふふ, ぴー, ちゃきちゃき, どどっ, ぽん, ふんふん, ちょろっ, ぷつつ, すっぱり, ぼん, ふっ, ぼしぼし, ぞっこん, ひーっ, むつつり, がん, がーっ (衝撃音), ひー, ぐぐっ, ぴゅーん, ぴょーん, びんびん, ぶかぶか, ほいほい, ぼんぼん, わーっ, ちょびっ, しゃかしゃか, ぴこぴこ, ぱたぱた, きちきち, そっくり (そのまま)</p>
曹 (2016)	<p>どんどん, すらすら, ざらざら, ぎらぎら, するする, すっきり, ひっそり, さらっ, そろそろ, ぐるぐる, たじたじ, かりかり, つやつや, すっかり, うっとり, さくっ, ときどき, ぼかぼか, びしびし, ぐちゃぐちゃ, とんとん, ゆったり, しっくり, ちらっ, ぎりぎり, ごろごろ, ぴんぴん, ずばずば, ばんばん, さっぱり, がっしり, きりっ, いらいら, ちらちら, ぱりぱり, ぴしぴし, ひたひた, じっくり, きっぱり, ぴりっ, きらきら, ぶらぶら, さらさら, ぴりぴり, よちよち, そっくり, すっぱり, ぴたっ, わくわく, ペこペこ, めちゃめちゃ, ふかふか, かさかさ, あっさり, どっしり, しゃきっ, ぴかぴか, ぼんぼん, ちょちょこ, ぶよぶよ, きびきび, きっちり, きっかり, さらり, にこにこ, おどおど, にやにや, ぷりぷり, きゃあきゃあ, うっかり, どっぷり, ちらり, ふらふら, がりがり, どしどし, がさがさ, くねくね, がっかり, ぱっちり, ぼつり, だらだら, ぐずぐず, うきうき, かちかち, すいすい, くっきり, ぽっかり, ずらり, ぺらぺら, じりじり, ぐんぐん, ざわざわ, すくすく, ぐっすり, ぽっきり, ずぱり, くるくる, ぱらぱら, がらがら, せかせか, ひやひや, がっちり, こってり, がらり, ぱらぱら, ぶつぶつ, つるつる, ぬるぬる, まざまざ, びっしり, ぼったり, するり, ぼろぼろ, ばた</p>

ばた, ごつごつ, ひりひり, もこもこ, ぼっちり, ざっくり, ぴしゃり, がん
 がん, ぼそぼそ, ぱさぱさ, ぶるぶる, やすやす, こっそり, ずっしり, ぶら
 り, ごちゃごちゃ, だぶだぶ, ばたばた, むしゃむしゃ, しっかり, にっこり,
 ねっとり, ふわり, こつこつ, ぼつぼつ, ゆらゆら, めきめき, はっきり, お
 っとり, べったり, きちん, はらはら, くらくら, わいわい, くすくす, たっ
 ぷり, みっちり, ほっそり, しいん, うろうろ, ばんばん, ねちねち, ぶかぶ
 か, びっくり, ぐったり, ぎっしり, とろん, ずるずる, ぴいぴい, ぼさぼさ,
 じわじわ, ゆっくり, しっとり, ふわっ, どかん, ふわふわ, びくびく, すや
 すや, すべすべ, ぴったり, ちょっぴり, ぼうっ, ぼつん, のびのび, びりび
 り, ぶくぶく, ころころ, がちがち, どろどろ, ぼちぼち, くどくど, ぼさぼ
 さ, よろよろ, どっさり, すうっ, がちやがちや, ひしひし, まじまじ, ぐら
 ぐら, ばちばち, わさわさ, ぴっちり, すかっ, がばがば, ひよろひよろ, う
 とうと, こそこそ, べらべら, しくしく, むつつり, すぱっ, きよろきよろ,
 ぴょんぴょん, うようよ, ごたごた, ぼつぼつ, のろのろ, かちっ, どさっ,
 ごしごし, びんびん, かたかた, ことこと, ぼとぼと, ひらひら, がらっ, そ
 うっ, しゃかしゃか, ぶかぶか, がやがや, しょぼしょぼ, まごまご, ぼたぼ
 た, くすっ, ぺろり, ずかずか, べたべた, きりきり, ぞろぞろ, むかむか,
 わんわん, ぐらっ, がつん, そわそわ, へらへら, くだくだ, ちかちか, むし
 むし, かっちり, じわっ, どすん, ちょろちょろ, いそいそ, こりこり, のり
 のり, ほくほく, むくむく, どきっ, すらり, かくん, うはうは, ごわごわ,
 ぱりぱり, みすみす, よれよれ, どたっ, つるり, がたん, おろおろ, ぜえぜ
 え, びちびち, わあわあ, のっぺり, ぱらっ, どきり, ころん, がたがた, ち
 やぷちやぷ, ぶうぶう, しげしげ, ぼってり, ぱりっ, とろり, すとん, ぎゃ
 あぎゃあ, にたにた, ぶりぶり, じろじろ, ころっ, むすっ, ぱくり, ぽかん,
 すこん

ここで、注目すべきは、7つの研究において重要としているオノマトペの数も異なれば、
 具体的に指定している語彙も異なっているということである。以上の7つの研究で触れら
 れたオノマトペの延べ語数は全体で1052種となるが、以下はそのうち過半数の4種の研
 究で共通して触れられたもののリストである。なお、「ちゃんと」のように「と」を含んだ

形で提示しているリストもあるが、比較基準を統一するため、すべて「と」を除外した形で比較を行う。また、獅々見(2016)では多義オノマトペに対して語義を区別しているが、ほかの研究との比較を行うため、多義オノマトペの語義間の区別をせず、1つのオノマトペとみなす。

ゆっくり、はっきり、ずっ、びっくり、すっかり、きちん、しっかり、ぼんやり、ちゃん、がっかり、にこにこ、ばらばら、そっくり、さっぱり、ぴったり、さっさ、どんだん、どっ、ぱっ、じっ、ふらふら、どきどき、すらすら、ずらり、そろそろ、たっぷり、ざっ、うっかり、はっ、ぐっすり、すっきり、ほっ、いらいら、きっぱり、ぺらぺら、こっそり、ぐずぐず、ぴかぴか、きらきら、そっ、あっさり、さっ、ぐっ、ぐんぐん、がたがた、ぼつん、ふわふわ、ころころ、さらさら、ぶつぶつ、うっとり、おどおど、そわそわ、はらはら、ぼうっ、ふっ、ごしごし、どっさり、じっくり、にっこり、うろうろ、がんがん、ぎっしり、ぎりぎり、くるくる、ぐるぐる、ごろごろ、ぞろぞろ、のんびり、ばたばた、ぶらぶら、ぶるぶる、わくわく、ちらちら、とんとん、わいわい

上記に明らかなように、全体は1052種(異なり語数は515種)となるが、半分以上をカバーしているのは76種しかない。以上で見てきたように、先行研究で示されたオノマトペの種類数は、60種から286種程度であり、4倍以上の開きがある。日本語教育においてどの程度のオノマトペを指導するのが妥当であるかという点については共通理解はなされていない。先行研究の多くが母語話者の内省に基づいてなされていたことをふまえれば、今後の研究においては大規模な均衡コーパスを使用し、客観的な頻度を手掛かりとしてこれらの精選を目指すことが重要であると言えるだろう。

3.2.2 オノマトペ教材の収録調査

すでに述べたように、重要オノマトペというものははっきり定義されていない状況において、教材におけるオノマトペの扱いも不十分なものとどまっているのが現状である。このことについて、阿刀田・星野(1989)は、オノマトペは中級後半から上級レベルで指導されているが、カリキュラムに体系的に組み入れられていないと述べている。渡辺(1997)、三上(2007)もまた、オノマトペは初中級の段階においてその使用頻度と重要

性に見合うだけの十分な指導がなされていないことを指摘している。以下、オノマトペは日本語教材においてどのような位置づけを与えられているのかについて、3種の先行研究を見てみよう。

まず、坂口（1995）は小学校一年生から中学校三年生までの国語科教科書および9種の日本語教科書に含まれているオノマトペを調査した。その結果、国語科教科書には1432例（延べ用例数）があるものの、9種の日本語教科書には126例のみであったことが明らかになった。

次に、渡辺（1997）は手に入りやすく、日本語現場で多く用いられる初級テキスト12種と中級テキスト9種を対象に調査を行った。その結果、12種の初級テキストのうち、オノマトペについて一切説明がないものは7種あった。何らかの形で話題としているのは5種類あるものの、積極的にシラバスに選ばれたものは1種類のみであった。また、9種の中級テキストのうち、何らかの形で記述があるのは5種類あったが、積極的にシラバスに選ばれたものは3種類しかなかった。

最後に、坪根他（2001）は20名の日本語学習者の語彙学習に対する意識をアンケート調査で明らかにしたうえで、『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』（A）『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』（B）『日本語初歩』（C）『JAPANESE FOR BUSY PEOPLEⅠ～Ⅲ』（D）の4種の教材の券末語彙リストを利用し、カタカナ語、オノマトペ、敬語の出現状況の調査を行った。その結果、学習者は早い段階から少しずつオノマトペを覚えたいという希望があるにもかかわらず、4種の教材において玉村（1989）が選定した重要オノマトペ60語がほとんど含まれていなかったことが明らかになった。以下はその詳細である。

表 3-28 坪根他（2001）の教科書調査

	玉村（1989）		教科書			
	最重	重要	A	B	C	D
ちよっと	○		○	○	○	○
もっと	○		○	○	○	○
ちょうど	○		○	○		○
はっきり	○		○	○		○
ゆっくり	○		○	○	○	

がっかり	○		○			○
きちんと	○		○			○
ずっと	○		○	○		
ちっとも	○		○			○
ちゃんと	○		○			○
びっくり	○		○		○	
やっと	○		○		○	
きっと	○		○			
しっかり	○					
すっきり	○					
にこにこ	○					
ぼんやり	○					
ようやく	○					
うっかり		○			○	○
つい		○			○	
どンドン		○				○
ぴったり		○	○			
あっさり		○				
あべこべ		○				
アハハ		○				
いらいら		○				
うんと		○				
きっぱり		○				
きらきら		○				
ぎっくり		○				
ぎよっと		○				
ぐずぐず		○				
ぐっすり		○				
ぐるっと		○				

こっそり		○				
さっさと		○				
さっぱり		○				
ざっと		○				
じっと		○				
すっきり		○				
すらすら		○				
ずらり		○				
ずるずる		○				
そっくり		○				
そっと		○				
そろそろ		○				
たっぷり		○				
でこぼこ		○				
どきどき		○				
どっと		○				
はっと		○				
ハハハ		○				
ばらばら		○				
ぱっと		○				
ぴかぴか		○				
ふと		○				
ふらふら		○				
ぺらぺら		○				
ほっと		○				
まごまご		○				
だんだん			○	○		○
ニャーニャー				○		
のんびり						○

ブーブー					○	
モーモー					○	
ワンワン					○	
合計数	18	42	15	7	11	12

以上で見てきたように、様々な教材分析がなされているが、どの教材においても、オノマトペは必ずしも望ましい形で提示・指導されているとは言えない現状である。オノマトペの教材開発の重要性はここからわかる。

3.2.3 オノマトペ指導の実践報告

すでに述べたように、多くの日本語学習者が日本語オノマトペを難しく感じており、オノマトペを正しく理解使用できない。このことは、日本語オノマトペが日本語教育においてほとんど指導されておらず、適切な教材も存在しないことに起因すると思われる。このような現状をふまえ、オノマトペを積極的にカリキュラムに入れて授業を行う実践も行われるようになった。以下では、オノマトペに対して行うべき指導法を指摘した研究と実際の授業で実践した研究に分けて概観を行う。前者については、金（1989）、彭（2007）と、後者については星野（1989）、葛西（2007）、ハビーブ（2018）を紹介する。

まず、金（1989）は今後のオノマトペの指導の仕方について2つの方法を提案している。1つ目は、特別講座や選択科目を設けるという方法である。高学年の学生を対象に、(1) 擬音語・擬態語・擬情語に分けて講義し、意味を覚えさせ、(2) 文法上の具体的な使い方（副詞用法、動詞用法、連体修飾語用法など）も同時に教えるべきとしている。2つ目は、ゼミナールのような形で、ディスカッション、演習、実践を行うという方法である。具体的な方法はテーマを決めて学習者に討論させ、中日・日中翻訳をし、オノマトペを使う文と使わない文を比較して理解させる。また、同論文では授業を行うための前提として、学習者に何を教えるべきという重要語の選定と、ビデオや映画など日本文化を反映したオーセンティックな教材の導入を挙げている。このことは、オノマトペ指導を行おうとする際の課題を示している。

また、彭（2007）は自身のオノマトペ学習体験からオノマトペの指導法を以下のように提案している。

- (1) 意味上、類似するオノマトペ、意味的に近いオノマトペをセットで教えることが効

果的である。例：「ぺらぺら」と「すらすら」。

(2) 混同しやすいオノマトペをセットで教えることが効果的である。例：「げっそり」「ほっそり」

(3) 清濁の語をセットで教えることが効果的である。例：「たらたら」「だらだら」

(4) 中国語のオノマトペと異なる意味、あるいは中国語に当てはまらないオノマトペを重点的に教えることが重要である。例：「ふわふわとした新キャベツ」

(5) オノマトペと結びつくものと一緒に指導すべき。たとえば、「得ダネぎっしり」の場合「ぎっしり詰まっている」など、省略された「つまっている」も一緒に指導すべき。

(6) 使用頻度の高いオノマトペを指導すべき。「新婚ほやほや」「頭がかちかちだ」など実際に多く用いられる用例を優先的に指導すべき。

金(1989)はどのような形でオノマトペを教授すべきかに重点を置いているのに対して、彭(2007)はどのようなオノマトペを教授すべきかに重点を置いている。実際の日本語教育では、両者の観点をうまく組み合わせれば、オノマトペの指導効果も大きく変わるのであろう。しかしながら、両氏が指摘しているように、これらの指導方法に適応した日本語オノマトペに特化した適切な教科書は現状ではまだ存在しないという課題も残されている。

上記の2つの研究は望ましいオノマトペ指導法を指摘研究であるが、実際に授業を実践してどのような問題が存在するのかを試みた研究もある。星野(1989)では、国際交流基金「海外日本語講師長期研修会」において、6回合計12時間を使ってオノマトペ(同論文では「擬音語・擬態語」と呼ぶ)の授業を行った。授業は2回の講義と4回の発表からなる。第1回目の講義では、受講生に各自が考えているオノマトペについて述べさせ、受講生のオノマトペに対する知識の確認を狙った。第1回目の後半から2回目にわたって、用意したプリント資料を与え、解説を行い、オノマトペに対する理解の深まりを狙った。また、3回目からは受講生の個別発表に移り、発表に先立つ研修生は、(1)与えられた生の素材(安部公房『第四間氷期』の第1部)から自分が考えているオノマトペを抜き出し、(2)抜き出したオノマトペの掛かり先を見つけ、文の構造が判明したら、その語を用いて短文を作り、(3)抜き出したオノマトペの分類を試みるという3つの作業を行った。講義で使った資料は著者が独自に用例を集め、独自に分類を行ったものである。以下は同論文に記載したプリントの抜粋に基づいて筆者が表にまとめたものである。

表 3-29 講義の演習資料の抜粋

1. 擬音語	しゃんしゃんと虫もはたおりて星迎 Clap! Clap! go to looms, insects, you weave too, and welcome the stars.
2. 感覚に訴える語	a. 視覚を表す音象徴語 月ちらり, 鶯ちらり夜は明ぬ A glimpse of the Moon, a note from the Nightingale, and the nights over!
	b. 触覚を表す語 汗でべとべとになった受話器 the receiver, sticky with perspiration
3. 容態を表す語	ぎくしゃくした身のこなしで clumsily moving around
4. 動作主の態度を表す語	のこのこ散歩している brazenly walking across
5. 感情を表す語	じりじりしながら through growing impatience
6. 事物の状態を表す語	体は, ちょっとごつごつ, 骨張っていました。 she has an angular, bony body.

上表に示されるように、オノマトペは全体で 6 種類に分類され、用例は一茶俳句などの実在の資料から集められたもので、英語訳も一緒に提示されている。

授業の実践結果は 3 つにまとめられる。まず、作業 (1) では、受講者に各自が考えているオノマトペを抜き出させたところ、間違っ 10 種の語が挙げられ、10 種のうち 8 は 4 拍語であり、その中の 6 種は畳語であるということが明らかになった。このことは学習者が畳語とオノマトペの関係を十分に理解していないことを示している。次に、作業 (2) では、受講者に抜き出した語の掛かり先を見つけさせ、短文を作らせたところ、学習者にとって生の素材の理解や分析が難しく、辞書で意味を調べても正しい文が作れないということが明らかになった。このことは、学習者にとって真にわかりやすい教科書や辞書の必要性を示す。最後に、作業 (3) では、受講者にオノマトペを分類させたところ、「擬音語」「感覚に訴える語」は適切に仕分けられたが、「容態」「態度」「感情」「状態」の仕分けはほとんど出来ていなかったということが明らかになった。このことから、学習者にとっては音声や感覚といった具象的なオノマトペが理解しやすく、状態・様態・感情などの抽象的なオノマトペが理解しにくいということがわかった。

葛西 (2007) は 2005 から 2006 年にかけて (1) 8~28 名の初中級レベルの学習者からなる 4 つの短期研究クラス及び、(2) 拓殖大学日本語学校の長期クラスを対象にオノマト

ぺに特化した授業を行った。短期クラスでは、3時間、長期クラスでは、1年度全10回、週1回10～15分間の授業を設けた。使用する教材は、動物のイラスト、料理に関するイラストと日本テレビ「キューピー3分クッキング」のビデオの3種である。短期クラスでは以下のとおりである。

①動物のイラストを見せて、自国語で鳴き声を表現してから日本語を紹介する。

②味覚・料理に関するイラストと資料を配布して、イラストを使用しながら、意味と使用場面を説明する。

③学生にビデオを見せながら出てきたオノマトペを書き出させる。ビデオが終わった後、学習者同士で比較して意味を考えさせ、もう一度ビデオを見せる。ビデオが終わった後、場面ごとに表現を整理し、意味をクラス全体で確認して語彙の説明を行う。最後にスクリーンを配布して、もう一度ビデオを見る。

次に、長期クラスの授業の進め方は以下の通りである。

表 3-30 長期クラスにおける授業の概要

授業	内容	扱う項目
1回目	動物の鳴き声	動物のイラスト
2回目	泣く様子を表す表現	しくしく、おいおいなど
3回目	笑う様子を表す表現	にこにこ、くすくすなど
4回目	眠る様子・体の様子を表す表現	ぐうぐう、すやすやなど
5回目	人の気持ちを表す表現	いらいら、ふんぷんなど
6回目	人の様子を表す表現	うろうろ、ぐずぐずなど
7回目	人の様子を表す表現	おろおろ、もじもじなど
8回目	触感・光や音を表す表現	きらきら、ぴかぴかなど
9回目	味や料理に関する表現	あっさり、さっぱりなど
10回	料理番組の中の擬音語・擬態語	鶏肉のケチャップ炒め、豆腐のコロッケ

上記のように短期クラスと長期クラスという2種類のクラスを対象にオノマトペに特化した授業を行ったところ、短期クラスでは、初級レベルの学生にとって、オノマトペの理解が難しく、他の語彙や文法に関心が向いてしまう傾向が見受けられるということが明らか

かになった。このことから、レベルに応じた配布資料や説明の仕方が求められるということがわかった。長期クラスでは、料理が身近ではない学生には興味が持てず、オノマトペを自由に使用できるように力を身に着けさせるところまでは到達させられていないということが明らかになった。このことから、今後は学生が自分のものとして使用できることを目指し、実例教材の選定や具体的な説明を増やす授業案を練り直す必要があると考えられる。

ハビーブ (2018) は、エジプトのアインシャムス大学外国語学部日本語学科 2 年生 21 名を対象に、2018 年 4 月 11 日～24 日の期間で、写真や絵からオノマトペの意味やイメージを推測・感じ取らせる活動を取り入れた授業を実施した。授業は 120 分の授業 5 回、40 分の事後テスト 1 回、インタビュー 1 回からなる。使用する教材は、Facebook 投稿、新聞チラシ、マンガ、LINE チャットの 4 種である。5 回の授業の進め方・目標と使用した教材は以下の通りである。

表 3-31 授業の進め方

回数	目標	教材
1.オリエンテーション	オノマトペを正確に抜き出せる。	写真（飲食物など）7 点
	オノマトペの形・種類などが理解できる。	
	オノマトペの働き・役割が理解できる。	
2.Facebook 投稿	友達の FB 投稿を理解し、適切なコメントを書く。	奥村・釜淵 (2008)
	オノマトペの意味を推測し、投稿全体が理解できる。	
3.新聞チラシ	チラシに掲載された商品の情報が理解できる。	実際のチラシ 4 点
	オノマトペの意味を推測し、チラシ全体が理解できる。	
4.マンガ	マンガの読み方を知り、ストーリーの流れが把握できる。	小川 (2017)
	オノマトペの意味を推測し、漫画全体が理解できる。	
5.LINE チャット	スタンプの意味が理解できる。	LINE スタンプ
	オノマトペの意味を推測し、チャット全体が理解できる。	

上記の 5 回の授業を実施した後、(1) 学習者はオノマトペのイメージをつかむことや意味を推測することができるか、(2) 日常生活のリソースの文脈からイメージをつかむ活動

を取り入れた実習授業を学習者はどう受けとめるか、という2点をテストとインタビューで調査した。まず、教師に教えられなくても、学習者は文脈・写真・絵などを手がかりにオノマトペの意味を推測し、何らかのイメージを感じ取ることができていたということが明らかになったが、文脈が短い場合や、絵や写真がわかりにくい場合、誤った推測が多いことも明らかになった。次に、学習者は日常生活のリソースの文脈からイメージをつかむ活動を取り入れた実習授業について「楽しかった」「面白かった」と感じていることが明らかになった。

以上、オノマトペに対して行うべき指導法を指摘した研究と実際の授業で実践した研究に分けて概観を行った。どの研究も日本語教育においてオノマトペの扱いが不十分で、オノマトペを積極的に扱うべきと主張するもので、日本語教育の立場から見れば、オノマトペ教育を大きく進化させたものであると思われる。しかしながら、残された課題も少なくない。どの研究においても実物・真正性を重視する傾向が見受けられるが、どのようなオーセンティックな教材を使うべきか、その選択基準は何かについてはまだ一意に定まっておらず、試行錯誤の段階にとどまっている。また、学習者の習熟度レベルの差がオノマトペの受容に大きく影響していることが明らかになり、異なる習熟度の日本語学習者に異なる教科書や指導の進め方が求められると思われるが、これもまた教師にとって難しい課題である。このように、日本語教育では、オノマトペが本格的・全面的に指導されていない現状をふまえ、今後望ましいオノマトペの指導法が期待される。

3.2.4 学習者のオノマトペ使用実態の調査

ここまで見てきたように、日本語教育において、重要オノマトペというものは必ずしも見解が定まっておらず、また、教材においても、適正な指導がなされていない現状が浮かび上がってきた。この点をふまえると、学習者がオノマトペを自然な形で使用するのがきわめて困難であると思われる。事実、多くの研究者は日本語学習者のオノマトペ運用に様々な問題が存在することを指摘している。

まず、学習者とオノマトペの関係は従来から注目されている。たとえば、三上(2007b)は14名の上級・超上級の学習者を対象にオノマトペに対する意識を調査した。その結果、これらの学習者は、(1)オノマトペの存在は知っていること、(2)いくつのオノマトペが存在するかは知らないこと、(3)オノマトペ全般を難しく感じていること、(4)授業で習っていないこと、(5)表現の豊かさを獲得するためにオノマトペをもっと学びたい学習者

と、日常生活で多く使われるものだけを学びたい学習者に分かれることが明らかになった。このように、学習者のオノマトペに対する意識が明らかになった。

次に、鳥（2010）は絵描写課題を行い、中国人日本語学習者 8 名と日本語母語話者 8 名の語りを分析した。その結果、学習者は形容詞・形容動詞・感情動詞などの表現（悲しい、心配する）を好み、母語話者はオノマトペ（とぼとぼ歩いている）などの表現を好むことが明らかになった。絵描写課題のような描写力や表現力を要求する課題では、母語話者と学習者の違いがみられた。

盧（2007）では、『LARP at SCU コーパス』を用いて副詞の習得を調査した。具体的に 2003 年 9 月に東呉大学日本語文学科に入学した 37 名の学生のうちの 28 番が 2004 年 3 月から 2007 年 7 月までの 30 回の作文を調査対象とした。その結果、副詞の使用量は徐々に増加していくが、全体として使用量はまだ少なく、特に、オノマトペ（擬声語・擬態語）が作文にほとんど使われていないことがわかった。なぜオノマトペを使わないのかについて聞き取り調査を行ったところ、該当学生は授業で習ったが、テストに出てこなかったもので、正しく使えるかどうかは自信がないと述べた。

中石他（2011）は、オノマトペ知識アンケート、アニメーションを見せて思いついたオノマトペを書かせるタスク、オノマトペを用いた 1 文作文と個々のオノマトペが持つ意味の記述タスクを行った。その結果、中国人日本語学習者はアニメーションと作文課題で正答率が 30%弱と低くなり、39 語のうち平均既知率は 47.4%であることがわかった。また、中国人日本語学習者の誤用パターンは、似た音を持つ別の語彙からの誤った意味の類推（「わくわく」の意味を「沸く」の意味と誤解する）、似た音を持つほかのオノマトペの混同（「ぼかぼか」の意味で「ぷかぷか」を使用する）、有声音・無声音の混同（「ぷんぷん」と「ぶんぶん」を混同して使用する）の 3 つが存在することが示された。

さらに、中石（2014）では、中石他（2011）の産出実験で日本語母語話者の多くが産出した 18 語を基準語としたうえで、それぞれの基準語を表現するアニメーションと同時にそれぞれの基準語とそれぞれの基準語の一部の要素を変更した関連 4 語を、英語圏の高等教育機関で日本語を学んでいる学習者 23 名と日本語母語話者 17 名に提示し、11 段階で評定してもらう実験を行った。さらに、得られた結果に基づいて因子分析を行い、母語話者と学習者のオノマトペ受容の特徴を明らかにした。その結果、日本語母語話者は基準語を高く受容するが、それ以外の語はすべて低く受容する傾向があるのに対し、学習者は日本語母語話者にとっては非受容であった新奇語を受容する傾向があるということが明らか

になった。すなわち、学習者は音を頼りにしてオノマトペの意味を判断している傾向があり、その傾向は日本語レベルが高くなるにつれて少なくなるということが示唆された。提示場面と刺激語の認定基準は以下のとおりである。


Clip3	しくしく	しとすと	めそめそ	しきしき	かなかな
	5 (match)	5 (match)	5 (match)	5 (match)	5 (match)
	4	4	4	4	4
	3	3	3	3	3
	2	2	2	2	2
	1	1	1	1	1
	0 (neutral)	0 (neutral)	0 (neutral)	0 (neutral)	0 (neutral)
	-1	-1	-1	-1	-1
	-2	-2	-2	-2	-2
	-3	-3	-3	-3	-3
	-4	-4	-4	-4	-4
-5small(unmatch)	-5(unmatch)	-5 (unmatch)	-5 (unmatch)	-5 (unmatch)	

図 3-7 アニメーション評定課題の画面（基準語「しとすと」の場合）

5つの条件の刺激語
1. 基準語 (D1): NS による産出実験で多く産出されたもの (例: しくしく)
2. 新奇語 (D2): 基準語の母音だけを変化させ、音象徴を残しつつ音を変えたもの (例: しきしき)
3. 類義語 (D3): 基準語と意味が類似しているが、音が違う (ABAB の A が違う) もの (例: めそめそ)
4. 類音語 (D4): 基準語と音が類似している (ABAB の A が同じ) が、意味が違うもの (例: しとすと)
5. 既知語 (D5): 既存の動詞や形容詞、副詞を繰り返して作成した造語 (例: かなかな)

図 3-8 刺激語の認定基準

岩崎 (2008) では、KY コーパスをデータとして、英語を母語とする学習者 30 名と韓国語を母語とする学習者 30 名 (いずれも初級 5 名・中級 10 名・上級 10 名、超級 5 名) を調査対象とし、(1) どのレベルの話者が擬音語・擬態語を使うのか、(2) それぞれのレベルでは使用する具体的なオノマトペにはどのような傾向がみられるのか、(3) 韓国語を母語とする学習者と英語を母語とする学習者では、擬音語・擬態語の使用頻度や使い方に違いがあるのか、という 3 点を調査した。その結果、(1') 韓国語母語話者も英語母語話者も中級レベル以上の話者にオノマトペの使用がみられた。いずれの話者においても日本語能力の高い話者ほど使用者の割合が増える傾向がある。(2') 英語を母語とする中級話者の場合は創作的語「ドウドウドウ」や擬音語「ゲロゲロ」「びしと」を多用する傾向があり、韓国語を母語とする中級話者の場合は、「ぞくぞく」「めちゃくちゃ」「ずーと」などの擬態語を多用する傾向がある。(3') 英語話者 (異なり語数 44 語、述べ語数計 56 語) の方が韓国語話者 (異なり語数 28 語 延べ計 31 語) より使用量が多く、また、英語話者は副詞

用法を好むのに対し、韓国語話者は動詞用法を好むことが明らかになった。

最後に吉永（2017）では、中国人日本語学習者初級 23 名，中級 22 名，上級 29 名を対象に，(1) 文末「だ／する」を選択させる部分作文調査，(2) 指定された 8 語のオノマトペを使って 1 文を作成させる調査，(3) 適切なオノマトペを選択させる調査，(4) 日本語を中国語に翻訳させる調査を行い，中国人日本語学習者の日本語オノマトペの習得状況を調べた。その結果，(1) (2) (3) のいずれも誤用率が高く，オノマトペの品詞分類に関する知識がないことが明らかになった。(4) について，日本語では，多様なオノマトペを使い分けて細かなニュアンスの違いを表現するのに対し，中国語では，オノマトペに頼らず，動詞の結果補語などの他の品詞によって表現する傾向が強いことが明らかになった。

これらの先行研究は学習者のオノマトペに対する理解が不足していること，従来の指導が十分でないこと，また，母語話者と比べ，中国人日本語学習者のオノマトペ使用レベルが低いことを明らかにした。しかしながら，中国人日本語学習者が具体的にどのようなオノマトペ使用上の問題を持っているか，習熟度が異なれば，その傾向はどのように異なるかといった点は明らかにされていない。また，これらの研究は横断比較調査にとどまっており，学習段階の中で，学習者がオノマトペをどのように変化させていくのかを調査した研究はほとんど存在しない。

3.2.5 オノマトペの中日対照の比較研究

国際交流基金の 2018 年度の海外日本語教育機関調査結果によれば，世界中の日本語学習者の数は 3,846,773 人であり，そのうち中国人日本語学習者の数は 1,004,625 人で最も多い。世界の日本語学習者の中で圧倒的に人数が多い中国人日本語学習者を指導していく際に，中日両言語におけるオノマトペの相違を明らかにする必要がある。張（2010）によれば，中国語には日本語ほどオノマトペが多くなく，日本語オノマトペとは違い，中国語オノマトペは，(a) 普遍的な語が少ない（方言差・地域差が大きい），(b) 子供向けで，文化的教養が低い，と思われる傾向があり，使用は避けられているとされている。では，このような違いをふまえ，実際に日本語オノマトペはどのように中国語に翻訳されているのであろうか。オノマトペの中日対照研究は古くからなされており，膨大な蓄積がある。これらは中日オノマトペの全体の概観と個別作品に絞った比較に分けられる。前者としては，石川（2007），趙（2014）があげられ，後者としては，水野（2012），彭（1985），仇（2013），管（1964），張（2010），龐（2016），呉（2005），瀬戸口（1982），王（2004），橋爪（2005）

が挙げられる。以下、順にこれらを概観していく。

まず、石川（2007）では、ともに擬音性と擬態性を持つ両性オノマトペの形に注目して中日対照を行った。その形態対応関係は以下の通りである。

表 3-32 中日オノマトペ形態対応表

中 H	A	A A	A A A	A A A A	A B	A B B	A B B B	A B A B	A B C	A B C B	A B C A B C	A B C D	A B A	非 定 型	計
A	42	6			4									32	84
AA	1	61				1	3	8				1		18	93
AAA		2	2												4
AAAA			1											1	2
AB	61	1			62			4						65	193
ABB														1	1
AABB															0
ABAB	1	82	2		12	11	23	131				7	1	119	389
ABC	28				28	1		1						44	102
ABCB		1												7	8
ABCABC		2					2	12						6	22
ABCD								3		1				1	5
計	133	155	5	0	106	13	28	159	0	1	0	8	1	294	903

上表よりわかることは3点ある。1点目は、日本語オノマトペの約33%（294/903）が非定型に置き換えられるということである。このことは、中国語オノマトペと日本語オノマトペは一対一対応を取ることが不可能で、場合によって、中国語の他の表現（非定型）を用いて日本語オノマトペを対応することが不可欠であることを示している。中国語の非定型には、形容詞の繰り返し（紧紧）、状語用法の形容詞（结实结实）が多く、ほかにABB（气冲冲、笑咪咪、醉醺醺）とAABB（迷迷糊糊）のものが多く指摘されている。2点目は、日本語のA型は中国語のA型、日本語のAA型は中国語のAA型、日本語のAB型は中国語のAB型、日本語のABAB型と中国語のABAB型（例：がぶがぶ⇔咕嘟咕嘟）に置き換えられることが多く、中日両言語に含まれているオノマトペは形態上ある程度の類似性を持つというである。3点目は、頻度から見れば、日本語オノマトペはABAB型>AB型>ABC型の順位となるが、中国語オノマトペはABAB型>AA型>A型の順位となるということである。

れが表す意味を明言しないことであるのに対し、中国語オノマトペの特徴は、音声を伝えるのではなく、それが表す意味内容を直接に伝えることである。

以上、オノマトペの全体の特徴を把握しようとした研究を概観してきた。形態の面においても、擬音語の擬態語の意味拡張パンにおいても、実際の語用においても、両言語におけるオノマトペはある程度共通点を持つものの、様々な違いがみられる。では、これらの差異をふまえ、日本語オノマトペは実際にどのように中国語に翻訳しているのであろうか。以下、個別な作品を取り上げた研究を概観していこう。

まず、水野（2012）は、全体傾向を見るために、中国語に翻訳された日本語漫画 115 冊を調査したうえで、水城準『星の旋風第 1 巻』と中国語版『星之旋风第一卷』を比較した。その結果、115 冊の漫画のうちオノマトペを翻訳しているのは 15 冊のみであったことが明らかになった。日本語版の『星の旋風第 1 巻』には 161 種 205 回のオノマトペ使用に対して中国語版ではこれを 56 種の中国語オノマトペに翻訳していることが明らかになった。漫画においては日本語オノマトペの中国語への翻訳が必ずしも望ましい形で訳されていないことが示された。

次に、彭（1985）は、『学生会話テキスト』と小林多喜二『傷痕』に出現する 49 種と 180 種日本語オノマトペの翻訳状況を調査した。その結果、前者は 9 種のみ中国語オノマトペに置き換えられ、後者は 30 種程度の中国語に置き換えられていることが明らかになった。このことは、日本語オノマトペを中国語に翻訳する際の難しさを示している。また、日本語オノマトペを中国語に訳す際の注意点を以下のように挙げている。(1) 一定量の日本語オノマトペの把握する必要があるということである。特に、発音が似ている語については特に注意を払うべきである。例えば、中国語の「咕嚕咕嚕」と日本語の「ぐるぐる」の発音が似ているので、学生は「肚子咕嚕咕嚕 (gulugulu) 地叫」を「お腹がぐるぐるなる」と間違ってしまう。(2) 他の動詞や成語に訳したほうが自然な中国語になるということである。例えば、蝉の鳴き声「みーんみーん」を訳すとき、中国語で動詞「蝉鸣」と訳した方がより自然である。そのほかに、「にっこり笑う」は「嫣然一笑 (成語)」、「はらはらする」は「提心吊胆 (成語)」と訳した方がより忠実に日本語の意味ニュアンスを訳出できると主張している。

以上で見たように漫画においても、小説においても日本語オノマトペは必ずしも望ましい形で翻訳されていないことがわかった。このことは日本語オノマトペの中国語への翻訳の難しさを示している。先行研究はこのような現状をふまえ、異なるテキスト分析から実

際の翻訳状況を調査した。

まず、仇（2013）は『伊豆の踊子』をその2つの中国語訳と比較し、固定的な訳語があるものは翻訳しやすく、固定的な訳語が少ない場合は適当な訳語が見つけにくいということを描している。例えば以下の用例を見てみよう。

私は心に清水を感じ、ほうっと深い息を吐いてから、ことこと笑った。

→仿佛有一股清泉荡漾着我的心。我深深地吁了一口气，嗤嗤一声笑了。

我感到有一股清泉洗净了身心，深深地谈了一口气，嗤嗤笑出声来。

上記の場合、日本語原文では2つのオノマトペが含まれているわけであるが、その2つの訳語を見てみると、前者は翻訳者によって訳語が大きく異なり、後者は翻訳者の語感によらず訳語がある程度一致する。このことから、「ほうっ」は訳語が固定せず、翻訳しにくく、「ことこと」は訳語がある程度決まっているので翻訳しやすいと主張している。

管（1964）は川端康成の『雪国』とその2つの中国語訳文を資料として文学作品に見られる中日オノマトペ表現の違いを調査し、翻訳状況を以下のように整理した。

表 3-35 管（1964）の分類

分類	例
①同じオノマトペ表現で対応できる例	<u>がさがさ</u> 鳴っていく。→ <u>沙沙地响</u> ／ <u>沙沙地响</u> <u>ごくごく</u> 水を飲む。→ <u>咕嘟咕嘟</u> 喝了水／ <u>咕嘟咕嘟</u> 地喝起水来
②他の語彙範疇によって訳出されている例	<u>しゃん</u> と坐り構えているのだが、→她 <u>端正</u> 地坐在那里／他坐姿 <u>端正</u> <u>くよくよ</u> することない。→用不着这么 <u>不开心</u> ／何必想不开呢
③中国語訳文に訳出できなかった例	<u>しゃん</u> と裾を捌いて出ていった。→把衣服下摆弄整齐走出去了。／ <u>撩了撩衣服</u> 的下摆就走出去了 突然 <u>むくっ</u> と片肘立てて首を上げる。→突然 <u>挺起身</u> 来用一只腕子 <u>撑着头</u> ／突然 <u>支起一只胳膊</u> ，抬起头 <u>ふい</u> と窓へ立って行って。→露出很不高兴地样子站到窗口去 ／她 <u>漠然地</u> 站在窗前

	<p>じろじろ見てたんだね。 → 你瞪着眼睛一直这么望着我吗 / 干嘛老盯着我</p> <p>駒子は床の上に<u>ちょこん</u>と座ると、 → 驹子独自坐在铺垫上 / 驹子孤单单地坐在铺盖上</p>
--	--

このように、日本語オノマトペの中国語への翻訳は大きく、中国語オノマトペに置き換えられる直接対応型、中国語の他の表現に置き換えられる間接対応型と中国語に翻訳できない非対応型、の3つのタイプに分けることができた。しかしながら、間接対応型にはどのようなものがあるのかは明確に示されていなかった。張（2010）は、新聞（主に『毎日新聞』）の社説、論評、評論、コラムに出現した擬態語を集めて中国語に訳し、日本語オノマトペを中国語に訳す6つの方法を考案した。

表 3-36 張（2010）の分類

分類	例
1. 中国語の擬態語に	反発が <u>むらむら</u> と湧き上がる。 → <u>一股股</u> 怒气涌上心头
2. 擬音語から転じた擬態語の意識	<u>じゃぶじゃぶ</u> の超金融緩和。 → <u>哗啦哗啦</u> 往外借钱的金融缓和政策（修正訳：宽松的金融缓和政策）
3. 同語異訳	<u>ぎくしゃく</u> した関係。 → 矛盾 or 摩擦 or 隔阂 or 分歧不断
4. 異語同（類語）訳	<u>きっぱり</u> した口調 / <u>さばさば</u> した口調 / <u>ざっくばらん</u> な批評。 → 语气很爽快
5. 四字熟語に	<u>しっくり</u> こない。 → 格格不入
6. 文脈から意識	<u>がたがた</u> する政府。 → 不协调的政府

しかし、上記の6つの訳し方のうち、日本語と中国語の対応関係（同語異訳、異語同訳）の問題と翻訳過程（擬態語→四字熟語）の問題が混在している。この問題をふまえ、龐（2016）は日本語オノマトペがどのような中国語に訳されているかを考察し、以下のようにまとめている。

表 3-37 龐（2016）の分類

分類	例
畳語に訳されるもの	細かい字が <u>ぎっちり</u> 書いてある→ <u>密密麻麻</u> 写满了蚂蚁大的小字
「～然」の形に訳されるもの	<u>ぞくり</u> と身震いをした→ <u>悚然</u> 地打了一个寒噤
「形状詞」に訳されるもの	<u>キョロキョロ</u> 見回している→ <u>贼眉鼠眼</u> 地东张西望
象声詞の隠喩的用法に訳されるもの	<u>じめじめ</u> と細かい雨が降っている→外面 <u>淅沥沥</u> 地下着小雨
一般形容詞に訳されるもの	<u>かつ</u> と陽が照り付けている→ <u>灼热</u> 的太阳在天空中照着
副詞に訳されるもの	<u>とっぷり</u> くれていた→天色已经 <u>完全</u> 黑了
動詞にやくされているもの	髪に油を <u>てかてか</u> 付けた洒落男→头发擦得 <u>亮亮</u> 的时髦男人
「一……」の形に訳されるもの	肩から力が <u>ガク</u> リ抜けた→肩膀 <u>一下子</u> 失去了力量
フレーズをもって意識されるもの	三原は <u>ほつ</u> とした→三原 <u>心里</u> 的一块石头落了地

龐（2016）では、以上の方法は実際の翻訳においてよく用いられるものであり、これらを適切に自由に使えば、オノマトペの翻訳問題はほぼ解決できると主張している。また、翻訳する際に特に注意すべきは、同じ語が様々に訳され、必ずしも1つに限らないこと（例：おいおい（泣く）→哇哇地/呜呜地）と、省略してもよい場合が存在すること（例：父の頬がガクガクと深く削り込まれていた。→父亲的双颊深深地陷了进去）であると指摘している。

上記の日本語オノマトペの翻訳状況を観察すれば、日本語オノマトペは中国語の動詞・副詞・形容詞などに置き換えられていることがわかった。しかしながら、オノマトペ研究において、擬音語と擬態語は異なる振る舞いをしているとされるが、上記の研究はほとんど擬音語と擬態語を区別していないのが課題である。このことをふまえて、呉（2005）は、石川啄木の短歌『一握の砂』『悲しき玩具』に出現するオノマトペを擬音語と擬態語に分けて、中国語訳の『石川啄木詩歌集』と比較して日本語オノマトペの翻訳状況を調査した。

表 3-38 呉 (2005) の分類

	対応関係	例
擬音語	「象声詞」	1. 庭石に／はたと時計をなげうてる／昔のわれの怒りいとしも→院子的石头上，当的把手表扔去，从前我发怒的样子很可怀念。 2. 目の前の菓子皿などを／かりかりと／もどかしきかな →眼前的电信碟子什么的，想要嘎嘎的咬碎它，真是焦躁呀。 3. 西風に／内丸大路の桜の葉／かさこそ散るを踏みてあそびき→内丸大街的樱树叶，被西风刮散，我悉悉索索的踏着玩。
擬態語	形容詞	しらしらと氷かがやき／千鳥なく／釧路の海の冬の月かな→皎皎的冰发着光，鹈 (yu) 鸟叫了，钏路的海上的冬天的月亮。
	副詞	まくら辺に子を坐らせて／まじまじとその顔を見れば／逃げてゆきしかな→叫孩子坐在枕头旁边，眈眈的看着她的脸，看得她逃走了。
	動詞	猫の耳を引っぱりてみて／にやと啼けば／びつくりして喜ぶ子供の顔かな→雪天的原野路上，看着画眉鸟，在树丛里跳跃着游戏。

上表で示されているように、日本語の擬音語のほとんど中国語の擬音語や象声詞で置き換え可能である。それに対して、日本語の擬態語に対応する中国語のバリエーションが豊富で、呉 (2005) は、元のオノマトペの品詞にこだわらず、元の意味を把握したうえで、異なる形式によって訳出したほうが望ましいと主張している。また、擬音語と擬態語の性質の違いは多くの研究者に認められ、これらを区別するようになった。

瀬戸口 (1982) では、擬音語は 3 種の中国語、擬態語は 4 種の中国語に翻訳されている。

表 3-39 瀬戸口 (1982) の分類

	分類	例
擬態語	成語で表わされる例	<u>あっさり</u> やっつてのける→ <u>轻而易举地</u> 解決了
	強調形で表わされる例 (AABB)	妻は <u>いそいそ</u> と支度をはじめた→妻子 <u>高高兴兴地</u> 准备开了

	形容詞, ABB で表わされる 例	母親たちも <u>いらいら</u> 気味→母亲们心情都十分 <u>焦急</u> <u>じとじと</u> と気持ちが悪い→ <u>湿漉漉的</u> , 很不舒服
	その他(副詞, AA, 慣用句や 俗語など)	きっぱり→断然, じわじわ→慢慢
擬音語	日本語の擬音語と音声がか なり接近しているもの	かしゃ→咔嚓, がたがた→咣当咣当,
	日本語と音声表現が異なる もの	ことごと→叮叮当当, こんこん→咚咚
	異なる日本語を同じ中国語 で表わされる	枯葉が <u>かさかさ</u> と音をたてる→枯叶沙沙作响 壁土が <u>がさがさ</u> と崩れてくる→墙壁上的沙沙往下 掉

王(2004)は、『日中擬声語・擬態語辞典』(郭華江編)に挙げられた例文を対象としてその中国語訳の特徴を以下のように分類した。

表 3-40 王(2004)の分類: 辞書にみられる翻訳状況

	品詞	小分類	例
擬態語	形容詞で表される	AA型	口元を <u>キリリ</u> と結んでいて→嘴唇闭得 <u>紧紧的</u>
		AB型	<u>あっさり</u> した味→ <u>清淡的</u> 菜
		ABB型	<u>いじいじ</u> していて、えさも食べられない→ <u>怯生生</u> 地连食都不敢吃
		ABAB型	<u>あたふた</u> と人込みの中を駆け抜けて逃げて行った→ <u>慌慌张张</u> 地穿过人权逃跑了
	動詞で表される	動詞	おれは生きるのに <u>あっふあっふ</u> している貧乏学生なのだ→为生存而 <u>竭力挣扎</u> 的学生
		動詞 + 補語	<u>あーん</u> してごらんなさい→请把嘴巴 <u>张大</u>
		動詞の 疊語	みんな集まった時なども何か <u>うじうじ</u> している→大庭广众之下总是 <u>躲躲闪闪</u>

		一 + 動 詞	<u>ぴょん</u> と跳ねて→一跳
	副詞で表される		<u>むず</u> と相手も胸元をつかんだ→ <u>猛地</u> 一把揪住了对方的胸口
	成語で表される		<u>うきうき</u> する季節→ <u>心花怒放</u> 的季节
	ほかの形で表される	熟語・慣 用句	<u>てきぱき</u> と倉庫の中を片付けてしまった→他 <u>三下五除二</u> 就把仓库清理好了
		比喻	いたずらっ子たちは <u>わーっ</u> と逃げ散った→一窝蜂似地四下散开了
		数量詞	<u>がぶり</u> と潮水を飲んだしまった→喝了一大口海水
		擬音語	たたりたたりと額からとめどなく汗が流れる→汗珠 <u>啪嗒啪嗒</u> 淌个不停
擬音 語	ほとんど擬音語 に訳される		<u>わーわー</u> 泣いている→ <u>哇哇</u> 大哭 <u>わっさわっさ</u> とはしゃいでいる→“ <u>嗨嗨，嗨嗨</u> ”地欢叫着

また、宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』と中国語訳『银河铁道之夜』（周龍梅訳）をデータとしてオノマトペの翻訳状況を調査し、以下のように分類した。

表 3-41 王（2004）の分類：童話にみられる翻訳状況

	品詞	頻度	小分類	例
擬態 語 (201 語)	形容詞で 表される	94	AA型	男の手を <u>しっかり</u> 引いて立っていました→他 <u>紧紧</u> 拉着这男孩子的手
			AB型	車の中が、 <u>ぱっ</u> と白く明るくなりました→车厢里 <u>豁然</u> 明亮起来
			ABB型	けれどもいつでも家中まだ <u>しん</u> としているからな→可每次哪儿都是 <u>静悄悄的</u>
			AABB型	黒い影や <u>ぼんやり</u> 白いシャツが入り乱れて→影影绰绰地闪现出几个黑影和白衬衫

	動詞で表される	19	動詞	<u>じっと</u> 空を見ていたのです→ <u>凝視</u> 天空	
			動詞+補語	→ <u>焦班尼</u> <u>愣了一下</u>	
			動詞の疊語	やはり <u>もじもじ</u> 立ち上がった→此刻却 <u>扭扭捏捏</u> 地慢慢站起身	
			一+動詞	<u>ちらちら</u> またたき→ <u>一闪一闪</u> 地眨着眼	
	副詞で表される	29		<u>どんどん</u> 小さく遠くなり→身影 <u>渐渐</u> 变小	
	成語で表される	19		<u>どかどか</u> する体を冷たい草に投げました→ <u>气喘吁吁</u> 地躺倒在冰凉的草地上	
	ほかの形で表される	2	熟語・慣用句	ジョバンニはそっちを見てまるで <u>ぎくっ</u> としてしまいました→ <u>焦班尼</u> 往那儿一望，不仅 <u>倒抽</u> 一口凉气	
			2	比喻	ただ目が <u>しんしん</u> と痛むのでした→只感到 <u>刺眼般</u> 的疼痛
			4	数量詞	あんなにくるっと回って→绕了 <u>整整</u> 一大圈
			30	訳されていない	
擬音語(20語)	擬音語	17		指で <u>きしきし</u> させながら→用手指 <u>沙沙</u> 地翻动	
	動詞	1		<u>わあい</u> と叫びました→ <u>哄笑</u> 起来	
	訳されていない	2		コロコロと水の湧くような音が聞こえてくるのでした	

辞書の例文を見ても、童話の中国語訳を見ても日本語オノマトペを翻訳する際に、そのまま中国語に翻訳することができず、形容詞をはじめ、動詞、副詞、成語など置き換える傾向が見受けられる。また、どちらでも文法的・形態的になるべく日本語の擬態語に近い表現が使われ、このうち、ABB型、AABB型、ABAB型といった反復形の中国語訳が多い。また、王(2004)は日本語オノマトペの実際の翻訳上の問題として、訳されていない語が全体の15%存在すること、賢治独特の擬態語は中国語に訳されていてもその独特なニュアンスは訳されていないこと、日本語オノマトペは情緒的・直感的に対して、中国語訳

はより客観的・具体的であることが挙げている。

上記の研究はオノマトペを大きく擬音語と擬態語に区別したわけであるが、しかしながら、擬態語のうち、感覚や感情を表す擬情語と動作や状態を表す擬態語にさらに分類できる。そこで、橋爪（2005）は擬態語を細かく分類し、3種類の漫画（『ちびまる子ちゃん』1巻～14巻、『ドラえもん』27巻～45巻、『名探偵コナン』1巻～25巻）に出現する日本語擬態語とその翻訳を比較した。

表 3-42 橋爪（2005）の分類

オノマトペ	対応関係	用例
感覚擬情語	中国語擬情語対応なし，33語中16語動詞で対応	例：どっくん→感到异様　くによ→踏
感情擬情語	中国語擬情語対応なし，擬音語やその他で対応	例：どき／どきっ／どきー／どきん／どくん／どっくん→ト／砰（怦）／扑通（噗通）／咚
動作性擬容語	(1) 1695語中738語擬音語で対応	例：だっ→踏／哒／噔／咚／啪／呸
	(2) 1741語中174語中国語擬態語で対応	例：きよろきよろ→骨碌／骨碌碌／骨碌骨碌
	(3) 1741語中704語動詞で対応	例：ぬっ→突然出现／无声出现
状態性擬容語	(1) 567語中219語擬音語で対応	例：がやがや叽叽／叽叽喳喳／叽里呱啦
	(2) 形容詞で対応	例：しん／しーん→安静／肃静／无声
動作性擬態語	(1) 346語中擬音語で対応	例：くるくる／ぐるぐる→骨碌(咕噜)／噗愣噗愣
	(2) 動きの素早さを表す語は対応できる	例：すっ→嗖
状態性擬態語	(1) 179語中93語擬音語で対応	例：ぱっ→啪
	(2) 形容詞で対応	例：しーん→静悄悄　がらーん→空空荡荡

日本語オノマトペを中国語に訳す場合、すべてのオノマトペについて一対一対応を取ることはできず、場合によって他品詞に置き換える必要性が示された。しかしながら、検討した用例が少なく、大規模なパラレルコーパスの分析の必要性が示された。また、語義の影響が考慮されておらず、語義別に分析した研究は事実上存在しない。次に、原語と訳語を並列的に扱われておらず、品詞と形態の問題が混同されているなど課題も多く残されている。

3.3 まとめ

オノマトペに関する先行研究はその数が多いだけでなく、扱われる内容も非常に広い。それらは日本語学的研究と日本語教育学的研究に分けられる。日本語学研究には音韻的特徴、形態的特徴、統語的特徴、意味的特徴、使用特性に着目したものがあり、音韻的特徴に関してはモーラ数や主要音素の種類や語基の組み合わせパターンとして研究された。形態的特徴については、語形上の4種から48種の分類と、種々のオノマトペ標識が表す意味合いの分析が行われていた。統語的特徴についてはどのような後接要素を伴って、どのような品詞位置づけを取るか、様々な品詞の中で、特に重要な副詞・動詞がどのようなふるまいを行うかについて多角的な検討がなされてきた。意味的特徴については、類義語や多義語に関する研究が多くみられた。使用特性については、オノマトペ使用のジャンル影響や男女や生年代の差異が明らかにされた。

日本語教育学的研究としては、指導すべき重要オノマトペを特定しようとする研究、また、教材においてそれらはどう扱われるかを調査した研究、実際の日本語学習者はどのようなオノマトペ使用上の問題を抱えているのか、に関する研究が見られた。以上の研究によって、オノマトペそのものの難しさ、オノマトペの日本語教育における扱いの問題点について多くの点が明らかにされた。しかしながら、先行研究の多くが少量のデータを対象に質的に分析したもので、必ずしも大規模なデータベースを用いた客観的な調査は行われていないのが現状である。

第4章 リサーチデザイン

4.1 使用するデータ

すでに述べたように、従来の研究は内省的・主観的であり、実際の言語データを大規模に調査し、その結果をふまえた研究は十分に行われていない。このような現状をふまえ、本論文は、(1) 現代日本語コーパスとして『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』『名大会話コーパス』を、(2) 中国語と日本語の平行コーパスとして『中日対訳コーパス』、(3) 日本語学習者コーパスとして『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)』『日本語学習者書き言葉コーパス』を調査資料とする。

まず、議論に先立ち、コーパスとは何かを見てみよう。前川 (2011) によるとコーパスとは「対象言語の特定の側面の実態を偏りなく反映する設計に基づいて収集された、実際の用例の集合で、電子的な手段での検索が可能であり、規模が大きく、公開されているもの」である。また、石川 (2012) はコーパスの定義について、「書き言葉や話し言葉などの現実の言語を、大規模に、基準に沿って網羅的・代表的に収集し、コンピュータ上で処理できるデータとして保存し、言語研究に使用するもの」であるとしている。

以下では本論文で使用するすべてのコーパスに関して、a) コーパスの構築法、b) コーパスの検索法の2点を中心に概観していく。

4.1.1 現代日本語書き言葉均衡コーパス

まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 以下 BCCWJ)』は、国立国語研究所が現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために開発した均衡コーパスであり、約1億450万語を格納している。2011年に公開され、日本国内で初めての大規模な均衡コーパスとなる。

4.1.1.1 母集団の捉え方

山崎 (2009) によれば、BCCWJは現代日本語の縮図になるために、なるべく現代日本語書き言葉という母集団に対してその分布を過不足なく表現できるように設計した。ここで現代日本語書き言葉という母集団を設定する際に、BCCWJは従来のコーパスと比べて単にどれだけ出版されているのかを調査するだけでなく、読者にどれだけ受容しているの

か、さらに、出版と受容の中間にどれだけ流通しているのかを調査する必要があることを積極的にコーパス構築に組み入れた。このことを反映し、BCCWJは大きく3つのサブコーパスに分かれて、それぞれ出版サブコーパス、図書館サブコーパス、特定目的サブコーパスである。以下はその詳細である。

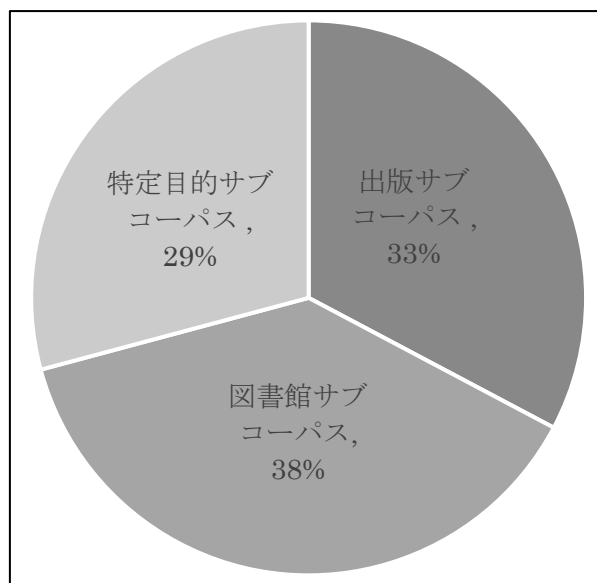


図 4-1 BCCWJ の内部構成

上図に示されるように、BCCWJは上記の3つのサブコーパスによってバランスよく構築され、高い代表性と信頼性を持ち、日本語研究や日本語教育研究にとって非常に有益で有用なコーパスであると言える。

4.1.1.2 データ抽出法

すでに 4.1.1.1 で見てきたように、母集団を設定することができたわけであるが、それぞれの母集団に対してサンプリングを行う必要がある。BCCWJは主に層化抽出と無作為抽出法という統計手法を用いた。

まず、層化抽出とは、事前に母集団の構成比を調査し、代表性を保つために同じ構成比でサンプリングを行うということである。たとえば、出版された書籍を母集団とする場合、図書館で利用されている日本十進分類法（NDC）の分類に従えば、その構成比は以下の表の示す通りとなる。

表 4-1 層化抽出法の例

NDC	総文字数	構成比
0. 総記	1,636,414,548	3.37%
1. 哲学	2,597,610,813	5.35%
2. 歴史	4,301,204,340	8.86%
3. 社会科学	12,408,321,943	25.56%
4. 自然科学	5,069,594,034	10.44%
5. 技術工学	4,615,929,967	9.51%
6. 産業	2,196,387,437	4.53%
7. 芸術	3,258,432,447	6.71%
8. 言語	888,800,128	1.83%
9. 文学	9,341,275,486	19.25%
n. 記録なし	2,225,954,208	4.59%
合 計	48,539,925,351	100.00%

http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/sampling.html より引用

この比率と同じようにサンプルを集めていけば、構築されたコーパスは全体として母集団を偏りなく抽出しているといえる。このように、日本語という大きなかたまりを事前にいくつかの層に分け、層の比率を保持する形でデータを収集することを層化抽出と呼ぶ。

次に、無作為抽出法とは、各々のサンプルについてコーパス構築者の主観が入らないよう無作為（ランダム）に抽出を行うことである。BCCWJの構築では3段階のサンプリングが行われた。書籍についていえば、第1段階のサンプリングではどの本をコーパスに含めるかを決定する。この場合、梓母集団の中に含まれるすべての書籍に連番を付与し、事前に生成された乱数によって、どの本からデータを取るかを決めた。次に、第2段階のサンプリングでは当該選ばれた本のすべてのページに対して生成された乱数によって、どのページからデータを取るかを決定した。最後に、第3段階のサンプリングでは選ばれたページの上に縦横の線を引いて均等に100個の点を作り、乱数によって、当該ページのどの点からデータを取るかを決めた。

なお、こうして選ばれた資料から実際にテキストを採集する際には、固定長サンプルと可変長サンプルの2種類が採用された。前者はランダムに選んだ文字を基準として1000

字を取ったもので、後者はランダムに選んだ点を含む1章あるいは1節など区切りのいいところでデータを取ったものである。固定長サンプルは統計的な頻度研究に向くとされる。一方、可変長サンプルは文脈をふまえた研究に有益であるとされる。

4.1.1.3 ジャンル構成の特徴

すでに述べたように、BCCWJには3つのサブコーパスが含まれているわけであるが、各サブコーパスはさらに細分化され、いくつかの異なるレジスター（ジャンル）によって構成されている。以下はその構成の詳細とその語数構成である。なお、下表に示されている NumTrans とは数字を解析しやすいように変換処理を行ったものである。たとえば、「2011年」は「二千十一年」のように変換された。

表 4-2 BCCWJ の内部構成

サブコーパス	レジスター	母集団	対象期間	サンプル (個)	NumTrans 版の語数(万)
出版サブコーパス	書籍(PB)	約 485 億文字	2001-2005	10,117	2,855
	雑誌(PM)	約 105 億文字	2001-2005	1,996	444
	新聞(PN)	約 64 億文字	2001-2005	1,473	137
図書館サブコーパス	書籍(LB)	約 479 億文字	1986-2005	10,551	3,038
	白書(OW)	1006 冊	1976-2005	1,500	488
	教科書(OT)	145 冊	2005-2007	412	93
	広報紙(OP)	100 自治体	2008	354	376
特定目的	ベストセラー(OB)	951 冊	1976-2005	1,390	374
サブコーパス	Yahoo!知恵袋(OC)	約 312 万質問	2004-2005	91,445	1,026
	Yahoo!ブログ(OY)	約 346 万記事	2008-2009	52,680	1,019
	韻文(OV)	130 冊	1980-2005	252	23
	法律(OL)	718 法律	1976-2005	346	108
	国会会議録(OM)	32925 会議	1976-2005	159	510

合計	172,675	10,491
----	---------	--------

上表に示されるように、BCCWJはレジスター（ジャンル）別で13種に分けることができる。このように幅広いジャンルからデータを集めることで、BCCWJは現代日本語の資料として高い価値を持っているといえる。しかしながら、実際の使用に関しては2つの点に注意する必要がある。

1点目はジャンルに偏りが存在するというである。上表に明らかなように、書籍はすべてのサブコーパスに含まれており、それぞれ2855万、3038万、374万語が含まれている。これらを合計すると約6000万語となる。また、特定目的サブコーパスに含まれるYahoo!知恵袋とYahoo!ブログはそれぞれ1000万語であり、合わせると2000万語になる。すなわち、BCCWJは1億語のコーパスと言ってもその6割が書籍であり、2割がネットの文献であるということになる。この偏りを考慮せずBCCWJ全体を1つのかたまりとして検索すると歪んだ結果が出てくる可能性が高い。

2点目は、ジャンル別にデータを収集した時代が厳密に統制されていないということである。最も古いデータは1976年の白書、法律、国会会議録で、最も新しいデータは2009年のYahoo!ブログである。その間には30年以上の差が存在し、「現代」日本語と言っても30年間に変化している可能性は否定できない。つまり、厳密に研究を行うためにはこうした年代についても配慮した調査が必要となるだろう。

4.1.1.4 BCCWJの検索法

以上はBCCWJの構築法を見てきた。次に、BCCWJの検索について見てみよう。すでに述べたように、コーパスに求められる要件の1つは公開されて検索が可能になっているということである。BCCWJについても、そのデータは無償で公開されており、加えて、「少納言」と「中納言」という2種類の検索インターフェースが提供されている。

一般に「少納言」は初級者用のインターフェースで「中納言」は中上級者用のインターフェースであると言われる。「少納言」は簡易に検索が可能であるが、形態素解析を行っていないため、語（形態素）の単位での検索は行えない。たとえば、「山」という単語を検索しようとしても、「山形、山田さん、山々」といった言葉がすべて出てくることになる。一方、「中納言」では形態素解析済みのデータが使用できるので、前述のような場合でも調べたいものだけを指定して取り出すことができる。加えて、「中納言」では複数条件検索が可

のずれなどについては注意も必要である。また、検索法に関しては「少納言」と「中納言」という2つのインターフェースが提供されているが、それぞれで検索できる内容には違いがあるため、この点を留意して調査を行うことが重要であるといえる。これらの点に注意して利用すれば、BCCWJは現代日本語のあり方を知るうえで極めて価値の高いコーパスであると言ってよいだろう。

4.1.2 日本語話し言葉コーパス

本節では本論文の第10章で使用する『話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese, 以下CSJ)』について概観する。

CSJは科学技術振興調整費開放的融合研究制度研究課題「話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築」(1999-2003年度, 代表者: 東京工業大学古井貞熙教授)の一環として, 国立国語研究所と情報通信研究機構が協力して開発した大規模な話し言葉コーパスである。このコーパスには, 日本語の自発音声が多量に収集されており, また, 多くの言語研究に活用できる多くの付加的な情報が付与されている。現在使用可能な話し言葉研究資料の中で最も信頼性の高いデータの1つである。実際, 2014年6月の一般公開後, 音声言語情報処理, 自然言語処理, 日本語学, 言語学, 音声学, 心理学, 社会学, 日本語教育, 辞書編纂など様々な領域で利用されている。

4.1.2.1 CSJのジャンル構成

まず, CSJに含まれている音声タイプとその詳細構成について見てみよう。

表4-3 音声タイプと時間 (『日本語話し言葉コーパスの構築法』p.3より引用)

音声のタイプ	タイプ	話者数(異なり)	講演数	時間
学会講演	独話	819	987	274.4
模擬講演	独話	**594	1715	329.9
その他の講演	独話	***16	19	24.1
学会講演インタビュー	対話	* (10)	10	2.1
模擬講演インタビュー	対話	* (16)	16	3.4
課題指向対話	対話	* (16)	16	3.1

自由対話	対話	* (16)	16	3.6
再朗読	朗読	* (16)	16	5.5
朗読	朗読	* (248)	507	15.5
	計	1417	3302	661.6

* () 内は全員が学会発表もしくは模擬講演者としてカウントされている

**10名は学会講演者としてもカウントされている

***2名は学会講演者としてもカウントされている

上表のうち、学会講演とは、理工学、人文、社会の3領域に関する種々の学会における研究発表のライブ録音である。講演時間は10分から25分程度のもので大半であるが、1時間前後の特別講演なども含まれている。ただし、注意すべきは、理工系の学会が多いため、講演者の中には男性の大学院生が多く、データとして性別と年齢の偏りがあるということである。

模擬講演とは、一般話者による日常的話題についての10分から15分のスピーチである。3～5名程度の聴衆を対象にリラックスした雰囲気ですピーチと録音が行われた。講演者は人材派遣会社によって選定された一般話者である。20代から60代まで五つの年代ごとに男女5名ずつを設定したうえで集められているので、学会講演よりも年齢と性別のバランスが取れていると言える。講演者は収録の48時間前に3つのテーマを与えられ、それぞれについてスピーチの準備をした。また、朗読用の原稿を準備することは禁止されたが、簡潔なアウトラインを用意することは推奨された。ただし、CSJのホームページによれば最初に収録した約100名分は、テーマを指定しておらず、話者は1つないし2つのテーマを自由に選んで喋った。テーマの一覧表は以下のとおりである。

表 4-4 模擬講演で使ったスピーチのテーマ

テーマ	ファイル数
(指定なし)	222
今までの人生を振り返って、あなたがうれしかった・楽しかった出来事	137
今までの人生を振り返って、あなたが悲しかった・つらかった出来事	134
あなたの住んでいる町や地域についてあなたの住んでいる町や地域について	134

て	
あなたがよく知っていること，興味・関心のあることの客観的説明	151
今までの人生を振り返って印象に残っていること	167
現在から過去数年の間に，新聞・雑誌などで扱われたニュース	152
無人島に持っていくもの 3つ無人島に持っていくもの 3つ無人島に持って	101
いくもの 3つ	
～のやり方，作り方	151
～の歴史	100
自分にとっていちばん大事なもの・人	100
21 世紀に残したいもの・残したくないもの	150

その他の講演とは，(1) 研究機関が一般聴衆を対象に企画した歴史や民俗学に関する連続講演会，(2) 国語研究所が一般聴衆を対象に開催した講演会，(3) 専門学校における日本語教師養成関係の講義，の録音音声である。

上記の学会講演・模擬講演・その他の講演はいずれも独話タイプの発話データであるが，CSJ にはこれに加え，対話と朗読のデータタイプが存在する。

まず，対話には「学会講演インタビュー」「模擬講演インタビュー」「課題指向対話」「自由対話」の 4 種類がある。学会インタビューと模擬インタビューは，学会内容もしくは模擬講演内容についてインタビュアーが様々な質問を發し，話者がこれに答える形式の対話である。話者は朗読に参加した 16 名である。課題指向対話とは，実在の芸能人に講演を依頼した場合の謝礼（ギャラ）の額を想像し，その多寡の順に，芸能人 9 ないし 10 名をソートするタスクである。自由対話とは，話題の制約なしの 10 分程度の自由対話である。

次に，朗読には「朗読」と「再朗読」の 2 種類がある。「朗読」は模擬講演に参加した一部の講演者が野本陽代著「宇宙の果てにせまる」（1998 年，岩波書店，pp.2-3）および中村桂子著『あなたのなかの DNA』（1994 年，ハヤカワノンフィクション文庫，pp.9-10）の一節を朗読したものである。「再朗読」は学会講演もしくは模擬講演で収録された音声を転記したテキストを同一の話者が朗読した音声である。再朗読の話者は，学会講演話者から 10 名と模擬講演話者から 6 名，合計 16 名が選ばれた。

上表より CSJ の特徴は 2 点にまとめられる。

1 点目は，朗読音声を除き，発話の方向性と内容の公的性という 2 つの観点によってデ

一タが区分されているという点である。これらの2つの観点を組み合わせることで、身近なテーマについての独話（模擬講演）、身近なテーマについての対話（自由対話）、公的な内容についての独話（学会講演）、公的な内容についての対話（学会インタビュー・課題指向対話）の4種類をそれぞれ比較して分析することが可能になっている。



図 4-4 CSJ の構築概念図

2点目は、学会講演と模擬講演（スピーチ）の2ジャンルが全体の9割を占めていることである。CSJに含まれているデータは確かに多様なものではあるが、ここで注意しなければならないのは、データ量の偏りである。最も多い模擬講演は300時間以上の録音データもある一方、最も少ない学会インタビューは2.1時間の発話量しかない。量的研究を行う際、この点を十分考慮しなければいけない。

4.1.2.2 CSJ の検索法

CSJもBCCWJと同様、オンラインインターフェース「中納言」を介して検索可能となっている。ここでは、「書く」を例に、検索結果を見てみよう。

4,798 件の検索結果が見つかりました。そのうち 500 件を表示しています。
 検索対象語数:7,605,602 記号・補助記号・空白を除いた検索対象語数:7,576,046

講演 ID	開始位置	連番	音声のタイプ	コア	前文脈	キー	後文脈	語彙素読み	語彙素	語彙素細分類	品詞	活用型	活用形	講演者 ID	性別	収録時の年齢
A04M0435	24260	13730	独話・学会	非コア・自動解析	の[アウト]の[O]マイナス[ー]の[N]乗[マイナ]スの[F]の[アウト]の[O]の[N]乗[と]	書い	てあるところ[か]えーっと農小[近]例[事]例[と]いうもの[か]テスト[事]例[か]任意のある[任意]の	カク	書く		動詞 -一般	五段-カ行	連用形 -イ音便	1072	男	30-34歳
S08M1658	8460	5160	独話・模擬	非コア・自動解析	重要な[要件]になるから[です] # ます[飛行機] [ですが] # 日程表[の]利用予定[航空] [便]と	書い	てある[欄]に乗り継ぎとありましたらにのコースは[は]さきえー[私]は[避]かます # 直行[便]	カク	書く		動詞 -一般	五段-カ行	連用形 -イ音便	893	男	60-64歳
A08M0809	4860	2850	独話・学会	非コア・自動解析	ええー[仮名書き]の[練習]を[し]て[い]る[えー] [教育]放送の[録音]レコードを[用]い[て] [聞き]ながら	書い	て[い]くある[教室]で[は] [ワイヤール]コーダーを[使]って[ス]ピーチ[修正]の[研究]の[最]中である[え]	カク	書く		動詞 -一般	五段-カ行	連用形 -イ音便	1031	男	40-44歳
S05M0469	17110	10180	独話・模擬	非コア・自動解析	てましたから[えー] [技術]的なこと[は] [まー] [ま] [マスター] [アール] [て] [い] [た] [し] [原稿] [も] [そ] [こ] [こ]	書い	て[た] [し] # えー [英語] もある [雑誌] [で] [ず] っと [翻訳] して [た] [に] [と] も [あ] る [し] # [で] [自] 分	カク	書く		動詞 -一般	五段-カ行	連用形 -イ音便	1137	男	55-59歳

図 4-5 「書く」の用例

上図に示されているように、検索語の頻度情報や用例、活用形、品詞といった語に関する情報のみならず、音声タイプ、講演者の性別と年齢、といった発話情報も表記される。こうした情報は語彙研究にとって非常に重要な情報であり、語の使用にかかわる様々な要素を総合的に考察することができる。

以上で、CSJの構築法およびその検索法に関する概観を行ってきた。CSJにはデータの偏りが存在するなど留意すべきところもあるが、CSJは現代日本語における話し言葉を大量に収集し、かつ、検索可能になっている貴重な話し言葉コーパスである。

4.1.3 名大会話コーパス

本節では本論文の第 10 章で使用する『名大会話コーパス (Nagoya University Conversation Corpus, 以下 NUCC)』について概観する。

NUCC は科学研究費基盤研究(B)(2)「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」(平成 13 年度～15 年度, 研究代表者: 大曾美恵子) によって構築されたコーパスである。2009 年 8 月より国立国語研究所日本語教育ネットワークにおいて、「研究用データ」として公開されている。CSJ とは異なり、NUCC は母語話者同士の雑談のみを収集したコーパスであり、データとして 129 会話, 合計約 100 時間の録音が収録されている。

4.1.3.1 NUCC の話者情報

NUCC は 2001 年から 2003 年の間に構築されたコーパスで、以下の特徴を持つ（ホームページより引用）。

1. 名古屋近辺で録音されたデータが最も多いが、東京近辺、北海道、新潟で録音されたものもある。
2. 共通語による会話が大半を占めるが、方言も使われている。
3. 参加者の年代は様々で 10 代～90 代までと幅広い。女性の方が多い。
4. 日本語教育関係者、言語研究者が多いので、日本語のメタ言語的な使い方が多い。
5. 親しい者同士の雑談が多いが、初対面同士、研究メンバー同士の会話も一部入っている。先輩-後輩の会話もある。
6. 話題を一切制限していない雑談であるが、参加者は録音していることを知らされていた。

このうち、(1) は本コーパスが名古屋大学の関係者によって構築されたことに由来する。次に、(2) (4) (5) については、実際にデータ収集を行ったのが、研究者の指示を受けた言語学専攻の大学院生であったことに由来する。

また、収録された話者の詳細は以下のとおりである。なお、以下の人数にはデータを取得した大学院生の数も含まれている。

表 4-5 話者の性別

年代	女性	男性	総計
10 代	13	2	15
20 代	70	18	88
30 代	26	1	27
40 代	16	8	24
50 代	18	4	22
60 代	11	4	15
70 代～	6		6
不詳	1		1

表 4-6 話者の関係

関係	件数
同級生	51
友人	31
家族	15
先輩	15
同僚	11
初対面	6
知人	5
恋人	4

161	37	198	親族	2
			先生	1
			合計	141

CSJ にはきわめて硬い公式な発話が多いのに対し、NUCC は自然な会話を集めているという点で貴重な研究資料であると言える。しかしながら、いくつかの課題も残されている。1 点目は、収録したデータに関して、内容ジャンルによる区分が行われていないということである。2 点目はデータが偏っているということである。全体として、性別の点から言えば女性が多く、年代から言えば 20 代が多く、関係から言えば親しい関係が多い。調査にあたった大学院生が依頼しやすい同性の友人を調査対象としたためと考えられる。NUCC をコーパスデータとして扱う際に、この 2 点を留意して研究を行う必要があるが、CSJ ないし書き言葉の比較対象として貴重な資料であると言える。

4.1.3.2 NUCC の検索法

NUCC は様々な方法で検索することができる。コロケーション情報に関心がある場合は「茶漉」(<http://telldev.cla.purdue.edu/chakoshi/public.html>) というシステムが存在する。また、非オンライン環境でユーザーの必要とする検索を自由に行いたい場合は、汎用的なコーパス検索システムである「ひまわり」を利用することができる。さらに、BCCWJ をはじめとする多くのコーパスと同じ検索環境で検索を行いたい場合は、前述した「中納言」が利用できる。

本論文は他のコーパスと同じ条件で概観を行うため、ここでは「中納言」インターフェースを利用して NUCC の検索方法を示す。以下は「書く」の検索結果である。

1,200 件の検索結果が見つかりました。そのうち 500 件を表示しています。
 検索対象語数: 1,420,021 記号・補助記号・空白を除いた検索対象語数: 1,131,971

会話 ID	開始位置	連番	前文脈	キー	後文脈	語彙素読み	語彙素	語彙素細分類	品詞	活用型	活用形	収録日	収録場所	参加者の関係	会話参加者数	発話者 ID	性別	年齢	出生地 1
data053	62250	38060	だからだ、にっち(はにわかしい)か(な一)と思っ(て、(図面と)か(自分(で	書い	(て、(にうい(うふう(こ)し(ま)し(て)出(す)と、(にれ(は)だめ(だ)と(けい)言っ	カク	書く		動詞一般	五段-カ行	連用形-イ音便	2002年11月23日	喫茶店	大学のサークル仲間	2	F049	女性	30代前半	大分県
data061	79410	48690	* * * * 。#で(も)な(ん)か(ー)、(あ(の)一、(ケ(ー)タイ(か)が(な)い)と(き(で)も、(紙(に	書い	(て(回(し)た(り)し(て)た(か)ら、(同(じ)か(も)し(ね)ば(な)い)と(思)い(な)が(ら、#確(か)に(確(か	カク	書く		動詞一般	五段-カ行	連用形-イ音便	2001年12月21日	職場	同僚	2	F050	女性	20代後半	岐阜県
data106	40330	25800	です(け)ど(み)た(い)げ(ふ)こ(と)を(言)わ(れ)て、(で、(あ(だ)し(シ)ラ(バ)ス(と)か(は)は、(な(ん)か	書い	(て(回(る)ん)だ(は)、#う(ん) #う(ん)う(ん)う(ん) #来(た)ら(け)る(こ)と(に(な(る)じ)や(な)い)？(で、	カク	書く		動詞一般	五段-カ行	連用形-イ音便	2001年12月20日	レストラン	大学院の同級生	2	F152	女性	30代前半	静岡県
data056	8180	5130	う(ん)う(ん)、#サラ(リ)マ(ン)と(か)け(ね)、(若(い)子(が)案(外)あ(も)し(る)い)の(よ)ね、#ふ(ー)ん #き(き)よ(を)	書く	(の)ね、(そ(の)ま)ん(ま)の(を)ね、#へ(え)ー #気(軽)に(で)き(る)の)よ(ね)、き(っ)と(ね)。	カク	書く		動詞一般	五段-カ行	連体形一般	2001年10月16日	F068宅	F068はF032の叔母、F070はF032の従兄の奥さん。	3	F068	女性	90代前半	東京都

図 4-6 『名大会話コーパス』における「書く」の検索結果

上図に示されるように、語に関する基本的な情報のほかに、収録場所、参加者関係、会話参加者数、発話者の性別・年齢・出身地・居住地も付与されている。発話の量や質ともに発話者の特性や発話場面によって影響されるが、こうした細かい情報を活用することで、内省や直感だけでは把握できない言語事実を見出すことが期待される。

以上で、NUCC の構築法と検索法を概観してきた。雑談にみられる言語現象を調べるうえで、NUCC は研究価値の高いコーパスといえる。

4.1.4 中日対訳コーパス

本節では主として本論文の第 11 章で使用する『中日対訳コーパス (Chinese-Japanese Bilingual Corpus, 以下 CJBC)』(中日対訳語料庫)を概観する。

CJBC は、北京日本学研究中心が中国社会科学基金研究プロジェクトである「中日対訳コーパスの構築とその応用研究 (研究代表者: 徐一平)」のもとで開発した対訳コーパスである。

4.1.4.1 CJBC の内容構成

CJBC には、小説、エッセイ、伝記、政治評論・白書、法律関連文書・条約文書、詩など各ジャンルの中日対訳テキストが含まれており、2000 万字のデータが収録されている。

以下は、その詳細である。

表 4-7 CJBC の構成

	中国語文献 (万字)		日本語文献 (万字)		合計 (万字)
	原文	訳文	原文	訳文	
小説	287	422	244	224	1177
散文(エッセイ)			18	16	34
伝記	106	157	30	23	315
詩歌			11	9	20
論説	132	205	20	16	373
法律			1	0.78	1.78
その他	5	7	45	36	93
小計	529	791	369	324.78	2013.78

徐 (2009) より引用

中国語原文のもの、日本語原文のものが含まれているが、本論文は日本語オノマトペの中国語への翻訳問題を扱う観点から、日本語原文のものに限る。収録されているテキストのうち、日本語原文のものは以下のとおりである。

表 4-8 収録作品一覧

日本語原作	中国語訳
あした来る人	情系明天
坊っちゃん	哥儿
越前竹人形	越前竹偶
布団	棉被
雁の寺	雁寺
破戒	破戒
鼻	鼻子
金閣寺	金閣寺

こころ	心
高野聖	高野圣僧
黒い雨	黑雨
野火	野火
ノルウェーの森	挪威的森林
羅生門	罗生门
青春の蹉跎	青春的蹉跎
飼育	饲养
死者の奢り	死者的奢华
砂の女	砂女
斜陽	斜阳
痴人の愛	痴人之爱
友情	友情
雪国	雪国
日本戦後名詩百家集	日本战后名诗百家集
百言百話	百言百话
ひとりっ子の上手な育て方	独生子女优育法
激動の百年史	激荡的百年史
日本経済の飛躍的な発展	日本经济的腾飞
心の危機管理術	顺应自然的生存哲学
近代作家入門	日本近代作家介绍
マッテオ・リッチ伝	利玛窦传
日本列島改造論	日本列岛改造论
日本国憲法	日本国宪法
サラダ記念日	沙拉纪念日
タテ社会の人間関係	纵式社会的人际关系
適応の条件	适应的条件
五体不満足	五体不满足

中国語と日本語の対照研究において、個別な作品を対象とする傾向があり、大量のデータを根拠とした研究が少ない。その背景には、大規模な中国語と日本語対訳コーパスが存在しないということがあげられる。この問題を解決するために、CJBCが開発され、中日対照研究のための初めての大规模なコーパスとなる。しかしながら、CJBCにはいくつかの課題も残されている。

1 点目はコーパス全体の大半は小説であるということである。実際、小説として、中国語原作 23 篇、日本語原作 22 篇、文学以外の作品として、中国語原作 14 篇、日本語原作 14 篇、日中共同 2 篇とその訳本が収録されている。また、小説以外の作品としては、エッセイ、伝記、政治評論・白書、法律関連文書・条約文書など、比較的公的な内容のものも含まれている。ただし、データ量が限られている。この点において、『中日対訳コーパス』を使用する際には、データの性質を十分に把握する必要があると思われる。

2 点目は、収録されている作品の長さが調整されていないということである。『羅生門』のような短編小説もあれば、『ノルウェーの森』のような長編小説もある。一般に、文章が長くなれば長いほど、言葉の重複が多くなる傾向がある。この点において、使用頻度を比較するのに、作品の長さの影響を考慮する必要がある。

以上のように、量的研究の資料としてはCJBCには課題が多いが、質的研究にとってはCJBCが非常に貴重なデータであるといえる。

4.1.4.2 CJBC の検索法

CJBCは現在北京日本学研究中心が管理しており、有償で専用の検索プログラムを入手することができる。以下ではこのプログラムの紹介を行う。まず、パスワードをすることで、以下の画面が出てくる。



図 4-7 検索画面

「検索文書設定」ボタンをクリックすると、検索文書指定のダイアログが現れ、そこで検索対象が原文か訳文か、言語の種別、および文書を指定する。



図 4-8 検索文書設定

検索範囲を決め、実施したい検索タブを選択し、検索条件を設定して「検索」ボタンを

押すと検索が開始する。そしてインターネットブラウザに検索結果が逐次表示され、検索結果を印刷したり、ほかのファイルに保存したりすることができる。

以下では、原文を日本語に指定した場合の「書く」の検索結果を示す。

No	行番	あした来る人(原文)	情系明天(訳文)		
1	5130	「山へ行くのに、それだけ足りないんです。二三出すというところはあるんですが、条件がつくんです。登山記を書くとか、撮影写真の版權を渡すとか、その会社提供のテレビに何回か出るとかー」	“登山还差这个数目。倒也有两三处可以出。但都有附加条件。或是要求写登山记。或是要求享有照片版权。或是要求上几次那家公司提供的电视……”		
2	5850	そうしている中に、秋の気は、日一日濃くなって行った。秋の初めから半ばへの移り方とほとんど同じ速度で、杏子の克平への思慕もまた眼に見えて深まって行った。消えるどころか強くなる一方だった。十日間の苦しい明け暮れの果てに、杏子はとうとう克平へ手紙を書くことに依って、その苦しきから脱け出そうと思った。	如此一来二去，秋色一天浓似一天。杏子对克平的思慕也以同初秋过度到中秋几乎相等的速度日益加深。它非但没有消失，反而愈演愈烈。经过十天朝思暮想的痛苦之后，杏子终于决心通过给克平写信的方式，来使自己从痛苦中挣脱出来。		

No	行番	坊ちゃん(原文)	哥儿(1)(訳文)	哥儿(2)(訳文)	哥儿(3)(訳文)
1	486	祝勝の式は頗る簡単なものであった。旅団長が祝詞を読む、知事が祝詞を読む。参列者が万歳を唱える。それで御仕舞だ。余興は午后にあると云う話だから、一先ず下宿へ帰って、此間中から、気に掛っていた、清への返事をかきかけた。今度はもっと詳しく書いてくれとの注文だから、なるべく念入に認めなかつた。然し、いざとなつて、半切を取り上げると、書く事は沢山あるが、何から書き出していいか、わからない。	祝捷典礼非常简单。旅长致祝词。县知事致祝词。与会者呼喊万岁。然后就散会。听说演出要在下午举行。我先回到寓所。给我朝夕惦念的阿清写回信。她嘱咐我这次要详细一些。所以我必须认真写好这封信。然而，一摊开封笺时，要说的事千头万绪，不知从何处下笔。	庆祝胜利的仪式非常简单。当地驻军的旅长念贺词。县知事念贺词。到会的呼万岁。这样就万事大吉了。据说下午有余兴演出。俺先暂且回到家来。开始写那封俺一直挂在心上的回复清婆的信。这次清婆提出要俺写得再详细些。所以必须用心去写。但是，一旦俺真的铺开信纸，要写的事虽然很多，却不知从哪里写起才好。	祝捷大会的仪式非常简单。旅长致祝词。县知事致祝词。参加者齐呼万岁！这就算完了。说余兴安排在下午。我便先回到住处。给一直惦念的阿清婆写回信。她嘱咐说这次回信要写得详细些。所以得尽可能认真地写。可是，拿出纸来，一动手写，光是觉得要写的事很多，却不知从何写起。
2	542	「居なくても訳ないさ。嘘をついて、事実これこれと話しや、すぐ書くさ」	“即便没有也好办。撒个谎，捏造些事实，马上就能登。”	“没有熟人也沒问题嘛。扯个谎，说点什么事实如此如此，就会立刻写成消息的。”	“没有朋友也不要紧。只要捏造一番，说情况是如此这般，就立刻给写。”

図 4-9 「書く」の検索結果

上図で示されるように、「書く」の検索結果は作品ごとに赤字で表示される。操作は非常に簡単で、作品別の比較も容易にできる。くわえて、候補語指定(特定)のタブで以下のような検索もできる。

表 4-9 検索例

検索機能	説明	指定例				得られる結果の一例
		前接	後接	間隔	デリミタ	
1 語指定	前接語のみを指定する。	中国				中国語，中国の人間，中国新聞社
複数語OR	単語を' 'で併記する。	中国 日本 韓国				日本橋，日本人，日本の登山史，中国語，中国の人間，中国新聞社
		中[国心間]				中国，中心，中間

		中((心部) (間部))				中心部, 中間部
除外文字指定	指定した文字の除外を指定する。	中 [^ 国 心 間]				中に, 中年, 中で, 中へ, 中央, 中程
文型指定	前接語、後接語を指定する。	たとえ	ても			たとえ小さくても, たとえどんなことになっても, たとえ処置できても
間隔文字数	前接語、後接語の最低間隔文字数を指定する。	たとえ	ても	5		たとえ、彼が彼女の愛人であったとしてもいいではないか、「たとえ高等師範を卒業して、中学か師範校かの教員に成ったとしたところで、もしも蓮太郎のような目に逢ったらどうする。何処まで行っても」
デリミタ	前側語、後側語に含まれてはいけない文字を指定する。	たとえ	ても	5	。。	たとえ、彼が彼女の愛人であったとしても, たとえどんなことになっても

また、パタンというタブを指定すれば、AABB (そのままここに居ります)、ABAB (もともと)、ABB (そのまま声は出さないで)、ABA (いない)、AAB (いいんです)、AA (時時) の6パターンで検索ができる。

以上で、CJBCの構築法と検索法を概観してきた。CJBCは現在唯一の中国語と日本語の平行コーパスとして、研究価値が非常に大会といえる。しかしながら、課題も残されている。たとえば、原文の言語を指定すれば、簡単に検索ができるようになっているわけであるが、対応する訳語は指定されておらず、必要に応じて利用者が手作業で判断する必要がある。くわえて、形態素解析が行われておらず、例えば、「書く」の場合、「書いて」「書いた」「書かなかった」などの活用形はそれぞれ個別の検索が求められる。これらの点を留意して調査を行うことが重要であるといえる。これらの点に注意して利用すれば、中

日両言語の相違点を知るうえで極めて価値の高いコーパスであると言ってよいだろう。

4.1.5 多言語母語の日本語学習者横断コーパス

いわゆる学習者コーパスには2種類のもので存在する。1つは様々に習熟度の異なる学習者から横断的にデータを集めたもので、もう1つは1人もしくは少数の学習者を定めその学習者が発達の過程で産出した書き言葉や話し言葉を時系列に収集していくものである。前者は横断コーパスと呼び、後者は縦断コーパスと呼ぶ。本節では主として本論文の第12章で使用する『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (International Corpus of Japanese as a Second Language, 以下 I-JAS)』について概観する。

4.1.5.1 既存の学習者コーパスの課題

本論文で使用する I-JAS は日本語学習者コーパスとして、極めて大規模、かつ信頼性の高いものであるが、I-JAS が出現するまでには、様々な日本語学習者コーパスが作られてきた。以下は日本語学習者作文コーパス、作文対訳データベース、JCK 作文コーパス、学習者作文コーパス「なたね」の概要である。

表 4-10 既存学習者作文コーパス (横断コーパス)

コーパス	構築代表 (公開年)	母語/収集国とその人数	テーマ
日本語学習者作文コーパス	李在鎬 (2010)	韓国語 (144), 中国語 (160)	外国語がうまくなる方法について、インターネット時代に新聞や雑誌は必要か
作文対訳データベース	宇佐美洋 (2009)	韓国(239編), スリランカ(179編), マレーシア(147編), タイ(141編), インド(119編), カンボジア(110編), ブラジル(105編)など世界22か国1751名	あなたの国の行事について、たばこについてのあなたの意見, ワープロソフトについてのあなたの意見, 外国からの援助についてのあなたの意見, あなたの国の料理について, 外国語の学習についてのあなたの意見, あなたの国の歴史上の大きな

			事件, 学校の教育についてのあなたの意見, 大学受験についてのあなたの意見, 仕事についてのあなたの意見
JCK 作文コーパス	金井 勇人 (2016)	日本語母語話者, 中国, 韓国 20 名ずつ	説明文: 自分の故郷について, 意見文: 晩婚化の原因とその展望について, 歴史文: 自分の趣味 (昔から続けていること) について,
学習者作文コーパス「あなたね」	仁科喜久子 (2012)	中国語(115), マレータイ語(36), ベトナム語(13), 韓国語(11), その他(17)	様々

これらの学習者コーパスはいずれも先駆的なもので, それぞれ価値を持つが, 全体としてみると, 以下のような問題点が存在する (迫田他, 2016)。

- a) 母語別・学習環境別のデータ数が少なく, データに言語の偏りがある
- b) 学習者の背景情報が不足している, または詳細ではない
- c) レベル判定が, 日本語能力の客観テストとしては不十分
- d) タスクのバリエーションが乏しい
- e) 同一の学習者による発話と作文を備えたデータが少ない
- f) 検索システムを備えたものが少ない

これらの問題点を解決するために開発されたのが, 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)』である。以下, I-JAS の概要について紹介する。

4.1.5.2 I-JAS の概要

すでに述べたように, I-JAS は従来の学習者コーパスの課題を解決するために構築された大規模な学習者コーパスである。ここでは, I-JAS の概要に関して, 1) 対象学習者, 2)

背景情報, 3) タスク構成, 4) タグ付けの4点について順に概観していく。

まず, 上記の1) 対象学習者については, I-JAS はインドネシア語, スペイン語, タイ語, トルコ語, ハンガリー語, フランス語, ベトナム語, ロシア語, 英語, ドイツ語, 韓国語, 中国語の12種のそれぞれを母語とする学習者のデータを体系的に収集している。加えて, 日本語母語話者および教室環境と自然環境の学習者のデータも50人ずつ収集している。以下はその詳細である。また, 2016年5月に第一次データ, 2017年6月第二次データが登録者向けに無償で公開されている。

表 4-11 調査地および調査環境別の公開予定人数と言語類型

	環境／母語	言語類型	公開予定と 既公開人数 (人)	
1	インドネシア語	オーストロネシア語族	50 (15)	
2	スペイン語 50	印欧語族—イタリアック語派	50 (15)	
3	タイ語	カム・タイ語族	50 (15)	
4	トルコ語	アルタイ語族	50 (50)	
5	ドイツ語	印欧語族—ゲルマン語派	50 (0)	
6	海外(教室	ハンガリー語	ウラル語族	50 (15)
7	環境)	フランス語	印欧語族—イタリアック語派	50 (15)
8		ベトナム語	モン・クメール語族	50 (15)
9		ロシア語	印欧語族—スラブ語派	50 (15)
10		英語	印欧語族—ゲルマン語派	100 (50)
11		韓国語	不明	100 (50)
12		中国語	シナ・チベット語族	200 (50)
13	国内	教室環境	100 (40)	
14		自然環境	50 (40)	
15		日本語母語話者	50 (50)	

迫田他 (2016) の表を参照し筆者が修正


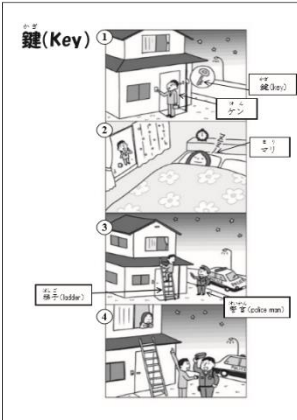
このように, 世界中の主要言語がほとんど含まれており, さらに, 自然環境か教室環境


かという学習環境も考慮された。人数は 50 か 100 かにそろっていることも評価すべきところである。

2) 背景情報については、まず、学習者の性別、年齢、身分または、参考利用の有無、タスクの所要時間、文章構成の学習歴の有無といった情報をアンケート調査で把握し、さらに習熟度を測るために 2 種類の日本語能力の客観テストを行った。それぞれ J-CAT (日本語テスト, Japanese Computerized Adaptive Test) と SPOT (Simple Performance-Oriented Test) である。J-CAT は聴解、語彙、文法、読解の 4 つに分かれて、出題される問題や問題数は受験者によって異なるが、所要時間は 1 時間程度である。SPOT は自然発話速度で読み上げられた文を聞きながら、空欄のところを 1 文字で埋める穴埋めテストである。所要時間は 15 分程度である。このように、学習者の習熟度を把握することが可能になるだけでなく、異なる母語の学習者間の習熟度別比較も可能になる。

3) タスク構成については、学習者の産出を全面的に見るために、タスクを対面調査と作文調査の 2 つのセクションに分け、さらにそれぞれの調査にバリエーションに富んだタスクを設定した。以下は調査タスクの詳細である。

表 4-12 I-JAS のタスク構成

対面調査	ストーリーテリング	  <small>図1 ストーリーテリング イラスト1 図2 ストーリーテリング イラスト2</small>	左の図のように 2 つのストーリーについて話させる 2 つの課題
	対話	OPI を参照し、15 話題の枠組み内での自由発話。前半は過去、現在、未来に関するもので、後半は、意見陳述や反論ができるような話題である。	
	ロールプレイ	日本料理店でのアルバイトという場面を設定し、店長に出勤日数の変更依頼と仕事内容の変更依頼の 2 タスク	

	絵描写	 <p>左の図についての描写課題，動詞の活用の使用実態の調査が目的である。</p>
	ストーリーライティング	ストーリーテリングと同一の 2 種類のタスクを PC で入力させるという課題である。
作文調査	メール文	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師に奨学金のための推薦状を依頼する 2. 教師に期日までにレポートを提出できないことを伝える 3. 教師に自国の案内を依頼されたが、用があるため対応できないことを伝える
	エッセイ	私たちの食生活：ファーストフードと家庭料理

迫田他 (2016) より筆者が作成

他のコーパスと比べて発話と作文の両方が含まれているのが I-JAS のタスク構成の特徴である。これがあることによって、話し言葉と書き言葉の比較も可能になる。

最後に、4) タグ付けについて、I-JAS のもう 1 つの特徴は学習者の発話や作文について、詳細な文法情報がタグとして付与されていることである。一般に母語話者の日本語であれば機械的に解析することが可能であるわけだが、学習者の発話や作文にはエラーや不適切な用法も多く、機械でタグ付けすることが非常に難しい。そこで、I-JAS では専門家がそれぞれのテキストを分析して手作業でタグを施した。主なタグセットは以下のとおりである。

表 4-13 I-JAS の固有タグ

処理	内容	タグ表記
解析から除外	意味不明語 語の断片	[a=X]

解析用の語を指定	語中の長音, ポーズ	[a=T=β]
	語や活用や発音の誤り	[a=G=β]
	フィラーを感動詞に指定	[a=F]
解析用の品詞を指定	外国語を名詞に指定	[a=N]
	連体詞に指定	[a=R]
	発音不明瞭 (a1 か a2)	[a1/a2=H]
曖昧性への対応	複数の読みがある漢字語 A	[a (読み) =Y]

迫田他 (2016) より引用

こうしたタグを利用することで単語単位での検索や品詞単位での検索だけでなく、ポーズや言い間違いなどに注目した検索も行えるようになっている。

4.1.5.3 検索法

すでに述べたように、コーパスに求める要件の中で重要なのは広く使用が可能になるように公開されているということである。I-JAS は現在登録者を対象にテキスト全文を公開している。また、加えて、国立国語研究所が開発したコーパスの共通検索インターフェース「中納言」で検索することも可能になっている。

すでに BCCWJ の検索方法に関して述べたように、I-JAS は「中納言」を介して多様な検索が可能になっている。ここでは、「書く」を例として取り上げて検索結果を見てみることにしよう。

サンプル ID	連番	発話番号	話者	前文脈	キー	後文脈	語彙素	語彙素読み	品詞	活用
CCM02-I 音声ファイル ブレイクテキスト フェイスシート	23160	02280	K	、 いろんな こと 件 が 、 あこ 、 起 こ ら せる # うん # あーん 、 い ろんな 一 定め が 、 本 に	書き	ま し た (うんうんうん) 、 そ れ は 画 白 い と 思 い ま す # うーん い ろんな 定 め (はい) 、 決 ま り 事 と か # はい # へー ^F	書く	カク	動詞 -一般	五段 行
CCM02-I 音声ファイル ブレイクテキスト フェイスシート	43460	03760	K	一 人 で 、 考 え る 、 考 え 、 うーん い ろんな こ と を 考 え ま す 、 あー ん あ る 時 、 小 説 を	書き	ま ず # 小 説 も 書 い た り す る ん で す か ? # えー 時 々 # んー 、 そ う で す か # はい はい # んー ^F	書く	カク	動詞 -一般	五段 行
CCM07-RP1 音声ファイル ブレイクテキスト フェイスシート	2990	00140	K	そ う 卒 業 、 う 卒 業 、 し た い ん 、 か う 卒 業 る ん 論 文 を 、 き ろ う き か	聞 か な け れ ば な ら 、 な い の で ^o 書 か	ー ^o ー ^o ー ^o ー ^o ー ^o う 、 な な け れ ば な ら な い の で か な か 時 間 は 、 う あ り ま せ ん # あー そ う か 、	書く	カク	動詞 -一般	五段 行

図 4-10 「書く」の I-JAS における検索結果

まず、左側に学習者の通し番号が示されている。さらに、音声ファイル、プレインテキスト、フェイスシートが提供されている。音声ファイルをクリックすれば、実際の学習者の発話の録音音声を聞くことができる。プレインテキストはその書き起こしテキストである。フェイスシートをクリックすれば、当該学習者はどのような背景情報を持った学習者であるかを確認することができる。

さらに、ここでは3例目に注目したい。本来は「書かなければならない」というべきところを誤って「聞かなければならない」と発話している。しかし、コーパス開発チームが誤用を修正し、「書く」という情報を補っているため、これも検索によって取り出すことができる。つまり、学習者が正しく使った「書く」の用例、学習者が間違えて使った「書く」の用例、学習者が間違えて使わなかった「書く」の用例、の3種類を同時に取り出せることがこの検索システムの大きな特徴である。

以上、既存学習者コーパスの問題点を確認したうえで、I-JAS の概要とその検索方法を見てきた。I-JAS は既存の学習者コーパスの問題点の多くを解決しており、学習者産出分析に非常に有用な資料となっている。

4.1.6 日本語学習者書き言葉コーパス

すでに4.1.5で横断コーパスであるI-JASを概観してきたわけであるが、本節では本論文の第13章で使用する縦断コーパス『日本語学習者書き言葉コーパス』（日语学习者书面语语料库）を概観する。

4.1.6.1 既存の日本語学習者縦断コーパスの問題点

本論文は主として『日本語学習者書き言葉コーパス』使用するわけであるが、このほかに同じ縦断コーパスとして『中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス (C-JAS)』及び『LARP at SCU コーパス』『華東政法大学作文コーパス』『魯東大学会話コーパス』『湖南大学学習者中間言語コーパス』も存在する。しかしながら、一般公開しているものが少なく、以下では入手可能な『中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス (C-JAS)』及び『LARP at SCU コーパス』の概観を示すこととしよう。

表 4-14 既存学習者作文コーパス（縦断コーパス）

コーパス	構築代表（収集時期）	母語/収集国とその人数	テーマ
中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス (C-JAS)	迫田久美子 (1991年7月～1994年3月)	韓国語3名・ 中国語3名	自由会話
LARP at SCU コーパス	陳淑娟 (2004年3月～2007年5月)	台湾東呉大 学日本語学 科学生37名	私の一日，春休み，私の部屋，台湾の野良犬，少子化，大学生の恋愛観などの33テーマ

縦断コーパスがなかなか入手できないという現状をふまえ、上記の2つのコーパスは学習者の日本語の発達を知るうえで非常に貴重なデータであるといえる。中国人日本語学習者のオノマトペ学習の問題点を探るため、学習者が発達の段階においてオノマトペをどのように変化していくのかを調べる必要があり、縦断コーパスを用いた調査が不可欠である。しかしながら、C-JASで調査対象となるのは日本国内の日本語教育を受けた学習者であり、LARP at SCUについても調査対象は台湾で日本語教育を受けた学習者で、中国国内で日本語教育を受けた日本語学習者の問題点を十分反映していない可能性もある。この問題を解決したのが『日本語学習者書き言葉コーパス』である。以下、『日本語学習者書き言葉コーパス』の概要について紹介する。

4.1.6.2 『日本語学習者書き言葉コーパス』の概要

本節では主として本論文の第13章で使用する『日本語学習者書き言葉コーパス』（日語学習者书面語語料庫）について概観する。

『日本語学習者書き言葉コーパス』は上海交通大学文科科研研究課題「学習者書き言葉コーパス及び日本語教育研究」（代表者：張建華）の一環として開発された学習者コーパスである。このコーパスは上海交通大学（j）、東北師範大学（d）、上海師範大学（c）、上海外国語大学（a）、南開大学（n）の5つの大学の日本語学科の学生401名による1931編の作文を収録しており、総文字数は1,607,033文字である。ホームページによるとデータの構成数は以下のとおりである。

表 4-15 データの構成 (ホームページより引用)

収集時期	人数	篇数	文字数
第 3 学期	33	389	212012
第 4 学期	66	503	357075
第 5 学期	98	376	328787
第 6 学期	113	305	316074
第 7 学期	59	326	358005
第 8 学期	32	32	35080
合計	401	1931	1607033

作文のテーマは多種多様で、学生が興味ありそうな様々な社会問題などが含まれている。利用制限により、すべてのデータを入手することができないが、筆者の調査により、以下のことがわかった。

表 4-16 データの内訳 (筆者作成)

学校	テーマ	人数	収集時期
n	1~2 テーマ (新聞を読んで、日本語と中国語に思うこと)	不明	2000.10.31
d	27 テーマ (私と日本語、私の好きな言葉、故郷、信頼、自動車と交通、高校時代の恩師、手紙、失われつつあるもの、大学就職難について、北京オリンピック、赤信号、真の幸せ、春節の休み、新聞を読んで、胡錦濤訪日、四川大地震、感動した一冊の本、地球を守ろう、携帯電話、私の母、クラスメート、のんびりと暮らそう、日本の若者に伝えたいこと、情報社会とマナー、長崎コラム、未来を、など)	33	2007.1~ 2008.12.30
a	13 テーマ (日本語学習と私、F 1 レースからの感想、忙しい国慶節、魔法の世界——不思議な遊び、大変！社会の勉強、父、私の尊敬する人、十年後の私、一番悩んでいること、勉強の理由、永遠の友情、許せないことについて、珍しい雪、	76	2004.3~ 2005.1.2

	どんな人でも長所があるなど)		
c	1～6 テーマ (蒟蒻芋, 感想文, 春節など)	88	2003.11～ 2005.4.30
j	1 テーマ (夢に向かってなど)	不明	不明

以上の 2 つの表に示されるように、『日本語学習者書き言葉コーパス』には身近なテーマについて書かれた幅広い学習者の書き言葉の産出が集められているという長所がある。一方で、統制的に作られてはいないため、例えば、収集時期に注目すると、6 種の時期の中でそれぞれのデータ収集に参加した学生数は 33～113 と 4 倍近い開きがある。また、5 つの大学で並行的にデータを取得したわけであるが、学校によって選ばれたテーマには一貫性がなく、異なる学校で取られたデータを総合比較して分析することは難しくなっている。このようにいくつかの問題はあるものの、すでに述べたように、4.1.6.1 節で紹介した縦断コーパスに比べると相対的に多くのデータを収集していることから、研究上の資料としての価値は高いと判断できる。

4.1.6.3 『日本語学習者書き言葉コーパス』の検索法

使用許可を得てウェブサイトにおいて検索することができる。入力した語に対して、当該語を含む用例が抽出されるが、一般ユーザーの場合最大 50 編しか見られないようになっている。検索画面は以下の通りである。

Corpus 全文検索 誤用検索 お知らせ 利用方法

書く

執筆者の在籍学校: 指定なし▼ 執筆者の性別: 指定なし▼ 日本語学習時間数: 指定なし▼
 執筆者の母語: 指定なし▼ 作成学期: 指定なし▼ 執筆者番号:
 1ページの表示件数: 30

| 1 | 2 ... 次へ

作文番号	執筆者番号	タイトル	作成学期	作成日	字数
j0092	a15	尊敬する母	x7	2004.10.25	641
... 気よく回答して あげましたあげていました。 暑休み夏休みも教科書を書くために、資料を調べたり、コンピ...					
j0179	a15	私の悩み	x7	2004.11.29	1093
... 集中し話 をしています。履歴書を書くから面接の技法まで、ごく細かい... ... 準備の段階としては、履歴書を書くこと が一番大切です。HRの責任...					
j0257	a12	許せないこと	x7	2004.12.20	1058
... どの、普通は自分の目で見ることを書く。その中、自分の初恋や、振られ...					
j0346	a24	お願いいたします	x7	2004.12.30	842
... まず、学生にして、教科書を書くことも大変だと思いますね。例え...					
j0359	a01	青い鳥について	x7	2005.1.2	607
... のが、私達にとってはこの文章を書く時も、書き終わった後も不幸にし... ... からない言葉や、文法などを一杯書く。本当にいやになってしまうんだ... ... に、こんな文章では本当に本当に書くために書くことになってしまうの... ... 文章では本当に本当に書くために書くことになってしまうのだ。 たら、点数のためだからいやでも書くけど。...					

図 4-11 「書く」の検索結果

上記に示される、検索したい語を入力すると、該当語を含むコンコーダンスラインとその作文のタイトルが同時に表示される。この時、作文タイトルをクリックすれば、該当箇所のみならず、作文の全体を閲覧することができる。ただし、すでに述べた条件があるため、閲覧できる作文数は最大でも 50 編となっている。

また、生データと誤用タグ付けデータの 2 種類が含まれている、前者は学生の作文をスキャンしたもので、後者は日本語専門家の判断により誤用を付与したものである。タグセットは以下のとおりである。

表 4-17 『日本語学習者書き言葉コーパス』における誤用タグセット

	タグ	パターン		タグ	パターン
表記	Hk1	漢字	単語	R1	名詞と形容詞

	Hk2	仮名		R2	副詞と動詞
	Hk3	数字・符号・その他		R3	名詞と動詞
	Hk4	書き間違い		R4	名詞と名詞
文	B1	多余		R5	形容詞と名詞
	B2	脱落		R6	形容動詞と名詞
	B3	テンス		R7	形容動詞と動詞
	B4	構成・意味		R8	形容詞と動詞
	B5	ヴォイス		R9	定型表現
文体・段落	Ss1	文体			
	Ss2	符号			
	Ss3	順序			
	Ss4	段落・書式			

(ホームページにより引用)

上表に示されるように、誤用のタグセットは非常に細かく、単語から段落・文体まで幅広い誤用タイプをカバーしており、これらの情報を活用すれば、学習者の産出にみられる誤用を体系的に調べることができるようになっている。

以上で、『日本語学習者書き言葉コーパス』の概要およびその検索法を概観してきた。すでに述べたように、作文テーマや収集時期は完全に統制されていないが、これらの点に注意して利用すれば、『日本語学習者書き言葉コーパス』は中国国内での日本語教育のあり方を知るうえで極めて価値の高いコーパスであると言ってよいだろう。

4.2 研究対象とするオノマトペとその分類

4.2.1 研究対象とするオノマトペ

オノマトペ研究を行う場合、何がオノマトペであり、何がオノマトペでないかを明確に定義することがきわめて重要になる。たとえば、「どんどん」や「わくわく」をオノマトペと呼ぶことに異論がないであろうが、「きっと」や「ちょっと」のような語をオノマトペとするかどうかはすでに先行研究で見たように様々な見解の相違がある。

本論文では対象とするオノマトペの範囲を認定するために、何らかの言語学的な基準を

立てるのではなく、先行研究において広くオノマトペと認定されているものを対象とする方針を取る。そのため、以下の6種のオノマトペ辞典の収録語をすべて調査した。

表 4-18 6種のオノマトペ辞書

編著者	出版年	出版社	辞書	見出語数
天沼寧	1974	東京堂出版	『擬音語・擬態語辞典』	1565
浅野鶴子	1978	角川書店	『擬音語擬態語辞典』	805
阿刀田稔子・星野和子	1995	創拓社	『擬音語擬態語使い方辞典』	738
飛田良文・浅田秀子	2002	東京堂出版	『現代擬音語擬態語用法辞典』	1064
山口仲美	2003	講談社	『暮らしの言葉擬音・擬態語辞典』	1381
小野正弘	2007	小学館	『日本語オノマトペ辞典』	4564 (本論文 で使用 3927)

以上の辞典に含まれているすべての語を合算すると全体で延べ語数は9485種で、異なり語数は4189語となる。これらの4189語を本論文ではオノマトペと認定する。なお、小野（2007）の『日本語オノマトペ辞典』の全体の見出し語数は4564であるが、その中には「藹々」「諤諤」「嫋々」などの漢語オノマトペ420種と鳥・虫・動物の鳴き声オノマトペ217種が掲載されている。扱いが異なることから本論文では、漢語オノマトペと鳴き声オノマトペを対象から除外することにした。最終的に、3927種を見出し語として調査対象とした。

4.2.2 本論文におけるオノマトペの分類

すでに2.2及び2.3節においてオノマトペの分類を概観してきたが、オノマトペの内部構造がはっきりされていないという課題も残されている。このように考えれば、オノマトペの内部分類を整理する必要がある。従来の研究はオノマトペの起源が生物であるか無生物であるか、また、人間であるか非人間であるかに力点を置いてきたわけであるが、いずれの場合もそれを視覚し、表現しているのが人間である。すなわち、オノマトペはどのよ

うな対象のものであったとしても、人間の視点から、描写されたものであるということになる。そこで、本論文では新たに、分類の絶対起点として「人間」を設定する。そのうえで、人間が対象を捉える際に用いる五感を分類観点に立て、オノマトペの新しい分類を試みる。その概念図は以下の示す通りである。

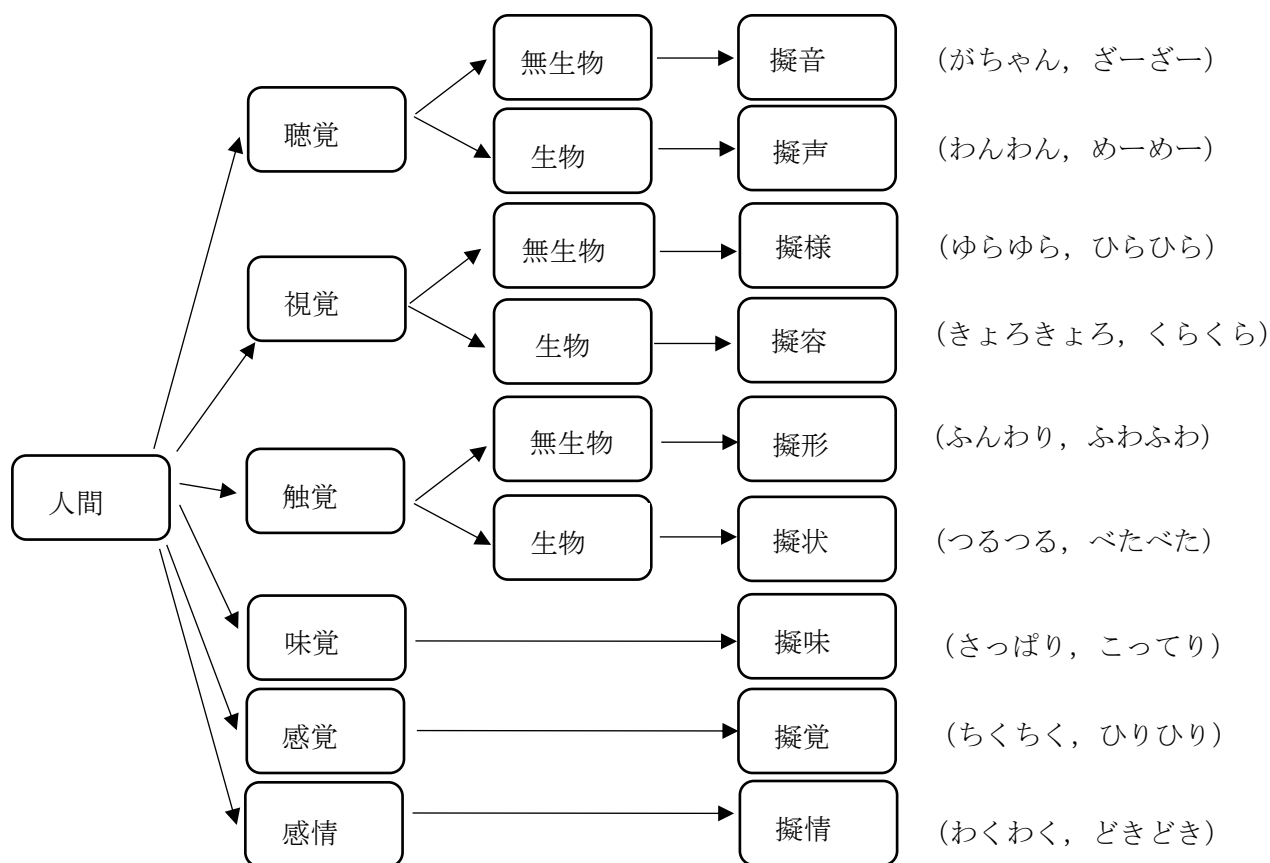


図 4-12 本論文におけるオノマトペの分類

上記に示されるように、五感を出発点として考察すると、オノマトペは6つのグループに分けられる。聴覚は従来の擬音語、視覚・触覚・味覚は従来の擬態語、感覚・感情は従来の擬情語に相当すると考えられる。また、その性質をさらに再区分してみれば、9つのグループに分類できる。なお、ここでいう五感はいずれも独立した個体ではなく、Akita (2009)も言うように、これらは階層関係を構成している。聴覚→視覚→触覚→味覚→感覚→感情のように外部から内部へと浸透していく。Akita(2009)の「語彙的類像性階層」理論をふまえば、本論文で提案した枠組みは以下のような階層関係を構成している。

(2-1) 臨時オノマトペ>聴覚オノマトペ>視覚オノマトペ>触覚オノマトペ
>味覚オノマトペ>感覚オノマトペ>感情オノマトペ>一般語

(2-2) 臨時オノマトペ>擬声語>擬音語>擬容語>擬様語>擬形語>擬状語
>擬味語>擬覚語>擬情語>一般語

ただし、金田一（1978）、日向（1990）、秋田（2013）も指摘したように、これらの下位分類はオノマトペ範疇内に明確な境界線を引くものではない。たとえば、次の用例を見よう。

(1) 覇砂羅は両手を広げ不敵な面構えをした。上空はより一層、ゴロゴロと雷が鳴り、横風が強くなって来た。（書籍 PB39_00252）

(2) なにかに吸い寄せられていくみたいです。「わあ」春子は足がもつれて転びましたが、そのままごろごろと夜の砂漠を転がっていきました。（書籍 LBe9_00188）

(3) 気がつけば、この寂しい世界で自分だけが起き、ゆらす木の葉もないのにザワザワと鳴る風の音を聞いている。（書籍 PB39_00082）

(4) ちょうど作文の時間で、皆ざわざわしていました。私はどの先生の授業でもざわざわしているほうなのですが、そのときは偶然にも窓の外を見ていました。（書籍 PB39_00112）

(1) (2) は同じく「ごろごろ」であるが、(1) は雷の音を修飾しているので擬音語であり、(2) は人の転び方を修飾しているので擬容語である。同様に、(3) は擬音語、(4) は擬情語であると考えられる。このように、同じ語でも擬音語とされる場合もあれば、擬態語とされる場合もある。

本論文では、以下様々なオノマトペの計量分析を行っていくわけであるが、その際には、枠組みを前提として計量を行うのではなく、計量においては、あえて分類を行わず、語形の形で計量分類を行い、その解釈の際に枠組みを適合して考察を深めていくこととしたい。

4.3 使用する統計手法

本論文ではオノマトペの使用頻度を議論の根拠とする。頻度を扱う場合には、(1) 異なるコーパスから得られた頻度間に差があるかどうかを確認する必要と、(2) 個々のオノマ

トペについて、多様な観点で得られた数値データを統合的に解釈する必要がある。統計学では(1)に対して仮説検定を行い、(2)に対して多変量解析を行う。これら(1)、(2)には様々な手法が提唱されているが、本論文では(1)としてフィッシャーの正確確立検定、 t 検定、一元配置分散分析を利用する。また、(2)に関して回帰分析、コレスポンデンス分析、クラスター分析の2種を使う。以下それぞれの概要について述べておきたい。

4.3.1 仮説検定

本論文では、第10章において書き言葉と話し言葉の間に、使用量及び多様性の違いがあるかどうかを比較するために t 検定を行い、次に、オノマトペと一般語彙という語種の差が、モーラ数(第6章)、オノマトペの出現頻度(第9章)、オノマトペの使用量・多様性・誤用率(第11章)に、及ぼす主効果があるかどうかを検証するために一元配置分散分析を行う。

まず、仮説検定とは、「複数の頻度データに実質的な差(有意差)があると言えるかどうかを客観的に判断するために」利用する手法である(石川他, 2010)。

統計的仮説検定を行う場合、まず、比較対象間に有意な差がないという帰無仮説を立て、次に予想される統計量と実際のデータからとった統計量を比較し、それらの間には大きな開きがあれば、帰無仮説が間違っていると判断され、この場合帰無仮説を棄却し、対立仮説を採択することになる。すなわち、比較対象間に有意な差があると結論できる。

通例、どの仮説検定を選ぶかは扱うデータによって異なる。まず、2変数の間に統計学的に有意な関連があるかどうかを検討する場合、どの統計量を使うかによって、多様な手法が提唱されているわけであるが、たとえば、 χ^2 検定、 χ^2 のイエイツ補正や対数尤度検定が使用されてきた。しかしながら、最近ではこれらに代えて、フィッシャーの正確確立検定が推奨されている。かつては、データ量が大きい場合には χ^2 検定を使用し、絶対値が5未満の場合に限ってフィッシャーの正確確立検定ということもあるが、最近ではコンピュータの発達によって複雑な計算が簡単にこなせるようになったので、すべての場合に対して一律にフィッシャーの正確確立検定を行うことが推奨されている。

次に、2群間の平均を比較する場合、 t 検定が最も多く使われる。なお、 t 検定については従来繰り返しありと繰り返しなしを区分し、かつ、繰り返しなしの場合は、等分散が仮定できる場合と仮定できない場合、事前にF検定などで調べ、それぞれ異なる式で統計量を計算してきた。しかしながら、最近の研究ではこうしたデータの性質をあらかじめ調べ

て違う統計手法をかけるのではなく、どのようなデータであっても、最も厳しい統計手法を適応することがより妥当性が高いと言われている。こうした最近の考え方を反映し、本論文では t 検定においては最も厳しいウェルチの t 検定をすべてにおいて適用した。

3 つ以上の変数の平均を比較するに場合、最も多く使われるのは一元配置分散分析である。分散分析は、群間の平均値の差がそれぞれの群内の誤差に比べてどれくらい大きいかを調べて分析する方法である。一元配置分散分析はまず、各データ群のすべての組み合わせで差がないことという帰無仮説をたて、次に、群間で計算された分散と群内の分散の比である F 統計量を計算する。 F 統計量が高ければ、帰無仮説が棄却され、変数の差が及ぼす主効果が有意であるということになる。現在では、関西大学水本篤先生が開発した <http://langtest.jp/> というウェブサイトに入力すれば、簡単に計算結果を取得することができる。

4.3.2 多変量解析

多変量解析 (Multivariate Analysis) とは、石村・石村 (2007) によれば「多くの変量を総合的に取り扱う解析手法」である。多変量解析には、重回帰分析、主成分分析、因子分析、判別分析、クラスター分析などがあるが、本論文では重回帰分析、コレスポンデンス分析、クラスター分析を使用する。また、分析を行う際に本論文では石川他 (2010) で紹介されている Seagull-stat を使う。以下、順に重回帰分析、コレスポンデンス分析、クラスター分析の定義と行う際の手順を紹介する。

4.3.2.1 重回帰分析

本論文の第 8 章においてスル型オノマトペ動詞の成立モデルを構築するために、第 10 章においてオノマトペの使用量や多様性を決定するモデルを構築するために、重回帰分析を実施する。

回帰分析 (Regression Analysis) とは、1 つの連続データがほかの 1 つないし 2 つ以上の要因によってどのように変わるかという因果関係を探る分析手法のことである。結果となるデータは目的変数もしくは従属変数、原因となるデータは説明変数もしくは独立変数と呼ぶ。説明変数が 1 つの場合は単回帰分析、2 つの場合は重回帰分析と呼ばれている。数式で説明すると、以下のとおりとなる。

単回帰分析 $Y = aX + b$

重回帰分析 $Y = a_1X_1 + a_2X_2 + a_3X_3 + \dots + b$

上記の回帰式において、 Y は独立変数で、 X は説明変数である。単回帰式における a を回帰係数、重回帰式における a_1 、 a_2 などを偏回帰係数と呼ぶ。それぞれは目的変数に与える影響の大きさを表している。たとえば、年収は年齢、性別、就学年数、就業年数、職種といった要因によってどのように決定されるのかを考える場合、大量のデータを集めて計算すれば、上記のような重回帰式が得られ、年収を予測することができるようになる。ここで、注意しなければならないのは、 Y が連続データでなければいけないということである。また、性別のような質的データの場合は、0、1のダミー変数に変換すれば、モデルに組み込むことができる。ただし、たとえば性別として、男性と女性の2要因をダミー変数に変換して重回帰分析を行うと多重共線性の問題が生じ、モデルの妥当性が影響される。というのも、世の中の性別は一般に男性か女性かに分かれ、両者は事実上1つの要因であり、モデルを検討する際に1つの要素が2回入っているからである。ここで、どれか1つを分析から除いておく必要がある。

Seagull-statでは分析したいデータを反映し、重回帰分析のアイコンをクリックすれば、以下のような画面が出てくる。ここでは、第10章で検討するオノマトペの使用量が性別、年齢、発話方向性、発話内容の4つの要因によってどのように決定されるのかを例にとって見てみよう。

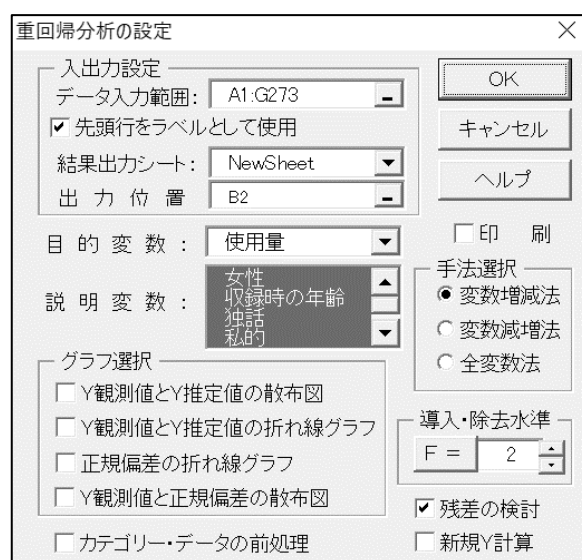


図 4-13 重回帰分析の設定画面

上記に示されるように、Seagull-stat では、重回帰分析手法として 3 つ計算方法がある。用意したすべての説明変数を用いてモデルを作りたい場合は「全変数法」を、説明変数の候補から最適なモデルを作りたい場合は「変数増減法」と「変数減増法」のいずれかを選ぶ。このうち、「変数増減法」が最もよく使われる。「変数増減法」とは、用意した説明変数の中から、1 つずつモデルに投入し、モデルの妥当性を計算して比較する。Seagull-stat では F 値が 2 以上を判断基準とする。本論文では、すべての重回帰分析において「変数増減法」を使用する。

4.3.2.2 コレスポネンス分析

次に、本論文の第 8 章においてはスル型オノマトペ動詞と種々の活用形の相対関係を、第 9 章においてはオノマトペのジャンル特性・共起語特性の相対関係を、第 10 章においてはオノマトペの使用量とジャンル特性の相対関係を、第 11 章においては異なる母語を持つ学習者のオノマトペの使用量と習熟度の相対関係を、調べるためにコレスポネンス分析を行う。

コレスポネンス分析 (Correspondence Analysis) とは、行列となったデータを 2 次元上に圧縮し、行と列の関係を視覚上によりよく観察することを可能にする多変量解析法の 1 つである。列方向のデータは第 1 アイテム、行方向のデータは第 2 アイテムと呼び、また、各々のアイテムに複数のデータが存在し、カテゴリーと呼ぶ。コレスポネンス分析のほかに、判別分析、クラスター分析、主成分分析などの分類手法も存在するが、それらに比べコレスポネンス分析は多くのメリットを持つとされている (石川他, 2010)。まず、第 1 アイテムと第 2 アイテムが入れ替わっても結果は変わらない。次に、クラスター分析は変数と個体のいずれかに対して分類を行うことに比べて、コレスポネンス分析は変数と個体を同時に分類することが可能である。また、主成分分析は主として複数の変数を 1 つの指標に合成し、因子分析は複数の変数に含まれている要素を数グループに分解するのが目的となるが、コレスポネンス分析は単にデータの整理と分類そのものに注目している。最後に、他の多変量解析法に比べて、ソフトウェアにかける際に人工的に選択するオプションが少なく、分析結果は安定していることが特筆すべきである。

Seagull-stat ではコレスポネンス分析が数量化理論Ⅲ類に含まれ、設定画面は以下のとおりとなる。

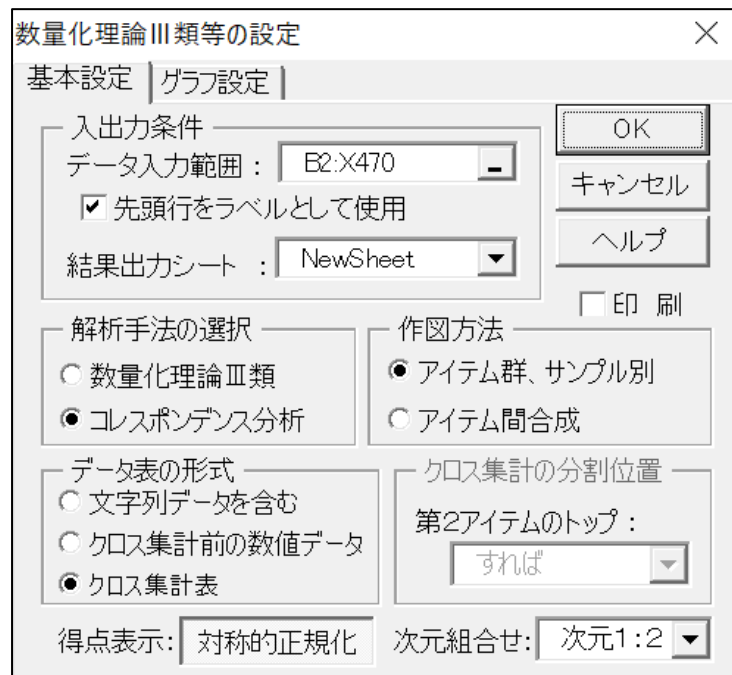


図 4-14 コレスポネンス分析設定画面

すでに述べたように、コレスポネンス分析の特徴の 1 つは人口的に設定する要素が少ないということである。上記に示されるように、コレスポネンス分析を実施する際に、ほとんどデフォルトのままでよい。

4.3.2.3 クラスタ分析

最後に、本論文の 6 章においてオノマトペと一般語彙（和語、漢語、外来語）との親近性を、第 8 章においてスル型オノマトペ動詞と一般語彙との親近性を、第 9 章において多義語「ぐっ（と）」の語義の分類を、調べるためにクラスタ分析を行う。

クラスタ分析 (Cluster Analysis) とは複数のデータに対して距離を計算し、分類を行う手法である。すでに述べたようにクラスタ分析は変数か個体かのいずれかに対してしか分類を行わない。クラスタ分析には階層的クラスタ分析と非階層的クラスタ分析の 2 種類が存在するが、現在分類に当たってよく使われるのが階層的クラスタ分析である。階層的クラスタ分析とは「散らばった個々のデータについて、最も類似したものを順番に仲間を引き入れながら次第に大きな階層構造を持つ集合を作ってゆく方法」である (石川他, 2010)。

クラスタ分析を行う際に、群内距離として相関係数かユークリッド距離かを選ぶ必要

がある。具体的な設定画面は以下のとおりである。

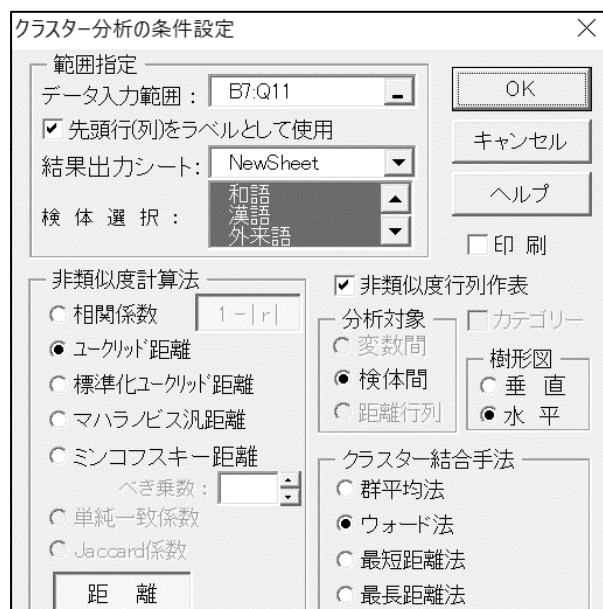


図 4-15 クラスター分析の設定画面

上記のように非類似度計算法とクラスター結合手法を選択すれば、樹形図が得られる。計算の仕方として、まず群内距離を計算し、次に群間距離を計算するわけであるが、通常、群内距離の場合、変数に対して相関係数を利用し、個体についてユークリッド距離を使用して距離を計算する。また、群間距離に対して、様々計算方法が存在するが、最も広く使われているのがウォード法である。

4.4 まとめ

以上では本論文が使用するデータ、研究対象とするオノマトペ、使用する統計手法を紹介してきた。使用するデータとして、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『現代日本語話し言葉コーパス』『名大会話コーパス』『中日対訳コーパス』『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』『日本語学習者書き言葉コーパス』の6種を使う。研究対象とするオノマトペとして、6種のオノマトペ専門辞書に含まれている4189種を調査対象とする。最後に、主として使用する統計手法として、仮説検定、コレスポンデンス分析とクラスター分析について紹介した。

第Ⅱ部 オノマトペの言語特性の解明

第5章 重要オノマトペの特定

以上、第Ⅰ部では、オノマトペの定義、分類、オノマトペに関する様々な研究を概観してきた。第Ⅱ部では、オノマトペの言語的特性を解明するために、オノマトペを多角的に分析していく。

日本語学および日本語教育学の観点からオノマトペを考える場合、検討しなければいけない点が多い。その中で最も重要なものはオノマトペの定義と範囲を明確に定めることである。従来、日本語学においては研究対象とするオノマトペの範囲を明確に規定しないまま、オノマトペの特性を議論する傾向があった。また、日本語教育においても、学習目標としてのオノマトペは明確に定義されてこなかった。このため、日本語学においても、日本語教育学においても、オノマトペの扱いについて確立した立場が得られていない状況にある。

そこで、第5章では以後の議論の前提として、現代日本語の中で特に重要なオノマトペを選定する。重要オノマトペの特定は日本語学的にも、日本語教育学的にも、意義が大きい。というのも、日本語学においては、選定されたオノマトペに絞って議論を行うことにより、従来のモデルを精緻化できる可能性がある。また、日本語教育学においては、作成されたリストを具体的な指導対象として使用することができるだろう。

そもそも、オノマトペは開放類であり、数が非常に多い。すでに述べたように、小野(2007)は約4500種のオノマトペを示しているわけであるが、この中には「いじむじ」(物事が入り乱れているさま)、「とがとが」(口やかましく遠慮のないさま)、「ぴっしやりぽん」(ものを打ったりたたいたりする音)、「ちたちた」(馬などがよろめくさま)など、母語話者ですらほとんど使わないようなものも含まれている。もっとも、オノマトペの数に関しては、何らかの共通理解が存在しているわけではない。実際、先行研究で示したように、オノマトペとして紹介される種類数は、辞典では1000種から4500種程度、一方、教育的な重要オノマトペリストでは、60種から200種程度となっており、極めて開きが大きい。すでに述べたように、日本語学におけるオノマトペ研究の対象を定める上でも、日本語教育において具体的な指導対象を絞る点でも、重要オノマトペを精選することが不可欠である。

重要オノマトペの選定にあたり、大別して3つのアプローチが考えられる。

1つ目は、母語話者の内省判断を尊重し、複数の辞書に共通して掲載されているオノマトペを調査するアプローチである。辞典において、どの語を載せるか、どの表記で載せる

かは、経験を積んだ日本語専門家の直観や主観的内省によって決められている。もっとも 1 冊の辞書だけでは、母語話者の判断にブレが生じる可能性もありうるが、複数の辞書に同時に掲載されているオノマトペであれば、日本語母語話者が直観的に重要であると判断するものとなっているだろう。

2 つ目は、大規模で均衡的に収集されたコーパスを用い、頻度調査を行うアプローチである。容易に想像できるように、高頻度オノマトペは重要オノマトペの重要な候補となりうる。コーパス頻度に基づく方法は、語の選定にあたり、主観的判断や判断のブレを回避するという利点を持つ。

3 つ目は、上記で触れた母語話者判断に基づくアプローチ（複数辞書による掲載）と、コーパス頻度に基づくアプローチを組み合わせることである。従来の研究において、このアプローチはほとんど試みられてこなかったが、日本語学的に、また、日本語教育学的に、真に重要なオノマトペを決定しようとする場合、この方法には利点が多いと判断する。

以上で見てきたように、重要オノマトペの選定には 3 つのアプローチがあるわけだが、本論文では、主観と客観、言い換えれば、母語話者の内省判断とデータを組み合わせる立場を取り、複数の辞書に掲載され、かつ、コーパスにおいて高頻度な語を「重要オノマトペ」と定義し、以下の議論を進めていく。

5.1 本章の目的と構成

すでに述べたように、本章の目的は、辞書掲載状況とコーパス出現状況の両面をふまえた重要オノマトペの特定である。以下、5.2 ではこの目的に沿って立てられたリサーチクエスチョンを、5.3 では使用するデータと詳細な研究手法を、5.4 では調査結果と考察を紹介する。

5.2 リサーチクエスチョン

すでに述べたように、本論文の目的は、母語話者の内省判断の精髓といえる辞典における掲載状況と現代日本語の使用実態を示す大規模コーパスにおける出現状況の両面を詳細に調査することで、今後の日本語学や日本語教育で活用しうる重要オノマトペリストの作成を行うことである。この目的に沿って、以下の 3 つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 複数の辞書に掲載されているオノマトペにはどのようなものがあるか？

RQ2 大規模なコーパスにおいて一定基準以上の頻度で出現しているオノマトペにはどのようなものがあるか？

RQ3 上記を組み合わせて判断することで、「重要オノマトペ」をどのように特定できるか？

5.3 研究手法

RQ1 については、まず、6種のオノマトペ辞書の見出し語をリスト化し、異なり語リストを作る。次に、そこに含まれる個々の語について、6種中何種類で掲載されているのかを調査する。

RQ2 については、本来であれば、条件を定めずコーパスに含まれるすべてのオノマトペに対して頻度調査を行い、一定基準を満たすものを拾い上げるべきであろう。しかしながら、すでに述べてきたように、現状において、オノマトペの定義は定まっておらず、コーパスからすべてのオノマトペを抽出することは技術的にきわめて困難である。この点をふまえて、本論文においては、**RQ1** で6種のいずれかにおいて出現したすべてのオノマトペ(4189種)を調査対象とする。以下、(1)使用するコーパス、(2)使用するコーパスデータ、(3)頻度基準、(4)調査手順について順に説明する。

まず、(1)については、すでに第4章において述べたように、現在使用可能な日本語コーパスの中で最も信頼性が高いといえる『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を使用する。

次に、(2)については、BCCWJに含まれる13ジャンルを区別せず、全体として頻度調査の資料として使用する。最も、BCCWJの大部分は書籍とネット資料であり、ジャンル間の分量は必ずしも統制されていない。また、ジャンルごとに収録されている年代にも約30年間のずれが存在する。こうしたことから、精密な語彙調査を行う際には、BCCWJを全体としてまとめて使用することには慎重であるべきだという見解も示されている(李他, 2012, p26)。しかしながら、一般語彙とは異なり、オノマトペの頻度は総じて低く、ジャンルを狭めて検索すると、頻度値が極端に低下し、実際、法律や国会会議録といったオノマトペがほとんど出現しないジャンルも少なくない。そこで、本論文では、あえてBCCWJを1つの現代日本語のデータベースと見なし、頻度調査を行うこととした。

また、(3)では頻度2回以上を重要オノマトペと見なす基準とする。使用頻度が1のものを排除したのは、偶然や誤りの可能性が高いと考えたためである。

最後に、(4)については、BCCWJの検索インターフェース「中納言」を使用して頻度調査を行う。なお、「中納言」には、語彙素単位ですべての語を抽出できる語彙素検索と、文字列に対して行う文字列検索が存在する。一般に、語彙素検索の方は精度の高い調査ができるとされているが、オノマトペの場合、2つの検索を組み合わせる必要が生じる。たとえば、今回調査対象とするオノマトペは4189種であったが、語彙素検索を行ったところ、2879種については1例のヒットも得られなかった。それらのオノマトペが出現していないわけではなく、BCCWJの形態素辞書に登録されていないため、結果として、検索できなかったためである。このうち、「と」を付与することで形態素辞書の登録形と合致するものが一定数存在する。たとえば、「ほっ」は語彙素として認定されていないが、「と」を付加して、「ほっと」という形にすると形態素辞書の登録形に合致する。すでに述べた2879種のすべてについて「と」を付与して再調査を行い、頻度が得られたものについてはそれを当該オノマトペの頻度と見なした。また、「しっかり」「いらいら」などのような漢字で形態素辞書に登録されているものや「じぐざぐ」「びんぼん」などのようなカタカナで形態素辞書に登録されているものについては語彙素読みで「シッカリ」「イライラ」で検索することとした。さらに、「きゃーきゃー」「ぜーぜー」などのオノマトペについては長音の違いを考慮し、「きゃあきゃあ」「ぜいぜい」といった語彙素検索で頻度の抽出を行うこととした。

以上の処理を経てもなおヒットが確認されなかった2465種については、語彙素検索から文字列検索に切り替えて頻度調査を行い、筆者が目視確認により、エラー例を除去して頻度を特定した。文字列検索による頻度の特定については、若干の見落としや判断ミスの可能性も残されているが、この点については今後の課題としたい。なお、以上の手法を適応して頻度を確認できた語の数は以下ようになる。

表 5-1 頻度調査の概要

頻度調査手法	該当語数	該当オノマトペ
A 形態素検索（調整なし）	1314	はっきり、ゆっくり
B 調整形態素検索（「と」付与）	315	じっ（と）、ぞっ（と）
調整形態素検索（語彙素読み）	49	しっかり（確り）、いらいら(苛々)、じぐざぐ(ジグザグ)

調整形態素検索（長音）	50	きゃーきゃー（きゃあきゃあ），ぜーぜー（ぜいぜい）
C文字列検索（目視確認）	500	きちっ，じーっ

なお，上記に示されるように，本論文が調査対象とした 4189 種のうち，「中納言」の形態素辞書がオノマトペと認定するものは 31%に限定されていた。このこともまた，重要オノマトペを新規に特定する必要性を示唆していると言えよう。

RQ3 については，RQ1 で抽出されたオノマトペと RQ2 で抽出されたオノマトペを比較し，両者に同時に含まれるオノマトペを「重要オノマトペ」として特定する。なお，すでに述べた「ほっ」のように，辞書での記載形と形態素辞書での記載形に異なりがあるものについては，辞書形を優先し，「と」を括弧の中に付記する。

ここで重要になるのは，辞書における重複掲載数とコーパス頻度という 2 つの数量データをいかにして合理的に合成するかということである。この点については，様々な手法が想定されるが，本論文では，一部の重要語選定で行われている方法を援用し，コーパス頻度に辞書における収録率をかけて調整した頻度を基準とする。たとえば，コーパス頻度が 10000 回で，6 冊中 3 冊に収録されているものであれば，調整頻度は $10000 \times 3/6 = 5000$ 回となる。一方，コーパス頻度が 7000 回で，6 冊中 6 冊に収録されている場合は，調整頻度は $7000 \times 6/6 = 7000$ 回となる。これらの例についていうと，コーパス頻度だけで見れば，前者の方はランクが高いが，辞書における収録率を加味すると後者のランクが高くなる。本リストにおける最終順位が後者の方が上位に上がる。本論文ではこれを「重要オノマトペ指標」と呼ぶ。

5.4 結果と考察

5.4.1 RQ1 辞書調査

まず，6 種のオノマトペ辞書のいずれか 1 冊以上に収録されているオノマトペの数を調査した結果，異なり語として 4189 種が得られた。次に，4189 種を，収録数（6 冊中何冊で収録されているか）別に区分したところ，以下の結果を得た。

表 5-2 6 種の辞書における記載状況

収録数	語数	構成比 (%)	累計 語数	累計構成比 (%)	例
6冊	546	13.0	546	13.0	はっきり, しっかり, ゆっくり, どん どん, すっかり
5冊	184	4.4	730	17.4	ちゃん, きちん, そっ, さっ, ひよっ
4冊	206	4.9	936	22.3	ずっ, じっ, にっこり, ちらり, ぴたり
3冊	361	8.6	1297	31.0	びっくり, めちゃくちゃ, たんたん, ち らっ, にやり
2冊	443	10.6	1740	41.5	だんだん, てんてん, しみじみ, とこと ん, でこぼこ
1冊	2449	58.5	4189	100.0	つい, まだまだ, しばしば, あっ, むり やり

上表よりわかることは3点ある。

1点目は、辞書間の重複度が想像以上に限定的だということである。実際、6冊中6種すべてで収録されているオノマトペは全体の13%に過ぎない。また、本論文が抽出基準としている2冊以上に範囲を広げても全体の41.5%に留まる。これは母語話者の内省的判断の精髓といえる辞書であってもオノマトペの位置づけに関しては判断が必ずしも一致していない状況を裏付けるものである。

2点目は、収録数が多いオノマトペには「AっBり」型が多く、次に、「Aっ」型が続き、オノマトペとしてしばしばイメージされる4モーラ反復型は全体的にみれば、比較的収録率の低いものが多いということである。

3点目は、重複収録数が低い語の中にも馴染み深いものが多く含まれているということである。たとえば、「だんだん(2種)」や「まだまだ(1種)」などは収録数が少ないものの、一般的に言えば広く使用される語と考えられる。

これにより、2冊以上に収録されているオノマトペとして1740種が特定された。6種の辞書のいずれかに収録されているオノマトペを分母として考えれば、その中の41.5%を抽出したこととなる。これらは本章で特定を行おうとする重要オノマトペの有力候補である。しかしながら、これらの中には現代日本語において低頻度のものが含まれている可能性も残されており、あわせて頻度調査を行う必要がある。

5.4.2 RQ2 コーパス調査

すでに述べたように、6種の辞書のいずれかに収録されている4189語に対して、前述のA, B, Cのいずれかの方法を適応し、BCCWJ全体における頻度調査を行い、以下のよ
うな結果を得た。

表 5-3 頻度レベル別語数状況

頻度 レベル	語数	構成比 (%)	累計 語数	累計構成 比(%)	例
5000 以上	9	0.2	9	0.2	ずっ (と), はっきり, しっかり, ゆ っくり, ちゃん (と)
1000 ~ 4999	33	0.8	42	1.0	びっくり, すっかり, じっ (と), つ い, まだまだ
500~999	48	1.1	90	2.1	にこにこ, きっちり, がっかり, きら きら, にっこり
100~499	325	7.8	415	9.9	ふわふわ, うっとり, とことん, ずら り, すんなり
10~99	876	20.9	1291	30.8	せかせか, ぬくぬく, くるっ (と), けろり, どさくさ
2~9	715	17.1	2006	47.9	うひひ, うふふ, うらうら, かくっ, かたん
1	365	8.7	2371	56.6	あぐり, いさくさ, うぞうぞ, うっす り, うらら
0	1818	43.4	4189	100.0	がぶがぶ, からりころり, きりきりし ゃん, ぐびりぐびり, ごっくごっく

この表からわかることは3点ある。

1点目は、BCCWJにおける高頻度オノマトペの数が限られているということである。
4189種のオノマトペを調査したわけであるが、約1億語中頻度が5000以上のものは7語
(0.2%)に留まり、本論文で抽出基準とする2まで広げても全体の47.9%しかなかった。

このことから、日本語オノマトペの数が非常に多いとされているが、現代日本語書き言葉においてよく使用されるものが比較的に限定的であると言えよう。

2点目は、頻度1位から5位までの語は「ちょっ(と)、ずっ(と)、はっきり、しっかり、ゆっくり」となることである。先ほど辞書掲載状況と同様、高頻度オノマトペのうち、やはり「AっBり」型が多く、4モーラ反復型が比較的低頻度のものが多いという傾向が見受けられる。

3点目は、4189の半分以上のものが頻度1もしくは頻度0のものであるということである。このなかの「ぐびりぐびり」は5種の辞書に、「きりきりしゃん」は4種の辞書に収録されている。このように、母語話者の内省判断では重要とされるオノマトペも多く含まれている。

以上、コーパス頻度調査により、偶然確率を超えた頻度2以上のものは重要オノマトペ候補として2006種が選ばれた。しかしながら、この中には一般にオノマトペと認定されていないものも含まれている。

5.4.3 RQ3 重要オノマトペの特定

以上、本論文で調査対象とした4189語のうち、RQ1により1740種を、RQ2により2006種の重要オノマトペ候補を得た。

これらについて、重なりを確認したところ、以下の結果を得た。

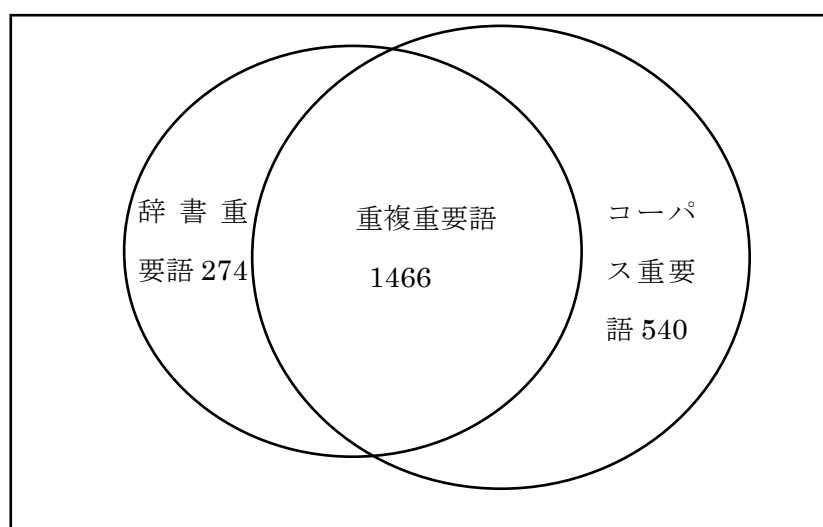


図 5-1 辞書重要語とコーパス重要語の関係

これにより、本論文で規定する「重要オノマトペ」は最終的に 1466 種と特定された。その内容を具体的に見ていく前に、辞書重要語でありながらコーパス重要語とならなかった 274 語と、コーパス重要語となりながら辞書重要語とならなかった 540 語の一部について概観しておこう。

表 5-4 辞書重要語とコーパス重要語の具体例

	例
辞書 重要語	つい、まだまだ、しばしば、あっ(と)、むりやり、ついつい、つくづく、どつと、まーまー、みるみる、ぽちっ、ゆーゆー、まちまち、ほのぼの、おーおー、まんま、そーっ、うすうす、とほほ、もんもん、がつつり、うん(と)、ほとほと、わんにり、こじんまり、はったり、すか、がば、ぶるぶる、しゃっくり…
コーパス 重要語	もだもだ、もみくしゃ、もわもわ、やりやり、ゆさり、ゆたりゆたり、ゆりゆり、ゆるっ、よれっ(と)、よろりよろり、るるる、わやわや、わわーっ、わんぐり、あーん、あおーあおー、あおらあおら、あくあく、あけらかん、あつか、あっぱとっぱ、あっぱらぱー、あっはん、あっぺとっぺ、あばあば、あばちゃば、あふらあふら、あへあへ、あらし、あん…

上記で示されたように、辞書側でのみ重要語となった語は耳なじみのある擬態語が多い。それに対して、コーパス側でのみ重要語となった語は耳なじみの薄い擬音語が多い。これらを言語学研究の対象、もしくは日本語学の指導対象とするには問題が多いだろう。辞書もしくはコーパス、すなわち、直観ないしデータのいずれかのみを判断の基準としていれば、このような語を重要語として扱うことになるわけであるが、本論文では両者を組み合わせるという独自のアプローチを試みたことにより、これらを排除し、真に重要な語を特定することができたと考える。

上記で重複して重要語とされた 1466 種および、辞書の掲載数とコーパス頻度を掛け合わせた重要オノマトペ指標の全体は本論文の巻末の附表に示す。以下では、そのうち上位 50 語のみを示しておく。

表 5-5 重要オノマトペ上位 50 語

順位	オノマトペ	コーパス	辞書	重要度	順位	オノマトペ	コーパス	辞書	重要度
1	はっきり	10452	6	10452	26	さっ(と)	1679	5	1399
2	しっかり	9800	6	9800	27	ゆったり	1295	6	1295
3	ずっ(と)	12340	4	8227	28	ばらばら	1291	6	1291
4	ゆっくり	8216	6	8216	29	さっさ(と)	1239	6	1239
5	きっ(と)	7672	6	7672	30	ひょっ(と)	1471	5	1226
6	ちゃん(と)	7495	5	6246	31	どきどき	1182	6	1182
7	きちん(と)	6503	5	5419	32	はっ(と)	1122	6	1122
8	どンドン	5124	6	5124	33	だんだん	3332	2	1111
9	すっかり	4754	6	4754	34	ぱっ(と)	1072	6	1072
10	たっぷり	3563	6	3563	35	こっそり	1030	6	1030
11	そろそろ	3016	6	3016	36	ぐっ(と)	1019	6	1019
12	じっ(と)	4008	4	2672	37	にこにこ	972	6	972
13	びっくり	4793	3	2397	38	きっちり	966	6	966
14	ほっ(と)	2382	6	2382	39	きらきら	951	6	951
15	ぴったり	2257	6	2257	40	わくわく	893	6	893
16	そっ(と)	2605	5	2171	41	うっかり	816	6	816
17	すっきり	1922	6	1922	42	がっかり	965	5	804
18	さっぱり	1784	6	1784	43	きっぱり	787	6	787
19	のんびり	1748	6	1748	44	ぐるぐる	777	6	777
20	ぼんやり	1678	6	1678	45	うんざり	717	6	717
21	いらいら	1639	6	1639	46	ぼろぼろ	706	6	706
22	そっくり	1633	6	1633	47	きちっ(と)	840	5	700
23	じっくり	1546	6	1546	48	ふっ(と)	670	6	670
24	あっさり	1511	6	1511	49	しっとり	657	6	657
25	ぎりぎり	1422	6	1422	50	ごろごろ	654	6	654

こうして得られたオノマトペは日本語学的にも、日本語教育学的にも有益な資料となり

うるが、初中級者の日本語教育の現状を考えた場合、1400以上のオノマトペのすべてを初級の段階で指導するのは困難であろう。そこで、重要オノマトペ指標をもとに、これらを分類したところ、以下の結果を得た。

表 5-6 重要オノマトペのレベル分け

ランク	重要オノマトペ 指標	該当語数 (割合)	例
A	1000～	36 (2.5%)	はっきり、しっかり、ずっ(と)、ゆっくり、ちゃん(と)
B	500～999	44 (3.0%)	にこにこ、きっちり、きらきら、わくわく、うっかり
C	100～499	310 (21.2%)	ふわふわ、うっとり、ちらり(と)、すんなり、がんがん
D	50～99	217 (14.8%)	びしっ(と)、ぴんぴん、じゃんじゃん、ごっそり、びっしょり
E	～50	862 (58.8%)	ぴんぽん、くるっ(と)、けろり(と)、ぱったり、きーきー

実際の日本語教育の場面では、たとえば、初級ではランク A、初中級ではランク B、中級ではランク C という形で段階的に指導いくことが適切ではないかと考えられる。

なお、以上で、日本語学的調査の対象のみならず、日本語教育の指導対象ともなりうる 1466 語が特定されたわけであるが、本論文で選ばれた語は過去の日本語オノマトペ研究における重要オノマトペリストとどのように異なっているのでしょうか。ここでは内省判断を中心に選定を行った玉村(1989)の 60 種と実際の言語資料調査を中心に選定を行った曹(2016)の 286 種を比較対象とする。もっとも、本論文で選ばれたリストのサイズは他のリストのサイズに比べ圧倒的に大きいため、単純に比較することで語彙リストの妥当性は検証できない。ここで、玉村(1989)の調査と比較する場合、本リストの上位 60 種のみを使用する。また、曹(2016)の調査と比較する場合、本論文で得られた上位 286 種のみを使用する。

まず、玉村(1989)の 60 種と比較したところ、以下の結果を得た。

表 5-7 玉村（1989）との比較

	語数	独自
玉村のみ	27	ちようど, きつと, もつと, ちよつと, やつと, ようやく, ちつとも, あべこべ, どつと, ずるずる, ふと, ぐるつと, すらすら, つい, でこぼこ, ずらり, うんと, ぎっくり, ざつと, ぎよつと, ぐつすり, ぺらぺら, まごまご, ぐずぐず, ぴかぴか, アハハ, ハハハ
本論文のみ	27	のんびり, じっくり, ぎりぎり, さつ, ゆつたり, ひよつ, だんだん, ぐつ, きっちり, わくわく, ぐるぐる, うんざり, ぼろぼろ, きちつ, ふつ, しつとり, ごろごろ, ぴん, ひっそり, ずばり, にっこり, ぼーつ, さらさら, ちよっぴり, うろうろ, くるくる, ぶらぶら
重複	33	はっきり, しっかり, ずつ, ゆつくり, ちゃん, きちん, どんどん, すっかり, たっぷり, そろそろ, じつ, びっくり, ほつ, ぴつたり, そつ, すっきり, さっぱり, ぼんやり, いらいら, そっくり, あっさり, ばらばら, さっさ, ときどき, はつ, ぱつ, こっそり, にこにこ, きらきら, うっかり, がっかり, きっぱり, ふらふら

本リストの上位 60 語のうち、玉村（1989）の調査においても共通して選定されたものが 33 語あり、その比率は 55%であった。なお、本論文の上位 60 語に含まれず、玉村（1989）のみに含まれる語は 27 種あった（上表参照）。このうち、本論文で得られたリストの 61 番目から 1466 番目までに含まれる語は 16 種あった。一方、本リストに含まれないものとして、「ちようど, もつと, ちよつと, やつと, ようやく, ちつとも, ふと, つい, うんと, アハハ, ハハハ」などがあつた。これらはいずれもオノマトペ認知度の低いものや低頻度のものであり、本論文では複数の辞書掲載数及びコーパス頻度を組み合わせることによって、これらを排除することができた。

次に、曹（2016）と比較した結果、以下のような結果を得た。

表 5-8 曹（2016）との比較

	共通	独自

曹の み	117	やすやす, だぶだぶ, ぱたぱた, むしゃむしゃ, ねっとり, ぼつぼつ, めき めき, みっちり, しいん, がらっ, そうっ, しゃかしゃか, ぷかぷか, じわ っ, どすん, むしむし, こりこり, のりのり, むくむく, かくん, うはうは, ごわごわ, ぱりぱり, みすみす, ぱらっ, どころ, ころん, ちゃぷちゃぷ, すこん
本論 文の み	117	ずっ, ちゃん, じっ, ほっ, そっ, のんびり, ぼんやり, さっ, さっさ, ひ よっ, はっ, だんだん, ぱっ, ぐっ, うんざり, きちっ, ふっ, ぴん, ぼー っ, かつ, どっ, ぎゅっ, うっすら, ざっ, すっ, ぞっ, すんなり, せっせ, めちゃくちゃ, たんたん, ふっくら, むっ, ふんわり
重複	169	どんどん, すらすら, ざらざら, ざらざら, するする, すっきり, ひっそり, さらっ, そろそろ, ぐるぐる, かりかり, つやつや, すっかり, うっとり, どきどき, ぽかぽか, ぐちゃぐちゃ, とんとん, ゆったり, しっくり, ちら っ, ぎりぎり, ごろごろ, ばんばん, さっぱり

本リストの上位 286 語のうち、曹 (2016) の調査と共通するものは 169 語あった。その比率は 59%である。なお、本論文の上位 186 語に含まれず、曹 (2016) のみに含まれる語は 117 種あった (上表参照)。このうち、本論文で得られたリストの 287 番目から 1466 番目までに含まれる語は 108 種あった。一方、本リストに含まれないものとして、「やすやす, しいん, そーっ, しゃかしゃか, むしむし, のりのり, みすみす, ちゃぷちゃぷ, すこん」の 9 種などがあった。これらもオノマトペの認知度の低いものや使用頻度の低いものと考えられ、本論文の独自のアプローチによってこれらを排除することができた。

以上の比較結果から見れば、本論文は辞書とコーパスを組み合わせることで、一般にオノマトペと認定されないもの、低頻度なものを削除し、オノマトペの認識度が高く、かつ高頻度なものを広範囲で抽出することができた。このように、こうして抽出したリストの妥当性が高いと考えられる。しかし、語彙表の妥当性については本来多角的に評価されるべきであるので、本語彙表の日本語学的、日本語教育学的妥当性と価値の評価については、まだ別の形で検証する必要もありうる。

5.5 まとめ

以上、6 種の辞書による掲載状況とコーパスにおける使用状況、また、これらを統合的

に調査した結果，重要オノマトペとして 1466 種が選定された。もっとも，広義で捉えると 4500 種以上に上るオノマトペの数を，効率的に集約できたといえる。こうして得られたリストは日本語学におけるオノマトペ調査の基礎資料として，また日本語教育における具体的な指導対象として重要な資料となりうる。

第6章 オノマトペの音韻的特性

6.1 本章の目的と構成

すでに述べたように、本論文では、はじめに議論の対象とするオノマトペを特定した上で、それらを資料としてオノマトペの各種の言語的特性を明らかにし、さらに、それをふまえて中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言を目指していく。

すでに、5章において、1466語の重要オノマトペの抽出を行った。以下の章では、これらを対象としてオノマトペの持つ様々な言語的側面について分析を行っていきたい。オノマトペは多面的な特性を持つが、本論文では音韻的特性、形態的特性、統語的特性、意味的特性、使用特性の5つの面を議論する。第6章では音韻的特性の問題を扱う。

オノマトペの音韻的特徴については、すでに3.1.1で見たように、オノマトペの音韻的独自性、オノマトペにおける音韻記述、オノマトペの音韻記述のモデル化、といった観点から、様々な研究が行われてきた。これらの研究により、多くの言語事実が明らかにされたが、課題もまだ残されている。本論文で主として取り扱うのは(1)モーラ数(音素の数)、(2)音素の種類、(3)音素の結合パターン、の3点である。

まず(1)について、丹野(2005)は、オノマトペには4拍のものが最も多いことを指摘しているが、同研究での分析対象はオノマトペだけであり、日本語の一般語彙における拍の特性から見て、オノマトペの拍がどのような独自の特徴を持っているかという点は議論されていない。次に、(2)について、李(2001)は、オノマトペは|p|の使用が和語・漢語より多く、有声阻害音は和語より使用率が高いことなどを明らかにしているが、調査対象とした言語資料には偏りがあり、現代日本語全般におけるオノマトペの音韻特性は必ずしも明らかになっていない。最後に、(3)について、城岡(1998)は、オノマトペの語頭位置に注目し、語頭音素として、ハ行音やカ行音が多いことを明らかにしたが、調査対象とされたオノマトペ(阿刀田の辞書に加え独自の加除を施した1835語)の中には重要オノマトペと言えないものも含まれている。

以上をふまえ、本論文では第5章において選定した重要オノマトペ1466種を対象として、以上の3つの点について議論を行う。過去の研究がそれぞれ異なるデータを使って異なる問題を扱ってきたのに対し、本論文は同一のデータでこれらの論点を統一的に議論していく。また、一部の先行研究において、一般語彙との比較がなされていなかったことをふまえ、本論文ではすべての分析において、一般語彙との比較を行うことにする。なお、日本語の語彙にはオノマトペに加え、和語・漢語・外来語・混種語などが存在する。オノ

マトペが真に独自のものであるとするならば、これらの主要語種のいずれとも異なっている必要がある。この点を確認するため、本章では、一般語彙平均に加え、一般語彙の中核を占める和語・漢語・外来語とオノマトペの関係も合わせて概観していく。なお、混種語については「ナンバー制」「ガラス窓」「金メダル」といった混種語については、複数の語種が混在しており、特性が明確ではないと判断されるため、本論文では分析対象から除外する。

以上をまとめると、本章はオノマトペの音韻的特性を探るため、(1) モーラ数、(2) 音素の種類、(3) 音素の結合パターン、の3つの観点に焦点を当てて研究を進め、最後に一般語彙(和語・漢語・外来語・一般語彙全体)と比較しオノマトペの固有の音韻特性を探りたい。なお、(2)に関しては、オノマトペ全体の種類に加え、オノマトペの音韻パターンにおいて最も重要な役割を果たし、先行研究においても議論の対象となっている語頭位置も議論の対象に加える。なお、語の持つ音韻的效果を考える上で、語頭位置の音素が重要な役割を果たすことについては、心理学的にも説明が可能である。心理学では「系列位置効果」という理論が提唱されており、その中に「初頭効果」というものがある。「系列位置効果」とは位置によって情報的な意味合いが変化することを言い、「初頭効果」とは最初に覚えたもしくは触れた情報が記憶や印象に残りやすいというものである。この点をふまえると、オノマトペの音素の位置に関して、語頭に注目することは妥当であると判断できる。

以下の6.2では本章で扱うリサーチクエスチョンを紹介し、6.3において、本章で使用するデータおよび研究手法を述べる。また、6.4においてリサーチクエスチョンの結果と考察を取りまとめる。

6.2 リサーチクエスチョン

本論文ではオノマトペの音韻的特性を探るため、オノマトペにおけるモーラ数、音素の種類、音素の結合パターンを調査し、最後に一般語彙と比較してオノマトペの固有の音韻特性の解明を目指す。この目的をふまえ、具体的に以下の4つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 オノマトペのモーラ数にはどのような特徴があるか？

RQ2 オノマトペの音素の種類にはどのような特徴があるか？

RQ3 オノマトペの音素の結合パターンにはどのような特徴があるか？

RQ4 一般語彙と比較した場合、上記の3観点においてオノマトペの固有の音韻特性は何か？

6.3 研究手法

6.3.1 分析対象

まず、調査対象とするオノマトペについて、第5章で特定した1466種とする（本論文巻末付録1を参照）。これらは複数の既存辞書においてオノマトペと認められており、かつ、現代日本語において複数の出現が確認されているものである。

また、以上のオノマトペと比較する一般語彙の頻度は『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』から抽出する。また、すでに第5章で述べたようにジャンルの区別は行わず、BCCWJ全体を1つのデータベースとして頻度調査を行う。

なお、調査する一般語彙となる和語・漢語・外来語については、BCCWJに基づき国立国語研究所がホームページに公開している『BCCWJ短単位語彙表』から頻度2以上のものを抽出する。なお、このうち、和語の中には、a) 数が非常に多いが、語としての特性が非常にあいまいな助詞・助動詞や、b) オノマトペそのものが含まれている。そこで、今回の調査では、a) と b) を調査対象から除外した。ただし、オノマトペだけを除去することはできないため、オノマトペを含む副詞の語をすべて除去することとした。これにより、実際に調査したのは以下の通りとなる。

表 6-1 調査対象

オノマトペ	一般語彙			
	和語*	漢語	外来語	一般語彙全体
1466 種	28076 種	43794 種	17721 種	89591 種

*副詞・助詞・助動詞を除く。

なお、「どきっと」「いらっと」「ちゃんと」「きちんと」などの語については、辞書掲載形を優先して、すべて「と」を取る立場を取り、それぞれの調査を行った。

6.3.2 調査手順

RQ1については、本論文ではまずオノマトペのそれぞれについて1語あたりのモーラ数

を調査する。具体的にはエクセル上に語の読みのリストを作成し、LEN（文字数抽出）関数で読みの文字数を抽出する。ただし、この時注意すべきは拗音の扱いである。たとえば、「きゃ」や「ちょ」のような場合は文字数が2になるがモーラで数えた場合1になる。そこで、拗音対しては筆者が手作業で修正を行い、正しいモーラ数となるようにした。

以上の調査をふまえ、平均モーラ数、モーラ数ごとの該当語の数、構成比を調査した。

RQ2については、主要音素として母音、子音、特殊音（促音、撥音）の3種に注目する。また、すでに述べたように、本論文は全体の傾向のみならず、聴覚印象に残りやすい語頭分析も行う。まず、母音については、母音を単独で使用する場合と、子音と結合して使用する場合に分け、5種類の母音の構成比を調査する。「いらいら」(iraira)の場合で言うと、|i|の単独使用が2回、|a|の結合使用が2回と計量される。次に、子音については、「k, g, s, z, t, d, n, h, p, b, m, y, r, w」の14種を調査対象とする。なお、城岡（1998）では、|k|と|g|はカ行として、|s| |z|はサ行として、|h| |p| |b|はハ行としてそれぞれまとめて議論していたが、本論文ではこれらを区別する立場を取る。最後に、特殊音については、先行研究をふまえ、撥音の「ん」と促音の「っ」を調査対象とする。

具体的には、オノマトペ及びその他の語彙タイプに含まれるすべての語をモーラ別で分割する。予め調査する音素対象枠組みを作り、エクセルのCOUNTIF（特定文字列を抽出する）関数を使い、該当音素の数を取り出すこととする。最後に、関数で取り出した語を筆者が集計する。その検索の一部を以下の図で示す。

1	検索範囲				検索枠組み					
2	は	っ	き	り	あ	い	う	え	お	合
3	し	っ	か	り	12	42	45	9	21	
4	ず	っ			か	き	く	け	こ	
5	ゆ	っ	く	り	143	118	209	27	121	
6	ち	ゃ	ん		が	ぎ	ぐ	げ	ご	

図 6-1 検索例

RQ3については、先行研究に倣い、母音バイグラム（bigram：2語連鎖）と子音バイグラム別に調査する。さらに、一般語彙の中には「踊る」「触る」「揺れる」のような共通の語尾を持つものが多く、オノマトペに関しても「ころころ」「ころり」「ころん」「ころっ」のように共通の語根を持つ語が多い。このことから、すでに決められた語尾より語根は語の意味やニュアンスの表出により影響していることがわかる。そこで、本論文では、全体

の母音・子音バイグラムを調査するとともに、語根の母音・子音バイグラムも調査する。具体的にまず、調査対象とするすべての語を2文字列に分割し、母音と子音に分ける。なお、本論文では音素の結合パターンを調査目的とするため、1モーラのものは調査対象から除外することとする。ここでは、「がたがた」を例として考えてみよう。全体の場合、「がたがた」を「がた」「たが」「がた」のように分割し、母音バイグラムとして|aa|は3回、子音バイグラムとして|gt|は2回、|tg|は1回計量される。また、オノマトペの語根は一般的に語の最初の2モーラに表れていることから、語根を調査する場合、語頭の2モーラに限定することとする。「がたがた」の場合は、最初の2モーラ「がた」が語根にあたり、母音バイグラムとして|aa|は1回、子音バイグラムとして|gt|は1回と計量される。

以上をまとめると、本章では以下の構成となっている。

RQ4については、上記の3つのRQから得られたオノマトペの音韻特性は他の語彙に比べて真に特有なものなのかを検証するために、一般語彙と比較することにした。すでに述べたように、本研究は一般語彙全般を見るだけでなく、一般語彙の中核をなす和語、漢語、外来語をも比較の対象とする。和語、漢語、外来語、一般語彙全般について上記と同じ調査を行う。ただし、音素の結合パターンについて、一般語彙には「～る」で終わる動詞や「～しい」で終わる形容詞が多く存在するものの、語根という概念が一般的に認定されていないため、本論文では便宜上オノマトペの語根認定方法に従い、語頭の2モーラを一般語彙の語根と仮定する。

なお、以上のRQ1からRQ3のすべてについて、本論文が比較対象とする和語・漢語・外来語・一般語彙全般のそれぞれとの関係を明らかにするため、階層的クラスター分析を実施する。なお、ここではケースクラスター分析を利用するため、非類似度計算法としてユークリッド距離を使用し、クラスター結合手法はウォード法と設定する。

表 6-2 本章の構成

RQ	調査観点	調査項目
RQ1 モーラ数	モーラ	個々のモーラの構成比
RQ2 音素の種類	全体と語頭	母音・子音・特殊拍のそれぞれの構成比
RQ3 音素の結合パターン	全体と語根	母音バイグラム・子音バイグラムのそれぞれの構成比

RQ4 一般語彙との比較	上記のすべて	上記のすべて
--------------	--------	--------

6.4 結果と考察

6.4.1 RQ1 モーラ数

1466 種のオノマトペの各モーラの構成比を調べたところ、以下の結果を得た。

表 6-3 1466 種のオノマトペの各モーラの構成比

モーラ	構成比	例
1 モーラ	0	なし ずっ, ちん, じっ, そっ, ほっ, さっ, はっ, ば
2 モーラ	6.57	っ
3 モーラ	33.31	さっさ, きちっ, ちらり, ちらっ, にやり, ずばり はっきり, しっかり, ゆっくり, どんどん, びっく
4 モーラ	54.04	り
5 モーラ	0.48	こちんまり, こざっぱり, どんぴしり, ぺったんこ
6 モーラ	4.79	しどろもどろ, あっけらかん, ぼつりぼつり
7 モーラ	0.14	のんべんだらり, すってんころり
8 モーラ	0.68	ずんぐりむっくり, えっちらおっちら
平均モーラ数	3.67	

上表より 3 つのことが明らかになった。1 点目はオノマトペが平均 3.67 モーラであるということである。窪園・太田 (1998) によれば、モーラの主な役割は 4 種類に大別される。それぞれ、(1) 時間制御の単位 (リズム), (2) 音韻的長さを測る単位 (語形成), (3) 発話産出の分節単位, (4) 発話近くの分節単位である。平均モーラ数から見れば、オノマトペというのは必ずしも長い語ではなく、4 モーラという比較的リズム感のある短い語であるといえるだろう。

2 点目はオノマトペの取りうるモーラのレンジが 2 モーラから 8 モーラまでまたがるということである。このことは、オノマトペは構成上特定の長さを好む可能性を示している。特に、1 モーラと 2 モーラ、3 モーラと 4 モーラ、5 モーラと 6 モーラ、7 モーラと 8 モーラのように、奇数と偶数のペアで比較すれば、オノマトペについていうと、どの場合も偶

数のモーラのものが多い。このことから、オノマトペは偶数モーラを好む可能性が示された。

3点目はモーラ別から見れば、4モーラのものが最も多く、3モーラのものがそれに次ぐということである。那須（2002）はオノマトペの大部分が4モーラであり、4モーラというサイズがオノマトペの語形成に重要であると指摘している。丹野（2005）も天沼（1974）の辞典に収録されている1555種のオノマトペを対象にモーラ別の構成比を調査し、4拍（48.87%）>3拍（32.07%）>6拍（7.08%）>2拍（6.89%）>5拍（3.80%）>8拍（1.16%）>7拍（0.13%）の順となることを明らかにした。本研究で調査対象としたオノマトペは那須（2002）、丹野（2005）と異なるが、オノマトペは語として必ずしも長いものではなく、ほとんどのものが4モーラや3モーラであるということに一致した。このことをふまえれば、オノマトペの構成ルールは日本語の短縮形を作るときのルールに似ているかもしれない。たとえば、窪園（1998）に挙げた外来語の短縮形を例にとって考えてみよう。

2モーラ短縮形：デモ（ンストレーション）、ロケ（ーション）

3モーラ短縮形：テレビ（ジョン）、アニメ（ーション）

4モーラ短縮形：リストラ（クチャリング）、イラスト（レーション）

5モーラ以上になると短縮したことになる。また、1モーラについては1モーラ語を禁止するという（最小語条件 *minimality constraint*）制約がある。このことに関して、窪園（1998）では、1モーラという究極の短縮形が存在しないのは、1モーラの長さが語形成で新たに作りされる語には不適格であるからであると指摘している。本研究の調査結果から言えば、オノマトペは4モーラ、3モーラ、2モーラの3モーラで全体の93.92%をカバーできることになる。このことから、短縮形を作る際の語形成の長さ制限とオノマトペの取りうるモーラに一致し、両者の間にある程度の類似性が確認される。

6.4.2 RQ2 音素の種類

音素別に出現頻度の構成比を調査したところ以下の結果を得た。

表 6-4 全体の母音分布状況 (%)

表 6-5 語頭の母音分布状況 (%)

種類	構成比	例	種類	構成比	例
結合 a	22.61	かたかた, からから	結合 a	19.55	さっぱり, たっぷり
結合 i	30.81	どきどき, ぶりぶり	結合 i	25.56	きちっ, ぎっしり
結合 u	18.75	ぶりぶり, ぶんぶん	結合 u	21.74	ぷっ, ぷっつり
結合 e	5.83	すべすべ, こてこて	結合 e	7.25	けらけら, けろけろ
結合 o	19.01	ぼそぼそ, とっと	結合 o	21.94	ぼんやり, ころり
単独 a	0.28	あんあん, あっさり	単独 a	0.62	あやふや, あたふた
単独 i	0.98	ぐいっ, わいわい	単独 i	0.34	いきいき, いそいそ
単独 u	1.05	うようよ, うきうき	単独 u	1.98	うっかり, うっとり
単独 e	0.21	えへん, えんえん	単独 e	0.41	えっさえっさ
単独 o	0.49	しおしお, おどおど	単独 o	0.62	おっとり, おたおた

表 6-6 全体の特殊モーラの分布状況 (%)

種類	構成比	例
促音	10.78	くるっ, とっぷり
撥音	8.98	ぼんやり, むんず

表 6-7 全体の子音分布状況 (%)

種類	比率	例
k	17.71	めきめき, きらきら
g	9.11	ぎりぎり, ぎらぎら
s	6.05	さっさ, さらさら
z	3.32	ざらざら, ざわざわ
t	6.99	たんたん, たった
d	3.5	だんだん, だらだら
n	3.87	ぐんなり, へなへな
h	2.67	はらはら, はきはき
b	8.54	ばらばら, ばりばり
p	9.06	ぱらぱら, ぱちぱち

表 6-8 語頭の子音分布状況

種類	比率	例
k	14.13	きちん, きっちり
g	17.38	ぎっしり, ぎざぎざ
s	6.08	さっぱり, さっ
z	5.74	ざっ, ざっくり
t	3	たっぷり, たらり
d	6.51	だらり, だらん
n	5.57	なみなみ, なよなよ
h	3.68	はっきり, はっ
b	12.33	ばったり, ばっちり
p	17.04	ぱっ, ぱくり

m	3.96	まじまじ, まさまさ	m	5.39	まったり, まんじり
y	2.29	にやにや, もやもや	y	1.54	やきもき, やんわり
r	21.24	いらいら, ばらばら	r	0.51	らんらん
w	1.69	わなわな, わいわい	w	1.11	わっ, わんさ

上記の 5 つの表からわかることは 4 点ある。

1 点目は、母音の使用について、全体においても、語頭においても、母音の単独使用が少なく、結合使用が多いという点である。母音の結合使用の中で、結合 |e| がきわめて少なく、この傾向は母音の単独使用においても見られる。このことから、オノマトペの音韻的特徴の 1 つはオノマトペが圧倒的に子音によって特徴づけられるということが示唆された。

2 点目は、子音使用について、全体においても、語頭においても、濁音の |g| |b| や半濁音の |p| が多いということである。この傾向は特に語頭において顕著に表れている。一般に、濁音や半濁音は音響上特殊な音とされており、これによりオノマトペは表現上の際立った印象を与えることができると予想される。

3 点目は、同じく子音使用に関して、|r| が全体として多いが語頭位置においては少ないということである。同じ音素は全体の場合と語頭の場合において差が最大 2.33 であることをふまれば、|r| の語中・語尾使用がオノマトペの大きな音韻的特徴の 1 つであると言えよう。実際、|r| の語頭使用を確認できたのは漢語由来のオノマトペ「らんらん」の 1 語のみであった。

4 点目、特殊モーラ使用の点において、オノマトペは特に促音と撥音を好むということである。特殊モーラである促音や撥音はともにオノマトペ標識とされている（田守・スコウラップ, 1999）。このことはオノマトペが音韻的にも形態的にも体系的な語彙タイプの 1 つであることを示唆している。

6.4.3 RQ3 音素の結合パターン

オノマトペの全体の母音結合パターン（母音バイグラム）と全体の子音結合パターン（子音バイグラム）の上位 10 種を調査したところ、以下の結果を得た（表 6-9, 表 6-10, 表 6-11, 表 6-12）。母音バイグラムとして 30 種、子音バイグラムとして 206 種が確認された。ここでは上位 10 種のみを示す。

表 6-9 全体の母音バイグラム上位 10 種

パターン	構成比	例
ai	6.44	わいわい, はきはき
oo	5.85	もこもこ, ぼろぼろ
aa	5.82	ばかばか, ばらばら
ua	4.96	うはうは, ぶかぶか
uu	4.9	ぶくぶく, むすっ
ii	4.6	きりきり, ぎりぎり
ui	4.4	うきうき, ずきずき
oi	4.37	どきん, ぼきぼき
au	3.29	がぶがぶ, がぶり
ia	3.12	ひやっ, ぴかっ

表 6-10 語根の母音バイグラム上位 10 種

パターン	構成比	例
aa	10.41	ばかばか, さやさや
oo	9.1	そよそよ, ごほごほ
uu	9.01	ぶつぶつ, ぶるぶる
ua	7.6	すたすた, ぬらぬら
ai	5.07	ばきばき, ばちばち
oa	5.07	ぼたぼた, ほかほか
ia	4.88	ぴかぴか, ひらひら
ii	4.78	いじいじ, びしびし
oi	4.6	ぼきぼき, おいおい
ou	4.32	もくもく, もぐもぐ

表 6-11 全体の子音バイグラム上位 10 種

パターン	構成比	例
kr	4.37	けろけろ, ころころ
rr	2.32	だらり, ひらり
br	1.98	ばらばら, ぼろぼろ
kっ	1.98	きっちり, きっぱり
っk	1.91	どつきり, めつきり
pr	1.8	ばらばら, ぼろぼろ
pk	1.77	ぴかぴか, ぽこぽこ
rっ	1.73	じろっ, けろっ
tr	1.63	とろとろ, たらたら
rん	1.63	ころん, とろん

表 6-12 語根の子音バイグラム上位 10 種

パターン	構成比	例
pk	4.03	ぴかぴか, ペこペこ
kr	3.1	ころころ, からから
br	2.81	ぼろぼろ, ぱりぱり
gr	2.72	ごろごろ, ぎらぎら
pr	2.25	ぼろぼろ, ぺらぺら
pt	2.25	ばたばた, ぽとぽと
gs	1.88	ごそごそ, がさがさ
gt	1.88	がたがた, ごたごた
bt	1.88	べたべた, ばたばた
sk	1.78	すくすく, すかすか

上記の 4 つの表からわかることは 4 点ある。

1 点目は、母音バイグラムについていえば、大坪（1989）のいう異列母音結合より同列母音結合ほうが多いということである。同列母音結合である |oo| |aa| |uu| |ii| の 4 種

は他の上位 6 種とおよそ同じ構成比となっていることをふまえれば、オノマトペの多くが同じ母音の繰り返しで作られていると思われる。

2 点目は、子音バイグラムについていえば、促音「っ」と撥音「ん」が全体的場合において多く、語根の場合において少ないということである。このことはこれらの 2 つの音素をオノマトペの標識と見なすことの妥当性を示している。

3 点目は、同じく子音バイグラムに関して、母音の場合とは異なり、同じ子音の繰り返しが少ないということである。全体的場合においても、語根の場合においても、同じ子音の繰り返しが確認できたのは |rr| のみであった。用例の「だりり、ひらり」に示されているように、|rr| というのは語尾の「り」と語中の |r| の結合パターンが多い。すでに、RQ2 で見てきたように、|r| の語中語尾使用がオノマトペの音韻的特徴の 1 つである。また、「り」は多くの先行研究においてオノマトペ標識とされている。|rr| の結合パターンを除けば、オノマトペの多くが異なる子音の組み合わせで作られているということになる。

4 点目は、同じく子音バイグラムに関して、オノマトペが半濁音・濁音 + |k| もしくは半濁音・濁音 + |r| の結合パターンを好むということである。この傾向は特に語根において顕著に表れている。このことは、オノマトペが音韻上特殊な音素を使い、特殊な結合パターンで際立った印象を作り上げている可能性を示している。

6.4.4 RQ4 一般語彙との比較

以上 RQ1 から RQ3 まで見てきたことはオノマトペの音韻的特徴であると一般的にいわれるわけであるが、音韻の点に関しては、オノマトペもその他の語彙もすべて同じような言語音で作られている。そのため、上記で得られた知見は真にオノマトペ固有の音韻的特徴であるかどうかは必ずしも明らかではない。そこで、本節ではこれまで調べてきた 3 つの点の各々について一般語彙と比較しオノマトペの特殊性をクラスター分析で確認してみることにしてしよう。

6.4.4.1 モーラ数の比較

まず、5 つの語彙タイプ別にモーラ数の構成比を見てみると、次の表のような結果となった。

表 6-13 モーラ別構成比

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
1 モーラ	0.36	1.05	0.16	0.52	0.00
2 モーラ	6.03	8.12	5.48	6.55	6.57
3 モーラ	19.10	34.10	18.93	24.04	33.31
4 モーラ	39.02	55.83	27.79	40.88	54.04
5 モーラ	25.84	0.37	21.48	15.89	0.48
6 モーラ	8.04	0.46	14.57	7.69	4.79
7 モーラ	1.43	0.04	7.26	2.91	0.14
8 モーラ	0.15	0.05	3.07	1.09	0.68
9 モーラ	0.04	0.01	0.95	0.33	0.00
10 モーラ	0.00	0.00	0.32	0.11	0.00
11 モーラ	0.00	0.00	0.10	0.03	0.00
12 モーラ	0.00	0.00	0.06	0.02	0.00
13 モーラ	0.00	0.00	0.02	0.01	0.00
14 モーラ	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
15 モーラ	0.00	0.00	0.03	0.01	0.00
平均モーラ数	4.15	3.48	4.61	3.91	3.67

上表からわかることは3点ある。

まず1点目は、モーラ数の平均値に注目すると、すべての語は4モーラ前後であるということである。平均値に注目するとオノマトペは和語、外来語より短く、漢語より長いという傾向があるが、一元配置分散分析を実施したところ、語彙タイプがモーラ数の構成比に及ぼす主効果は有意ではなかった(*ns*, $p=1.0$)。日本語では、一般的に、モーラ数が多ければ特殊語と見なされ、モーラ数が少なければ一般語と見なされる。オノマトペの中には「こけこっこー」「ほーほけきょー」「のこのこさいさい」などモーラ数の多いものも含まれるが、高頻度オノマトペに限って言えば、モーラ数が他の語彙タイプと比べ比較的短いことが確認された。重要オノマトペは特殊語彙ではなく、幅広く使用される一般語彙の一部になっていると言えよう。

2点目は、オノマトペのモーラ数のレンジは2から8であり、語彙タイプに比べて最も狭いということである。和語のモーラ数は最小で1モーラ、最大で9モーラ、漢語は最小

で1モーラ、最大で9モーラ、外来語は最小で1モーラ、最大で15モーラ、オノマトペは最小で2モーラ、最大で8モーラである。このことから、オノマトペのモーラ数レンジは他の語彙タイプに比べて圧倒的に狭いことが明らかになった。

3点目は、全体の中で4モーラが最も多いという点において、他のすべての語彙タイプと一致しているということである。オノマトペ研究において、オノマトペの特性として、4モーラのものが最も多いということがしばしば指摘される（那須，2002；丹野，2005）。しかし、本論文の調査により、4モーラが最も多いというのはオノマトペの固有の特徴というより、日本語全体の特徴である可能性が強く示唆された。

次に、5つの語彙タイプの関係性を明らかにするために、上表に対してクラスター分析を実施したところ、以下のような結果となった。

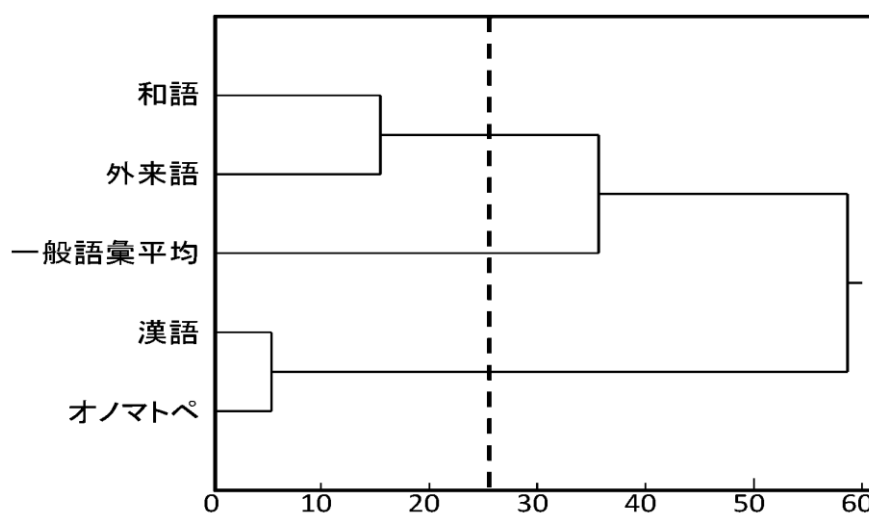


図 6-2 モーラ数に基づく樹形図

まず、上図で明らかなように、横軸の距離に注目すれば、漢語とオノマトペが極めて早い段階で融合している。次に、和語と外来語が融合し、それに対して一般語彙が融合する。最後に、全体が融合する。このことから、他の一般語彙と区別されるオノマトペの独自性というものはずしも明確に認定されなかった。

以上により、オノマトペはモーラ数のレンジが他の語彙より狭いという点において特殊性を持つが、平均モーラ数や4モーラが最も多いことについてははっきりした特徴を持たないことが明らかになった。

6.4.4.2 音素の種類と比較

6.4.4.2.1 全体主要音素の比較

17種の音素別に頻度比率を調査したところ以下のような結果を得た。

表 6-14 全体母音分布状況 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
結合 a	26.55	13.22	18.68	19.30	22.61
結合 i	20.79	22.42	17.81	20.85	30.81
結合 u	17.61	12.73	24.79	17.05	18.75
結合 e	8.72	10.33	11.65	10.01	5.83
結合 o	12.89	12.83	15.68	13.45	19.01
単独 a	2.79	0.48	3.62	1.99	0.28
単独 i	4.03	10.10	3.65	6.50	0.98
単独 u	2.26	16.32	1.22	7.95	1.05
単独 e	1.43	1.03	1.48	1.27	0.21
単独 o	2.94	0.55	1.43	1.62	0.49

表 6-15 全体特殊モーラの分布状況 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
促音	0.44	1.60	3.46	1.62	10.78
撥音	0.55	14.93	9.62	8.79	8.98

表 6-16 全体子音分布状況 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
k	19.41	34.84	11.61	22.73	17.71
g	6.41	7.41	4.53	6.29	9.11
s	7.71	12.74	10.48	10.09	6.05
z	2.13	3.36	1.98	2.51	3.32

t	8.18	7.75	12.08	8.99	6.99
d	3.16	4.10	5.75	4.11	3.50
n	7.83	3.09	5.64	5.68	3.87
h	2.77	5.42	1.58	3.38	2.67
b	5.00	5.29	6.72	5.52	8.54
p	0.24	1.19	7.04	2.23	9.06
m	13.38	4.10	7.84	8.88	3.96
y	3.65	3.26	0.67	2.79	2.29
r	17.38	7.04	23.55	15.39	21.24
w	2.74	0.42	0.54	1.42	1.69

オノマトペが独自の特徴を持っているのであれば、何らかの音素において最も多いもしくは最も少ない値を示すだろう。このことを確認するために、オノマトペが最も多いもしくは最も少ない音素を以下の表にまとめる。

表 6-17 オノマトペの特徴音素

最多音素	結合 i, 結合 o, g, b, p, 促音
最少音素	結合 e, 単独 a, 単独 i, 単独 u, 単独 e, 単独 o, s, t, m

上表が示していることは3点にまとめられる。

1点目は、母音と子音の優先性という点についていえば、一般語彙に比べてオノマトペはやはり子音によって特徴づけられるということである。実際、単独母音はいずれも特徴となっていない。加えて、母音の中で言えば、オノマトペを特徴づけるのは|i|と|o|の結合母音である。以上のことから、母音の中では|i|と|o|によって、さらに、母音よりも子音によってより顕著に特徴づけられるという音韻的特性が明らかになった。

2点目は、子音使用の点において、一般語彙に比べてオノマトペは濁音の|g| |b|や半濁音の|p|が多く、摩擦音の|s|, 清音|t|, 両唇音|m|が少ないということである。一般に、濁音や半濁音は音響上特殊な音とされており、オノマトペは他の語彙に比べてやはり表現上の際立った印象を与えるために、特殊な音を用いる傾向がある。

3 点目, 特殊モーラ使用の点において, オノマトペは特に促音を好むということである。特殊モーラである促音や撥音はともにオノマトペ標識とされているが (田守・スコウラップ, 1999), そのうち, オノマトペは撥音よりとりわけ促音を好むことは, 他の語彙に比べて最も特徴的であることが示された。

次に, 音素の種類点において, オノマトペと他の語彙との関係をクラスター分析で観察したところ, 図 6-3 が得られた。

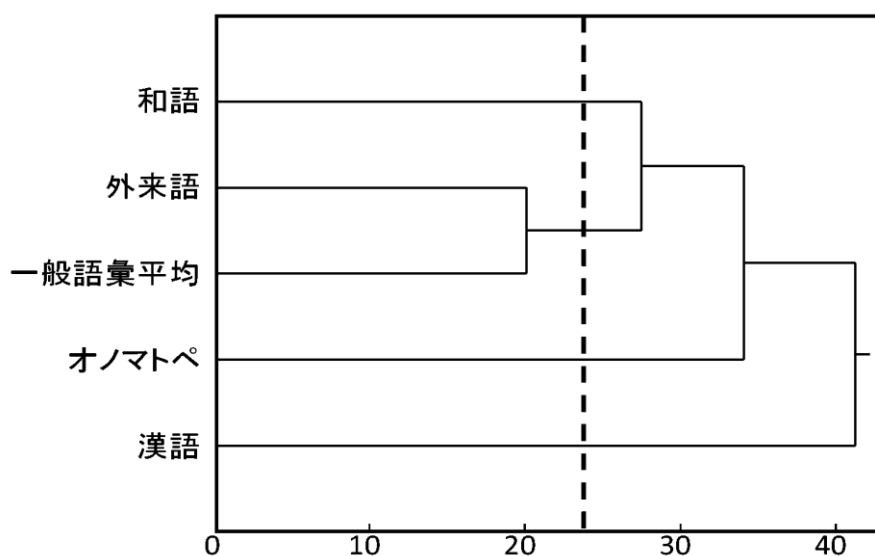


図 6-3 全体音素に基づく樹形図

上図に示されるように, 横軸の値に注目すれば, 5 つの語彙タイプは大きく異なっている。仮に, 20 と 30 の間にカッティングポイントを置くと全体は大きく 4 つのグループに大別される。オノマトペは一般語彙の平均のみならず, 和語, 漢語, 外来語とも異なっており, 独立したグループを構成している。このことは, オノマトペは音素種類点において, 他の語彙と異なる特性を持つことを強く示唆している。

6.4.2.2.2 語頭音音素の比較

語頭音については, 15 種の音素の出現率を調査したところ, 以下の結果となった。

表 6-18 語頭母音分布状況

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
結合 a	29.21	20.48	21.41	23.40	19.55
結合 i	14.82	31.36	16.18	23.18	25.56
結合 u	15.66	7.29	19.29	12.29	21.74
結合 e	5.37	15.50	12.43	11.72	7.25
結合 o	14.69	19.52	14.22	16.96	21.94
単独 a	5.58	0.86	6.91	3.54	0.62
単独 i	4.13	2.19	2.66	2.89	0.34
単独 u	4.27	0.45	1.25	1.81	1.98
単独 e	0.57	1.45	3.25	1.53	0.41
単独 o	5.69	0.90	2.40	2.70	0.62

表 6-19 語頭子音分布状況

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
k	25.75	26.81	14.79	24.06	14.13
g	0.83	7.96	4.48	5.16	17.38
s	10.30	14.08	13.17	12.79	6.08
z	0.43	3.90	0.74	2.24	5.74
t	11.60	9.46	7.20	9.63	3.00
d	1.98	4.52	6.47	4.17	6.51
n	11.64	3.64	3.76	6.01	5.57
h	9.73	7.86	4.53	7.73	3.68
b	1.59	5.89	10.45	5.56	12.33
p	0.25	0.01	11.48	2.41	17.04
m	15.41	4.26	9.81	8.66	5.39
y	8.12	3.90	1.13	4.57	1.54
r	0.03	7.28	11.32	5.98	0.51
w	2.34	0.43	0.66	1.04	1.11

表 6-20 オノマトペの特徴語頭音素

最多音素	結合 u, 結合 o, g, z, d, b, p
最少音素	結合 a, 単独 a, 単独 i, 単独 e, 単独 o, k, s, t, h

すでに 6.4.2.1 でみたように、オノマトペ全体の音素種類の特徴は母音の単独使用が少なく、濁音、半濁音が多い。語頭位置に出現する音素の種類についても同様の結果となった。しかし、ここで注目すべきは、語頭位置において清音は他の語彙より少ないことという点である。この点に関する例を挙げてみてみよう。

オノマトペ		一般語彙
ばたばた ○	たばたば ×	たばねる (束ねる)
べたべた ○	たべたべ ×	たべる (食べる)
がたがた ○	たがたが ×	たがい (他害)

以上の例のように、オノマトペは語頭に濁音が使用されやすく、「ばたばた」「べたべた」「がたがた」に対して「たばたば」「たべたべ」「たがたが」は存在しない。すなわち、音韻面から考えると、オノマトペの典型的な形は濁音+清音ということになる。

次に、語頭位置に出現する音素の種類において、オノマトペと他の語彙との関係をクラスター分析で観察したところ、図 6-4 が得られた。

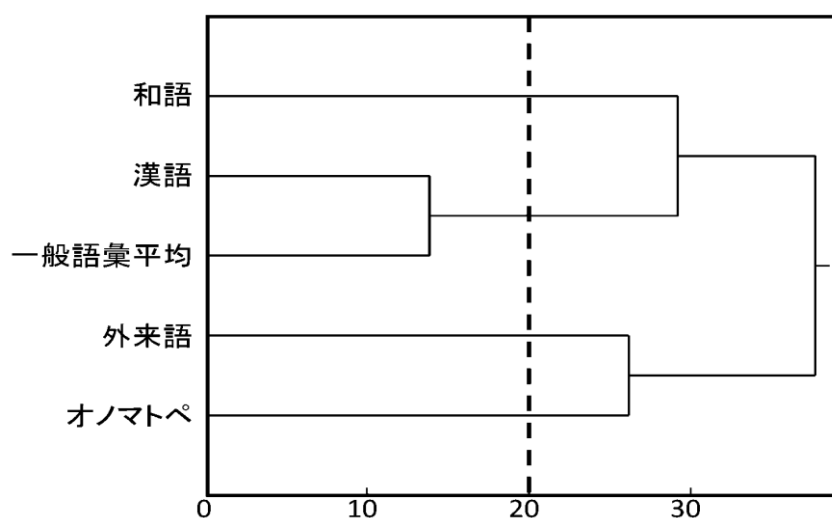


図 6-4 語頭音素に基づく樹形図

上図に示されるように、RQ2の全体音素の種類傾向と同様5つの語彙タイプは大きく異なっている。同じく20と30の間にカッティングポイントを置くと全体は大きく4つのグループに分かれる。全体の音素の種類分析結果と非常に似ているが、融合距離から考えれば、オノマトペは全体種類よりも、特に語頭音の使用において他の語彙と大きく異なる可能性が示された。

以上の調査により、全体の音素の種類においても、語頭においても、母音の単独使用が少ない点、濁音・半濁音を好む点においてオノマトペは他の一般語彙と大きく異なっていることが明らかになった。

6.4.4.3 音素の結合パタンの比較

6.4.3.3.1 全体の結合パタンの比較

まず、オノマトペと一般語彙の全体の母音結合パターン（母音バイグラム）と全体の子音結合パターン（子音バイグラム）の上位10種を調査したところ、以下の結果を得た（表6-21, 表6-22, 表6-23, 表6-24）。母音バイグラムとして30種、子音バイグラムとして517種が確認された。紙幅上すべてを列挙することは難しいので、ここではオノマトペと一般語彙平均のそれぞれの上位10種を示し、重複状況と出現頻度を比較することにした。

表6-21 オノマトペ全体の母音バイグラム上位10種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
ai	9.36	6.46	5.84	7.22	6.44
oo	4.90	0.45	1.84	2.40	5.85
aa	10.50	0.44	2.74	4.56	5.82
ua	3.91	2.69	4.23	3.61	4.96
uu	3.29	3.30	3.45	3.35	4.90
ii	4.29	2.93	2.14	3.12	4.60
ui	5.78	3.34	3.07	4.06	4.40
oi	5.37	0.34	3.31	3.00	4.37
au	6.11	3.82	5.93	5.29	3.29
ia	7.49	2.87	3.92	4.76	3.12

表 6-22 一般語彙全体の母音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
ai	9.36	6.46	5.84	7.22	6.44
ou	2.69	14.45	2.64	6.59	2.10
au	6.11	3.82	5.93	5.29	3.29
ia	7.49	2.87	3.92	4.76	3.12
aa	10.50	0.44	2.74	4.56	5.82
ui	5.78	3.34	3.07	4.06	4.40
ei	1.46	7.31	2.35	3.71	0.53
ua	3.91	2.69	4.23	3.61	4.96
iu	3.56	2.35	4.41	3.44	1.87
io	4.24	2.73	3.18	3.38	2.30

表 6-23 オノマトペ全体の子音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
kr	4.11	0.57	3.64	2.77	4.37
rr	0.64	0.04	1.24	0.64	2.32
br	1.24	0.06	2.29	1.20	1.98
kっ	0.07	0.52	0.50	0.37	1.98
っk	0.23	1.69	1.80	1.24	1.91
pr	0.05	0.00	3.09	1.05	1.80
pk	0.04	0.27	0.36	0.22	1.77
rっ	0.04	0.23	1.67	0.64	1.73
tr	1.62	0.04	3.27	1.64	1.63
rん	0.03	1.81	2.89	1.58	1.63

表 6-24 一般語彙全体の子音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
kん	0.11	7.13	1.43	2.89	1.59
kr	4.11	0.57	3.64	2.77	4.37

kk	1.85	2.99	0.41	1.75	0.45
s ん	0.03	4.13	0.88	1.68	0.17
tr	1.62	0.04	3.27	1.64	1.63
r ん	0.03	1.81	2.89	1.58	1.63
sk	1.04	2.35	0.97	1.45	0.83
rk	1.39	1.09	1.81	1.43	0.80
ん k	0.06	3.48	0.55	1.36	0.66
ks	1.22	1.37	1.35	1.31	0.90

上記の4つの表からわかることは5点ある。

1点目は、全体の母音バイグラムについていえば、オノマトペと一般語彙の母音バイグラムの上位10種のうち、重複して出現しているものが過半数を超える6種であり、かつ1位はともに|ai|という同じ音であったということである。このことは全体音素の母音の使用の点において、オノマトペは一般語彙と一定の類似度を持つことを示している。

2点目は、同じく全体の母音バイグラムに関して、使用する音素の種類はある程度類似しているが、その出現頻度に違いがあるということである。|oo| |aa| |uu| |ii|の4種はいずれもオノマトペの方に多く出現しており、|au| |ia| |ou| |ei| |iu| |io|は一般語彙平均の60%程度にとどまっている。大坪(1989)のいう異列母音結合より同列母音結合ほうが多いことが確認された。

3点目は、全体の子音バイグラムについていえば、オノマトペと一般語彙の子音バイグラムの上位10種のうち、重複して出現しているのは3種のみ(kr, tr, r ん)ということである。すでにみた母音バイグラムの場合、6種の重複があったことをふまえて考えると、全体音素の子音使用の点でオノマトペと一般語彙は相対的により大きく異なることになる。

4点目は、同じく全体の子音バイグラムに関して、オノマトペは促音、一般語彙は撥音を好むということである。特殊音の使用に注目すれば、いずれの場合においても第1音素として|k|と|r|が多く出現しているが、第2音素としてオノマトペは促音が3つあるのに対し、一般語彙は撥音が4つあった。これはオノマトペと一般語彙の大きな違いの1つであると考えられる。

5点目は、同じく全体の子音バイグラムに関して、オノマトペは半濁音+|k|もしくは半濁音・濁音+|r|の結合パターンを好むということである。個々の出現頻度に注目してみ

ると、|pk||br||pr||gr|についてはオノマトペのほうが多く、|kk||sk||rk||ks|については一般語彙のほうが多い。このことは、オノマトペは特に半濁音+|k|もしくは半濁音・濁音+|r|に特徴づけられる可能性を示唆している。

最後に、全体音素の結合パタンの点において、オノマトペと他の一般語彙との関係をクラスタ分析で観察したところ、図 6-4 が得られた。

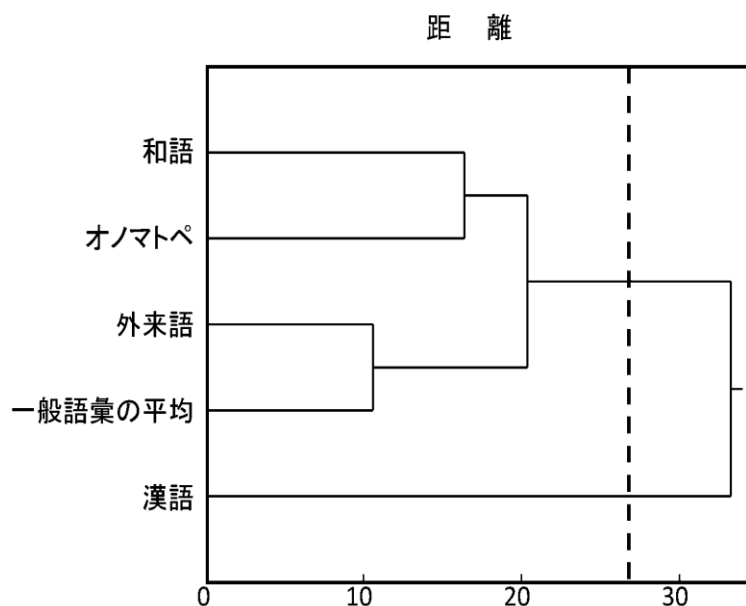


図 6-5 全体音素の結合パターンに基づく樹形図

上図で示されたように、20 と 30 の間にカッティングポイントを置くと全体は大きく 2 つのグループに大別される。外来語と一般語彙の平均は最も早い段階で融合し、次に、オノマトペと和語が融合し、最後に漢語が融合する。このことから、全体音素の結合パターンについても他の一般語彙と区別されるオノマトペの独自性というものは必ずしも明確に認定されなかった。

6.4.3.3.2 語根の結合パタンの比較

まず、オノマトペと一般語彙の語根の母音結合パターンと子音の結合パタンの上位 10 種を調査したところ、以下の結果を得た（表 6-25, 表 6-26, 表 6-27, 表 6-28）。前節と同じくここではオノマトペと一般語彙平均のそれぞれの上位 10 種を示し、重複状況と出現頻度を比較することにした。

表 6-25 オノマトペの語根の母音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
aa	13.49	1.11	5.07	6.56	10.41
oo	6.78	1.16	2.08	3.34	9.10
uu	4.05	3.20	2.27	3.18	9.01
ua	4.90	0.80	5.37	3.69	7.60
ai	9.08	9.75	8.15	8.99	5.07
oa	3.17	0.93	3.01	2.37	5.07
ia	5.86	2.61	2.98	3.82	4.88
ii	4.88	2.97	2.15	3.33	4.78
oi	6.52	0.85	3.47	3.61	4.60
ou	1.82	19.18	3.54	8.18	4.32

表 6-26 一般語彙語根の母音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
ai	9.08	9.75	8.15	8.99	5.07
ou	1.82	19.18	3.54	8.18	4.32
aa	13.49	1.11	5.07	6.56	10.41
au	4.55	4.23	9.02	5.93	4.22
ei	1.61	9.11	3.75	4.83	0.66
ui	7.02	2.10	3.55	4.22	3.38
ia	5.86	2.61	2.98	3.82	4.88
ua	4.90	0.80	5.37	3.69	7.60
oi	6.52	0.85	3.47	3.61	4.60
oo	6.78	1.16	2.08	3.34	9.10

表 6-27 オノマトペの語根の子音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
pk	0.04	0.00	0.56	0.20	4.03
kr	2.87	0.27	5.24	2.79	3.10

br	0.23	0.07	2.87	1.06	2.81
gr	0.11	0.13	2.03	0.76	2.72
pr	0.01	0.00	4.60	1.54	2.25
pt	0.00	0.00	0.44	0.15	2.25
gs	0.03	0.35	0.20	0.19	1.88
gt	0.04	0.09	0.03	0.05	1.88
bt	0.13	0.09	0.30	0.18	1.88
sk	1.84	2.11	1.83	1.93	1.78

表 6-28 一般語彙の語根の子音バイグラム上位 10 種 (%)

	和語	漢語	外来語	一般語彙平均	オノマトペ
kr	2.87	0.27	5.24	2.79	3.10
sk	1.84	2.11	1.83	1.93	1.78
si	0.19	4.79	0.78	1.92	0.19
ku	0.18	4.47	0.19	1.61	0.00
hr	2.22	0.19	2.31	1.57	1.50
pr	0.01	0.00	4.60	1.54	2.25
kk	2.13	2.28	0.18	1.53	1.59
ki	0.78	3.12	0.30	1.40	0.09
hk	2.07	1.78	0.20	1.35	1.22
tr	1.27	0.04	2.65	1.32	0.75

上記の 4 つの表からわかることは 5 点ある。

1 点目は、語根の母音バイグラムについていえば、オノマトペと一般語彙の母音バイグラムの上位 10 種のうち、重複して出現しているものが 7 種であったということである。このことから、母音使用の点においてオノマトペと一般語彙が強い類似性を持つことが示された。

2 点目は、同じく語根の母音バイグラムに関して、使用する音素の種類はある程度類似しているが、その出現頻度にはやはり違いがあるということである。|oo||uu||ua||oa| の 4 種はいずれも一般語彙より多く出現しており、一般語彙平均の 200%以上となっている。

る。逆に、|ai||au||ei|の3種についてオノマトペが一般語彙より少ないことも確認された。全体の母音結合パタンの傾向として異列母音結合より同列母音結合のほうが多いことが確認されたが、語根に限って言えば、その傾向は全体的場合ほど顕著ではなかった。一般に、同列母音結合の場合は語呂合わせとして言いやすいが、異列母音結合の場合は際立ち性 (salience) が高いと思われる。オノマトペの語根はこの2つの性質を持つ可能性が示された。

3点目は、語根の子音バイグラムについていえば、オノマトペと一般語彙の子音バイグラムの上位10種のうち、重複して出現しているものが3種のみであった (kr, pr, sk) ということである。このことから、オノマトペと一般語彙は子音の使用の点において大きく異なっていることが示された。

4点目は、オノマトペの語根の典型的な子音結合パターンは半濁音・濁音+清音・|r|であるということである。現代日本語語彙の基本の形は C1V1C2V2 とすれば、オノマトペの場合は C1 として半濁音は 3/10 個、濁音は 5/10 個、清音は 2/10 個あり、C2 として清音は 6/10 個、|r|は 4/10 個ある。一般語彙の場合は、C1 として半濁音は 1/10 個、濁音は 0/10 個、清音は 9/10 個あり、C2 として清音は 4/10 個、|r|は 6/10 個ある。このことは、オノマトペの語根の典型的な子音結合パターンは半濁音・濁音+清音・|r|である可能性が示唆された。

最後に、語根音素の結合パタンの点において、オノマトペと他の一般語彙との関係をクラスター分析で観察したところ、図 6-5 が得られた。

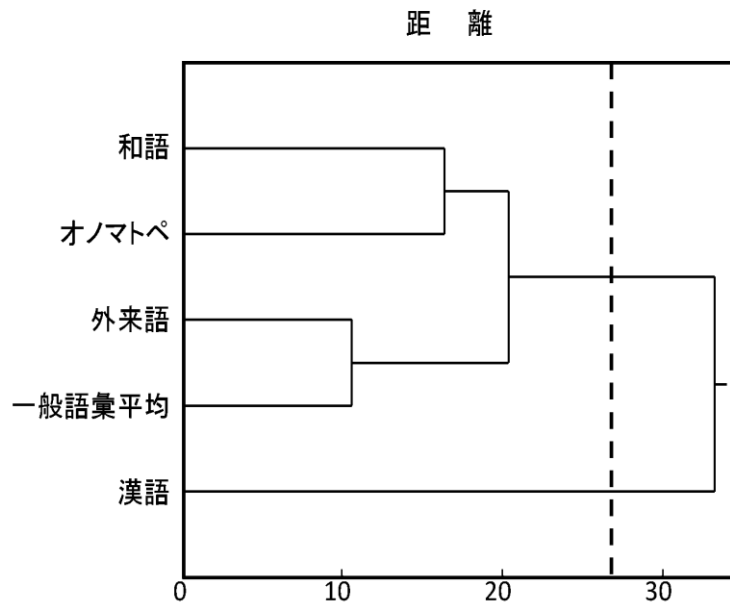


図 6-6 語根音素の結合パターンに基づく樹形図

上図に示されるように、20 と 30 の間にカッティングポイントを置くと全体は大きく 2 つのグループに大別される。外来語と一般語彙の平均は最も早い段階で融合し、次に、オノマトペと和語が融合し、最後に漢語が融合する。このことから、語根音素の結合パターンにいても、他の一般語彙と区別されるオノマトペの独自性というものは必ずしも明確に認定されなかった。

6.5 まとめ

以上で、モーラ数、音素の種類（全体・語頭：母音・子音・特殊拍）、音素の結合パターン（全体・語根：母音バイグラム・子音バイグラム）、の 3 観点から、オノマトペの音韻特性を調査し、さらに一般語彙と比較してオノマトペの固有の音韻特性を考察してきた。

まず、RQ1 では、オノマトペは基本的に 4 モーラで比較的短い語であること、取りうるモーラのレンジが狭いことが明らかになった。

RQ2 では、オノマトペの全体音素の種類として、(1) 母音の単独使用が非常に少なく、(2) 濁音・半濁音が多く、(3) 特殊モーラである促音「っ」が多く、語頭音として (4) ガ行音、バ行音、パ行音、ザ行音、ダ行音といった濁音・半濁音が多く、(5) 母音の単独使用が少ないことが示された。なお、先行研究ではオノマトペの全体音素に関して、半濁音が多いことのみ述べられていた。また、語頭音に関しては、ハ・バ行音、カ・ガ行音が

多いことのみ示されていた。本論文の調査により、先行研究の主張の妥当性が裏付けられただけでなく、先行研究で触れられていなかったオノマトペの特徴も示されたと言える。

RQ3では、オノマトペは母音の繰り返しが多く、子音の繰り返しが少ないこと、および濁音・半濁音+清音・|r|が最も典型的なことが明らかになった。

RQ4では、まず、オノマトペの取りうるモーラのレンジが狭いという点において独自性を持つ可能性が示唆されたが、クラスター分析の結果、オノマトペは漢語と早い段階で融合しており、モーラの点において、オノマトペが他の語種と大きく異なるとは言えないということが結論された。従来のオノマトペ研究において、4モーラが最も多いということがしばしばオノマトペの特徴として指摘されるが、本論文の調査により、それは日本語語彙全体の傾向であり、オノマトペ固有の特徴とは言えないことが明らかになった。次に、音素の種類に関して言えば、RQ2で得られたオノマトペの音韻的特徴が他の語彙タイプと区別されるものであり、オノマトペは一定程度の固有性を有していると考えられる。最後に、オノマトペの同列母音結合が異列母音結合より多いこと、半濁音・濁音+清音・|r|の結合パターンが最も典型的であることが他の語種とは大きく異なるオノマトペの特有の特徴であるとは言えないということが結論された。

以上では、モーラ数、音素の種類、音素の結合パターンの3つの観点においてオノマトペの固有の音韻的特性について考察してきた。その結果、モーラ数、音素の結合パターンの2つの点ではオノマトペの独自性が十分に確認されないこととなった。オノマトペは各語彙タイプの中で和語と最も近い関係にある。このことはオノマトペの多くが平仮名で表記されることと無縁ではないだろう。一方、音素の種類に関してはオノマトペの一定の固有性が認められた。すでに述べたように、オノマトペをほかの語彙タイプと区別するポイントはその特有の音素のあり方に存在すると結論できるだろう。

本論文ではオノマトペの効果的な指導を考えるという観点から、その前提としてオノマトペの持つ多様な言語特性について解明を行っていく。本章での分析によって、オノマトペの音韻特性はかなりの精度まで正確に特定することができたと思われる。オノマトペの指導に関して言えば、従来、様々なオノマトペを整理せず、羅列的に示すだけで、オノマトペの持つ音韻的構造に注意を払うよう学習者に促すことはほとんど行われてこなかった。しかしながら、たとえば、モーラ数や音素の等の点において、オノマトペが特有の傾向を持つことについて学習者がより自覚的になれば、学習者のオノマトペの運用能力が総合的上がる可能性はあるだろう。

第7章 オノマトペの形態的特性

7.1 本章の目的と構成

これまで、第5章において1466語の重要オノマトペを選定し、第6章においてその音韻特性について議論してきた。分析の結果、(1) モーラ数において4モーラが最も多く、(2) 子音より特徴づけられ、濁音・半濁音・促音が多く、(3) 母音の同列結合が多く、子音の異列結合が多く、濁音・濁音+清音・|r|の結合パターンが最も典型的であることが明らかになった。加えて、その中でもオノマトペの固有特性は(2)に限定されることが示唆された。では、オノマトペはどのような形態的特性を持つのであろうか。

オノマトペの形態的特徴については、すでに3.1.2で見たように、オノマトペの形態的分類およびオノマトペ標識と意味の関連性の2観点から様々な研究が行われてきた。これらの研究は日本語学の観点から非常に重要な知見を示しているが、しかし、分類枠組みの再整理と日本語教育のための頻度順位の調査も必要とされている。本章で主として取り扱うのは(1)オノマトペ形態に関する既存の分類枠組みの問題点の解明、(2)新しい分類の枠組みの提案、(3)様々なオノマトペ形態のタイプ・トークン別出現頻度、(4)オノマトペ標識と意味の関係性の4点である。なお、音韻の場合と異なり、オノマトペの形態特性はそもそも他の語彙タイプとは大きく際立っているため、ここでは他の語彙タイプとの比較は行わない。

まず、(1)について、先行研究では語の長さや語基の長さに加えて、他の要素の添加や変更などの違いから、4種から49種の分類がなされている。しかし、この判断基準は研究によって異なっている。たとえば、小林(1933)は語の長さのみを基準に、田守・スコウラップ(1999)は語基の長さのみを基準に、金田一(1978)は語の長さと言語基の長さの2つの基準に分類を行っている。また、語基に付け加える他の要素として、小林(1933)は「っ」「ん」「り」と「ウ延長」の4種を、田守・スコウラップ(1999)は「っ」「ん」「り」「長音」と「反復」の5種を、日向・笹目(1999)は「っ」「ん」「り」「長音」と「反復」「い」「ら」の7種を、金田一(1978)は「っ」「ん」「り」「長音」と「反復」「い」「りん」「りっ」の8種を、あげている。このように、オノマトペの分類枠組みは研究によって大きく異なっている。本研究では、まず、こうした先行研究の分類枠組みの異なりを解明する。

次に、(2)について、従来の研究の分類枠組みの問題点を明らかにし、これらをふまえ、本研究の分類枠組みを提案する。

また、(3) について、従来の研究では (a) 最も多いオノマトペ形態についての見解が一致していない (角岡, 2007 では「完全反復」が、大坪, 1989, では「単一型」が最も多いとされている), (b) オノマトペの出現頻度の議論がタイプ数によってのみ行われており、実際の出現頻度を示すトークン数が議論されていない, という2つの問題が存在する。そこで、本論文では (a) について前述の (2) で立てられた新しい枠組みを用い、かつ、(b) についてはタイプ数とトークン数の両方に着目して最も多く用いられるオノマトペ形態の特定を試みる。

最後に、(4) については、以下の表に示されるように、多くの研究はオノマトペ標識が一定の意味合いを表しているとしている。

表 7-1 オノマトペ標識が表す意味合い

	田守・スコウ ラップ(1999)	小野 (2007)	角岡 (2007)	浜野 (2014)
反復	音や動作の繰り返り返し・連続	継続すること, 繰り返されること	繰り返されること, 様態の程度が大きいこと	数回連続して行われること; 運動しうる物体が複数分布していること; 頻度の高さ
促音	瞬時性, スピード感, 急な終わり方	あるところで瞬時的な句切りがつくこと	短い様態; 急な動作	急激で唐突に終結・収束すること
り	ゆったりした感じ; 完了	ひとまとまりのもの	完了している状態; ある程度の音が響く	運動がゆったり・静かに起こること
撥音	共鳴	結果の残存, 余韻	動作様態が長い, 持続していること; 音声の反響	余韻; 反動, 跳ね返りを伴うこと; 運動の力が余って, 跳ね返るか反動かの状態

しかし、それぞれの標識の意味特性については研究によって様々なズレが見られ、また、具体的なオノマトペを一般の日本語母語話者に提示した場合、同じ傾向が見られるかどうかの検証はなされていない。そこで、本論文では母語話者を対象としたアンケート調査を

実施し、先行研究の知見を検証する。

以上により、本論文では、従来の日本語研究の分類枠組みの問題点を明らかにした上で、オノマトペの形態を体系的に分類し、学習者がもっとも優先的に学ぶべき形態は何かを特定する。最後に、先行研究が指摘したオノマトペ標識の意味特性について母語話者の内省判断でも同じ結果が得られるかどうかの検証を行う。

以下の 7.2 において、本章で扱うリサーチクエスチョンを紹介し、7.3 において、本章で使用するデータおよび研究手法を述べる。また、7.4 において結果と考察を紹介する。

7.2 リサーチクエスチョン

すでに述べた目的に沿い、以下の 4 つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 オノマトペ形態に関して先行研究では、どのような分類が提示されており、そこにはどのような問題が認められるか？

RQ2 オノマトペ形態を分類するうえで望ましい分類枠組みとしてはどのようなものが考えられるか？

RQ3 教育的に重要なオノマトペ形態にはどのようなものがあるか？

RQ4 先行研究が述べてきたオノマトペ標識の意味特性は母語話者アンケート調査によっても確認できるか？

7.3 研究手法

RQ1 については、3.1.2 の節で紹介した 6 つの研究（小林，1933；金田一，1978；大坪，1989；田守・スコウラップ，1999；日向・笹目，1999；角岡，2007）の分類枠組みを整理し、問題点を探る。その際、(1) 実際のオノマトペの出現データと照合した場合、分類の枠組みに収まらないものはないか、(2) 提示された可変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数は必ず 1 モーラまたは 2 モーラに限定されるか、(3) 可変要素に加えられるべき共通要素（オノマトペ標識）は 1 種類に限られるか、の 3 つの点について考察を行う。

RQ2 について、実際のコーパスに出現するすべてのオノマトペに反映する新しいオノマトペ形態枠組みを考案するため、まず第 5 章で選定された 1466 語のすべてを形態コードに変換する。具体的にはオノマトペに含まれるすべての文字を可変要素（語基・語根・基本形）と共通要素（オノマトペ標識）に分け、可変要素は ABCD などのアルファベットで

表記する。上記の共通要素は先行研究で触れられたすべてのオノマトペ標識あるいはオノマトペ辞の「反復」(可変要素の反復)「っ」「り」「ん」「ら」「い」と長音の「ー」の7種である。これにより、個々のオノマトペは、以下のようにコード化される。

「わくわく」→「ABAB」(可変要素の反復)	「さっさ」→「AっA」
「ふっくら」→「AっBら」	「ぐい」→「Aい」
「ばったり」→「AっBり」	「しょんぼり」→「AんBり」
「ふーっ」→「Aーっ」	「じーん」→「Aーん」
「だんだん」→「AんAん」	「ばりっ」→「Aりっ」
「ぎっくばらん」→「AっBCらん」	「のほほん」→「ABBん」
「わんさか」→「AんBC」	「ころりん」→「ABりん」

最後に、形態コードに変換された1466語を最後に再検証し、重複を除去し、残されたものをオノマトペ形態としてリスト化し、これを分類の枠組みとして提案する。

こうして得られた新しい枠組みは次の利点を持っている。

1点目は、共通要素の出現位置を考慮に入れられることである。従来の研究の中には共通要素の出現位置を考慮しないものもあったが、田守・スコウラップ(1999)も指摘するように、語中の促音と語末の促音、また語中の撥音と語末の撥音はそれぞれ異なる機能をもっている。本研究で提案するコード変換法はこうした点に対応したものであるといえる。

2点目は、先行研究の分類枠組みでうまく論じられてこなかった「のほほん」や「わんさか」なども「ABBん」「AんBC」となり、1つのコードとして処理できる。

3点目は金田一(1978)を除けば、これまでの研究で注目されてこなかった「りん」、「りっ」などの複合型標識も同じ枠組みで議論に加えることができる。たとえば、「ころりん」は「ABりん」、「ばりっ」は「Aりっ」となる。

また、上記で得られたオノマトペ形態の各々につき、タイプ数とトークン頻度を調査する。タイプ数とは1466語のリストの中でそれぞれの形態に合致する語の数を意味する。また、トークン頻度とは、それぞれの形態に合致する語のBCCWJにおける出現頻度の合計となる。

RQ3については、上記で得られた形態のうちどの程度まで学習する必要があるのかを考えるために、本研究では伝統的に日本語教育で指導されている語彙の頻度レベルと照合す

ることとする。現在の日本語能力検定 (JLPT) ではいわゆる級ごとの語数制限は撤廃されているが、旧日本語能力試験においては級ごとに学習する語彙の目安が示されていた。これらの語数基準の持つ頻度情報は語彙学習レベルを認定する際のヒントとなるのであろう。そこで、『現代日本語書き言葉コーパス (BCCWJ)』の短単位語彙表を検証し、当該語数の頻度閾値を暫定的に算出することとする。たとえば、4 級であれば、800 語程度とされているため、BCCWJ で頻度順位 800 位の語の頻度を求める。最後に、当該頻度を RQ2 で得られたオノマトペ形態コード頻度と照合し、学習レベルの認定を行う。

RQ4 については、表 7-1 で示したように、先行研究は反復・促音・「り」・撥音・長音の 5 つの標識について、それぞれが表わす意味合いを述べている。本研究では 4 種のオノマトペ標識のうち、頻度上特に重要性が高い「反復」「促音」「撥音」「り」の 4 種のオノマトペ標識の持つ意味特性が先行研究の指摘する内容と合致するかどうかを確認するため、40 種のサンプル語を使ってアンケート調査を行う。アンケート調査に協力した母語話者は言語学または言語教育学を専攻している大学院生 3 名である。調査では、先行研究が示したそれぞれの標識に関する記述を見せ、その妥当性について 3 段階 (そう思う○, そう思わない×, ある程度そう思う△) の内省判断を求める。最後に、○を 2, △を 1, ×を 0 に変換し、平均値と標準偏差を計算する。得られた平均値をさらに平均値を取って、その平均値が 1.2 以上であれば、先行研究が示した意味特性は母語話者内省判断によって裏付けられたことと見なす。なお、調査の対象としたオノマトペは語末促音、語末「り」、語末撥音、反復の各々について頻度の高い 10 種ずつ、合計 40 種である。詳細は以下のとおりである。

じっ (と), そっ (と), ほっ (と), さっ (と), ぱっ (と), ひょっ (と), ちっ (と),
はっ (と), ぐっ (と), ふっ (と), ちらり, にやり, ずばり, ぴたり, ずらり, くる
り, ぐるり, ぽつり, さらり, がらり, ちゃん (と), きちん (と), ぴん (と), ぽん
(と), うん (と), ちん, ぼつん (と), ぐん (と), とん (と), しん (と), どん
ん, だんだん, そろそろ, いきいき, ぎりぎり, どきどき, にこにこ, きらきら, そ
こそこ, わくわく

7.4 結果と考察

7.4.1 RQ1 既存の分類枠組みの問題点の整理

すでに 3.1.2 で紹介した 6 つの研究の分類枠組みを整理し、以下のような結果を得た。

表 7-2 先行研究のまとめ

先行研究	分類枠組み
小林 (1933)	(1) 語基一音節 (a.長音延長反復, b.撥音延長反復, c.促音延長と付), (2) 語基二音節 (a.非延長反復, b.撥音延長, c.促音延長と付), (3) 語基二音節り延長 (a.非延長, b.促音延長, c.撥音延長), (4) 語基交替, (5) 語基二音節延長と付 (促音延長, 撥音延長), (6) う延長 (a.語基二音節非延長, b.語基二音節長音延長, c.語基二音節促音延長, d.撥音延長, e.語基三音節非延長), (7) 二音節語, (8) 三音節語, (9) 四音節語, (10) 六音節語 (2*3), (11) 六音節語 (3*2), (12) 八音節語, (13) 接頭辞, (14) 接尾辞
金田一 (1978)	(1) 1 拍語のもの, (2) 1 拍の語根+「い」「ん」「っ」, (3) 2 拍の語根のもの, (4) 1 拍の語根に+「い」「う」「ん」「っ」のうちものが 2 箇, (5) 2 拍の語根+「っ」の形のもの, (6) 2 拍の語根+「ん」のもの, (7) 2 拍の語根+「り」の形のもの, (8) (7) の 1 種「り」でないもの。古風な語, (9) 2 拍の語根の中間に, つめ, はねの入ったもの, (10) (7) の形の第 1 拍と第 2 拍の間に, はねる音, つめる音の入ったもの, (11) 2 拍の語根の繰り返し, ことに第 2 音がラ行のものが多い, (12) 前項に似て類音のものを重ねるもの, (13) 全く似ていない 2 拍を重ねたもの, (14) 2 拍語+「りん」「りっ」の形, (15) 5 拍のもの, (16) (7) (8) (9) の繰り返し, (17) (16) に似てあとのものは, 多少形のちがうもの, (18) その他の 6 拍もの
大坪 (1989)	単一型, 複合型 (単純反復型, 修正反復型)
田守・スコ ウラップ (1999)	基本形が 1 モーラのもの: (1) CV, (2) CVQ, (3) CVN, (4) CVV, (5) CVVQ, (6) CVVN, 基本形が 2 モーラのもの: (7) CVQ-CVQ, (8) CVN-CVN, (9) CVV-CVV, (10) CVCV, (11) CVCVQ, (12) CVCVri, (13) CVCVN, (14) CVQCV, (15) CVNCV, (16) CVQCVri, (17) CVNCVri, (18) 2 モーラの反復, (19) 2 モーラの反復の変種, (20) CVCVri 反復, (21) CVCVN 反復, (22) 特殊形態

<p>日向・笹目 (1999)</p>	<p>1回語形： (1) Aい, (2) Aいつ, (3) Aいーっ, (4) Aん, (5) Aっ, (6) Aー, (7) Aーん, (8) Aーっ, (9) AB, (10) ABん, (11) ABっ, (12) AB り, (13) AんB, (14) AっB, (15) AんBり, (16) AっBり, (17) AっBら, (18) ABーん, (19) AっBん, (20) AっBーん, (21) ABー っ, (22) その他, 重なり語形： (23) AんAん, (24) AっAっ, (25) AーAー, (26) ABAB, (27) AB んABん, (28) ABりABり, (29) ABらABら, (30) AっBAっB, (31) AっBんAっBん, (32) AっBりAっBり, (33) AーんAーん, (34) ABっABっ, (35) AっBらAっBら, (36) AーっAーっ, (37) AっAっAっ, (38) AんBAんB, (39) その他, 変則重なり語形： (40) ABB, (41) ABBっ, (42) ABCB, (43) ABCD, (44) AらりAら り, (45) AっBらCっDら, (46) ABABっ, (47) ABんCDん, (48) その他：かたぴし, きんきんぎらぎら, すってんころりん</p>
<p>角 岡 (2007)</p>	<p>(1) 語基そのもの, (2) 音素交替形, (3) 語基交替形, (4) 完全反復形, (5) 不規則反復形, (6) リ延長強勢擬容語, (7) リ接辞, (8) N, (9) Q, (10) R, (11) R+N, (12) R+Q, (13) その他</p>

以下、(1) 実際のオノマトペの出現データと照合した場合、分類の枠組みに収まらないものはないか、(2) 提示された可変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数は必ず1モーラまたは2モーラに限定されるか、(3) 提案された共通要素（オノマトペ標識）は1つに限られるか、の3つの観点から考察を行う。

まず(1)の観点については、1466語のすべての語を6つの枠組みに分類したところ、どの分類にも当てはまらないと思われるものが全体で17種類確認された。それらは以下のとおりである。

しみじみ, あっけらかん, ざっくばらん, ほんわか, わんさか, へべれけ, ペったんこ, ペしゃんこ, しとど, すっからかん, ちんちくりん, つんつるてん, きんきら, ちんちろりん, すってんころりん, てっぺんかけたか, ほーほけきよ

上記のうち、「ペしゃんこ」や「てっぺんかけたか」などの語は小林（1933）の「三音節語」や「六音節語」といった分類に合致するが、実際のところ、三音節語や六音節語というのは音節の数を示しているだけで、意味のある分類とは言えないだろう。また、オノマトペの音韻形態上の特徴の1つは連濁現象が起こらないと言われているが、上記の「しみじみ」「へべれけ」「しとど」についてどのように解釈すればよいのかは課題として残されている。これらをふまえ、オノマトペ形態に関して新しい分類枠組みが必要とされると言えるだろう。

次に（2）について、1466語のオノマトペの可変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数を調べたところ、各モーラ数に含まれる語のタイプ数は以下のとおりとなった。

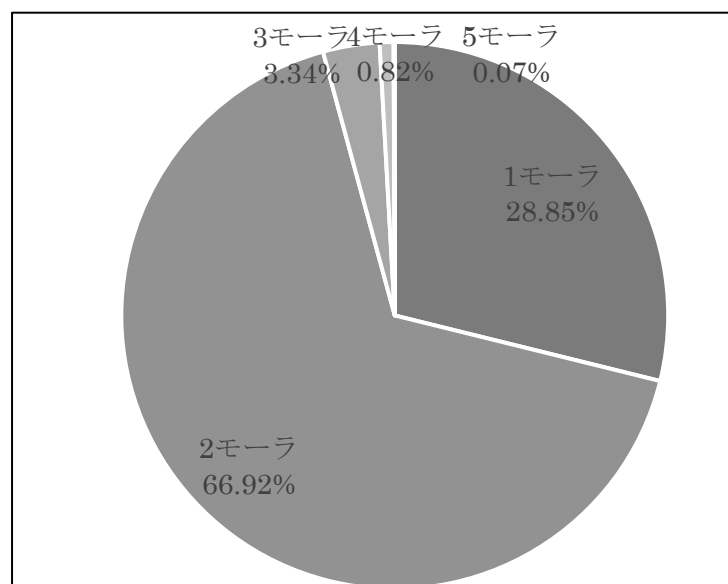


図 7-1 可変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数の分布

すでに RQ1 で示したように、可変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数について、小林（1933）は語基 1 音節または語基 2 音節のみを区別している。金田一（1978）は語根 1 拍または語根 2 拍を区別している。田守・スコウラップ（1999）は基本形 1 モーラまたは基本形 2 モーラを区別している。しかしながら、上図に示されるように、3 モーラと 4 モーラ

ーラのもので全体の5%以上存在することが明らかになった。下記はその一覧である。1466語中3モーラのもので49語、4モーラのもので12語、5モーラのもので1語存在することがわかった。

表 7-3 3モーラ・4モーラ・5モーラ可変要素のオノマトペ

モーラ数	該当するオノマトペ
3モーラ	めちやくちゃ, でこぼこ, むちやくちゃ, こちんまり, ぎくしゃく, じぐざぐ, あたふた, いざこざ, ちぐはぐ, ちやほや, うやむや, あっけらかん, どさくさ, ぎつくばらん, やきもき, ほんわか, ぱちくり, しわくちゃ, とんちんかん, わんさか, あべこべ, ペったんこ, ペしゃんこ, うろちよろ, すっからかん, はちやめちや, べちやくちゃ, どんぴしゃ, つるてん, こてんぱん, へべれけ, どんぱち, すたこら, はくしょん, どんぴしゃり, えっちらおっちら, からころ, ちくたく, からんころん, つんつるてん, やいのやいの, へどもど, ぴーちく, ちんちろりん, べちやくちゃ, どたんばたん, ぐーすか, ひっそりかん, ほうほけきよ
4モーラ	しどろもどろ, がさごそ, ちょこまか, がたごと, がたびし, ずんぐりむっくり, のんべんだらり, しっちゃかめっちゃか, かたこと, すってんころり, すってんころりん, しんねりむつつり
5モーラ	てっぺんかけたか

本研究における検証と先行研究の見解に大きな食い違いが発生した主な原因は可変要素・語基・語根・基本形概念や定義が必ずしも一致していないためである。このことは、語基をオノマトペの形態分類の基準にすることは危険性が高く、慎重になるべきであることを示している。

最後に(3)について、小林(1933)は「びたり」を語基2音節「り」延長(「びた」+「り」と呼び、「がんがん」を語基1音節延長反復(「がん」*2)と呼んでいる。また、金田一(1933)は「ぼん」を1拍の語根+「ん」と呼び、「ころりん」を2拍語+「りん」と呼んでいる。こうした見解をふまえると、可変要素に加えられるべき共通要素(標識)は1種類であるという理解が一般的になされるわけであるが、1466語のオノマトペについてそこに含まれる共通要素(標識)を調べたところ、以下の結果を得た。

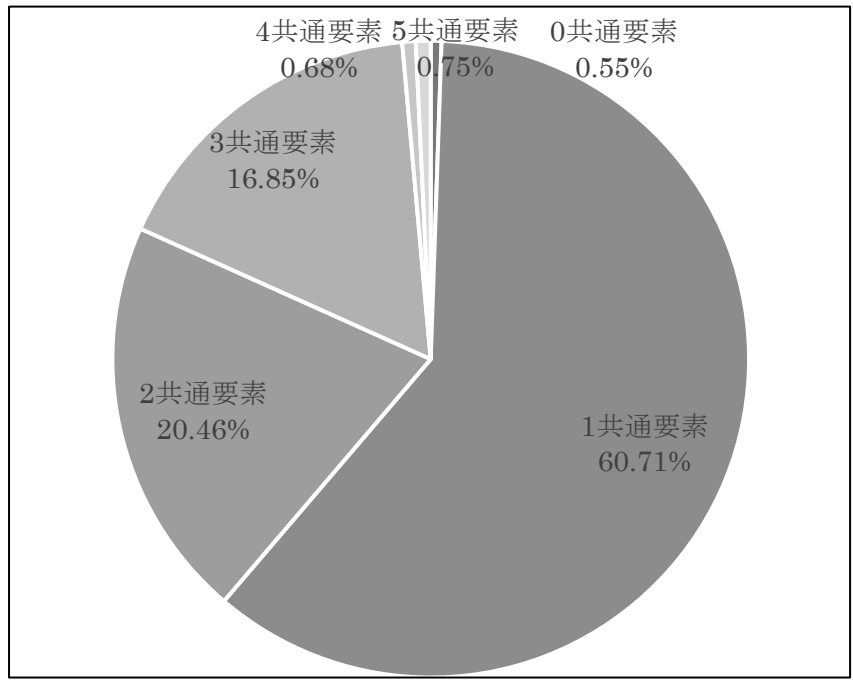


図 7-2 オノマトペの共通要素の数の分布

上記で明らかなように、全体の約 39%において、2 つ以上の共通要素（標識）が出現していることが確認された。以下はその一例である。

表 7-4 2 以上共通要素を持つオノマトペ

共通要素の数	該当するオノマトペ
2 共通要素	とことん（ん，可変要素反復），ずらり（ら，り），すんなり（ん，り）， がんがん（ん，可変要素反復），ぐったり（っ，り），ばりばり（り，可変 要素反復），びっしり，すーっ，ふっくら
3 共通要素	どんどん（ん*2，可変要素反復），だんだん（ん*2，可変要素反復）， いらいら（ら*2，可変要素反復），ぎりぎり（り*2，可変要素反復）， ばらばら（ら*2，可変要素反復），はーはー（ー*2，可変要素反復）， あっけらかん（っ，ら，ん），すっからかん（っ，ら，ん）
4 共通要素	ちゃらんぼらん（ら*2，ん*2），のらりくらり（ら*2，り*2），すっ ぽんぽん（っ，ん*2，可変要素反復），ずんぐりむっくり（ん，っ，り*

	2) , ちんちくりん (ん*2, り, 可変要素反復) , きんきらきん (ん*2, ら, 可変要素反復) , すってんてん (っ, ん*2, 可変要素反復) , すってんころりん (っ, り, ん*2) , しんねりむつつり (ん, っ, り*2)
5 共通要素	ちりんちりん (り*2, ん*2, 可変要素反復) , ゆらりゆらり (ら*2, り*2, 可変要素反復) , えっちらおっちら (っ*2, ら*2, 可変要素反復) , からんからん (ら*2, ん*2, 可変要素反復) , がらんがらん (ら*2, ん*2, 可変要素反復) , ぶらりぶらり (ら*2, り*2, 可変要素反復) , ひらりひらり (ら*2, り*2, 可変要素反復) , ごっとんごっとん (っ*2, ん*2, 可変要素反復) , ぴーぼーぴーぼー (ー*4, 可変要素反復)

このことは従来の研究の分類枠組みで示された共通要素の数が必ずしも正確ではないことを示唆している。

以上で概観したように、(1) 実際のオノマトペの出現データと照合した場合、分類の枠組みに収まらないものはないかについて、17種の該当語を確認した。(2) 提示された可変要素(語基・語根・基本形)のモーラ数は必ず1モーラまたは2モーラに限定されるかについて、2モーラ以上のものが全体の5%存在することを確認した。(3) 提案された共通要素(オノマトペ標識)は本当に1つに限られるかについて、2以上のものが全体の39%存在することを確認した。このことから、既存の分類枠組みが実際のオノマトペを分類する指標としては必ずしも妥当ではないことが示されただろう。

7.4.2 RQ2 本論文における新しい分類枠組み

以上で既存のオノマトペ形態の分類枠組みが必ずしも適正ではないことが確認された。そこで、望ましいオノマトペ形態の分類枠組みを得るために、1466種の重要オノマトペのすべてに対して形態コーディングを行ったところ、以下の100種のパターンを得た。それぞれの枠内の数字は1466種中に占める該当するオノマトペの数(タイプ数)と当該パターンに含まれている語のBCCWJにおける頻度の合計頻度(トークン頻度)を表している。

表 7-5 オノマトペの形態上の分類

形態	例	type	token
----	---	------	-------

AっBり	はっきり(10452), しっかり(9800), ゆっくり(8216)	113	72095
Aっ	ずっ(12340), きっ(7672), じっ(4008)	43	41097
ABAB	そろそろ(3016), どきどき(1182), にこにこ(972)	381	40928
AんAん	どんどん(5124), だんだん(3332), たんたん(811)	51	13645
AらAら	いらいら(1639), ばらばら(1291), きらきら(951)	37	10288
Aん	ちゃん(7495), ぴん(634), ぼん(377)	27	10276
ABん	きちん(6503), ぽつん(340), ぽかん(283)	79	9802
AんBり	のんびり(1748), ぼんやり(1678), うんざり(717)	27	7418
ABり	にやり(639), ずばり(624), ぴたり(5129)	106	7225
ABっ	きちっ(840), ちょこっ(342), ぐるっ(212)	150	5930
AりAり	ぎりぎり(1422), ばりばり(429), じりじり(307)	26	4315
ABCB	めちやくちゃ(841), でこぼこ(352), むちやく ちゃ(266)	26	3446
Aらり	ちらり(712), ずらり(458), さらり(236)	21	2961
Aーっ	ぼーっ(608), すーっ(409), じーっ(222)	35	2255
AーAー	めーめー(217), はーはー(177), ぼーぼー(146)	40	2036
AっA	さっさ(1239), せっせ(432), とっと(208)	9	2027
Aらっ	ちらっ(684), さらっ(186), がらっ(112)	18	1478
AっBら	うっすら(531), ふっくら(398), ちょっくら(40)	3	969
AいAい	わいわい(271), ぐいぐい(184), おいおい(158)	9	930
Aーん	どーん(113), じーん(99), ぐーん(70)	26	762
Aい	ひょい(289), ぐい(249), ちょい(94)	6	739
Aりっ	ぱりっ(149), ぴりっ(136), きりっ(134)	13	636
ABA"B	しみじみ(561), さめざめ(27)	2	588
ABAん	とことん(468)	1	468
AっAっ	きゃっきゃっ(40), くっくっ(36), はっはっ(33)	22	322
AんBん	ぴんぼん(149), ちゃんぼん(73), どんちゃん(58)	6	311
Aらん	がらん(213), だらん(39), ぶらん(8)	3	260
ABCD	しわくちゃ(73), ぶつくさ(46), がさごそ(33)	8	246

AらBら	ちらほら (225) , のらくら (13)	2	238
AABC	そそくさ (204) ,	1	204
ABんABん	かちんかちん (43) , ぼつんぼつん (20) , ぶるんぶ るん (16)	21	208
ABりABり	ぼつりぼつり (97) , そろりそろり (33) , ちびりち びり (25)	12	207
AんBC	ほんわか (80) , わんさか (70) , どんぴしゃ (32)	4	203
ABB	たわわ (89) , がはは (54) , あはは (21)	7	191
ABんCり	こちんまり (182)	1	182
AっBん	ぞっこん (63) , かつくん (23) , がっくん (18)	12	179
Aー	ぎゅー (46) , きゅー (23) , にゅー (14)	18	164
Aりり	ぎりり (108) , ぴりり (49) , びりり (3)	4	162
AっB	げっぶ (126) , ざっく (18) , はっし (11)	3	155
Aいっ	ぐいっ (124) , すいっ (8)	2	132
ABCDBC	しどろもどろ (121)	1	121
AっBらCん	あっけらかん (103)	1	103
AっBCらん	ざっくばらん (95)	1	95
ABBん	のほほん (70)	1	70
ABCり	ぱちくり (76)	1	76
ABらABら	うつらうつら (74) , えへらえへら (2)	2	76
AんBんCん	とんちんかん (72)	1	72
AっBAっB	のっしのっし (19) , ばったばった (18) , ばっさば っさ (15)	8	69
AんB	むんず (34) , わんさ (21) , ざんぶ (4)	3	59
ABっCり	こざっぱり (56)	1	56
AっBんC	ぺったんこ (49)	1	49
AらりBらり	のらりくらり (45) , ぬらりくらり (4)	2	49
ABCん	つるてん (30) , はくしょん (17)	2	47
ABんC	ペしゃんこ (45)	1	45

AんBCんB	てんやわんや (43)	1	43
AっBAB	ぴっかぴか (38)	1	38
AっBらBん	すっからかん (37)	1	37
AAA	ふふふ (19) , ははは (11) , へへへ (4)	4	36
ABんCん	こてんぼん (27)	1	27
AA"BC	へべれけ (25)	1	25
ABりん	ころりん (19) , つるりん (6)	2	25
AっBんBん	すっぼんぼん (21) , すってんてん (4)	2	25
AらりAらり	ゆらりゆらり (12) , ぶらりぶらり (7) , ひらりひらり (5)	3	24
AらんBらん	ちゃらんぼらん (22)	1	22
AんAB	どことん (20)	1	20
AんBりCっDり	ずんぐりむっくり (17) , しんねりむっつり (2)	2	19
AりんAりん	ちりんちりん (16) , ぷりんぷりん (2)	2	18
ABB"	しとど (17)	1	17
ABCら	すたこら (17)	1	17
AんBCり	どんぴしゃり (17)	1	17
AらんAらん	からんからん (8) , がらんがらん (8)	2	16
ABんCDん	からんころん (10) , がたんごどん (5)	2	15
AっBらCっBら	えっちらおっちら (15)	1	15
Aりん	ぱりん (10) , ちりん (5)	2	15
AB	ぐにゃ (8) , むず (4) , くにゃ (2)	3	14
AっBりAっBり	こっくりこっくり (13)	1	13
AらBC	からころ (13)	1	13
AんABりん	ちんちくりん (13)	1	13
AんBんCDり	のんべんだらり (12)	1	12
ABCABC	やいのやいの (10)	1	10
AんABCん	つんつるてん (10)	1	10
A-BC	ぴーちく (7) , ぐーすか (2)	2	9

ABーん	ういーん (4) , うわーん (3) , うおーん (2)	3	9
AっBCDっBC	しっちやかめっちやか (9)	1	9
AーBー	しっちやかめっちやか (7)	1	7
ABBっ	ぶるるっ (5) , もわーっ (2)	2	7
AっBんAっBん	ごっとんごっとん (4) , どっきんどっきん (2)	2	6
AんAらAん	きんきらきん (6)	1	6
AんAら	きんきら (4)	1	4
AんBCりん	ちんちろりん (4)	1	4
ABんCBん	どたんばたん (3)	1	3
AっBんCDり	すってんころり (3)	1	3
AーABC	ほーほけきよ (2)	1	2
AAーん	りりーん (2)	1	2
AーBーAーBー	ぴーぼーぴーぼー (2)	1	2
ABABAっBり	ずるずるべったり (2)	1	2
Aいん	ぼいん (2)	1	2
AっBりCん	ひっそりかん (2)	1	2
AっBんCDEC	てっぺんかけたか (2)	1	2
AっBんCDりん	すってんころりん (2)	1	2

上表よりわかることは3点にまとめられる。まず1点目は、1466種のオノマトペは100種の形態コードに変換されるということである。すでに述べたように、日本語オノマトペは種類が多く、学習者の立場から見ればオノマトペは「規則性」がなく、その習得が非常に難しい。しかしながら、このように形態をコードに変換して整理すれば、1466種のオノマトペは100種に限定され、学習上の負担が大きく軽減されると期待される。

2点目は、100種のうち該当語数が5以上の形態は全体で30種に限定されるということである。5種未満の形態の分布は以下のとおりである。

表 7-6 当該形態が包含するオノマトペの数に基づくオノマトペ形態の分布状況

該当語数	形態種類数	例
------	-------	---

1 語	44 種類	ABA ん (とことん) , A っ B ら C ん (あっけらかん)
2 語	16 種類	ABA"B (しみじみ, さめざめ) , A ら B ら (ちらほら, のらくら)
3 語	7 種類	A っ B ら (うっすら, ふっくら, ちよっくら)
4 語	3 種類	A ん BC (ほんわか, わんさか, どんびしゃ, どんぱち)
5 語以上	30 種類	A ん B ん (ぴんぽん, ちゃんぽん, どんちゃん, つんけん, ぴんしゃん)

本研究は調査対象とした 1466 種を網羅する分類枠組みを提案したが、そのうち、5 語以上のオノマトペをカバーできる形態は 30 種に限定される。すなわち、包含性の高い 30 種の形態を覚えれば、93% (1357 種) のオノマトペを学ぶことができるようになる。

3 点目は、タイプ順に基づいて見れば、ABAB>AB っ>A っ B りの順となり、トークン順に基づいて見れば、A っ B り>A っ>ABAB の順となるということである。言語学の立場から見れば、前者の方が重要な知見となりうるが、日本語教育学から見れば、後者の方がより重要になるだろう。というのも、トークン頻度の高いものを優先的に学んでいくことで、学習者が日本語の中でよく出現するオノマトペをより効率的に学ぶことができるからである。この点において、本研究は学習者が優先的に学ぶべきオノマトペ形態を抽出することができたといえる。

加えて、本研究で提案した枠組みは従来の枠組みをすべて包含するとなっている。このことを確認するために先行研究との対応表を以下に示す。これらは表 7-3 の冒頭から 10 種を取り上げて先行研究との対応を示したものである。

表 7-7 先行研究との比較

例	本研究	小林	金田一	大坪	田・ス	日・笹	角岡
ぎゅー	Aー	×	×	単一型	CVV	Aー	R
へべれけ	AA"BC	四音節語	×	×	×	×	×
ふふふ	AAA	三音節語	×	単純反復型	×	×	完全反復型
ぎゅーぎゅー	AーAー	語基一音節	2 拍語根	単純反復型	CVV-	AーAー	R
ゅー		長音延長反	の 繰り	復型	CVV		

		復	返し					
ほーほけ	Aー	四音節語	×	×	×	×	×	×
きよ	ABC							
りりーん	AAーん	×	×	修正反	×	ABーん	R+N	
				復型				
ぴーぼー	AーBー	四音節語	×	単純反	×	×	R	
ぴーぼー	AーBー			復型				
ぐーすか	AーBC	語基二音節	×	修正反	×	×	×	
		長音延長		復型				
ぼーっ	Aーっ	×	×	×	CVVQ	Aーっ	R+Q	
どーん	Aーん	×	×	×	CVVN	Aーん	R/R+N	

上記に示されるように、「へべれけ」「ほーほけきよ」のような従来の先行研究の分類枠組みに組み込めなかった語は「AA"BC」「AーABC」という形で本論文の分類枠組みにうまく取り込まれている。この点において本研究の枠組みは従来の研究の枠組みよりより精緻化したものといえるだろう。

7.4.3 RQ3 重要なオノマトペ形態

以上で新しい観点に基づいて100種類のオノマトペ形態をトークン頻度別に取り出すことができたわけであるが、最後に残された問題は様々な段階の日本語学習者がこの100種のうちどの程度まで学習する必要があるのかということである。この点を考えるためには、伝統的に日本語教育で指導されている語彙の頻度レベルと照合する作業が有効であろう。そこで、本研究は、旧日本語能力試験において指定された級ごとの学習する語彙の目安を利用し、これらの語数基準の持つ頻度情報を計算するため、『現代日本語書き言葉コーパス(BCCWJ)』の短単位語彙表を検証し、当該語数の頻度閾値を暫定的に算出した。また、当該頻度をRQ2で得られたオノマトペ形態コード頻度と照合すると、以下のような結果を得た。

表 7-8 本研究におけるオノマトペ形態の学習レベル分け

レベル	学習 目安	当該順位 の頻度	該当するオノマトペ形態	形態数	累計カ バー率
4級	800語	11857	AっBり, Aっ, ABAB, AんAん	4種	67.85%
3級	1500語	6331	AらAら, Aん, ABん, AんBり, ABり	5種	86.05%
2級	6000語	1155	ABっ, AりAり, ABCB, Aらり, A ーっ, AーAー, AっA, Aらっ	8種	95.93%
1級	10000 語	555	AっBら, AいAい, Aーん, Aい, A りっ, ABA"B	6種	97.80%
級外		554以下	ABAん, AっAっ, AんBん, Aらん, ABCD, AらBら, AABC, ABんAB ん, ABりABり, AんBC	77種	100%

従来、多くの学習者がオノマトペを難しいと感じてきたのは、それを表記のレベルでとらえてきたため、その多様性が膨大なものとなり、学習の糸口がつかめなかったわけである。しかし、今回はオノマトペがとりうる形態をコードで書き表したことによってオノマトペを表記形ではなく、コードという新しい単位でみるのが可能になった。こうした枠組みがあれば、100種を一気に覚えるのではなく、学習者のレベルに応じて適切なオノマトペを提示していくことができるだろう。たとえば、上表に示されるように、上位4種のみで全体の67.85%がカバーでき、1級までの23種で全体の97.80%がカバーできることになる。このように、形態コードの単位で整理すれば、無数に存在するオノマトペは数の限られたものになり、学習者にとって学習上の負担がさらに大きく軽減されると思われる。

このように学習者が優先的に学ぶべきオノマトペ形態を抽出することができた。当然ながらこれらは7種の共通要素（語基・語根・基本形）の組み合わせで構成されている。この点をふまえれば、オノマトペ形態学習を効率化するために特に重要な共通要素を知っておくことが重要になるだろう。以下は1466種のオノマトペの中で、7種の共通要素を含む語の総数（タイプ）とそれらの語のコーパスにおける頻度の累計（トークン）によって整理したものである。

表 7-9 タイプ数に基づく分布

共通要素	タイプ数
可変要素の反復	718
っ	453
り	347
ん	307
ー	124
ら	103
い	15

表 7-10 トークン頻度に基づく分布

共通要素	トークン頻度
っ	127811
り	95789
可変要素の反復	81045
ん	44683
ら	16728
ー	5137
い	3872

上記に明らかなようにどちらの基準で計量しても「っ」、可変要素の反復、「り」、「ん」の4種が最も上位となった。これらの4種はそれぞれ全体の88.29%と93.14%をカバーできる。このことは様々なオノマトペ形態を学習していく場合、これらの共通要素に注意を払って学習をすることでオノマトペの形態的典型性が自然に身につく可能性を示している。

7.4.4 RQ4 内省判断から見た意味特性

すでにRQ3において見てきたように、7種のうち「っ」、可変要素の反復、「り」、「ん」の4種が学習者にとってオノマトペ形態を学ぶ際に最も重要なヒントとなる要素である。またすでに3.1.2節で見たようにこれらの共通要素（標識）と意味の関係は多く研究において注目されている。そこで、以下では先行研究が示唆してきたこれらの4種の共通要素（標識）の意味特性の妥当性を探るため、母語話者アンケート調査を実施したところ、以下のような結果を得た。

表 7-11 母語話者内省判断

標識	意味特性	平均	標準偏差
促音	短い様態	1.4	0.8
	瞬時性	1.3	0.8
	急な動作	1.3	0.7
	スピード感	1.2	0.7

	あるところで瞬時的な句切りがつく	1.1	0.9
	急激で唐突に終結・収束する	0.9	0.7
	急な終わり方	0.9	0.7
反復	継続する	1.5	0.2
	連続する	1.3	0.4
	繰り返す	1.1	0.5
	頻度が高い	1.0	0.9
	様態の程度が大きい	0.8	0.6
	運動しうる物体が複数分布している	0.2	0.1
り	完了	1.4	0.8
	ひとまとまり	1.2	0.8
	運動が静かに起こる	0.9	0.5
	ある程度の音が響く	0.3	0.4
	(運動が) ゆったりした感じ	0.2	0.3
撥音	結果の残存	0.9	0.6
	余韻	0.7	0.9
	音声の反響	0.7	0.6
	共鳴	0.6	0.5
	反動・跳ね返りを伴う	0.5	0.6
	動作様態が持続している	0.5	0.6
	運動の力が余って、跳ね返るか反動かの状態	0.4	0.4
	動作様態が長い	0.2	0.3

従来の先行研究で触れられてきたオノマトペ標識の意味特性は全体で 26 種に上るわけであるが、これらについての検証は必ずしもなされていない。そこで、本研究では検証を行ったところ、2 点満点の 60% (1.2) を上回るものとして 8 種が得られた。これらの 8 種に限り整理を行ったところ、表 7-1 は以下のように修正することができた。

共通要素	意味合い	用例
------	------	----

反復	音や動作の連続や継続すること	好意に甘えて切手代を差し出すと、 <u>にこにこ</u> しながら「あなた方に対するプレゼントです」。 (PB52_00012)
促音	瞬時性，スピード感 短い様態；急な動作	「気にしないでください」倫子がにこっと笑った。 (LBm9_00085)
り	ひとまとまりのもの 完了している状態	しかし最近の女の子は元気よく手をあげ始める。その風景を見てニコリと笑い，指名する。 (PB29_00541)

以上のような表は学習者にそれぞれのオノマトペの共通要素（標識）が持つ本質的な意味合いを伝える上で極めて有用なものになるのであろう。

なお，上記の結果について興味を引く点は2つある。

1 点目は先行研究で言われてきた 26 種の意味特性を調査しているわけであるが，そのうちの 18 種について母語話者の直観判断の一致度が低かったということである。この理由としては，(1) 川崎 (2016) も言うように，語基レベル習慣化タイプと語レベル習慣化タイプにずれがあり，語として何らかのイメージを持っていたとしても語基のレベルでそのイメージを認識できる母語話者が少なかったこと，(2) 共通要素以外の変要素の持つイメージが場合によって干渉して共通要素の持つ意味素性が明確に意識されなかったこと，が考えられる。

2 点目は，撥音「ん」がほかの共通要素に比べて一致度がきわめて低かったということである。これは変要素の反復や「っ」や「り」に比べれば鼻音である「ん」という音が明確なイメージを持ちにくいためであるのではないと考えられる。

7.5 まとめ

以上，本論文では，大規模なコーパス調査及び母語話者アンケート調査を経て，オノマトペの語形上の分類，重要語形の特定，標識の意味特定を行ってきた。

RQ1 では，従来のオノマトペ形態の分類枠組みを整理し，(1) 実際のオノマトペの出現データと照合した場合，分類の枠組みに収まらないものはないか，(2) 提示された変要素（語基・語根・基本形）のモーラ数は必ず 1 モーラまたは 2 モーラに限定されるか，(3) 提案された共通要素（オノマトペ標識）は本当に 1 つに限られるか，の 3 観点から考察し

た。(1) について 17 種の該当語が確認された。(2) について 2 モーラ以上のものが全体の 5%存在することが確認された。(3) について 2 以上のものが全体の 39%存在することが確認された。従来のオノマトペ形態の分類枠組みを再整理する必要性が示された。

RQ2 では、日本語教育の観点から学習者にとって重要なオノマトペ形態の抽出を行った。オノマトペ形態のうち、「A っ B り, A っ, ABAB, A ん A ん」が最も優先的に学習者に提示すべきオノマトペ形態であることが示唆された。

RQ3 では、日本語能力検定 (JLPT) の語彙レベル認定を参考に、100 種と学習段階に応じてレベル分けを行い、上位 23 種の形態で現代使用されるオノマトペの総頻度の 97.80%がカバーされることが示された。

RQ4 では、母語話者アンケート調査により、4 種オノマトペ共通要素について先行研究が指摘してきた 26 種の意味特性のうち、8 種が裏付けたことが示された。

以上により、どのようなオノマトペ形態が重要であるのか、どの順番で学ぶべきかについて明確な指針が得られた。しかしながら、同じ形態に分類された個々のオノマトペは異なる意味を持ち、形態分類だけでは学習者のオノマトペ習得は直接に促進されないと懸念される。しかしながら、学習者がオノマトペの全体像について一定のイメージをつかみ、オノマトペに対してより敏感に反応することができるようになるためには、オノマトペという言語形式に学習者の注意を向ける必要があるだろう。オノマトペは文脈と切り離されるものではないが、オノマトペという言語形式に注意を払いながら前後の文脈をあわせて理解・算出していくことを促すような教材の開発が期待される。この意味において本研究はこのようなオノマトペ教材を開発するための基礎資料となりうる。

第8章 オノマトペの統語的特性

8.1 本章の目的と構成

本論文の第Ⅱ部においては、オノマトペの言語特性として、音韻面、形態面、統語面と意味面に着目し、それぞれ分析を行うわけであるが、すでに述べたように、第6章では音韻面について、第7章では形態面について、それぞれ調査を行い、オノマトペが特有の音韻的・形態的特徴を持つことを明らかにしてきた。本章では統語面に注目したい。

オノマトペの統語的特徴については、すでに第3章で見たように、先行研究は、オノマトペの後接要素、オノマトペの品詞的機能、その中で特に重要な動詞用法の解明、といった観点から様々な議論を行ない、重要な知見を示してきた。しかし、先行研究の多くは内省判断に基づくものやごく少量のデータを分析したものであり、大規模な調査をふまえたオノマトペの統語的特徴の総合的解明は未だに行われていない。そこで、本論文は、まずオノマトペの後接要素に注目することで、オノマトペの統語的特性を概観する。その後、オノマトペの持つ様々な用法の中で極めて重要な動詞用法に注目し、(a) オノマトペのスル型動詞化、(b) スル型オノマトペ動詞の自立性の2つの点を論じていく。

まず、(1) に関して、三上(2003)は6種の上級日本語教材を資料としてオノマトペの後接要素を調査し、以下のようなランキングを示している。

表 8-1 三上(2003)におけるオノマトペ後接要素調査

資料	合計	出現割合 (%)
① (と) V (副詞)	141	58.3
②～ (と) する (動詞)	44	18.2
③～とした・している (形容詞)	17	7
④～だ・N・他 (形容動詞・名詞・他)	16	6.6
⑤～ (の) N (形容動詞)	12	5
⑥～と/に V・なる (副詞)	8	3.3
⑦～ (と) A (副詞)	4	1.6
合計	242	100

しかしながら、三上(2003)の後接パタンのうち、②と③は事実上ともにスル動詞であり、あえて分けて計量すべきかどうかという疑問が残る。また、出現頻度や出現割合が示

されているものの、それらはきわめて限定的なデータから導かれたものであり、日本語におけるオノマトペの統語的ふるまいと正確に一致しているかどうかは必ずしも明らかではない。そこで本章では第5章で特定した1466語のうち最も頻度の高い上位200語をサンプルとして取り上げ、BCCWJの全体データと照合することで、オノマトペと結びつきやすい後接要素とそれによって決定される品詞パターンを明らかにしていきたい。

(2)については、実際の文脈の中で副詞や形容動詞といった付属的なものと比べ、意味のコアを担う動詞が最も重要な位置を占めている。このことから、オノマトペが取りうる様々な品詞的役割の中で、動詞用法は最も注目されている。

まず、(2-a)については、たとえば、筧・田守(1993)はスル動詞化できるオノマトペとそうでないオノマトペの違いを質的に分析し、擬態語オノマトペがスル型動詞になりやすく、形態上8種類に分けられることとしている。しかしながら、より基礎的重要な点としてそもそもスル型オノマトペ動詞にはどのようなものが多いかといった点については必ずしも明確な立場が示されていない。そこで、本論文はスル型オノマトペ動詞の言語的特性を検証する前提として、動詞になりやすいオノマトペの計量的特定を試みる。

次に(2-b)について、オノマトペと「スル」が結合することで新たな動詞が作り上げられるスル型オノマトペ動詞の特徴としてその活用パターンが広く研究されてきた。鷲見(1996)はスル型オノマトペ動詞の取りうるアスペクト形態を11種類に分類している。先行研究がこのようにスル型オノマトペ動詞の活用パターンに注目するのは多様な活用が取れるということがすなわち動詞としての自立性や安定性の証左であると考えられるからであろう。しかしながら、そうして動詞となったスル型オノマトペ動詞が真に「動詞」といえるのかという点についての検証がまだ残されている。そこで、本論文は大規模な書き言葉均衡コーパスを資料して、(2-a)において抽出した重要スル型オノマトペ動詞がどのような活用パターンを持ち、それは一般語彙とどの程度一致しているかを検証したい。

以上をふまえ、本論文では、従来のオノマトペ統語的特性に関する制約を解消すべく、(1)オノマトペの後接要素の結合パターンを計量的に明らかにした上で、(2)オノマトペが作りうる様々な品詞形態の中で、最も重要な役割を果たすと思われるスル型オノマトペ動詞に関して、(2-a)その頻度上の典型例の抽出と様々な言語特性を組み込んだ説明モデルの構築、(2-b)活用パターンの自然さから見る動詞としての自立性の検証、を行っていくこととする。

7.2ではリサーチクエスチョンを、7.3では本章で使用するデータ、調査する対象および

研究手法を紹介する。7.4 では3つのリサーチクエスションの結果と考察を取りまとめる。

8.2 リサーチクエスション

すでに述べたように、本論文の目的はオノマトペの統語的特性の解明である。この目的に沿って、以下の4つのリサーチクエスション (RQ) を設定した。

RQ1 重要オノマトペにおける上位語はどのような後接要素特性を持つか？

RQ2 スル型動詞になりやすいオノマトペまた、なりにくいオノマトペには具体的にどのようなものがあるか？また、動詞化を説明するモデルはどのような言語特性によって構築されているか？

RQ3 スル型オノマトペ動詞は十分な活用的多様性を持ち、自立動詞と成りえているか？

8.3 研究手法

RQ1 については、第5章で選定された1466語のうち、本論文で独自に作成した重要オノマトペ指標の上位200を対象として調査を行う。上位200に絞るというのは、いわゆるジップの法則 (Zipf's law) で言うように、単語頻度は順位が上がるにつれて極端に低下していくからである。下図を見ると、1から200位に向かって重要オノマトペ指標が低下しているが、それ以後はほぼ0に近づき、安定して変化しないことがわかる。すなわち上位200語を見ておけば、全体の約7割以上がカバーできることになる。

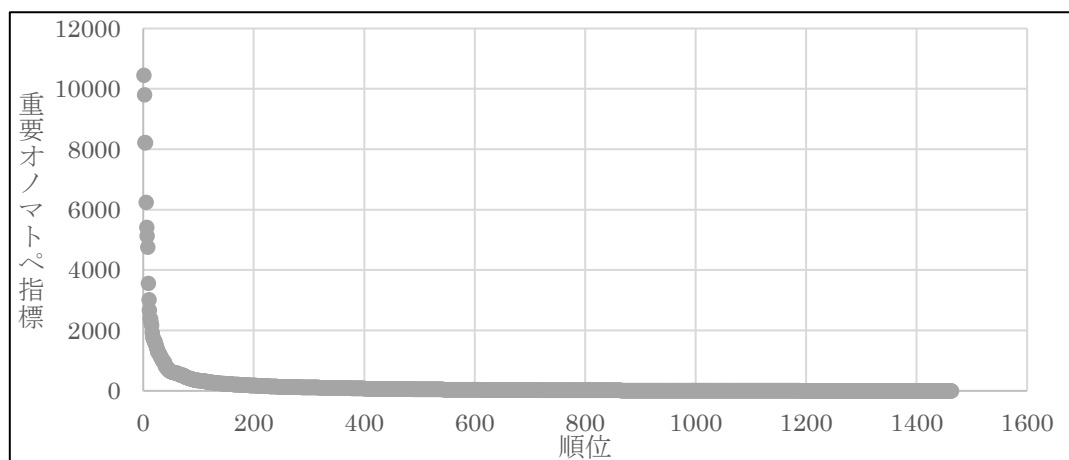


図 8-1 重要オノマトペの頻度分布

次に、上位 200 語に対して『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を利用し、これらの後接要素を調査するわけであるが、その前に、後接要素の分類基準を決める必要がある。この点に関して、三上 (2003) は 7 種の分類を、坂口・加藤 (1996) は 9 分類を提案している。

しかしながら、坂口・加藤 (1996) の関心はオノマトペの後接要素の整理にあり、そもそもそれぞれの後接パターンが現代日本語においてどの程度出現しているのかについての調査は行われていない。

また、三上 (2003) は坂口・加藤 (1996) の 3 つの大分類、9 つの小分類を修正して 7 種の分類を提案しているが、三上 (2003) の分類の中にははっきりしない点も少なくない。たとえば、「④～だ・N・他」と「⑤～(の) N」についていえば、前者において N が選択され、後者において「の」が出現しなかった場合、両者は一致してしまい、同様に、「①(と) V」と「⑥～と/に V・なる」についていえば、前者において「と」が出現し、後者において「と V」が出現した時、両者はやはり一致してしまう。三上 (2003) は後接パターンによって決定される品詞的用法として④⑤は共に形容動詞であると述べているが、①は様態・結果・頻度・程度副詞、⑥は結果副詞であると述べている。特に後者の場合、同じ形に違う機能が割り当てられることとなり、この枠組みには若干の問題が残されていると思われる。また、「②～(と) する」と「③～とした・している」は異なるグループに分かれているが、これらの差はスル動詞に付与されたアスペクトの違いのみであり、動詞レベルで見れば、両者は同じとみなしてよいだろう。実際、鷲見 (1996) や伊東 (2015) は両者を区別していない。

このように、以上をふまえ、本論文は坂口・加藤 (1996) の枠組みを利用し、それぞれの後接要素の出現頻度を調査することとする。その分類枠組みを以下の表で示す。なお、「ト+ダ」「ニ+ダ」が実際存在しないので、最終的には 9 分類ではなく、7 分類で調査を行った。

表 8-2 坂口・加藤 (1996) におけるオノマトペの後接成分の分類枠組み

φ			ト			ニ		
ダ	スル	用	ダ	スル	用	ダ	スル	用

具体的なやり方として、まず、BCCWJの検索インターフェース「中納言」を利用し、(1)について、語彙素検索に該当オノマトペを入力し、後接1語の位置に語彙素で「だ」を指定し「 ϕ +ダ」の頻度獲得し、語彙素「為る」を指定して「 ϕ +スル」の頻度を獲得する。最後に、後接1語の品詞を「動詞」に指定して「 ϕ +用」の頻度を獲得することとした。上記の後接1語をそれぞれ「ト」や「ニ」に代えて、後接2語を上記と同様のやり方で設定し、それぞれのパタンの頻度を抽出することとする。

RQ2については、まず、重要スル型オノマトペ動詞の抽出に当たり、2つのアプローチが考えられる。1つ目はスル型オノマトペ動詞そのものの頻度に基づくアプローチであり、もう1つはオノマトペの総頻度に対するスル型オノマトペ動詞の動詞化率に基づくアプローチである。しかし、前者についていえば、スル型オノマトペ動詞の頻度が高くても、その動詞用法は該当オノマトペが持つ用法の中で順位が低い場合も考えられる。というのも該当オノマトペは動詞として機能するより副詞や形容動詞として機能するのがより典型的であるからである。また、後者についていえば、該当オノマトペは一般に動詞として使用されるが、そもそもその頻度が低く、典型的なスル型オノマトペ動詞と言えない。そこで、本論文では動詞化頻度と動詞化率を組み合わせる形で重要スル型オノマトペ動詞を特定する新たな指標を作成し、データの検証を行いたい。まず、RQ1で得られたスル用法の頻度に基づき降順で並び替えて「スル頻度」を得る。次に、スル頻度を該当オノマトペの総頻度で割って「スル率」を得て降順で並び替える。最後に、スル頻度とスル率を掛け算して重要スル型オノマトペ動詞指標として計算することとする。

その一部は以下のように示す。

表 8-3 重要オノマトペサ変動詞の計算例

	スル頻度	スル化率	合成指標
びっくり	3480	0.73	$3480 \times 0.73 = 2526.68$
ひょっ(と)	1442	0.98	$1442 \times 0.98 = 1413.57$
はっきり	3793	0.36	$3793 \times 0.36 = 1376.47$
ほっ(と)	1729	0.73	$1729 \times 0.73 = 1255.01$

次に、説明モデルについて、重回帰分析を行う。まず、スル頻度をオノマトペ頻度で割ったスル化率を求め、これを目的変数とする。たとえば「どきどきする」であれば、動詞

としての頻度が 397 回、「どきどき」の全体の頻度が 461 回なので、この場合のスル化率は 0.86 (397/461) となる。次に、説明変数については、先行研究で多く触れられてきた 6 変数、また、本論文で独自に追加した 12 変数、あわせて 18 変数とする。前者は擬態語性、擬情語性、擬音語性、助詞「と」の義務か否か、動作性の有無、性質性の有無である。また後者は、オノマトペの音韻特性にかかわる 2 変数（濁音の有無、半濁音の有無）、形態特性にかかわる 7 変数（モーラ数、A っ B り、A っ、A ん、ABAB、A り、A ん B り）、意味特性にかかわる 3 変数（語義数、程度の含意の有無 [「ほんのり」○、「ぼんやり」×]、体感的感覚の含意の有無 [「ちくちく」○、「ちまちま」×]) である。ここでの擬態語性、擬情語性、擬音語性、動作性の有無、性質性の有無、語義数、程度の含意の有無の 7 変数は、6 冊の辞書の掲載状況をダミー変数に変換したうえで、平均値を取ったものである。なお、重回帰分析を行う際に、1 個の説明変数に対して 30 個のデータが必要とされているため、説明変数は第 5 章で選定された 1466 語のうち、スル頻度が 2 以上の 467 語を調査対象とした。

RQ3 については、調査に先立ち、(a) 比較する対象とする一般語彙の定義、(b) 調査する活用形の選択を決定する必要がある。

まず、(a) について、本論文では、スル型オノマトペ動詞の動詞性を議論する際の比較の基準として、(1) 高頻度自動詞、(2) 高頻度他動詞、(3) 「する」本動詞、(4) 一般動詞全般 (1~3 の平均)、(5) 漢語サ変動詞、(6) 外来語サ変動詞、(7) 複合型サ変動詞全般 (5~6 の平均) の 7 種を措定する。以下、サンプル語の決定方法と頻度調査方法について述べる。

まず、(1) と (2) については、BCCWJ より、自動詞・他動詞別に、高頻度 50 語を選んだ。前者は「因る、分かる、出る、入る、違う、変わる、返る、立つ、会う、生きる、従う、乗る、答える、開く、戻る、歩く、当たる、向かう、死ぬ、残る、生まれる、進む、始まる、走る、関わる、働く、起こる、基づく、越える、済む、動く、現われる、住む、頑張る、生ずる、増える、気付く、異なる、起きる、寝る、至る、離れる、経つ、座る、落ちる、遊ぶ、決まる、占める、驚く、困る、似る」で、後者は「思う、考える、行う、取る、使う、聞く、知る、作る、書く、入れる、食べる、教える、飲む、待つ、認める、含む、図る、変える、選ぶ、合わせる、定める、加える、送る、決める、述べる、立てる、比べる、描く、進める、用いる、打つ、止める、守る、楽しむ、伝える、勧める、調べる、売る、探す、開ける、語る、残す、信ずる、止める、表わす、起こす、殺す、除く、思い

出す、繰り返す、失う」である。これらについて、BCCWJ で個別的に活用形別の頻度調査を行った。

(3) については、本動詞「する」のみを対象とした。頻度調査の際には、検索インターフェースにおいて、キー語の語彙素を「為る」とし、＜前方共起条件＞を「助詞」に指定することで、本動詞以外の用例の混入を排除した。

(5) と (6) については、キー語の語彙素を「為る」と指定し、＜前方共起条件＞をそれぞれ「漢語」「外来語」に指定して検索を行い、頻度調査を行った。

次に、(b) について、BCCWJ の動詞活用形分類には、未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形、已然形、語幹、ク語法、ミ語法、意志推量形が存在するが、このうち、語幹(例：痛い→いた、早い→はや)、ク語法(例：おそらく、いわく)、ミ語法(例：高み、うまみ)、已然形(例：すれど)はサ変動詞と関係しないため、分析から除外する。これにより、本論文で扱う活用形は、未然形(し・さ・せ)、連用形(し)、終止形(する)、連体形(する)、假定形(すれ)、命令形(しろ・せよ)、意志推量形(しよ)の7種となる。なお、未然形には「しない・させる・される・せざる・せねば」などの異形も存在するので、各形の低位区分についても分析対象とし、BCCWJ の小分類に基づき、それぞれ「未然形一般」「未然形サ」「未然形セ」の3種に分ける。よって、最終的に9種の活用形を取り扱う。

なお、自動詞・他動詞の未然形については、BCCWJ において「未然形一般、未然形サ、未然形セ」の3種の分類が行われていないため、筆者がBCCWJ の分類基準に従い、手動で分類を行った。具体的に、「ない、なかった、なく」などを「未然形一般」、「させる、される、させられる」を「未然形サ」、「ず、ぬ、ねば」を「未然形セ」と判断した。

以下、「しっかりする」というオノマトペサ変動詞を例として、分析対象とする9つの活用形のコーパスでの出現例を示す。

[未然形一般]：今、自分たちがしっかりしないと、後に続く世代の子どもたちまで影響を受けてしまう。(書籍：LBr9_00203)

[未然形サ]：むりやり走らせるのではなく、動機づけをしっかりさせ、子どもに目的を持たせることが大切です。(書籍：LBk3_00121)

[未然形セ]：こういう時こそしっかりせねばと思いながらも、力が抜けてしまった。(書籍：PN2a_00017)

[連用形]：さすがにそこへ子どもを入れている親は職業がしっかりしているわね。

(書籍：LBi5_00011)

[終止形]：人の顔や肌を洗うようにして扱い、すすぎもしっかりする。(書籍：PB25_00341)

[連体形]：もうひとつの大きな理由は、昨年痛めた左肩の補強トレーニングをしっかりすることだった。(書籍：LBm7_00048)

[假定形]：この考え方には、個人の能力を高め、個人さえしっかりすれば、すべてがうまく動くであろうという読みがあった。(書籍：PB23_00168)

[命令形]：その中に岩橋の姿を見出し、佐藤は「しっかりしろ」と声をかけながら抱き起こした。(書籍：PB39_00241)

[意志推量形]：その代わりきれいに花を咲かせよう、当番で管理をしっかりしようと確認しあった。(書籍：LBp3_00097)

「しっかり」の場合、コーパスにおいて 9 種の活用形がすべて出現しているが、当然ながら、活用形ごとに頻度は異なる。本論文では、以下、こうした個々の活用形ごとの頻度、あるいは、そのうちの 7 種を集約した変化形の頻度に注目することで、スル型オノマトペ動詞と一般動詞の差異を量的に検証していく。

具体的な手法として、動詞タイプをケース、各活用形を変数とする頻度表を作成し、質的に観察する。また、ケースクラスター分析により、動詞タイプを少数のクラスターに分類し、スル型オノマトペ動詞の位置付けを探る。仮に、スル型オノマトペ動詞が自動詞や他動詞と同一クラスターに分類されれば両者は活用の点で近い関係にあり、離散したクラスターとなれば遠い関係にあると言える。

8.4 結果と考察

8.4.1 RQ1 オノマトペの後接要素特性

まず、第 5 章で選定した重要オノマトペの上位 200 を調査した結果を以下の図で示す。

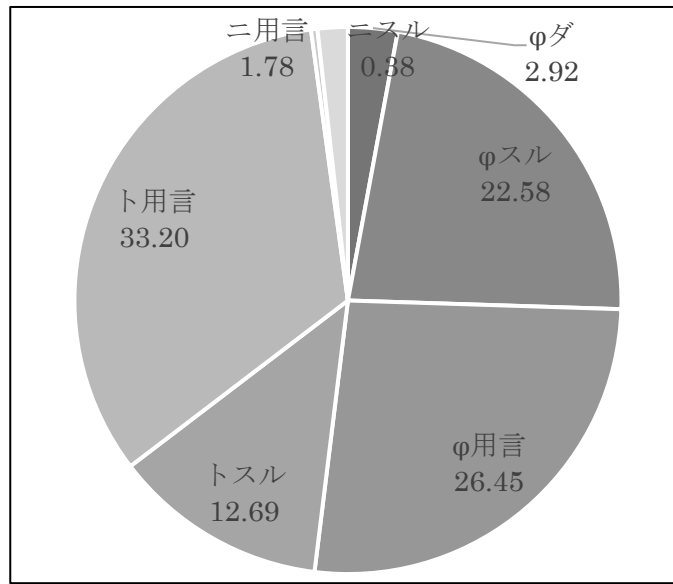


図 8-2 重要オノマトペ上位 200 の後接要素

上図で明らかなように、上位 200 種の重要オノマトペを分類した結果、「ト用言」>「φ用言」>「φスル」>「トスル」>「φダ」>「ニ用言」>「ニスル」の関係が確認された。このように、オノマトペの典型的な機能は副詞であることが明らかになった。7 種の分類をさらに整理すると、「ト用言」「φ用言」は副詞用法、「φスル」「トスル」は動詞用法、「φダ」「ニ用言」「ニスル」は形容詞用法であると考えられる。すなわち、200 語のうち、59%は副詞用法で、次に 34%は「する」と結び付く動詞用法である。従来、あまり注目されていなかった形容詞用法も 5%ある。この結果を三上（2003）と比較すると、下表の通りとなる。

表 8-4 三上（2003）との比較

本論文	三上（2003）
副詞	141(62%)
(オノマトペ+V)	8(4%) 63%
	4(2%)
動詞用法	44(19%)
(オノマトペ+スル)	17(8%) 25%
形容動詞	12(5%) 12%

上表で明らかのように、構成比に若干のずれが存在するが、三上（2003）においても、本論文においてもオノマトペの後接要素の順位は副詞>動詞>形容詞であることが確認された。これは現代日本語オノマトペの品詞的位置づけが副詞>動詞>形容動詞となることを示唆している。しかしながら、以上の関係は単に後接要素を使用頻度で並び替えた結果であり、それぞれの品詞が実際の文脈において担う機能を考えれば、むしろ、動詞>形容詞>副詞の順番となる。このことを考えれば、日本語教育においてオノマトペを扱う時に、オノマトペは副詞であると決め付けるのではなく、従来重視されなかった動詞用法や形容動詞用法にも注意を払わなければならない。たとえば、オノマトペは一般に副詞として振舞うが、その他に動詞や形容動詞の用法も持っているというオノマトペの統語的特徴を学習者に体系的教授すべきであろう。あわせて、その典型例として、オノマトペは動詞になりやすい具体的なオノマトペ、もしくは形容動詞になりやすい具体的なオノマトペを学習者に提示することも必要であろう。

8.4.2 RQ2 重要スル型オノマトペ動詞の典型例と説明モデル

オノマトペが取りうる様々な品詞形の中で、現日本語語彙として最も重要な役割を果たすのはオノマトペの動詞用法である（以下：スル型オノマトペ動詞）。先行研究はスル型オノマトペになりやすいもの、もしくはなりにくいものについて言語学的検証を行ってきたが、その議論の前提として、具体的にどのオノマトペがスル型オノマトペ動詞になりやすいかについてははっきりした立場が示されていない。そこで、本節では日本語学研究、日本語学教育のための重要スル型オノマトペ動詞の典型例の選定を行いたい。また、具体的にどのような言語特性を持つオノマトペがスル型オノマトペ動詞になりやすいかについての説明モデルの構築も行いたい。

まず、スル頻度及びスル率で並び替えたところ、以下のような結果を得た。なお、ここでは上位 10 語を示す。

表 8-5 スル頻度の場合

スル頻度	スル率
------	-----

表 8-6 スル率の場合

スル頻度	スル率
------	-----

はっきり	3793	0.36	ひよっ (と)	1442	0.98
びっくり	3480	0.73	ぞっ (と)	492	0.96
しっかり	2228	0.23	しんなり	187	0.94
ほっ (と)	1729	0.73	ぎよっ (と)	312	0.89
ひよっ (と)	1442	0.98	むっ (と)	321	0.84
いらいら	1195	0.73	きよとん	196	0.84
すっきり	1140	0.59	がっしり	209	0.83
きちん (と)	1122	0.17	くらくら	156	0.81
がっかり	736	0.76	ごっごっ	138	0.77
どきどき	727	0.62	がっかり	736	0.76

スル頻度で抽出したスル型オノマトペ動詞についていえば、従来の研究はほとんどスル頻度によってスル型オノマトペ動詞を議論しているが、表 8-6 に明らかなように、頻度の高いものの中には「はっきり」「しっかり」「きちん (と)」のような動詞用法が必ずしも典型的でないものも含まれている。このように、スル頻度のみで評価した場合、特にスル化動詞としての親和性を持っているオノマトペを見落としている可能性もある。

次に、スル率で抽出した語はいずれもスル化率の高いものであり、主としてスル化動詞として機能する。しかしながら、これらは必ずしも頻度が高いものとは限らない。実際に、「ひよっ (と)」以外、当該スル型オノマトペ動詞の総頻度はいずれも 1 億中 500 回以下で限定的である。

仮に、スル頻度とスル率が完全に同じものであれば、ここでの重なり度合も高いはずである。しかし、以上の 2 つの表を比較してみると、それぞれの上位 10 語のうち、重なっているのは「ひよっ (と)」の 1 語のみであった。このことは、スル型オノマトペ動詞のなりやすさには、スル頻度とスル率という 2 つのものが存在することを示しており、これらを合成して全体を分析しようとする手法の妥当性はここで確認された。

以上をふまえ、上記の 2 つの方法は一長一短で、本論文では両者を掛け算して合成したところ以下のような結果を得た。

表 8-7 合成した場合

	スル頻度	スル率	合成指標
びっくり	3480	0.73	2526.68
ひよっ	1442	0.98	1413.57
はつきり	3793	0.36	1376.47
ほっ	1729	0.73	1255.01
いらいら	1195	0.73	871.28
すつきり	1140	0.59	676.17
がっかり	736	0.76	561.34
しっかり	2228	0.23	506.53
ぞっ	492	0.96	471.86
どきどき	727	0.62	447.15
...
すっぼり	0.00	0.00	0
ぐんぐん	0.00	0.00	0
めちやめちや	0.00	0.00	0
ばんばん	0.00	0.00	0
まじまじ	0.00	0.00	0
くすくす	0.00	0.00	0
ぞろぞろ	0.00	0.00	0
がらり	0.00	0.00	0
とっと	0.00	0.00	0
ひそひそ	0.00	0.00	0
すっぼり	0.00	0.00	0
ぐんぐん	0.00	0.00	0
めちやめちや	0.00	0.00	0
ばんばん	0.00	0.00	0
まじまじ	0.00	0.00	0
くすくす	0.00	0.00	0
ぞろぞろ	0.00	0.00	0

がらり	0.00	0.00	0
とっと	0.00	0.00	0
ひそひそ	0.00	0.00	0

上表よりわかることは3点にまとめられる。

1点目は、音韻面において、上位語の場合も下位語の場合も語頭位置に濁音が4つ含まれているということである。このことから濁音の使用において両者にははっきりした差異が存在しない可能性が示された。

2点目は、形態面において、上位語には「A っ B り」型「A っ」が多く、下位語には「ABAB」型が多いということである。オノマトペの形態上の特性として、「ABAB」型が最も多いことがしばしば指摘されるが、典型的なスル型オノマトペ動詞の上位10語に示されるように、「ABAB」型は上位10語には少なく、むしろ最下位の10語に多く含まれている。このことは、「ABAB」型は必ずしもスル型オノマトペ動詞として位置づけられていない可能性を示している。

3点目は、オノマトペの種類において、上位10語のうち、「びっくり、ほっ(と)、いらいら、がっかり、すっきり、ぞっ(と)、どきどき」の7語は擬情語であるということである。このことは擬情語がスル型オノマトペ動詞になりやすい可能性を示している。

以上は質的に観察した結果であるが、以下では重回帰分析を行うことによって、スル型オノマトペ動詞になる要素を探る。重回帰分析を行ったところ、以下の回帰式を得た。

$$[\text{スル化率}] = 0.340 - 0.258[\text{擬音性}] + 0.0341[\text{モーラ数}] + 0.130[\text{A っ}] - 0.139[\text{動き性}] + 0.180[\text{擬情性}] - 0.219[\text{程度性}] \quad (\text{自由度調整済み } r^2=0.22)$$

検討した18変数のうち、モデルに採用されたのは6種のみであった。特に、先行研究がオノマトペのスル動詞化に関して多く議論してきた6変数のうち、モデルに採用されたものは3種のみで、擬態語性、助詞「と」の義務か否か、性質性の有無はモデルに採用されなかった。また一方で、筆者が独自に加えた12変数のうち、モーラ数や「A っ」型や程度性はモデルに採用された。オノマトペのスル動詞化現象を考える場合、従来の研究の枠組みを広げてアプローチすることが重要であると言えるだろう。

また今回の結果は、感情を表すオノマトペや「A っ」型やモーラ数の多いオノマトペは

スル型オノマトペ動詞になりやすく、擬音語や程度を表すオノマトペ及び動き性の高いものはスル型オノマトペ動詞になりにくいということを示唆している。

すでに質的に観察した結果と同じく、濁音という音韻要因はオノマトペの動詞化にとって重要な要素ではなく、逆に「Aっ」型という形態要因がオノマトペの動詞化に影響を及ぼしていることが明らかになった。また擬情語について、筧・田守（1993）は、擬態語はスル型オノマトペ動詞になりやすく、その中の擬情語が特にスル型オノマトペ動詞になりやすいと述べている。本論文は、筧・田守（1993）の質的観察で得られた擬情語がスル型オノマトペ動詞になりやすいということを計量的調査により裏付けた。ただし、今回の調査結果から言えば、擬態語が必ずしもスル型オノマトペ動詞になれるとは限らないことも示唆された。

8.4.3 RQ3 スル型オノマトペ動詞の動詞性

すでに述べたように、オノマトペは一般に副詞として見なされ、文の構成要素の中の余剰成分と見なされるわけであるが、実際にはオノマトペが文の中で最も重要な構成要素である動詞の形態になりうることもある。しかし、仮にオノマトペが「スル」と結合して使われたとしても、その大部分は「終止形」や「連体形」に偏っているのであれば、それはスル型オノマトペ動詞が動詞として自立した存在にはなりえていないといえるのであろう。一方、オノマトペがスルと結合して生じたスル型オノマトペ動詞が他の一般語彙と同じように多様な活用性を取りえているのであれば、スル型オノマトペ動詞は動詞という独立した文法的地位を獲得していると結論してよいだろう。このことを念頭に見ていこう。

活用別に使用頻度別に調べたところ、以下の結果を得た。

表 8-8 活用別の使用比率 (%)

	未一	未サ	未セ	連用	終止	連体	仮定	命令	意志
自動詞	5.13	1.72	1.94	63.81	8.99	16.42	1.18	0.18	0.63
他動詞	3.63	14.40	1.58	55.10	9.15	13.66	1.09	0.35	1.04
する	4.42	4.15	0.90	67.75	7.63	11.42	1.86	0.85	1.01
一般動詞平均	4.39	6.75	1.47	62.22	8.59	13.84	1.38	0.46	0.90
漢語サ変	2.54	21.76	0.40	47.31	8.99	17.28	0.65	0.09	0.98

外来語サ変	1.05	8.37	0.17	60.43	13.71	13.81	1.18	0.11	1.16
複合サ変平均	1.79	15.07	0.29	53.87	11.35	15.55	0.91	0.10	1.07
オノマトペ	3.85	4.73	0.33	77.24	6.34	6.73	0.14	0.53	0.10

上表に示されるように、本論文は9種の活用形を調査したわけであるが、すべての活用形にはスル型オノマトペ動詞が出現しており、その中には「連用形」が最も多く、「假定形」「命令形」「意志推量形」が非常に少ないことがわかった。ただし、この傾向は他の語彙と一致しており、スル型オノマトペ動詞は他の語彙と比べ、類似した活用パターンを持ち、同様のふるまいを見せている。すなわち、スル型オノマトペ動詞は動詞としてのステータスを持っているのではないかと判断できる。

ただし、上表の比率を比較してみれば、それぞれの動詞タイプは完全に同じわけではなく、語彙タイプによって異なる活用形の選好パターンを持っていることがわかる。たとえば、自動詞の場合は、他の語彙に比べて「未然形一般」「未然形セ」が多く、「未然形サ」が少ない。漢語サ変動詞の場合は、「未然形サ」「連体形」が多く、「連用形」「命令形」が少ない。他の語彙と比べてスル型オノマトペ動詞の特徴として、「連用形」が多く、「終止形」「連体形」「假定形」「意志推量形」が少ないことが挙げられる。このように、スル型オノマトペ動詞は他の語彙と同じ活用パターンの傾向を持ちながら、独自性も持っている。これらの8種の動詞タイプの相互関係を調べるために、上表に対してケースクラスター分析を実施することとした。その結果は図8-3に示すとおりである。

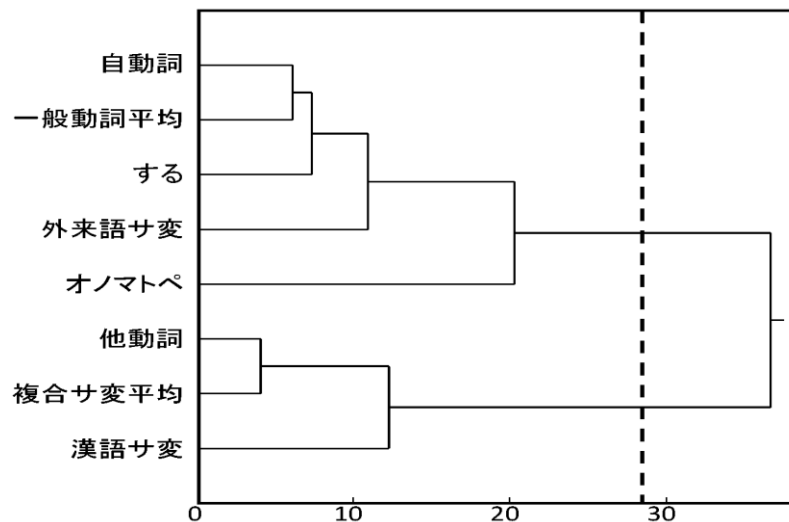


図 8-3 クラスター分析の樹形図

図 8-3 に明らかなように、8 種類の動詞タイプは大きく 2 つのグループに分けられる。仮にスル型オノマトペ動詞は他の動詞と異なる性質を持つのであれば、クラスター分析により、独立したグループを構成しているはずである。しかしながら、クラスター分析の結果から見れば、スル型オノマトペ動詞は自動詞、一般動詞平均、本動詞「する」、外来語サ変動詞のグループに分類された。このことから、スル型オノマトペ動詞は他の動詞タイプと同様に動詞として振舞い、十分な動詞としての自立性を持つことが確認された。

また、スル型オノマトペ動詞は他動詞や漢語サ変動詞より自動詞や本動詞「する」、外来語サ変動詞に近い動詞活用パターンを持つことも示唆された。表 8-5 で示されたように、他動詞や漢語サ変動詞は特に「未然形サ」が多く、自動詞や本動詞「する」、外来語サ変動詞は「未然形一般」「仮定形」が多い。

以下活用形タイプごとに典型用例を示しておく。

[未然形サ—他動詞]: ヨーロッパでは教会こそが、建築・音楽・工芸・絵画の中心であり、今日、名前が残ってはいない“技術者”たちにこれらの作品を創らせて教会の権威を誇示した。(書籍: PB17_00123)

[未然形サ—漢語サ変動詞]: ゆるやかなすり鉢状の中央部に浅い池が設けられ、美しい海辺をイメージしたのがモエレビーチで、高さ三十メートルのプレイマウンテンは、ピラミッドや古代遺跡を想像させる公園全体の大きなフォルムを形成している。(書籍: PB52_00140)

[仮定形—自動詞]: しかし、血液を採るだけで分かれば非常に簡単なのですが、実際にはなかなかそういうことだけでは済まないのです。(書籍: PB54_00225)

[仮定形—する]: 金融業者も「裁判に訴えるぞ」と表面上では大声を出してはいるが、実際のところはそんなことをすれば自分がいちばん損をすることくらい百も承知なのだ。(書籍: OB4X_00008)

[仮定形—外来語サ変動詞]: 1 枚の画像を読み込んだあと、そのままもう 1 つの写真スペースをクリックすれば、2 枚めの画像を読み込むことができます。(書籍: PB5n_00043)

[未然形一般—オノマトペサ変動詞]: あんたが、ただのネズミでないことは、このチャカを持ちだした時にも、別にびっくりしなかったことを見てもわかる。(書籍:

LBe9_00162)

[連用形—オノマトペサ変動詞]: 私は立ちあがり, まだうずくまっている老人を抱き起こした. やはり骨格はがっしりしている. (書籍: LBp9_00157)

「未然形サ」というのは「話者の意志で誰かに何をさせることや誰かの意志で何かをされたこと」を意味し, 意志性の強いものである。それに対し, 「未然形一般」は「～ない, ～なかった」を, 「仮定形」は「～れば」を表しており, いずれも話者が把握できない事態, または, 話者の意志で動かないといった意志性の低いものである。意志性の観点から考えれば, スル型オノマトペ動詞は意志性の低い自動詞のグループに近く, 用例で示した「びっくりしなかった」「がっしりしている」のように主として物事の状態や様態を表す。この点に関して, 「揺らす」「揺れる」「ゆらゆらする」を例にとって考えてみよう。

(1) わたしは牧野の首を掴み, がっくんがっくん前後に揺らした。(書籍: LBt9_00121)

(2) みっしりと集まって生えるのが特徴で, それが陽を浴び風に揺らされると, 寝そべっている大きな大きな獣の背のように見えた。(書籍: LBp9_00032)

(3) 女が打ち返して, 虎の体がグラリと揺れた。(書籍: PB19_00230)

(4) 空は暗く, 強風がポプラを強く揺れさせて, 何となく不気味である。(書籍: LBd2_00031)

(5) 相というものに関連して, そういう運動が認められるかもしれないと思っています。大地の触手がゆらゆらしている。(書籍: LBj7_00009)

(6) 水, 海藻, 海藻をおおうおびただしい数のウニ, ケルプのあいだできゃしゃなひだをゆらゆらさせているクラゲ, なにもかもが緑だ。(書籍: LBin_00008)

上記の用例のうち, (1) (3) は「終止形」, (2) (4) (6) は「未然形サ」, (5) は「連用形」である。また, (1) と (3) は共に「終止形」であるが, (1) は「体を揺らす」という他動詞用法であり, (3) は「体が揺れる」という自動詞用法である。前者は自分の意志により他者に対して何らかの行為を与えるのに対して, 後者は自分の意志によらず, 受動的に動かされた行為を表している。他動詞と同様の意味合いを表すために, (4) や (6) のように「未然形サ」の形に変えないと成立しない。このことから, スル型オノマトペ動詞は自動詞と同様低い意志性を持っていることが示唆された。また, (5) の「連用形」の「ゆ

らゆらしている」に対して「終止形」の「ゆらゆらした」の用例が見つからなかった。「～している」は主としてある動作の進行やある状態の継続を表し、「～した」はある動作の完了を表している。このことから、現代日本語においてスル型オノマトペ動詞は特に「連用形」を好み、物事の様態を表し、意志性の低いものであるといえるだろう。ただし、この点については、「連用形」をより細かく分類し、検証していく必要がある。というのも、「連用形」の枠組みが広く、たとえば「した。」「した体言」「している。」「している体言」などの区別ができないからである。このことについては、今後の課題としたい。

8.5 まとめ

以上、オノマトペの後接要素の特性の解明、オノマトペが取りうる様々な品詞の中で特に重要な動詞用法を持つスル型オノマトペ動詞の典型例の抽出と説明モデルの構築、スルと結合してサ変動詞になったオノマトペサ変動詞は動詞としての十分な自立性を持つかの検証を行ってきた。

まず、RQ1では、坂口・加藤（1996）の後接成分の分類に基づき、オノマトペの後接要素を BCCWJ における使用状況と照らし合わせ、小分類から言えば、「ト用言」>「 ϕ 用言」>「 ϕ スル」>「トスル」>「 ϕ ダ」>「ニ用言」>「ニスル」の関係が確認され、大分類から言えば、副詞用法>動詞用法>形容動詞用法の関係が確認された。日本語教育において、オノマトペの取りうる用法として副詞と決めつけるのではなく、文脈において省略できない動詞用法及び形容動詞用法に注意を払うべきということが示唆された。

次に、RQ2では、スル頻度とスル化率を合成することによって、現代日本語における重要スル型オノマトペ動詞を特定した。上位5語は「びっくり、ひょっ（と）、はっきり、ほっ（と）、いらいら」である。また、重回帰分析により、感情を表すオノマトペや「Aっ」型やモーラ数の多いオノマトペはスル型オノマトペ動詞になりやすく、擬音語や程度を表すオノマトペ及び動き性の高いものはスル型オノマトペ動詞になりにくいということが明らかになった。

最後に、RQ3では、一般語彙に比べて、スル型オノマトペ動詞は他の語彙と同様、動詞として十分に振舞っているが、固有の活用上の選好性を持つことが示された。特に、活用パタンの点において、オノマトペは自動詞や本動詞「する」と同様意志性や他動詞性が低いことが示された。

第6章ではオノマトペの音韻的特徴、第7章ではオノマトペの形態的特徴を明らかにし

たが、本章ではオノマトペの統語的特徴をかなりの精度まで取り出したと思われる。本章で得られたオノマトペの統語的特性，あわせて，第6章・第7章で得られた音韻的特性と形態的特性を学習者に提示し，学習者のオノマトペに対する理解も深まるのであろう。

第9章 オノマトペの意味的特性—多義性・類義性—

9.1 本章の目的と構成

本論文の第Ⅱ部においては、オノマトペの言語特性として、音韻面、形態面、統語面、意味面に着目し、それぞれ分析を行うわけであるが、すでに述べたように、第6章では音韻面について、第7章では形態面について、第8章では統語面について調査を行い、オノマトペが特有の音韻的、形態的、統語的特徴を持つことを明らかにしてきた。本章では意味面に注目したい。

オノマトペの意味に関して、注目すべきは(1)1つのオノマトペが多義を持つ場合が多いということと、(2)オノマトペ内、オノマトペ以外の一般語彙を含め、類義語がきわめて多いということである。これらはオノマトペの表現上の豊かさを担保しているが、一方で、日本語教育の観点から言えば、学習上の困難点に直結する。

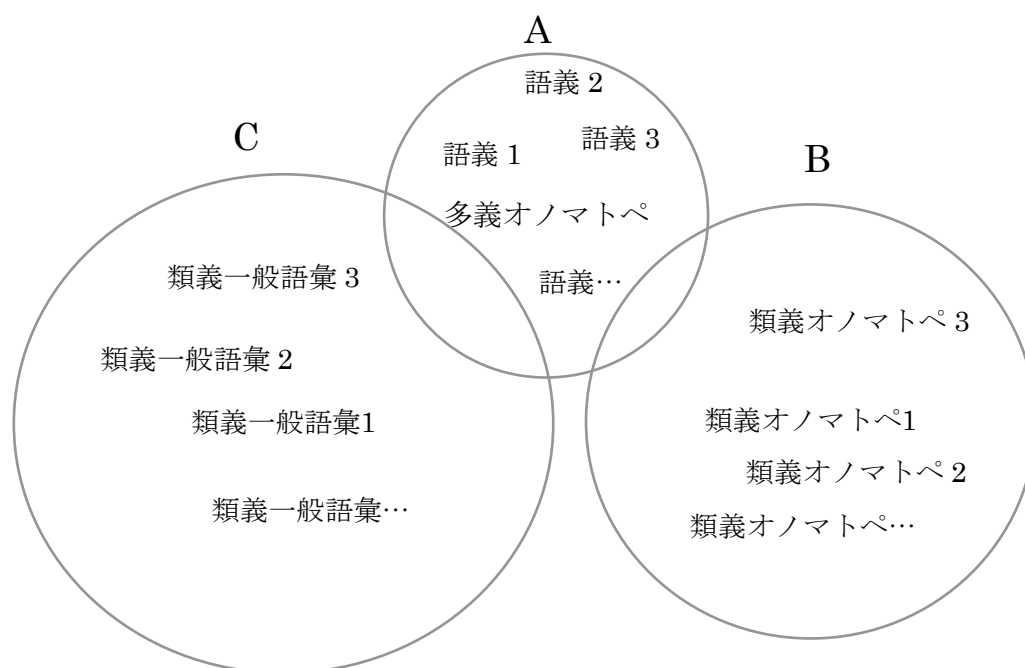


図9-1 日本語におけるオノマトペ及び一般語彙多義性と類義性の概念図

たとえば、Aについていえば、本論文の第5章で選定した重要オノマトペリストの第1位の「はっきり」を例にとって『大辞林(第3版)』で調べると、4種類の意味が掲載されている。これらはほとんどのオノマトペに見られることであり、1つの語が多くの意味を持つことがオノマトペの大きな特徴である。Bについていえば、オノマトペ語彙という範

疇の中において同じような意味を持つオノマトペが多く存在する。たとえば、「はっきり」の場合、同じオノマトペという範疇の中に「くっきり」「きっかり」といった類義語が存在する。さらに、Cについていえば、オノマトペ語彙範疇を超えた一般語彙の中にも類義語が存在する。たとえば、一般語彙の中に「明瞭」や「明確」が「はっきり」ときわめて近い意味を持ち、これらの語は類義語とされる。すなわち、オノマトペは語の内部の中の多義性と語の外部との類義性をともに特性として有していることになる。

こうしたオノマトペの単独での多義性、また他の語との類義関係を知るうえで、通例、参照する書物は辞書であるが、実際のところ辞書の記述は種類により記述する内容のずれが大きく、また必ずしも学習者の視点からみて整理された情報を提示しているわけではない。つまり、ここで重要になるのは、単独オノマトペの多義性、またオノマトペの他の語との類義性について、コーパスデータを用いてより整理された枠組みを提示することであろう。なお、上記のA、B、Cのそれぞれについては様々な語が関連してくるが、ここでは1つの事例として、Aについては辞書において最も語義数の多いオノマトペ「ぐっ(と)」という語を、Bについては現代日本語において高頻度でかつ類義語とされる「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」という3語を、Cについては教科書において極めて早い段階で出現するオノマトペ「だんだん」と同等の意味を伝えるとされる「徐々に」「次第に」という3語をサンプル語として取り出して議論を行う。なお、ここで取り上げた語はすべて筆者が作成した重要オノマトペリストにおいて上位に含まれる語であり、ここで明らかになったことはオノマトペ全体を代表するものであると言えるだろう。

9.2ではリサーチクエスチョンを、9.3では本章で使用するデータ、調査する対象および研究手法を紹介する。9.4では3つのリサーチクエスチョンの結果と考察を取りまとめる。

9.2 研究課題とリサーチクエスチョン

上記の目的をふまえ、本章では以下の3つの研究課題を取り上げる。

研究課題1(多義オノマトペ) 多義オノマトペ「ぐっ(と)」について学習者はどのような問題を抱えているか? またその意味はどのように整理できるか?

研究課題2(類義語: オノマトペ同士) 類義オノマトペ「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」について学習者はどのような問題を抱えているか? またそれらの意味はそれぞれどのように整理できるか?

研究課題 3 (類義語：オノマトペと一般語彙) オノマトペ「だんだん」と類義一般語彙「じょじょに」「しだいに」について学習者はどのような問題を抱えているか？またそれらの意味はそれぞれどのように整理できるか？

以上の 3 つの研究課題の各々について下記のリサーチクエスチョンを設定する。

RQ1 学習者が抱えている問題点としてはどのようなものがあるか？

RQ2 既存の辞書の記述にはどのような問題があるか？

RQ3 コーパス調査をふまえると、どのような意味記述が可能か？

9.3 研究手法

本研究では 3 つの研究課題を取り上げ、それぞれについて 3 つのリサーチクエスチョンを検討する。以下、手法について整理する。

9.3.1 研究課題 1

RQ1 について、学習者が抱えている問題点を探るために、『日本語学習者会話データベース』『KY コーパス』『日本語学習者作文コーパス』『学習者作文コーパス「なたね」』の 4 つの学習者コーパスをデータとして、学習者による多義オノマトペ「ぐっ(と)」の使用例を集める。

RQ2 について、3 冊のオノマトペ辞書(浅野, 1978; 阿刀田・星野, 1995; 小野, 2007)の記述をまとめて質的に観察する。

RQ3 について、コーパスから、頻度を取得する。BCCWJ には様々なジャンルが存在するが、本論文は特に代表的かつターゲット語の出現が 50 以上の 4 ジャンル(雑誌, 書籍(出版・書籍/図書館・書籍/ベストセラー), Yahoo!知恵袋, Yahoo!ブログ)を対象とする。しかし、BCCWJ のジャンル構成から言えば、最もデータ量の多い書籍と 2 番目多い知恵袋の間には 6 倍の差が存在する。一般にジャンル間にデータ量の偏りがある場合、百万語あたりの調整頻度を計算してターゲット語のジャンル間の頻度の多さを比較することが推奨されている(石川, 2012)が、本節の目的は、多義語「ぐっ(と)」の語義間の関係を探ることであり、ジャンル間の頻度の差を比較することはあえて行わない。ただし、ジャンル間の偏りを解消するために、本論文は日本十進分類法(NDC)の分類に基づいて構築さ

れた書籍をさらに 10 ジャンル別に調査し、出現頻度の上位 4 ジャンル、すなわち、文学、ブログ、雑誌、知恵袋を対象とする。その結果は以下のとおりである。

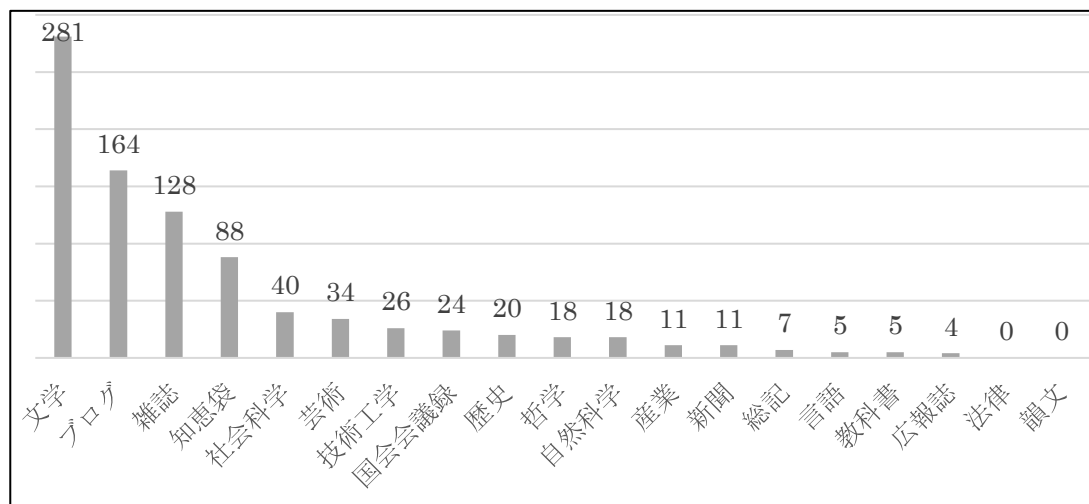


図 9-2 使用するデータ

BCCWJ から「ぐっ (と)」を含む用例をすべてダウンロードし、KH coder を用いて、後接 1 位の動詞をダイス係数順で並べ替え、上位 50 語を抽出する。また、4 ジャンル別に上位 50 語の共起語の出現頻度を調査し、50 種の共起語に対してクラスター分析を行う。最後に、用例数が 100 以上の書籍、雑誌、ブログについて 100 例ずつ、用例数が 100 未満の知恵袋について全 88 用例を意味コード化し、使用頻度を調査する。なお、100 例はダウンロード時の初出 100 例を使用する。

9.3.2 研究課題 2

RQ1 について、学習者が抱えている問題点を探るために、『日本語学習者会話データベース』『KY コーパス』『日本語学習者作文コーパス』『学習者作文コーパス「なたね」』の 4 つの学習者コーパスをデータとして、学習者による類義オノマトペ「きちん (と)」「しっかり」「ちゃん (と)」の使用例を集める。

RQ2 について、3 種類の辞書 (『広辞苑』6 版、『新明解国語辞典』6 版、『大辞林』3 版) の記載内容における 3 語の記述を整理する。

RQ3 について、コーパスにおける全体頻度・ジャンル別頻度・共起語 3 つの観点から調査を行う。まず、全体頻度について、通例、コーパス全体から頻度を取り出す処理が行わ

れる。しかし、BCCWJ の各ジャンルは分量差が大きく、オノマトペの使用傾向が必ずしも同一であると言いきれないことから、本論文ではすでに述べた主要 7 ジャンルにおける頻度を平均化したものをコーパスにおける全体頻度と見なす。なお、3 語の 7 ジャンルにおける平均値間の差の有意性をみるため、一元配置分散分析を行う。

次に、ジャンル別頻度については、上記で得られた 7 ジャンル別の使用頻度データを合算せず、個別に比較する。

最後に、共起語については、まず、BCCWJ より「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」のそれぞれの語を含む用例をダウンロードし、日本語形態素解析ソフトウェア KH Coder を用い、3 語の直後位置に出現する動詞を調べる。次に、共起の強さを示すダイス係数に基づいて、3 語の共起語、それぞれ上位 20 種を抽出する。また、当該 3 語との共起の強さを示すダイス係数を計算し、3 語と特に強く結びついている共起語を品詞別に上位 20 種をリストアップし、それぞれ比較する。さらに、3 語の共起語の違いを確認するために、相互関係を可視化するコレスポンデンス分析を実施する。コレスポンデンス分析のもとなる表において、第 1 アイテムは共起語、第 2 アイテムはジャンルとする。第 1 アイテムには、3 語の共起語上位 20 語から重なりを除いた 37 語（する、やる、見る、食べる、持つ、握る、できる、押さえる、守る、覚える、固定、勉強、つかむ、確認、把握、理解、受け止める、とる、見つめる、考える、説明、整理、書く、伝える、調べる、対応、教える、聞く、決める、管理、ある、わかる、言う、知る、話す、いる、生きる）がカテゴリーとして含まれ、第 2 アイテムにはすでに述べた 3 語のそれぞれの 7 ジャンルが同じくカテゴリーとして（21 カテゴリー）含まれる。

9.3.3 研究課題 3

RQ1 について、学習者が抱えている問題点を探るために、『日本語学習者会話データベース』『KY コーパス』『日本語学習者作文コーパス』『学習者作文コーパス「なたね」』の 4 つの学習者コーパスをデータとして、学習者によるオノマトペ「だんだん」の使用例を集める。

RQ2 について、3 種類の辞書（『広辞苑』6 版、『新明解国語辞典』6 版、『大辞林』3 版）の記載内容における 3 語の記述を整理する。

RQ3 について、コーパスにおける全体頻度・ジャンル別頻度・共起語 3 つの観点から調査を行う。まず、コーパス全体頻度について、BCCWJ の主要 7 ジャンル（新聞、雑誌、

書籍（出版・書籍/図書館・書籍/ベストセラー）、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ、国会会議録、教科書）を対象として頻度調査を行う。なお、全7ジャンルにつき、それぞれのサブジャンルごとに頻度調査を行う。具体的に、サブジャンル頻度の平均をとってジャンル頻度に変換し、7ジャンル頻度を平均化し、最も高頻度な語を定め、3語の平均の差が有意であるかどうかを一元配置分散分析で検証を行う。どこに差があるかという多重比較はTukeyを使用することにする。なお、頻度調査を行う際、漢字表記・平仮名表記を区別せずまとめて扱う。表記の違いを排除するため、以下片仮名表記で統一する。

最後に、共起語については、まず、BCCWJより、「ダンダン」「ジョジョニ」「シダイニ」のそれぞれの語を含むコンコーダンスラインをすべてダウンロードする。次に、日本語形態素解析ソフトウェア KH Coder を用い、3語の直後位置に出現する共起語を、名詞・動詞・形容詞/形容動詞の品詞別に調べる。これらに絞った理由として、「ダンダン」及びその類義語は一般的に段階的変化を表す副詞とされ、何が（名詞）どうなるか（動詞、形容詞・形容動詞）あるいは何を（名詞）どうするか（動詞、形容詞・形容動詞）を観察することが3語を比較する際に大きな手掛かりとなると考えたためである。また、当該3語との共起の強さを示すダイス係数を計算し、3語と特に強く結びついている共起語を品詞別に上位20種をリストアップし、それぞれ比較する。さらに、アイテム間の相関性を可視化するコレスポンデンス分析を行う。コレスポンデンス分析では、第1アイテムと第2アイテムの関係を調べることになるが、ここでは、第1アイテムとして、7ジャンルにおける3語（新聞の「ダンダン」、雑誌の「ダンダン」…、新聞の「ジョジョニ」、雑誌の「ジョジョニ」…、新聞の「シダイニ」、雑誌の「シダイニ」）の合計21カテゴリー、第2アイテムとして、「ダンダン」「ジョジョニ」「シダイニ」に共通して多用される共起語16カテゴリーとする。なお、共起語については、すでにRQ3において、品詞別の上位語を特定しているところであるが、1部の品詞における上位語の頻度は相対的に低いため、ここでは新たに品詞の枠組みを外して単純頻度に基づき、ダイス係数上位の20種をリストアップした。その後、3つの関連語の共起語上位20種に共通して含まれる16語を選んだ。16語は、「大きい、減る、増える、小さい、少ない、下がる、強い、変わる、増加、低下、減少、広がる、上昇、拡大、高まる、近づく」である。

9.4 結果と考察

9.4.1 研究課題 1 多義オノマトペ

9.4.1.1 RQ1 学習者が抱えている問題

まず、学習者コーパスを調べたところ、「ぐっ(と)」に関する用例は確認されなかった。このことから、学習者が「ぐっ(と)」というオノマトペを使用できないということがわかる。これもまた、このようなオノマトペをどのように記述すれば学習者の産出運用につながるかを検討する本論文の意義と重要性を示唆するものである。

9.4.1.2 RQ2 既存辞書の記述

次に、3冊の辞書は「ぐっ(と)」を以下のとおり記載している。

表 9-1 3冊辞書における「ぐっ(と)」の記載

小野	浅野	阿刀田・星野
①声・さま 苦しいときや不満のあるときなどにもたらず、小さな声。息が詰まったり、返答のとばに窮するさま。ぐー。 例：ぐっともすっとも言えない。	①一気に強く力を集中させるようす。 くくーっと 例：満身の力をこめてぐっと押し、抱く みたが、扉はびくともしない。 ぐっとブレーキを踏み、すれすれで車を止めた。 錠剤を二、三錠、水なしでぐっと飲みこみ…。 青年の肩をつかんでぐっと引きもどした。 こみあげてくる罵声をぐっところえて…。 わが子をぐっと胸に抱きしめた。	①物や人に一気に強く力を加えるようす。 用法：態 <物・人>を……と押す、引く、おさえ 例：肩を当てがってぐっと押ししてみたが、がんばりような扉はびくともしない。 あの犬男に首根っこをぐっとおさえ込まれたんだから、いくらもがいても動きがとれない。 男の子は見つかった迷い犬をもう離すまいとい うようにぐっと抱きしめた。
②さま 押しこめられるように心に強い衝撃を受けるさま。 例：さげすまれたやうな寂しい心もちがぐっ胸もとにこみあげた。		②動作に気持ちや力をこめるようす。 用法：態<人>が……と迫る、くる 例：周りにはやされて子供は嫌いな生卵の黄身をぐっと飲みこんだ。
③音・さま 飲み物をひと息に飲		

<p>みくだす音。また、そのさま。 例：思ひ切って言ひませうと、置き注ぎの盃をぐっと飲みほした。生暖い香茶をぐっと飲んで、決然と言ひ放った。</p>	<p>②勢いのさし迫って感じられる状態。 例：すごい目つきでぐっとにらみつけられた。 ぐっと腹に力をいれ、足をふんばってパーペルを持ちこたえる。 ぐっと海に突き出た岬の突端にある宿。 そのとしもぐっと押し迫ったある日。</p>	<p>うわさ話の当人が通りかかり、すごい目つきでぐっとにらまれた。 ぐっと腹に力をいれ、足をふんばってパーペルを持ちこたえる。 こみあげてくるうれしさをぐっとこらえてそしらぬ顔。 ③迫るような感動を受けるようす。 用法：態<感動>が……と迫る，くる</p>
<p>④さま 力を込めてひと息に事をを行うさま。力を込めるさま。 例：ぐっと首根っ子を圧へられ、両手を差延べて、俊一の細っこい身体をぐっと引寄せようとしたが。</p>	<p>③感動が強く迫るようす。 ぐいぐい 例：ぐっと胸にこたえるような説得 高校野球…。選手たちの純真さがま ずぐっとくる。</p>	<p>例：少年のひたむきな純情がぐっと迫る映画だった。 毎年のことだが高校野球のりりしきは勝っても負けてもぐっとくる。 ④進行が急に強くつかえるようす。 用法：態<物>が……とつまる，つかえる，<行為>が……</p>
<p>⑤ほかのものごとや状態と比べて、大きくへだたりのあるさま。 以前と比べて違いがあるさま。 例：西洋の楽器なぞに比べると、三絃の方がグット洒落てる。ぐっと上半身をのりだしていた。</p>	<p>歌よりもこの歌手の絶叫や身もたえがぐっとくるのだそうだ。 ④進行が、強く、急激につかえるようす。 例：餅が喉にぐっとつかえて目を白黒。 手厳しい反論にさすがの彼もぐっと言葉に詰まり…。 推理はここでぐっと行き詰ってしまった。</p>	<p>と行きづまる，<人>が<言葉・返答>に……とつまる 例：食べたもちがぐっとのどにつかえて窒息死だなんてうそのような話だ。 7階と6階の間でエレベーターがぐっとつかえるような感じでとまってしまった。 捜査はここまで来てぐっと行きづまった。 論理の矛盾を指摘されて、勢い込んで抗議していた彼もぐっと言葉につまった。</p>
<p>⑥さま 熟睡するさま。ぐっすり。 例：ああ、一杯やつつけて、ぐっと一寐入したいものだ。 百姓はぐっと寝るのが正月じゃ。</p>	<p>⑤比べてみて著しく差のあること。 ぐん 明日は気温もぐっと上がり、うら</p>	<p>⑤比較して非常に差がある様子。 用法：程度<数量・率・度合>が……とあがる，下がる，増える，減る，落ちる 例：昨日に比べて気温がぐっとあがり，真夏日となるでしょう。 あの仲間と交際するようになってから，息子の学</p>

⑦さま ものごとのすみずみにまで及ぶさま。すっきり。 例：所詮一通りでは身代もまわるまじと、ぐっと知恵をめぐらし。	かな春日和となりましょう。 やはり教師は必要だ。自己流でやっていた時よりぐっと上達した。 花嫁衣装はやはり金屏風の前だとぐっと引き立つ。 年ごろだねえ。女っぷりがぐっと上がったじゃないか。	校の成績はぐっと下がってしまった。 地震騒ぎでこのところ観光客がぐっと減ってしまった。
---	---	--

上表に示されるように、辞書では5つから7つの語義が示されているが、語義の数から記述までずれがある。学習者にとって最も優先的に学ぶべき意味は何か、語義間の関係は何かについて考察する必要性が残されている。そこで、3冊の辞書の記述を整理し、以下のような語義対応表を得た。

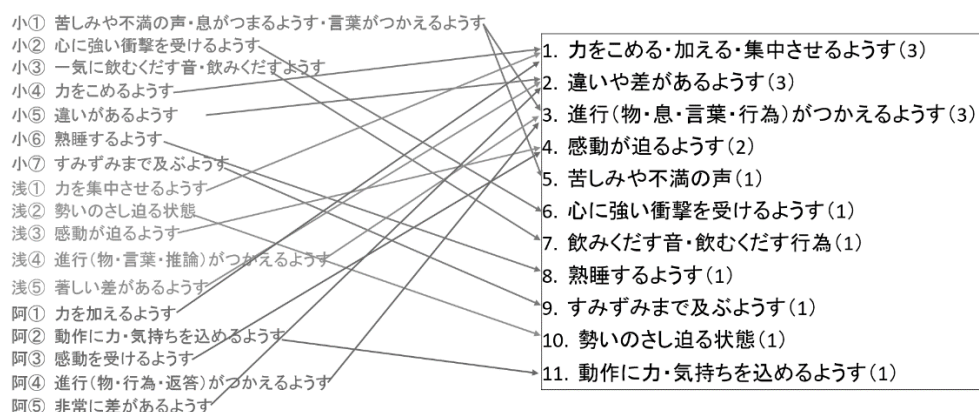


図 9-3 辞書記述対応表

ここでわかることは2点ある。1点目は、右側で整理した11種類の語義のうち、3つの辞書で共通して出現する語義は3種類のみで、7種類の語義は1つの辞書にしか出現していなかったということである。これは、辞書が主張する「ぐっ(と)」の意味内容が想像以上に大きくずれていることを示す。この点に関して国広(1997)は以下のように指摘している。

国語辞典の記述で最も大きな問題は、多義語項目の記述をめぐる問題である。多義の配列のし方はまったくの無原則であると言ってよいほど千差万別である。(中略) 意味的に区

別された複数個の意味が出発点であるが、どの程度に異なっていれば意味的に区別されることになるのか、はっきりした基準があるわけではない。(pp.194-196)

上記で示された辞書の問題点は「ぐっ(と)」の語義記述についても当てはまるものであると言えるだろう。

2点目は、3つの辞書の語義記述を整理してもまだ11種類の語義が残るということである。すでに述べたように、具体的に指すものがはっきりしている具象名詞とは違って、オノマトペは感性や感覚表現とされるため、語義の範囲も極めて広いものとなる。しかしながら、日本語教育の観点から言えば、こうした細かい語義区分をより大きな単位で整理することが望まれる。

9.4.1.3 RQ3 コーパス頻度に基づく分類

すでにRQ1において、「ぐっ(と)」の語義が全体で11種類に区分されることが明らかになった。しかしながら、日本語教育の観点から言えば、これらをより大きな枠組みで再整理することが必要となる。そこで、クラスター分析を行ったところ、以下の結果を得た。

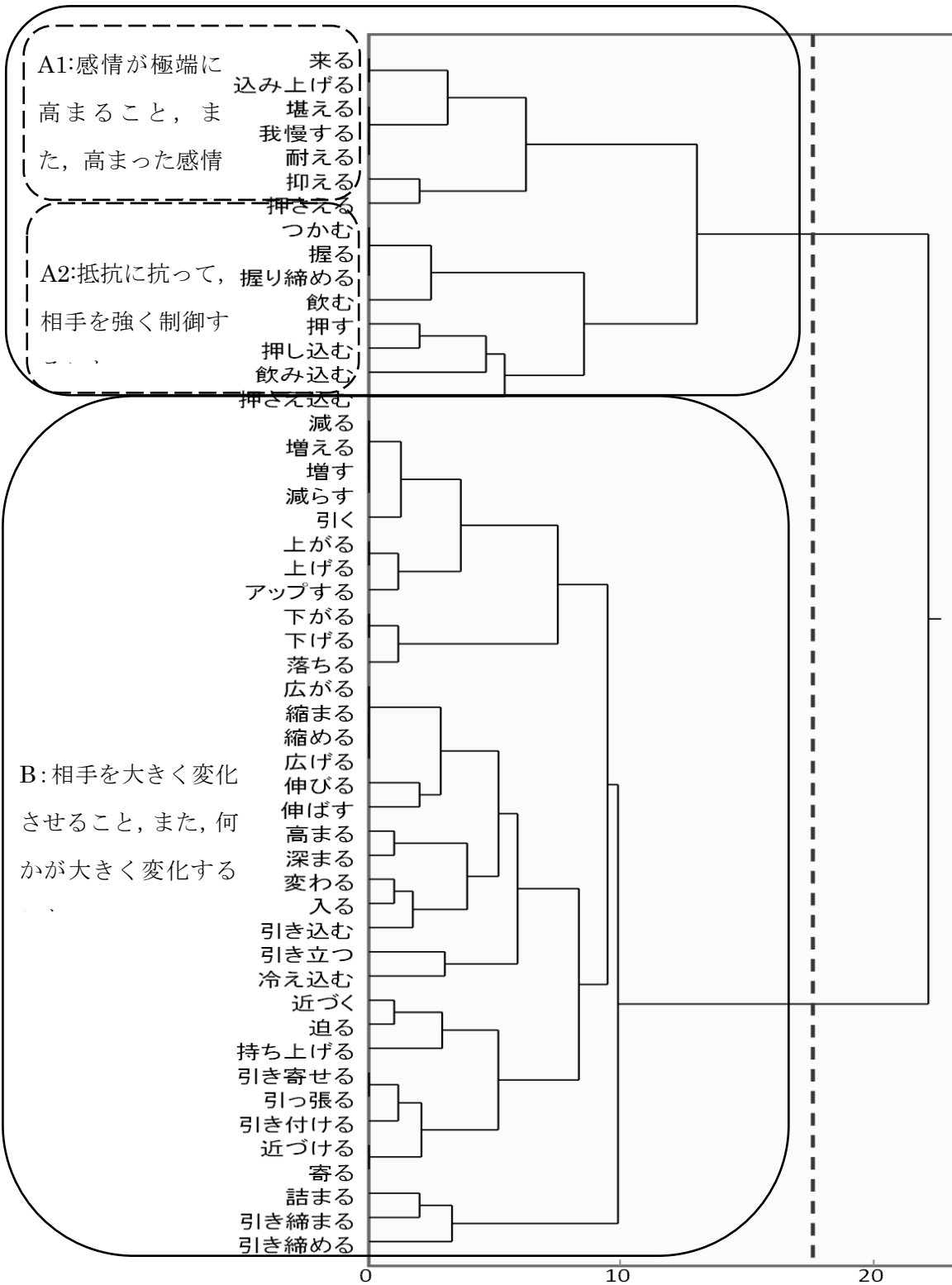


図 9-4 樹形図

クラスター分析で得られた樹形図を解釈する場合、通例、新たな融合が発生しない定常

状態が最も長く続く場所にカッティングポイントを設定する。この基準に従うと、「ぐっ(と)」の共起動詞は A と B の 2 つに区分されることになる。また、A は更に 2 つのかたまりに下位区分される。ここではそれを A1 と A2 と呼ぶことにする。

まず、A1 についていうと、「来る、こみ上げる」など感動や喜びや悲しみなどの感情が極端に高まってくることを意味する共起動詞が多く、また、「堪える、我慢する、耐える」などある強い感情や気持ちを制御することを意味する共起動詞が多い。したがって、本研究は、A1 グループを「感情が極端に高まること、また、高まった感情を何とか制御することを意味する」と定義する。

次に、A2 についていうと、「つかむ、握る、飲む、押す」のような抵抗を逆らって相手を強く制御することを意味する共起動詞が多いため、本研究は、A2 グループを「抵抗に抗って、相手を強く制御すること」と定義する。

最後に、B についていうと、「減る、増える、増す、減らす」などの自動詞・他動詞のペア語が多い。辞書ではこれらを「力をこめるようす」「差のあるようす」「つかえるようす」などのように定義しているが、これらはクラスター分析によって独立したグループに分かれず、これらは別義と見なすという見解が必ずしも妥当なものではないことが示唆された。したがって、本研究は、B グループを「相手を大きく変化させること、また、何かが大きく変化することを意味する」と定義する。

以下は既存辞書との比較を表で示す。

表 9-2 既存辞書の記述との比較

既存辞書	本研究
1. 力をこめる・いれる・集中させるようす	B: 相手を大きく変化させること、また、何か大きく変化すること
2. 著しい差があるようす	
3. 進行(物・息・言葉・行為)がつかえるようす	
4. 感動が迫るようす	A1: 感情が極端に高まること、また、高まった感情を何とか制御すること
5. 苦しみや不満の声	
6. 強い心的衝撃を受けるようす	
7. 飲みくだす音・飲むくだす行為	
	A2: 抵抗に抗って、相手を強く制御すること

8. 熟睡するようす	該当なし
9. すみずみまで及ぶようす	該当なし
10. 勢いのさし迫る状態	B: 相手を大きく変化させること, また, 何か が大きく変化すること
11. 動作に力・気持ちを込めるようす	A2: 抵抗に抗って, 相手を強く制御すること

以上により, 辞書を整理して得られた 11 種の語義を 2 つないし 3 つの語義グループに再整理することができた。すでに述べたように, 日本語教育の観点から言うと, 11 種の語義を機械的に暗記することはきわめて困難である。そうした意味の背後に 2 つないし 3 つの語義の核が存在することを示せば, 学習の効率が大きく促進されることであろう。

我々は以上 RQ1 と RQ2 において, 辞書の示す「ぐっ (と)」の語義が 11 種に整理されること, さらに, それらが 2 種ないし 3 種にまとめられることを明らかにしてきた。ここで残る問題は, 3 種類の頻度のまとまりが頻度上どのような関係になっているかということである。このことは辞書記述という点で言えば, どの意味まとまりを優先的に扱うべきかという問題にかかわり, 日本語教育の観点から言えば, どの意味まとまりを優先的に指導すべきなのかという問題につながる。そこで, 4 ジャンルごとに 3 種類の意味まとまりの頻度を調査したところ, 以下の結果を得た。

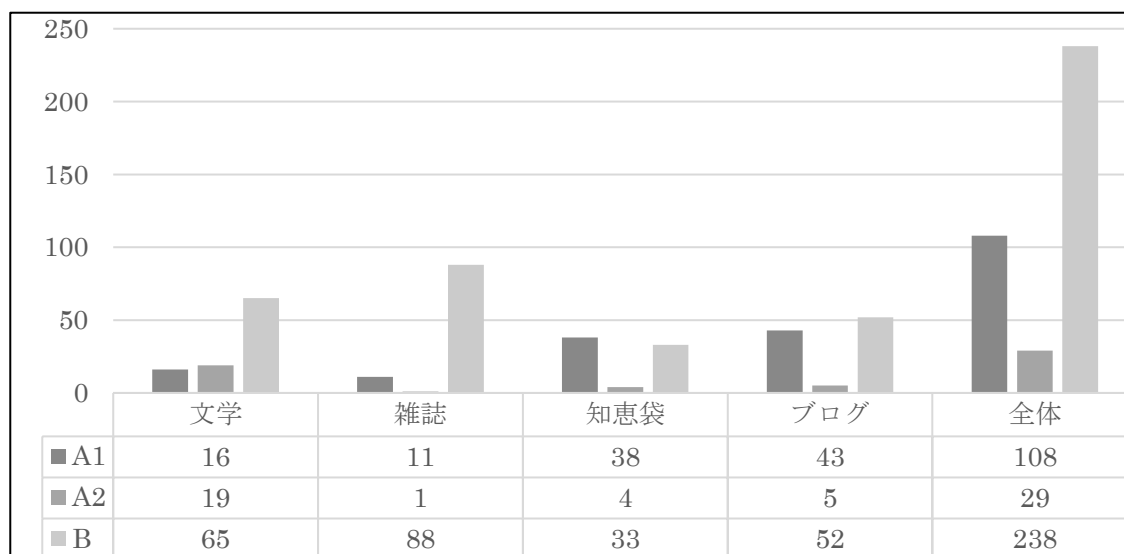


図 9-5 使用順序調査

まず A と B の区分についていえば、全体またはジャンル別に見ても、 $A < B$ となることが明らかになった。事象を大きく変化させたり、事象が大きく変化したりすることに「ぐっ(と)」を使うのが最も一般的な用法であると言える。これに対し、感情の高まりや物事の制御に関する語義はそれに順ずる位置づけとなる。また、A の 2 つの下位区分についていうと、文学を除けば、すべて $A1 > A2$ となることがわかった。また、知恵袋やブログにおいては A1 と A2 の差が特に顕著になっている。すなわち、感情に関わる用法と一般的な用法の 2 つを比較すれば、感情に関わる文脈で「ぐっ(と)」が使用されるのがより一般的であると思われる。

9.4.1.4 研究課題 1 のまとめ

以上、「ぐっ(と)」の語義を既存辞書の記述の整理、コーパスデータに基づく語義分類と語義頻度調査を行ってきた。3 冊の辞書に記載された 17 種の語義は重なりを整理した結果、11 種の語義にまとまることがわかった。さらに、コーパス調査をふまえて、多変量解析を行った結果、11 種の語義が 2 つないし 3 つにまとめられることが明らかになった。最後に、4 ジャンルの調査結果をふまえると、これらの使用頻度順は、「相手を大きく変化させること、また、何かが大きく変化すること」 > 「感情が極端に高まること、また、高まった感情を何とか制御すること」 > 「抵抗に抗って、相手を強く制御すること」となることが明らかになった。

辞書は語義を細かく分類することに重点が置かれているわけであるが、仮に学習者用の辞書を考えた場合、細かい語義を記載するよりも、少数の意味の大きなまとまりを示し、かつ、それらを頻度順に提示することが有効であろう。以下はこうした観点から考案した語義記載の一例である。

表 9-3 「ぐっ(と)」の辞書記述提案

<p>ぐっ(と) (副)</p> <p>★★★★ (1) 相手を大きく変化させること、また、何かが大きく変化することを意味する。</p> <p>力をこめる・いれる・集中させるようす、著しい差があるようす、進行(物・息・言葉・行為)がつかえるようす、勢いのさし迫る状態</p>

共起動詞：「減る」「増える」「上げる」「引き込む」

例：気温がぐっと下がる。

例：車椅子をぐっと斜めに後ろに倒します。

★★ (2) 感情が極端に高まること、また、高まった感情を何とか制御することを意味する。

感動が迫るようす、苦しみや不満の声、強い心的衝撃を受けるようす

共起動詞：「来る」「堪える」「我慢する」

例：ラストシーンはグッときます。(※たとえば登場人物が最後に死ぬなど涙をこらえきれないような状況を含意する)

例：休みたい気持ちをぐっとこらえて出勤する。(※仕事に行きたくないという気持ちを自分自身の強い意志によって押さえつけることを含意する)

★☆☆ (3) 抵抗に抗って、相手を強く制御することを意味する。

飲みくらす音・飲むくらす行為、動作に力・気持ちを込めるようす

共起動詞：つかむ、握る、飲む、飲み干す

例：お酒一杯をぐっと飲みほした。(※飲みにくいアルコール度数の高い酒を強い意志によって一気に飲み干したことを含意する)

例：背後からグッと肩をつかまれた。(※予想していなかったときに相手の強い意志によって行為がなされたことを含意する)

以上のような語義記述があれば、多義的な「ぐっ (と)」というオノマトペの意味の核を直観的に理解することが可能になるだろう。しかしながら、本研究には課題も残されている。1 つ目は、統計分析から導いた意味かたまりのラベリングの妥当性が検証されていないということである。実際、10 種を超える共起動詞のすべてに当てはまるラベルを決定することは必ずしも容易ではない。この点については、たとえば、複数のラベル候補を作成し、それらを母語話者の直観も組み合わせて比較検討するなどしてラベルの精度を高めることが考えられる。2 つ目は、BCCWJ を使用したため、書き言葉のみの分析となってしまうことである。「ぐっ (と)」は実際話し言葉でも多く使用されるオノマトペであり、よりくだけた環境で母語話者がどういう状況で「ぐっ (と)」を使うかを見ることで、「ぐっ (と)」の意味の中核がより千面に見る可能性もあるだろう。この点については現在

国立国語研究所で開発が進められている『日常会話コーパス』などのデータを見ていくことが考えられる。3 つ目は、今回提案したような語義記述が果たして教育現場において役立つものとなっているかどうかを検証する必要がある。この点に関しては従来の語義記述と簡易化された語義記述の両方を示して「ぐっ (と)」の意味の理解度のチェックを行い、簡易化された語義記述の有効性を検証する。そうした点については今後の研究で対応することとしたい。

9.4.2 研究課題 2 オノマトペ同士

9.4.2.1 RQ1 学習者が抱えている問題

まず、「きちんと」「しっかり」「ちゃんと」に関して以下のような用例がある。(6) は『日本語学習者会話データベース』より、(7) は『KY コーパス』より、(8) は『日本語学習者作文コーパス』より抽出した用例である。

(6) そうですね、まあ授業、授業には、授業をやるときにはやはり先生としてはちゃんと しっかりして、しかしてもらいたいですけど。

(7) 小さいときから〈えー〉ですね、ちゃんと 躰、しっかりした 躰を、〈えー〉あ
のー

(8) 日本語がうまくなるには各部分をちゃんと→きちんと勉強しなければならない。

以上の (6) (7) で示されるように、学習者は「ちゃんと」や「しっかり」といった言葉を同じ文脈の中で同時的に使用している。このことは 2 語の違いが必ずしもはっきり理解されていないことを示す。(8) では学習者が「ちゃんと」という言葉を選択したわけであるが、添削者によって「ちゃんと」が「きちんと」に置き換えられている。「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」の間には様々な意味論的・文体論的な差異があり、母語話者はそれを理解した上で訂正していると考えられる。

9.4.2.2 RQ2 既存辞書の記述

次に、3 冊の辞書における「きちんと (と)」「しっかり」「ちゃん (と)」の 3 語の記述を概観しよう。

表 9-4 辞書における「きちん (と)」「しっかり」「ちゃん (と)」の記述

	表記	意味	例文
広	きちんと	①基準・規定に合致して乱れがなく、整然としているさま。	脱いだ着物を～たたむ。
		②過不足なく正確なさま	家賃は毎月～払う。
新	きちん と	①秩序(折り目)正しくて、乱れたところやいいかげんなところが無い様子。	いつも～片付けている。
		②手を抜いたり、あいまいな点を残したりすることなく、物事に適切に対処する様子。	～断る。
大	きちんと	①整っているさま。	机の中を～する
		②正確なさま。過不足ないさま。	定刻に～集まる。
広	しっかり	①堅固でゆるぎがないさま。確かであるさま。	～とした土台。
		②人の性質・考えた方が堅実で信頼できるさま。	～しろよ。
		③数量が多いさま。たくさん。	～もうける。
		④気を引きしめて、十分に、また確実に物事を行うさま。	～食べる。
新	しっかり	①土台・構成が安定していて、簡単にはぐらついたり崩れたりしない様子。	～した建物。
		②強くしたたかな精神力を備えていて、外力に屈したり他人の言にまどわされたりしない様子。	若い～した人だ。
		③行動が抜かりなく堅実で、危険や損失を招く恐れが感じられない様子。しかっと。	ボールを～つかむ。
		④相場が引き縮まり、高くなりそうであることを表す。	
大	しっかり	①基礎や構成が堅固で、容易にぐらついたり崩れたりしないさま。	～(と)した造りの建物。
		②人の性質や考え方が堅実で危なげないさま。	若いのに～(と)している。
		③頭脳や肉体が健全で機能をよく果たしている様。	足腰もまだ～(と)している。
		④動作・行為を着実・真剣に行うさま。	もっと～(と)歩け。
		⑤固くくっついて離れないようにするさま。	手に～(と)握りしめる。
		⑥万全に準備をしておくさま。	～(と)食べておく。
		⑦相場に活気があり、上昇傾向であるさま。	
		⑧数量の多いさま。たくさん。	

		⑨程度のはなはだしいさま。非常に。	
広	ちゃんと	①すばやく。さっと。	～奥へ行って。
		②基準に合致し、条件を十分に満たしているさま。	～した畑になる。
		③確かで間違いのないさま。	もらう分は～もらいなさい。
		④金属などの触れ合う音のさま。	鯉口～打ち鳴らせば
新	ちゃん と	①何かを根拠として、そのことが疑う余地のないことだという確信をいただく様子。	書留は～届いたそうだ。
		②～スル。そのものにきたされる基準に照らして、外れるところがないと判断される様子。	仕事を～こなす。
大	ちゃんと	(副) ⑩スル 完全できちんとしているさま。	
		①まじめなさま。りっぱなさま。	～した人。～した商売。
		②秩序正しく。間違いなく。規則どおり。	～書ける。
		③十分。	朝食は～食べた。
		④危なげなく堅固なさま。しっかりと。	～立ちなさい。
		⑤すばやく。さっと。ちゃっと。	

上表に示されるように、3冊の辞書において、3語それぞれは多くの意味を持っており、多義語とされている。また、辞書間によって意味数や意味記述に様々なずれが見られる。「ちゃん(と)」を例にとって見てみよう。まず、『広辞苑』では4つ、『新明解』では2つ、『大辞林』では5つの意味数が記載されている。次に、1番目の語義として『広辞苑』では「すばやく。さっと。」と、『新明解』では「疑う余地のないこと」と、『大辞林』では「まじめなさま。りっぱなさま。」と定義している。このように、同じ語についても辞書間のずれがある。

また、3冊辞書の定義に基づいて、重なるの多い語義を当該語のコアの意味と定めれば、「きちんと」は「基準に合致し、整っていて正確なさま」、「しっかりと」は「堅実で安定なさま」、「ちゃんと」は「基準に合致し、間違いのないさま」となり、3語の違いは必ずしも十分に説明されていない。また、語に対する直観を持たない学習者は辞書の記述を読むだけではこれら3語の意味を体系的に理解することができないのであろう。

このように従来の日本語教科書の記述だけでは、学習者がオノマトペを十分に理解して

使用できるのにはなりにくいことが示唆された。

9.4.2.3 RQ3 コーパス調査

最後に、BCCWJの全体頻度を調査したところ、以下の結果を得た。

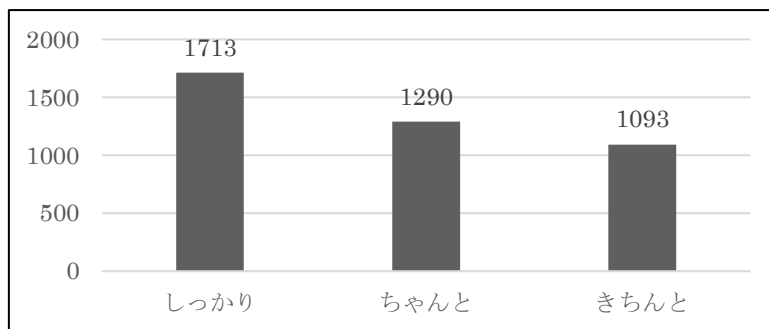


図 9-6 全体使用頻度 (7ジャンル別頻度の平均値)

全体頻度に注目すると、「しっかり」>「ちゃんと」>「きちんと」の順位関係が得られた。しかしながら、これらの差異は偶然による可能性があるため、一元配置分散分析を実施したところ、語が頻度に及ぼす主効果は有意でなかった ($p=.64, ns.$)。このことから見かけ上の頻度差とは異なり、現代日本語における3語の出現頻度には統計的に有意な差がないことになる。一般に語の使い分けに迷った場合は、頻度が多いものを最も一般的な語として優先的に使用することがしばしば推奨されるが、「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」の3語については、こうした方略が適用できないことになる。

ジャンル別頻度を調べたところ、以下の結果を得た。なお、下図において7ジャンルはそれぞれ語頭1漢字の略語で表示している。

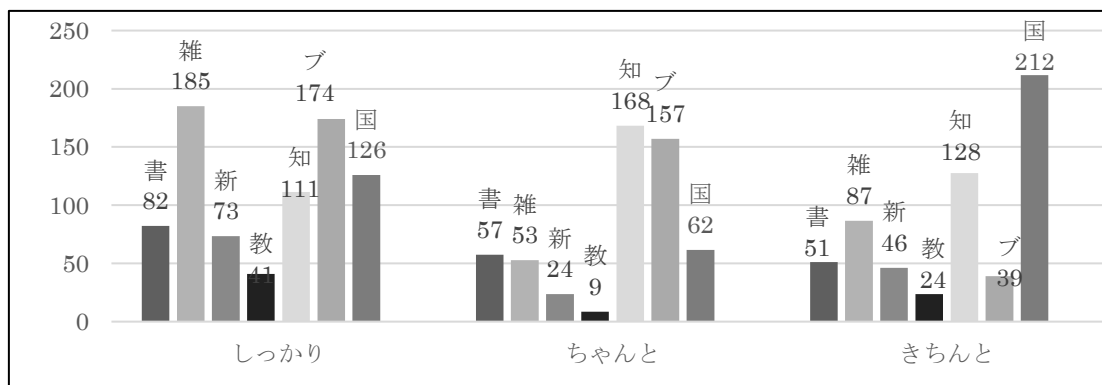


図 9-7 ジャンル別頻度

3 語の使用環境の違いを調べるため、3 語それぞれが多く使用されているジャンルを見てみることにしよう。「しっかり」は雑誌やブログにおいて最も多く使用され、「ちゃんと」は知恵袋やブログにおいて最も多く使用され、「きちんと」は国会会議録において最も多く使用されることが明らかになった。なお、それぞれの語の 1 番多いものと 2 番または 3 番多いものとカイ二乗検定をかけたところ、いずれにおいても 0.1%有意水準で有意な差が認められた。

雑誌は多くの読者に向けてあるテーマについて解釈や説明を行う論述的なものであることから、「しっかり」は主として公的な立場に使われる傾向が示された。

知恵袋はいく分くだけた文脈で主として個人的な内容について書かれたものであることから、「ちゃんと」は主として個人的な内容やくだけた文脈でよく使われると言えよう。

国会会議録において特に多く使用されることから、「きちんと」は特定の聞き手や読み手を念頭に、幾分改まった文脈でよく使われる傾向が示された。なお、国会会議録に含まれる言語データは本来話し言葉のものであるが、国会会議録においては即興で発話することはきわめて少なく、原稿を読み上げることがしばしば行われている。そのため、国会会議録で多く使用されることから「きちんと」が話し言葉であるとのデータだけで結論することは適切ではないだろう。本論文は、この段階では「きちんと」が話し言葉であると解釈するのを控えておきたい。

このように、全体頻度から 3 語の使い分けは区別できなかったが、特定のジャンルによって好まれる語は異なることから、3 語の使い分けはジャンル選好性によってなされる可能性が示唆された。

3 語の固有共起語を比較したところ、以下の結果を得た。網掛けはそれぞれの語の固有共起語を示す。

表 9-5 3 語の固有共起語

しっかり	きちんと	ちゃんと
する	する	する
やる	できる	できる

見る	やる	やる
食べる	説明	見る
持つ	整理	聞く
握る	守る	ある
できる	書く	わかる
押さえる	伝える	言う
守る	把握	書く
覚える	理解	食べる
固定	考える	考える
勉強	調べる	説明
つかむ	対応	知る
確認	教える	覚える
把握	見る	話す
理解	聞く	いる
受け止める	とる	生きる
とる	決める	調べる
見つめる	確認	確認
考える	管理	教える

上表からわかることは2点にまとめられる。

1点目は、3語はきわめて類似した共起語を持つことである。3語に共通する共起語の割合は、50%から75%程度に上り、数多くの共起語と予想される中で極めて高い値を示しており、3語は多くの場合置き換え可能であることが示された。

2点目は、3語はそれぞれ異なる固有の意味特性を持つことである。「しっかり」は、「持つ、握る、押さえる、固定、受け止める、見つめる」のように抵抗や難しさなどがある固有共起語を持ち、「きちんと」は、「整理、伝える、対応、決める、管理」などの順序や知秩序の正確さを求める固有共起語を持ち、「ちゃんと」は「ある、わかる、話す、いる、生きる」のように抵抗や難しさなどが少なく、行為の遂行負荷が低い固有共起を持つ。

さらに、コレスポンデンス分析を実施したところ、図3の結果を得た。第1次元(横軸)

の3語の使い分けの根幹をなしていると結論してよいだろう。

2点目は、横軸の位置に注目すると、正方向(+)に「ちゃんと」が、負方向(-)に「しっかり」が布置され、「きちんと」が原点付近に位置しているということである。このことは「ちゃんと」と「しっかり」の性質が対立的であり、「きちんと」がその中間位置に存在することを意味する。先ほどの分析にあわせて言えば、負荷の低い認知的行為には「ちゃんと」が選ばれ、負荷の高い身体的行為に対しては「しっかり」が選ばれると言える。この2つの対立に関して「きちんと」はいずれともはっきりした親和性を持っていない。

3点目は、縦軸に注目すると、「きちんと」が正方向(+)にのみ収斂しているのに対し、「ちゃんと」と「しっかり」はそれぞれ正方向と負方向の両方を包含し、クラスターの面積がきわめて広がっていることである。このことは、「きちんと」が公的内容についてのみ使われるのに対し、「ちゃんと」と「しっかり」の2語は公的内容にも個人的内容にも等しく使用することができると言ってよいだろう。

9.4.2.4 研究課題2のまとめ

以上で「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」を全体頻度・ジャンル別頻度・共起語の3つの観点から考察した。

全体頻度から3語の使い分けの基準を示すことはできないが、ジャンル選好性により、一定の使い分けの手掛かりが得られることが示された。さらに、「しっかり」は、主として高い身体的負荷が伴っており、その負荷を乗り越え、予想される程度を超えて物事を完了する場合に用いられる、「ちゃんと」は、主として低い認知的な身体負荷が伴っており、当然すべき程度のことを完了する場合に用いられる、「きちんと」は、主として公的な場面やフォーマルな文脈のみで用いられる語で、難しさや高い負荷があるにも関わらず、期待通りに物事を完了する場合に用いられることが明らかになった。

「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」の3語はいずれも行為の遂行に関してある特定の期待に対して一定の水準を満たしていることを含意するものであるが、本分析の結果はそれぞれについて、もともと期待される水準に異なりが存在する可能性を示唆している。その関係は以下のように図示できるだろう。

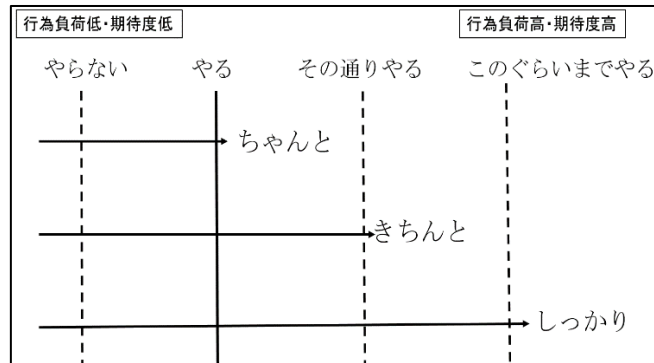


図 9-9 行動負荷と期待度から見る 3 語の関係性

すでに述べたように、3 語はともにある一定の水準を満たしているわけであるが、「ちゃん」に関して期待されている水準は最も低い。それに対し、「きちんと」について期待されている水準はより高く、「しっかり」について期待されている水準は最も高い。すなわち、3 語はこれら段階の異なる期待を満たしていることをそれぞれ意味していると結論してよいだろう。すでに 3 冊の辞書における 3 語の定義について触れたが、3 冊の辞書においてもこの点については必ずしも明示的に説明されていなかった。日本語教育の視点から考えた場合従来の日本語辞書の記述に加え、こうした細かな情報の提示がきわめて重要であると言えるだろう。そのため、本研究では以下のような記述を提案したい。

表 9-6 「きちんと」「しっかり」「ちゃん(と)」の辞書記述提案

	きちんと	しっかり	ちゃん(と)
頻度	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆
主な使用域	国会会議録など、公式性の高い文脈や改まった場合に用いられる。	雑誌、ブログなど、公的な場面で用いられる。	知恵袋、ブログなど、個人的な内容について話す場合に用いられる。
意味	＜主として身体的・認知的負荷が伴う行為を、期待通りに完了する場合に用いられる。	＜主として高い身体的負荷が伴う行為を、高い期待を超えて完了する場合に用いられる。	主として低い認知的負荷が伴う行為を、低い期待を超えて完了する場合に用いられる。
共起語	整理, 対応, 把握, 決め	握る, 固定, つかむ, 見つ	いる, 生きる, わかる,

	る	める	聞く
用例	<p>①モコモコの毛布などの敷物は寒くなる十一月ごろ使用するまで、<u>きちんと</u>整理し、さっぱりした感触のタオル類へと衣替えをしましょう。</p> <p>②変ってはない部分への信頼とが、見事過ぎるくらいに<u>きちんと</u>対応しているのである。</p> <p>③そんな時代相のうつりかわりも、<u>きちんと</u>把握しなければならないのである。</p>	<p>①ひとりの男児は、入口の柵を両手で<u>しっかり</u>握り、腕を屈伸させてガタガタと力強くゆさぶっています。</p> <p>②ガムテープでボール紙を固定する。銅板の時はブチルゴムで<u>しっかり</u>固定されているので、ガムテープを使う必要はない。</p> <p>③ここは学校です！ジュイシェンが戸の脇の柱を<u>しっかり</u>掴んでいました。</p>	<p>①その先生の所では、ピアニストが<u>ちゃんと</u>いて、伴奏をしてくれるという。</p> <p>②人形だとばかり思っていたのだが、間近に見たら<u>ちゃんと</u>生きている猫ではないか。</p> <p>③あたしだって<u>ちゃんと</u>わかってるんだから。</p>

9.4.3 研究課題3 オノマトペと一般語彙

9.4.3.1 RQ1 学習者が抱えている問題

まず、「ダندان」に関する用例を以下に示す。以下の(1)、(2)、(3)は『日本語学習者作文コーパス』の用例であり、(4)、(5)は『学習者作文コーパス「なたね」』の用例である。なお、修正情報は筆者によるものではなく、コーパスの付属情報として、日本語母語話者が添削したものである。

(1) 最近、だんだん~~少~~ず敬語の使い方を覚えている。

(2) 知らない言葉の意味があったら、すぐその場で意味を調べ、頭の中に入れるだんだん→徐々にに文造りの構成がわかったら、自分なりの文を書くのをチャレンジします。

(3) 時代の進みにつれて、ハイテクの産物が段々→次々と生まれた。

(4) 中国で日本の男尊女卑の社会と聞いたが、具体的に何かよくわかりません。成長についてだんだん→次第に深く了解できた。

(5) サースのことをよく分かるとともに、悲観な気持ちをだんだん→次第になくなりま

す。そのかわり、全員が自分自身とか、親友などを保護しています。

オノマトペである「だんだん」は、初級の日本語教科書に出てくることが多く、中国人日本語学習者にとっても馴染み深い。しかしながら、このことは学習者が「ダンダン」を正しく産出できることを意味しているとは限らない。上記に明らかなように、日本語母語話者の添削により、学習者が使用した「だんだん」は、「徐々に」や「次第に」といった類義表現に置き換えられるなど、何らかの修正が加えられている。このことは、中国人日本語学習者が「だんだん」の意味をある程度理解しているとしても、実際に正しく産出できていないこと、また、中国人日本語学習者に「だんだん」の正しい用法を指導しようとする場合、当該語の用法を示すだけでは十分でなく、同時に関連語の意味用法を示すことが重要であることを示唆している。

9.4.3.2 RQ2 既存辞書の記述

次に、「ダンダン」というオノマトペと、類義を持つ一般語彙「ジョジョニ」「シダイニ」の関係性を探るために3語の記述を調べたところ、以下の結果を得た。

表 9-7 主要辞書における記述

辞典	表記	意味	例文
広辞苑	だんだん (段段)	順を追って。しだいしだいに。	～と明るくなる。 ～できるようになる。
新明解国語辞典	だんだん (段段)	「に・と」事態がその方向に向かって、少しずつではあるが確実に進んでいく様子。	～寒くなってくる。 真相が～に明らかにされていく。 出発の日が～(と)近づいてきた。
スーパー大辞林	だんだん (段段)	(「と」「に」を伴っても用いる) 事態・状況が順を追って少しずつ変わっていくさま。次々に続くさま。あれこれ。かさねがさ	新しい仕事にも～(と・に)慣れた。 ～と明るくなる。

		ね。	
広辞苑	じょじょ (徐徐)	(多く「-に」の形で) ゆるやかに進むさま。少しずつ変化するさま。ゆっくり。だんだん。	～に歩を進める。 ～に水位が上がる。
新明解国語辞典	じょじょに (徐徐に)	見た目にはゆるやかであるが、確実に事が進行している様子。	小児の糖尿病が～増えている。 彼の名声も～忘れられてゆくだろう。 人びとが～集まってくる。
スーパー大辞林	じょじょに (徐徐に)	ゆっくりすすむさま。少しずつ変化するさま。だんだん。	景気が～回復する。
広辞苑	しだいに (次第に)	だんだんに。順次に。順を追って。	～天候が悪化する。
新明解国語辞典	しだいに (次第に)	ちょっと見には目立たないが、時間の経過と共にその傾向が少しずつ顕著になっていく様子。	反対の声は～大きくなっていった。 人びとが～集まってくる。
スーパー大辞林	しだいに (次第に)	事態が時の経過とともに少しずつ変化するさま。時がたつにつれて。おいおいに。順を追って。順々に。	次第に寒くなる。

上表に示されるように、すべての辞書が「ダンダン」「ジョジョニ」「シダイニ」の3語を立項している。しかしながら、辞書においても3語の違いを明確に説明する記述は見られず、また、3語の意味用法に関しても、記述に若干の食い違いがみられる。ここでは、「ダンダン」を例にとって、語形認定、意味記述、用例の3点におけるずれを確認してみよう。まず、語形認定についていえば、『広辞苑』は「ダンダン」を単独の1語と扱っているが、『新明解』と『大辞林』は「と」や「に」といった助詞を含み込む形で、結合形で使われうることを示している。次に、意味記述については、3種類の辞書のうち、「順を追って」という概念は『広辞苑』と『大辞林』で、「少しずつ」という概念は『新明解』と『大

辞林』でそれぞれ重なっているが、「確実に」という概念は『新明解』のみに現れ、ほかの2冊の辞書には現れない。最後に、用例については、「明るくなる」という用例は『広辞苑』と『大辞林』で共有されているが、その他すべての用例は辞書間で重なりがない。

このうち、特に問題になりうるのは、意味記述である。というのも、学習者は「ダンダン」及び関連語の使い分けの手がかりを求めて辞書を引く場合が多いと思われるが、たとえば、『広辞苑』は「ダンダン」の意味を「シダイシダイニ」に置き換え、「ジョジョニ」の意味を「ダンダン」に置き換え、「シダイニ」の意味を「ダンダン」に置き換えている。このような記述は一般に循環定義と呼ばれ、関連語の差異を明確に示すものとはなっていない。

以上、教科書及び辞書における「ダンダン」とその関連語の記載を概観してきたが、いずれの場合も外国人日本語学習者が真に求める情報をわかりやすい形で提供しているとは言えないだろう。このことは、3語の使い分けの指針の明確化の必要性を改めて示唆するものと言える。

9.4.3.3 RQ3 コーパス調査

最後に、7ジャンルの平均値を見てみよう。図1に示されるように、「シダイニ」 > 「ダンダン」 > 「ジョジョニ」という順番となった。次に、これらの頻度間に差があるかどうかを確認するため、一元配置分散分析を行った。その結果、3語の頻度の間には何らかの違いが存在することが確認された($F=154.228$; $p<.05$)。また、Tukeyの多重比較により、「シダイニ」 > 「ダンダン」 ≧ 「ジョジョニ」の関係が明らかになった。

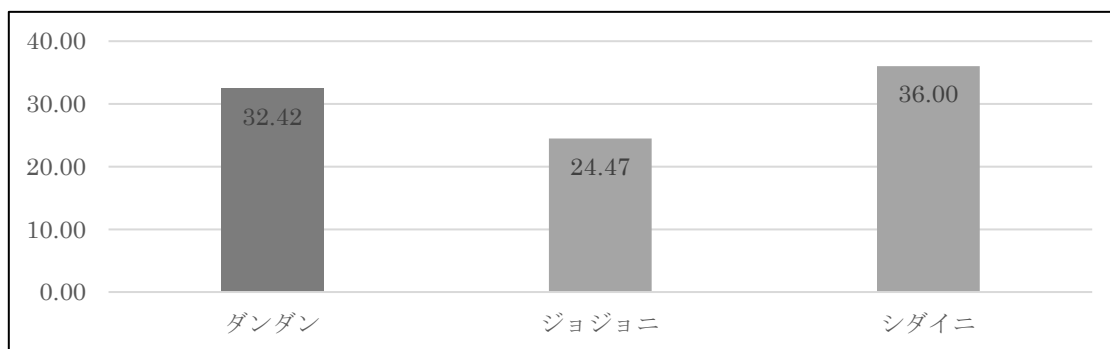


図 9-10 7ジャンルにおける3語の平均頻度(PMW)

上記に明らかなように、オノマトペである「ダンダン」は一般語彙である「シダイニ」

よりは頻度が低いですが、一般語彙の「ジョジョニ」とは頻度の差が確認されなかった。つまり、オノマトペと一般語彙という対比的な関係の中で語が選択されているわけではなく、およそ同じ意味を持つ語のネットワークの中で状況に応じていずれかの語が選択されている可能性が示唆された。このことはオノマトペを学習する時に、オノマトペだけをみていくのではなく、オノマトペ以外の類義オノマトペも合わせてみていくことが重要であることを示している。

次に、ジャンルごとの頻度を一元配置分散分析にかけたところ、すべてのジャンルにおいて3語の頻度間に有意な差が存在することが認められた。また、Tukeyの多重比較により、すべてのジャンルにおいて、頻度1位の語と2位以下の語との間に有意な差が確認された。

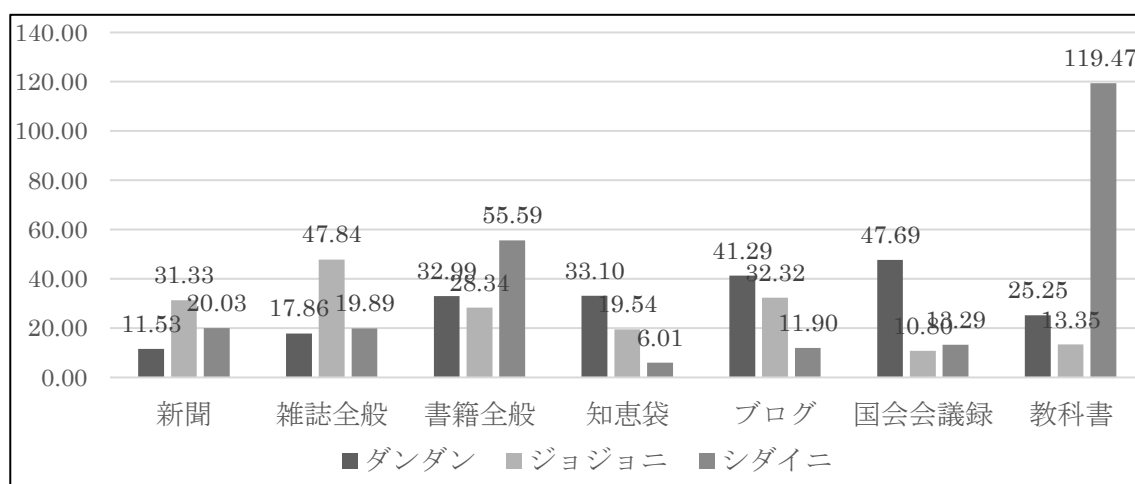


図 9-11 ジャンル別頻度

7 ジャンル全体の傾向にもかかわらず、ジャンルごとに3語の選好性が大きく変化することが明らかになった。オノマトペ「ダンドン」についていえば、国会会議録・知恵袋・ブログにおいて他の2語とは異なって1位になっている。このことは、類義語のネットワークの中で、話し言葉においてはオノマトペの方がより優先的に選択される可能性を示している。

まず、3種類の品詞別に見たダイス係数上位の共起語20種をリストして質的に観察してみよう。以下の表内で網掛けにされた語は、他の類義語には認められない当該語の固有の上位重要共起語である。

表 9-8 3 語の共起語 (名詞・動詞・形容詞/形容動詞)

名詞			動詞			形容詞・形容動詞		
ダン	ジョ	シ	ダン	ジョ	シ	ダン	ジョ	シ
自分	効果	自分	減る	増える	増える	大きい	大きい	大きい
自信	自分	人々	近づく	減る	高まる	小さい	強い	明らか
痛み	スピード	勢力	慣れる	広がる	強まる	少ない	濃い	強い
気持ち	距離	政治	増える	進む	広がる	悪い	明らか	小さい
気分	速度	都市	下がる	下がる	薄れる	強い	低い	少ない
大人	ペース	社会	広がる	変わる	近づく	遠い	高度	激しい
根元	人気	頭角	変わる	高まる	減る	高い	深い	高い
かわら版	エネルギー	仏教	疲れる	消える	失う	深い	薄い	困難
なし崩し	視界	スピード	上がる	上げる	衰える	不安	明るい	多い
インフォメーション	自信	外国	遠のく	増やす	変わる	明るい	良い	重い
クラブ	社会	興味	進む	減らす	遠ざかる	暗い	小さい	短い
スピード	身体	現実	分かる	上がる	弱まる	速い	確実	不安
ネタ	つま先	個人	冷める	慣れる	慣れる	激しい	狭い	深い
ノド	ストレッチ	御座	失う	近づく	見える	多い	早い	明るい
関心	ボール	周囲	弱る	薄れる	苛立つ	元気	悪い	高度
顔色	ボケ	制度	落ちる	下げる	感じる	好き	安定	悪い
気温	ライト	相手	見える	高める	広まる	暑い	穏やか	緩やか
気持	ランク	中央	出る	失う	消える	長い	可能	細い
距離	温度	調子	動く	増す	増す	難しい	楽しい	重要
興味	会社	農業	薄れる	落ちる	認める	楽しい	活発	真剣

上表より分かったことは 2 点にまとめられる。1 点目は、オノマトペ「ダンドン」と他の語彙との共起語一致率は、名詞については 3%、動詞については 8%、形容詞・形容動詞については 13%であったということである。このことは、オノマトペ「ダンドン」が一般語彙の「ジョジョニ」「シダイニ」と区別されるある種の特殊性を持っている可能性を示している。

まず、ジャンルと共起語を総合的に考察した結果、第1象限と第4象限は主として「ダンダン」が、第2象限は主として「ジョジョニ」が、第3象限は主として「シダイニ」が布置された。すなわち、第1次元はオノマトペと一般語彙を区別する軸となっている。このことから、類義語ネットワークの中で、オノマトペ「ダンダン」がほかの2語と区別される特殊性をもっていることが明らかになった。

次に、「ダンダン」とその類義語はジャンル影響を超えてそれぞれ1つのグループに布置された。このことから、3語の意味用法はジャンルに決定づけられるのではなく、共起語によって決められる可能性が示唆された。ただし、国会会議録の「ダンダン」は第2象限に布置され、知恵袋の「シダイニ」及び知恵袋の「ジョジョニ」は第1象限に布置された。これは、知恵袋のような個人的な内容が多く含まれる話し言葉性の高いジャンルと社会的な内容が多く含まれる話し言葉性の高いジャンルについていえば、ジャンルの影響は共起語の影響より強くなる可能性を示唆している。

最後に、各象限を特徴づける共起語が大きく異なっている。第1と第4象限には、「少ない、小さい、大きい」といった数量変化語に加え、「慣れる、不安」といった語が含まれる。これらは「個人的な内容について主観的程度変化」を描写した語である。次に、第2象限には、「下がる、減る、変わる、進む」といった増減を表す和語が多い。これらは「個人的・公的な内容について客観的量的変化」を描写した語である。最後に、第3象限に注目すると、「拡大、低下、形成、現象」など数量の増減にかかわる語が含まれ、その中には漢語が多い。これらも「公的な内容について客観的量的変化」を描写した語であると考えられる。これらをふまえれば、「ダンダン」は主として、個人的・主観的な程度変化描写に多く用いられ、「ジョジョニ」は、主として個人的・社会的・客観的な量的変化描写に多く使用される。「シダイニ」は主として、社会的な内容、客観的な量的変化描写に多く使用される可能性が示された。

9.4.3.4 研究課題3のまとめ

以上の研究課題3では、オノマトペである「ダンダン」とその類義一般語彙「ジョジョニ」「シダイニ」との関係性を探るために3語の学習上学習者が抱えている問題点・辞書記述・コーパス頻度（全体頻度・ジャンル別頻度）・共起語の4つの観点から考察した。「ダンダン」は国会会議録・知恵袋・ブログなど、主として話し言葉的な使用域で、主として個人的心理等が非意識的に変化する意味を表し、「ジョジョニ」は主として新聞・雑誌など、

報道にかかわる使用域で主として量的概念等を意図的に変化させる意味を表し、「シダイニ」は教科書、書籍など、校閲を経た公式性の高い使用域で社会的集団等が非意図的に変化する意味を表すことが明らかになった。これらをふまえ、本研究では、オノマトペ「ダンドン」とその類義一般語彙「ジョジョニ」「シダイニ」の辞書記述を以下のように提案したい。

表 9-9 辞書記述提案「だんだん」「徐々に」「次第に」

	だんだん	徐々に	次第に（しだいに）
表記	仮名表記が 9 割以上	漢字表記が 9 割以上	漢字表記が 8 割程度(ただし、教科書では仮名表記が標準)
主な使用域	国会会議録・知恵袋・ブログなど、主として話し言葉的な使用域	新聞・雑誌など、報道にかかわる使用域	教科書、書籍など、校閲を経た公式性の高い使用域
意味	主として個人的心理等が非意識的に変化する。	主として量的概念等を意図的に変化させる。	社会的集団等が非意図的に変化する。
共起語	疲れる、わかる、腹が立つ、気持ち、気分、不安、遠い、悪い、慣れる	効果、進行、増やす、速度、温度、上げる、高める、確實	強まる、明らか、形成、広まる、弱まる、勢力、政治、都市、困難
用例	①だんだん疲れてきて私からメールしなくなりました。（Yahoo!知恵袋,2005） ②より安全に処理するためにはどういう措置を講ずべきかということもだんだんわかってくると思います。（国会会議録,2001）	①体験者によると 2 週間目位から徐々に効果が出てきているそうです。（ブログ,2008） ②夫の病状が徐々に進行していくなか、息子・修も発病する。（週刊朝日,2001） ③はじめて運動の方	①石油価格上昇の個人消費に対する影響は次第に強まっていった。（白書,1980） ②消費税率引き上げなど政策面でも、社会党、さきがけとの考え方の開きが次第に明らかになりつつあったからである。（連立政権～日本の政治 1993～/草野厚,1999） ③認識の諸構造が次第に形成

	<p>③どうしても欲しい物だけに待たされると<u>だんだん</u>腹が立ってきます。(Yahoo! 知恵袋,2005)</p>	<p>は、時間と回数を少なくし、<u>徐々に</u>増やしていきましょう。(広報わたり,2008)</p>	<p>されていく有様を記述し、その特徴をとり出した。(ジャン・ピアジェ/白井桂一,2004)</p>
--	---	---	--

これまでの教科書・辞書・先行研究は3語の違いについて明確な基準を示していなかったわけであるが、本論文で得られた知見をふまえると、以上のような情報を日本語学習者に提示していくことが有用であると考えられる。

9.5 まとめ

オノマトペの意味特性に関しては多義性と類義性の問題がある。本研究ではそれぞれ具体的なオノマトペおよび関連語をサンプルで検証を行った。その結果、従来の辞書記述には問題が多く、コーパスを使うことによってオノマトペの意味特性をより明確に記述できることが示された。

まず第1課題では、多義オノマトペ「ぐっ(と)」に関して辞書では11種の意味が記述されているが、コーパス調査をふまえ、使用が確認されたのが7種のみで、これらの意味は大きく3つ、細かく4つの意味に整理できた。4種の意味の使用順は「人間の物理的な行為による主観的な結果>心理状態・感動>心理状態・堪える>人間の物理的な行為による客観的な結果」となることが明らかになった。

次に第2課題では、類義オノマトペ「きちん(と)」「しっかり」「ちゃん(と)」の3語についてその使い分けの基準がはっきり示されていなかったが、コーパス検証によって3語は類義オノマトペの中でもそれぞれ異なる意味素性を持っており、使い分けの基準が存在することが示された。

最後に第3課題では、オノマトペ「だんだん」とその類義一般語彙「じょじょに」「しだいに」について、それらの差がはっきり示されなかったが、コーパス調査により、3語は異なるジャンル選好性を持ち、オノマトペと他の語と区別される固有の特性が示された。

本研究で扱ったオノマトペの意味特性はサンプルとして取り上げられた語についての言語事実ではあるが、同様のことは他の多くのオノマトペにも応用可能と考えられる。今後、コーパス調査を様々なオノマトペに対して適応することによって、従来の辞書記述を

改善するだけでなく、オノマトペそのものの意味的な本質についてもより詳しく解明することができるのではないかと期待される。

以上の第6章、第7章、第8章、第9章はそれぞれオノマトペの音韻、形態、統語、意味の4つの方面からオノマトペの言語的特性の解明を行ってきた。従来、日本語教育ではオノマトペは体系的に扱われておらず、教科書に偶然出現したものだけ意味を教えるが、日本語オノマトペは数が非常に多く、かつ、感覚に根付いたものであるため、少数のオノマトペの字面上の意味を教えるだけでは、日本語オノマトペとは何かを理解するのが不可能である。このように専門家の内省判断の集大成の辞書の網羅的調査と大規模な言語データを収集したコーパス調査の2つのアプローチをふまえた重要オノマトペの選定を行ったうえで、これらの1466語を土台に一般語彙と比較しながらオノマトペの音韻的、形態的、統語的、意味的特性の分析を行うことは、オノマトペの言語特性を徹底的に解明するのに不可欠である。こうした段階を経て得られた知見を日本語学習者に提示し、オノマトペの正しい理解を養うという点で本論文の意義である。

第10章 オノマトペの使用環境と使用実態

10.1 本章の目的と構成

以上でオノマトペの音韻特性・形態特性・統語特性・意味特性について多角的に議論してきた。しかしながら、ここで留意すべきは、オノマトペが抽象的で特命的な環境下で使用されるのではなく、(1) 特定の話者によって、(2) 特定の環境下で、(3) 特定の産出モードで使用されるということである。すなわち、(1) 話者属性、(2) 産出環境、(3) 産出モードといった使用環境の各々の点がオノマトペの実際的な使用、つまりは使用量および具体的に使用されるオノマトペにどのように影響しているのかは明らかになっていない。

まず、(1) についていえば、たとえば、男性であるのか、女性であるのか、若者であるのか、成人であるのか、といった要因が関係してくるだろう。赫(2017)は、男性向けファッション誌・女性向けファッション誌におけるオノマトペ使用の特徴の違いを明らかにし、ファッション誌におけるオノマトペの使用は、ジェンダーに対するステレオタイプを反映しており、男性誌と女性誌でオノマトペ使用量に違いがあることが示された。しかしながら、分析した雑誌の数量は60冊で、必ずしも十分なデータ量が確保されていないという課題も残る。また、若者か成人かといった年齢要因は十分に研究されていない。

次に、(2) についていえば、政治的な文脈であるのか、経済的な文脈であるのか、雑談的な文脈であるのか、といった違いが関係してくるだろう。スコウラップ(1993)は、3冊の児童書から3000字ずつ、3冊の中高生向けの小説から3000字ずつ、3冊の一般的な小説から3000字ずつ、3編の学術論文、『毎日新聞』の1日分の記事全体、スポーツ新聞三紙(『日刊スポーツ』『産経スポーツ』『スポーツニッポン』)の相撲と野球に関する記事1日分、3編の漫画から3000字ずつ抽出して、書き言葉におけるオノマトペの使用状況を調査し、オノマトペの使用量はテキストタイプによって大きく異なっており、学術論文においてはオノマトペがほとんど出現しないのに対し、児童書や相撲や野球に関する記事特に見出し語にはオノマトペが非常に多いということを明らかにした。しかしながら、もとのサンプルサイズが3000字で短く、調査対象が3冊ないし3編に限定されているという課題もある。また、現代日本語の多様な談話環境の全体が考察対象にされているわけではない。

最後に、(3) についていえば、書き言葉か話し言葉かという違いが大きく関係してくるだろう。前出のスコウラップ(1993)は、書き言葉よりも話し言葉においてオノマトペの使用量が多いことを指摘している。しかしながら、得られた知見は少数のデータに基づい

たもので、オノマトペの真の使用実態を反映しているとは限らない。

以上で見たように、オノマトペの使用環境に関する3つの観点について、先行研究は一定の調査を行ってきたが、総じて分析したデータは少ない。そこで、本論文では大規模な書き言葉コーパスと話し言葉コーパスを用い、上記の3つの観点を改めて調査することとしたい。

以下の10.2では本章で扱うリサーチクエスチョンを紹介し、10.3において、本章で使用するデータおよび研究手法を述べる。また、10.4においてリサーチクエスチョンの結果と考察をまとめる。

10.2 リサーチクエスチョン

すでに述べたように、本章の目的は、オノマトペの使用環境の違いによって使用実態にどのような違いが生じるかを計量的に確認することである。前述のように使用環境については話者属性、産出環境、産出モードの3つの点に着目する。また、使用実態については使用量と使用されるオノマトペの種別の2つの点に注目する。なお、使用量に関しては、一般的にトークン使用量とタイプ使用量が論じられる。ただし、今回の分析においてはジャンルごとのデータ量がそろっていないため、タイプ数をそのまま比較することは適切ではない。他のタイプ使用量指標としては、タイプをトークンで割ったTTR (type / token Ratio)、タイプをトークンの平方根で割ったGuiraudのR値、自然対数に変換したタイプを自然対数に変換したトークンで割ったHerdanのC値などが広く使用されているが、コーパスに顕著なサイズの差がある場合にはC値の使用が推奨される(石川, 2012, p144)。本論文で比較するコーパス間の語数にも大きな差が存在するため、そこで、本研究ではタイプ数をトークン数で調整したHerdanのC値をタイプ数に代えて使用する。この目的に沿って、以下の4つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 話者属性はオノマトペの使用実態にどのように影響するか？

RQ2 産出環境はオノマトペの使用実態にどのように影響するか？

RQ3 産出モードはオノマトペの使用実態にどのように影響するか？

RQ4 以上全体を考慮すると、オノマトペの使用実態はどのような統合モデルで説明できるか？

10.3 研究手法

10.3.1 分析対象

まず、オノマトペを調査する際に、どこまでをオノマトペと認定するか、調査範囲を決める必要がある。第Ⅱ部のオノマトペの言語的特性の分析では、6冊のオノマトペ辞書のうち2冊以上に含まれるもの、かつ、BCCWJにおいて頻度が2以上のものを選び、結果として1466語を調査対象としてきた。これらは学習上の重要性の高い語として選ばれたものであるが、オノマトペの使用実態を概観するには、これらに限らず、より幅広いオノマトペの使用実態を見ていくことが適切であろう。

そのため、本章では6冊のオノマトペ辞書のうち、1冊以上に含まれている全4189種を調査対象とする。ただし、4189種のうち、最も頻度が多い「ちょっ(と)」については分析対象から除外することにした。これは、「ちょっ(と)」の使用頻度がほかのオノマトペに比べ圧倒的に多く、「ちょっ(と)」を含めた場合、分析結果が歪んでしまうと考えたためである。実際、BCCWJにおいて4189種のオノマトペの総頻度は302870回となるが、「ちょっ(と)」の1語だけで全体の約10%を占める。また、CSJの場合、全体頻度は27187回となるが、同じく「ちょっ(と)」の1語だけで全体の約45%を占めることになる。また、名大会話コーパスの場合、全体頻度は8357回となるが、同じく「ちょっ(と)」の1語だけで全体の約35%を占めることになる。このことに加え、「ちょっ(と)」にはオノマトペとして適格性の低い用例が多く含まれているという問題もある。

(1) え自然とんえ一人が同居する町佐倉えーちょっとテーマはちょっとそうちょっとんなんてこんな大層な話をしテーマ付けてしまったんです。(S03M1239)

(2) あのちょっと予稿とはちょっとし違う話をしたいしますんでちょっと御了承ください#えーとこの音響的バイグラムっていう(A01M0008)

(3) あのーそういうお話をちょっとお聞き願えればと思います#でまずあのー当時のことちょっとか振り返ってみますとです#これ八十八年の音声研究会の私ちょっと使っ(A01M0035)

上記のように1つの文章の中で「ちょっ(と)」は3回も使用され、これは話者の口癖のようなフィラー用法と思われ、他のオノマトペには見受けられない現象である。そのため、上記の2つの理由により、本研究では「ちょっ(と)」を除く4188種を調査対象とするこ

とにした。学習上重要な 1466 語だけを観察するのに対し、4188 種を観察することで現代日本語におけるオノマトペの使用実態をより俯瞰的に議論することができると思う。

10.3.2 使用するデータ

本論文では書き言葉コーパスとして BCCWJ を、話し言葉コーパスとして CSJ と名大会話コーパスを使用する。このうち、BCCWJ は 13 の内容ジャンルに区分されているが、そのうち、出版書籍、図書館書籍、ベストセラーはすべて書籍であるため、ここでは「書籍」として集約する。これにより、BCCWJ については 9 ジャンルを分析対象とする。話し言葉についていうと、CSJ は 9 種のジャンルに分かれ、また、名大会話コーパスは雑談という別のジャンルで構成されている。つまり、話し言葉については、全体で 10 ジャンルが存在することになるが、そのうち、CSJ の朗読と再朗読は本質的な話し言葉とは認められないため除外する。これにより、話し言葉については全体で 7 ジャンルを分析対象とする。最終的に、本章で使用するデータセットは以下の通りとなる。

表 10-1 使用するデータ

大ジャンル	小ジャンル	総語数
書き言葉	書籍（出版・図書館・ベストセラー）	62672407
	雑誌	4,444,492
	新聞	1,370,233
	白書	4,882,812
	教科書	928,447
	広報誌	3,755,161
	知恵袋	10,256,877
	ブログ	10,194,143
	国会会議録	5,102,469
話し言葉	学会講演	3,299,260
	模擬講演	3,636,771
	学会インタビュー	28,939
	模擬インタビュー	43,138

課題対話	30,356
自由対話	48,065
雑談 (名大コーパス)	1,131,971

なお、すでに述べたように RQ1 で話者属性を区別して分析を行う。BCCWJ のデータの一部にも書き手の性別や生年の情報が付与されているが、全体の中でそれらが明示されている率は必ずしも高くないため、ここでは詳細なデータがそろっている話し言葉に限って話者属性を比較する。属性ごとのデータ量は以下のとおりである。

また、CSJ と名大コーパスにおける男性女性の人数は表 10-2 に示し、CSJ と名大コーパスにおける年代別人数は表 10-3 に示す。

表 10-2 各コーパスにおける性別内訳

	女性	男性
CSJ	440	826
名大会話コーパス	161	37
合計	601	863

表 10-3 各コーパスにおける年代別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
CSJ	5	455	345	215	145	94	5	2
名大会話コーパス	15	88	27	24	22	14	2	4
合計	20	543	372	239	167	108	7	6

10.3.3 分析手順

議論を進める前に各コーパスからオノマトペを抽出する方法について述べる。まず、BCCWJ については、すでに国語国立研究所が編纂した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表データ（以下：短単位語彙表）が一般に公開されており。そこにジャンル別頻度がすでに含まれているので、VLOOKUP 関数を使って、それぞれのジャンルに出現するオノマトペの頻度を取得することにした。ただし、短単位語彙表に含まれるオノマ

トペ語彙素と事前に用意したオノマトペリストは必ずしも一致するわけではない。すでに第5章の研究手法のところ述べてように、頻度が確認されなかったものについては、短単位語彙表に記載された語形にあわせて頻度を取得するようにした。なお、短単位語彙表に含まれるオノマトペ語彙素のうち、59語（かさかさ、がさがさ、かりかり、がりがり、ぎくしゃく）については副詞のほか、形状詞や名詞（サ変可能）など、複数の品詞で同時に立項されていることがわかった。しかし、本研究では品詞の区別は行わないためこれらについては頻度を合算して処理した。

一方、CSJと名大会話コーパスについては、「中納言」インターフェースを使い、4188語の各々を語彙素検索して頻度を抽出した。ただし、頻度が得られなかったものについては語彙素読み検索をあわせて実施し、データを確認した。

上記の過程を経てそれぞれのジャンルに出現したオノマトペの頻度を抽出することができた。しかし、ジャンル間のデータサイズの差が大きいため、すべて百万語あたりの調整頻度にし、比較を行った。なお、調整頻度を計算する際には、ジャンルごとの総語数を明らかにする必要がある。ここでは、「中納言」を使用し、ジャンルごとの「検索対象語数」（記号・補助記号・空白を除く）を利用した。

RQ1について、すでに述べたように、話者属性情報が完全に提供されているCSJと名大会話コーパスのみを用いて分析を行う。男性・女性別にオノマトペの使用頻度を調査し、1人当たりの平均値を求める。また、10代、20代、30代、40代、50代、60代別に調査を行い（70代と80代はサンプル数が少ないため調査対象外とする）、1人当たりの平均値を求めた。

RQ2について、まず、CSJと名大会話コーパスに加えてBCCWJも調査対象とする。各コーパスの全ジャンルについて調査を行い、ジャンルごとにオノマトペのトークン使用量とタイプ使用量（HerdanのC値）を計算して比較した。

RQ3について、RQ2と同様の調査を行い、BCCWJ（書き言葉）とCSJ・名大会話コーパス（話し言葉）を比較し、オノマトペのトークン使用量とタイプ使用量を議論した。

RQ4については、すでに述べたように、話者属性情報が完全に提供されている話し言葉データのみを調査対象とする。ただし、CSJについては全データを解析することは物理的に困難であるため、コアデータのみを抽出して分析対象とした。話者属性、産出環境・産出モードの3観点とトークン使用量とタイプ使用量の関係を見るために、重回帰分析を実施する。説明変数は性別、年齢、ジャンルの私的性、ジャンルの独話性の4つとする。目

的変数はすべて述べたように、オノマトペのトークン使用量とタイプ使用量である。重回帰分析の実施にあたっては、変数増減法により、変数の取捨選択を行った。変数の増減の基準値は $F=2$ 以上とした。なお、CSJ および名大会話コーパスに含まれる各発話はそれぞれ長さが異なるため、単純にオノマトペの使用量だけを比較することは適切ではない。そこで、本研究では、各発話の長さの情報を取得し、タイプとトークン使用量の各々について 1 分間あたりの頻度に換算し、タイプの自然対数/トークンの自然対数を計算した。なお、個々の発話の長さの情報は、CSJ については DVD 版に格納されている LDB のファイルにあるデータから手動で抽出した。また、名大会話コーパスについてはホームページからダウンロードした個々のファイルから手動で抽出した。

CSJ の目的変数の計算例

講演 ID	トークン	タイプ	発話時間	使用量	多様性
A01F0055	2	1	13.26	$2/13.26$ =0.15	$\text{LN}(1/13.26)/\text{LN}(2/13.26)$ =1.37

名大会話コーパスの目的変数の計算例

講演 ID	トークン	タイプ	発話時間	使用量	多様性
data003	27	18	43	$27/43=0.63$	$\text{LN}(18/43)/\text{LN}(27/43)=1.87$

なお、こうした分析を行う場合、理想的には性別、年齢、ジャンルの公的・私的性、ジャンルの対話・独話性のそれぞれの観点について同数のデータが収集されていることが望ましい。しかしながら、CSJ、名大会話コーパスともデータは大きな偏りを見せている。この点については今後の課題としたい。

10.4 結果と考察

10.4.1 RQ1 話者属性

10.4.1 使用量

まず、性別がオノマトペの使用量にどのように影響するかを見るために、トークン使用量とタイプ使用量を調査したところ、以下の結果を得た。

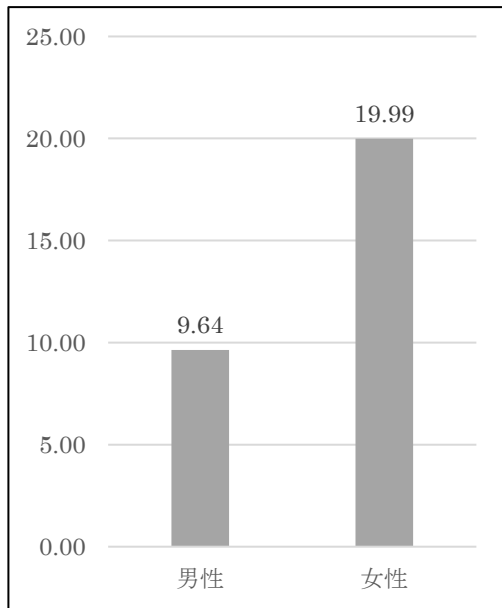


図 10-1 男女別使用量

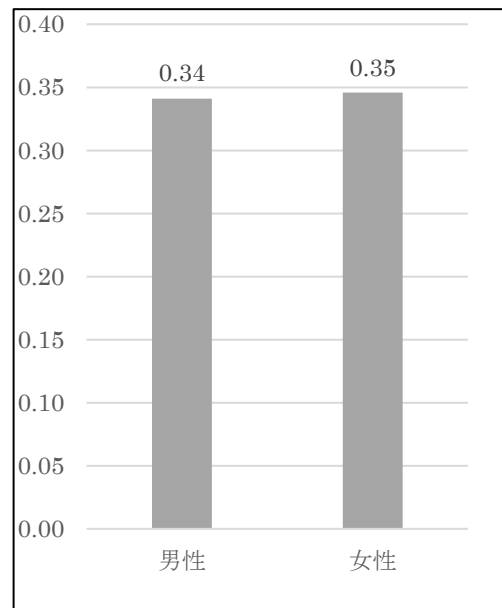


図 10-2 男女別多様性

Fisher の正確確率検定を実施したところ、トークン使用量については女性>男性の関係が確認できた (OR=0.48, $p<.00$) が、タイプ使用量について性別間の違いは有意ではなかった (OR=0.987, $p=.59$, ns.)。すでに赫 (2017) で指摘したように男性向けファッション誌と女性向けファッション誌とでは女性向けファッション誌の方が多くのオノマトペを使用することが報告されているが、実際のオノマトペのトークン使用量の点でも、女性の方が多いたことが確認されたことは興味深い結果と言える。ただし、タイプ使用量については差がなかったことから、女性は限られたオノマトペを繰り返し使用する傾向があると言える。一般にオノマトペは意味を伝えるよりも雰囲気や情緒を伝える表現とされる。女性話者は発話の中で一部のオノマトペを使用することで感情や感覚を伝え、共感を求めると予想される。

たとえば、以下のような用例も存在する。

(4) そうそうそう。#それで、ま、いずれにしても、わたしもイギリス行ってびっくりしたんだけども、何しろ少なくて。#うん#うん#うん# (data009, F032)

(5) じゃないの?#F032 さんしか。#だからしょうがないわたしやったのよ、わたしびっくりしたけどさ、いまさら断れないじゃない。#F でやったわけ?# (data009, F032)

(6) ***てFの方だもん。#あーらおもしろい。#うん、それで、わたしもびっくり

しちゃった。#うん#それでもよかったわけ?#***ちゃって。# (data009, F032)

(7) アメリカ人, うん, そのときにどうしてチェックするのかなと思ってびっくりしたけども。#うーん, 反戦運動しないとか?# (data009, F032)

(8) うん#そしたら, まずYが日本から日本語の教師を呼んだってことにびっくりしたらしいのね。#うん#うん#ふーん# (data009, F032)

(9) そして来たのが, 若い, ちっちゃな女の子だったっていうんで, もっとびっくりしたんだってさ。#それでみんなが呼んでくれたの。#へー# (data009, F032)

(10) ものように言ってたわけ。#うん#そんでさ, 汽車に乗ってみてびっくりしたんだけども。#あ, 汽車だったの, それ。# (data009, F032)

(11) ちゃんとさ, 召使いつきの, すごかった, トイレまでくっついてさ, #すごい。#もうびっくりしちゃってさ, #すごいおもしろい。# (data009, F032)

(12) ときにさ, わたしがふらふらとちょうど1等から出てきたもんで向こうがびっくりしちゃってさ, また。#うん, そう, わたしまちがえたのつつたら。#おもしろい。
(data009, F032)

(13) その先生に怒られちゃってさ。#うん#うん#うん#うん#うん#うん#うん#わたしもびっくりしちゃった。#全然何事もなかったけど, うん。#あーあ# (data009, F032)

(14) に, 実は, あの一, 東海岸までこうこう行くなって学生に言ったら学生がびっくりしちゃって。#うん#うん#うん#うん# (data009, F032)

上記の用例に示されるように1つの談話の中で同一話者 (data009, F032) が同じ「びっくり」を11回繰り返し使用する。これは女性が発話の中で感情や気持ちを伝えるために, 一部の感情オノマトペを繰り返し使用する証拠であろう。実際, 獅々見 (2016) においても「男性に比べて女性の方が論理的な説明より感覚的なオノマトペで表現する場合が多い」と指摘している。また, 博報堂 (2010) の「感情オノマトペ」調査結果によれば, 日常生活全般において, 女性は男性より感受性が強く, 感情や気持ちにより敏感であると報告されている。同調査では, 全国の20代~50代の男女6000名を対象に, 感情の抱き方の男女差を調査し, 調査で使用した語はすべて感情オノマトペ (例:「うきうき, じーん, あたふた, くよくよ」) 20種である。

次に, 年齢はオノマトペの使用量にどのように影響するかを見るために, トークン使用量とタイプ使用量を調査したところ, 以下の結果を得た。

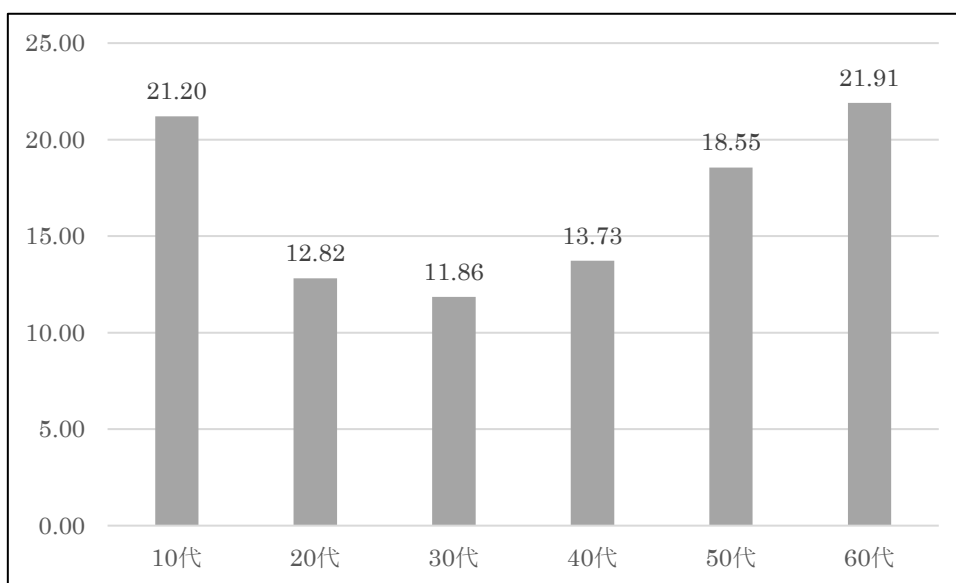


図 10-3 年代別使用量

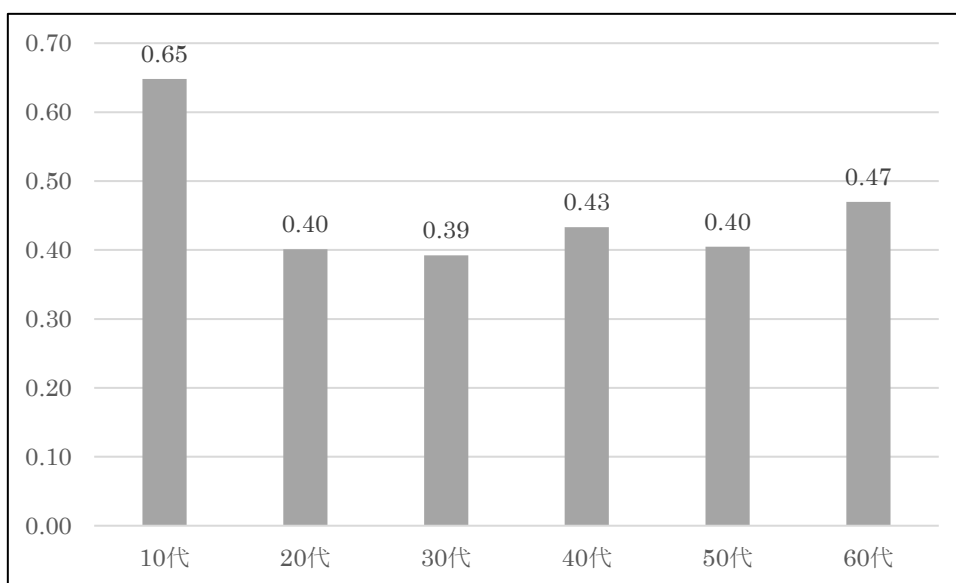


図 10-4 年代別多様性

まず、トークン使用量についていえば、10代から20代30代にかけて減少した後、40代から60代にかけて再び上昇するUカーブの傾向が確認された。また、10代と60代はオノマトペ使用量の点ではほぼ同じとなっている。表 10-3 で示されたように、20代から60代についてはCSJのデータ量が名大会話コーパスよりはるかに多い。一方、10代に限っては名大会話コーパスのデータ量の方が多くなっている。つまり、雑談を中心とする名大会話コーパスのデータが多いため、このようなくだけたオノマトペが多く出現すること

が10代のオノマトペの多用に関係している可能性は指摘しておきたい。

タイプ使用量についていえば、10代は多く、20代からは変化幅は小さくなり、全体として多様性は低くなる。このことは、20代以上の話者が使用するオノマトペの種類は比較的安定的なものであることを示している。また、10代においてオノマトペの多様性が他の年代の話者より顕著に高くなっているのは、やはり、10代のデータの偏りによるものと思われる。すでに述べたように、10代のデータは他の年代のデータとは違って、雑談を中心とする名大会話コーパスのデータが多く入っている。

10.4.1.2 使用されるオノマトペ

男女別に使用されるオノマトペの上位10語を調べたところ、以下の結果を得た。

表 10-4 男女別に使用されるオノマトペ上位10語

順位	男性	平均頻度	女性	平均頻度
1	ずっと	2.93	ずっと	5.17
2	ちゃんと	2.10	ちゃんと	3.62
3	どンドン	1.49	きっと	2.55
4	びっくり	1.13	びっくり	2.02
5	だんだん	1.13	どンドン	1.88
6	はっきり	0.83	だんだん	1.82
7	ゆっくり	0.58	はっきり	0.85
8	ぱっ	0.53	しっかり	0.81
9	きっと	0.49	ゆっくり	0.70
10	きちんと	0.45	きちんと	0.61

すでに述べたように、トークン使用量の点については女性>男性の関係性が示されたが、具体的な使用語についていえば、上位10語のうち9語が重なっており、性別間の差異は必ずしも明確なものではなかった。ただし、それぞれの使用語の平均使用頻度に注目すると、上位10語のすべてにおいて、女性の平均使用頻度は男性より高くっていることに気が付く。このことから、女性が一部のオノマトペ繰り返し使用する傾向があるということが裏付けられる。

次に、年代別に使用されるオノマトペの上位 10 語を調べたところ、以下の結果を得た。

表 10-5 年代別に使用されるオノマトペ上位 10 語

10代		20代		30代		40代		50代		60代	
ちゃんと	2.9	ずっと	2.9	ずっと	3.5	ずっと	2.1	ずっと	2.4	ずっと	7.5
びっくり	1.8	ちゃんと	2.0	ちゃんと	2.6	きっと	1.9	ちゃんと	1.7	ちゃんと	4.0
ずっと	1.7	きっと	1.4	きっと	1.8	ちゃんと	1.6	どんだん	1.7	だんだん	3.3
どんだん	0.9	どんだん	0.9	だんだん	1.6	どんだん	1.5	だんだん	1.1	どんだん	3.2
そろそろ	0.7	だんだん	0.8	どんだん	1.3	だんだん	0.9	きちんと	1.1	びっくり	2.0
きちんと	0.6	はっきり	0.5	びっくり	0.9	ゆっくり	0.8	きっと	1.0	きっと	1.4
めちやめちや	0.6	しっかり	0.3	ゆっくり	0.8	はっきり	0.7	はっきり	0.9	すっ	1.3
ばあ	0.6	ばらばら	0.3	はっきり	0.7	ぱっ	0.7	びっくり	0.8	しっかり	0.9
があ	0.5	つい	0.3	しっかり	0.6	びっくり	0.6	しっかり	0.7	ぱっ	0.9
きっと	0.5	びっくり	0.2	きちんと	0.5	しっかり	0.4	ゆっくり	0.6	きちんと	0.7

上表に示されるように、上位 10 語のうち、5 語が重なっており、年代別に使用量を見た場合、使用されるオノマトペは大きく異ならなかった。すでに述べたように、10 代と 60 代はオノマトペのトークン使用量の点ではほぼ同じとなっている。では、10 代と 60 代を同じように使用していると結論してよいのであろうか。この点を確認するために、10 代～60 代のそれぞれについて最も多く出現するオノマトペ上位 10 位を確認したところ、確かに、使用量の点では 10 代と 60 代はほぼ同じであったが、実際に使用されるオノマトペは大きく異なっている。特に、10 代が多い理由は「そろそろ、めちやめちや、ばあ、があ」といった語を多用するためと考えられる。また、平均頻度に注目すると、60 代の上位 10 語の平均頻度は他の世代に比べて高いということがわかる。このことは 60 代の話者が限られたオノマトペを繰り返し使用する傾向を示している。これは 60 代の話者が「ずっと、ちゃんと」といった一般副詞に近い語を繰り返し使用するためだと考えられる。

また、他の年代にみられない当該年代の固有オノマトペを見てみると以下のような結果を得た。

表 10-6 当該年代を特徴づけるオノマトペ

年代	固有高頻度オノマトペ
10代	そろそろ, めちゃめちゃ, ばあ, があ
20代	ばらばら, つい
30代	なし
40代	なし
50代	なし
60代	すっ

上表に示されるように, 10代, 20代, 60代を特徴づけるオノマトペが確認され, 30代, 40代, 50代を特徴づけるオノマトペは確認されなかった。このことから, オノマトペ使用における年代差が見受けられる。10代においては, 「ばあっ(と), があっ(と)」のような擬音語や「そろそろ」「めちゃめちゃ」のような程度を表すくだけた話し言葉が特徴的, 20代においては「ばらばら」のような様態や状態を表す語が特徴的, 60代においては「すっ(と)」のような動作や変化を表す語が特徴的である。それぞれの用例を以下のように示す。

(15) うーん, じゃあ, あの, じゃあカード渡しとくわ。#何かさ, そろそろさ, そろそろさ, 土日にさ, 予約取りたいよね。#うん# (data085, 10代)

(16) #もう, ぼろくそに。#それ, キャラによるよね, 友だちの。#めちゃめちゃ言うよ。
#Jさんだったら言うしね。# (data119, 10代)

(17) #受けたしな。#うん。#時間ないしな。#あれ, 途中でまあ, ばあーと終わったところもまあ受けてよかった。#あれ, 受けたの, あれ?# (data119, 10代)

(18) #そうそう。#今日だけもてる女にしたるわって, 言ってさー。#がーって囲んでくれてさー, ラッキーと思って。#すごい幸せだった。#うれしいよねー# (data102, 10代)

(19) #そこでそれぞれに適した絞り込み手法をばらばらに記述してそれぞれをばらばらに適用することができます# (A03M0156, 20代)

(20) #つい最近まで我が家ではハムスターを飼っていました#三週間程前寒さで死なせてしまいとても悲しい思いをしたので反省の意味を込めてハムスターについてお話ししてみようと思います。(S00F0697, 20代)

(21) #それでもう本当苦しい登り普通僕なんかはこうジグザグで登ってくところをすっ

と登るの得意なんですけど#あの山だけは見て五六本道が付いてると一番平らな道を行く
 んですね#こうねもう本当にそういう風になるんですね# (S02M0256, 60代)

(22) #で本当にくその一お一みんなげき何て言うか劇化的と言うかこうそういうものは
 子供達の中にもこうすつと入っていってしまう#いかにも自分がそれがこうた易くできる
 とするかそういうその考えるってことなしにそのものが自分のものになっていってしま
 うって言うそういうことが凄く怖いと思います# (S11F0926, 60代)

上記の用例のうち、(15)の「そろそろ」は時間的にもう予約を取らなければいけない程
 度を表し、(16)の「めっちゃめっちゃ」は言うという動作の頻度を表している。(17)(18)の
 「ばあーっ(と)」「があー(と)」はもともと擬音語であるが、ここでは勢いの強さを表す。
 まとめると、10代を特徴づけるオノマトペには程度を表すくだけたものが多い。(19)の
 「ばらばら」は学会発表において、手法や結果を述べる際に、客観的に記述するために使
 用されたオノマトペである。これは10代で使用したオノマトペに比べて、フォーマリテ
 ィがより高いものである。同じく、(20)にみられる「つい」は話し言葉であるが、フォー
 マリティの立場から見れば、中立的な語であると思われる。これらに対して、60代に使用
 された「すつ(と)」は、「登る」や「入る」という動作を修飾しており、いずれもの身近
 な出来事を話すときに使用された語である。このように、それぞれの年代が使用したオノ
 マトペを観察することによって、オノマトペの使用の年代差が確認された。

10.4.2 RQ2 産出環境

10.4.2.1 使用量

ジャンル別に調査したところ、次のような結果を得た。

表 10-7 ジャンル別使用量

ジャンル	使用量
(書) ブログ	5359.55
(話) 雑談	4822.56
(話) 自由対話	4057.01
(書) 雑誌	3545.51

表 10-8 ジャンル別多様性

ジャンル	多様性
(話) 雑談	0.48
(書) 書籍	0.47
(書) 雑誌	0.46
(書) ブログ	0.46

(話) 模擬講演	3186.34	(書) 知恵袋	0.45
(書) 知恵袋	3053.27	(話) 模擬講演	0.44
(書) 書籍	3022.56	(書) 新聞	0.43
(話) 模擬インタビュー	3013.58	(書) 教科書	0.41
(話) 学会インタビュー	2280.66	(書) 広報誌	0.40
(話) 課題対話	1811.83	(話) 学会講演	0.39
(書) 国会会議録	1370.71	(話) 自由対話	0.39
(書) 新聞	1193.96	(書) 国会会議録	0.38
(書) 教科書	1049.06	(話) 模擬インタビュー	0.37
(話) 学会講演	875.95	(話) 学会インタビュー	0.30
(書) 広報誌	682.26	(話) 課題対話	0.29
(書) 白書	44.44	(書) 白書	0.26
平均値	2460.58	平均値	0.40
標準偏差	1499.11	標準偏差	0.06
変動係数	0.61	変動係数	0.15

まず、10-7 よりわかることは3点ある。

1 点目は、標準偏差に注目すると、ジャンル間の差が大きいということである。最も多くオノマトペの出現が確認されたブログと最も少ない白書の間に137倍の差がある。また、ブログと2番目少ない広報誌の間でも約8倍の差がある。このことはオノマトペの使用量はジャンルにきわめて強く影響されることを示唆している。

2 点目は、私的>公的という関係が認められるということである。このことは、たとえば、同じ書き言葉であるブログの方が雑誌や新聞よりもはるかにオノマトペのトークン使用量が多く、同じ話し言葉である模擬講演が学会講演よりもはるかにオノマトペのトークン使用量が多いことから確認される。すなわち、幅広い読者に向けて校閲の入ったテキストではなく、特定の読者を念頭に私的に発信されたテキスト環境においてオノマトペの使用量が高まると言える。

3 点目は、知りあい間>初対面間という親疎の関係が影響しているということである。このことは、同じ話し言葉の中で、雑談>自由対話ということから確認される。雑談と自由対話はいずれも同程度のフォーマリティの発話形態であるが、雑談の大部分が知りあい

間においてなされたものに対し、自由対話は初対面間の対話となっている。すなわち、気心の知れた相手とリラックスして話す場合に、オノマトペがより多く使用されると言うてよいだろう。

以上の2点目と3点目を合わせて考えると、内容のフォーマリティの高低と話者間の親しさの高低という2つの軸によってオノマトペのトークン使用量が決定されているのではないかと推定される。なお、興味深いことに、書き言葉か話し言葉かという差はこうした主要な軸には含まれていないということである。このことは、最もオノマトペの出現量が多い上位5ジャンルを見た場合に、1位と4位が書き言葉、2位と3位が話し言葉となっており、必ずしも書き言葉と話し言葉によってオノマトペのトークン使用量が区別されていないからも確認される。

次に、表10-8よりわかることは2点ある。

1点目は、変動係数に注目すると、ジャンル間の差が比較的小さいということである。最も多様性の高い雑談は0.48であり、最も低い白書の約2倍である。自然対数を使っているという要因にも影響されるが、RQ1でみたジャンル間の差よりは小さいと言える。これはオノマトペの語彙密度がジャンルによって影響されず、比較的に安定的なものであることを示す。

2点目は、使用量と異なる傾向を示すジャンルが存在するということである。たとえば、ブログについていえば、トークン使用量は1位、タイプ使用量は4位であり、3位分減少している。また、雑談についていえば、トークン使用量は2位、タイプ使用量は1位であり、1位分上昇している。すべてのジャンルについてこうした順位ずれを検証したところ、トークン使用量に比べてタイプ使用量の順位が上昇するのは雑談(+1)、書籍(+5)、雑誌(+1)、知恵袋(+1)、新聞(+5)、教科書(+5)、広報誌(+6)、学会講演(+4)であり、トークン使用量に比べてタイプ使用量の順位が減少するのはブログ(-3)、模擬講演(-1)、自由対話(-8)、国会会議録(-1)、模擬インタビュー(-5)、学会インタビュー(-5)、課題対話(-5)であった。前者は全体的な量が少ないが、オノマトペを幅広く使うジャンル、後者は限られたオノマトペを繰り返し使用するジャンルと言えるだろう。以下は最も順位の上昇幅が大きい広報誌と最も順位の減少幅が大きい自由対話の用例である。

広報誌における用例：

(23) タマネギは縦半分にしたものを、繊維に垂直に薄切りし、熱湯でさっとゆでて水気を切る。# …ホウレン草はたっぷりの熱湯でゆで、水にさらしてアク抜きし、水気をしっかり絞ってみじん切りにする。#コーンは自然解凍しておく。#…最後に、ミニトマトとミントの葉を飾る。#※洋酒の分量は適宜調整してください。#ひんやり冷たいデザートにお子さん大喜び#もっと食べよう！#野菜パネル展# …5皿の野菜料理を目安に、健康的な食生活を心掛けようね。#野菜たっぷりメニューで元気いっぱい！#パネル展もよろしくね♪# (BCCWJ 広報誌：OP00_00008)

自由対話における用例：

(24) うーんうーんそうですよね#だらだらだらだらやっちゃった#どうなんでしょうね# (CSJ 自由対話：D03F0058-R)

(25) すあー生き物ですもんね#言葉はね英語もねあの黒人の英語っていうのはどんどどんどん何か短略化されているって言うけど#日本語もね結局そうですもん (CSJ 自由対話：D03F0006-L)

(26) 学とか言語とかやってらっしゃってこう子供が発達って言うか大きくなる上でだんだんだん言葉を覚えていく#じゃないですか# (CSJ 自由対話：D03F0001-L)

上記の4つの用例のうち、(23)はBCCWJの広報誌により抽出された用例で、(24)～(26)はCSJにより抽出された用例である。(23)と(24)～(26)では、全体の産出量がほぼ同程度であるが、前者の方では延べ6種類、異なり5種類のオノマトペが使用されているが、後者の方では延べ6種類、異なり5種類のオノマトペが使用されている。これらの用例にも窺えるように、広報誌は幅広いオノマトペを使うのに対し、自由対話はごく一部のオノマトペを繰り返し使用する。もっとも、広報誌というのは、多くの読者に愛読されるよう、言葉を何度も練り、さらに校閲受けたものであるが、自由対話というのは不安定な対話の中で、相手と言葉をやり取りしているうちに、その場に応じた言葉が選ばれ、偶然に使用されたものである。この違いによってオノマトペの使用が大きく影響されるということが示された。

10.4.2.2 使用されるオノマトペ

ジャンル別に使用されるオノマトペの上位10語を調べたところ、以下の結果を得た。

表 10-9 ジャンル別に使用されるオノマトペ上位 10 語

書籍	ずっ(124.9), はっきり(120.4), ゆっくり(91.8), しっかり(82.4), きっ(76.8), じっ(59.7), すっかり(58.6), ちゃん(57.6), きちん(51.5), しばしば(48.6)
雑誌	しっかり(176.6), たっぷり(131.4), ずっ(103), ゆっくり(84.6), きちん(82.8), ぴったり(70), すっきり(68.2), はっきり(65.2), どんどん(64.6), きっ(60.4)
新聞	しっかり(56.9), はっきり(41.6), ずっ(39.4), きちん(35.8), まだまだ(28.5), ゆっくり(25.5), どんどん(24.1), すっかり(23.4), ぴったり(19), きっ(18.2)
白書	しばしば(5.9), はっきり(4.7), ゆったり(3.1), まだまだ(2.7), ばらばら(1.4), まちまち(1.4), おーおー(1.4), ずっ(1.2), つい(1.2), のびのび(1.2)
教科書	はっきり(91.6), ゆっくり(75.4), しばしば(54.9), しっかり(40.9), だんだん(35.5), すっかり(24.8), そっ(24.8), きちん(23.7), ずっ(23.7), じっ(19.4)
広報誌	しっかり(51.9), わくわく(41.5), ゆっくり(26.9), すくすく(17), きちん(16.2), どんどん(14.9), まだまだ(14.1), ほっ(14.1), ずっ(13.8), びっくり(12.2)
知恵袋	ちゃん(166.8), ずっ(146.5), きちん(126.4), しっかり(110.5), きっ(108), はっきり(105), びっくり(72.4), ゆっくり(51.6), どんどん(48.3), まだまだ(46.9)
ブログ	しっかり(172.4), ずっ(162.1), ちゃん(155.6), きっ(132.6), ゆっくり(127.1), まだまだ(117.3), びっくり(116.1), そろそろ(88.9), すっかり(68.8), どんどん(66.8)
国会	きちん(211.7), はっきり(149.1), ずっ(147.6), しっかり(125.8), きちん(121.3), どんどん(112.3), ちゃん(61.5), だんだん(50.4), まだまだ(35.1), しばしば(18.6)
学会	どんどん(96.1), ずっ(79.7), はっきり(78.8), きちん(56.7), だんだん(55.2), ちゃん(54.9), ざっ(24.9), ゆっくり(24.2), しっかり(17.3), ばらばら(17)
模擬	ずっ(407.2), どんどん(270), だんだん(244.2), ちゃん(144.1), びっくり(112.5), きっ(99), はっきり(84.4), しっかり(73.4), きちん(67.4), ゆっくり(50.6)
学会 メイン	ずっ(380.1), ちゃん(345.6), はっきり(311), だんだん(241.9), きっ(172.8), まだまだ(138.2), どんどん(138.2), ぼん(103.7), むちゃくちゃ(34.6), ざっ(34.6)
模擬 イン	きっ(556.4), ずっ(510), ちゃん(185.5), はっきり(115.9), ばらばら(115.9), びっくり(115.9), すっきり(92.7), ちん(69.5), どんどん(46.4), むちゃくちゃ(46.4)

課題	きっ(823.6), ざっ(131.8), さっぱり(131.8), ぱっ(98.8), ぴんぼん(65.9), むちやくちや(65.9), ちゃん(32.9), めちやくちや(32.9), ぽかん(32.9), ひよいひよい(32.9)
自由対話	きっ(645), ちゃん(436.9), ずっ(312.1), どんどん(291.3), だんだん(187.2), びっくり(145.6), はっきり(104), ぱっ(104), ゆっくり(83.2), うっかり(83.2)
雑談	ずっ(481.5), ちゃん(448.8), きっ(259.7), びっくり(227), どんどん(111.3), だんだん(107.8), そろそろ(80.4), ゆっくり(76.9), ぱっ(71.6), はっきり(64.5)

上表よりわかることは3点ある。

1点目は、16種のすべてのジャンルの上位10語に含まれるオノマトペは存在しなかったということである。これは、オノマトペの使用はジャンルによって大きく異なるということを示している。また、16種ジャンル中過半数を超える確率で、幅広いジャンルにおいて使用されるオノマトペとして、「ずっ(15), はっきり(13), どんどん(12), ゆっくり(11), きっ(11), ちゃん(11), しっかり(10), きちん(9)」が挙げられる。これらの語は、現代日本語において高頻度でかつ汎用性の高いオノマトペであるといえるだろう。

2点目は、上位10語の平均使用頻度に注目すると、オノマトペの使用を好むジャンルもあれば、オノマトペの使用が比較的少ないジャンルも存在するということである。仮に、オノマトペのジャンル選好性がなければ、どのジャンルにおいても使用頻度が同じであるはずである。しかしながら、実際の場合、各ジャンルの第1位となっているオノマトペの使用頻度に注目すると、最も高い値となっている課題対話においては第1位である「きっ」の使用頻度が823.6であり、最も低い値となっている白書では第1位である「しばしば」の使用頻度が5.9回しかない。このことは、オノマトペの使用頻度がジャンルによって大きく変わるというジャンル選好性の存在を示している。

3点目は、それぞれのジャンルを特徴づけるオノマトペが異なるということである。たとえば、他のジャンルに認められない該当ジャンルにおけるオノマトペの固有特徴語を調べたところ、以下の表を得た。

表 10-10 各ジャンルにおける特徴語

ジャンル	特徴語
------	-----

書籍	なし
雑誌	たっぷり
新聞	なし
白書	ゆったり, まちまち, おーおー, つい, のびのび
教科書	そっ
広報誌	わくわく, すくすく, ほっ
知恵袋	なし
ブログ	なし
国会	きちっ
学会講演	なし
模擬講演	なし
学会イン	ぽん
模擬イン	ちん
課題	さっぱり, ぴんぽん, めちゃくちゃ, ぼかん, ひよいひよい
自由	うっかり
雑談	なし

上表に示されるように、書籍・新聞・知恵袋・学会講演・模擬講演・雑談においては固有の特徴語が確認されなかった。このことから、これらのジャンルにおける高頻度オノマトペが非常に高い類似性を持つことが示された。また、それぞれのジャンルを特徴づける用例を以下のように示す。

雑誌における用例：

(27) 外側がカリッとして、中がふわっと軽いものにバターをたっぷり塗って食べるとうれしくなります。#甘味が少し欲しい時は、バターを塗った上にハチミツかマーマレードを重ねます。# (PM31_00746)

(28) たっぷりの水(分量外)を注いで一晩(7~8時間)つけておく。#ざるに上げて水をきり、鍋に入れる。#たっぷりの水(分量外)を加えて中火にかけ、沸騰したらざるに上げてゆで汁を捨てる。#2 水を替えて、ゆでる。# (PM21_00439)

まず雑誌における用例を見てみると、料理などの内容に関する語が多く、読者に商品などを訴えるため、オノマトペが多く使用されている。その中で最も高頻度に使うのは「たっぷり」であった。

白書における用例：

(29) ソフト、ハード両面にわたる充実を図るため、トイレ整備に関する技術標準を見直し、平成8年5月に「都市公園におけるゆったりトイレの指針」をとりまとめた。# (OW5X_00016)

(30) この公害防止協定は、当事者間で定められることから義務の内容や運用はまちまちであり、また当事者間の合意という形で一種の行政措置を行うものであるが、公害関係法令の補完策としての意義もある。# (OW1X_00230)

次に、白書における用例を確認すると、「ゆったり」はほとんど「ゆったりトイレ」のように使用されている。このことから、「ゆったり」はある種の特殊な語とみなされてもよいだろう。また、用例を見てみると、「まちまち」「つい」などはオノマトペというよりも、一般語彙として使われているように思われる。実際、それらは広くオノマトペと認められず、本論文の第5章で特定した重要オノマトペリストにも入っていない。このように、白書というジャンルは決してオノマトペの使用を好むものではないということが示唆された。

教科書における用例：

(31) 1 接眼レンズの上部のレンズを回してはずす。# 2 接眼マイクロメーターをレンズ筒内にそっと落としこむ。# (OT23_00042)

次に、「そっ」は教科書において多く使用されるオノマトペである。実際、それは物理などの授業において手順を説明する際に多く使用されている。

広報誌における用例：

(32) 青少年科学館では、こまや紙飛行機などを作って遊び、その仕組みを学ぶ「わくわく科学実験教室」、自分だけの花火や入浴剤などを作る「科学工作教室」など、年間を通じていろいろな教室を開催しています。# (OP41_00005)

(33) 南行徳保健センター、いずれも午後1時～2時受け付け#すくすく赤ちゃんハガキ#
4月二十一日(月)ごろ、生後十カ月を迎える赤ちゃん(平成十九年6月生まれ)のいる
家庭にはがきを郵送。#発達の目安や育児相談の会場をお知らせします。#(OP27_00001)

広報誌に多く使用されるオノマトペには「わくわく」「ほっ(と)」のように感情を表す
語が多く、また、オノマトペはイベント開催に関する記事のタイトルに使用される場合が
多い。それは多くの人々がイベントに参加するようアピールする手段として、感情に強く訴
えるオノマトペが多く使用されたためと思われる。

国会会議録における用例：

(34) それをくぐっていくことが逆に有効性みたいな話になる部分があるわけですから、
そうなりますとこの問題というのはむしろ日本がきちつとやることこそ、先に行ったとき
に日本はきちつとやっておいてよかった、世界では大変なことになったということになる
問題じゃないかと私は思うんです。#(OM55_00008)

国会会議録に出現するオノマトペの特徴の1つは「話し言葉性」が強いというのが挙げ
られる。上記の用例にも示されるように、国会会議録は国会会議を録音して書き起こした
ものであるため、「きちんと」より話し言葉である「きちつ」が多く使用されている。

学会インタビューにおける用例：

(35) 分析してあの一調べる時にね#注目するパラメーターがその一ホルマントって言わ
れるもんなんですね#でこれは何て言えばいいかな共鳴って分かりますか#共鳴つまり何
かもものをぼんと叩いた時にあの一例えばコップの形が違ったら違う高い音が出たり低い
音が出たりするでしょう#(D04M0041-R)

学会インタビューでは、「ぼん」という音を表すオノマトペが特徴的となっている。これ
は、音声学会での発表内容に関するインタビューであったため、音に関する語が多く使用
されたと思われる。

模擬インタビューにおける用例：

(36) でそこであーの一食べ物を買ってんで電子レンジでちんしてっていう感じあ全然はい人歩いてないですね# (D01F0002-R)

模擬インタビューでは、協力者に提示したテーマがほとんど身近なものであるため、日常生活においてなじみの深いオノマトペが多く使用されていると思われる。

課題対話における用例：

(37) えーじゃどの方がえい一番上から行きましょうか#さっぱり分かりませんね#誰だろう俵孝太郎とかですかね# (D02F0054-L)

(38) お願いしますちょっとぼかんて感じだね#うん書いてあるんですか#あら#こちらは何も書いてないんです#はい#それで#だから知らない人がいる#あのねー#何かこの眼鏡を掛けたスーツを着たおじさん (D02F0025-R)

(39) でもさ#あの吉村作治とかも#ひよひよいテレビに出そうだから結構結構ギャラも安くても出そうじゃない#どうしよう#どう誰かな#うーん#林家こん平ってこの人何か笑点とかに出てる人だよね禿げてる人はう歌丸歌丸# (D02F0025-R)

課題対話では、特殊な話題が指定されたため、使用されたオノマトペも特殊なものが多く、その使用頻度も低くなっている。実際、「さっぱり」以外の「ぼかん」や「ひよひよい」は現代日本語において使用頻度が決して高くない。

自由対話における用例：

(40) で私とばかり遊んでいてえ最後に帰ろうとした時にお姉ちゃんとはあんまり遊ばなかったねって言ったら子供がうんうっかり忘れちゃったのってそれは覚えてばかりなんだね#子供って凄いですよね#うーんあーうーんうーんうーん面白いですね# (D03F0008-L)

最後に、自由対話に出現したオノマトペの特徴の1つが、自分自身の過去の経験談にかかわるものが多いということが挙げられる。

以上をまとめると、以下の表を得た。

表 10-11 各ジャンルを特徴づけるオノマトペの特徴

ジャンル	多用されるオノマトペの特徴
書籍・新聞・知恵袋・学会講演・模擬講演・雑談	汎用性の高いオノマトペが多い
雑誌	商品の量的・程度を表す語が多い
白書	一般語彙に近い語が多い
教科書	動作説明に関する語が多い
広報誌	感情や子育てに関する語が多い
国会	話し言葉性の高いものが多い
学会イン	音声に関する語が多い
模擬イン	日常生活に関する語が多い
課題	特定の話題に関する語が多い
自由	自身の過去の経験談に関する語が多い

上表に示されるように、異なるジャンルは異なるオノマトペ選好性を持つことが示された。こうしたジャンル使用特性の違いは学習者にとって学ぶべき重要な知見であるといえるだろう。

10.4.3 RQ3 産出モード

10.4.3.1 使用量

書き言葉を代表する BCCWJ の 11 ジャンルの使用量の平均値と話し言葉を代表する CSJ の 8 ジャンルと名大会話コーパスの使用量の平均値を比較した結果、以下のとおりとなった。

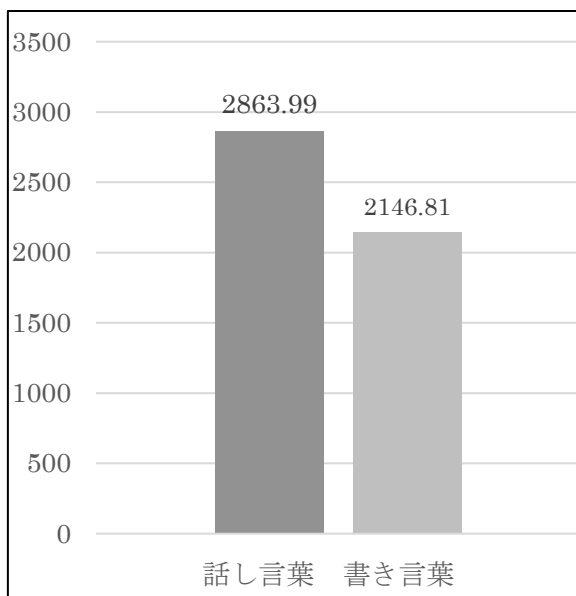


図 10-5 平均使用量の比較

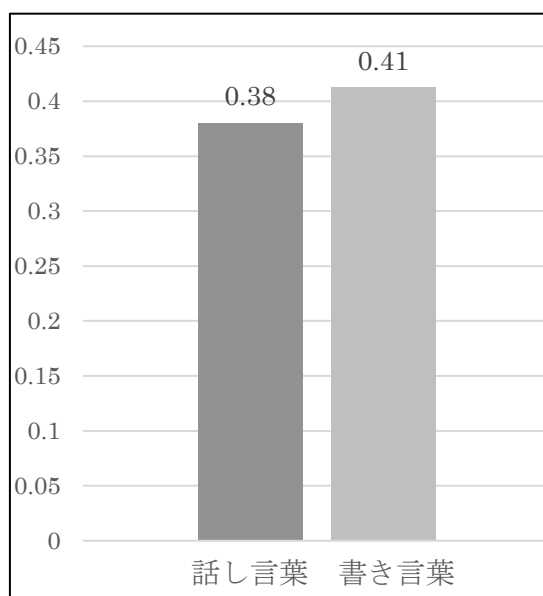


図 10-6 平均多様性の比較

図 10-7 および図 10-8 に示されるように、トークン使用量の点では話し言葉 > 書き言葉、タイプ使用量の点では書き言葉 > 話し言葉という関係性が認められたが、Welch の t 検定を行った結果、いずれの場合も差は有意ではなかった ($t=0.914$, $p=.362$, ns ; $t=-0.952$, $p=.359$, ns)。スコウラップ (1993) の調査では話し言葉における千字当たり頻度は 2.09 回、書き言葉における小説の千字当たり頻度は 1.89 回であった。本論文でも同じ結果が得られ、話し言葉は書き言葉より多く使用される傾向が示されたが、すでに述べたように、有意差は認められなかった。このことは、一般的な予測に反し、話し言葉と書き言葉という区別がオノマトペの使用量に直接的に影響していない可能性を示す。なお、このことはすでに RQ2 について見たように最もオノマトペを使用するジャンルが話し言葉の雑談や自由対話ではなく、書き言葉のブログであったことから裏付けられる。すでに述べたように、話し言葉か書き言葉かという差よりも扱う内容のフォーマリティが高いものであるのか否か、また、話者間の関係が親しいものであるのか否か、という要因の方がオノマトペの使用量に強く影響していると言えよう。

なお、一般にオノマトペは特殊な言語形態であり、実際の日本語使用においては必ずしも多用されるものではないという立場も存在する。しかしながら、図 10-7 が示すように、

話し言葉においても、書き言葉においても、百万語あたり 2000 語程度、すなわち書き言葉であれ、話し言葉であれ 1000 語あたり 2 語程度はオノマトペが出現している。このことは日本語におけるオノマトペの位置づけを改めて確認できたものと言えるだろう。

10.4.3.2 使用されるオノマトペ

産出モード別に使用されるオノマトペの上位 10 語を調べたところ、以下の結果を得た。

表 10-12 産出モード別に使用されるオノマトペ上位 10 語

書き言葉	調整頻度	話し言葉	調整頻度
しっかり	818.24	きっ	2556.36
ずっ	762.31	ずっ	2170.58
はっきり	642.2	ちゃん	1648.58
きちん	587.34	どんどん	953.27
ちゃん	522.27	だんだん	836.25
ゆっくり	488.71	はっきり	758.64
きっ	428.83	びっくり	601.04
どんどん	388.25	ぱっ	274.41
まだまだ	325.84	ゆっくり	234.92
びっくり	244.6	ざっ	191.18

上表よりわかることは 3 点ある。

1 点目は、上位 10 語のうち、7 語が重なっており、産出モード間で使用されるオノマトペの種別は大きく異ならなかったということである。このことはまた、オノマトペの使用は書き言葉か話し言葉かによって区別されていないことを示している。

2 点目は、上位 10 語の使用頻度に注目すると、話し言葉における使用頻度が書き言葉より高いように思われるということである。すでに 10.3.1 において見てきたように、話し言葉と書き言葉の間に有意な差が確認されなかったことをふまえれば、話し言葉においては一部のオノマトペが繰り返し使用されるということが考えられるのであろう。

3 点目は、それぞれのモードを特徴づけるオノマトペが異なるということである。書き言葉においては「しっかり、きちん、まだまだ」という 3 語が特徴的に多く出現している

のに対して、話し言葉においては「だんだん、ぼっ、ざっ」という 3 語が多く出現している。前者の方はフォーマリティがより高く、後者の方はよりくだけている。本研究の調査により、それぞれの産出モードを特徴づけるオノマトペを抽出することができた。

10.4.4 RQ4 オノマトペの使用量と多様性を決定するモデル

使用量を決定するモデルを探るため、重回帰分析を行ったところ、以下の回帰式を得た。回帰式 1 と回帰式 2 のモデルは共に有意であった ($F=2.64, p<.05$; $F=2.64, p<.05$)。

回帰式 1 [トークン使用量] = $-0.000000157 - 0.00815[\text{年齢}] - 0.302[\text{独話}] + 0.322[\text{私的}]$
(自由度調整済み $r = 0.30$)

回帰式 2 [タイプ使用量] = $-0.0000000633 - 0.00608[\text{年齢}] - 0.0743[\text{独話}] + 0.233[\text{私的}]$
(自由度調整済み $r = 0.19$)

上記の回帰式からわかることは 3 点ある。

1 点目は、トークン使用量の場合でも、タイプ使用量の場合でも、ほとんど同じモデルが得られたということである。トークン使用量であろうが、タイプ使用量であろうが、これらに影響を与えるものは基本的に同じなものであることが明らかになった。

2 点目は、オノマトペのトークン使用量・タイプ使用量の場合ともに、私的な内容について相手と対話的にコミュニケーションを行い、かつ話者の年齢が低い方がオノマトペをより多く使うようになるということである。このことは一般に想像されるとおりの結果であると言えるが、統計分析によって同じ傾向が確認されたことは注目に値する。

3 点目は、説明変数として投入した性別はモデルに採用されなかったということである。このことは、性別はオノマトペの使用量に影響を与えていないことを示唆している。RQ1 では、女性は男性よりオノマトペを多く使用する傾向を確認したが、実際に、様々な発話状況において男女の間にはっきりした差異が存在しないことが明らかになった。

10.5 まとめ

以上では性別や年齢といった話者属性、公的な文脈か私的な文脈かのような産出環境、書き言葉か話し言葉かのような産出モードが、オノマトペの実態 (トークン使用量・タイプ使用量・具体的に使用オノマトペ) にどのように影響しているかを考察し、さらに、オ

ノマトペの使用量を決定するモデルの構築も行った。これまでオノマトペの用例提示などでは使用環境の問題が全く考慮されなかったが、今回の調査により、オノマトペが多く使用される場合には極めて特定の使用環境が存在していることが確認された。それらを生かした用例の提示が今後必要になってくると言えるだろう。

RQ1 では、まず、性別についていえば、女性は男性よりオノマトペのトークン使用量が多いこと、使用するオノマトペのタイプ使用量について、男女の間にはっきりした差異が存在しないことが明らかになった。また、具体的に使用されるオノマトペの種別は大きく異ならなかった。次に年齢についていえば、トークン使用量は10代から20代30代にかけて減少した後、40代から60代にかけて再び上昇するUカーブの傾向が確認された。ただし、タイプ使用量はトークン使用量ほど大きく変動せず、比較的安定しているという傾向も示された。具体的に使用されるオノマトペの種別を比較したところ、10代においては、「ばあっ（と）、があっ（と）」のような擬音語や「そろそろ」「めちゃめちゃ」のような程度を表すくだけた話し言葉が特徴的、20代においては「ばらばら」のような様態や状態を表す語が特徴的、60代においては「すっ（と）」のような動作や変化を表す語が特徴的であるということが明らかになった。

RQ2 では、オノマトペのトークン使用量がジャンルによって大きく異なること、また、内容のフォーマリティの高低と話者間の親しさの高低という2つの軸によってオノマトペのトークン使用量が決定される可能性を明らかにした。また、汎用性の高いオノマトペと特定のジャンルにおいて使用されるオノマトペに分かれるということが明らかになった。

RQ3 では、トークン使用量においても、タイプ使用量においても、書き言葉と話し言葉の間に差がないことが明らかになった。書き言葉には「しっかり、きちん、まだまだ」といったフォーマリティの高い語が多く、話し言葉には「だんだん、ばっ、ざっ」といったくだけた語が多いということが明らかになった。

RQ4 では、オノマトペの使用量・多様性の場合ともに、私的な内容について相手と対話的にコミュニケーションを行い、かつ話者の年齢が低い方がオノマトペをより多く使うようになるということを明らかにした。

以上のような情報は日本語学習者のオノマトペの理解及び正しい産出に役立つものと考えられる。ただし、本研究の分析には大きな制約も含まれている。たとえば、男女の比較といっても、男性の中では若い人が多い。つまり、比較しようとしている要素以外の要素が得られた結果に影響を及ぼしている可能性も存在する。ただし、こうした問題点はお

およそすべてのコーパス分析に当てはまることであり、特に CSJ のようにデータ量が相対的に少ないものを見た場合にはその問題が大きくなる。したがって、本研究で行った研究は試行的な傾向を示すものであり、この点についてはより統制的なデータを新たに作るなどして検証する必要があることを最後に付言しておきたい。

第Ⅲ部 中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導

第 11 章 中国語と日本語オノマトペの対照

11.1 本章の目的と構成

第Ⅱ部ではオノマトペの音韻的・形態的・統語的・意味的・語用論的特性を明らかにしてきた。第Ⅲ部ではこれらをふまえ、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の問題や既存教材の問題点を探り、その改善の方策を提示することを目指す。以下、第 11 章（本章）では、中日両言語におけるオノマトペの比較、第 12 章、13 章では学習者の日本語産出におけるオノマトペ使用の横断・縦断調査、第 14 章ではこれまでの研究で得られた成果を確認しながら、中国人日本語学習者向けのオノマトペ指導で今後開発が期待される教材サンプルのイメージを示す。

本論文のこれまでの章では日本語におけるオノマトペの様々な振る舞いを観察してきたわけであるが、中国人日本語学習者にとっての日本語オノマトペ習得の真の難しさを考える上では、学習者の母語である中国語についても調査を行うことが重要であろう。こうした考え方は決して新しいものではなく、応用言語学の歴史においても、学習者の母語を調査する必要性が古くから指摘されていた。例えば、Lado(1957)によって、学習者の母語 (L1) と学習者が学ぼうとする外国語 (L2) を比較し、その相違点を明らかにすることで学習上の問題を予測できる対照分析仮説が提唱された。これにより、L1 と L2 の言語構造を対照し、母語との相違点を明らかにすることで L2 習得の難易度を予測したり、L2 習得を支援することが可能になると考えられた。オノマトペ学習についても同じことがいえる可能性がある。

この時重要になるのは、1 つのオノマトペが何種類の中国語に訳し分けられているかということである。仮に、1 種類の日本語オノマトペが必ず 1 種類の中国語に訳されていれば、当該オノマトペの学習上の問題は相対的に小さいといえるだろう。一方、1 つの日本語オノマトペが極めて多くの種類の中国語に置き換えられているならば、学習者にとって当該オノマトペの習得の難度がより高いと推定される。そこで、本論文ではオノマトペの習得難度を予測する 1 つの手がかりとして翻訳「枝分かれ率」という指標を独自に考案することとした。たとえば、以下の例を見てみよう。

(1) 杏子は新聞を取り上げて、長野県北安	杏子拿起报纸，把长县北安县郡平村鹿岛这
-----------------------	---------------------

曇郡平村鹿島という場所を <u>しっかり</u> と眼に収めると、少し青い顔で腕時計をのぞいた。	一位置 <u>牢牢</u> 记入脑海，尔后以微微发青的脸色看了看表。
(2)「醉漢奴！ <u>しっかり</u> 歩け！」と罵られたりした。///	“醉鬼！给我 <u>好好地</u> 走！” ///
(3) まあ、お前も家へ行って待っていてくれ、信州土産は <u>しっかり</u> 持って帰るから」	好啦，你先回家去等着，我一定把信州特产 <u>妥帖</u> 地带回去。”
(4) ……しかしもし打明ければ、私の人生の最初の小さな悪も、瓦解するのだという思いは私を引止め、何ものかが私の背を <u>しっかり</u> と引いていた。	……然而，如果向他说了实情，那么我一生中头一次犯下的小小罪恶，也就顷刻瓦解了。想到此，我便犹豫起来，仿佛背上被一种什么东西 <u>紧紧</u> 拖住了。

上記の例では、日本語に4種類の「しっかり」の出現例があり、それらが中国語でそれぞれ異なる4通りの翻訳に置き換えられている。この場合は枝分かれ率が $4/4=1$ のように計算される。次の例を見てみよう。

(5) その位置や関係が、どういうものか、まだ <u>はっきり</u> とは説明できないが、研究次第では、もう一度同じことを繰り返すことも出来るにちがいない。	到底是怎样一种位置和关系呢，现在虽然还不能 <u>清楚地</u> 说明，但只要好好地研究，一定能够再重复一次。
(6)「よくそれだけ覚えているなあ」と言った。「たいていはそんなには <u>はっきり</u> 覚えているもんじゃないんだよ」	“你还记得很 <u>清楚</u> 哩！一般人这些小事是不大记得住的。”
(7) 崖の上から、固唾をのんで見守っている連中を、まるで自分のことのように、 <u>はっきり</u> と感ずることが出来たのだ。	他 <u>分明</u> 感到：他把崖之上咽着唾沫注视自己的家伙们当成了自己。

上記の日本語では3種類の「はっきり」の用例があるが、中国語では「清楚」「分明」しかない。この場合の枝分かれ率は $2/3=0.6$ のように計算される。

このように、枝分かれ率という概念を導入することによって、中国人日本語学習者にとっての日本語オノマトペ習得の困難性のある程度推定することができる。枝分かれ率が高いオノマトペについては中国語での一対一対応の置き換えが利かないことから、より深い

理解が要求される。一方、枝分かれ率が低いオノマトペについては一対一型の暗記で対応できる部分が多いといえるだろう。従来の研究では、こうした概念を取り込んだオノマトペ研究はほとんど行われておらず、この分析は本論文全体における議論に新しい側面に光を当ててものである。

この目的に沿い、本章ではまず、『中日対訳コーパス』を利用する。これは 22 種の小説を集め、それらに対する中国語翻訳を集めたものである。内容上バラエティーが確保されているので、何らかの特定の作品にかかわらず、日本語と中国語という母集団を代表する 1 つの標本として信頼性が高いものと考えられるだろう。なお、枝分かれ率の比較にあたっては一般的に語と語のレベルでの検証が一般的であるが、本論文で一貫して調べてきたように、オノマトペの振る舞いはオノマトペの持つ形態・意味などによって大きく変容しうる。そこで、本論文では以下の分析観点をたてて「枝分かれ率」を計算する。

表 11-1 調査する観点

調査する観点	例
語	そろそろ、どんどん、はっきり、ほっ（と）
形態	ABAB 型、A っ B り、A っ
品詞	副詞、動詞、形容動詞

以上で示した観点別に枝分かれ率を検証することにより、具体的にどの語が枝分かれしやすいかだけでなく、どのような性質を持ったオノマトペが枝分かれしやすいかを計量的に明らかにすることができる。

ただし、以上の分析により、中国人日本語学習者のオノマトペ習得に有用な指針が得られると思われるが、上の調査で得られた結果の解釈には慎重にならなければならない。というのも、先ほど紹介した『中日対訳コーパス』は幅広いタイプの中日テキストを含んでいるという長所を持つが、収録されているテキストの書かれた年代は 1950～1970 と古く、中日両言語とともに言語が激しく変化している中で、必ずしも現代の日本語中国語のオノマトペ使用の実態を反映していない可能性があるからである。この問題を解消するため、現代日本のベストセラー小説である『なみや雑貨店の奇蹟』とその中国語版を組み合わせて『ナミヤコーパス』を独自に構築した。『なみや雑貨店の奇蹟』の作者である東野圭吾氏は 1958 年生まれの現役の作家で、その作品は日本で広く読まれている。全世界での累計

出版部数は 1200 万部を超え、まさに現代日本の代表作家の 1 人であるといえる。これに対し、中国語版は李盈春氏が元の日本語を正確に訳したものとして定評が高く、実際中国国内でも 850 万部売れている。このデータを使って『中日対訳コーパス』から得られた 3 観点の枝分かれ率が再現されるかどうかを検証し、得られた知見の妥当性を確認することとしたい。

合わせて、現代日本語学習者が簡易に利用できるオノマトペの対照用例集は存在しない、そこで、本章では以上の計量的研究を行うのと並行して具体的なオノマトペ翻訳の事例を取り出した用例リストを作成することを合わせて行うこととする。

11.2 リサーチクエスチョン

本章の目的は枝分かれ率を導入することによって日本語オノマトペの中国語への翻訳状況を計量的に調査し、(1) どのような日本語オノマトペが中国語に翻訳しやすく、どのようなオノマトペが翻訳しにくいのか、(2) どのような性質を持った日本語オノマトペが中国語に翻訳しやすく、どのようなオノマトペが翻訳しにくいかを明らかにし、合わせて、現代日本語ベストセラー小説とその中国語訳をコーパス化し、その妥当性を検証したうえで中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導のポイントを探ることである。この目的に沿って、以下の 4 つのリサーチクエスチョンを設定した。

- RQ1 枝分かれ率の高いオノマトペ（語形・語義）にはどのようなものがあるか？
- RQ2 枝分かれ率の高いオノマトペタイプ（形態・品詞）にはどのようなものがあるか？
- RQ3 RQ2 で得られた知見は現代日本語小説にも確認されるか？
- RQ4 日本語オノマトペの中国訳としてどのような実例があるか？

11.3 研究手法

11.3.1 使用するデータ

すでに述べたように、本章では『中日対訳コーパス』と『ナミヤコーパス』をデータとする。

まず、『中日対訳コーパス』について概観する。すでに述べたように、『中日対訳コーパス』には小説、伝記、詩など様々なデータが含まれており、それはこのコーパスの価値ともなっているが、異なるジャンルのデータを合わせてみた場合、得られた結果が歪む危険

性もある。そこで、本論文は『中日対訳コーパス』に含まれる小説データに絞って分析対象とすることにした。以下はその詳細である。

表 11-2 本章で使うデータの内訳

日本語原作（初出年）	作者	中国語訳
あした来る人（1954）	井上靖	情系明天
坊っちゃん（1906）	夏目漱石	哥儿
越前竹人形（1963）	水上勉	越前竹偶
布団（1907）	田山花袋	棉被
雁の寺（1961）	水上勉	雁寺
破戒（1906）	島崎藤村	破戒
鼻（1916）	芥川龍之介	鼻子
金閣寺（1956）	三島由紀夫	金閣寺
こころ（1914）	夏目漱石	心
高野聖（1900）	泉鏡花	高野圣僧
黒い雨（1965）	井伏鱒二	黒雨
野火（1951）	大岡昇平	野火
ノルウェーの森（1987）	村上春樹	挪威的森林
羅生門（1915）	芥川龍之介	罗生门
青春の蹉跎（1968）	石川達三	青春的蹉跎
飼育（1958）	大江健三郎	飼育
死者の奢り（1957）	大江健三郎	死者的奢华
砂の女（1962）	安部公房	砂女
斜陽（1947）	太宰治	斜阳
痴人の愛（1924）	谷崎潤一郎	痴人之爱
友情（1919）	武者小路実篤	友情
雪国（1935）	川端康成	雪国

合わせて使用するのは『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（東野圭吾，2012，角川書店）とその中国語版である《解忧杂货店》（李盈春，2014，南海出版公司）の2冊を手作業で入力し，テ

キスト化することで筆者が構築した『ナミヤコーパス』である。『ナミヤコーパス』に含まれるオノマトペのデータは附表 2 に示す。

11.3.2 分析手順

本章では日本語オノマトペがどのような中国語に置き換えられているかを見るわけであるが、今回は重要オノマトペの枝分かれ率について議論を絞りたい。重要オノマトペの定義については様々な考え方があがるが、ここでは本論文第 5 章で特定した重要オノマトペリストの上位 20 種を対象とする。以下はそのリストの再掲である。

「はっきり、しっかり、ずっ（と）、ゆっくり、きっ（と）、ちゃん（と）、きちん（と）、どンドン、すっきり、たっぷり、そろそろ、じっ（と）、びっくり、ほっ（と）、ぴったり、そっ（と）、すっきり、さっぱり、のんびり、ぼんやり」

RQ1 では、まず、上記の 20 語について、コーパスからすべての用例を抽出する。

あした来る人(原文)	情系明天(訳文)
神谷は最初からはっきりと言った。無表情な物の言い方が冷酷な感じだった。	/// 神谷单刀直入地说道。面孔毫无表情，一副冷酷相。
その棍の語尾のはっきりした低声が、曾根には東京へ来て聞いた一番頼もしい言葉だった。曾根は自分の研究の内容を、この老紳士に説明しておく必要を感じた。	棍那语尾清晰的男低音，是曾根来京后听到的最为叫人心里踏实的话。
杏子のはっきりと目を覚めていた。	/// 杏子一清二楚。
「ちゃんと血統書もついている。氏素姓がはっきりしている」	/// “附有血统证书。什么品种写得很清楚。”

図 11-1 抽出した用例の一部

すでに述べたように、本論文では「枝分かれ率」という新しい指標を導入してオノマトペの習得の困難さを予測する。この「枝分かれ率」が小さければ小さいほどオノマトペの習得は容易になり、値が高ければ高いほど習得は困難になると予測される。以下 3 つのサンプルを示して計算のやり方について説明しておこう。

表 11-3 枝分かれ率の計算方法

オノマトペ	日本語原語	中国語訳語	枝分かれ率
X	Token:10	Type:3	3/10=0.3
Y	Token:10	Type:10	10/20=0.5

Z	Token:30	Type:3	3/30=0.1
---	----------	--------	----------

単語 X の場合は、日本語の中で全 10 回出現したとすると、対応する中国語のタイプとトークンを数える。そのうえで、中国語におけるタイプ数を日本語におけるトークン数で割ることで枝分かれ指数を計算する。

また、以上で 20 種の重要オノマトペについて見てきたわけであるが、ここで注意すべきことは同じオノマトペであっても、語義が変われば対応する中国語も変わってくる可能性があるということである。すでに述べたように先行研究にはこうしたオノマトペの多義性に注目した研究がほとんど存在しない。そこで、単語別だけでなく、語義別の観点も加えて日本語オノマトペの中国語への翻訳状況を調査することにする。従い、本論文が分析対象とする日本語オノマトペ 20 種をそれぞれ語義別に区分して中国語への翻訳状況を観察する。なお、オノマトペの語義区分については様々な立場が考えられるが、本論文では『広辞苑』に従い、以下の語義区分を採用する。

表 11-4 主要オノマトペ 20 種の『広辞苑』における語義記述

はつきり	①物事が確実に明らかであるさま。ものの輪郭が明瞭であるさま。「一断る」「今の若い人は一している」「一と見える」	確実
	②（体調や気分が）さわやかなさま。「頭が一しない」	爽やか
しっかり	①堅固でゆるぎないさま。堅実で信頼できるさま。「一とした土台」「紐を一結ぶ」「考え方が一している」	堅固
ずっと	②気力が充実していたり精神作用が健全であったりするさま。「一しろよ」「気を一持つ」	気力・精神
	③量が多いさま。たくさん。浮世風呂 2「合巻とやら申す草双紙が…つづらに一溜りました」	量が多い
	④十分に、また確実に物事を行うさま。「一食べる」「一と監視する」	確実に
	⑤市場に活気があり、相場が下落しそうにないさま。その程度が低い時は「小確り」という。	活気
	①数量・程度にはなはだしい開きのあるさま。はるかに。段違いに。ずいぶん。浮世床 2「一あとで見る」。「この方が一よい」「一昔」	程度

	②ためらわないさま。さらに進むさま。ずいと。浄瑠璃、心中宵庚申「案内なしに一通り」	ずいと
	③同じ状態が切れ目なく続くさま。時間的にも空間的にもいう。「一立ち通しだ」	時間／空間
ゆっ くり	①動作・運動が時間をかけて行われるさま。急がないさま。「一と歩く」	急がない
	②時間・空間・気持などに余裕があるさま。「五人は一座れる」「どうぞ、ご一」	余裕
	①時間的にきわめて短いさま。急に。すばやく。とっさに。はっと。平家物語9「後を一見ければ、土肥・梶原五十騎ばかりで続いたり」「一思ひいだして」	急に
き つ と	②相手のつけ入る隙がなく、厳しいさま。状態や表情にゆるみのないさま。厳重に。きっぱりと。きりっと。狂言、鍋八撥なべやつばち「一仰せ付けられて下されい」。浄瑠璃、ひらかな盛衰記「手ぬるく致すなど一仰付られた」。「一にらむ」「一はねつける」	厳重に
	③確実に行われることを予測・期待するさま。たしかに。必ず。相違なく。保元物語（金刀比羅本）「軍いくさの習ひ、一見むと思ふとも、見ぬ事もあるべければ」。「一失敗するだろう」「一來てね」	相違なく
ち ゃ ん と	①すばやく。さっと。莫切自根金生木きるなのねからかねのなるき「一留守をつかはつしやるから」	すばやく
	②基準に合致し、条件を十分に満たしているさま。「一歩きなさい」「一した仕事」	基準に合致
	③確かで間違いのないさま。「一払う」「盗むのを一見していた」	間違いなく
き ち ん と	①崩れや乱れがなく整然としているさま。「服装を一する」	整然
	②過不足なく正確なさま。基準に合致しているさま。「金は一払ってある」	正確
ど ん	①太鼓・壁・戸などを勢いよく連続してたたく音。	音
ど ん	②物事が滞らず勢いよく進行したり盛んに行われたりするさま。「一先に歩いて行く」「一燃え広がる」	勢いよく

すっ かり	①残るところなくすべて。ことごとく。「一忘れていた」「一片付けた」	すべて
	②はなはだ。「一きれいになったね」「一時間を食ってしまった」	はなはだ
	③思い切りよくするさま。すっぱり。きっぱり。ずばり。ひとりね 「物もいはず寝まきのままにて、一とねて居る男のわきへいかかり」	思い切りよくする
	④姿態・服装など、見ばえのするさま。すらり。すっきり。きりり。 洒落本、野路の謔言たわごと「先まずおせいが高く一として」	みばえ
	⑤素早く体をかわすさま。浄瑠璃、妹背山婦女庭訓「ひらり早業一素鏝すやり」	かわす
たっ ぷり	満ちあふれるほど十分にあるさま。十分でゆとりのあるさま。「持ち時間は一ある」「一楽しむ」	十分
そろ そろ	①時間をかけて静かに進んだり動いたりするさま。「蝸牛一のぼれ富士の山」(一茶)。「一と歩く」	静かに進む
	②その時が間近に迫っているさま。浮世床初「ドリヤー支度して参りませう」。「一始まる時間だ」	間近
じっ と	①動かず何もしないさま。「一座って待つ」	動かず
	②目を凝らすさま。「一見つめる」	目を凝らす
	③その事だけに神経を集中させているさま。「一こらえる」	神経を集中
	④力をこめるさま。日葡辞書「テニジットニギル」	力をこめる
びっ くり	①(当て字で「吃驚」「喫驚」と書く)不意のできごとに驚くさま。狂言、八幡の前「そばで見てさへ一と致すものが」。「地震に一する」	驚く
	②(普通、下に打消の語を伴った形で)わずかに動くさま。浄瑠璃、曾我会稽山「一とも動かせず、取つて引き締め」。歌舞伎、名歌徳三升玉垣「何万騎でも持て来い。一ともする若衆じやアねへ」	動く
ほっ と	①口をあまり開けずに胸の底から息を1回吐くさま。ため息をつくさま。「一息をもらす」	溜息
	②精神的な緊張が解けて、安心したり心が休まったりするさま。「無事と聞いて一する」	安心

	③もてあまして疲れたさま。浮世風呂4「や、も、独夫ひとりものも一するわい」	疲れる
ぴ っ た り	①接合部に隙間やずれがなく密着しているさま。「戸を一閉める」	密着
	②二つの物事が完全に合致しているさま。「収支が一合う」	合致
	③物事がふさわしかったり的中したりしているさま。「若い人に一本」「天気予報が一当たった」	ふさわしい
	④続いていた状態が急に完全に停止するさま。「タバコを一やめる」	停止
そ っ と	①大きな音を立てたり手荒になったりするのを避けて、静かに行動するさま。「一触れる」	静か
	②他人に知られないように隠れて行動するさま。ひそかに。好色一代男4「一御目にかかりて」。「答えを一教える」	隠れて
	③触れずにそのままにしておくさま。「起こさず一しておく」	そのまま
	④ちょっと。すこし。わずかばかり。狂言、鎌腹「一なりとも痛うない様にせう」	ちょっと
す っ き り	①すっかり。すべて。歌舞伎、助六所縁江戸桜「身代を一助六に入りあげる」	すっかり
	②(下に打消の語を伴って)まるっきり。浮世草子、御前義経記「殊の外くたびれ声一と出ませねば」	まるっきり
	③余計なものがなく気持よく整っているさま。「家具が一と収まる」「話の筋道が一している」	余計なもの なく
	④気分や味わいが爽快であるさま。「頭が一する」「一としたワイン」	爽快
さ っ ぱ り	①汚れや余分なものがなく清潔でさわやかなさま。清らかなさま。狂言、呂蓮「私も一と致いて能い気味でござる」。「風呂に入って一する」	清らか
	②しつこさや嫌みがないさま。あっさりしたさま。「一した気性」「一した食べ物」	あっさりし た
	③あとを残さないさま。きれいさっぱり。狂言、胸突「それならば一と元利ともに其方へおまするぞ」。「一と忘れよう」	残さない
	④まったく。まるで。「一分からない」	まったく

のん びり	気を使うところがなく、心身がのどかに落ち着いているさま。「一 と暮らす」「一した性格」	落ち着く
ぼん やり	①色・輪郭・意識・記憶などが明瞭でなく薄くかすんでいるさま。 「遠景が一かすむ」「一と思い出す」「一して衝突する」	明瞭でない
	②気がきかないさま。利発でないさま。また、その人。「この子は一 だから心配だ」	気が利かな い

以上の語義区分を採用することで、20種の重要オノマトペは全体として58種の語義セットとみなされることになる。

RQ2では、まず、調査対象とする日本語オノマトペを形態別に整理する。オノマトペの形態については様々な形態分類枠組みが提唱されているが、ここでは本論文の第7章で筆者が提案した全100種からなる分類枠組みを採用する。ただし、この中には今回のデータで出現していないものも少なくない。そこで、本データにおける頻度を調査したうえ、上記の全100種のうち、2種類以上のオノマトペで観察される形態に絞って分析の観点とすることとした。

次に、調査対象とする日本語オノマトペを品詞別に整理する。具体的に、2173例について、手作業で品詞タグを付与し、対応する中国語については、NLPIRの品詞タグセットを利用して品詞タグを付与する。

RQ3では、『ナミヤコーパス』を用いてRQ2と同じく形態別に・品詞別調査する。RQ4では、『中日対訳コーパス』に出現するオノマトペの用例とその中国語訳語を手作業で抽出し整理する。

なお、以上RQ1~RQ4を通して中国語の訳語について議論する際には、『白水社中国語辞典』（伊地智善継編著、2002）に基づき日本語訳を加える。

11.4 結果と考察

11.4.1 RQ1 枝分かれ率の高いオノマトペ（語形・語義）

まずは今回分析対象とする20種の重要オノマトペがどのように中国語に置き換えられるのかを観察したところ、以下の結果を得た。

表 11-5 語形に注目した場合の枝分かれ率

順位	オノマトペ	総頻度	訳語種類	枝分かれ率
1	すっきり	6	5	0.83
2	たっぷり	26	20	0.77
3	のんびり	11	8	0.73
4	きちん(と)	89	63	0.71
5	さっぱり	54	34	0.63
6	どンドン	48	29	0.60
7	びったり	32	18	0.56
8	しっかり	85	46	0.54
9	ぼんやり	83	38	0.46
10	ちゃん(と)	165	75	0.45
11	そろそろ	58	25	0.43
12	じっ(と)	208	83	0.40
13	ほっ(と)	43	15	0.35
14	ずっ(と)	263	86	0.33
15	はっきり	200	66	0.33
16	すっかり	170	47	0.28
17	びっくり	78	20	0.26
18	ゆっくり	206	44	0.21
19	きっ(と)	209	42	0.20
20	そっ(と)	100	17	0.17
	平均	106.7	39.05	0.37

上表よりわかることは3点ある。1点目は、理論上日本語オノマトペと中国語訳語間の関係性は一対一、多対一、一対多の3つのパターンが考えられるが、今回調査対象としたオノマトペについていうと、ほとんど一対多の関係であったということである。小説においては日本語オノマトペが様々な中国語に訳されており、翻訳者が日本語の文脈を考慮しながら、オノマトペの持つ異なる語義をふまえ、それぞれ適切な中国語に置き換えたものと考えられる。一般に想像されるようにオノマトペの翻訳に関して一対一の関係性が観察さ

れなかったことは、中日対照の観点からオノマトペを考えるうえで重要な知見であるといえるだろう。

2点目は、高頻度なものは必ずしも難しいものではないということである。すでに述べたように、一般に分岐度のたかいものについては学習者にとって習得が困難で、逆に分岐度の低いものについては習得が容易になると予測される。最も枝分かれ率が高いものは「すっきり」で、その頻度は6のみであったのに対し、最も低い「そっ(と)」の頻度は100であった。両者の間に約17倍近く差が存在する。このことはオノマトペの高頻度性と難易度性が異なる側面を反映している可能性を示す。実際、総頻度と枝分かれ率の相関を計算したところ、両者の相関係数は-0.68であり、負の相関があるといえる。この結果は梶原・山本(2014)の結論と一致し、一般に、高頻度なものは平易なものである。この点において、本論文が提案する枝分かれ率は学習者のオノマトペ学習難易度を予測する妥当性を持つといえる。現代日本語における高頻度性だけでなく、中国人日本語学習者のオノマトペ学習の難易度も加味して指導語彙リストの開発を進めれば、学習者のオノマトペ学習を促進できるだろう。

3点目は、枝分かれ指数の高いものには、主観性の高いものが多く、低いものには主観性の低いものが多いということである。一般に、主観性の高いものについては翻訳者の主観によってとらえるニュアンスが変わり、特定の中国語訳が決まりにくいのが、主観性の低いものについては、より安定していて翻訳者によってぶれる可能性が低いと思われる。

では、個々のオノマトペがどのような中国語に置き換えられているのであろうか。以下では、中国語訳の分岐度の最も高かった「すっきり」を取り出し、その翻訳状況を見てみよう。

表 11-6 「すっきり」の用例とその中国語訳

日本語原文	中国語訳文
(8) お前のそのしなやかな腕はどうだ。その真っ直ぐな、まるで男の子のように <u>すっきり</u> とした脚はどうだ	你那双臂是多么柔软，那男孩般笔直而 <u>修长(細長い)</u> 的双腿是何等漂亮！”
(9) 「ええ、膨れたわ、だんだんお臀が大きくなるわ。けども脚は <u>すっきり</u> して、大根のよ	“嗯，又肥了。屁股是越来越大，不过腿很匀称(鈞合がとれている)，可

うじゃなくってよ」	不是大粗腿啊。”
(10) 芳子は女学生としては身装が派手過ぎた。黄金の指環をはめて、流行を趁った美しい帯をしめて、 <u>すっきり</u> とした立姿は、路傍の目を惹くに十分であった。	芳子作为女学生，打扮得过于时髦。她手戴金戒指，系着时兴的美丽腰带， <u>亭亭玉立</u> （美人がすらりとして美しい）的身姿，特别引起行人的注目。
(11) 何しろちょっと女好きのする顔だちで、 <u>すっきり</u> とした、役者のような所があって、ダンス仲間で「色魔の西洋人」と云う噂があったばかりでなく、ナオミ自身も、「あの西洋人は横顔がいいわね、何処かジョン・バリに似てるじゃないの」	他有着一副略显好色的面孔，表露出一種演员的 <u>瀟洒风度</u> （さっぱりした風格），因此不但在舞友们之间有“色鬼洋人”之称，就连纳奥米本人也说：“那个洋人的侧脸多美，有些象约翰·巴利呢。”
(12) 「でもそれでとにかく <u>すっきり</u> したんだろう？仕返しして？」	“不过这回心里总算 <u>痛快</u> （愉快である，胸がすつとする）了吧，报复完后？”
(13) それよりは独りきりで自祝の盃をあげる方が、 <u>すっきり</u> として気持ちがよかった。今はもはや大学の仲間たちとの間に、社会人としての資格において格段の差ができていた。	虽然他也想请同学喝杯酒，听听他们说些祝贺自己的话，但就是不听他们说，自己也能猜到一大半，没有多大意思，还不如独酌来得 <u>清静</u> （静かである）。

上記は『中日対訳コーパス』に出現する「すっきり」のすべての用例とその中国語訳であるが、上記の用例に示されるように、6つ日本語用例に対して、その中国語訳がすべて異なっている。

上記の6つの日本語オノマトペの用例のうち、(8) (9) (10) は体や脚に関する描写で、(11) は主人公が人に与える印象に関する描写で、(12) (13) は気持ちに関する描写である。翻訳者は「すっきり」の文脈における異なる語義を考慮しながら、中国語に訳し分けられていることが見受けられる。しかしながら、同じ語義に対しても、翻訳者によってとらえるニュアンスが異なる傾向もある。たとえば、(8) と (9) は同じ脚の描写であるが、(8) は「細長い（修长）」、(9) は「釣合がとれている（匀称）」のようにそれぞれ異なる中国語に置き換えられている。前者の重心は「細長い」という足の形にあり、後者は全体のバランスの方にある。2つともに、日本語「すっきり」が含意する「余計な脂肪がない」とい

うニュアンスを正確に表していないと思われる。これに対して (10) の用例は「亭亭玉立 (美人がすらりとして美しい)」と翻訳され、「細い体つきで洗練された服装を着て上品な歩き方をしている女性」を十分に表している。用例 (11) の日本語では「顔に無駄な脂肪がついていない様子」を含意するが、その中国語訳では、「さっぱりした風格」に置き換わっている。前者は客観的な様態描写であるのに対し、後者はその様子に現れる品格や人に与えるイメージである。(12) (13) はとも気持ちを表しているが、(12) の中国語訳は仕返しした後の晴れやかな気持ちを十分表しており、(13) の中国語訳は独りきりで自祝の盃をあげるときの静かな環境での気持ちよさを表している。日本語原文と中国語訳間のずれ幅がより小さい。上記の 6 つの用例を見たわけであるが、様態描写の日本語オノマトペに関しては中国語直訳でその細かなニュアンスを十分に表せない可能性と、感情描写の日本語オノマトペに関しては中国語での対応がより簡単なことが明らかになった。

次に、語義別の観点も加えて日本語オノマトペの中国語への翻訳状況を調査したところ、以下の結果を得た。

表 11-7 語義に注目した場合の枝分かれ率

順位	オノマトペ (語義)	総頻度	訳語種類	枝分かれ率
1	きつと(嚴重に)	2	2	1.00
1	すっきり(余計なものなく)	4	4	1.00
1	さっぱり(清らか)	2	2	1.00
2	ぴったり(合致)	13	12	0.92
3	ずっと(ずっと)	9	8	0.89
4	のんびり(落ち着く)	11	9	0.82
5	たっぷり(十分)	26	21	0.81
6	ちゃんと(基準に合致)	20	16	0.80
7	しっかり(気力・精神)	9	7	0.78
7	ずっと(空間)	9	7	0.78
8	きちんと(正確)	79	60	0.76
9	さっぱり(あっさりした)	15	11	0.73
10	じつと(神経を集中)	18	13	0.72

11	さっぱり(残さない)	6	4	0.67
12	そろそろ(静かに進む)	16	10	0.63
13	しっかり(確実に)	18	11	0.61
13	どンドン(勢いよく)	46	28	0.61
14	そっと(そのまま)	5	3	0.60
15	さっぱり(まったく)	31	18	0.58
16	しっかり(堅固)	58	31	0.53
17	きちんと(整然)	10	5	0.50
17	ほっと(溜息)	8	4	0.50
17	どンドン(音)	2	1	0.50
17	すっきり(爽快)	2	1	0.50
18	じっと(動かず)	96	47	0.49
19	ぼんやり(明瞭でない)	82	38	0.46
20	そろそろ(間近)	42	18	0.43
20	ちゃんと(間違いなく)	145	62	0.43
21	ほっと(安心)	35	13	0.37
22	じっと(目を凝らす)	94	33	0.35
23	ずっと(時間)	146	50	0.34
23	はっきり(確実)	197	66	0.34
24	すっきり(はなはだ)	27	9	0.33
25	ずっと(比較)	99	31	0.31
25	ゆっくり(余裕)	64	20	0.31
26	ぴったり(密着)	17	5	0.29
26	すっきり(すべて)	143	41	0.29
27	そっと(静か)	44	12	0.27
27	びっくり(驚く)	78	21	0.27
28	ゆっくり(急がない)	142	28	0.20
29	きっと(相違なく)	206	40	0.19
30	そっと(隠れて)	51	5	0.10

上表よりわかることは3店ある。1点目は、語義の影響が大きいということである。「きつと」の「嚴重に」という意味は第1位となっているが、「きつと」の「相違なく」は第29位であり、両者の差は非常に大きい。また、最も低い「そつと」の場合も「隠れて行動するさま（隠れて）」は「触れずにそのままにしておくさま（そのまま）」より翻訳しやすく、このように語義によって翻訳の状況が変わってくる。先行研究はほとんどオノマトペの多義性に注目しなかったが、今回の調査により、語義別に調査する必要性が示された。

2点目は、日本語オノマトペの持つ様々な語義の中で、低頻度語義の方は枝分かれ率が高く、高頻度語義の方は枝分かれ率が低い傾向があるということである。すでに語という単位で見えてきたように、低頻度語は枝分かれ率が高く、高頻度語は枝分かれ率が低いという傾向がある。同じことは、語義別の傾向にも当てはまる。実際、総頻度と枝分かれ率の相関は-0.61であり、負の相関が認められた。このように、語単位での語の難易度だけでなく、語義の難易度を測るという試みの妥当性も示された。

3点目は、具象的・客観的語義より抽象的・主観的な語義の方は枝分かれ率が高い傾向があるということである。たとえば、「きつと（嚴重に）」の具体的な用例を見てみよう。

表 11-8 「きつ（と）」の用例

日本語原文	中国語訳文
(14) おれは外の言葉には耳を傾けなかったが、バツと云う野だの語を聞いた時は、思わず <u>きつと</u> なった。野だは何の為かバツと云う言葉だけことさら力を入れて、明瞭におれの耳に這入る様にして、そのあとをわざとぼかしてしまった。おれは動かないでやはり聞いていた。	别的话我没有听清，小丑一提蚂蚱，我不由一怔（ <u>ぼかんとする</u> ），不知小丑为何将“蚂蚱”二字着力说出，清清楚楚送进我的耳朵，又故意把后面的话说得含混不清，我一动不动地听着。
(15) そのときのことをまさか忘れてはいまい。玉枝は、忠平の顔を <u>きつと</u> にらみすえるようにみて、+++「ここでは、どうしてもいえしまへんのどす。あんたはん、今晚はおひまをお	当时发生的事情怎么能忘得了！玉枝两眼 <u>直盯</u> （ <u>じつと睨む</u> ）着忠平的臉，問道：+++ “这里不方便，实在没法说。不知您今晚什么时候可以有空？”

もらいやすのんは、何時ごろになりまっしゃろ」+++ ときいた。	
(16) 余り気の毒だから「行く事は行くがじき帰る。来年の夏休には <u>きっと</u> 帰る」と慰めてやった。	///我有些过意不去，安慰她：“去了不久还要回来的，明年暑假我肯定 <u>（間違いなく）</u> 回来。”
(17) 「あなた、二階では、これよ」と針で着物を縫う真似をして、小声で、「 <u>きっと</u> ……上げるんでしょう。	妻子模仿用针缝制衣服的样子，小声说，“肯定 <u>（間違いなく）</u> 是……送给他的吧。

上表のうち(14)(15)は「状態や表情にゆるみのないさま(厳重に)」という意味で用いられており、(16)(17)は「確実に行われることを予測・期待するさま(間違いなく)」という意味で用いられている。前者の語義に対して2つの中国語訳は異なっているが、後者の語義に対して中国語訳は同じである。2つの語義を比較すると、「確実に行われることを予測・期待するさま(間違いなく)」の方がより具象的であるため、その中国語訳も比較的安定している。しかしながら、「状態や表情にゆるみのないさま(厳重に)」に関して、文脈によって対応する中国語が異なる傾向がある。たとえば、(14)の用例において、「きつとなった」は本来「急に厳しい表情になる」という意味を含意するが、それが中国語で表わすと表情の内面とつながっている感情に翻訳された。ここで問題になるのは、表情が表わす内面的な感情は必ずしも1つではなく、翻訳者によってとらえるニュアンスが異なる可能性がある。同じ意味で用いられる用例(15)においては、「きつとにらみすえる」が「直町(じつと睨む)」に翻訳されおり、この中国語訳は日本語の動作を訳しているが、「きつと」のような表情を十分に訳せていない。このことから、具象的な語義より抽象的な語義がより翻訳しにくいことが示された。

11.4.2 RQ2 枝分かれ率の高いオノマトペタイプ(形態・品詞)

11.4.2.1 形態別

形態別に枝分かれ率を計算したところ、以下の図を得た。

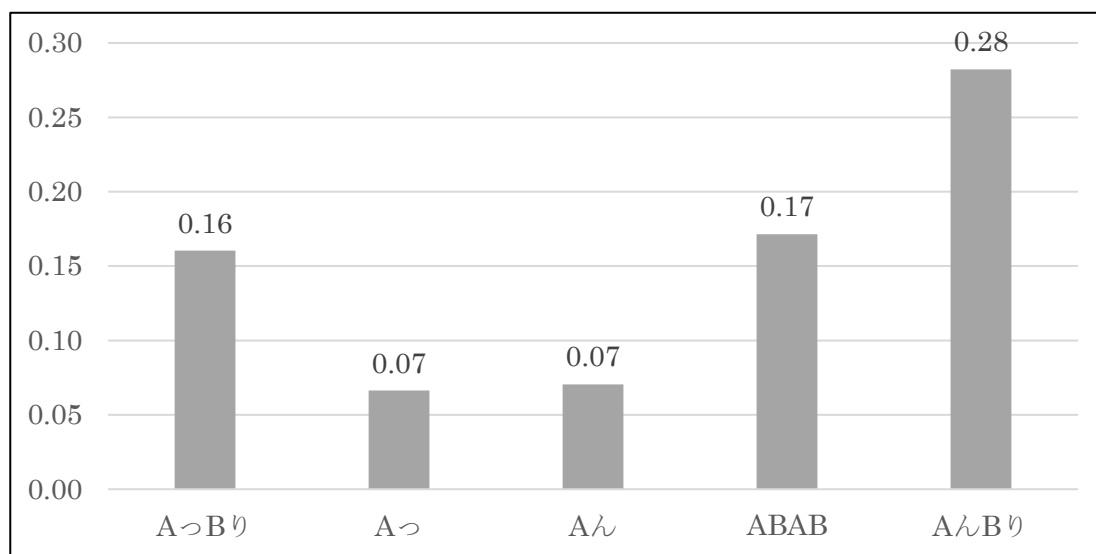


図 11-2 形態別枝分かれ率

上図に明らかなように、日本語オノマトペの中で、枝分かれ率の多い順から見れば「AんBり」>「ABAB」>「AっBり」>「Aん」＝「Aっ」の関係性が確認された。すでに述べたように、枝分かれ率の高いものは学習者にとって理解が難しいもので、逆に低いものはその中国語訳語の種類が少なく、学習者にとって理解が容易なものである。このことをふまえれば、現代日本語においては、「AんBり」や「ABAB」型のオノマトペが中国語に翻訳されるとそれらは様々な中国語形態のものに変わり、学習者にとって当該日本語オノマトペを理解することが難しくなると予想される。本論文の第7章では、現代日本語におけるオノマトペ形態の使用頻度の順位が「AっBり」>「Aっ」>「ABAB」>「Aん」>「AんBり」であることを明らかにした。2つの順位を比較すれば、やはり使用頻度の高いものは難易度が低くなる傾向が確認される。また、これらがどのような形態の中国語に置き換えられているかを確認したところ以下の表を得た。網掛けは、当該の日本語オノマトペ形態にのみ出現していることを示す。

表 11-9 日本語の各形態を置き換える中国語の形態の上位5種

日本語の形態	中国語の形態	頻度
AっBり	AB	136
	四字熟語	20

	AABB	10
	ABC	9
	全面否定	9
	AB	152
	得 adj	54
A っ	ABC	20
	A	14
	四字熟語	9
	AB	46
	四字熟語	18
A ん	AA	15
	A	15
	AABB	14
	AB	16
	AA	4
ABAB	四字熟語	4
	一+助数詞	4
	フレーズ	4
	AA	16
	ABB	7
A ん B り	AB	4
	四字熟語	3
	AABB	2

上表よりわかることは3点ある。1点目は、中国語訳語形態には、「AB」型が圧倒的に多く、上記の5タイプの日本語オノマトペのどのタイプにも対応できるということである。ただし、中国語にはAB型の語が非常に多く、これらは形態上特殊な語形とは言いにくい。日本語オノマトペは他の語彙とは異なる特有の形態特性を持つのに対し、それらが中国語に翻訳される場合、ほとんど形態上の際立ち度がなくなるということが示された。たとえば、「はっきり」が「清楚」、「ずっと」とが「一直」、「きちんと」とが「整齐」、「そろそ

る」が「缓慢」,「のんびり」が「轻松」のように置き換えられている。

2 点目は、数においては多くないものの、中国語訳語形態には「AA」「AABB」「ABB」といった畳語のものや「四字熟語」といった4文字で豊富な意味が含意されるものもあるということである。この傾向は専門家がオノマトペを翻訳する際の工夫と言えるだろう。少し気の利いた中国語表現を使うことで日本語オノマトペの持つ特殊なニュアンスを伝えようとしていると思われる。たとえば、「しっかり」が「牢牢」,「じっ(と)」が「目不转睛」,「ちゃん(と)」が「清清楚楚」,「ぼんやり」が「呆愣愣」のように置き換えられている。

3 点目はそれぞれの日本語オノマトペ形態に対応する中国語訳語の形態が異なる傾向を持つということである。すでに網掛けが示したように、「AっBり」型は全面否定,「Aっ」型は「得adj」,「AABB」型は「一+助数詞」「フレーズ」,「AんBり」型は「ABB」に特徴づけられる。厳密に言えば、これらの中には語というよりは文法形式と呼ぶべきものも含まれているが、異なる日本語のオノマトペ形態がこれらの語彙ないし文法項目によって特徴づけられたことは、重要な発見といえる。ただし、「Aん」型については当該形態のみで使用されている中国語形態は認められた。

11.4.2.1 品詞

次に品詞別に枝分かれ率を確認したところ以下の図を得た。

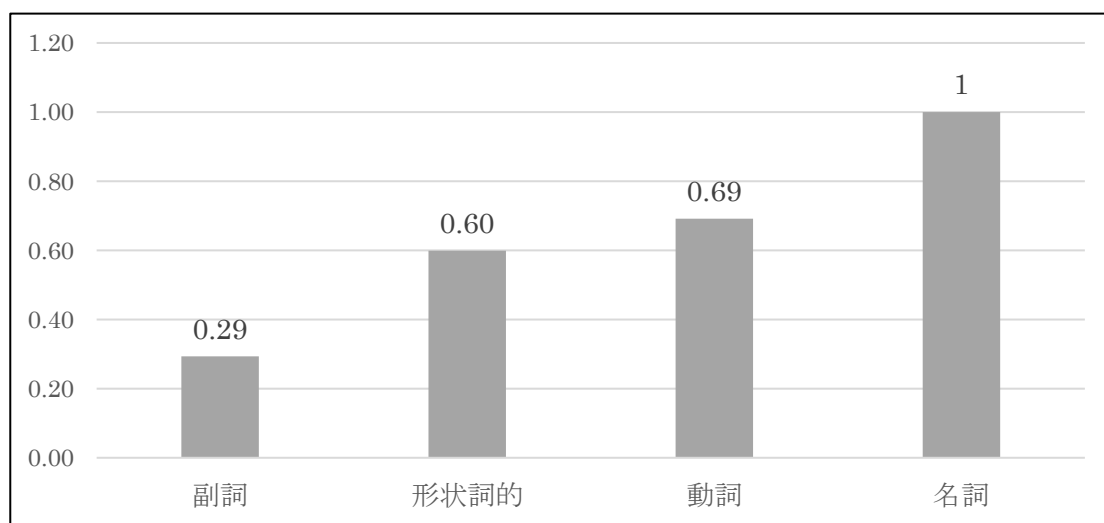


図 11-3 品詞別枝分かれ率

全体の傾向として、枝分かれ率の高い順から見れば、名詞>動詞>形状詞的>副詞の関係性が認められた。すなわち、名詞や動詞は多種多様な品詞の中国語に翻訳され、副詞はより決まった品詞の中国語に翻訳される傾向が示された。これらが具体的にどのような品詞の中国語に翻訳されているかを確認したところ、以下の表を得た。

表 11-10 主要品詞

日本語原語の品詞	中国語訳語の品詞	頻度
副詞	形容詞	81
	副詞	27
	状態詞	20
	動詞	18
	動詞性慣用句	17
形状詞的	形容詞	18
	動詞性慣用句	5
	副詞	3
	状態詞	3
動詞	慣用句	3
	形容詞	13
	動詞	13
	動詞性慣用句	10
	副詞	6
名詞	状態詞	5
	形容詞	2
	動詞性慣用句	1

上表よりわかることは3点ある。1点目は、日本語オノマトペのどの品詞においても中国語の形容詞が1位となっているということである。すなわち、どの品詞機能を持つ日本語オノマトペであっても、それらは中国語の形容詞に置き換えられやすいことになる。たとえば以下の用例を見てみよう。

(18)〔副詞〕その言葉のうらには、老の意識がはっきりわかったが、慈海が、気短かになり、怒りっぽくなっていることに本人は気づいていなかった。

〔形容詞〕慈海说。那话里头，说明清楚地意识到自己已经老了，但没有意识到自己变得好急燥和容易动怒。

(19)〔動詞〕「でもそれでとにかくすっきりしたんだらう?仕返しして?」

〔形容詞〕“不过这回心里总算痛快了吧，报复完后?”

(20)〔形状詞的〕その代りすっかり色褪せて、霧か何かのようにぼんやりした輪郭をとどめているにすぎなかった。

〔形容詞〕可是颜色完全褪了，就象雾一样，只剩下模糊的轮廓。

(21)〔名詞〕「そう、それは好いですよ。本当に芳子さんはああいうしっかり者だから、私みたいな無教育のものでは……」

〔形容詞〕“是吗，那太好了。老实说，芳子是那么个好姑娘，象我这种没有受过教育的人……”

上記の用例(18)に示されるように、日本語原文における「はっきり」と、中国語訳語における「清楚」はともに連用修飾語として用いられている。用例(19)に示されるように、日本語原文における「すっきり」と、中国語訳語における「痛快」はともに述語として用いられている。用例(20)に示されるように、日本語原文における「ぼんやり」と、中国語訳語における「模糊」はともに連体修飾語として用いられている。用例(21)に示されるように、日本語原文における「しっかり」と、中国語訳語における「好」はともに連体修飾語として用いられている。すなわち、原語と訳語の品詞が異なるが、文構造での機能においては2つの単語が同じ役割を果たしているといえる。

2点目は、1位である「形容詞」を除けば、日本語副詞は中国語の副詞、日本語動詞は動詞、形状詞的・名詞は動詞慣用句に置き換えられているということである。たとえば、以下の用例を見てみよう。

(22)〔副詞〕日本は貧弱すぎます。私達は出来るだけの力をもって、日本の文明を高め、思想を高め、世界的の仕事をどンドンしてゆくようにしなければ、日本人は世界的存在の価値を失います。

〔副詞〕日本是那样的贫弱，我们若是不以自己的全部力量提高日本的文化和思想，不断地去做世界性的工作，那么日本人就失去了在世界上存在的价值。

(23)〔動詞〕そう思うと喜びがわいたのであろう。心なしほっとする気持ちになった。すると、忠平は玉枝の軀を抱きよせ、片手で竹の皮をめくるように立縞の丹前の裾をまくりあげていた。

〔動詞〕玉枝这么一思量，喜从心来，感到定心不少。忠平便搂紧玉枝的身体，一只手像剥竹皮似的掀起竖条纹的便袍底襟。

(24)〔形状詞的〕曾根はさっぱりした気分で前の応接間へ戻った。暫くすると、梶夫人がはいって来た。

〔動詞慣用句〕曾根容光焕发地返回刚才的客厅。片刻，梶夫人进来。

(25)〔名詞〕「どうして、君、あの女はなかなかしっかりものだぜ」+++と銀之助は添加して言った。

〔動詞慣用句〕“你知道，她是多么坚定不移啊！”银之助补充说。

上記の用例のうち(22)(23)を見てみると、元の日本語オノマトペの品詞が保たれ、中国人日本語学習者にとって、該当用法は比較的理解しやすいものであろう。(24)(25)はともに「動詞慣用句」に置き換えられたものであるが、いずれも四字熟語である。

3点目は、中国語訳語には日本語擬態語に相当する中国語状態詞が多いということである。中国語には日本語擬音語・擬声語に相当する擬声詞が存在し、これらを中国語オノマトペと呼ぶことについて一般に異議がない。ところが、日本語擬態語や擬情語に相当する中国語オノマトペについては、まだ判断基準が示されておらず、中国語擬態語の実態が明らかにされていないところが多い。にもかかわらず、この中で一般に共通して中国語オノマトペとみなされるのは「状態詞」である。上表に示されるように、5種類の日本語オノマトペのうち、4種類は中国語の「状態詞」に置き換え可能なことが確認された。たとえば、以下の用例を見てみよう。

(27)〔副詞〕彼は机にむかってゆっくりと煙草を一本喫み終ると、ペンを取った。

〔状態詞〕曾根没有食欲，慢悠悠地吸完一支烟，拿起钢笔。

(28)〔形状詞的〕ちゃんとした学者でありながら、その心づかいが真に涙ぐましい。

〔状態詞〕堂堂一个学者，却为此花尽了心血，真叫人感动得落泪。

(29)〔動詞〕彼女たちは同席の相手が僕だったことにちょっとほっとしたみたいだった。

〔状態詞〕她们见相对而坐的人是我，现出一副释然的神情。

上記の用例に示されるように、中国語の状態詞には「ABB」型、AA型といった疊語や「～然」のものが多い。いずれも日本語オノマトペと同様特殊な形態を持つものである。

11.4.3 RQ3『ナミヤコーパス』を用いた検証

以上では北京日本学研究中心が開発した『中日対訳コーパス』で日本語オノマトペを中国語に置き換える際の全体の翻訳状況を観察したが、すでに述べたように、『中日対訳コーパス』に収録されているテキストの書かれた年代は古く、現代の日本語・中国語のオノマトペ使用の実態を反映していない可能性がある。そこで、以下では現代日本語で書かれた『ナミヤコーパス』を用いて『中日対訳コーパス』から得られた知見を再検証し、得られた知見の妥当性を確認することとする。

11.4.3.1 形態

『ナミヤコーパス』をデータとして RQ2 と同じ調査を行ったところ、以下の結果を得た。

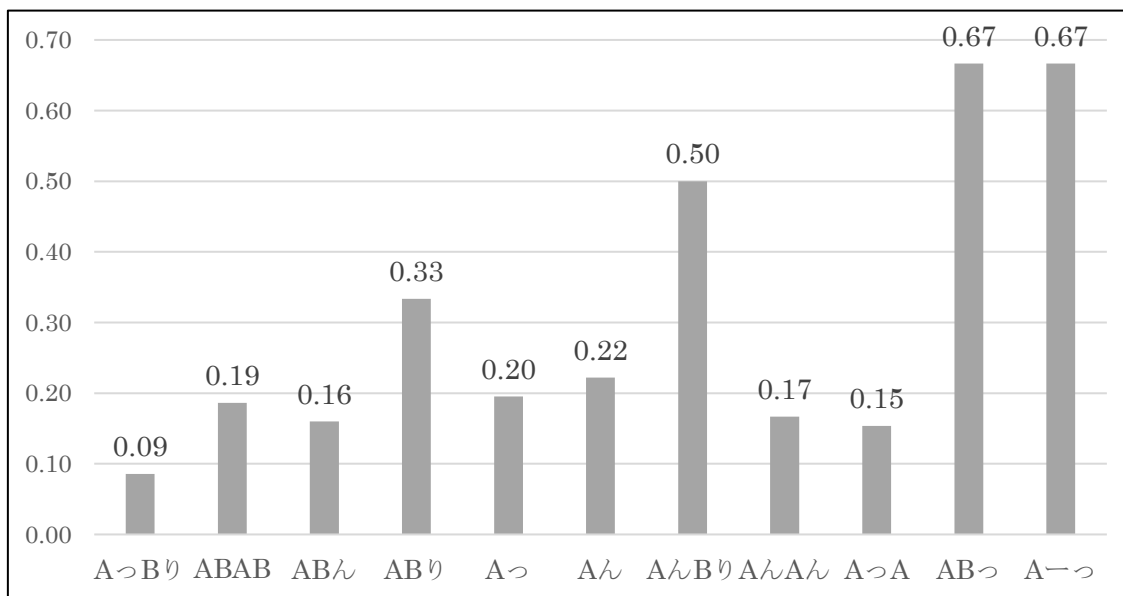


図 11-4 形態別枝分かれ率

『ナミヤコーパス』に基づき調査を行ったところ、得られた順位は「AんBり」>「Aん」>「Aっ」>「ABAB」であった。この結果は『中日対訳コーパス』で得られた「AんBり」>「ABAB」>「AっBり」>「Aん」=「Aっ」の順番とは大体のところ一致する。唯一変わったのが「ABAB」である。この違いは、『中日対訳コーパス』調査では、対象とした上位20語のうち、「ABAB」型のオノマトペは全体として少なかったことによるものであると思われる。また、異なる形態の日本語オノマトペがそれぞれどのような形態の中国語に置き換えられているかを再検証したところ、以下の結果を得た。

表 11-11 日本語オノマトペ形態とその中国語訳語の形態

日本語	中国語	頻度
AっBり	AB	45
	AA	34
	四字熟語	7
	A	4
	フレーズ	4
Aっ, ABっ	AB	21
	A	7
	AA	7
	四字熟語	4
	一+助数詞	2
Aん, ABん	A	15
	AB	10
	AA	8
	四字熟語	4
	フレーズ	2
ABAB, AんAん	AB	20
	AA	13
	A	6

	フレーズ	4
	四字熟語	4
	AB	5
	フレーズ	2
AんBり	ABB	1
	A然	1
	AABB	1

上表に示されるように、RQ2 で得られた知見のうち、(1)「AB」型の中国語が多いこと、(2) 豊語のものや四字熟語が多いこと、(3)「AんBり」型は「ABB」型によって特徴づけられることが確認された。異なるデータを用いて検証することにより、これらの知見の妥当性が示された。ただし、「Aっ」型は「得 adj」や「AABB」型は「一+助数詞」に特徴づけられるということは確認されなかった。この違いは、『中日対訳コーパス』調査で使用了 20 種のデータの形態分布が異なることに起因する。実際「得 adj」用法が確認できたのは「ずっと」とのみである。このように、再現されなかった知見はある特定のオノマトペによって全体の傾向が歪められたものであるという可能性が示された。

11.4.3.2 品詞

『ナミヤコーパス』を用いて調査を行ったところ、以下の結果を得た。

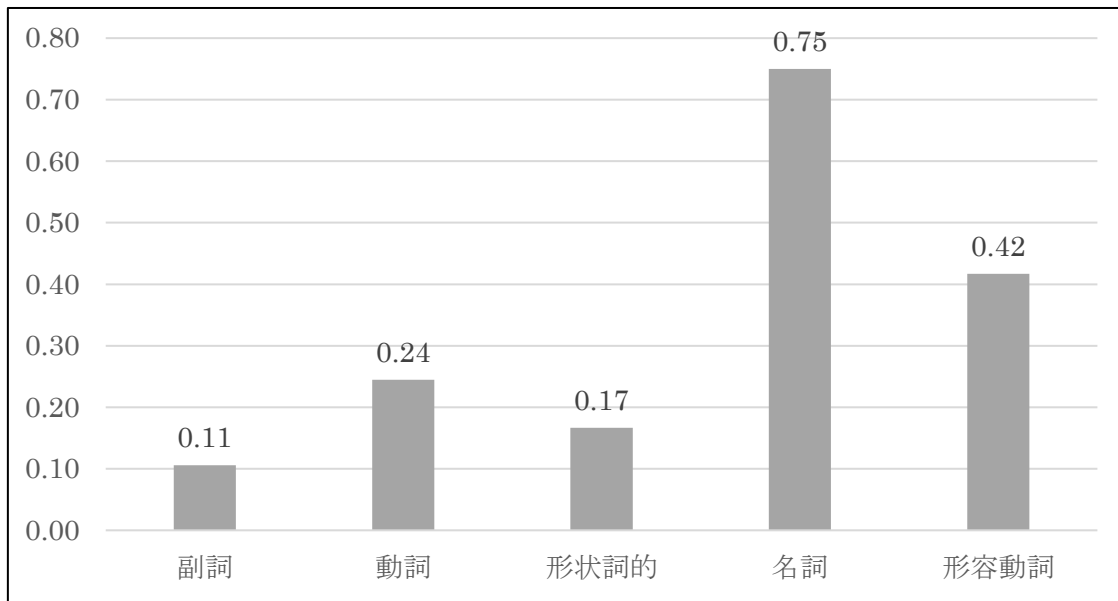


図 11-5 品詞別枝分かれ率

上図に示されるように『ナミヤコーパス』で得られた順位は名詞>動詞>形状詞的>副詞であった。この結果は『中日対訳コーパス』で得られた順番と完全に一致する。また、異なる品詞機能を持つ日本語オノマトペがそれぞれどのような品詞の中国語に置き換えられているのかを再検証したところ、以下の表を得た。

表 11-12 日本語オノマトペ品詞とその中国語訳語の品詞

日本語	中国語	頻度
副詞	副詞	57
	動詞	43
	形容詞	41
	擬声詞	21
	状態詞	12
形状詞的	形容詞	8
	副詞	1
	動詞	1
動詞	形容詞	20

	動詞	8
	動詞慣用句	6
	状態詞	3
	擬声詞	3
名詞	動詞	2
	副詞	1

再検証したところ、日本語の副詞は中国語の副詞、日本語の形状詞的用法は中国語の形容詞、日本語の動詞は中国語の動詞に置き換え可能なことが支持された。ただし、形容詞が最も汎用的高頻度なものでなくなったのに対し、擬声詞の使用が多くなっている。この違いは『ナミヤコーパス』には擬音語の使用がより多くなっていることによると思われる。

11.4.4 RQ4 日本語オノマトペの中国訳の実例

現代日本語における重要オノマトペの上位 20 種は小説において具体的にどのように翻訳されているかを整理したところ、以下の表を得た。

表 11-13 具体的な中国語訳語

オノマトペ	中国語訳（上位 3 語）
はっきり	清楚 (59, はっきりしている), 清晰 (16, はっきりしている), 明确 (11, はっきりさせる)
しっかり	紧紧 (16, ぴったりしている), 牢牢 (5, しっかりして壊れない), 死死 (3, しっかりと)
ずっと	一直 (66, ずっと), 得 adj (53, 変化程度を表す), 永远 (8, 永遠に)
ゆっくり	慢慢 (80, ゆっくりと), 缓缓 (22, ゆっくりしている), 好好 (18, ちゃんと…する)
きっと	一定 (88, きっと), 肯定 (49, 確実である), 准是 (5, きっと)
ちゃんと	好 (9, ちゃんと…する), 清清楚楚 (7, はっきりしている), 好好 (6, ちゃんと…する)
きちんと	整齐 (4, きちんとしている), 好好 (3, きちんと…する), 工整 (2, きち

	んとしている)
どンドン	不断 (5, 絶えず), 一个劲儿 (2, 一向), 急剧 (2, 急激である)
すっかり	完全 (58, すっかり), 全 (11, すっかり), 已经 (10, 既に)
たっぷり	绰绰有余 (2, 余裕しゃくしゃくである), 丰满 (2, ふっくらしている), 足够 (2, 十分である)
そろそろ	慢慢 (7, ゆっくりと), 差不多 (5, ほぼ), 该 (5, …する必要がある)
じっと	一动不动 (22, じっとする), 目不转睛 (15, じっと見つめる), 一直 (11, ずっと)
びっくり	吃惊 (38, びっくりする), 吓一跳 (8, びっくりする), 愕然 (4, びっくりする)
ほっと	松口气 (9, ほっとする), 放心 (7, 安心する), 舒口气 (4, ほっとする)
ぴったり	紧紧 (9, ぴったりしている), 紧贴 (3, ぴったりしている), 合身 (2, 衣服がぴったり体に合う)
そっと	悄悄 (37, こっそりと), 轻轻 (22, 静かである), 偷偷 (8, こっそり)
すっきり	亭亭玉立 (1, すらりとして美しい), 痛快 (1, 愉快である)
さっぱり	根本 (4, まるっきり), 全然 (3, すっかり), 开朗 (3, 明るい)
のんびり	轻松 (3, のんびりとやる), 怡然自得 (1, 怡々たる), 自由自在 (1, 自由自在だ)
ぼんやり	呆呆 (15, ぼんやりする), 茫然 (8, 我を忘れてぼんやりする), 茫然若失 (4, ぼんやりする)

上表について3点を指摘したい。1点目は今回得られたデータが日本語学的に重要であるのみならず、日本語教育学的にも極めて重要であるということである。中国人日本語学習者はこうしたデータを見ることで、日本語オノマトペの曖昧な意味をより具体的に理解することができるだろう。2点目は、中国人日本語学習者にとって想定できない訳語が存在するという点である。たとえば、「ずっと」の訳語の中に「得 adj(変化程度を表す)」というのが含まれるが、一般の中国人日本語学習者にとって「ずっと」と「得 adj」が等しい意味を持つとは思われない。こうした点について明らかにできるのもこの表の価値であろう。すなわち、このような表は中国人日本語学習者が日本語のオノマトペの振る舞いを

より多角的に理解するうえで極めて重要な手掛かりを与えてくれるものと思われる。

3点目は、上記で60種の訳語を調査したわけであるが、その中には、中国語の辞書的定義において元の日本語の意味を含まないものが相当数存在するということである。たとえば、「しっかり」の訳語として最も多い「緊緊」の訳語は「ぴったりしている」という意味であり、いわゆる日本語の「しっかり」という訳語を持たない。同様の方法で検証を行ったところ、60種のうち25語(42%)が該当する日本語の意味を持たない語であった。これらの語については中国語と日本語のずれがより重要であるといえるだろう。

11.5 まとめ

以上で、『中日対訳コーパス』及び『ナミヤコーパス』をデータとして、小説にみられる日本語オノマトペがどのような中国語に翻訳されているかを検証してきた。

RQ1では、まず、高頻度オノマトペ20語の各々が何種類の中国語に訳し分けているかという枝分かれ率を調査した。「すっきり」>「たっぷり」>「のんびり」という順位が示され、主観性の高いものは枝分かれ率が高く、客観性の高いものは枝分かれ率が低いという結果が示された。次に、高頻度オノマトペ20種の語義別枝分かれ率を調査したところ、「きっと(嚴重に)」>「すっきり(余計なものなく)」>「さっぱり(きよらか)」という順位が得られ、具象的・客観的語義より抽象的・主観的語義の方は枝分かれ率が高くなるという傾向が示された。

RQ2では、形態別・品詞別の中日対応関係を見た。日本語オノマトペ形態に注目すれば、その枝分かれ率の順位は「AんBり」>「ABAB」>「AっBり」>「Aん」=「Aっ」となっており、それらは、中国語の「AB」型の語や「AA」「AABB」といった畳語や「四字熟語」に翻訳される傾向があるということが明らかになった。次に、日本語オノマトペの品詞に注目すれば、その枝分かれ率の順位は名詞>動詞>形状詞的>副詞となっており、それらは中国語の形容詞、副詞、動詞に置き換えられる傾向が示された。

RQ3では、『ナミヤコーパス』を用いてRQ2で得られた知見は再現されるかどうかという検証を行ったところ、大部分再現されることがわかった。また、(1)「AB」型の中国語が多いこと、(2)畳語のものや四字熟語が多いこと、(3)「AんBり」型は「ABB」型によって特徴づけられることが示された。次に、日本語の副詞は中国語の副詞、日本語の形状詞的用法は中国語の形容詞、日本語の動詞は中国語の動詞に置き換え可能なことが示された。ただし、それぞれが具体的にどのような中国語に置き換えられているのかを比較す

ると、ずれが見受けられるということも明らかになった。

RQ4 では、現代日本語における重要オノマトペ上位 20 種の中国語訳の上位 3 種、合計 60 種を抽出した。さらに、その中国語訳語は該当日本語オノマトペを含意しているかどうかを中日辞書で検証を行ったところ、その 60 種のうち、辞書の語義記述で当該オノマトペが含まれているものは 35 語 (58%) しかなかったということが明らかになった。

本章は中日対照を行うことで、日本語オノマトペ学習を促進するための教授ポイントを検討してきた。こうした知見は日本語教育現場にとって有益な情報となりうる。ただし、今回は現代日本語における重要オノマトペ上位 20 種を利用して、代表的なオノマトペの中国語への翻訳状況を見たわけであるが、この 20 語は各形態を均衡的に集めたものではないため、「A っ」や型「AABB」型や「A ん B り」型に該当する数が少なくなっており、全体の傾向が歪んでいる可能性は否定できない。すでに独自に開発した『ナミヤコーパス』を用いて得られた知見の妥当性を検証したが、今後さらに調査対象を増やして、より厳密な調査を行う余地が残されている。

第12章 中国人日本語学習者のオノマトペ使用の横断調査

12.1 本章の目的と構成

Lado(1957)により対照分析仮説が提唱された後、Corder (1967) は学習者にとっての L1 と目標言語である L2 のみならず、学習者自身が書いたり話したりした算出データの中にみられる誤用を分析することで、習得の問題をより直接的に分析する観点として学習者の誤用に注目する必要性を指摘した。当時の考え方では、L1 と L2 のずれが誤用を生み、逆に誤用を調査することで、2 言語の差異を解明できると考えたのである。Lado(1957)や Corder (1967) などの先駆的な研究によって学習者の L2 習得について多くの事実が明らかにされたが、こうした研究では学習者の産出データの誤用に注目することはあってもその全体を総合的に分析することは行われていなかった。そこで、Selinker (1972)は学習者による特有の L2 の使い方を独立した独自のシステムとしてとらえ、それを中間言語と呼んだ。本章では、中国人日本語学習者が産出した会話や作文において、オノマトペの使用実態を明らかにする。

これまでの章では高頻度オノマトペの選定および、オノマトペの持つ様々な言語特性の特定を行ったわけだが、学習者がオノマトペの何を難しいと感じており、具体的な日本語の作文や発話においてオノマトペをどの程度で使用できているかは必ずしも明らかではない。この点を探るうえでは、アンケート法、インタビュー法など様々なアプローチが想定できるが、本論文では大規模な学習者コーパスを用いてこの点を議論していくとしたい。

本章では大規模な横断学習者コーパスを用いて、中国人日本語学習者のオノマトペ使用特性の解明を目指すわけであるが、中国人日本語学習者の特徴をより正確に見るためには、日本語母語話者及び他の学習者との比較が必要である。本論文では、オノマトペが豊富な韓国語（朝鮮語）を母語とする学習者と中国語同様、オノマトペが少ない英語を母語とする学習者を比較対象とする。学習者のオノマトペ産出の実態を観察する場合、様々な観点が存在しうるが、本論文は (1) オノマトペの使用量（使用総数・種類数）、(2) 使用するオノマトペの多様性、(3) 使用する具体的なオノマトペ、(4) オノマトペ使用における誤用、4つの点に注目する。では、学習者として、4つの観点について、どのようなことが望ましいといえるのであろうか。

まず、(1) については、必ずしも使用量が多ければ多いほどよいわけではなく、日本語母語話者とほぼ同量のオノマトペを使用することが望ましいといえる。この際、日本語母語話者と学習者のオノマトペ使用を量の点で比較することとなるが、ここでは、トーク

ン（延べ語数）に加え、タイプ（異なり語数）を調査する。オノマトペの使用量を2つの観点で分析するのは、トークンだけを見た場合、少ないオノマトペを繰り返し使用している可能性が否定できないからである。

次に、(2) についてであるが、これもまた、多様性が高ければ高いほどよいわけではなく、日本語母語話者と同様の多様性が表れていることが望ましいといえる。一般に、語彙使用の多様性を議論する場合には、タイプをトークンで割った TTR (type / token Ratio) や、タイプをトークンの平方根で割った Guiraud の R 値、また、自然対数に変換したタイプを自然対数に変換したトークンで割った Herdan の C 値などが広く使用されている（石川, 2012）。テキストサイズに大きな違いがある場合は、この点が補正される Guiraud の R 値や Herdan の C 値を使うことが推奨される。先行研究では Guiraud の R 値を使用している例が多いため、本論文でも Guiraud の R 値を使用して議論を進める。

また、(3) についても、単に難しいオノマトペを使用できていればよいというわけではなく、同じ内容であれば、日本語母語話者と同様のオノマトペを選択して使用できていることが望ましいといえる。この点を確認するために、学習者と日本語母語話者が使用した高頻度オノマトペを比較することになる。

最後に、(4) については、誤用の数が少なければ少ないほどよいといえる。先行研究で示されるように、学習者はオノマトペの使用を困難であると感じているわけであるが、仮に、誤用が確認されるのであれば、学習者によるオノマトペの誤用をパタン化し、詳しく調べるのが重要になるだろう。

以上の4つの観点から、学習者のオノマトペ使用を多角的に論じることが本論文の特徴的なアプローチである。なお、上記(1)～(3)について、日本語母語話者を絶対的な基準とすることに関しては、近年批判的な見解も示されている。しかし、本論文では、日本語母語話者、学習者ともに、同一の内容で、同一の条件で収集されたデータを使用するため、中国語母語話者のオノマトペ使用特性を探るうえで、日本語母語話者を1つの基準と位置付ける。

したがって、本章では大規模な学習者コーパスを用いて、中国人日本語学習者は、他の学習者及び日本語母語話者と比べ、どのように独自の方法で使用しているかを体系的に調査していく。

12.2 リサーチクエスチョン

すでに述べたように、本論文の目的は、日本語母語話者及び韓国語・英語母語話者と比較することで、中国語母語話者のオノマトペ使用の特性を明らかにすることである。すでに述べたように、オノマトペ使用には様々な面が存在するが、ここでは、前述の4つの観点到に議論を絞る。これらをふまえ、具体的に以下の3つのリサーチクエスチョン (RQ) を設定した。

RQ1 使用量・多様性・使用語・誤用の点で、中国語母語話者は日本語母語話者や他の学習者と比べ、どのような特徴を示すか？

RQ2 使用量・多様性・使用語・誤用の点で、習熟度の異なる中国語母語話者はそれぞれどのような特徴を示すか？

RQ3 母語及び習熟度を同時に考慮した場合、使用量・多様性・使用語・誤用の点で、習熟度の異なる中国語母語話者はどのような位置づけとなるか？

12.3 研究手法

本論文ではデータとして、現在最も大規模で入手可能な学習者コーパス『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)』を使用する。すでに第4章で述べたように、I-JAS はインドネシア語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ハンガリー語、フランス語、ベトナム語、ロシア語、英語、ドイツ語、韓国語、中国語の12種母語の学習者のデータを均衡的に収集している。本論文では中国人日本語学習者のほかに、韓国語を母語とする学習者、英語を母語とする学習者及び、日本語母語話者を調査対象に絞る。また、I-JAS はまだ開発されつつあり、現在それらについては50人ずつのデータしか公開されていないため、以下ではそれぞれの対象について公開されている50人ずつのデータを利用することとする。

RQ1 について、中国語、韓国語、英語を母語とする学習者及び日本語母語話者に対して、オノマトペの(1)使用量、(2)多様性、(3)使用語、(4)誤用の4点を調査する。

(1) については、すでに述べたように、トークンを調べるだけでなく、タイプについても調査を行う。なお、比較にあたっては、話者1人当たりの平均値を使用する。

(2) については、表計算ソフトを用い、タイプ数/SQRT(トークン数)という計算式で Guiraud の R 値を計算する。

(3) については、それぞれの学習者が使用したオノマトペを質的に概観するだけな

く、日本語母語話者が使用したオノマトペとの一致率を計算する。ただし、50人のうち、少数が使用したオノマトペを日本語母語話者のオノマトペ使用傾向ということとはできないだろう。そこで、本論文では10人以上が1回以上使用したオノマトペを日本語母語話者使用オノマトペと見なし、個々の学習者や母語話者が使用したオノマトペとの一致率を求める。実際に調査を行ったところ、50人の日本語母語話者が使用したオノマトペの種類は全体で180種となったが、10人以上が共通して使用しているものは12種に限られた。この時、ある書き手が全体で15回オノマトペを使用しており、そのうち3語が日本語母語話者の使用した12種のオノマトペと重なっている場合、一致率は $3/12=0.25$ と計算される。こうした計算をすべての学習者及び母語話者に適応して平均値を比較する。

(4)についても、質的に分類するだけでなく、誤用率を計算して比較する。誤用分類については様々な分類方法が考えられるが、本論文では日本語学習者作文コーパス「なたね」で採用されている誤用分類基準を使用する。なお、「なたね」の誤用分類では誤用の内容に関する下位分類は16種あったが、実際のデータと突き合せたところ、オノマトペに当てはまる誤用は「語の共起」「付加」「脱落」「混同」「活用」「文法範疇」の6種のみであった。また、表1で示されるように、「活用」と「文法範疇」の2つの誤用タイプは非常に似ており、本論文ではこの2つの誤用タイプを区別せず、該当誤用をすべて「活用」に分類することとした。そこで、以下ではこれらの5つの誤用分類を利用して分析を行う。誤用のタイプ判定にあたっては筆者が分類を行い、判断に迷った場合は日本語母語話者の助言を得て決定した。

表 12-1 日本語学習者作文コーパス「なたね」の誤用分類（一部）

誤用タイプ	例
脱落	建立する こと。 →ことである。
付加	以前は →以前
混同	高い評価を もらった →受けた
語の共起	男女平等している →男女平等が進んでいる
活用	存在しなく →存在せず
文法範疇	確定されない →確定していない

なお、それぞれの観点で得られた数量データについて、話者間で差があるかどうかを確

認する必要がある場合には一元配置分散分析を行い、Holm 法による事後検定を行う。

次に、RQ2 について、まず、I-JAS に含まれている学習者の日本語習熟度情報（J-CAT 得点）に基づき、中国語母語話者 50 人を日本語能力試験の Level 3（3 級）、Level 2（2 級）、Level 1（1 級）に相当する 3 つの習熟度レベルに分ける。その後、RQ1 の手法と同じように、使用量、多様性、使用語、誤用の 4 観点を調査する。

表 12-2 J-CAT 得点に基づくレベル分け

J-CAT	JLPT 日本語能力試験
100-200	Level 3
200-250	Level 2
250-300	Level 1
300-	（日本語母語話者相当）

J-CAT ホームページ <http://www.j-cat.org/page/interpret> より引用

最後に RQ3 については、韓国語母語話者、英語母語話者、日本語母語話者と、中国語母語話者 Level 1, Level 2, Level 3 の 6 種の話者を第 1 アイテムとし、トークン、タイプ、多様性、一致率、誤用率の 5 つの変数を第 2 アイテムとしてコレスポンデンス分析を実施する。

12.4 結果と考察

12.4.1 RQ1 中国語母語話者のオノマトペ使用の特徴

12.4.1.1 使用量

はじめに、オノマトペの使用量を調査したところ、以下の結果を得た（図 12-1）。

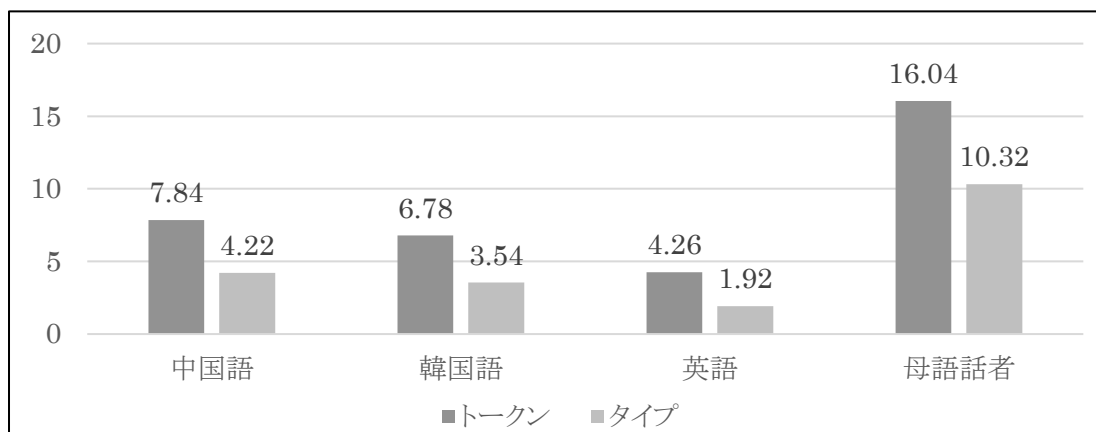


図 12-1 母語別オノマトペ使用量 (1人あたり平均)

まず、トークンについて見てみると、中国語母語話者 1人あたりのオノマトペ平均使用語数が 7.84 回であり、これは他の学習者（韓国語母語話者は 6.78 回、英語母語話者は 4.26 回）より多いものの、日本語母語話者の 16.04 回より少ないことが明らかになった。中国語母語話者が使用するオノマトペは、日本語母語話者の約 50%に留まっている。なお、一元配置分散分析を行ったところ、母語がトークン数に及ぼす主効果は有意であった ($F=31.93, p<.001$)。また、Holm 法による多重比較の結果、日本語母語話者と各学習者間、中国語母語話者と英語母語話者の間に有意な差が見られた。

タイプについてもほぼ同等の結果が得られ、一元配置分散分析を実施したところ、やはり母語がタイプ数に及ぼす主効果は有意であった ($F= 75.67, p<.001$)。Holm 法による多重比較の結果、日本語母語話者と各学習者間、中国語母語話者と英語母語話者間、韓国語母語話者と英語母語話者間に、それぞれ有意な差が確認された。

以上で、トークンにおいてもタイプにおいても、中国語母語話者は、英語母語話者よりは多いものの、日本語母語話者よりは使用するオノマトペの数が有意に少ないことが明らかになった。

実際の例を見てみよう。以下は、夜遅くに帰宅した主人公のケンが泥棒に誤解されたというイラストに基づくストーリーテリング課題での発話データの一部である。この課題では、学習者・母語話者ともに、主人公の奥さんが熟睡している様子を描写する際に、オノマトペを使用する傾向が見られた。

中国語母語話者 (トークン数 : 17 / タイプ数 : 4)

(1) 彼は奥さんと呼ぶつもりでしたが、奥さんがぐるぐると(?)寝ていました。外に梯子がありますから、ケンが梯子で家に入るつもりでした。

(2) 奥さんを、あー呼んでいます呼んでいましたが、奥さんが、クルクル(?)寝ていましたあまえ寝ていました。

(3) 家に帰った時もう十二時になりました。マリはもうぐうぐう(?)寝ています。

(4) その時、夜でした。マリはぐっすり寝ていました。

母語話者 (トークン数 : 25 / タイプ数 : 2)

(5) どうしようかとケンが迷って、家の外から、マリを、大声で呼びました。しかし、マリはぐっすりと寝ていましたどうしようか迷った結果ケンは梯子を上り、二階の窓から、入ろうとしました。

(6) 仕事で、帰りが夜遅くなってしまったので、チャイムをな、おX、押しても、えーマリはぐっすりと寝ています外から大きな声で呼んでも、マリは起きません。

(7) 奥さんのマリさんを、外から呼んだのですが、もう、夜中だったので、とーF、マリさんは、すっかり寝てしまいました。

(8) 「おーい、ただいま〜」時刻は午前一時。夜も更け、愛妻のマリはすっかり熟睡しています。まったく起きる気配はありません。

韓国語母語話者 (トークン数 : 7 / タイプ数 : 1)

(9) それで、ケンは窓側で大声で叫んでみますが、マリはぐっすり寝ていて起きないです。

(10) 窓に向かって大声でマリを呼びました。しかしマリはぐっすり眠ってしまったようで、ケンの声を聞くことが出来ませんでした。

英語母語話者 (トークン数 : 6 / タイプ数 : 2)

(11) ええと開けてもらおうとしましたが、えーと、マリさんが、んーそうですねぐっすり一眠っていました。

(12) ベルを鳴らしたけど、マリは起きなかったです。マリの名前を呼んだけど、ぐーぐー寝てしまったので、起きなかったです。

上記に見られるように、中国語母語話者は、日本語母語話者よりは少ないものの、韓国語及び英語母語話者よりは多くのオノマトペを使用している。ただし、実際のデータを詳細に分析すると、中国語母語話者の使用したオノマトペには誤用が多く、正しく使用できているオノマトペに限って言うとその数はより少ないといえる。日本語母語話者の使用数が 25 となることをふまえると、中国語母語話者を含め、学習者のオノマトペ使用量が日本語母語話者より絶対的に少ないことは明らかであるといえるだろう。

12.4.1.2 多様性

次に、オノマトペ使用の多様性を調査したところ、以下の結果を得た（図 12-2）。

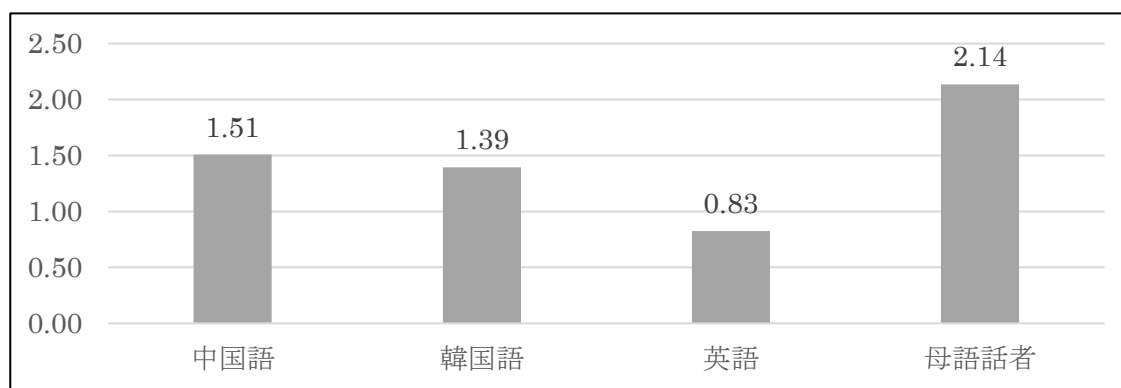


図 12-2 母語別のオノマトペ使用の多様性（Guiraud の R 値）

上図で明らかなように、中国語母語話者の R 値は 1.51 であり、これは他の学習者（韓国語母語話者は 1.39、英語母語話者は 0.83）より高いものの、日本語母語話者の 2.14 より低いことが明らかになった。中国語母語話者のオノマトペ使用の多様性は日本語母語話者の約 70%に留まっている。なお、一元配置分散分析を実施したところ、母語が R 値に及ぼす主効果は有意であった ($F=33.04, p<.001$)。Holm 法による多重比較の結果、日本語母語話者と各学習者間、中国語母語話者と英語母語話者間に、有意な差が確認された。すでに使用量について見たように、中国語母語話者は多様性においても、他の学習者（英語母語話者）よりは多様なオノマトペを使用できているものの、日本語母語話者よりは有意に低いことが明らかになった。

12.4.1.3 使用語

また、学習者が使用したオノマトペと日本語母語話者が使用したオノマトペとの一致率を調査したところ、以下の結果を得た（図 12-3）。

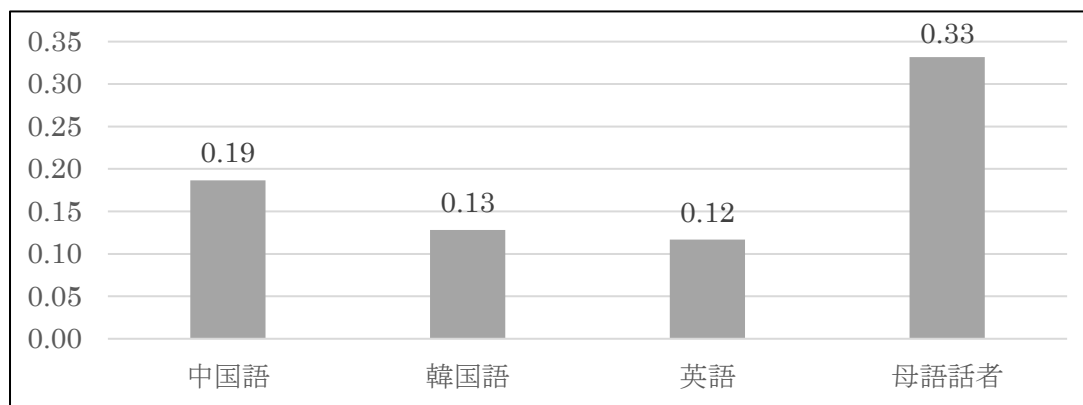


図 12-3 日本語母語話者が共通使用するオノマトペとの母語別一致率

はじめに注目すべきは、日本語母語話者であっても、全員がすべて同じようなオノマトペを使用しているわけではないということである。10人以上の日本語母語話者が共通して使用した12種のオノマトペとの一致率を日本語母語話者個々に調査し、平均を取ったところ、その値は0.33となった。これが比較の基準となる。

図 3 に示されるように、中国語母語話者の一致率は0.19であり、他の学習者（韓国語母語話者は0.13、英語母語話者は0.12）よりは高いものの、日本語母語話者の0.33より低いことが明らかになった。中国語母語話者の一致率は母語話者の約60%に留まっている。一元配置分散分析により、一致率の点で、母語が一致率に及ぼす主効果は有意であった（ $F=35.42, p<.001$ ）。Holm法による多重比較の結果、日本語母語話者と各学習者間、中国語母語話者と韓国語話者間、中国語話者と英語母語話者間に、有意な差が認められた。

では、中国語母語話者がどのような語を日本語母語話者と一致して使用できているか、また、どのような語にズレが見られるかを確認するため、中国語母語話者、日本語母語話者、他の学習者が使用したオノマトペの上位10語を調べてみることにしよう。

表 12-3 母語話者及び学習者の産出オノマトペ上位10語

順位	中国語	韓国語	英語	母語話者
1	ずっと	ずっと	ずっと	ずっと

2	びっくり	びっくり	びっくり	びっくり
3	だんだん	ちゃんと	ちゃんと	ちゃんと
4	ちゃんと	どンドン	だんだん	だんだん
5	ゆっくり	がっかり	ゆっくり	ゆっくり
6	こっそり	だんだん	こっそり	どンドン
7	ぐっすり	ゆっくり	ぐっすり	のんびり
8	めちゃくちゃ	はっきり	どンドン	すっかり
9	がっかり	ぐっすり	がっかり	しっかり
10	ふっ	こっそり	どきどき	ぐっすり
母語話者との共通度		6	7	7

図 3 で見たように、中国語母語話者は韓国語母語話者及び英語母語話者に比べると、一致度が高いわけであるが、上位 10 語に限って概観すると、必ずしも他の学習者より一致度が高いという結果にはなっていなかった。このうち、母語話者のみが使用していて中国語母語話者が使用できていないのは「どンドン」「のんびり」「すっかり」「しっかり」である。一方、中国語母語話者が使用していて日本語母語話者が使用していないのは「こっそり」「めちゃくちゃ」「がっかり」「ふっ」である。中国語母語話者が使用するオノマトペは、日本語母語話者の使用するオノマトペに比べ、より口語的であるといえる。これらに見られるように、上位 10 語に限ってみても、中国語母語話者と日本語母語話者の使用するオノマトペには一定のズレが存在することが確認できた。

12.4.1.4 誤用

最後に、誤用率を調査したところ、以下の結果を得た（図 12-4）。

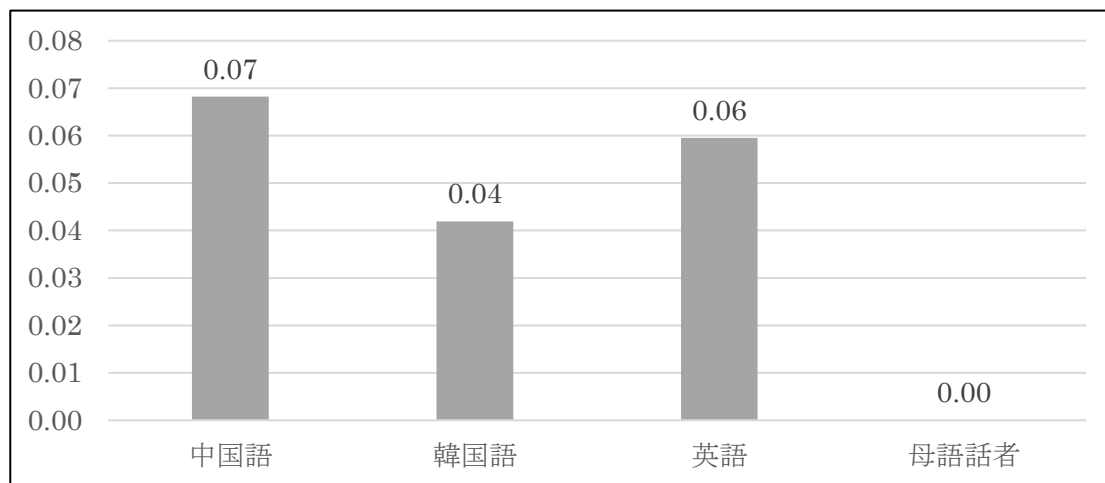


図 12-4 母語別誤用率

中国語母語話者の誤用率は 0.07% で、3 種の学習者の間で最も高いことが明らかになった。一元配置分散分析を行ったところ、母語が誤用率に及ぼす主効果は有意ではなかった ($F=0.49, ns.$) が、3 種の学習者の中で最も高い割合で誤用を犯してオノマトペを使用していることが示唆された。以上の分析により、中国語母語話者は他の話者に比べ、オノマトペの使用量や使用するオノマトペの多様性また一致率が高いものの、誤用率は 10% 近くに及ぶことが明らかになった。

では、中国語母語話者は具体的にどのような誤用を犯しているのだろうか。「なたね」の誤用分類枠組みに基づき分類したところ、以下の結果を得た (表 12-4)。

表 12-4 母語別のオノマトペ誤用タイプ (%)

	中国語	韓国語	英語
混同	48.15	46.67	30.77
活用	25.93	6.67	30.77
語の共起	14.81	13.33	30.77
脱落	11.11	20.00	0.00
付加	0.00	13.33	7.69

上記より、中国語母語話者は、混同の誤りが最も多く、活用がそれに次ぎ、語の共起と脱落の誤りが相対的に少ないことが明らかになった。一方、韓国語母語話者は誤りとして

混同が最も多く、脱落がそれに次ぎ、活用がきわめて少ない。また、英語母語話者は混同、活用、語の共起の誤りがともに多く、付加の誤りがそれに次ぎ、脱落の誤りが見られなかった。3種の学習者がそれぞれ異なる誤用傾向を見せていることが示されたが、5つの誤用タイプの中で混同の誤りが3種の学習者に共通して最も多いことも明らかになった。このことは、学習者がオノマトペの用法や使用環境また、意味を十分理解していないことを示している。

以下では、中国語母語話者の誤りの実例をそれぞれのタイプについて見ておこう。なお、ここでは誤りが多いものから順に概観を進める。

(a) 中国語母語話によるオノマトペの混同の誤り

中国語母語話者にとって最も多い誤りはオノマトペとその他の混同であり、誤用全体の約半分を占めていることが明らかになった。以下は具体的な誤用例の一部である。なお、括弧内の語は筆者の判断による修正例である。

(13) あ初めは一難しくないと思いましたが、今はどんどん (だんだん) 難しくなつたと思います。

(14) その時、警官が来ました。「お前、何をととと (さっさと) 下りなさい」と聞きました。

(15) バasketを開けて昼ご飯を食べようとしていた途端、犬はBasketの中からどっさりと (とっさに、突然) 飛び出して、二人ともびっくりしました。

(16) 窓の下でマリさんと呼んでいました。でも、その時、マリさんはぐうぐう (ぐっすり) 寝ていました。

ここで注目すべきは同じ混同の誤りの中にも異なるタイプが存在していることである。たとえば、上記のうち、(13) (14) (16) は文体や社会的適切性の誤りであるといえる。

(13) や (16) は砕けた話し言葉でのみ許容されるオノマトペであり、一般的な日本語として使用することは適切でないといえるだろう。また、(14) は意味の点では誤りとは言えないものの、警官が発する言葉としては不適切である。これらは中国語母語話者がオノマトペに付随する語の使用環境や意味のニュアンスを正しく理解できていない可能性を示す。一方、(15) はオノマトペの意味そのものを正しく理解していないことによる誤りである。

「どっさり」は分量が多いことを含意するが、この学習者はこれを速度の速さと誤解して記憶していた可能性が高い。

(b) 中国語母語話によるオノマトペの活用の誤り

次に 2 番目に多い活用の誤りについて用例を見ておこう。

(17) そこに着いて、バスケットを開けると、彼らはびっくりさせました (びっくりしました)。犬は中から飛び上がりました。

(18) 場所に着いて、バスケットを下ろしたまま、ハチさんが中に飛び出した。びっくりする (びっくりした) のはそれだけでなく、中に入った食べ物は全部食べてしまった。

(19) なんかやはりえっと、んーじ、えっとこつこつしてる (こつこつやる) のが、えっと一番大切だと思います。

(17) は学習者が動詞の使役性を正しく認識していないため「びっくりさせる」と「びっくりする」を誤ったものである。また、(18) は時制の誤りであり、(19) は動詞選択及び「ている」形の誤りである。上記に見られるように、活用の誤りは多くの場合、その他の誤りと同時に出現している。基本的な動詞の運用に対する理解の不足が結果としてオノマトペの活用の誤りにつながっているといっていよう。

(c) 中国語母語話によるオノマトペの語の共起の誤り

3 番目に多い誤りは語の共起であり、2 割近く占めている。以下は具体的な用例である。

(20) バスケットに見て、フードが全て犬に食べられました。どうしよう。お腹がぺこぺこしていた (ぺこぺこでした)。

(21) いいえんー、今学期私はうーんかて、課程は少ないんです。毎日んーだらんだらだらです (だらだらしています)。

また、(20) は形容動詞であるべきものをスル型動詞と捉えている誤りであり、(21) は

逆にスル型動詞であるべきものを形容動詞と捉えている誤りである。語の共起の誤りとしては、形容動詞や動詞用法の理解の不足が主な原因であることが明らかになった。

(d) 中国語母語話によるオノマトペの脱落の誤り

脱落の誤りが 5 つのタイプの中では最も少ないが、それでも全体の 1 割を占めている。自然な日本語運用という点に関して、このタイプの誤りはきわめて問題が大きいと考えられる。以下用例を見てみよう。

(22) 作ったサンドイッチはどうしましたかと思って、うー、犬はそのサンドイッチをめちゃくちゃ (めちゃくちゃに) して、二人は、がっかりしました。

(23) それから、そして、ロバの肉が栄養が多い、えー、お腹がぺこぺこ (ぺこぺこの) 時ロバの肉を食べるーとすぐ元気になったと思います。

上記の誤用例はいずれも必要な助詞が欠落している誤りである。中国語母語話者は基本的にオノマトペを副詞であると捉えているため、それらが動詞や形容動詞として使用できることを十分理解できていないと考えられる。

12.4.2 RQ2 異なる習熟度レベルの中国語母語話者のオノマトペ使用の特徴

12.4.2.1 使用量

はじめに、オノマトペの使用量を調査したところ、以下の結果を得た (図 12-5)。

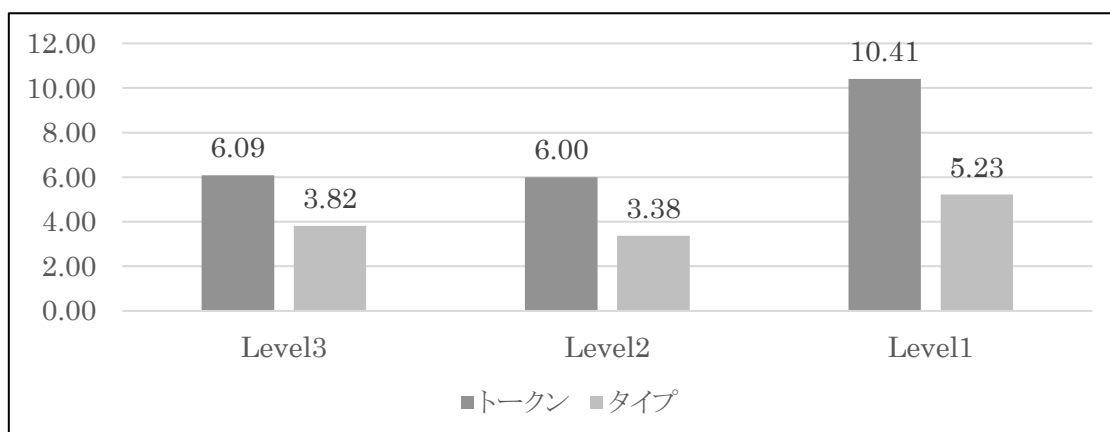


図 12-5 習熟度別オノマトペ使用量 (1 人あたり平均)

トークンについて見てみると、Level1 学習者の 1 人あたりのオノマトペ平均使用語数が 10.41 回であり、これは他のレベル学習者（Level3 は 6.09 回、Level2 は 6.00 回）より多いことが明らかになった。一元配置分散分析を行ったところ、習熟度がトークン数に及ぼす主効果は有意であった ($F=3.35, p<.05$)。しかし、多重比較の結果、どの学習者間においても差は有意ではなかった。このことは、習熟度の違いがある程度オノマトペの使用量の違いに影響を及ぼすものの、レベル間の変化は必ずしも大きいものではないことを示している。

タイプについても、目視では Level1 > Level3 > Level2 の関係が見られるわけであるが、一元配置分散分析を行ったところ、習熟度がタイプ数に及ぼす主効果は有意ではなかった ($F=2.46, p=0.10, ns$)。習熟度がトークン数に影響を及ぼすとしても、タイプ数にはほとんど影響しないことが示唆された。

実際の例を見てみよう。以下は絵描写課題において犬が弁当箱に入る様子を描いた学習者作文の実例である。

Level3 (トークン数 : 1 / タイプ数 : 1)

(24) 犬は二人がどこを選んでピクニックをしてか地図を見るときにこっそりバスケットに入って隠しました。

Level2 (トークン数 : 4 / タイプ数 : 3)

(25) マリとケンがピクニックのために地図を見た時、犬がそっとピクニックのバスケットに入った。

(26) ケンさんとマリさんが地図を見た時に、この犬がこっそりバスケットの中に入りました。そして、ケンさんとマリさんがピクニックに行きました。

(27) あバスケットあーはい入りあーは一入りました。うーこれから犬が、あー犬がうーフツとバスケットに。

Level1 (トークン数 : 8 / タイプ数 : 2)

(28) 二人が地図について相談していた所に、一匹の犬がこっそりとバスケットに入って、その中の物を食べてしまいました。

(29) そういう時に、ワンちゃんが、こっそりバスケットに入りました。

(30) 彼ら地図を研究する時、犬がそっとバスケットに入ってしまった。

上記に明らかなように、習熟度レベルの上昇に従い、トークン数は1→4→8と着実に増加しているが、タイプ数は1→3→2のように必ずしもはっきりした増加傾向が認められない。つまり、中国語母語話者の習熟度が上昇するにつれて使用するオノマトペの量は全体的に増えていくものの、使用できるオノマトペの種類は依然として制約的なままに留まっているといえるだろう。

12.4.2.2 多様性

次に、異なる習熟度の中国語母語話者の多様性を調査したところ、以下の結果を得た(図12-6)。

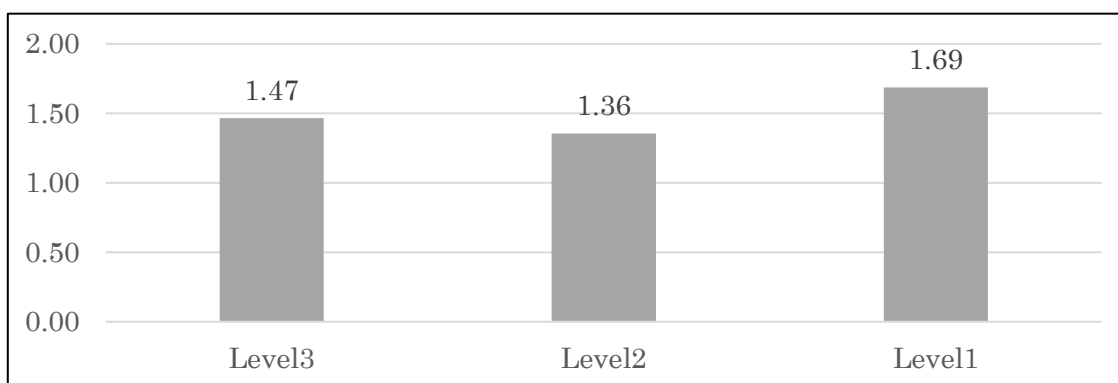


図 12-6 習熟度別のオノマトペ使用の多様性 (Guiraud の R 値)

目視では、Level1 学習者の R 値が 1.69 であり、これは他のレベル学習者 (Level3 は 1.47, Level2 は 1.36) より高いように思える。しかし、一元配置分散分析を行った結果、習熟度が R 値に及ぼす主効果は有意ではなかった ($F=1.65$, $p=0.20$, *ns.*)。この結果は習熟度が上昇しても、オノマトペ使用の多様性は変化しないことを示している。

12.4.2.3 使用語

また、異なる習熟度の中国語母語話者が使用したオノマトペと日本語母語話者が使用したオノマトペとの一致率を調査したところ、以下の結果を得た(図12-7)。

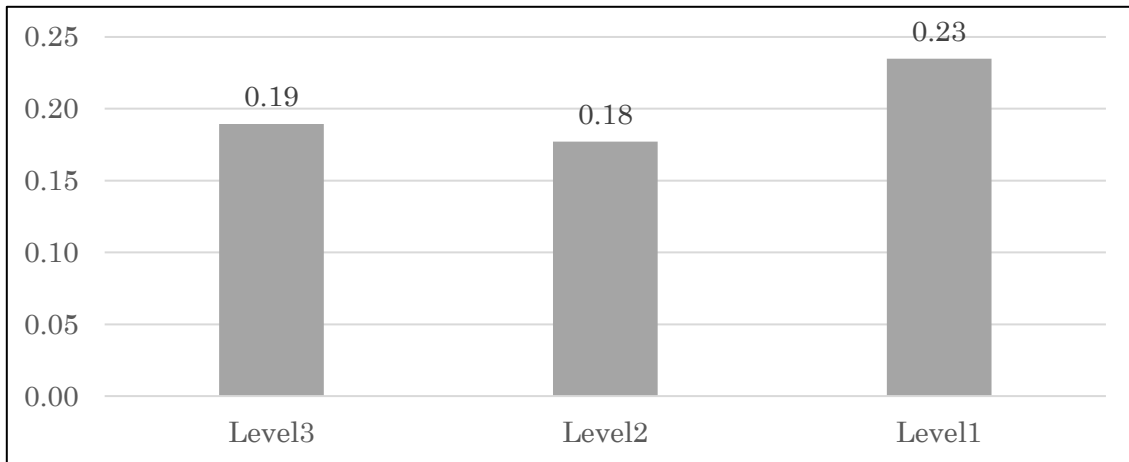


図 12-7 日本語母語話者が共通使用するオノマトペとの習熟度別一致率

目視では、Level1 学習者の一致率が 0.23 であり、これは他のレベル学習者（Level3 は 0.19, Level2 は 0.18）より高いように思える。しかし、一元配置分散分析を実施したところ、習熟度が一致率に及ぼす主効果は有意ではなかった ($F=1.66, p=0.20, ns.$)。一般的には習熟度の上昇につれて、使用するオノマトペの具体的な内容は日本語母語話者に段階的に近づいていくと予想されるわけであるが、こうした変化は認められないという結果が得られたことになる。

日本語母語話者と異なるレベルの中国語母語話者が使用したオノマトペの上位 10 語を調べたところ、以下のようになった。

表 12-5 異なる習熟度の中国語母語話者の産出オノマトペ上位 10 語

日本語母語話者	Level3	Level2	Level1
ずっと	びっくり	びっくり	ずっと
びっくり	ずっと	ずっと	びっくり
ちゃんと	ちゃんと	だんだん	だんだん
だんだん	だんだん	ゆっくり	ちゃんと
ゆっくり	めちゃくちゃ	わくわく	ぐっすり
どンドン	めえめえ	めちゃくちゃ	こっそり
のんびり	ぺこぺこ	ちゃんと	めちゃくちゃ

すっきり	のんびり	こっそり	ふっ
しっかり	にこにこ	がっかり	はっきり
ぐっすり	とっとと	そっくり	ぱっ
日本語話者との共通度	5	5	5

中国語母語話者が使用する上位オノマトペのうち、「びっくり」「ずっと」「ちゃんと」「だんだん」の4語については Level3 から Level1 まで一貫して使用されているが、「のんびり」については Level3 のみが、「ゆっくり」については Level2 のみが、「ぐっすり」については Level1 のみが使用しており、習熟度の上昇につれて日本語母語話者との共通語彙の使用が広がっているわけではないことが確認される。この結果にも明らかなように、習熟度が上昇しても日本語母語話者が使用したオノマトペとの一致率は変化しない。具体的なオノマトペの使用に関して、学習者の習熟度の上昇は、必ずしも日本語母語話者への近接を意味しないことが確認された。

12.4.2.4 誤用

最後に、異なる習熟度の中国語母語話者の誤用率を調査したところ、以下の結果を得た(図 12-8)。

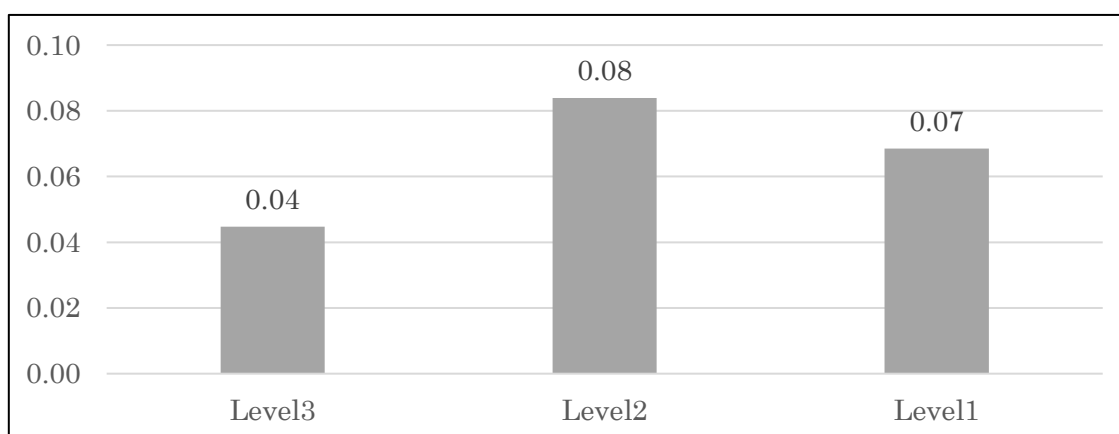


図 11-8 習熟度別誤用率

目視では、Level1 学習者の誤用率が 0.07 であり、これは Level2 (0.08) より低い、Level3 (0.04) より高いことが明らかになった。しかし、一元配置分散分析を実施したと

ころ、習熟度が誤用率に及ぼす主効果は有意ではなかった ($F=0.50, p=0.61, ns.$)。このことから、習熟度が上昇しても、誤用率は減少しないことがわかった。

具体的な誤用タイプを見てみると、以下のようになった。

表 12-6 習熟度誤用分類

	Level3	Level2	Level1
混同	60.00	42.86	46.67
活用	20.00	14.29	33.33
語の共起	20.00	42.86	0.00
脱落	0.00	0.00	20.00

上表より、Level3 学習者は、混同の誤りが最も多く、活用と語の共起がそれに次ぎ、脱落の誤りが見られないことが明らかになった。一方、Level2 学習者は誤りとして混同と語の共起が最も多く、活用がそれに次ぎ、脱落の誤りが見られなかった。また、Level1 学習者は混同の誤りが最も多く、活用の誤りがそれに次ぎ、脱落の誤りが多くみられるようになった。

学習者がある状況の中で何らかのオノマトペを使用する場合、まず、どのオノマトペを使用するかを選択する必要がある。次いで、使用すると決めたオノマトペを正しい言語環境の中で使用する必要が生じる。上記に明らかなように、第 1 段階の選択に関して習熟度が上昇しても誤りの構成比が変化しないことが明らかになった。Level1 であっても無数のオノマトペの中から適切なものを選ぶ作業は依然として難しいと言わなければならない。一方、使用すると決めたオノマトペを正しい言語環境で使用するに関しては質的な変化が認められる。Level3 の場合は当該語のそのものの活用形や当該語の前後に出現する共起語との関係において誤りが多いわけであるが、このうち、他の語との共起の誤りは Level1 においては減少しているが、一方で、新たに脱落の誤りが出現している。ここで Level1 にのみ脱落の誤りが発生していることは興味深い。これらは、すでに (22) (23) で見たように、たとえば「お腹がぺこぺこの時」とすべきところを「お腹がぺこぺこ時」としてしまうような誤りであり、いずれも一般に副詞とされるオノマトペを形容詞的に使用した例である。Level3 はオノマトペを副詞としてしか使用しないため、こうした誤りがほとんど起こらないが、Level1 は学習者したオノマトペをより幅広い文脈に適応して使用

しようとしている。このことが新しいタイプの誤りを引き起こしていると言ってよいだろう。

12.4.3 RQ3 異なる習熟度レベルの中国語母語話者の相対的位置づけ

コレスポネンス分析を実施したところ、以下の結果を得た（図 12-9）。

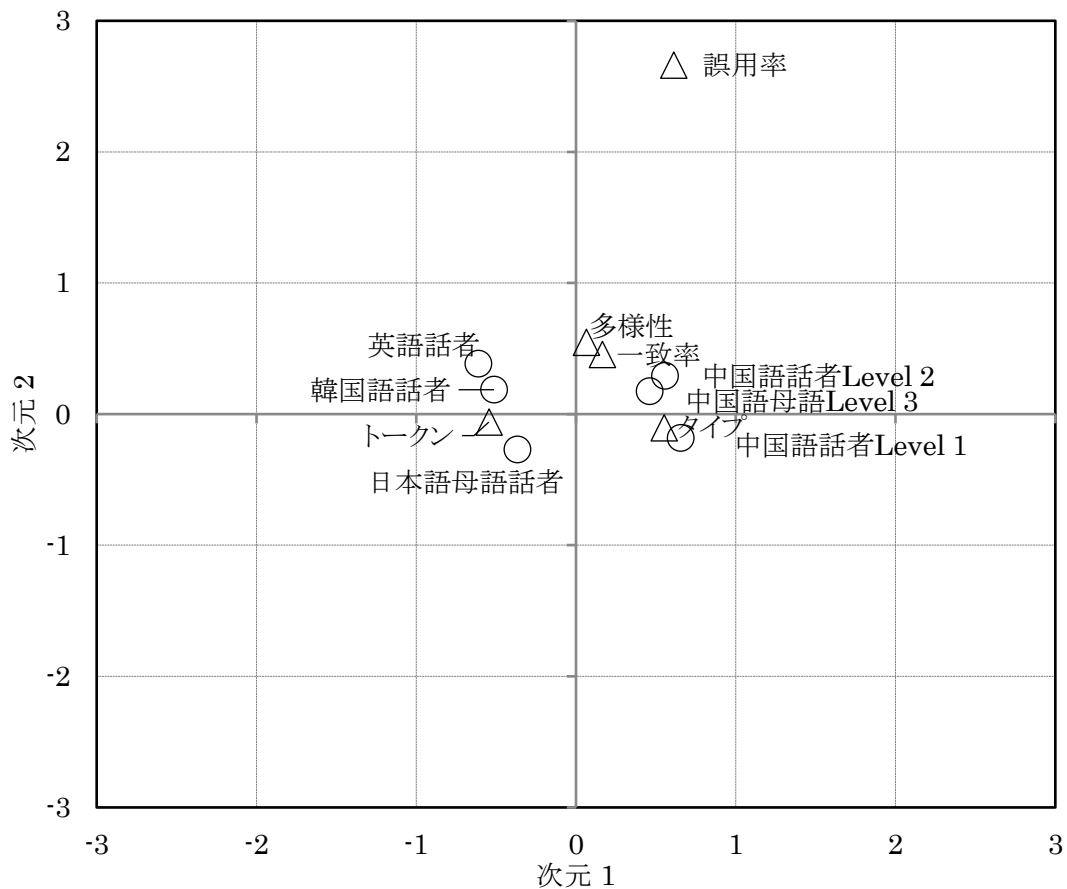


図 12-9 コレスポネンス分析散布図

第 1 次元（横軸）の寄与率は 93.73%であり、第 2 次元（縦軸）の寄与率は 5.5%であった。上図に関して言えば、上下の違いよりも左右の違いが本質的な意味を持っていることになる。この観点からみれば、韓国語・英語母語話者及び日本語母語話者は 1 つのグループに配置され、3 つの習熟度レベルの中国語母語話者はそれらとは異なるグループに分類されることがわかった。このことは、日本語母語話者に対してのみならず、他の日本語学習者に対しても中国語母語話者がきわめて特有のオノマトペ使用を行っていることを示す。

中国語母語話者のオノマトペ使用は誤用率の高さ、使用できるオノマトペタイプの狭さによって特徴づけられる。

次に、寄与率は低いものの縦軸もあわせて注目すると、日本語母語話者は下部に、韓国語・英語母語話者は上部に布置されることから、縦軸は上から下に行くにつれて日本語力の上昇を示していると考えられる。この基準からみれば、中国語母語話者は Level3→Level2→Level1 と並ぶことが想定されるわけであるが、実際には Level2→Level3→Level1 の順となっており、必ずしも想定される順番に一致しないことが明らかになった。このことは一般的な習熟度の上昇とオノマトペ運用能力の上昇が必ずしも一致しないことを示すと言ってよいだろう。

12.5 まとめ

以上で、中国語母語話者のオノマトペの使用特性を探るために、日本語母語話者及び韓国語・英語母語話者と比較しながら、オノマトペの使用量（トークン・タイプ）、使用するオノマトペの多様性、使用する具体的なオノマトペ、オノマトペ使用における誤用を調査してきた。

RQ1 では、使用量・多様性・使用語の 3 点において、中国語母語話者は韓国語・英語話者より高いものの、日本語母語話者とは大きく異なることが明らかになった。また、誤用の点において、中国語母語話者は最も高い割合で誤りを犯していることが示唆された。

RQ2 では、使用量・多様性・使用語・誤用の 4 点において、Level3, Level2, Level1 の間にはっきりした差異が存在しないことが明らかになった。

RQ3 では、中国語母語話者は日本語母語話者及び他の母語の学習者とは異なるオノマトペ使用傾向を持ち、中国語母語話者の一般的な習熟度の上昇とオノマトペ運用能力の上昇が必ずしも一致しないことが明らかになった。

以上の調査により、中国語母語話者に体系的なオノマトペ指導の必要性が示された。RQ1 についていうと、学習者の母語によりオノマトペの運用には一定の違いがあることから、オノマトペを指導していく際には、異なる国籍の学習者をまとめてみるのではなく、母語の特性に合った指導が求められると言えよう。中国語母語話者についていえば、特に誤用が多いことから、あえてオノマトペ誤用の含んだ文章を学習者にみせ、誤用を指摘して修正させるタスクなどを行うことが効果的であると考えられる。また、RQ2 についていうと、中国語母語話者にとってオノマトペの自然習得がほとんど期待できないことが明ら

かになった。つまりは日本語学習の一定の段階において体系的なオノマトペ指導を行わない限りオノマトペは決して習得されないということになる。最後に、RQ3 についていうと、すでに RQ1 で述べた誤用修正練習に加え、リスト化された重要オノマトペを学習者に暗記させるタスクが必要であると言えるだろう。

第13章 中国人日本語学習者のオノマトペ使用の縦断調査

13.1 本章の目的と構成

第12章では大規模な横断学習者コーパスを用いて、中国人日本語学習者のオノマトペ使用特性の解明を行った。特に12.4節のRQ2及びRQ3では、中国人日本語学習者を習熟度レベルに分けて、初級者・中級者・上級者にどのような特徴があるかを明らかにしてきた。

しかしながら、12章で行った分析はあくまでも異なる学習者を比較して習熟の過程を疑似的に調査したものであり、個人の学習者が日本語学習の過程でどのようにオノマトペ使用を変化させていくかを実証的に観察した結果ではない。中国人日本語学習者のオノマトペ運用をより体系的に議論するためには、ある特定の時点における初級者・中級者・上級者の対照のみならず、個々の学習者に対象を絞り、当該学習者が学習経験の中でどのようにオノマトペ使用を変化させていくかを縦断的に観察することが重要になってくるだろう。以下では、縦断調査及び横断調査の概念図を示す。

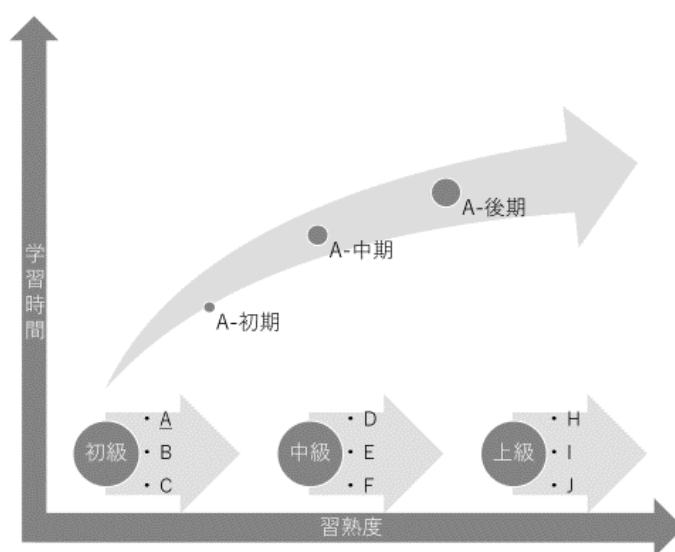


図13-1 概念図

横断調査では、個々の学習者の学習時間の違いを通常考慮せず、ある時点で診断された習熟度テストのスコアによって習熟度を分類し、それぞれ習熟度レベル間の差異を調査の対象とする。しかしながら、この場合初級の学習者が実際には上級学習者よりも長い時間学習していたという可能性も残る。つまり、習熟度レベルの調査では、学習時間の増加に

伴う L2 日本語使用傾向の変化を正しく観察していることにはならない。これに対し、縦断調査では、1 人また少数の学習者に対象を絞り、その学習者が学習の初期段階・中期段階・後期段階でそれぞれどのような L2 日本語使用を行っているかを観察していく。これにより、学習者がいわゆるゼロからスタートの段階から一定のレベルの日本語能力を身につけるまでに、オノマトペ使用がどのように段階的に変化していくかを見ることができるのである。オノマトペ習得を直接的に観察するうえで、縦断データの使用は不可欠といえるだろう。

そこで本章では新たに縦断学習者コーパスを用い、この問題を再考していくこととした。具体的には、中国人日本語学習者が大学 1 年生から 3 年生までの 2 年間で書いた作文をデータとし、(1) オノマトペの使用量、(2) 使用する具体的なオノマトペ、(3) オノマトペ使用における誤用、3 つの点を調査することで、学習者のオノマトペ習得の問題を明らかにし、オノマトペ指導を行う際のヒントを探る。

以下、上記の (1) (2) (3) についてこれまでに示された研究の一部を示し、本研究のアプローチについて述べておきたい。

まず (1) について、盧 (2007) では、『LARP at SCU コーパス』をデータとして調査した結果、オノマトペ (擬声語・擬態語) が台湾の学習者の作文ではほとんど使われていないことがわかった。中国語母語話者のオノマトペ習得を考えるうえで興味深いデータといえるが、この研究では中国本土で日本語教育を受けた学習者の情報が含まれていない。

次に (2) について、岩崎 (2008) では横断コーパスを用いて英語母語話者と韓国語母語話者を比較し、英語母語話者は韓国語母語話者に比べ創作語 (ドゥドゥドゥ) を使用する傾向があると報告している。この研究は学習者の母語によってオノマトペ使用が異なる可能性を示した点で興味深いものであるが、この研究では、中国人日本語学習者が多用するオノマトペについての言及はない。また、縦断データを用い使用されるオノマトペが段階的にどのように変化していくかの考察も行われていない。

最後に (3) について、中石他 (2011) は、アニメーションを見せて思いついたオノマトペを書かせるタスクと、オノマトペを用いた 1 文作文と、する個々のオノマトペが持つ意味の記述タスクを行った結果、中国人日本語学習者の誤用パターンは、似た音を持つ別の語彙からの誤った意味の類推 (「わくわく」の意味を「沸く」の意味と誤解する)、似た音を持つほかのオノマトペの混同 (「ぼかぼか」の意味で「ふかふか」を使用する)、有声音・無声音の混同 (「ぶんぶん」と「ぶんぶん」を混同して使用する) の 3 つが存在することを

報告している。中国人日本語学習者のオノマトペ誤用を体系的に分析した点で価値の高い研究であるが、横断データを使った分析にとどまっているため、学習者の学習段階ごとにオノマトペの誤用パターンがどのように変化していくかは明らかとなっていない。

以上の3つの研究の成果と制約を念頭に置きながら、本章は新たに縦断コーパスを用いて中国人日本語学習者のオノマトペ使用の時系列変化を調査していく。

あわせて、本論文では母語話者のオノマトペ使用を日本語学習者のオノマトペ使用の比較対象として検討する。というのも、中国人に限らず、日本語学習者の発達の最終点としては母語話者の存在が考えられる。つまり、様々な学習段階の中国人日本語学習者のみを分析するのではなく、それを同時に日本語母語話者と比較することによって、学習目標に対して学習者がそれぞれの段階でどこまで近づいているのか、どんな問題を抱えているのかを明らかにすることができるだろう。この目的に沿い、日本語母語話者の言語産出データの一例として、ここでは『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』のYahoo!ブログデータを参照する。BCCWJには多くのデータが存在しているが、個人の自由な思いを自由な文章で綴り、第三者による校閲や編集が加わっていないという点で、母語話者によるブログは学習者作文の比較対象として適切なものであると判断する。なお、最近の応用言語学研究においては、学習者を議論する場合に、母語話者と比較することについて批判的な見解も示されている。しかし、本研究においては、学習者の変化を見る1つの観点として母語話者のデータを位置付けたいと考える。

13.2 リサーチクエスチョン

本章の目的はこれまで行ってきた横断学習者コーパス分析で得られた知見を新たな観点から確認するため、新たに縦断学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴ってオノマトペ使用傾向や誤用傾向がどのように変化していくかを実証的に観察することにある。この目的に沿い、以下の3つのリサーチクエスチョンを設定する。

- RQ1 学習時間の増加に伴い、中国人日本語学習者のオノマトペ使用量は増加するのか、また、母語話者とどう違うか？
- RQ2 学習時間の増加に伴い、中国人日本語学習者が具体的に使用したオノマトペは変化するのか、また、母語話者とどう違うか？
- RQ3 中国人日本語学習者の作文において、どのような誤用タイプがみられるか？

13.3 研究手法

13.3.1 使用するデータ

本章は学習者データとして上海交通大学が開発した『日本語学習者書き言葉コーパス（日本語学習者书面語語料庫）』を使用する。また、母語話者データとして『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』のブログのデータを使用する。以下、それぞれのデータの概要について確認する。

まず、『日本語学習者書き言葉コーパス（日本語学習者书面語語料庫）』には様々な大学で異なる時期に異なる年限で取られた縦断データが混在している。それぞれ価値あるデータであると考えるが、それらを混ぜて分析した場合、特定の学習者の学習段階を追跡するという目的に合致しなくなる。そこで、本論文では、コーパスに含まれる各種の縦断データのうち、学習者数が多く、作文テーマが比較的そろっている「東北師範大学縦断データ」のみを使用する。

東北師範大学縦断データは2006年9月に同大学に入学した33名の学生が、2007年1月から2008年12月までの間に、日本語作文の授業で書いた作文である。学習者の日本語能力の関係もあって、一年生のデータは少ない。しかし、2年生以降については、ほぼ隔月で複数のデータがとられている。

なお、33名のうち、3名（d22,d29,d30）は課題作文の多くを提出しておらず、縦断的な観察には適していないと判断する。そのため、本論文では当該の3名を除く30名分のデータを分析対象とする。また、収集された作文の一部には詳細な日付が記載されているが、月の情報しかないものも存在し、データ習得の間隔も完全にはそろっていない。そこで、本研究では学期を分析単位とする。以下は各作文のテーマと一作文当たりの平均文字数である。

表 13-1 作文テーマ一覧表

時期	執筆時間	テーマ	平均文字数	時期	執筆時間	テーマ	平均文字数
1年前	2007.01	信頼	380	2年	2008.02	冬休み	588
	2007.01	自動車と交通	367		2008.04	メタボ	380

期	2007.01	高校時代の恩師	475	後	2008.05	四川大地震	439
2年 前 期	2007.09	私と日本語	384	期	2008.05	感動した一冊の本	424
	2007.09	私の好きな言葉	324		2008.05	地球を守ろう	399
	2007.09	故郷	343		2008.06	携帯電話	393
	2007.11	手紙	449		2008.06	クラスメート	406
	2007.11	失われつつあるもの	382		2008.07	ストレス・悩み	581
	2007.11	大学就職難	424		3 年 前 期	2008.09	日本の若者
	2007.11	北京オリンピック	382	2008.09		情報社会とマナー	460
	2007.12	赤信号	343	2008.09		長崎コラム	427
	2007.12	真の幸せ	381	2008.12		自立・愛	630

作文のテーマは「冬休み」や「メタボ」のような身近なものから「真の幸せ」や「自立・愛」といった抽象的なものまで幅広く、学習者の日本語作文能力を多面的に記録したコーパスであるといえるだろう。

一方、母語話者のデータとしては『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のブログデータを対象とする。ただし、コーパス直接検索することはせず、コーパスに含まれる語の頻度情報を集計してまとめた『短単位語彙表データ 1.0』をデータソースとする。以下の表は『短単位語彙表データ 1.0』のうち、Yahoo!ブログに出現したオノマトペの情報の一部を示したものである。

表 13-2 『短単位語彙表データ 1.0』（一部）

語彙素読み	語彙素	品詞	ブログにおける頻度	ブログにおける 百万語あたり調整頻度
ズット	ずっと	副詞	1652	163.1479
ハッキリ	はっきり	副詞	568	56.09443
シッカリ	確り	副詞	1757	173.5174
ユックリ	ゆっくり	副詞	1296	127.9901
チャント	ちゃんと	副詞	1586	156.6299

13.3.2 分析手順

学習者は 24 回の作文を行っているわけであるが、すべての作文について詳細な日付の情報がそろっていないことから、すでに述べたように本研究では一年生前期、二年生前期、二年生後期、三年生前期の 4 区分に分け、区分ごとに頻度を調査する。

RQ1 では、学生作文及び母語話者ブログに出現するすべてのオノマトペを手作業で抽出し、(1) トークン使用量 (総語数)、(2) タイプ使用量 (種類数)、(3) 多様性を調査する。

まず、(1) のトークン使用量についてであるが、1000 語当たりの調整頻度に換算する。この計算に必要な総語数が『日本語学習者書き言葉コーパス』には示されておらず、同コーパスには作文ごとの総文字数が記載されているのみである。そこで、30 本のサンプル作文を選び、語数と文字数の関係を調査したところ、平均で 1 文字=0.6219 語という比率を得た。この比率に基づき文字数の情報を語数推定値に変換した。

次に (2) については学生作文及び母語話者ブログに出現するすべてのオノマトペのタイプ数を調査する。一般に語彙全般の研究であれば、トークン数が増えていけばタイプ数は自然に減少するとされる。つまり、トークン数の異なるデータセット間でタイプ数を比較することは避けられる。しかしながら、ほぼ無限である語彙全般とは異なり、オノマトペの場合、総量がある程度決まっていると考えられる。そこで、ここでは約 1000 万語という巨大な規模を持つ日本語ブログに出現するオノマトペのタイプを一般的な作文で使用できるオノマトペの外枠として定めたい。各学習段階の学習者がそれに対してどの程度のオノマトペを使用できているかを比較する目的から、あえて調整を行わず、タイプ数の変化を見ることとする。

(3) の多様性というのは、限られた作文の中でどの程度多様にオノマトペを使っているかを示す指標である。具体的には学習者が使用したオノマトペのトークン使用量をオノマトペのタイプ数で割ることで求められる。また、コーパスサイズに顕著な差がある場合には自然対数に変換したタイプを自然対数に変換したトークンで割った Herdan の C 値などが推奨されている (石川, 2012)。本章では、Herdan の C 値を使用する。この値が高ければ学習者は様々なオノマトペを少数回ずつ使用していることを示し、この値が低ければ学習者は限られた数のオノマトペを繰り返し何度も使用していることを示す。一般に、日本語オノマトペ能力の発展という観点から考えれば、多様性の値が高まっていくことが予想される。

RQ2 では、それぞれの学習段階に使用された語のうち、上位 10 語を抽出して質的に比

較する。また、学習段階（一年生前期，二年生前期，二年生後期，三年生前期の4時期＋母語話者）を第1アイテム，学習者が使用した45種類のオノマトペを第2アイテムとして，コレスポネンス分析を実施する。ここで，コレスポネンス分析を実施するのは，分析によって得られる散布図を質的に検証し，4つの学習段階と母語話者がそれぞれどのような位置関係で配置されているかを見ることで，学習の進展と使用するオノマトペの変化の関係をとらえなおすためである。

RQ3では、『学習者作文コーパス「なたね」』の誤用分類法を利用して，誤用分類を行う。なお，『なたね』の誤用分類では誤用の内容に関する下位分類は16種あったが，実際のデータと突き合せたところ，オノマトペに当てはまる誤用は「文字種」「脱落」「付加」「活用」「混同」「語の共起」の6種のみであった。そこで，以下ではこれらの6つの誤用分類を利用して分析を行う。誤用のタイプ判定にあたっては筆者が分類を行い，判断に迷った場合は日本語母語話者の助言を得て決定した。

表 13-3 学習者作文コーパス「なたね」の誤用分類（一部）

type	example
文字種	コミュニケーション→コミュニケーション
脱落	建立すること。→ことである。
付加	以前は→以前
活用	存在しなく→存在せず
混同	全部→すべて
語の共起	男女平等している→男女平等が進んでいる

13.4 結果と考察

13.4.1 RQ1 オノマトペの使用量変化

すでに述べたように，本論文では使用量をトークン・タイプ・多様性の3つの観点から観察する。

13.4.1.1 トークン使用量

まず，トークン使用量の変化と母語話者使用量を比較した結果を見てみよう。

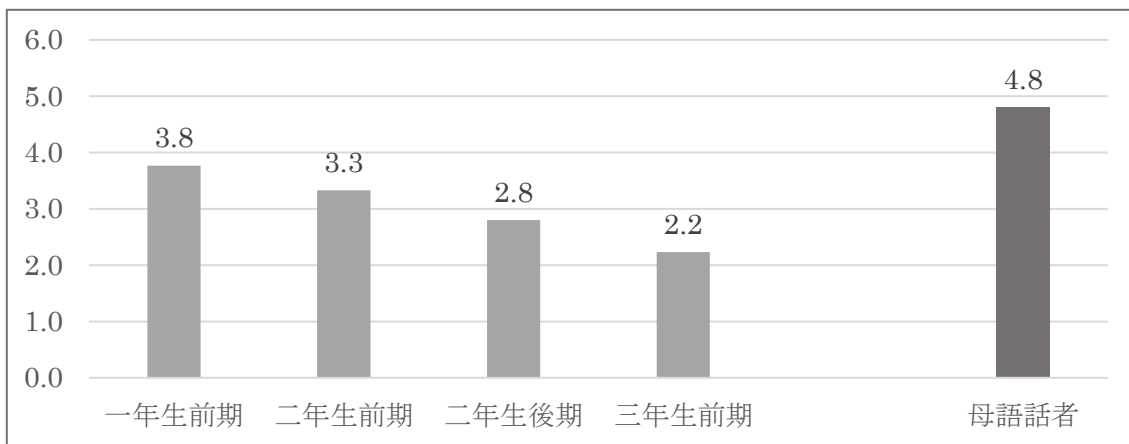


図 13-2 トークン使用量

上図に示されるように、予想と反しオノマトペトークン使用量は学習時間の増加に伴い、次第に減っていく傾向が明らかになった。なぜ、このような結果となったのであろうか。ほとんど同じテーマだと思われる一年生 1 回目の「信頼」と三年生の最終回の「自立・愛など」の 2 つの作文を例として以下に挙げてみよう。これらは同一学習者 (ID : d28) によるものである。

作文 (ID : d28)	
一年生前期	人間と人間の間ではもちろん信頼がある。では、人間と動物の間はどう、私は小鳥のペットがいる。名前は「九九」である。動物が好きだから、私は毎日九九を <u>ちゃんと</u> 飼ってやった。暇な時、九九と遊びたかったが、指を籠に入れる度に、九九にかまれた。「ああ、九九はあまり私のことが好きではないようだ。飼ってやるのに。」と私はいつも深く感嘆した。でも、私はいつものように、 <u>ちゃんと</u> 九九を飼ってやった。平日母は私に九九を私の部屋へ持たせなかった。でも、その時家の後に工事があつて、騒音が出てきた。だから、昼間私が九九を自分の部屋に置いた。ある日籠を部屋に持つのは忘れたまま、学校へ行った。授業中何となく外を見ると、雨が降ってきた。放課後急いで家へ戻って見たら、庭に九九の籠はもう雨に濡れて、九九もほとんど濡れてしまった。九九が風邪を引かないように、九九を持って、獣医の所に行った。九九は大丈夫だった。安心して、九九を抱いて家へ帰った後で、九九の籠を新しくて、柔かくしてやった。その後

	<p>九九に穀物をやった時、九九は時々うれしそいに鳴いて、食べた。私は指を籠に入れた時、九九もあまりかまなかった。「よし、<u>だんだん</u>私のことが好きになってきた。よかった。」ある日九九が食べた後で、私は再び指を出した。そうすると、九九は私の指に止まって、鳴いた。私は<u>びっくり</u>したが、そのながら静にした。稍稍経って、九九は私の指に眠ってきた。私はもっと驚いた。人間と付き合う時、心をこめて、<u>きっと</u>自分を信頼するようになる。同じようにペットに対して態度も重要である。そのため、九九は私を信頼するようになった。結果は信頼であるが、プロセスは心である。</p>
<p>三年生前期</p>	<p>一番きれいなのは素顔なのである。というのは化粧することを否定するのではなく、自信を持って、夢を遂げるように頑張ることである。自分を失えば、困る。どんな場合でもそうである。こんな経験がある。高校一年生の時、新しい学校に入って、回りは知らない人ばかりだった。「何の特別な才能を持っていない私、どうしよう。皆強そう。私、かなえない。」と私は半学期の間<u>ずっと</u>落ち込んでいた。休みの日家へ帰っても、両親に口に出したくなくて、部屋に閉じこもることが多かった。たまにペットの小鳥の九九と遊んだ。たぶんその時自分が落ち込んでいるせいか、九九も一人でさびさそうだと思って、もう一匹の小鳥を仲間として買ってあげようと思った。九九はハッカチョウである。が、買う時はハッカチョウがいないと教えられた。仕方がなくて、私はいい加減な気持ちで一匹の小鳥を買ってきた。七七と呼んだ。種が違うから、二匹の小鳥がうまく行くかなと私は心配した。<u>びっくり</u>したことに、三日間もたたず、九九と七七はよく一緒に鳴いたり遊んだりするようになった。#察の結果、七七は自分の美しい声で認められるらしかった。勝手な結論かもしれないが、当時私は勉強になったような気がした。学校に戻って、私は昔の明るい性格で積極的にクラスメートと意見を交わしたり、何かについて論ずたりした。そして、意識的に自分の欠点などを隠そうともしなかったが、皆はやばり認めてくれた。気障な真似は嫌われるに違いない。素顔で自分を現し、ありのままががんばるのは何もかもキーワードである。</p>

上記の2つの作文は内容において非常に似ているが、学習者の習熟度の上昇は明らかである。たとえば、一年生前期の作文では、「稍稍」(下から4行目)のように中国語の単語をそのまま日本語の中で使ってしまふような例も三年生前期では一切見られなくなっている。しかしながら、オノマトペに注目すると、一年生前期においては「ちゃんと」2回、「だんだん」1回「びっくり」1回、「きっと」1回、合計5回のオノマトペ使用があった

のに対し、三年生前期においては「ずっと」と「びっくり」が1回ずつ、合計2回のオノマトペ使用となっている。一般に、習熟度が上昇しているのであれば、日本語の語種の中で難度が高いと思われるオノマトペの使用の総量も増えていくと思われるわけであるが、にもかかわらず、学習者のオノマトペ使用量が減っていることについては、学習者の学習段階が進む過程で日本語のフォーマリティに対する意識がより敏感になったという可能性が考えられる。たとえば、一年生において使用していたオノマトペのうち、「ちゃんと」は『類語例解辞典（小学館）』によれば、話し言葉で多く使う語とされる。また、筆者の第9章の研究においても「ちゃんと」が極めて話し言葉性の高い語であることが確認された。すなわち、一年生の段階においては学習者が話し言葉と書き言葉の差や日本語のフォーマリティの差について十分意識をせず、くだけた口語的なオノマトペを多く使っていたと考えられる。一方、三年生前期において使用される「ずっと」「びっくり」の2語についてはいずれもこうしたフォーマリティ制約は存在しない。すなわち、学習者は学習の段階が進む過程でオノマトペについてより正確な知識を持ち、それによって真に文脈に応じたオノマトペだけを選択的に使うようになったのではないかと考えられる。

今回の結果はオノマトペの能力の上昇が必ずしもオノマトペのトークン数の上昇という形で表れない可能性があるということを示している。

一方、日本語母語話者の方に目を転じると、日本語母語話者のブログにおけるオノマトペ使用量は学習者の一年生前期の段階と比べると1ポイント、三年生前期と比べると2.6ポイント多いことが明らかになった。すでに考察したように、学習者のオノマトペ知識が増加する中で、場に応じた適切なオノマトペ選択を行うようになり、結果としてオノマトペのトークン数が減っているのだとすれば、日本語について完全なフォーマリティ判断ができる母語話者がより多くのオノマトペを使っていることは一見矛盾する結果とも見える。ではなぜ、母語話者ブログにおいてオノマトペを特に多く使用しているのであろうか。これはブログというものが多くの読者に読まれ、読者に評価されることを念頭に書かれていることと関係していると思われる。たとえば、以下の用例を見てみよう。

母語話	5月5日（月曜日）千葉県にて干潟であり鳥さんに会えないまま、 <u>しゅん</u> として、干潟のまわりをぐるっとまわっていたら、「ギョシギョシ」「 <u>ギョシギョシ</u> 」元気に声が響く。オオヨシキリさんの声を今期最初に聞いたのは4月二十日くらいだったかな？声
-----	--

者	を聞いてもなかなか、姿をあらわしてくれてなかったけれど、 <u>ヒョッコリ</u> と葦の上のほ
ブ	うにきてくれました♪先ほどまで鳥さんとほとんど会えてなかったので急いで <u>パチリ</u>
ロ	しなくっちゃ。いつも歩くときは一脚を短めにして歩いているのでイザというときが来
グ	るとちょっと困る。一脚を伸ばしている間に飛んでしまったらどうしよう。エ〜〜イ！
	短くなっている一脚ごと手持ちにしちゃえ〜。 <u>プルプル</u> と腕が震えながら撮影です(笑)
	どうにか写ってくれたオオヨシキリさん、この <u>ギョシギョシ</u> が、鳥さんにあえなくて寂
	しかった私たちの心を応援してくれているように思えましたあ(笑) <u>パチリ</u> したあと、
	動画でも撮影しました。(一脚のばしてネ(笑)) オオヨシキリの <u>ギョシギョシ</u>

上記には6種類合計10回のオノマトペが使用されている。そこ中には、「ギョシギョシ」「パチリ」といった擬音語、「ぐるっ(と)」「ヒョッコリ」「プルプル」といった擬態語、「しゅん(と)」といった擬情語など、どちらかといえば話し言葉的でくだけたニュアンスを持つものが多い。一般に、人に読まれる文章では一定のフォーマリティが要求されるが、ブログの場合、過度にフォーマリティを高くしてしまえば、自尊的・自慢的なニュアンスが生じ、読者の反発を生むことも予想される。つまり母語話者はブログという特殊な産出タイプにおいて意図的にフォーマリティを下げ、読者の反感を防ぐ工夫を行っており、このため多くのしばしば話し言葉的なオノマトペを使用しているのではないかと考えられる。

ここで注目すべきは、学習者にとっての作文が母語話者にとってのブログとは異なり、個人の思いを自由に伝達し読者の共感を得る目的で書かれたものではなく、あくまでも作文の授業での課題として与えられたものであったということである。このように考えてくれば、学習者のオノマトペ知識の高まりによってオノマトペの使用量が減ってくるのではないかという仮説と、にもかかわらず母語話者の方が多くのオノマトペを使用しているという観察結果が矛盾なく解釈できるだろう。

13.4.1.2 タイプ使用量

学習者作文及び母語話者のブログに出現するオノマトペの種類数を調査したところ、以下の結果を得た。

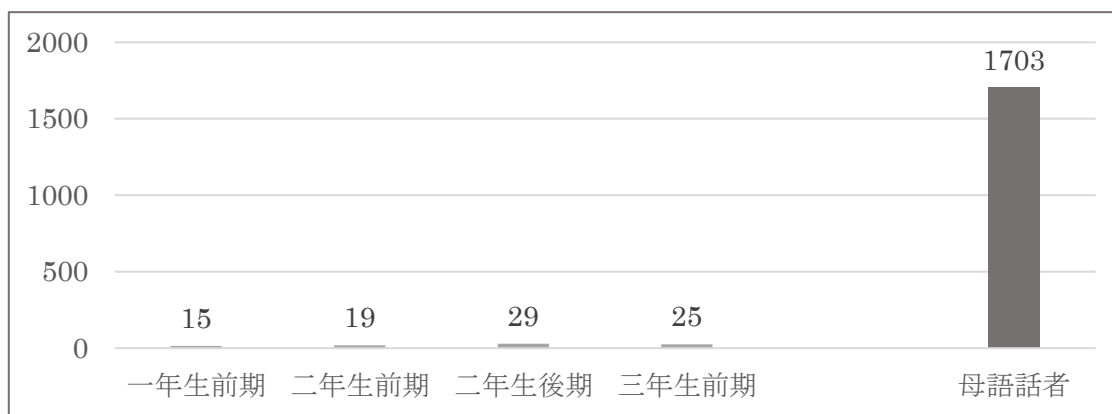


図 13-3 タイプ使用量

母語話者が使用したオノマトペのタイプ数をこうした作文で使用できるオノマトペの上限枠と仮定すると、母語話者の使用量を 100%とした場合、各学習段階の学習者が使用するオノマトペタイプの割合は、0.88%→1.12%→1.70%→1.47%のように上昇している。3年間を通してみると、二年生後期から三年生前期にかけて若干の減少は認められるものの、全体としてみれば使用できるオノマトペのタイプ数は増加しているように思われる。このことは、13.4.1.1 の観察結果とも符合する。もっとも、最もタイプ数が多かった二年生後期に限っていても、母語話者との間には 59 倍の差が存在する。たとえば、以下の語は母語話者が高頻度に使用しているものの、学習者が全く使用していないオノマトペの一例である。

たっぷり、すっきり、きちん（と）、あっさり、さっぱり、ぱっ（と）、ぴったり、ぎりぎり、じっくり、めちゃくちゃ、じっ（と）、きらきら、きっちり、さっ（と）、だらだら、ゆったり、すっ（と）、そっ（と）、ちら（と）、しっとり

今回の検証では、学習者作文の種類と量が限られていることや母語話者ブログとは異なり学習者の作文は高度なフォーマリティが要求されていたなど、いくつかの違いはあるものの、こうした日本語教育における高頻度オノマトペを一度も学習者が使用できていないことは、学習者のオノマトペ習得の課題の 1 つを示すものとなり、指導の手がかりにもなるだろう。

13.4.1.3 多様性

最後に、多様性を調査したところ、以下の結果を得た。

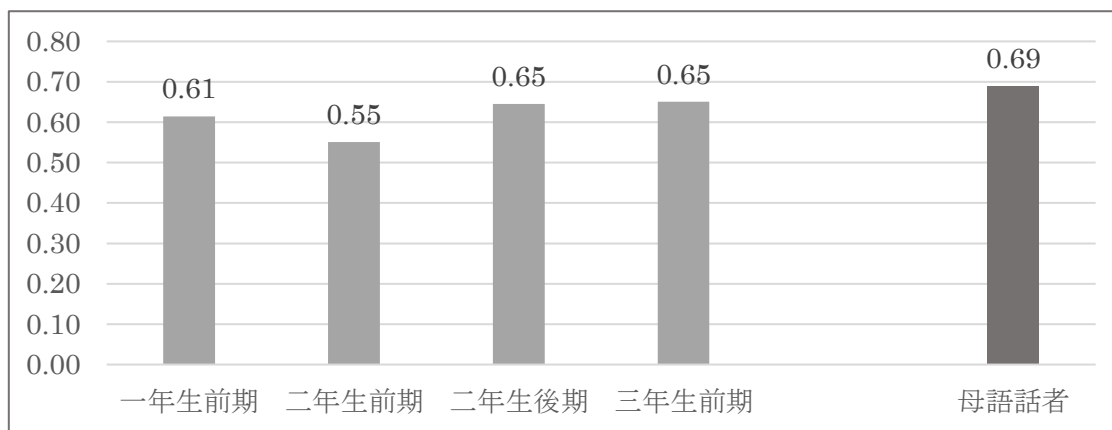


図 13-4 多様性

上図に示されるように、多様性は一年生前期から二年生前期にかけて減少し、その後上昇していく傾向がある。今回使用する「東北師範大学データ」では、一年生のデータは一回しか取得されていないため、連続的な変化を見るには、二年生以上に限ってみることが妥当であろう。そうした観点から再びデータに注目すると、一年生前期から二年生前期にかけて減っているということを除けば、二年生前期以降は次第に増加していることが確認できる。このことは、学習段階が進むにつれて、学習者が少数のオノマトペを繰り返し使用する段階からより多様なオノマトペをまんべんなく使用する段階に変化していることを示す。しかし、これもまた、母語話者と比べると、まだ大きな差が存在する。すなわち、母語話者は、いわゆる学習段階が進んだ日本語学習者よりも、はるかに多様なオノマトペをよりまんべんなく使用しているといえる。

以上でオノマトペの使用量を3つの観点から概観してきた。まず、トークンについては、次第に減少する傾向が確認された。タイプについては、次第に上昇する傾向が確認された。多様性についても、上昇する傾向が確認された。以上を総合すると、学習の段階が進むにつれて、使用するオノマトペの幅は増加するものの、学習者はオノマトペ使用よりも作文のフォーマリティに主に関心に向けており、結果としてオノマトペの総量は減少しているという傾向が認められた。また、データサイズに違いがあるにせよ、段階の進んだ学習者であっても、使用できるオノマトペのトークンとタイプはそれぞれ 50%、1.5%、94%にとどまることも示された。

13.4.2 RQ2 使用する具体的なオノマトペ変化

まず、それぞれの段階において書き手が使用する上位 10 語を調査したところ、以下の表を得た。

表 13-4 上位 10 語の比較

一年生前期	二年生前期	二年生後期	三年生前期	母語話者
だんだん	だんだん	だんだん	ずっ (と)	しっかり
ずっ (と)	ずっ (と)	ずっ (と)	きっ (と)	ずっ (と)
きっ (と)	ちゃん (と)	きっ (と)	だんだん	ちゃん (と)
びっくり	きっ (と)	ちゃん (と)	ちゃん (と)	きっ (と)
はっきり	しっかり	のんびり	しみじみ	ゆっくり
ちゃん (と)	はっきり	はっきり	びっくり	びっくり
どんだん	どんだん	しみじみ	はっきり	そろそろ
しみじみ	そろそろ	びっくり	しっかり	すっきり
のんびり	びっくり	すっきり	ぼんやり	どんだん
しっかり	ぼんやり	どんだん	どんだん	たっぷり

全体を概観すると、学習者と母語話者間で重複しているものもあるが、同時にいくつかの重要なずれも認められる。ここでは、(1) 母語話者が多用する「しっかり」「ずっ (と)」「ちゃん (と)」の 3 語について学習者の使用傾向は母語話者に近づいていくか、(2) 母語話者が多用しないオノマトペの中で、なぜ学習者は「だんだん」を特に高頻度で使用するのか、という 2 点についてそれぞれ分析を加える。

まず 1 点目についてであるが、もし学習段階が進むにつれて母語話者に線形的に近接しているとするならば、たとえ初期においては順位が下であっても、学習段階が上がるにつれて順位が上昇し、最終的には母語話者と一致するはずである。こうした観点で確認を行ったところ、以下のような結果を得た。

表 13-5 順位変化

オノマトペ	一年生前期	二年生前期	二年生後期	三年生前期
しっかり	10位	5位	ランク外	8位
ずっ(と)	2位	2位	2位	1位
ちゃん(と)	6位	3位	4位	4位

上表に明らかなように、「ずっ(と)」に関しては初期の段階から高頻度で使用できおり、かつ三年生前期になると母語話者よりも高い順位となった。この語については習得上の問題は比較的小さいと思われる。一方、「しっかり」についていえば、順位は10位でスタートし、途中5位まで上昇するものの、二年生後期になると再びランク外となっており、三年生前期になると8位となった。これは母語話者に近接しているとは言い難い。「ちゃん(と)」についていえば、二年生前期に若干順位が上昇するものの、全体として順位はむしろ下がっているように見える。すなわち、3語の中でいうと、「ずっ(と)」に関しては比較的問題が少なく、「しっかり」と「ちゃん(と)」については問題が多いことが明らかになった。ブログと作文コーパスでそれぞれのテーマが違ふことや想定する読者が違ふという問題はあるにしても、少なくとも母語話者が特に多く使用する3語について学習者の使用量が同じように増えていくわけではないことが示された。

では、重要3語についてこのような違いが存在するのはなぜであろうか。ここでは、(a) フォーマリティ影響、(b) 教科書の影響、(c) オノマトペ知識の不完全性という3つの可能性について、順に検討していくこととしたい。まず、(a) に関しては、RQ1の検証でも見たように、学習者の作文はフォーマリティを志向し、母語話者のブログは意図的にフォーマリティを落とすことを志向するという違いが存在することから、オノマトペの語の持つフォーマリティの差が違いに影響を及ぼしている可能性が考えられる。今回の3語については、辞書を調べたところ、特に話し言葉的やくだけていると判断されるのは「ちゃん(と)」のみである。仮に、学習者は作文テーマのフォーマリティにより敏感になったが原因で意図的に「ちゃん(と)」の使用を控えたのだとすれば、よりフォーマリティの高い「しっかり」については順位の上昇が容易に予想されるが、実際のところ「しっかり」については上昇傾向が確認されず、フォーマリティの影響だけでは説明できないことが示された。このように、作文とブログという媒体の違いが原因となってこうした違いが生まれているという可能性は完全に認められなかった。次に、(b) についてであるが、下記は当時使われていた教科書『日本語』における3語の初出課を示したものである。

表 13-6 初出

	オノマトペ	初出
ずっと (と)		12
しっかり		40
ちゃん (と)		47

上表に明らかなように、「ずっと (と)」は最も早い段階で教科書に提示されており、学習者も早くから使用に馴染んでいたと思われる。このため、「ずっと (と)」が比較的母語話者に近づいていくという可能性は確認できた。最後に (c) についてであるが、用例分析から考えることとしたい。下記は母語話者及び学習者が使用した「ずっと (と)」用例である。

- (1) そのあと英字新聞を ずっと 読んでました。(母語話者ブログ)
- (2) ずっと 本を読んだらよくないよ。(d8, 自立・愛, 三年生前期)

上記の例に示されるように、読むという行為が継続することを表す場合、母語話者と学習者はともに「ずっと (と)」を使用している。すなわち、「ずっと (と)」については学習者の側でその意味が正しく理解されており、母語話者同様の判断で必要に応じて当該語が使用できていると考えられる。しかしながら、「しっかり」については、学習者と母語話者間で使用傾向のずれが認められる。以下の例を見てみよう。

- (3) 自身がチームから離れている間も、しっかりと練習を続けた選手たちを褒めたたえた。(母語話者ブログ)
- (4) でも、これから、よく練習したら、上手になれると思う。(d25, 冬休み, 二年生後期)
- (5) 故郷が大好きです。故郷の発展するために、よく (しっかり) 頑張ろうと決心しました。(d22, 故郷, 二年生後期)

母語話者は「練習」という概念に即して「しっかり」ということを用いているが、学習者は同じ文脈で「よく」という言葉を使っている。日本語で、「よく練習する」は「練習の頻度が高く、客観的に良い結果が得られた」というニュアンスを含意し、「しっかり」は「練

習を着実・真剣に行うという意欲や意志」を含意する。「よく」に比べ、「しっかり」はより意志性が強いものである。こうしたニュアンスの違いを学習者は十分に理解できていなかった可能性が示された。たとえば、用例(5)では母語話者の判断により「よく」は「しっかりと」修正されました。というのも、「よく」という言葉の客観性が強く、意志性が弱いからである。「頑張った」という客観的な結果を述べる場合は「よく」が言えるが、「頑張ろう」という強い意志を表す場合は「よく」との共起関係が許されにくい。学習者はこのような誤用を犯すのも、「よく」に対する理解が不完全なことを示す一方、使うべき「しっかりと」に関する知識が不完全なものであることを示している。

最後に「ちゃん(と)」の用例を見てみよう。

(6) 人は自分のことをちゃんと考えてくれる人が好き# (母語話者ブログ)

(7) なぜ自分自身のことをよく考えないのか。実力があれば、この就職難の時代でもよく生きられると私が思っている。(d24, 大学就職難について, 二年生前期)

上記の2つの用例にも示されるように、同じ文脈において学習者と母語話者間で違いが存在する。「ちゃんと考える」には「考えて当然のことを着実にするようす」というニュアンスが含まれているが、「よく」にはそうしたニュアンスが読み取れない。このことから、「しっかりと」と同様、学習者は「ちゃん(と)」の意味を十分に理解できていなく、母語話者同様に使用できていないことが示された。

以上で母語話者が特に多く使用する「しっかりと」「ずっと(と)」「ちゃん(と)」の3語に限って、なぜ「ずっと(と)」は母語話者に近づく傾向がみられ、「しっかりと」と「ちゃん(と)」はそうした傾向がみられないのかについての3つの可能性を見てきた。3つの可能性のうち、一部の語についてはフォーマリティの影響がみられるが、学習者が母語話者と同様にオノマトペを使えるかどうかは教科書影響及びオノマトペ知識に対する理解度の高さに強く影響されることが明らかになった。

次に、問題の2点目として学習者による「だんだん」の高頻度使用について考えてみたい。母語話者はほとんど使われていないにもかかわらず、学習者は極めて多く使っている語が存在する。代表の1つは「だんだん」である。「だんだん」は学習者にとって1位、1位、1位、3位となり、若干順位は最後で下がるものの、一貫して高頻度オノマトペになっている。では、なぜ学習者は「だんだん」をこのように好むのであろうか。「だんだん」の

教科書における初出は 25 課で、比較的に出現時期が早く、また、それを言い換える一般語彙としては「徐々に」「次第に」も考えられるが、それらはいずれも「だんだん」より出現時期が遅い。くわえて、中国語に置き換えると「渐渐」「逐渐」となり、日本語と中国語は完全同義関係と思われ、中国人日本語学習者にとっては理解しやすく、結果として作文において「だんだん」が多く使用されたように思われる。

以上で段階別の学習者が多く使うオノマトペとそれらが母語話者の場合とどのように異なっているかを概観してきた。しかし、以上の分析はあくまでも限られたサンプル後についてのもので、関連するオノマトペを全体としてみたものではない。そこで、学習者が使用した 45 種のオノマトペ全体を対象としてコレスポネンス分析を行ったところ、以下の結果を得た。

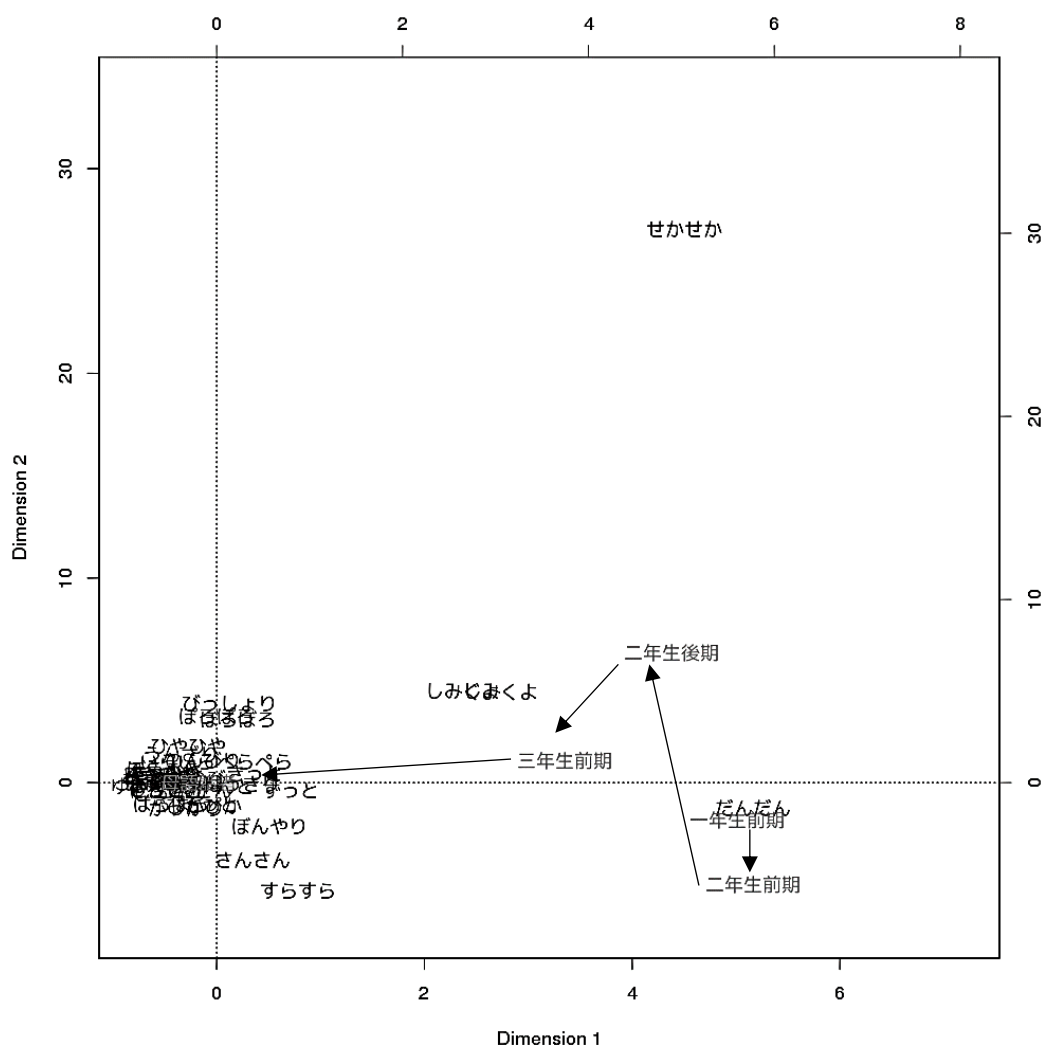
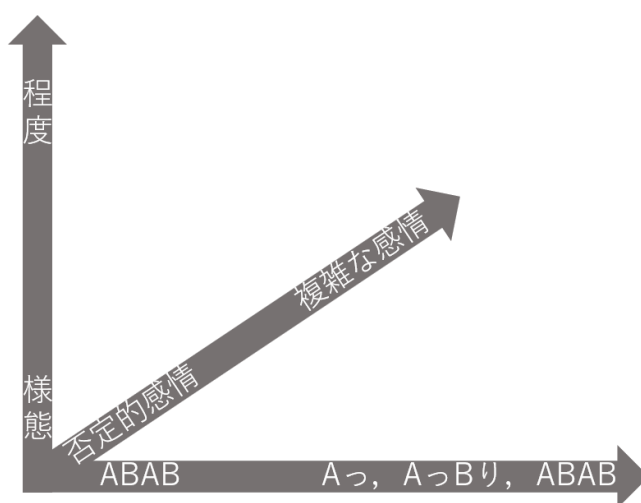


図 13-5 散布図

第1次元（横軸）の寄与率は87.13%であり、第2次元（縦軸）の寄与率は6.07%であった。上図に関して言えば、上下の区分よりも左右の区分が絶対的に重要であるといえる。この点を考慮に入れて上図を見ると、日本語母語話者は左側に、中国人日本語学習はその学習段階にかかわらずすべて右側に布置されることがわかった。このことは、日本語母語話者と中国人日本語学習者のオノマトペの使用が本質的に異なっている可能性を示す。次に、第2次元に注目すると、下部に一年生前期と二年生前期が、上部に二年生後期と三年生前期が布置されることがわかった。第2次元の寄与率は高くはないものの、第2次元は上方が学習の後段階を、下方が学習の前段階を表していると考えられる。この点をふまえると、第1アイテムの分類に関しては、以下の3分類が考えられる。

位置	学習段階	特徴語	
第4象限	一年生前期, 二年生前期	だんだん, すらすら, さんさん, ぼんやり, ずっ(と)	初期
第1象限	二年生後期, 三年生前期	せかせか, しみじみ, くよくよ	中期 後期
第2象限・ 第3象限	母語話者	ぐっ(と), こっそり, じっ(と), すっかり, そっくり, どきどき, ふらふら, ほっ(と), わくわく	母語話者

以上を見ると、学習段階の上昇及び母語話者への近接は形態・描写の対象・描写される感情タイプの3つの観点によって以下のような複合的な拡張モデルを構成していると考えられる。



まず、形態については学習者が ABAB 型を好む傾向に対し、母語話者は「ABAB」型のみならず、「A っ」、「A っ B り」、「ABAB」型など多様な形のオノマトペを好む傾向がある。次に、描写する対象について、一年生前期と二年生前期についていえば、自分自身の行動の様態やその変化を表す語が多いことがわかる。

(8) その中でだんだん明るくなってくる自分に気づいた。(d4, 信頼, 一年生前期)

(9) 太陽がさんさんと私たちの笑顔をうつってくれた。(d4, 真の幸せ, 二年生前期)

(10) 私はそこでぼんやりして子供の時の思い出がどンドン... (d7, 失われつつあるもの, 二年生前期)

(11) もう一年間日本語を勉強した。すらすらと話せないまでも、簡単な会話な。(d16, 私と日本語, 二年生前期)

上記のいずれの用例においても、学習者は自分のことや自分と関係するものの描写においてオノマトペを使っている。すなわち、学習者は自分自身のことの描写・観察においてオノマトペを使うようになってきているといえるだろう。ところが、学習者の段階を超え、母語話者になると、「ぐっ(と)、こっそり、じっ(と)、すっかり、そっくり」など、物事の程度を示すオノマトペの使用が多くなってくる。

最後に描写する感情について言えば、二年生後期以降の段階になる自分自身の内面的な思考にオノマトペを使うことが多い。しかも、否定的な語が多いことに気が付く。例えば以下の例を見よう。

(12) 仕事量が急に上がってきて、毎日せかせかした仕事の雰囲気、夜眠ねなくなつて (d28, さらば、わがストレス, 二年生後期)

(13) 人間の弱さをしみじみ感じながら、自分は何ができるか... (d2, 自分を信じてあげる, 三年生前期)

(14) 試験の申込みができなかった。毎日くよくよして落ち込んでいた。(d12, クラスメート, 二年生後期)

上記の中での「せかせか」「しみじみ」「くよくよ」はいずれも生活に対する否定的な感情を表しており、学習の初期段階は生活の様子を表すのにオノマトペを多用していたが、

後期の段階になると、より内面的な描写にオノマトペを使うようになった。ところが、母語話者は「どきどき、わくわく」のようなより複雑な感情にオノマトペを使う傾向がある。これらは学習者が後段階において使用した「しみじみ」「くよくよ」に比べると非常に定義しにくい感情である。たとえば、以下の用例を見てみよう。

(15) 集まった選手はみんな半年前に行われた世界大会の出場選手で、出場さえ出来ていない僕は、選手達を見てちょっとワクワクしておりました。その中でも一番目を引いたのが、会社の上司に激似の選手がいたことです。この選手はニュージーランドの選手で、世界大会にも出場していました。

上記の用例に示されるように、「わくわく」というのは興奮しているわけでもなく、緊張しているわけでもなく、2つの感情が混ざっている感情を表しているといえる。すなわち、母語話者はほかの言葉で言い換えができない、オノマトペしか表現できないような特殊な心理状態を示すときにオノマトペを選考するのではないかという可能性が示された。

このことから、学習者のオノマトペ知識の発達は何らかの単一観点で説明されるような単純なモデルではなく、オノマトペに関する言語学的な知識また、作文で取り扱おうとするテーマの性質にかかわる認知的な成長、さらに作文テーマに対するアプローチの変化などの多元的なモデルとしてとらえる必要があることが示されたといえる。

なお、学習者の3年間の変化についていうと、横軸で見ると、一年生前期と二年生前期は最も右側に布置され、二年生の後期はやや左側に布置され、三年生はさらに左側に布置されている。ここで注目すべきことは、学年が最も低い一年生前期と二年生前期が最も右側に布置されていることである。一般に日本語教育では、学年を単位として学習者の日本語能力の変化を議論する機会が多いが、このデータに関して言えば、オノマトペ使用についていうと、学年の切れ目ではなく、二年生の前期と後期の間でオノマトペ使用のある種の転換点が生じている可能性が考えられる。一般に中国の日本語教育では、二年生の後期の段階では日本語を専門とする大学生を対象とした大学日本語専攻生四級能力試験（全国高校日语专业四级统测，NSS4）や日本語能力試験 N1 を受ける学生が多い。このことから、試験に向けて教科書以外の参考資料を用いて勉強し、結果としてオノマトペの使用が大きく変化した可能性も考えられる。

13.4.3 RQ3 オノマトペの誤用タイプ変化

中国人日本語学習者は具体的にどのような誤用を犯しているのだろうか。「なたね」の誤用分類枠組みに基づき分類したところ、以下の結果を得た。

表 13-7 誤用数変化

タイプ	一年生前期	二年生前期	二年生後期	三年生前期	合計
混同	4	7	6	6	23
文字種	0	2	3	0	5
付加	1	1	2	1	5
活用	0	2	1	2	5
脱落	0	0	2	1	3
語の共起	0	0	2	0	2
合計	5	12	16	10	43

迫田 (2002) によれば、学習者の第 2 言語の習得プロセスは逆 U 字形のカーブを描く。この傾向は中国人日本語学習者の日本語オノマトペ習得にもあてはまる。一年生前期から二年生後期にかけて誤用が急上昇し、三年生になると習得が進んで誤用が少なくなる。Selinker (1972) が提唱した中間言語という概念に即して言えば、学習者の中間言語は二年生後期の段階で活発に再構成がなされているのではないかと考えられる。この段階を経て、学習者ならではの日本語語感が次第につくようになり、中間言語体系も更新され、結果として誤用が少なくなったと思われる。

以下では、各学習段階において 2 例以上の誤用が発生しているものに限って質的な観察を加える。

(a) 一年生前期

6 種類の誤りパタンのうち該当したものは混同と付加であった。逆に言えば、そのほかのものについてはそもそも学習者が使用を試みなかったため結果として誤用が発生していないと考えられる。混同については以下のような用例がみられた。

(16) 時間の流さは矢の如しで高校を卒業して先生と離れてもう一年間にもなる。身は先

生と離れているけどここはぞっと (ずっと) 先生と一緒にだ。(d4, 自動車と交通)

用例(16)に示されるように、「ぞっと」と「ずっと」は同じA型タイプのオノマトペであり、形は非常に似ている。学習者は似たような形のものを混同して誤りを犯したと思われる。

また付加については以下の用例がみられた。

(17) 今の中国では自家用車がどんどん増えてくるともなって、車が多すぎるということによる交通問題がますます厳しくなってくる。(d25, 自動車と交通)

「付加」というタイプの誤りは、本来不要なものを余計に使用したものである。(17)の用例ではオノマトペがない方がより自然な日本語になる。これを中国語に訳せばそれぞれ「随着现在中国的私家车越来越多，由私家车泛滥产生的问题也变得更加严重」となり、明らかに学習者の頭の中では、「どんどん」＝「越来越」のようにオノマトペ「どんどん」の意味を捉えている。確かに、単独から見れば、意味理解は間違っていないが、実際の文脈において、不自然な日本語となってしまった。このことから、オノマトペを教える際に、単に中国語訳を提示するだけでなく、実際の用例も一緒に提示する必要性が示された。

(b) 二年生前期

二年生前期になると、誤用の数は一年生前期の5例から12例と2倍以上に増える。最も多い誤用タイプは一年生前期と同様混同であった。混同タイプについては以下のような用例が見られた。

(18) 赤信号の作用は人々に注意させることである。赤信号に見合う時、きつと (必ず) 警戒せねならない。(d3, 赤信号)

上記は確かに一年生前期と同じ混同タイプの誤りであるが、性質は違っている。一年生前期にみられる混同は似たような形を持つものの混同であり、二年生前期になると、この段階における混同というタイプの誤りは形に関するものではなく、類義語間の選択に関するものであると思われる。「きつと」「必ず」は明らかな類義語であり、どちらを使うべき

かについては学習者に一定の日本語能力が要求される。

また、この段階では文字種、活用といった誤りもみられた。たとえば、以下の用例を見よう。

(19) では、毎日勉強したり、先生の話をつちやんど (ちゃんと)聞いたりして、もうだんだん上手になります。(d18, 手紙, 2007.11)

(20) 私はまだ二年生ばかりなのに何が怖いかと心をしっかりした (自問してみた)。(d4, 大学就職難について, 二年生前期)

用例 (19) に示されるように、学習者がオノマトペ「ちゃんと」を1つの語として認識しており、「ちゃん」+助詞「と」の構造を理解していないことがわかる。一般に、「ん」「っ」「り」で終わるオノマトペはほかの要素を修飾する際に、助詞「と」の結びつきが義務付けられている。このタイプの誤用は学習者がこのルールを十分理解していないことによるものであると思われる。

活用についていえば、オノマトペの持つ様々な用法の中で、「する」と結びついてサ変動詞となるのが非常に重要な用法の1つである。一般に、オノマトペは副詞とされており、このような動詞用法は比較的難しいとみなされる。しかしながら、すでに第8章で明らかになったように「する」と結びついて動詞となったオノマトペはすべて同じ振る舞いをするわけではない。たとえば、「びっくりした。」は言えるが、「しっかりした。」は言えない。用例 (20) の誤りを犯したのも学習者がこうした傾向を正しく理解できていないためであるといえるだろう。一年生前期ではこうした誤りはなかったわけであるが、積極的にオノマトペを使うようになった二年生前期では誤りのパターンが増えるということは興味深いものである。

(c) 二年生後期

二年生後期になると、すべてのタイプにおいて誤用が発生する。逆U字形理論でいうと、すでに述べたように、学習者の中間言語は二年生後期の段階で活発に再構成がなされているのではないかと考えられる。このうち2例以上の誤用が認められたのは混同・文字種・付加・脱落・語の共起の5タイプであった。以下、それぞれの用例を見ておこう。

(21) だからその自殺の問題について、早急な対処を必要としているのだと思う、もし対処を誤れば、死を選ぶ人がずっと(もっと)増える。(d31, 生命と仕事, 二年生後期)

(22) しかし、人類の展覧にしたがって、われらの地球の模様はだんだん(だんだん)悪くなるそうだ。(d31, 地球を守ろう, 二年生後期)

(23) これは最も私に感動させたの点だ。きっと彼の精神を学ぶつもりである。(d3, 感動した一冊の本, 二年生後期)

(24) みんなにもう一年半ぐらい会えなかったので胸がドキドキしまった(してしまった)。(d8, 冬休み, 二年生後期)

(25) ワンルームマンションに住んでいるのに、頑張ったら、美しい(きちんと片付いた)家になれるだろう。(d19, 感動した一冊の本, 二年生後期)

(26) クラスメイトからいろいろお世話なって、心からしみじみな(しみじみと), ありがたいを感じた。(d15, クラスメイト, 二年生後期)

用例(21)は二年生前期と同様、2つの類義語の混同による誤りである。「ずっと」と「もっと」はともに程度を表す語であるが、前者は以前より同程度が続くことを含意し、後者は程度が前より甚だしくなることを含意する。「増える」はもともとの状態より多くなるというニュアンスを持つので、「もっと増える」の方がより学習者が言おうとすることに合致する。

用例(22)では「だんだん」が「だんだ」に書き間違えられた。しかしながら、文字種の誤りは二年生にのみ見られ、学習の前段階及び学習の進んだ後段階においては該当誤りがみられなかった。このことから、文字種という誤りは発達の段階において一時的に現れた誤りであり、学習者の「気づき」さえあれば、容易に直されるものであると思われる。

用例(23)ではオノマトペ「きっと」がない方がより自然な日本語になる。中国語に訳せば「一定要学习他的精神」となり、明らかに学習者の頭の中では、「きっと」＝「一定」というようにオノマトペの意味を捉えている。しかしながら、そのまま応用すると、実際の文脈において不自然な日本語となってしまった。このことから、個々のオノマトペの持つ意味だけでなく、実際にどう使うべきかを示すため、当該語を含む用例の提示が必要になるだろう。

用例(24)では、学習者が「ドキドキしてしまった」を「どきどきしまった」に間違えた。二年生前期では、学習者はどのようなオノマトペが動詞用法を持つのかについて十分

理解できていなかったため誤りを犯したのに対して、この段階では、学習者はむしろ動詞となったオノマトペの活用ルールを十分に理解していないため誤りを犯したと思われる。

用例(25)は脱落の用例である。このタイプの誤用は本来使用しなければいけないのに使用できていないものを指す。これは、学習者が「きちんと片づいた」という言い方を正確に使いこなせていないことを意味する。

用例(26)の誤りの原因は「しみじみ」が形容動詞用法として使えないということを理解できていないため起こると思われる。「心から感じた」という動詞と共に起る場合、「と」を使用すべきであるが、該当学習者の中間言語体系の中では「しみじみ」がある種の形容動詞とみなされている。このような誤りが存在することから、個々のオノマトペについて、語義説明だけでなく、具体的な用法説明を行う必要性が示された。

(d) 三年生前期

最後に、三年生前期になると、16例まで増えていた誤用が一気に10例まで減少する、これは完全ではないものの、オノマトペの使用に関して中間言語の再構成がある程度完了しつつあることを示しているのではないかと考えられる。なお、2例以上の誤用に関して言うと、混同、活用であった。

(27) 私は漫画の内容に忘れていて、その後はだんだん(少しずつ)残った6冊買って来た。

(d13,長崎コラム)

(28) 私たちは毎日試験に合格するために一生懸命に勉強しても、自分の未来が見えなく、前途はまったくの闇だ。そう考えたら毎日疲れきってくよくよした(くよくよしてしまう)。

(d15,自立・愛, 三年生前期)

(27) においてはオノマトペ「だんだん」と一般語彙の「少しずつ」はいずれも漸次性を含意し、同じく中国語の「渐渐」「一点点地」に訳せるが、「だんだん」は受動的な変化を表すのに対し、「少しずつ」は能動的な変化を表す。学習者がこのような違いを十分理解していないことが誤用の主な原因である。混同は一年生前期から一貫して起こって最後まで消えない誤用である。内容的には一年生前期から似たような形を持つ語の混同から、類義を持つ語の混同に代わり、最後まで類義語の混同は消えなかった。これもまた、オノマトペを指導する際に、特に注意を払うべきことであろう。

(28) では連用形の「くよくよしてしまう」を使用しなければいけないのに、終止形の「くよくよした」を使用している。このことは、動詞となったオノマトペに関して、その活用上のルールを学習者が十分に理解していない可能性を示している。活用の誤りは二年生前期から見られ、三年生前期にかけても完全に消えなかった。最初はどのようなオノマトペが「する」と結びついて動詞となるかについて理解が不足しているため、学習者が誤用を犯したが、二年生後期や三年生前期になると、文脈の中における「する」の適切な活用形が選べないことが誤用の原因となっている。

以上、一年生前期から三年生前期までのデータを縦断的に観察することで、(1) 一年生前期から二年生前期にかけて誤用の数は急上昇するものの三年生前期になるとむしろ減少すること、(2) 一年生前期から三年生前期にかけてすべての学習段階において混同タイプの誤りが最も多かったこと、(3) 各誤用タイプの中で見れば、相対的に見て脱落や語の共起の誤りが少ないことが明らかになった。今回明らかになった結果は誤用を通して学習者のオノマトペ知識がどう連続的に変化しているのかを示すうえで興味深い結果であるといえる。

13.5 まとめ

以上で、横断学習者コーパス分析に加えて新たに縦断学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴ってオノマトペ使用傾向や誤用傾向がどのように変化するかを調査してきた。

RQ1 では、学習段階が進むにつれて、使用するオノマトペの幅は増加するものの、学習者はオノマトペ使用よりも作文のフォーマリティに主に興味を向けており、結果としてオノマトペの総量は減少しているという傾向が明らかになった。

RQ2 では、学習段階が進むにつれて、上位 10 語のうち母語話者の使用傾向に近づいていくものもあれば、近づいていかないものもあることが明らかになった。くわえて、コレスポネンス分析の結果より、一年生前期と二年生前期についていえば、形態において「ABAB」型が多いことと、内容においては自分自身の行動の様態やその変化を表す語が多いこと、二年生後期以降の段階になると形態としては引き続き「ABAB」型が多いが、内容においては自分自身の内面的な思考にオノマトペを使うことが増えていること、母語話者は物事の程度を示すオノマトペとより複雑な感情にオノマトペを使う傾向があることが明らかになった。

RQ3 では、学習段階が進むにつれて、誤用の数は二年生後期まで急上昇し、三年生前期にかけてまた減少するという逆 U 字形を描くことが明らかになった。この中で、一年生前期では、混同と付加、二年生前期では、混同・文字種・付加・活用、二年生後期では 6 種の誤用すべて、三年生前期では混同・付加・活用・脱落、に関する誤用がみられた。混同は一貫して見られ、特に類義語の使い分けができていないことによる混同は学習段階が進んでも消えなかった。

第14章 終章

14.1 本論文で得られた知見

分析対象としたオノマトペの種類や分析に用いたコーパスに関して更なる拡張の余地は残されているものの、本論文で行った調査分析を通して現代日本語のオノマトペの用法また学習者のオノマトペ習得の問題について一定の新しい知見を得ることができたと結論できる。

本論文は全3部、全14章で構成される。まず、第I部では研究の枠組みを説明した。序章において、本論文の位置づけと研究意義と重要性を述べ、その後、第2章では、研究対象とするオノマトペの名称、定義、分類及び一般語彙との関連性を概観した。次に、日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの位置づけとオノマトペ研究の現状を概観した。第3章では、従来のオノマトペに関する先行研究を、音韻的・形態的・統語的・意味的特徴および使用特性の解明を目指す日本語学の観点からなされた研究と、重要オノマトペの選定、オノマトペの教材収録調査、学習者のオノマトペ使用実態調査を目指す日本語教育学の観点からなされた研究、の2つに分けて整理した。第4章では、本論文で使用するデータ、調査対象とするオノマトペ及び使用する統計手法を体系的に説明した。

第II部では、オノマトペの言語的特性を解明するために、オノマトペを多角的に分析する。オノマトペについて議論しようとする場合、(1)重要語彙項目、(2)音韻特徴、(3)形態特徴、(4)統語特性、(5)意味特性、(6)使用状況、などについて正確に把握する必要がある。そこで、第II部に含まれる6つの章でこれらの問題を順に論じた。第5章では、母語話者の内省判断の集大成とされる辞書の体系的な調査と大規模コーパスの調査という2つの方法論により、日本語学および日本語教育にとって特に重要とされるオノマトペの選定を行った。第6章では、オノマトペの音韻的特徴をモーラ数、音素の種類、音素の結合パターン、の3つの観点からとらえ、一般語彙と比較しながら、オノマトペの音韻的特徴の解明を目指した。第7章では、オノマトペの形態特性に関して、既存のオノマトペ形態の分類枠組みの問題点を明らかにした上で、本論文におけるオノマトペ形態の新しい分類枠組みの提案と、学習者に優先的に提示すべき形態の特定を行った。あわせて、先行研究で指摘された個々のオノマトペ標識の持つ意味合いが母語話者の内省判断で支持されるかどうかの検証も行った。第8章では、オノマトペの統語特性に関して、オノマトペの後接要素の特性の解明、オノマトペが取りうる様々な品詞の中で特に重要な動詞用法に注目し、重要動詞化語の選定と動詞化の説明モデルの構築、スルと結合して動詞になったスル型オ

オノマトペ動詞の動詞としての自立性検証を行った。第9章では、オノマトペの意味特性を探るため、多義オノマトペの分析（「ぐっと」）、類義オノマトペ間の比較（「しっかり」／「きちん（と）」／「ちゃん（と）」）、オノマトペと類義一般語の比較（「だんだん」／「徐々に」「次第に」）の3点を行い、望ましい辞書記述の提案を行った。第10章では、オノマトペの使用環境と使用実態の関係性に注目し、コーパスに含まれる様々な内容ジャンルごとにオノマトペの出現傾向がどのように変化するか、話し手の性別や年齢といった属性によってオノマトペ使用がどのように変化するかを概観した。

第Ⅲ部では、以上で明らかになった知見を日本語教育に生かす方向を考えるため、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の問題や、既存教材の問題点を探り、その改善の方策を提示することを目指した。第11章では中日両言語におけるオノマトペの対照を行い、「枝分かれ率」という指標を独自に考案することによって中国人日本語学習者にとってのオノマトペ習得難度を予測した。第12章では使用量・多様性・使用語・誤用の点で、中国語母語話者は日本語母語話者や他の学習者と比べ、どのような特徴を示すのか、習熟度の異なる中国語母語話者はそれぞれどのような特徴を示すのかを横断学習者コーパスを用いて調査し、中国語母語話者のオノマトペ使用の特性を明らかにした。第13章では横断学習者コーパス分析で得られた知見を新たな観点から確認するため、新たに縦断学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴ってオノマトペ使用傾向や誤用傾向がどのように変化していくかを観察した。

14.2 本論文の教育的応用

すでに述べたように、本論文においては日本語オノマトペに関して多くの知見が得られたわけであるが、最後に残された問題はこれをどのように中国人日本語学習者向けの日本語教育に応用していくかということである。すでに3.2.2節でも述べたように、中国国内で使用されている日本語教材においてオノマトペを独立した文法項目として取り上げ、詳しい解説を行っているものはほとんど存在しない。この点をふまえると、オノマトペに特化した教材や指導法の開発が今後の課題になるといえるだろう。

オノマトペ教材の開発において重要なことは「意識化」（コンシャスネス・レイジング：CR, consciousness-raising）である。学習者が目標言語の文法形式や表現に意識を集中させることで習得が促進される。Long は言語教育においてフォーカスオンフォームズ、フォーカスオンミーニング、フォーカスオンフォームの3つのアプローチを区別し、フォーカ

スオンフォームというアプローチを提唱している。従来オノマトペというのは文脈の中で提示され、全体的な意味を文脈的に理解することが重要視されていた。この点において、フォーカスオンミーニングのアプローチが適応されていたといえるだろう。しかしながら、学習者がオノマトペの全体像について一定のイメージをつかみ、オノマトペに対してより敏感に反応することができるようになるためには、オノマトペという言語形式に学習者の注意を向ける必要があるだろう。オノマトペは文脈と切り離されるものではないが、オノマトペに注意を払いながら前後の文脈をあわせて理解・算出していくことを促すような教材が理想的であるといえる。

では、学習者がオノマトペに対してより多くの「気づき」(awareness noticing)を持つようにするには、どうすればよいのであろうか。Longは「インプットに含まれる言語構造や言語表現に対する自然な気づきを持つことで、意味が形式にマッピングされ、両者の取り込み(intake)が同時におこると考えた(石川, 2017, p.198)」。筆者はこの点に関して、オノマトペに関するいくつかのクイズを用意し、学習者にそれに答えさせることで、オノマトペの基本的な言語事実に関する驚きをもった「発見」の機会を与えることで「気づき」を促すことが重要だと考えている。J.S.Brunerにより提唱された「発見学習」も、教師に提供された学習課題によって学習者が自分で学習すべき知識を発見し、内発的動機づけを高め、学習していくことを推奨している。

以上のような観点をふまえ、ここではすでにオノマトペについて一定程度馴染んでいる中上級学習者を対象としたオノマトペ知識の整理のための学習シートの原案について示すこととしたい。本論文で得られた各種の知見の一部を学習者に問い、オノマトペに対する意識を高めることを目的としている。以下は論文における各章との対応表である。

表 14-1 対応表

該当章	該当質問
第5章	Q1
第6章	Q2, Q3
第7章	Q4, Q5
第8章	Q6, Q7, Q8
第9章	Q9, Q10,

第 10 章	Q11, Q12, Q13
第 11 章	Q14
第 12 章	Q15
第 13 章	Q16

なお、学習者はオノマトペに関して専門的な文法知識や前提知識を持っていないと考えられるため、学習シートの開発にあたっては、(1) 設問の中で具体例を使って基本的な概念をわかりやすく説明すること、(2) 何らかの条件を示し、それに合致するオノマトペを書かせるなどしてオノマトペそのものの知識を確認するとともに、オノマトペとその特殊な属性との間の関係に意識を向けさせること、(3) オノマトペの持つ特性の様々な観点のうち、多いもの少ないものを常に問うことによって学習者にオノマトペ用法の「標準性・典型性」に対する理解を高めること、の3点に配慮して学習シートの開発を行った。

以下はその問題の一例と学習シートのフィードバックで学習者に示す解答解説をあわせて示したものである。

Q1：日本語オノマトペには多く使われるものもあれば、あまり使われないものも存在します。次の表の空欄を埋めるオノマトペを下の5語から選んで入れてみましょう。

にこにこ，ぴんぽん，びしっ（と），はっきり，ふわふわ

ランク	重要指標	該当語数（割合）	例
A	1000～	36（2.5%）	（ ），しっかり，ずっ（と），ゆっくり，ちゃん（と）
B	500～ 999	44（3.0%）	（ ），きっちり，きらきら，わくわく，うっかり
C	100～ 499	310（21.2%）	（ ），うっとり，ちらり（と），すんなり，がんがん
D	50～99	217（14.8%）	（ ），ぴんぴん，じゃんじゃん，ごっそり，びっしょり
E	～50	862（58.8%）	（ ），くるっ（と），けろり（と），ぱったり，きーきー

解答：はっきり，にこにこ，ふわふわ，びしっ（と），ぴんぽん

解説：オノマトペ辞書の収録数をもとにすると、日本語のオノマトペの数は5000語ぐらいであるといわれます。ただし、実際に多く使用されるものはより少なく、およそ1500語ぐらいであるといわれています。上記の表に示されるように、最も重要なAランクのオノマトペは36語しか存在しません。また、Bランクあわせても80語しか存在しません。これらのオノマトペを優先的に学習することが必要であるといえるでしょう。

Q2：日本語オノマトペには様々な長さのものががあります。たとえば、「ほっ」は2モーラ、「にやり」は3モーラ、「どきどき」は4モーラ、「こじんまり」は5モーラです。それぞれのモーラ数のオノマトペについて最も高頻度なものを2つずつ書いてみましょう。また、2～5モーラのうち、1番多い長さはどれだと思いますか？

2モーラ： _____

3モーラ： _____

4 モーラ : _____
 5 モーラ : _____
 6 モーラ : _____
 一番多いのは : _____

解答：ずっ、きっ／きちん、さっさ／はっきり、しっかり／こちんまり、こざっぱり

解説：現代日本語における重要オノマトペの長さは以下の表のようになっています。また、下表では、各々モーラに該当するオノマトペの上位 5 種を例として挙げています。

モーラ	構成比	例
1 モーラ	0	なし
2 モーラ	6.57	ずっ、きっ、ちゃん、じっ、そっ
3 モーラ	33.31	きちん、さっさ、きちっ、ちらり、ちらっ
4 モーラ	54.04	はっきり、しっかり、ゆっくり、どンドン、びっくり
5 モーラ	0.48	こちんまり、こざっぱり、ぺったんこ、ぴっかぴか、こてんぱん、
6 モーラ	4.79	しどろもどろ、あっけらかん、ぽつりぽつり、ざっくばらん、うつらうつら
7 モーラ	0.14	のんべんだらり、すってんころり
8 モーラ	0.68	ずんぐりむっくり、えっちらおっちら、こっくりこっくり、ごつとんごつとん、すってんころりん
平均	3.67	

上表に示されるように、4 モーラのものが最も多く、3 モーラがそれに次ぎますとされています。ただし、日本語における他の語彙、例えば、和語・漢語・外来語に比べて、オノマトペの特徴は取りうるモーラのレンジが 2～8 まで狭く、奇数と偶数のペアから見れば、偶数モーラを好むという傾向があります。

Q3：日本語オノマトペを構成する音素にはルールがあります。母音の結合パターンには aa (例：ばらばら)、ii (例：ひりひり)、uu (例：ぶるぶる)、oo (例：ころころ) のように

同じ母音の結合が多いです。子音の結合パターンには半濁音+清音（ぴかぴか）、半濁音+ラ行音（ぺらぺら）、濁音+清音（がたがた）、濁音+ラ行音（ぼろぼろ）という組み合わせが多いです。それぞれの結合ルールについて、あなたが知っているオノマトペを2つずつ記入し、さらに、どのルールのものが最も多いと思うか多いもの順に並び変えを行ってみましょう。

母音の結合パターン

aa : _____
 ii : _____
 uu : _____
 oo : _____
 並び替え : _____

子音の結合パターン

半濁音+清音 : _____
 半濁音+ラ行音 : _____
 濁音+清音 : _____
 濁音+ラ行音 : _____
 並び替え : _____

解答：母音の場合：ばかばか，さやさやなど／ひりひり，ぴしぴしなど／ぷつぷつ，ぶるぶるなど／そよそよ，ごそごそなど／aa>oo>uu>ii

子音の場合：ぴかぴか，ぺこぺこなど／ぼろぼろ，ぺらぺらなど／ごそごそ，がさがさなど／ぼろぼろ，ばりばりなど／半濁音+清音>濁音+清音>濁音+ラ>半濁音+ラ行音

解説：下表に示されるように、まず、母音についていえば、aa>oo>uu>ii という順番になります。また、子音についていえば、半濁音+清音>濁音+清音>濁音+ラ行音>清音+ラ行音>半濁音+ラ行音>清音+清音という順番になります。

母音	構成比	例	子音	構成比	例
aa	10.41	ばかばか， さやさや	pk	4.03	ぴかぴか， ペこぺこ
oo	9.1	そよそよ， ごほごほ	kr	3.1	ころころ， からから

uu	9.01	ぷつぷつ, ぶるぶる	br	2.81	ぼろぼろ, ぱりぱり
ua	7.6	すたすた, ぬらぬら	gr	2.72	ごろごろ, ぎらぎら
ai	5.07	ばきばき, ばちばち	pr	2.25	ぼろぼろ, ぺらぺら
oa	5.07	ぼたぼた, ほかほか	pt	2.25	ぼたぼた, ほとほと
ia	4.88	びかびか, ひらひら	gs	1.88	ごそごそ, がさがさ
ii	4.78	いじいじ, ぴしぴし	gt	1.88	がたがた, ごたごた
oi	4.6	ぼきぼき, おいおい	bt	1.88	べたべた, ぼたぼた
ou	4.32	もくもく, もぐもぐ	sk	1.78	すくすく, すかすか

Q4: 日本語オノマトペには ABAB 型 (例: ときどき), A っ型 (例: ぞっ), A ん型 (例: ちゃん), A っ B り型 (例: はっきり), A ん B り型 (例: ぼんやり) のような形のものがあります。それぞれの形について, 最も高頻度なものを 2 つずつ書いてみましょう。さらに, 全体に形の多いものを順に並び替えを行ってみましょう。

ABAB 型: _____

A っ型: _____

A ん型: _____

A っ B り型: _____

A ん B り型: _____

並び替え: _____

解答: そろそろ, ときどき/ずっ, きっ/ちゃん, ぴん/はっきり, しっかり/のんびり, ぼんやり/A っ B り>A っ>ABAB>A ん>A ん B り型

解説: オノマトペの形にはルールがあります。反復, 「っ」「ん」「り」「ー」のいずれかが目印です。ほとんどのオノマトペはこの 5 つのマーカールのいずれかまたはその組み合わせを包含しています。下表は日本語における重要オノマトペの形態の上位 20 種です。また, 該当例はそれぞれの形態に該当する代表的なオノマトペの上位 3 種を示しています。これらの典型的なオノマトペを覚えておくとオノマトペ形態により敏感になるでしょう。

形態	例	type	token
AっBり	はっきり (10452), しっかり (9800), ゆっくり (8216)	113	72095
Aっ	ずっ (12340), きっ (7672), じっ (4008)	43	41097
ABAB	そろそろ (3016), ときどき (1182), にこにこ (972)	381	40928
AんAん	どンドン (5124), だんだん (3332), たんたん (811)	51	13645
AらAら	いらいら (1639), ばらばら (1291), きらきら (951)	37	10288
Aん	ちゃん (7495), びん (634), ぼん (377)	27	10276
ABん	きちん (6503), ぽつん (340), ぽかん (283)	79	9802
AんBり	のんびり (1748), ぼんやり (1678), うんざり (717)	27	7418
ABり	にやり (639), ずばり (624), びたり (5129)	106	7225
ABっ	きちっ (840), ちょこっ (342), ぐるっ (212)	150	5930
AりAり	ぎりぎり (1422), ばりばり (429), じりじり (307)	26	4315
ABCB	めちゃくちゃ (841), でこぼこ (352), むちゃくちゃ (266)	26	3446
Aらり	ちらり (712), ずらり (458), さらり (236)	21	2961
Aーっ	ぼーっ (608), すーっ (409), じーっ (222)	35	2255
AーAー	めーめー (217), はーはー (177), ぼーぼー (146)	40	2036
AっA	さっさ (1239), せっせ (432), とっと (208)	9	2027
Aらっ	ちらっ (684), さらっ (186), がらっ (112)	18	1478
AっBら	うっすら (531), ふっくら (398), ちょっくら (40)	3	969
AいAい	わいわい (271), ぐいぐい (184), おいおい (158)	9	930
Aーん	どーん (113), じーん (99), ぐーん (70)	26	762

Q5: オノマトペの形を構成する共通要素自体にそれぞれ特別な意味が含意されています。正しいものを線で結んでみましょう。

反復 (例: ときどき)

延長・強調

長音 (例: ずー)

瞬時性, スピード感, 短い様態; 急な動作

り (例: にこり)

音や動作の連続や継続すること

促音 (例: ずっ)

ひとまとまりのもの, 完了している状態

解答：

反復（例：どきどき）—— 延長・強調
 長音（例：ずー）—— 瞬時性，スピード感，短い様態；急な動作
 り（例：にこり）—— 音や動作の連続や継続すること
 促音（例：ずっ）—— ひとまとまりのもの，完了している状態

解説：反復，促音，「り」「長音」が持つニュアンスは以下の通りです。しかし，撥音「ん」という音は明確なイメージを持ちにくいです。

共通要素	意味合い	用例
反復	音や動作の連続や継続すること	好意に甘えて切手代を差し出すと， <u>にこにこ</u> しながら「あなた方に対するプレゼントです」。(PB52_00012)
促音	瞬時性，スピード感 短い様態；急な動作	「気にしないでください」倫子が <u>にこっ</u> と笑った。(LBm9_00085)
り	ひとまとまりのもの 完了している状態	しかし最近の女の子は元気よく手をあげ始める。その風景を見て <u>ニコリ</u> と笑い，指名する。(PB29_00541)

Q6：日本語オノマトペは様々な品詞として働きます。たとえば，「びっくりした」であれば動詞用法，「いらいらが募る」であれば名詞用法，「ばらばらだ」であれば形容動詞用法，「だんだん暑くなる」であれば副詞用法です。それぞれの品詞タイプの用例を2つずつ書いてみましょう。また，4つの品詞用法を多いもの順に並び変えてみましょう。

動詞用法： _____

名詞用法： _____

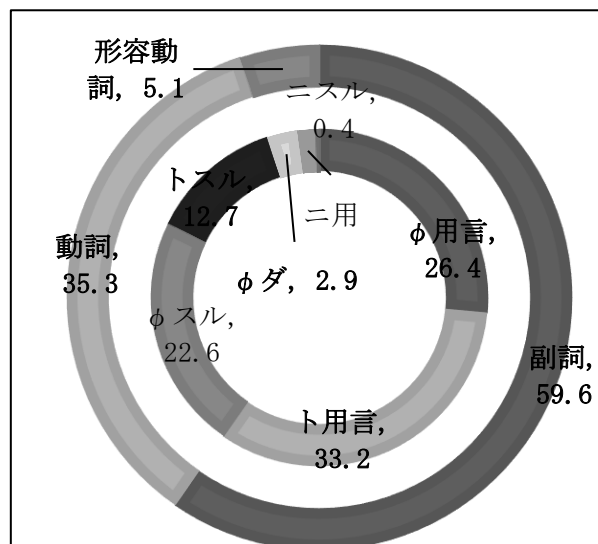
形容動詞用法： _____

副詞用法： _____

並び替え： _____

解答：副詞＞動詞＞形容動詞＞名詞

解説：現代日本語における重要オノマトペの取りうる品詞は後接要素によって決まるといわれています。たとえば、後接要素が「と+用言」や「 ϕ 用言」であれば、当該オノマトペが副詞であると思われます。また、後接要素が「 ϕ する」や「と+する」であれば、当該オノマトペが動詞であると思われます。そして、後接要素が「に+用言」や「に+する」であれば、当該オノマトペが形容動詞であると思われます。また、オノマトペと共起できる後接要素は、下図に示されるように、と用言＞ ϕ 用言＞ ϕ する＞とする＞に用言＞にするという順番になるといわれています。すなわち、オノマトペの取りうる品詞を多いもの順に並べ替えると、副詞＞動詞＞形容動詞という順番になります。こうしたオノマトペの持つ品詞用法を念頭に置いておくとオノマトペの理解や産出の助けとなるでしょう。



Q7: 日本語ではオノマトペに「する」をつけて動詞として使用することが極めて多いです。また、「する」は様々な形に活用します。たとえば、「ドキドキする」は終止形、「ドキドキするとき」は連体形、「ドキドキして家に帰った」は連用形、「ドキドキしない」は未然形

一般（否定）、「どきどきさせる」は未然形サ（させる）となります。ここでは、「かりかりする」のそれぞれの活用形の例を書いてみましょう。また、オノマトペのスル型動詞はどの形が最も多いでしょうか。並べ替えてみましょう。

終止形： _____

連体形： _____

連用形： _____

未然形一般（否定）： _____

未然形サ（させる）： _____

並び替え： _____

解答：

終止形：病気になりそうなほど心配なことがあったら、かりかりするわよ。

連体形：義母としては、一向に滋子が妊娠する気配がないので、それもかりかりする原因のひとつになっているらしい。

連用形：四川の家庭料理で、簡単だけどきゅうりがかりかりしてうまい。

未然形一般（否定）：そうかりかりしないでね。

未然形サ（させる）：御守殿さまは、大奥での派手な暮らしをそのまま持ち込み、そのライフ・スタイルで、水戸の田舎侍、たとえば、藤田東湖などをかりかりさせたのである。

連用形＞連体形＞終止形＞未然形サ＞未然形一般（否定）

解説： 下表に示されるように、スル型オノマトペ動詞は様々な活用形を持ちますが、他の語彙とは異なる活用上の選好性をも持ちます。たとえば、他の語彙に比べて連用形が非常に多いというのが特徴の1つです。

	未一	未サ	未セ	連用	終止	連体	仮定	命令	意志
自動詞	5.13	1.72	1.94	63.81	8.99	16.42	1.18	0.18	0.63
他動詞	3.63	14.40	1.58	55.10	9.15	13.66	1.09	0.35	1.04
する	4.42	4.15	0.90	67.75	7.63	11.42	1.86	0.85	1.01
一般動詞平均	4.39	6.75	1.47	62.22	8.59	13.84	1.38	0.46	0.90
漢語サ変	2.54	21.76	0.40	47.31	8.99	17.28	0.65	0.09	0.98

外来語サ変	1.05	8.37	0.17	60.43	13.71	13.81	1.18	0.11	1.16
複合サ変平均	1.79	15.07	0.29	53.87	11.35	15.55	0.91	0.10	1.07
オノマトペ	3.85	4.73	0.33	77.24	6.34	6.73	0.14	0.53	0.10

Q8: オノマトペには動詞になるものもあれば、動詞にならないものもあります。動詞になりやすいオノマトペにはその単語の意味や形態に特徴があるとされます。以下の4種類の対立概念のうち、動詞になりやすいと思うものを選び、○で囲みましょう。

擬音語	/	擬情語
長い語	/	短い語
動作的意味を持つ語	/	状態的意味を持つ語
段階的意味を持つ語	/	非段階的意味を持つ語

解答: 擬情語, 長い語, 状態的意味を持つ語, 非段階的意味を持つ語

解説: 擬情語で長い語で動き性と程度性の低い語が動詞になりやすいです。モデル化にすると、以下の回帰式になります。

$$[\text{スル化率}] = 0.340 - 0.258[\text{擬音性}] + 0.0341[\text{モーラ数}] + 0.130[\text{A っ}] - 0.139[\text{動き性}] + 0.180[\text{擬情性}] - 0.219[\text{程度性}] \quad (\text{自由度調整済み } r^2=0.22)$$

Q9: オノマトペはもともと抽象的な音や状態を写し取った語であるため、多くの意味を持つ語がたくさん存在します。たとえば、「ぐっ(と)」もそうした多義オノマトペの1つです。これまでの研究により、「ぐっ(と)」には (a) 抵抗に抗って、相手を強く制御することを意味する, (b) 相手を大きく変化させること, また, 何かが大きく変化することを意味する, (c) 感情が極端に高まること, また, 高まった感情を何とか制御することを意味する, の3つの意味タイプが存在することが明らかになっています。では, 下記の①~⑥の用例はそれぞれどの意味であるか考えて括弧に a, b, c のいずれかを記入してみましょう。

- ①思考の倍率をグッと上げて世界を見てみよう。 ()
- ②ラストシーンはグッときます。 ()

- ③気温がぐっと下がる。 ()
- ④背後からグッと肩をつかまれた。 ()
- ⑤お酒一杯をぐっと飲みほした。 ()
- ⑥休みたい気持ちをぐっとこらえて出勤する。 ()

では、以上で示した a, b, c の 3 つの語義のうち、最も使用頻度がものはどれでしょうか？

使用頻度の高いものは： _____

解答：①は b, ②は c, ③は b, ④は a, ⑤は a, ⑥は c です。使用頻度の高いものは (b) です。

解説：下記は「ぐっ (と)」の意味を分かりやすくまとめた表です。

ぐっ (と) (副)
<p>★★★★ (1) 相手を大きく変化させること、また、何かが大きく変化することを意味する。</p> <p>力をこめる・いれる・集中させるようす、著しい差があるようす、進行 (物・息・言葉・行為) がつかえるようす、勢いのさし迫る状態</p> <p>共起動詞：「減る」「増える」「上げる」「引き込む」</p> <p>例：気温が<u>ぐっ</u>と下がる。(※気温が変化することを含意する)</p> <p>例：思考の倍率を<u>グッ</u>と上げて世界を見てみよう。(※倍率を変化させることを含意する)</p>
<p>★★ (2) 感情が極端に高まること、また、高まった感情を何とか制御することを意味する。</p> <p>感動が迫るようす、苦しみや不満の声、強い心的衝撃を受けるようす</p> <p>共起動詞：「来る」「堪える」「我慢する」</p> <p>例：ラストシーンは<u>グッ</u>ときます。(※たとえば登場人物が最後に死ぬなど涙をこらえきれないような状況を含意する)</p>

例：休みたい気持ちをぐっとこらえて出勤する。（※仕事に行きたくないという気持ちを自分自身の強い意志によって押さえつけることを含意する）

★☆☆ (3) 抵抗に抗って、相手を強く制御することを意味する。

飲みくだす音・飲むくだす行為，動作に力・気持ちを込めるようす

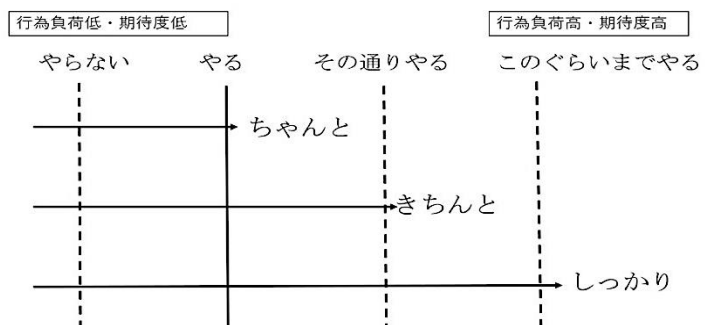
共起動詞：つかむ，握る，飲む，飲み干す

例：お酒一杯をぐっと飲みほした。（※飲みにくいアルコール度数の高い酒を強い意志によって一気に飲み干したことを含意する）

例：背後からグッと肩をつかまれた。（※予想していなかったときに相手の強い意志によって行為がなされたことを含意する）

Q10. 「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」は類義オノマトペとされますが、「しっかり」は主として高い負荷が伴う行為を，高い期待を超えて完了する場合に用いられ，「ちゃんと」

は主として低い認知的負荷が伴う行為を，低い期待を超えて完了する場合に用いられ，「きちんと」は主として身体的・認知的負荷が伴う行為を，期待通りに完了する場合に用いられます。以下



下の用例を見て，次の空欄を埋めるオノマトペを「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」の3語から選んで入れてみましょう。

1. 「() 野菜，() フレンチ」でリラックスディナー。
2. () 伝える。() 覚えておく。
3. () ストレッチしている？ここも () 伸ばそう。

解答：1の正解は「しっかり」と「ちゃんと」です。2の正解は「きちんと」と「ちゃんと」です。3の正解は「ちゃんと」「しっかり」です。

解説：予想よりも十分な野菜量が取れることから「しっかり」が選ばれ，フレンチでないという予想を超えることから「ちゃんと」が選ばれます。内容を期待通りに正確に伝える

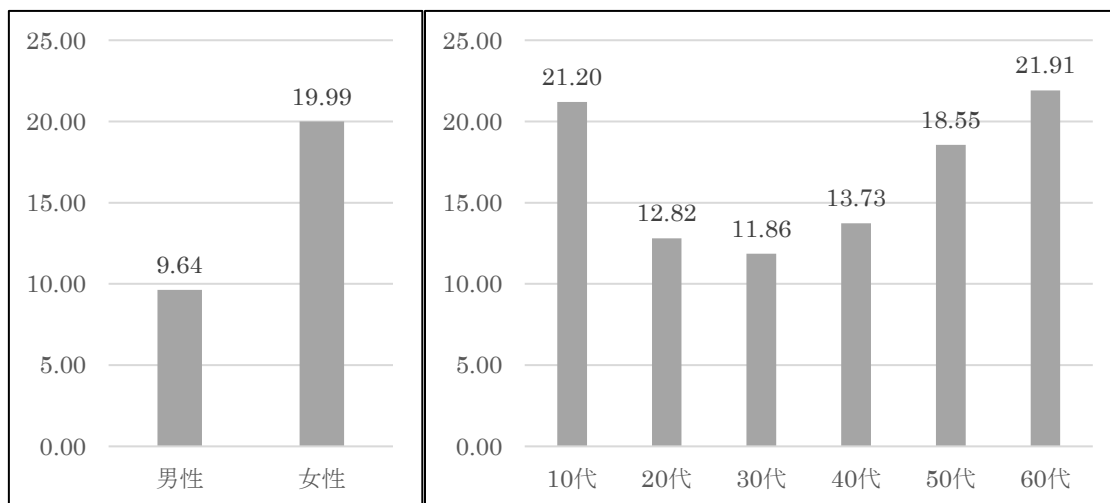
ことから「きちんと」が選ばれ、覚えないという予想を超えることから「ちゃんと」が選ばれます。ストレッチしないという予想を超えることから「ちゃんと」が選ばれ、伸ばすという身体負荷を超えて、予想よりも十分に伸ばせることから「しっかり」が選ばれます。

Q11：最も大量にオノマトペを使うのはどのような人ですか、あてはまるものを選び、囲んでみましょう。

男性	/	女性
若年層	/	中年層
中年層	/	高年層

解答：女性，若年層，高年層

解説：下図に示されるように、女性は男性より多くのオノマトペを使用する傾向があります。また、年代別にみると、60代>10代>50代>40代>20代>30代という順番になります。



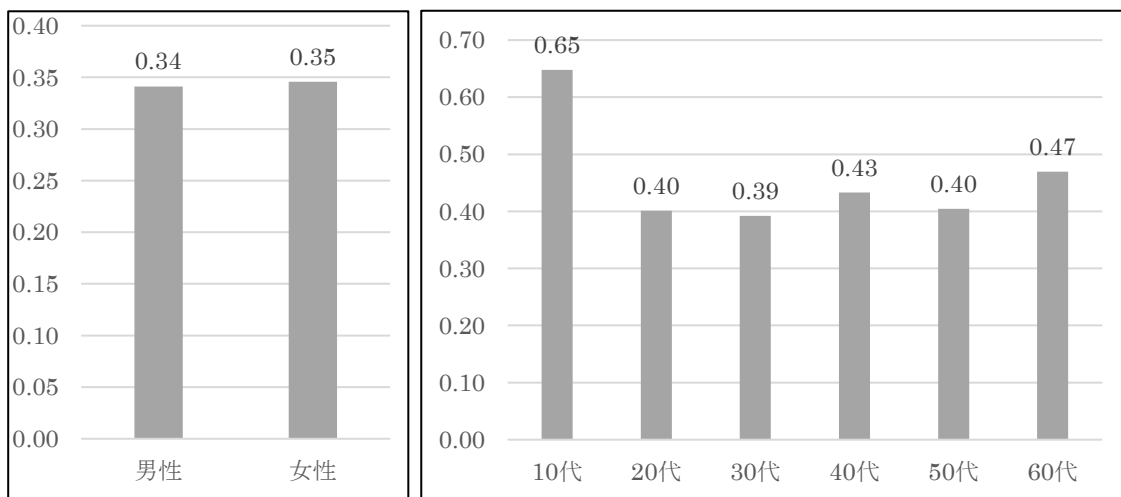
Q12：最も幅広いオノマトペを使うのはどのような人ですか、あてはまるものを選び、囲

んでみましょう。

男性 / 女性
若年層 / 中年層
中年層 / 高年層

解答：女性≒男性，若年層，高年層

解説：下図に示されるように，使用されるオノマトペの種類数については女性と男性の間に差が小さいといえます。また，年代別にみると，10代の値が最も高いですが，年代差は小さい傾向があります。



Q13：どのような場合に日本語オノマトペが多く使用されるか，あてはまるものを選び，
囲んでみましょう。

私的 / 公的
知り合い間 / 初対面間
話し言葉 / 書き言葉

解答：私的，知り合い間，話し言葉≒書き言葉

解説：以下のデータに示されるように，私的>公的，内容のフォーマリティ低>内容のフ

オーマリティ低，知り合い間>初対面間，話者間の親しさの高>話者間の親しさの低の関
係性が確認されます。しかし，話し言葉と書き言葉の差は明確に確認されません。

ジャンル	使用量	ジャンル	多様性
(書) ブログ	5359.55	(話) 雑談	0.48
(話) 雑談	4822.56	(書) 書籍	0.47
(話) 自由対話	4057.01	(書) 雑誌	0.46
(書) 雑誌	3545.51	(書) ブログ	0.46
(話) 模擬講演	3186.34	(書) 知恵袋	0.45
(書) 知恵袋	3053.27	(話) 模擬講演	0.44
(書) 書籍	3022.56	(書) 新聞	0.43
(話) 模擬インタビュー	3013.58	(書) 教科書	0.41
(話) 学会インタビュー	2280.66	(書) 広報誌	0.40
(話) 課題対話	1811.83	(話) 学会講演	0.39
(書) 国会会議録	1370.71	(話) 自由対話	0.39
(書) 新聞	1193.96	(書) 国会会議録	0.38
(書) 教科書	1049.06	(話) 模擬インタビュー	0.37
(話) 学会講演	875.95	(話) 学会インタビュー	0.30
(書) 広報誌	682.26	(話) 課題対話	0.29
(書) 白書	44.44	(書) 白書	0.26
平均値	2460.58	平均値	0.40
標準偏差	1499.11	標準偏差	0.06
変動係数	0.61	変動係数	0.15

Q14：日本語オノマトペは何種類の中国語に翻訳されるか（枝分かれ率と呼ぶ）によって
当該オノマトペの学習上の難しさが影響されるといわれています。仮に，1種類の日本語
オノマトペが必ず1種類の中国語に訳されていれば，当該オノマトペの学習上の問題は相
対的に小さく，1つの日本語オノマトペが極めて多くの種類の中国語に置き換えられてい
るならば，学習者にとって当該オノマトペの習得の難度がより高いと推定されます。現代
日本語において最も高頻度のオノマトペのうち，枝分かれ率が最も高いのは「すっきり」「た

「たっぷり」「のんびり」の3語で、最も低いのは「ゆっくり」「きっと」「そっと」の3語です。次の表の空欄を埋める中国語訳語を入れてみましょう。

オノマトペ	総頻度	訳語種類	枝分かれ率	中国語訳
すっきり	6	5	0.83	(), 痛快
たっぷり	26	20	0.77	(), 丰满, 足够
のんびり	11	8	0.73	(), 怡然自得, 自由自在
ゆっくり	206	44	0.21	(), 缓缓, 好好
きっと	209	42	0.2	(), 肯定, 准是
そっと	100	17	0.17	(), 轻轻, 偷偷

解答：亭亭玉立，绰绰有余，轻松，慢慢，一定，悄悄

解説：下表は現代日本語において最も重要なオノマトペ 20 種の枝分かれ率を計算し、並べ替えたものです。具象的・客観的語義を持つオノマトペは抽象的・主観的語義を持つ語より枝分かれ率が高くなるという傾向があります。こうした違いに注意を払えば、日本語オノマトペ学習は促進されるでしょう。

オノマトペ	総頻度	訳語種類	枝分かれ率	中国語訳
すっきり	6	5	0.83	亭亭玉立，痛快
たっぷり	26	20	0.77	绰绰有余，丰满，足够
のんびり	11	8	0.73	轻松，怡然自得，自由自在
きちんと	89	63	0.71	整齐，好好，工整
さっぱり	54	34	0.63	根本，全然，开朗
どんどん	48	29	0.6	不断，一个劲儿，急剧
ぴったり	32	18	0.56	紧紧，紧贴，合身
しっかり	85	46	0.54	紧紧，牢牢，死死
ぼんやり	83	38	0.46	呆呆，茫然，茫然若失
ちゃんと	165	75	0.45	好，清清楚楚，好好
そろそろ	58	25	0.43	慢慢，差不多，该

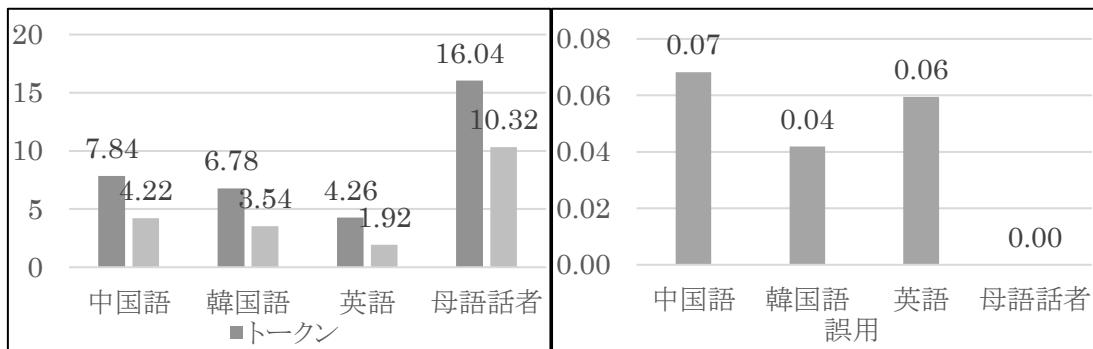
じっと	208	83	0.4	一动不动，目不转睛，一直
ほっと	43	15	0.35	松口气，放心，舒口气
ずっと	263	86	0.33	一直，比…得，永远
はっきり	200	66	0.33	清楚，清晰，明确
すっかり	170	47	0.28	完全，全，已经
びっくり	78	20	0.26	吃惊，吓了一跳，愕然
ゆっくり	206	44	0.21	慢慢，缓缓，好好
きっと	209	42	0.2	一定，肯定，准是
そっと	100	17	0.17	悄悄，轻轻，偷偷

Q15：中国人日本語学習者のオノマトペ使用量は母語話者と比べてどの程度だと思いか，下から選んで記入してみましょう。()

- ①50%未満 ②50%～75% ③76%～100% ④100%～125% ⑤150%

解答：50%未満

解説：中国人日本語学習者は英語母語話者や韓国語母語話者と比べるとより多くのオノマトペを使いますが，それでも母語話者と比べると50%以下しかなく(左図)，誤用の数も最も多くみられます(右図)。日本語オノマトペを適切に使用することは母語話者らしい日本語運用を行う上で重要なカギになるといえるでしょう。

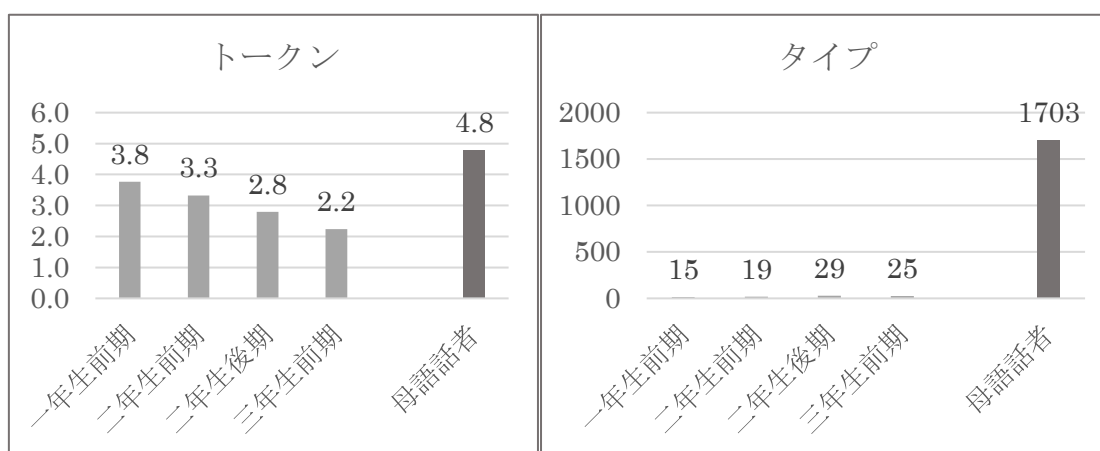


Q16：中国人日本語学習者は学習段階が進むにつれてオノマトペの使用傾向が段階的に変化しています。以下の括弧から正しいものを選んで囲んでみましょう。

- ①学習段階が進むにつれて使用するオノマトペの総量は（増加／減少）する。
- ②学習段階が進むにつれて使用するオノマトペの種類数は（増加／減少）する。

解答：①減少，②増加

解説：以下のデータに示されるように，使用する総量は段階的に下がっていきます。これは上級になればなるほど日本語の作文をより公的なものにとらえるようになり，結果としてくだけたニュアンスを持ちうるオノマトペの使用を回避しているのではないかと思われます。



以上で，本論文で得られた知見をふまえて開発した学習シートの試案を示した。以下，それぞれの問題開発にかかわる考え方を述べておくことしたい。まず，Q1に関しては第5章で明らかになった知見のうち，最も重要なものは，高頻度オノマトペにはどのようなものがあるのかという問題であると考えた。そこで，オノマトペの具体例と使用頻度をマッチングさせることによって，オノマトペの重要性とその習得の困難性を学習者に意識づけることを狙った。Q2とQ3に関しては第6章で明らかになった知見のうち，最も重要なものは，オノマトペの長さの問題と音素の結合パタンの問題であると考えた。Q2では，オノマトペの長さに，Q3では，オノマトペの音素の結合パタンに注目させ，学習者にオノマトペを構成する音韻上の特徴をわかってもらうことを狙った。Q4とQ5に関しては第7章で明らかになった知見のうち，最も重要なものは，オノマトペ形態にはどのようなものがあるか及び，形と意味との関係性の問題であると考えた。Q4では，オノマトペの形に注目させ，オノマトペの形態特性を把握させることを目指した。タスクを通してオノマトペと形の関連付けを学習者にやってもらうことで意識が深まることを念頭に置いている。Q5で

は、オノマトペに共通してみられるいわゆるオノマトペ標識の持つ意味特性を学習者にマッチングさせることで、個々のオノマトペ標識の持つ意味ニュアンスを把握してもらうことを狙った。Q6, Q7 と Q8 に関しては第 8 章で明らかになった知見のうち、最も重要なものは、オノマトペが担う品詞機能にはどのようなものがあるか、特に重要な動詞用法の習得の問題であると考えた。Q6 では、学習者のオノマトペが実際の文脈の中で担う品詞機能に対する理解を深めるために、作文してもらい、さらに典型用法を問うことによって、オノマトペの実際の運用につなげていくことを狙った。Q7 と Q8 はオノマトペの持つ様々な品詞機能の中で、特に文章の中で欠かせない動詞用法に注目し、動詞になった場合の活用上の選好性とどのようなオノマトペが特に動詞となれるかについて設問することによって、ほとんど注目されなかったオノマトペの動詞用法に対する理解の深まりを図った。Q9, Q10 に関しては第 9 章で明らかになった知見のうち、特に重要なものは、多義を持つオノマトペや類義オノマトペの意味理解であると考えた。具体的に、Q9 では、多義オノマトペ「ぐ(つと)」を取り上げ、オノマトペの持つ多義性に注目させることを狙った。Q10 では、類義オノマトペ「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」の 3 語の相違点に注目させることを狙った。Q11, Q12, Q13 に関しては第 10 章で明らかになった知見のうち、最も重要なものは、オノマトペは主にどのような人がどのような場面において使用するかについての問題であると考えた。Q11 と Q12 では、オノマトペ使用の男女差と年代差についての理解の深まりを図った。Q13 では、オノマトペは主にどのような場面において特に使用されやすいかを学習者に考えさせることを狙った。Q14 に関しては、第 11 章で明らかになった知見のうち、最も重要なものは、日本語オノマトペはどのような中国語に置き換えられているのかを発見させることであると考えた。Q14 では、翻訳させることによって語義の違いや両言語におけるオノマトペの違いに気づきさせることを狙った。Q15 と Q16 に関しては、第 12 章及び第 13 章で明らかになった知見のうち、最も重要なものは、中国人日本語学習者のオノマトペ使用量の問題であると考えた。中国人日本語学習者のオノマトペ使用量は母語話者と比べてどの程度のものかを問うことによって、学習者のオノマトペ使用意識を高めることを狙った。

14.3 本論文の課題と今後の方向性

本論文は、日本語学及び日本語教育学研究の立場から、コーパス言語学の理論と手法に基づき、中国人日本語学習者のオノマトペ学習を支援するため、重要オノマトペの特定と

オノマトペの言語特性を多角的に調査した。これらの調査で得られた知見は客観性が高く、有益なものであるが、課題も残されている。

1点目は、重要語の認定方法である。第6章において重要オノマトペを特定するにあたっては、オノマトペ性（専門家によるオノマトペらしさの判定度）と頻度を手掛かりとした。これらは、先行研究と照らし合わせても一般的な手法であるといえるが、親密度や難易度を考慮していないという点に制約も残されている。今後、これらの点も考慮に入れて重要語の再整理を行いたい。

2点目は、得られた知見の実際の応用の問題である。本論文では第9章第9.4.1節において「ぐ(つと)」に関して従来の辞書記述の問題点を明らかにし、コーパスから得られた知見に基づく新しい語義記述の書き方を提案した。また、本章の14.2節において、学習者がオノマトペに対して意識づけを高めていけるような学習シートのサンプルを作成した。しかしながら、これらは膨大なオノマトペの中のごく一部の語、また、オノマトペの持つ様々な特性のごく一部に限ったものであり、現代日本語オノマトペの全体に関する体系的な辞書記述開発や教材開発は行えていない。この点については、今後時間をかけて学習者に提供すべき情報を拡大していく不断の努力が必要となるだろう。

3点目はコーパスから得られた知見に基づくオノマトペ指導の効果が検証できていないということである。すでに述べたように、本論文ではコーパスから得られた知見を反映する形で新しい辞書項目の開発や学習シートの開発を試行的に行ったわけであるが、これらを実際に現場で使ってどのような効果があるかという点については検証が行えていない。この点については、近い将来筆者が日本語教育の現場に携わった段階で、これらを実際に検証し、その効果を実証的に調べていくこととしたい。

最後に4点目は対象学習者の問題である。本論文においては、世界の日本語学習者の中で中国語母語話者が圧倒的に多数を占めることから、中国人日本語学習者に限定して研究を行ってきた。しかし、容易に想像できるように、得られた知見や教育的示唆の大部分はその他の母語の学習者にも適応できる。逆に言えば、どの部分が様々な学習者に共通して提示すべき内容で、どの部分が特に中国語母語話者に示すべき情報であるのかの整理は本論文では十分に行えていない。この点については、今後中国語母語話者のみならず英語母語話者・韓国語母語話者のデータを収集し、それらを比較することで異なる母語を持つ日本語学習者間の共通性と独自性を明らかにしていくことを目指したい。

14.4 おわりに

日本語教育の現場においては、どのオノマトペを教えるべきか、学習者はオノマトペについてどのような問題を抱えているか、といった点が明らかになっていない。そこで、本論文では新たに大規模なコーパス調査を行うことにより、これらの問題点の解明を行った。本研究により、言語学および日本語教育学に一定の貢献がなされたと考える。まず、言語学への貢献については、形態や意味がまちまちで一括して議論しにくいオノマトペに対してコーパスを根拠とすることで、一定の整理を行うことができた。また、今回扱ったのは日本語オノマトペのみであったが、今後同様の手法により世界の様々な言語におけるオノマトペ研究を展開していける可能性もあるだろう。次に、日本語教育学への貢献については、従来、経験と勘で指導されてきたオノマトペについて、何を教えるべきか、どう教えるべきかについて具体的な提案を行うことができた。これにより教育の効率を向上させ、特に中上級学習者のオノマトペ理解を促進できると考えられる。

参考文献

- Akita, K. (2009). A grammar of sound-symbolic words in Japanese: Theoretical approaches to iconic and lexical properties of mimetics. 神戸大学博士論文
- 秋田喜美 (2017) 「外国語にもオノマトペはあるの？」窪園晴夫 (編) 『オノマトペの謎：ピカチュウからモフモフまで』 (pp. 65-84) 岩波書店
- 秋元美晴 (2007) 「日本語教育におけるオノマトペの位置づけ」『日本語学』 26(7), 24-34.
- 浅野鶴子 (編)・金田一春彦 (解説) (1978) 『擬音語・擬態語辞典』 角川書店
- 阿刀田稔子・星野和子 (1989) 「日本語教材としての音象徴語」『日本語教育』 68, 30-40.
- 阿刀田稔子・星野和子 (1993) 『正しい意味と用法がすぐわかる：擬音語・擬態語使い方辞典』 創拓社
- 天沼寧 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』 東京堂出版
- 有賀千佳子 (2007) 「オノマトペを通して、語彙の学習・教育について考える」日本語学 26(7), 65-73.
- 有菌智美 (2017) 「基本動詞『持つ』の多義分析」『名古屋学院大学論集 (言語・文化篇)』 28(2), 71-92.
- 李殷娥 (2001) 「日本語と韓国語のオノマトペに関する対照調査」名古屋大学博士論文
- 李澤熊 (2010) 「『たちまち、あっという間に、またたく間に』の意味分析：ベースとプロフィールの観点から」『言語文化論集』 31(2), 37-48.
- 李澤熊 (2018) 「動詞『おさえる』の多義構造：日本語教育の観点から」『名古屋大学日本語・日本文化論集』 25, 1-16.
- 石川慎一郎 (2008) 『英語コーパスと言語教育：データとしてのテキスト』 大修館書店
- 石川慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』 ひつじ書房
- 石川慎一郎 (2014) 「共起ネットワーク分析をふまえた類義語定義の精緻化：コーパス準拠日本語辞書の可能性」『統計数理研究所共同研究レポート』 308, 1-21.
- 石川慎一郎 (2016) 「日本人学習者の L2 英語の発話量：母語話者及びアジア圏学習者との比較」『日英言語文化研究』 (日英言語文化学会) 5, 15-26.
- 石川慎一郎 (2017) 「X々型量語の構造・使用・意味特性：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた計量的調査」『統計数理研究所共同研究レポート』 373/374, 55-74.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 (2010) 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版
- 石川創 (2007) 「オノマトペの日中比較：両性オノマトペの視点から」『国語学研究と資

- 料』 30, 99-110.
- 石黒広昭 (1993) 「オノマトペの『発生』」『月刊言語』 5, 6-22.
- 石村貞夫・石村光資郎 (2007) 『入門はじめての多変量解析』 東京図書
- 伊東真美 (2015) 『『オノマトペ+する』の語彙的意味とアスペクト性の研究』 九州大学博士論文
- 今井新悟 (2016) 「クラスター分析による多義語の語義分類：『切る』を例に」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』 31, 1-15.
- 今井むつみ (1993) 「外国語学習者の語彙学習における問題点：言葉の意味表象の見地から」『教育心理学研究』 41(3), 243-253.
- 岩崎典子 (2008) 「第二言語としての日本語の擬音語・擬態語の習得：KY コーパスに見られる英語母語話者と韓国語母語話者の擬音語・擬態語の使用」『Conference Handbook of the Sixth International Conference on Practical Linguistics of Japanese』 45-46.
- 鳥日哲 (2010) 「中国語母語話者と日本語母語話者の語りにおける説明と描写について：『絵本との一致度』の観点から」『日本語教育』 145, 1-12.
- 大坪併治 (1989) 『擬声語の研究』 明治書院
- 王瑩 (2011) 「異なる日本語学習者による日本語のオノマトペに対する感覚評価」『日本語教育研究』 57, 65-82.
- 王海燕 (1994) 「日語拟声词·拟态词的特征及其汉译」『外语研究』 40(2), 58-61.
- 岡谷英夫 (2015) 「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」『人工知能学会論文誌』 30(1), 257-264.
- 王冠華 (2004) 「日本語の擬音語・擬態語の中国語訳の表現について」『経営研究 (愛知学泉大学)』 17(2/3), 257-279.
- 芋阪直行 (1999) 『感性のことばを研究する：擬音語・擬態語に読む心のありか』 新曜社
- 小野正弘 (2007) 『擬音語・擬態語 4500：日本語オノマトペ辞典』 小学館
- 小野正弘 (2017) 「オノマトペの対照研究のために：中国語に擬態語はありますか？」『日中言語対照研究』 19, 1-15.
- 郭華江 (1994) (編) 『日中擬声語・擬態語辞典』 上海訳文出版社・東方書店
- 赫楊 (2017) 「男性・女性ファッション誌に見るオノマトペの使用上の差異」『一橋日本語教育研究』 5, 1-10.
- 筧壽雄 (1993) 「一般語彙となったオノマトペ」『言語』 30(6), 38-45.

- 笈壽雄・田守育啓（1993）『オノマトピア：擬音・擬態語の樂園』勁草書房
- 影山太郎（2006）「擬態語動詞の統語構造」『人文論究（関西学院大学）』56(1), 83-101.
- 柏野和佳子・西川賢哉・小磯花絵（2017）『『名大会話コーパス』中納言版・ひまわり版公開データの作成』『言語資源活用ワークショップ発表論文集』1, 324 - 335.
- 梶原智之・山本和英（2014）「高頻度語は平易語なのか？」『NLP 若手の会第9回シンポジウム発表資料』
- 加藤久雄・坂口昌子（1996）「後接成分とオノマトペの性質について」『奈良教育大学紀要』45(1), 1-16.
- 角岡賢一（1993）「日本語の疑似オノマトペ」笈壽雄・田守育啓（編）『オノマトピア：擬音・擬態語の樂園』（pp.145-212）勁草書房
- 角岡賢一（2007）『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』くろしお出版
- 川崎めぐみ（2016）「語構成から見た方言オノマトペのタイプと意味の関わりについて」『名古屋学院大学論集（言語・文化篇）』27(2), 65-72.
- 川田順造（1988）『聲』筑摩書房
- 管玲（1997）「文学作品に見られる日中オノマトペの表現と効果：川端康成の『雪国』とその中国語訳文を資料として」『金沢大学国語国文』22, 1-11.
- 仇曉超（2013）「オノマトペにおける日中対照研究：『伊豆の踊り子』の中国語訳比較をもとに」『日本言語文化学・応用日本語学論究』（大東文化大学大学院）10, 207-216.
- 許夏玲（2016）「日本語学習者向けの擬音語・擬態語の学習指導」『東京学芸大学紀要・総合教育科学系』67(2), 399-407.
- 金慕箴（1989）「中国における日本語の擬音語・擬態語の教育について」『日本語教育』68, 83-98.
- 窪園晴夫（1998）「モーラと音節の普遍性」『音声研究』2(1), 5-15.
- 窪蘭晴夫・太田聡（1998）『音韻構造とアクセント』研究社
- 国広哲弥（1986）「語義研究の問題点：多義語を中心として」『日本語学』5(9), 4-12.
- 国広哲弥（1998）「現代日本語辞典の将来像」『日本語学』17(14), 4-11.
- 部楓（2006）「コーパスを利用した類義語のコロケーション分析：擬態語『しんみり, しみじみ』と動詞の共起から」『ことばの科学』19, 129-140.
- 江雯薰（2013）「時間副詞に関する一考察：『漸次性』を表す副詞を中心に」『比較文化研

- 究』(日本比較文化学会) 109,187-197.
- 黄慧 (2011) 「オノマトペの基本語彙に関する一考察 : 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (2009 モニター公開版)』を用いて」『東京外国語大学日本研究教育年報』 15, 17-39.
- 呉川 (2005) 『オノマトペを中心とした中日対照言語研究』 白帝社
- 国立国語研究所 (1984) 『日本語教育のための基本語彙調査』 秀英出版
- 国立国語研究所 (2006) 「日本語話し言葉コーパスの構築法」『国立国語研究所報告』 124, 1-552.
- 小林一仁 (1998) 「国語教育の期待する辞書の将来像」『日本語学』 17(14), 73-80.
- 小林英夫 (1933) 「国語象徴音の研究」『小林英夫著作集 5・言語美学論考』みすず書房 1976 (『文学』 1 卷 8 号より再録)
- 小林英夫 (1965) 「擬音語と擬容語」『言語生活』 171, 18-29.
- 坂口和寛 (2014) 「日本語教師養成講座の受講者が行う類義語の言語特徴分析 : 類義語の特徴説明に見られる傾向と問題点」『信州大学人文科学論集』 1, 243-254.
- 坂口昌子 (1995) 「教科書に見えるオノマトペ」『奈良教育大学国文研究と教育』 18, 26-49.
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 アルク
- 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子 (2016) 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』 6(3), 93-110.
- 獅々見真由香 (2016) 「日本語の会話におけるオノマトペの基本語彙選定 : 『BTS による多言語話し言葉コーパス』と『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』を用いて」『日本語教育』 165, 73-88.
- 清水裕一郎・坂本真樹 (2011) 「音象徴的意味を利用したオノマトペ生成・イメージ判定システム」『人工知能学会全国大会論文集』 25, 1-3.
- 城岡啓二 (1998) 「日本語の擬音語・擬態語の語頭音の分布について」『人文論集』(静岡大学) 48(2), 169-195.
- 徐一平 (2009) 「コーパス言語学から見た日本語研究と辞書編纂 : 中日対訳コーパスの構築とその応用研究をめぐって」『中国 21』(愛知大学現代中国学会) 32, 105-122.
- スコウラップ=ローレンス (1993) 「日本語の書きことば・話しことばにおけるオノマトペの分布について」筧壽雄・田守育啓 (編) 『オノマトペ : 擬音・擬態語の樂園』(pp.77-100) 勁草書房
- 鈴木彩香 (2012) 「日本語オノマトペ述語の形式について : スル・シテイル・ダの選択基

- 準を中心に」『日本語文法』 12(2), 162-178.
- 鈴木胤 (1816) 『雅語音声考』 (鈴木胤, 1979 『言語四種論・雅語音声考・希雅』 勉誠社)
- 砂川有里子 (2010) 「コーパスを活用した日本語教育：日本語学習辞書編集に向けて」砂川有里子他 (編) 『日本語教育研究への招待』 (pp.99-119) くろしお出版
- 鷺見幸美 (1996) 「『擬音語・擬態語+する動詞』の分類」『名古屋大学人文科学研究』 25, 97-120.
- 薛鳴(1987) 「オノマトペについての日中対照研究：人間の行為に関する表現を中心に」『待兼山論叢』 (大阪大学大学院文学研究科) 21, 43-60.
- 瀬戸口律子 (1982) 「日中両国語における擬音語・擬態語について」『大東文化大学紀要・人文科学』 20, 81-97.
- 曹金波 (2016) 「日本語教育におけるオノマトペの研究：その学習内容と指導プロセスの構築を中心に」城西国際大学博士論文
- 曹大峰 (2007) 「多言語コーパスと日本語研究：『中日対訳コーパス』の利用研究例から」『日本語科学』 22, 59-77.
- 曹大峰・中野洋・徐一平・隈井裕之 (1999) 「中日対訳コーパスの作成状況と今後の課題」『自然言語処理』 134, 1-8.
- 田野村忠温 (2009) 「コーパスからのコロケーション情報抽出：分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作」『阪大日本語研究』 21, 21-41.
- 田野村忠温 (2010) 「日本語コーパスとコロケーション：辞書記述への応用の可能性」『言語研究』 138, 1-23.
- 玉岡賀津雄・木山幸子・宮岡弥生 (2011) 「新聞と小説のコーパスにおけるオノマトペと動詞の共起パターン」『言語研究』 139, 57-84.
- 玉村文郎 (1998) 「辞典の将来」『日本語学』 17(14), 12-21.
- 玉村文郎 (1989) 「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』 68, 1-12.
- 田守育啓 (2002) 『オノマトペ：擬音語・擬態語をたのしむ』 岩波書店
- 田守育啓・スコウラップ＝ローレンス (1999) 『オノマトペ：形態と意味』くろしお出版
- 丹野眞智俊 (2005) 「幼児の使用する日本語オノマトペの音韻分析」『児童教育学研究』 24, 1-6.
- 丹野眞智俊 (2005) 『オノマトペ (擬音語・擬態語) を考える：日本語音韻の心理学的研究』 あいり出版

- 趙寅秋 (2013) 「擬音語の擬態語化についての日中対照研究：日本語『ABAB』型オノマトペ両用語と中国語『ABB』型形容詞を例として」『比較社会文化研究（九州大学大学院）』 33, 35-45.
- 越恩英 (2013) 「類義語『やっど』『ようやく』の文体と共起する述語について：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の『文学』を用いて」『日本語研究』 33, 15-29.
- 張晶鑫 (2016) 「段階的变化を含意するオノマトペ及び関連語の意味機能の解明：中国人日本語学習者を対象とした日本語教育における『だんだん』『徐々に』『次第に』の提示案」『言語文化学会論集』 47, 129-147.
- 張晶鑫 (2017a) 「BCCWJに見る高頻度オノマトペの特定と主要なオノマトペ標識のふるまいの解明：日本語教育の視点から」『統計数理研究所共同研究リポート』 373/374, 1-16.
- 張晶鑫 (2017b) 「現代日本語における『スル』化オノマトペの語彙構造の再考：BCCWJを用いた計量的調査をふまえて」『第10回日本語実用言語学国際会議予稿集』 18-19.
- 張晶鑫 (2017c) 「オノマトペに由来するサ変複合動詞の活用の多様性：動詞性の計量化」『電子情報通信学会技術研究報告』 117(81), 25-30.
- 張晶鑫 (2017d) 「中国人日本語学習者のオノマトペの使用特性：日本語母語話者及び韓国語・英語母語話者との比較から」『第3回アジア圏学習者コーパス国際シンポジウムポジションペーパー』 59-62.
- 張晶鑫 (2018a) 「『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』にみる中国語母語話者のオノマトペ使用特性：日本語母語話者及び韓国語・英語母語話者との比較から」『Learner Corpus Studies in Asia and the World』 3, 221-240.
- 張晶鑫 (2018b) 「日本語オノマトペの音韻的特性の解明：一般語彙との比較から」『統計数理研究所共同研究リポート』 400, 69-82.
- 張晶鑫 (2018c) 「類義オノマトペ『しっかり』『ちゃんと』『きちんと』の意味機能の解明：日本語教育の観点から」『電子情報通信学会技術研究報告』 118(99), 47-52.
- 張新力 (2010) 「日本語オノマトペの中国語訳の類型」『愛知大学言語と文化』 23, 35-54.
- 張婷 (2008) 「汉语拟态词的词形构成及其语法功能」『黑龙江生态工程职业学院学报』 21 (1), 81-83.
- 張麗群 (1989) 「中国人学習者から見た日本語の擬音語と擬態語」『日本語教育』 68, 128-130.
- 陳帥 (2015) 「『しっとり』の意味分析」『言葉と文化（名古屋大学大学院）』 16, 57-71

- ツイガルニツカヤ・レナ (2007) 「日本語オノマトペに対するビリーフ：日本語教師と学習者の比較」『筑波応用言語学研究』 14, 129-137.
- 筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所 『NINJAL-LWP for TWC』
(<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>)
- 坪根由香里・鈴木理子・阪本史代・神谷道夫 (2001) 「学習者から見た効果的な語彙の指導法・学習法：アンケート結果より」『小出記念日本語教育研究会論文集』 9, 107-130.
- 佟玲 (2006) 「关于日语拟声、拟态词的汉语翻译」大连理工大学硕士论文
- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』 東京堂出版
- 陳帥 (2015) 「『しっとり』の意味分析」『言葉と文化』 16, 57-71.
- 中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘 (2011) 「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトペをどの程度使用できるのか：アニメーションを用いた産出実験を中心として」『中国語話者のための日本語教育研究』 2, 42-58.
- 中石ゆうこ (2012) 「学習者はオノマトペを適切な場面に結び付けることができるのか：Web 動画プログラムによる評定実験を用いて」『日本語教育学会 2012 年度秋季大会予稿集』 51-54.
- 中里理子 (2017) 『オノマトペの語義変化研究』 勉誠出版
- 中道真木男 (1986) 「国語辞典に見られる類義語の記述」『日本語学』 5, 9, 34-46.
- 那須昭夫 (2002) 「日本語オノマトペの語形成と韻律構造」筑波大学博士論文
- 生天目知美・高原真理・砂川有里子 (2017) 「多義動詞としての『知る』と『分かる』の使い分け：コーパスを活用した類義語分析」『国立国語研究所論集』 12, 63-79.
- 西尾寅弥 (1988) 「『擬音語・擬態語+する』の形式について」西尾寅弥 (編) 『現代語彙の研究』 (pp. 211-228) 明治書院
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 野間秀樹 (1998) 「最もオノマトペが豊富な言語」『言語』 27, 30-34.
- 野間秀樹 (2001) 「オノマトペと音象徴」『言語』 30, 12-18.
- 橋爪阿美 (2005) 「漫画の効果音としての擬態語の日中対照研究」『留学生教育』 (留学生教育学会) 10, 27-36.
- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペ：音象徴と構造』 くろしお出版
- 早川文代 (2000) 「性別・年齢別にみた食感覚の擬音語・擬態語」『小田原女子短期大学研究紀要』 30, 47-59.

- 早川文代・岩政由布子・畑江敬子・島田淳子（1999）「食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定」『日本家政学会誌』 50(5), 481-490.
- 林巨樹（1982）「日本語の語彙の表記」藤喜代治（編）『日本語の語彙の特色』（pp.179-200）明治書院
- Pantcheva, E. L. （2006）「日本語の擬声語・擬態語における形態と意味の相関についての研究」千葉大学博士論文
- パリハワダナ＝ルチラ（2008）「副詞『だんだん』『次第に』『徐々に』が表す展開の諸局面：漸次性と過程性・意志性・望ましさとの関わり」『金沢大学留学生センター紀要』 11, 1-22.
- 日向茂男（1990）「擬音語・擬態語」玉村文郎（編）『講座日本語と日本語教育：日本語の語彙・意味（下）』（pp.121-131）明治書院
- 日向茂男・笹目実（1999）「語形からみた擬音語・擬態語 2」『東京学芸大学紀要第2部門 人文科学』 50, 189-209.
- 姫野昌子（2005）「音象徴語の機能と用法」姫野昌子・上野田鶴子・井上史雄（編）『現代日本語の様相』（pp.9-24）放送大学教育振興会
- 福田香苗（1999）「幼児の発話に見られる擬音語・擬態語」荻阪直行（編著）『感性のことばを研究する：擬音語・擬態語に読む心のありか』（pp.155-174）新曜社
- 藤村逸子・大曾美恵子・大島ディヴィッド義和（2011）「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子，滝沢直宏（編）『言語研究の技法：データの収集と分析』（pp. 43-72）ひつじ書房
- 龐焱（2016）「翻訳から見る日中両国語の擬音語と擬態語について：その形態と文法機能の異同を中心に」『神戸女学院大学論集』 63(1), 65-84,
- 彭飛（1985）『日語拟声拟态词简析』北京商务印书馆
- 彭飛（2007）「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学』 26(7), 48-56.
- 星野和子（1991）「擬態語のシンタックス」『日本文学』（東京女子大学） 75, 80-95.
- 松本曜（2010）「多義性とカテゴリー構造」澤田治美（編）『ひつじ意味論講座第1巻：語・文と文法カテゴリーの意味』（pp.23-43）ひつじ書房
- マリーナ・バハー・ハビーブ（2018）「感覚に着目したオノマトペの学習活動：日常生活のリソースを用いて」『日本言語文化研究会論集』 14, 19-46.

- 三上京子 (2003) 「上級教材に見られるオノマトペ:統語的特徴の分析と指導の観点」『早稲田大学日本語教育研究』 2, 193-209.
- 三上京子 (2004) 「多義オノマトペの意味・用法の記述と指導の試み:『ごろごろ』『ばたばた』を例として」『小出記念日本語教育研究会論文集』 12, 63-77.
- 三上京子 (2007a) 「日本語教材とオノマトペ」『日本語学』 26(7), 36-46.
- 三上京子 (2007b) 「日本語オノマトペとその教育」早稲田大学博士論文
- 水野あゆ(2012) 「翻訳を通してみた日中両語のオノマトペ」『言語と交流』 15, 150-164.
- 三井一巳 (2017) 「日本語教育における類義語指導の一考察:日本語学習者の振り返りからみる困難点と学習方法」『早稲田日本語教育学』 23, 101-108.
- 三好行雄 (2002) 「乳幼児言語研究:1~2 歳児における発声語の文法的特質(2)」『武蔵野短期大学研究紀要』 16, 25-34.
- 山口仲美 (1986) 「音象徴語研究の一視点」『国語語彙史の研究』 7, 345-371.
- 山崎誠 (2009) 「代表性を有する現代日本語書籍コーパスの構築」『人工知能学会誌』 24(5), 623-631.
- 山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』くろしお出版
- 八木豊・ホドシチェク=ボル・阿辺川武・仁科喜久子 (2013) 「学習者が犯す誤用の要因・背景からみる日本語作文支援」『国立国語研究所第 3 回日本語ワークショップ予稿集』 307-312.
- 杨董玲 (2010) 「日汉拟态词比较研究」南京农业大学硕士论文
- 楊碩・橋本敬・李冠宏・李曉燕 (2015) 「創作タスクによる日本語オノマトペのニュアンス学習システム」『人工知能学会論文誌』 30(1), 331-339.
- 吉永尚 (2017) 「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察:中国語話者の作文データをもとに」『園田学園女子大学論文集』 51, 93-103.
- 李在鎬・伊藤健人 (2008) 「決定木を用いた多義語分析:多義動詞『出る』を例に」『日本認知言語学会論文集』 8, 55-65.
- 李在鎬・進藤三佳 (2012) 「決定木に基づく多義語分析:『明らか』を例に」『言語処理学会第 18 回年次大会発表論文集』 583-586.
- 李楓 (2014) 「高頻度・汎用的漢語サ変動詞の活用上の選好性について」『統計数理研究所共同研究レポート』 308, 173-186.
- 呂佳蓉 (2003) 「オノマトペの多義性に関するスキーマ的分析」『言語科学論集』 9, 83-117.

- 呂佳蓉 (2004) 「比喻としてのオノマトペー『ころころ』と『圓滾滾』」『日本認知言語学会論集』 4, 480-483.
- 盧月珠 (2007) 「LARP at SCU における情態副詞の習得についての考察：初級から中級までの作文データを調査対象に」『台灣日本語文学報』 22, 431-456.
- 渡辺裕子 (1997) 「日本語教育におけるオノマトペの扱いについての一考察」『学校教育学研究』 (兵庫教育大学) 9, 23-31.
- Waida, T. (1984) English and Japanese onomatopoeic structures. 『女子大文学 (外国文学篇)』 (大阪女子大学) 36, 55-79.

付録

附表1 重要オノマトペリスト

順位	オノマトペ	頻度	収録数	指数	順位	オノマトペ	頻度	収録数	指数
1	はっきり	10452	6	10452	731	どしん	35	4	23
2	しっかり	9800	6	9800	732	はらり	35	4	23
3	ずっ	12340	4	8227	733	ふん	35	4	23
4	ゆっくり	8216	6	8216	734	びしゃっ	28	5	23
5	きっ	7672	6	7672	735	ぎゅー	46	3	23
6	ちゃん	7495	5	6246	736	びしり	46	3	23
7	きちん	6503	5	5419	737	ぼってり	46	3	23
8	どンドン	5124	6	5124	738	ちっ	23	6	23
9	すっかり	4754	6	4754	739	なよなよ	23	6	23
10	たっぷり	3563	6	3563	740	べちやくちや	34	4	23
11	そろそろ	3016	6	3016	741	むんず	34	4	23
12	じっ	4008	4	2672	742	ぷつつり	45	3	23
13	びっくり	4793	3	2397	743	さめざめ	27	5	23
14	ほっ	2382	6	2382	744	しゅっしゅっ	27	5	23
15	ぴったり	2257	6	2257	745	ほろほろ	27	5	23
16	そっ	2605	5	2171	746	えんえん	66	2	22
17	すっきり	1922	6	1922	747	べたり	44	3	22
18	さっぱり	1784	6	1784	748	ぼっこり	44	3	22
19	のんびり	1748	6	1748	749	むざむざ	44	3	22
20	ぼんやり	1678	6	1678	750	がさごそ	33	4	22
21	いらいら	1639	6	1639	751	ずきん	33	4	22
22	そっくり	1633	6	1633	752	こちょこちょ	22	6	22
23	じっくり	1546	6	1546	753	ずばずば	22	6	22
24	あっさり	1511	6	1511	754	ちょん	22	6	22
25	ぎりぎり	1422	6	1422	755	ばりっ	22	6	22
26	さっ	1679	5	1399	756	めりめり	22	6	22

27	ゆったり	1295	6	1295	757	くっ	26	5	22
28	ばらばら	1291	6	1291	758	ぼきぼき	26	5	22
29	さっさ	1239	6	1239	759	ぐにやり	32	4	21
30	ひょっ	1471	5	1226	760	ぐらっ	32	4	21
31	どきどき	1182	6	1182	761	ことん	42	3	21
32	はっ	1122	6	1122	762	すらっ	42	3	21
33	だんだん	3332	2	1111	763	ぶつん	42	3	21
34	ぱっ	1072	6	1072	764	おたおた	21	6	21
35	こっそり	1030	6	1030	765	ふつつり	21	6	21
36	ぐっ	1019	6	1019	766	ぼこぼこ	21	6	21
37	にこにこ	972	6	972	767	わんさ	21	6	21
38	きっちり	966	6	966	768	じゃりじゃり	25	5	21
39	きらきら	951	6	951	769	ばかり	25	5	21
40	わくわく	893	6	893	770	きらっ	62	2	21
41	うっかり	816	6	816	771	ぶるっ	62	2	21
42	がっかり	965	5	804	772	みんな	62	2	21
43	きっぱり	787	6	787	773	おめおめ	31	4	21
44	ぐるぐる	777	6	777	774	どろり	41	3	21
45	うんざり	717	6	717	775	ふつつ	60	2	20
46	ぼろぼろ	706	6	706	776	するっ	40	3	20
47	きちっ	840	5	700	777	そろり	40	3	20
48	ふっ	670	6	670	778	ぼたり	30	4	20
49	しっとり	657	6	657	779	かさこそ	24	5	20
50	ごろごろ	654	6	654	780	かっか	24	5	20
51	びん	634	6	634	781	ぼちぼち	24	5	20
52	ひっそり	632	6	632	782	がばがば	20	6	20
53	ずばり	624	6	624	783	げろげろ	20	6	20
54	ふらふら	613	6	613	784	ぷくっ	20	6	20
55	にっこり	914	4	609	785	だらん	39	3	20

56	ぼーっ	608	6	608	786	ひよろり	39	3	20
57	さらさら	605	6	605	787	あべこべ	58	2	19
58	ちょっぴり	605	6	605	788	かちゃん	29	4	19
59	うろうろ	590	6	590	789	べろっ	29	4	19
60	くるくる	589	6	589	790	けたけた	23	5	19
61	ぶらぶら	588	6	588	791	ひよこひよこ	23	5	19
62	ばたばた	585	6	585	792	ぬるっ	38	3	19
63	かっ	579	6	579	793	ふんふん	38	3	19
64	ぶつぶつ	566	6	566	794	ぼとり	38	3	19
65	どっ	550	6	550	795	のっしのっし	19	6	19
66	くつきり	547	6	547	796	ごぼごぼ	22	5	18
67	ぎゅっ	539	6	539	797	すぼっ	22	5	18
68	うっすら	531	6	531	798	によきによき	22	5	18
69	ぎっ	531	6	531	799	がはは	54	2	18
70	すっ	622	5	518	800	ぼい	54	2	18
71	ばっちり	518	6	518	801	ふん	27	4	18
72	だらだら	515	6	515	802	かっさり	18	6	18
73	ぞっ	513	6	513	803	しっぼり	18	6	18
74	ふわふわ	496	6	496	804	によるによる	18	6	18
75	うっとり	495	6	495	805	ばかばか	18	6	18
76	ちらり	712	4	475	806	びちっ	18	6	18
77	すんなり	454	6	454	807	ぶすぶす	18	6	18
78	がんがん	452	6	452	808	へたへた	18	6	18
79	ぐったり	452	6	452	809	じーじー	21	5	18
80	にやにや	445	6	445	810	ひよいひよい	21	5	18
81	せっせ	432	6	432	811	きんきん	26	4	17
82	ばりばり	429	6	429	812	ぴよこん	26	4	17
83	めちゃくちゃ	841	3	421	813	がたびし	17	6	17
84	びっしり	416	6	416	814	ぎよろぎよろ	17	6	17

85	ぴかぴか	407	6	407	815	こせこせ	17	6	17
86	たんたん	811	3	406	816	すたこら	17	6	17
87	こつこつ	403	6	403	817	ずらずら	17	6	17
88	ふっくら	398	6	398	818	ずるっ	25	4	17
89	がたがた	386	6	386	819	ちょこまか	25	4	17
90	むっ	381	6	381	820	ばかっ	25	4	17
91	ぎっしり	378	6	378	821	びしゃびしゃ	20	5	17
92	がちり	374	6	374	822	びくん	33	3	17
93	ぐっすり	370	6	370	823	びりっ	33	3	17
94	ずるずる	363	6	363	824	ぞくっ	49	2	16
95	ころころ	357	6	357	825	びーん	49	2	16
96	がらがら	352	6	352	826	ぎよろり	32	3	16
97	ふんわり	352	6	352	827	じゅーじゅー	32	3	16
98	ぎよっ	352	6	352	828	とん	32	3	16
99	ほんのり	346	6	346	829	がたっ	24	4	16
100	つつる	345	6	345	830	しゃんしゃん	16	6	16
101	ぶるぶる	343	6	343	831	びちゃびちゃ	16	6	16
102	ちらっ	684	3	342	832	ぼやっ	16	6	16
103	ぴたり	512	4	341	833	きゅーきゅー	19	5	16
104	すーっ	409	5	341	834	しゅーしゅー	19	5	16
105	はらはら	339	6	339	835	ぷーん	31	3	16
106	ちらちら	335	6	335	836	うまうま	46	2	15
107	すっぼり	332	6	332	837	べしゃんこ	45	2	15
108	とんとん	332	6	332	838	ごとん	30	3	15
109	じわじわ	329	6	329	839	びっびっ	30	3	15
110	しっくり	328	6	328	840	ちんまり	18	5	15
111	どろどろ	325	6	325	841	ばったばった	18	5	15
112	ばったり	321	6	321	842	えっちらおっち ら	15	6	15

113	にやり	639	3	320	843	ぐでんぐでん	15	6	15
114	ごちゃごちゃ	311	6	311	844	ごによごによ	15	6	15
115	じりじり	307	6	307	845	じゃかじゃか	15	6	15
116	ひんやり	301	6	301	846	ちよきちよき	15	6	15
117	ぐずぐず	357	5	298	847	ぼたぼた	15	6	15
118	かりかり	289	6	289	848	ごくん	22	4	15
119	のろのろ	289	6	289	849	ばたっ	22	4	15
120	ひらひら	287	6	287	850	くつくつ	29	3	15
121	ちょこっ	342	5	285	851	ぷつぷつ	29	3	15
122	ぼつん	340	5	283	852	てんやわんや	43	2	14
123	ぼかん	283	6	283	853	そよそよ	17	5	14
124	ぐんぐん	282	6	282	854	ぎんぎん	28	3	14
125	めちやめちや	337	5	281	855	ごほん	28	3	14
126	ばらばら	331	5	276	856	ずぶり	28	3	14
127	ゆらゆら	272	6	272	857	ばーん	28	3	14
128	からから	271	6	271	858	きゅつきゅつ	21	4	14
129	わいわい	271	6	271	859	くらっ	21	4	14
130	うとうと	270	6	270	860	ざぶん	21	4	14
131	さくさく	262	6	262	861	どぼっ	21	4	14
132	ばちばち	259	6	259	862	きんきん	14	6	14
133	ばんばん	258	6	258	863	さやさや	14	6	14
134	どんより	257	6	257	864	でこでこ	14	6	14
135	もやもや	256	6	256	865	ぬらぬら	14	6	14
136	がっくり	306	5	255	866	がちやり	27	3	14
137	びくびく	253	6	253	867	こてんぱん	27	3	14
138	がっしり	252	6	252	868	べたっ	27	3	14
139	ぼん	377	4	251	869	つーん	40	2	13
140	まじまじ	248	6	248	870	ごろっ	20	4	13
141	ぞくぞく	247	6	247	871	ぶーっ	20	4	13

142	きゅっ	242	6	242	872	ぶるん	20	4	13
143	きよろきよろ	242	6	242	873	ぺっ	20	4	13
144	ぼんぼん	242	6	242	874	ぴちやぴちや	16	5	13
145	くすくす	289	5	241	875	ばきばき	26	3	13
146	ちん	358	4	239	876	もーもー	26	3	13
147	ぼつり	356	4	237	877	がさっ	13	6	13
148	ぼちぼち	284	5	237	878	ぎとぎと	13	6	13
149	さらり	236	6	236	879	きよときよと	13	6	13
150	がりがり	235	6	235	880	ごそっ	13	6	13
151	きよとん	234	6	234	881	のらくら	13	6	13
152	しん	232	6	232	882	ゆさゆさ	13	6	13
153	じろじろ	231	6	231	883	ぴっかぴか	38	2	13
154	ずらり	458	3	229	884	ぼいっ	38	2	13
155	おずおず	228	6	228	885	ぎーぎー	19	4	13
156	ぼっかり	228	6	228	886	だーっ	19	4	13
157	ぞろぞろ	227	6	227	887	ちびりちびり	25	3	13
158	べったり	227	6	227	888	ばたっ	15	5	13
159	ちらほら	225	6	225	889	しゃっきり	37	2	12
160	ばくばく	222	6	222	890	すっからかん	37	2	12
161	てきばき	221	6	221	891	ばちばち	36	2	12
162	がらり	220	6	220	892	はちやめちや	36	2	12
163	こそこそ	219	6	219	893	ぶーん	36	2	12
164	ぎらぎら	214	6	214	894	ぐさり	24	3	12
165	ぐちゃぐちゃ	214	6	214	895	くりっ	24	3	12
166	ぐん	256	5	213	896	けんけん	24	3	12
167	がらん	213	6	213	897	ことり	24	3	12
168	くたくた	213	6	213	898	ぷつり	24	3	12
169	ちょちょこ	213	6	213	899	べたっ	24	3	12
170	ごたごた	211	6	211	900	ばたん	18	4	12

171	どっぶり	211	6	211	901	ぼかつ	18	4	12
172	よろよろ	210	6	210	902	ぼきっ	18	4	12
173	とっと	208	6	208	903	もしゃもしゃ	18	4	12
174	ひそひそ	207	6	207	904	がっぷり	12	6	12
175	そそくさ	204	6	204	905	くだくだ	12	6	12
176	とろとろ	204	6	204	906	ぎぶぎぶ	12	6	12
177	ぼかぼか	202	6	202	907	ちくたく	12	6	12
178	しんなり	198	6	198	908	でぶでぶ	12	6	12
179	くよくよ	195	6	195	909	べちゃべちゃ	12	6	12
180	どっしり	233	5	194	910	ちょろっ	35	2	12
181	くらくら	193	6	193	911	らんらん	35	2	12
182	ちよくちよく	193	6	193	912	いじいじ	14	5	12
183	そわそわ	190	6	190	913	すくっ	14	5	12
184	うきうき	284	4	189	914	がたごと	23	3	12
185	つやつや	188	6	188	915	かっくん	23	3	12
186	しみじみ	561	2	187	916	きゅー	23	3	12
187	ぐらぐら	187	6	187	917	くすん	23	3	12
188	ぼつぼつ	187	6	187	918	ぬるり	23	3	12
189	じーっ	222	5	185	919	かっかっ	17	4	11
190	ぐいぐい	184	6	184	920	そろりそろり	33	2	11
191	ぺらぺら	184	6	184	921	のそり	22	3	11
192	くるり	367	3	184	922	はっし	11	6	11
193	きらり	218	5	182	923	からころ	13	5	11
194	びたっ	180	6	180	924	けろけろ	13	5	11
195	ぎくしゃく	179	6	179	925	ぼいぼい	13	5	11
196	くしゃくしゃ	179	6	179	926	ぼとぼと	13	5	11
197	ごっごっ	179	6	179	927	かーかー	16	4	11
198	ぐるり	357	3	179	928	はたはた	16	4	11
199	きびきび	178	6	178	929	ぼっ	16	4	11

200	ぴりぴり	213	5	178	930	ぼとぼと	16	4	11
201	はーはー	177	6	177	931	ぼん	16	4	11
202	やんわり	176	6	176	932	ひよろっ	21	3	11
203	めっきり	175	6	175	933	ぼちゃん	21	3	11
204	ほっそり	260	4	173	934	わらわら	31	2	10
205	ぼろぼろ	173	6	173	935	つるっ	30	2	10
206	のびのび	345	3	173	936	つるてん	30	2	10
207	ごしごし	172	6	172	937	ごんごん	20	3	10
208	おろおろ	171	6	171	938	ばさり	20	3	10
209	すくすく	171	6	171	939	ばしゃばしゃ	20	3	10
210	すらすら	170	6	170	940	ぶくぶく	20	3	10
211	するする	170	6	170	941	ぼつんぼつん	20	3	10
212	かさかさ	167	6	167	942	しょぼん	15	4	10
213	かちかち	166	6	166	943	ぼっちり	12	5	10
214	ふらり	165	6	165	944	ほろっ	12	5	10
215	どん	164	6	164	945	がしっ	10	6	10
216	すらり	196	5	163	946	かすかす	10	6	10
217	くねくね	163	6	163	947	ごーん	10	6	10
218	ざらざら	163	6	163	948	しゅるしゅる	10	6	10
219	こんがり	162	6	162	949	ふがふが	10	6	10
220	かんかん	161	6	161	950	ひよいつ	29	2	10
221	ずたずた	159	6	159	951	ぶりぶり	29	2	10
222	どたばた	159	6	159	952	かくん	19	3	10
223	おいおい	158	6	158	953	がしゃがしゃ	19	3	10
224	とことん	468	2	156	954	ぞーっ	28	2	9
225	ばんばん	155	6	155	955	だぼだぼ	28	2	9
226	すれすれ	232	4	155	956	ぐしよぐしよ	11	5	9
227	ちくちく	154	6	154	957	びしびし	11	5	9
228	ぶんぶん	152	6	152	958	ごほごほ	27	2	9

229	どっさり	151	6	151	959	びよびよ	27	2	9
230	ひらり	151	6	151	960	ばかばか	18	3	9
231	ぼこぼこ	151	6	151	961	びかり	18	3	9
232	ぬるぬる	149	6	149	962	ぼーん	18	3	9
233	ひょっこり	148	6	148	963	うらうら	9	6	9
234	わんわん	177	5	148	964	くさくさ	9	6	9
235	ぼちり	219	4	146	965	けちょんけちょ ん	9	6	9
236	にんまり	145	6	145	966	しおしお	9	6	9
237	ひょい	289	3	145	967	だくだく	9	6	9
238	ぎざぎざ	144	6	144	968	ぼちゃぼちゃ	9	6	9
239	ざわざわ	144	6	144	969	ごくっ	13	4	9
240	ひたひた	144	6	144	970	こっくりこっく り	13	4	9
241	いそいそ	143	6	143	971	びらびら	13	4	9
242	おっとり	142	6	142	972	ぼてぼて	13	4	9
243	おどおど	140	6	140	973	かたり	17	3	9
244	ごそごそ	140	6	140	974	ぐびぐび	17	3	9
245	ぽっちゃり	140	6	140	975	ざくり	17	3	9
246	こんもり	139	6	139	976	じりっ	17	3	9
247	ずんぐり	139	6	139	977	ずんぐりむっく り	17	3	9
248	がくがく	138	6	138	978	べったん	17	3	9
249	ひりひり	138	6	138	979	へべれけ	25	2	8
250	むつつり	138	6	138	980	ぼこっ	25	2	8
251	まったり	273	3	137	981	じとじと	10	5	8
252	どきっ	204	4	136	982	どどっ	10	5	8
253	ぼくり	204	4	136	983	はんなり	24	2	8
254	ぺこぺこ	136	6	136	984	びっちり	24	2	8

255	あたふた	135	6	135	985	くしゃっ	16	3	8
256	むちゃくちゃ	266	3	133	986	ずるり	16	3	8
257	びくっ	133	6	133	987	ちくっ	16	3	8
258	へとへと	133	6	133	988	ちりんちりん	16	3	8
259	ぴしゃり	198	4	132	989	ぶるんぶるん	16	3	8
260	すべすべ	132	6	132	990	べったり	16	3	8
261	もじもじ	131	6	131	991	ぼくぼく	12	4	8
262	つん	130	6	130	992	がっ	8	6	8
263	ひやひや	130	6	130	993	ちょぼちょぼ	8	6	8
264	こってり	155	5	129	994	ねとねと	8	6	8
265	ぼそぼそ	155	5	129	995	へどもど	8	6	8
266	ふわっ	192	4	128	996	ぶらっ	23	2	8
267	のこのこ	128	6	128	997	がっちゃん	15	3	8
268	ぶりぶり	128	6	128	998	ぎーっ	15	3	8
269	するり	153	5	128	999	ぎっちり	15	3	8
270	ずっしり	127	6	127	1000	ぼっさぼっさ	15	3	8
271	ずんずん	127	6	127	1001	うふふ	9	5	8
272	ちゃっかり	125	6	125	1002	くくっ	9	5	8
273	もくもく	125	6	125	1003	がしがし	22	2	7
274	ぐい	249	3	125	1004	ちゃらんぼらん	22	2	7
275	さらっ	186	4	124	1005	ふるん	22	2	7
276	ふわり	186	4	124	1006	ぎちぎち	11	4	7
277	がつがつ	124	6	124	1007	だらっ	11	4	7
278	こっくり	123	6	123	1008	びよこびよこ	11	4	7
279	ぶらり	123	6	123	1009	ぼとん	11	4	7
280	ぶんぶん	123	6	123	1010	あはは	21	2	7
281	ほくほく	123	6	123	1011	こっきり	21	2	7
282	よれよれ	122	6	122	1012	すっぼんぼん	21	2	7
283	ぼーぼー	146	5	122	1013	どんばち	21	2	7

284	がくん	120	6	120	1014	ぐしゃっ	14	3	7
285	しくしく	120	6	120	1015	くたっ	14	3	7
286	びりびり	120	6	120	1016	きちきち	7	6	7
287	うずうず	119	6	119	1017	つーかー	7	6	7
288	じめじめ	118	6	118	1018	ばばっ	20	2	7
289	でこぼこ	352	2	117	1019	ぶっ	10	4	7
290	かたかた	117	6	117	1020	びしゃびしゃ	8	5	7
291	こんこん	117	6	117	1021	がちっ	13	3	7
292	しょんぼり	117	6	117	1022	きしきし	13	3	7
293	どぎまぎ	117	6	117	1023	きちんきちん	13	3	7
294	びよんびよん	117	6	117	1024	ごん	13	3	7
295	ぐりぐり	116	6	116	1025	ばたり	13	3	7
296	ちぐはぐ	116	6	116	1026	ぺこん	13	3	7
297	ちょこん	139	5	116	1027	べろんべろん	13	3	7
298	ひしひし	139	5	116	1028	かきかき	19	2	6
299	わっ	138	5	115	1029	ころりん	19	2	6
300	がつん	115	6	115	1030	でんでん	19	2	6
301	しゃきっ	114	6	114	1031	ふふふ	19	2	6
302	ちやほや	114	6	114	1032	ぺこっ	19	2	6
303	べたべた	113	6	113	1033	ほっくり	19	2	6
304	ふかふか	113	6	113	1034	がつくん	18	2	6
305	がやがや	112	6	112	1035	ざっく	18	2	6
306	ちよろちよろ	112	6	112	1036	ばちっ	18	2	6
307	ばっさり	112	6	112	1037	がちゃっ	12	3	6
308	きりっ	134	5	112	1038	かつん	12	3	6
309	すいすい	111	6	111	1039	ぐんにやり	12	3	6
310	すたすた	111	6	111	1040	ばりん	12	3	6
311	ねばねば	111	6	111	1041	むくっ	12	3	6
312	ぶかぶか	111	6	111	1042	かたん	9	4	6

313	むかむか	111	6	111	1043	ちゃきちゃき	9	4	6
314	ふーっ	133	5	111	1044	はった	9	4	6
315	まざまざ	133	5	111	1045	びらびら	9	4	6
316	くどくど	110	6	110	1046	しゃなりしゃなり	6	6	6
317	じたばた	110	6	110	1047	しゃん	6	6	6
318	ばりばり	110	6	110	1048	ひゆるひゆる	6	6	6
319	ばたばた	131	5	109	1049	ちゃかちゃか	7	5	6
320	だらり	130	5	108	1050	つー	7	5	6
321	きりきり	108	6	108	1051	どさどさ	7	5	6
322	どしどし	108	6	108	1052	しとど	17	2	6
323	もぐもぐ	108	6	108	1053	はくしょん	17	2	6
324	にこり	161	4	107	1054	ぐしゃり	11	3	6
325	ちびちび	107	6	107	1055	ぐたぐた	11	3	6
326	ぐるっ	212	3	106	1056	くるん	11	3	6
327	しゃきしゃき	106	6	106	1057	ざくっ	11	3	6
328	しんみり	106	6	106	1058	ざらり	11	3	6
329	ぼっちり	106	6	106	1059	しゅーっ	11	3	6
330	げらげら	127	5	106	1060	どたり	11	3	6
331	ことこと	105	6	105	1061	ひゅっ	11	3	6
332	つかつか	105	6	105	1062	びゅっ	11	3	6
333	ゆるゆる	157	4	105	1063	びゅっ	11	3	6
334	ねっとり	156	4	104	1064	もわっ	11	3	6
335	がさがさ	104	6	104	1065	くっく	16	2	5
336	どかん	103	6	103	1066	じゅくじゅく	16	2	5
337	がちがち	101	6	101	1067	びっ	16	2	5
338	とぼとぼ	101	6	101	1068	ひゅーっ	16	2	5
339	ふさふさ	101	6	101	1069	ひゅんひゅん	16	2	5
340	てっきり	301	2	100	1070	ぼろん	16	2	5

341	せかせか	100	6	100	1071	からんからん	8	4	5
342	ぬくぬく	100	6	100	1072	つんけん	8	4	5
343	ぱりっ	149	4	99	1073	ぺっぺっ	8	4	5
344	じーん	99	6	99	1074	ぼきっ	8	4	5
345	びしっ	99	6	99	1075	ぼこん	8	4	5
346	びんびん	99	6	99	1076	ぎょろっ	15	2	5
347	てんてん	294	2	98	1077	こっつ	15	2	5
348	じゃんじゃん	98	6	98	1078	にゃんにゃん	15	2	5
349	ごっそり	97	6	97	1079	びゅーん	15	2	5
350	びっしょり	145	4	97	1080	ぷっぷっ	15	2	5
351	からり	96	6	96	1081	べちやっ	15	2	5
352	こりこり	96	6	96	1082	もさもさ	15	2	5
353	ずきずき	96	6	96	1083	からんころん	10	3	5
354	すとん	96	6	96	1084	さっさっ	10	3	5
355	ぶくぶく	96	6	96	1085	しゃらしゃら	10	3	5
356	みっちり	96	6	96	1086	つんつるてん	10	3	5
357	きっかり	114	5	95	1087	ぱりん	10	3	5
358	ぎゅーぎゅー	95	6	95	1088	ぼきり	10	3	5
359	すかっ	95	6	95	1089	ほんわり	10	3	5
360	ざっくり	142	4	95	1090	きんきらきん	6	5	5
361	ばさばさ	113	5	94	1091	ぎこぎこ	5	6	5
362	びくびく	112	5	93	1092	ぐさぐさ	5	6	5
363	もりもり	92	6	92	1093	くにかくにゃ	5	6	5
364	よちよち	92	6	92	1094	げーげー	5	6	5
365	こちんまり	182	3	91	1095	つけつけ	5	6	5
366	むずむず	91	6	91	1096	ぶっつ	5	6	5
367	くんくん	109	5	91	1097	ぺちやぺちや	5	6	5
368	ごーごー	109	5	91	1098	めためた	5	6	5
369	さっくり	136	4	91	1099	たぶたぶ	14	2	5

370	ぴりっ	136	4	91	1100	つーっ	14	2	5
371	ひくひく	108	5	90	1101	にゅー	14	2	5
372	ちょいちょい	90	6	90	1102	ばちん	14	2	5
373	びちびち	90	6	90	1103	はふはふ	14	2	5
374	ぼさぼさ	90	6	90	1104	ぷいっ	14	2	5
375	かちっ	89	6	89	1105	ぐー	7	4	5
376	かちん	89	6	89	1106	ぐっぐっ	7	4	5
377	もたもた	106	5	88	1107	たらし	7	4	5
378	にやっ	172	3	86	1108	どすんどすん	7	4	5
379	ぜーぜー	86	6	86	1109	のたりのたり	7	4	5
380	やきもき	86	6	86	1110	ばん	7	4	5
381	ぺこり	128	4	85	1111	びーちく	7	4	5
382	がちゃがちゃ	102	5	85	1112	によつきり	9	3	5
383	すっぱり	85	6	85	1113	ぱっば	9	3	5
384	はきはき	85	6	85	1114	ひゅー	9	3	5
385	ふーふー	85	6	85	1115	ひよこっ	9	3	5
386	びくり	169	3	85	1116	ふるんふるん	9	3	5
387	なみなみ	101	5	84	1117	ごろんごろん	13	2	4
388	たらたら	84	6	84	1118	じわりじわり	13	2	4
389	とくとく	84	6	84	1119	ちんちくりん	13	2	4
390	とろり	164	3	82	1120	びーっ	13	2	4
391	べろり	123	4	82	1121	ぶっつん	13	2	4
392	じっとり	82	6	82	1122	ぼっつ	13	2	4
393	すやすや	81	6	81	1123	みっしり	13	2	4
394	しどろもどろ	121	4	81	1124	かたこと	5	5	4
395	ほんわか	80	6	80	1125	ぐんなり	5	5	4
396	さーっ	79	6	79	1126	ごぼっ	5	5	4
397	とことこ	79	6	79	1127	ぼちゃぼちゃ	5	5	4
398	ぎしぎし	78	6	78	1128	もさっ	5	5	4

399	むくむく	78	6	78	1129	わーん	5	5	4
400	よたよた	78	6	78	1130	かちやつ	12	2	4
401	くりくり	77	6	77	1131	げほげほ	12	2	4
402	べとべと	77	6	77	1132	にゃーにゃー	12	2	4
403	どすん	115	4	77	1133	ぬめっ	12	2	4
404	ごわごわ	76	6	76	1134	のんべんだらり	12	2	4
405	ちまちま	76	6	76	1135	ばらっ	12	2	4
406	びしょびしょ	76	6	76	1136	びー	12	2	4
407	へろへろ	90	5	75	1137	ぴこぴこ	12	2	4
408	がらっ	112	4	75	1138	ぴゅーっ	12	2	4
409	ぼつぼつ	89	5	74	1139	ふふん	12	2	4
410	うつらうつら	74	6	74	1140	ゆらりゆらり	12	2	4
411	ぐっぐっ	74	6	74	1141	がしゃん	8	3	4
412	ぼーっ	74	6	74	1142	こん	8	3	4
413	ぺろぺろ	73	6	73	1143	ざざっ	8	3	4
414	しゃぶしゃぶ	109	4	73	1144	どたっ	8	3	4
415	ばちん	109	4	73	1145	ばきばき	8	3	4
416	めーめー	217	2	72	1146	ぶかり	8	3	4
417	こちこち	72	6	72	1147	ぶすり	8	3	4
418	にっ	72	6	72	1148	ぶらん	8	3	4
419	ぶーぶー	72	6	72	1149	ぼこっ	8	3	4
420	ほかほか	72	6	72	1150	がぶっ	6	4	4
421	ぎくっ	71	6	71	1151	きゅーん	6	4	4
422	ちかちか	71	6	71	1152	ずい	6	4	4
423	てくてく	71	6	71	1153	ばらり	6	4	4
424	ぬっ	71	6	71	1154	あっぶあっぶ	4	6	4
425	べらべら	85	5	71	1155	けばけば	4	6	4
426	ぼそっ	84	5	70	1156	ごちごち	4	6	4
427	うようよ	70	6	70	1157	にゆるにゆる	4	6	4

428	がみがみ	70	6	70	1158	がじがじ	11	2	4
429	ちりちり	70	6	70	1159	くしゃり	11	2	4
430	のほほん	70	6	70	1160	ずぼっ	11	2	4
431	ごくり	139	3	70	1161	ちゃんちゃん	11	2	4
432	ぽっぽ	83	5	69	1162	どかり	11	2	4
433	さばさば	69	6	69	1163	によきっ	11	2	4
434	めそめそ	69	6	69	1164	ぬーっ	11	2	4
435	ばたん	102	4	68	1165	ははは	11	2	4
436	かっちり	68	6	68	1166	ふわりふわり	11	2	4
437	げんなり	68	6	68	1167	へこへこ	11	2	4
438	ころっ	67	6	67	1168	がりっ	7	3	4
439	だぶだぶ	67	6	67	1169	ぐちよぐちよ	7	3	4
440	どくどく	80	5	67	1170	さくり	7	3	4
441	じろり	133	3	67	1171	ちっちっ	7	3	4
442	もぞもぞ	99	4	66	1172	ちょろり	7	3	4
443	あんぐり	66	6	66	1173	にたっ	7	3	4
444	ずかずか	66	6	66	1174	ふっくり	7	3	4
445	ばさばさ	66	6	66	1175	かしゃかしゃ	10	2	3
446	ほいほい	79	5	66	1176	ちゅっちゅっ	10	2	3
447	りん	197	2	66	1177	ぱしっ	10	2	3
448	ざくざく	65	6	65	1178	ほーほー	10	2	3
449	すごすご	65	6	65	1179	やいのやいの	10	2	3
450	むらむら	65	6	65	1180	すきっ	5	4	3
451	すかすか	64	6	64	1181	ちりん	5	4	3
452	てかてか	64	6	64	1182	つーつー	5	4	3
453	ひやり	95	4	63	1183	ばちゃばちゃ	5	4	3
454	ぱちくり	76	5	63	1184	すってんてん	4	5	3
455	げっそり	63	6	63	1185	すてん	4	5	3
456	すーすー	63	6	63	1186	どぶん	4	5	3

457	からっ	94	4	63	1187	ぬらりくらり	4	5	3
458	ぎゃーぎゃー	75	5	63	1188	ぼとっ	4	5	3
459	もごもご	75	5	63	1189	うひひ	9	2	3
460	ぐいっ	124	3	62	1190	かったん	9	2	3
461	もちもち	124	3	62	1191	ぐじゃぐじゃ	9	2	3
462	いちゃいちゃ	62	6	62	1192	こくこく	9	2	3
463	どっかり	62	6	62	1193	しっちゃんかめっ ちゃか	9	2	3
464	めらめら	62	6	62	1194	ずきんずきん	9	2	3
465	めろめろ	62	6	62	1195	はーっ	9	2	3
466	かりっ	92	4	61	1196	びー	9	2	3
467	ぴしっ	92	4	61	1197	ぶーっ	9	2	3
468	うかうか	61	6	61	1198	ぷすっ	9	2	3
469	ぐしゃぐしゃ	61	6	61	1199	かん	6	3	3
470	しょぼしょぼ	61	6	61	1200	ぐびり	6	3	3
471	ぶよぶよ	61	6	61	1201	ごとり	6	3	3
472	べっとり	73	5	61	1202	ざらっ	6	3	3
473	わーわー	72	5	60	1203	じゅーっ	6	3	3
474	うじゃうじゃ	60	6	60	1204	しんねり	6	3	3
475	ぐーぐー	60	6	60	1205	すってん	6	3	3
476	ぶちぶち	177	2	59	1206	ぞろっ	6	3	3
477	ぐにゃぐにゃ	59	6	59	1207	ぬらり	6	3	3
478	でかでか	59	6	59	1208	びちよびちよ	6	3	3
479	でん	59	6	59	1209	ぷすぷす	6	3	3
480	ぐっしより	70	5	58	1210	ぼたっ	6	3	3
481	ぶすっ	58	6	58	1211	かーん	3	6	3
482	へなへな	58	6	58	1212	しなしな	3	6	3
483	にこっ	171	2	57	1213	だーん	3	6	3
484	のっぺり	57	6	57	1214	ぼさっ	3	6	3

485	むんむん	57	6	57	1215	れろれろ	3	6	3
486	どーん	113	3	57	1216	がくんがくん	8	2	3
487	ちんちん	56	6	56	1217	がじゃん	8	2	3
488	ごりごり	56	6	56	1218	がらんがらん	8	2	3
489	がぼっ	67	5	56	1219	ぎっ	8	2	3
490	けらけら	67	5	56	1220	ぎらっ	8	2	3
491	へらへら	67	5	56	1221	ぐすぐす	8	2	3
492	しげしげ	166	2	55	1222	ぐにゃ	8	2	3
493	じゃらじゃら	55	6	55	1223	ぐにゃっ	8	2	3
494	たじたじ	55	6	55	1224	すいっ	8	2	3
495	ぼーっ	55	6	55	1225	ずしっ	8	2	3
496	きゃーきゃー	82	4	55	1226	たらっ	8	2	3
497	どさっ	65	5	54	1227	のめのめ	8	2	3
498	きりり	108	3	54	1228	ばしゃん	8	2	3
499	こつん	81	4	54	1229	ぼとり	8	2	3
500	ぼりぼり	81	4	54	1230	むーっ	8	2	3
501	うじうじ	54	6	54	1231	こちんこちん	4	4	3
502	つんつん	54	6	54	1232	ざぶり	4	4	3
503	ひよろひよろ	54	6	54	1233	びーん	4	4	3
504	ぷっ	54	6	54	1234	ぴんしゃん	4	4	3
505	むしゃくしゃ	54	6	54	1235	べろん	4	4	3
506	じんわり	106	3	53	1236	むず	4	4	3
507	がちゃん	79	4	53	1237	かたっ	5	3	3
508	どきり	79	4	53	1238	がたり	5	3	3
509	あやふや	156	2	52	1239	がちり	5	3	3
510	ちくり	78	4	52	1240	じゃぼじゃぼ	5	3	3
511	めきめき	52	6	52	1241	すってんころり	5	3	3
512	あっけらかん	103	3	52	1242	たったっ	5	3	3
513	ちゅんちゅん	77	4	51	1243	どしんどしん	5	3	3

514	ぼろり	77	4	51	1244	ぬらっ	5	3	3
515	どやどや	51	6	51	1245	ぼったん	5	3	3
516	びんぼん	149	2	50	1246	びしゃっ	5	3	3
517	くるっ	99	3	50	1247	びゅっびゅっ	5	3	3
518	けろり	99	3	50	1248	ひんひん	5	3	3
519	ばったり	74	4	49	1249	べたり	5	3	3
520	きーきー	59	5	49	1250	べろっ	5	3	3
521	ごてごて	49	6	49	1251	ぽっぽっ	5	3	3
522	どんちゃん	58	5	48	1252	みりみり	5	3	3
523	さくっ	96	3	48	1253	がっぼがっぼ	3	5	3
524	ちゃらちゃら	48	6	48	1254	しゅんしゅん	3	5	3
525	とっぶり	48	6	48	1255	ずしずし	3	5	3
526	ばん	48	6	48	1256	どしっ	3	5	3
527	ふにやふにや	48	6	48	1257	にちゃにちゃ	3	5	3
528	ぎっくばらん	95	3	48	1258	びちゃっ	3	5	3
529	ぬけぬけ	57	5	48	1259	えへん	7	2	2
530	うんうん	71	4	47	1260	だー	7	2	2
531	ちよい	94	3	47	1261	たった	7	2	2
532	ねちねち	47	6	47	1262	ちょっちょっ	7	2	2
533	ぴっ	47	6	47	1263	にーっ	7	2	2
534	もじゃもじゃ	70	4	47	1264	はぐはぐ	7	2	2
535	むしゃむしゃ	56	5	47	1265	ぶー	7	2	2
536	じぐざぐ	139	2	46	1266	ぶらりぶらり	7	2	2
537	ぎくり	92	3	46	1267	べろり	7	2	2
538	ぼそり	92	3	46	1268	ぼろっ	7	2	2
539	しーん	69	4	46	1269	ざぶっ	6	2	2
540	ぎすぎす	46	6	46	1270	ずーずー	6	2	2
541	びゅんびゅん	46	6	46	1271	つるりん	6	2	2
542	ぶつくさ	46	6	46	1272	どきんどきん	6	2	2

543	とげとげ	55	5	46	1273	ひくっ	6	2	2
544	ぐだぐだ	91	3	46	1274	わはは	6	2	2
545	むっちり	54	5	45	1275	がしゃっ	4	3	2
546	ぼしっ	45	6	45	1276	きんきら	4	3	2
547	でっぶり	67	4	45	1277	ざっくざっく	4	3	2
548	びっちり	53	5	44	1278	ざんぶ	4	3	2
549	べろべろ	44	6	44	1279	しゃりっ	4	3	2
550	もそもそ	44	6	44	1280	すぼり	4	3	2
551	ざーっ	52	5	43	1281	ちかっ	4	3	2
552	かちやかちや	43	6	43	1282	ちょびちょび	4	3	2
553	にたにた	43	6	43	1283	ちんちろりん	4	3	2
554	のそのそ	43	6	43	1284	びしゃん	4	3	2
555	ぼりぼり	43	6	43	1285	びしり	4	3	2
556	わなわな	43	6	43	1286	びゅー	4	3	2
557	ぼたぼた	64	4	43	1287	びゅーびゅー	4	3	2
558	うるうる	85	3	43	1288	びよこり	4	3	2
559	げっぶ	126	2	42	1289	べちやくちや	4	3	2
560	ころり	63	4	42	1290	かさっ	3	4	2
561	ぞっこん	63	4	42	1291	がつっ	3	4	2
562	ゆるり	63	4	42	1292	ぎー	3	4	2
563	こてこて	42	6	42	1293	ごーっ	3	4	2
564	ぺたぺた	42	6	42	1294	すっすっ	3	4	2
565	がたん	62	4	41	1295	ぶっつ	3	4	2
566	のっそり	62	4	41	1296	ぼかぼか	3	4	2
567	ささっ	82	3	41	1297	ぐーすか	2	6	2
568	すばっ	82	3	41	1298	こてんこてん	2	6	2
569	ちろちろ	41	6	41	1299	ずずん	2	6	2
570	どたどた	41	6	41	1300	ちゃぼちゃぼ	2	6	2
571	どんびしゃり	49	5	41	1301	ばちゃばちゃ	2	6	2

572	びんびん	49	5	41	1302	ぶわぶわ	2	6	2
573	もっこり	122	2	41	1303	ぼいん	2	6	2
574	ぼっ	61	4	41	1304	がたんごとな	5	2	2
575	ずらっ	81	3	41	1305	ぎしっ	5	2	2
576	わーっ	121	2	40	1306	くるりくるり	5	2	2
577	るんるん	80	3	40	1307	ごとなごとな	5	2	2
578	ちよっくら	40	6	40	1308	すっくり	5	2	2
579	まごまご	40	6	40	1309	ずぶっ	5	2	2
580	こくり	79	3	40	1310	ちよっきん	5	2	2
581	ちょびっ	59	4	39	1311	ちろり	5	2	2
582	とろん	59	4	39	1312	でれっ	5	2	2
583	ぶい	47	5	39	1313	どぼどぼ	5	2	2
584	うはうは	39	6	39	1314	ひー	5	2	2
585	かつかつ	39	6	39	1315	びょーん	5	2	2
586	しゃーしゃー	39	6	39	1316	ひらりひらり	5	2	2
587	びしびし	39	6	39	1317	ぶるるっ	5	2	2
588	りんりん	39	6	39	1318	べこべこ	5	2	2
589	いざこざ	116	2	39	1319	ぼきん	5	2	2
590	ぼんぼん	58	4	39	1320	ぼちゃっ	5	2	2
591	ごろん	77	3	39	1321	ぼつつり	5	2	2
592	ぼっくり	76	3	38	1322	うおーん	2	5	2
593	くちゃくちゃ	38	6	38	1323	がぼがぼ	2	5	2
594	しとしと	38	6	38	1324	くしゃん	2	5	2
595	ちゃりん	38	6	38	1325	こちん	2	5	2
596	うねうね	45	5	38	1326	ごほんごほん	2	5	2
597	どろっ	45	5	38	1327	ずっぶり	2	5	2
598	のりくらり	45	5	38	1328	どでん	2	5	2
599	ひゅーひゅー	45	5	38	1329	ばかつ	2	5	2
600	うやむや	112	2	37	1330	べしゃり	2	5	2

601	こざっぱり	56	4	37	1331	へっへっ	2	5	2
602	つるり	56	4	37	1332	がくり	3	3	2
603	じゃぶじゃぶ	37	6	37	1333	がちん	3	3	2
604	びーびー	37	6	37	1334	がぼっ	3	3	2
605	しゅっ	44	5	37	1335	くーくー	3	3	2
606	のーのー	44	5	37	1336	ぐちゃり	3	3	2
607	ぼーん	44	5	37	1337	ぐっさり	3	3	2
608	ほやほや	44	5	37	1338	くにやり	3	3	2
609	とんちんかん	72	3	36	1339	ぐるん	3	3	2
610	ざーざー	36	6	36	1340	すぱり	3	3	2
611	どかどか	36	6	36	1341	どたんばたん	3	3	2
612	ひやっ	43	5	36	1342	にゆるり	3	3	2
613	わんさか	70	3	35	1343	によろり	3	3	2
614	がぶがぶ	42	5	35	1344	ばしゃん	3	3	2
615	きーん	42	5	35	1345	びちゃり	3	3	2
616	ひーひー	42	5	35	1346	ひよこり	3	3	2
617	じくじく	35	6	35	1347	びりり	3	3	2
618	じろっ	35	6	35	1348	ぶつつり	3	3	2
619	ずけずけ	35	6	35	1349	ぶつり	3	3	2
620	どぼん	35	6	35	1350	あんあん	4	2	1
621	くすり	69	3	35	1351	ういーん	4	2	1
622	うろちよろ	41	5	34	1352	えっさえっさ	4	2	1
623	ちよんちよん	41	5	34	1353	がたんがたん	4	2	1
624	ごくごく	34	6	34	1354	きーっ	4	2	1
625	しこしこ	34	6	34	1355	ぎりっ	4	2	1
626	すばすば	34	6	34	1356	ぐしゅぐしゅ	4	2	1
627	どーどー	34	6	34	1357	ぐたっ	4	2	1
628	ぼけっ	34	6	34	1358	くにくに	4	2	1
629	むにやむにや	34	6	34	1359	げーっ	4	2	1

630	がくっ	67	3	34	1360	こーん	4	2	1
631	けろっ	67	3	34	1361	ごってり	4	2	1
632	ころん	67	3	34	1362	ごっとなごっとな	4	2	1
633	どさくさ	99	2	33	1363	ちーちー	4	2	1
634	じんじん	66	3	33	1364	ちくりちくり	4	2	1
635	どさり	66	3	33	1365	つつ	4	2	1
636	もももこ	66	3	33	1366	でーん	4	2	1
637	にゅっ	33	6	33	1367	ねたねた	4	2	1
638	ばしゃばしゃ	33	6	33	1368	ばさり	4	2	1
639	ぶかぶか	33	6	33	1369	びゅーっ	4	2	1
640	ばーっ	49	4	33	1370	ひよひよ	4	2	1
641	ぞろり	39	5	33	1371	ふくふく	4	2	1
642	ぼつりぼつり	97	2	32	1372	へへへ	4	2	1
643	ごろり	64	3	32	1373	ぼたっ	4	2	1
644	ぎらり	48	4	32	1374	ぼちゃり	4	2	1
645	ぶっくり	48	4	32	1375	おんおん	2	4	1
646	じゃーじゃー	32	6	32	1376	がん	2	4	1
647	ぽっくり	32	6	32	1377	ごしゃごしゃ	2	4	1
648	がぶり	47	4	31	1378	じょきじょき	2	4	1
649	ぐーっ	62	3	31	1379	じょりじょり	2	4	1
650	びくり	62	3	31	1380	すぼん	2	4	1
651	ずぶずぶ	31	6	31	1381	ずん	2	4	1
652	よぼよぼ	31	6	31	1382	ねっちり	2	4	1
653	さーさー	92	2	31	1383	ぼかすか	2	4	1
654	ぼろっ	61	3	31	1384	ぼけっ	2	4	1
655	ぐらり	60	3	30	1385	もやっ	2	4	1
656	どきん	60	3	30	1386	うー	3	2	1
657	じわっ	45	4	30	1387	うわーん	3	2	1

658	ずばっ	45	4	30	1388	えへへ	3	2	1
659	くっくっ	36	5	30	1389	かっちん	3	2	1
660	でれでれ	30	6	30	1390	がぼり	3	2	1
661	たわわ	89	2	30	1391	かぼっ	3	2	1
662	ふらっ	89	2	30	1392	ぎっくり	3	2	1
663	つるん	59	3	30	1393	くいくい	3	2	1
664	ぎゃふん	35	5	29	1394	ごくんごくん	3	2	1
665	つべこべ	35	5	29	1395	ごっつ	3	2	1
666	とろっ	35	5	29	1396	ごぼり	3	2	1
667	がっぼり	29	6	29	1397	じゅわじゅわ	3	2	1
668	ぼっぼっ	29	6	29	1398	とっとっ	3	2	1
669	かちんかちん	43	4	29	1399	のたのた	3	2	1
670	どっきり	57	3	29	1400	びったり	3	2	1
671	ちゅーちゅー	34	5	28	1401	ふあっ	3	2	1
672	ずしり	56	3	28	1402	ぼきぼき	3	2	1
673	ぴょん	56	3	28	1403	ぼきり	3	2	1
674	じん	42	4	28	1404	きよろっ	2	3	1
675	むかっ	42	4	28	1405	ぐちゃっ	2	3	1
676	ゆらり	42	4	28	1406	ざんざん	2	3	1
677	しゃりしゃり	28	6	28	1407	じゃぼん	2	3	1
678	どかっ	28	6	28	1408	じゃりっ	2	3	1
679	どろん	28	6	28	1409	しんねりむっつ り	2	3	1
680	ぬめぬめ	28	6	28	1410	ちーん	2	3	1
681	むすっ	28	6	28	1411	ちゃぼん	2	3	1
682	わさわさ	28	6	28	1412	どたん	2	3	1
683	しわしわ	55	3	28	1413	どっきんどっき ん	2	3	1
684	はっはっ	33	5	28	1414	どてん	2	3	1

685	ぽっきり	41	4	27	1415	ピーポーピーポー	2	3	1
686	こくん	27	6	27	1416	ひっそりかん	2	3	1
687	きゃっきゃっ	40	4	27	1417	ひゅん	2	3	1
688	ごつん	40	4	27	1418	ひよこん	2	3	1
689	ばちっ	40	4	27	1419	ひりり	2	3	1
690	ほろり	40	4	27	1420	ぷりんぷりん	2	3	1
691	おちおち	32	5	27	1421	ぺちゃん	2	3	1
692	ばさっ	32	5	27	1422	ぼこり	2	3	1
693	まんじり	32	5	27	1423	もわーっ	2	3	1
694	くすっ	78	2	26	1424	ゆっさゆっさ	2	3	1
695	ばらり	39	4	26	1425	うふっ	2	2	1
696	ずどん	26	6	26	1426	えへらえへら	2	2	1
697	むっくり	26	6	26	1427	かたんかたん	2	2	1
698	ばっ	31	5	26	1428	がっちゃん	2	2	1
699	かーっ	77	2	26	1429	ぐしゃん	2	2	1
700	じわり	51	3	26	1430	くしゅん	2	2	1
701	びくっ	51	3	26	1431	くにか	2	2	1
702	きゅん	50	3	25	1432	ぐるりぐるり	2	2	1
703	ばしばし	50	3	25	1433	げー	2	2	1
704	びかっ	50	3	25	1434	こくりこくり	2	2	1
705	むちむち	30	5	25	1435	ごくりごくり	2	2	1
706	てらてら	25	6	25	1436	ごじゃごじゃ	2	2	1
707	ぺたん	25	6	25	1437	ことっ	2	2	1
708	ぼやぼや	25	6	25	1438	しばしば	2	2	1
709	みしみし	25	6	25	1439	しゃー	2	2	1
710	ふりふり	74	2	25	1440	しゃっしゃっ	2	2	1
711	さわさわ	37	4	25	1441	じゃらり	2	2	1
712	うだうだ	49	3	25	1442	すー	2	2	1

713	かちり	49	3	25	1443	ずーっ	2	2	1
714	ばたり	49	3	25	1444	ずるずるべった り	2	2	1
715	ぴりり	49	3	25	1445	ぞっくり	2	2	1
716	べったんこ	49	3	25	1446	つつー	2	2	1
717	しわくちゃ	73	2	24	1447	てっぺんかけた か	2	2	1
718	ちゃんぼん	73	2	24	1448	どぶり	2	2	1
719	ごとごと	29	5	24	1449	ねちゃねちゃ	2	2	1
720	ぼってり	29	5	24	1450	のっ	2	2	1
721	ぼーん	48	3	24	1451	はたり	2	2	1
722	ずしん	36	4	24	1452	ばらっ	2	2	1
723	たんまり	36	4	24	1453	ひくり	2	2	1
724	もっさり	36	4	24	1454	ひひ	2	2	1
725	ちゅっ	24	6	24	1455	びゅんびゅん	2	2	1
726	とっくり	24	6	24	1456	びろびろ	2	2	1
727	ぼくっ	24	6	24	1457	ペーペー	2	2	1
728	びたびた	24	6	24	1458	べちやっ	2	2	1
729	にたり	47	3	24	1459	ほーほけきよ	2	2	1
730	ぐーん	70	2	23	1460	ぼそり	2	2	1
731	どしん	35	4	23	1461	むわっ	2	2	1
732	はらり	35	4	23	1462	よろっ	2	2	1
733	ぶん	35	4	23	1463	りりーん	2	2	1

付表 2

原文	訳文
あっさりといった	简短地说
いらいらしてきたのだ	一股无名火起
うつらうつらとしていることに機嫌がさし	迷迷糊糊的总也睡不安稳

て	
がっかりしたような声を出した	失望地说
がっかりしました	很失望
がっかりします	很失望的
がっしりとしたものになっていた	健壮体格
がつんといっ	狠狠说一通
がらがらと音を立てて崩壊し始めた	某种东西开始轰然崩塌
ぎくりとした	吃了一惊
ぎくりとして振り返った	吓了一跳，回头看时
きちんと聞こえちゃうもんだから	声音听得很清晰
きちんとした答えが返ってこなかったら	一个切实的回答
きちんとした施設を建て直す	重建孤儿院
きちんと閉まってなかった	后门没关紧
きちんと職業の1つとして	当作职业来对待
きちんとしろって	门一定要锁好
きちんと説明して	好好跟他解释一下
きちんと勉強する	努力学习
きちんと報告していますよ	详细报告
きちんと詫びなければ	郑重地表达歉意
ぎっしりと詰め込まれていた	堆满了纸箱和箱包
ぎっしりと並んでいる	周围是一群古今中外名人的肖像
きっちりと閉めた	把门关紧
きっぱりとした御回答	干脆的回答
きっぱりと断言できるのかと	明确地断言
きっぱりと否定しておきます	斩钉截铁的否定
ぎゅっと縮こまるようだった	心头不由得一紧
ぎよつとした	吃了一惊
きらきらと輝いていた	他们的眼睛里都闪着光芒
きらきらと輝かせた	她的眼里闪着光芒

きらりと光った	一瞬间闪出光芒
ぎりぎり夏休みだ	暑假就要结束了
ぎりぎりまで期待を抱いていたかった	把期待保持到最后一刻
ぎりぎりまでもめた	一直意见不一
ぐずぐずするなっ	别磨蹭了
ぐっすりと眠った	一觉睡到天亮
ぐっと我慢しました	极力忍住了
ぐるぐると回っおりました	心头缠绕
ぐるぐると回る	盘旋
ぐんと伸び	突飞猛进
けちゃんけちゃん	体无完肤
げらげらと大口を開けた	哈哈大笑
げんなりされたことでしょう	让人目瞪口呆的问题
げんなりした	一阵厌烦
げんなりしたような顔で顎を擦った	扫兴地揉了揉下巴
ごくりと飲み	咕咚喝了一大口
こっそりしたくないよ	我可不想偷偷摸摸地逃跑
ごそごそして	嘎吱嘎吱地踩着地板回来了
ごちゃごちゃ言ってないで、風呂にでも入って	啰嗦了
こっくりと頷いた	点了点头
こっそり使えばいい	悄悄用
こっそりと家を出た	悄悄地出了门
こっそりと家を出た	她悄悄出了门
こっそりこの町を出ていくつもりです	偷偷离开小镇
こっそりと店の前を覗いた	偷偷观察店铺门口
こんこん、という物音が表から	砰砰
こんこん、と音がした	砰砰
さっさと新しい服を買ってもらえたが	马上给他买新衣服

さっさと歩きだした	快步离去
さっさとイギリスに帰ればいって	赶紧回英国
さっさと行け	快去
さっさと切り捨てるくせに	马上丢到一边
さっさと切り捨てるくせに	马上丢到一边
さっさと魚屋さんを	赶紧去继承鱼店吧
さっさと実家に帰れ	赶紧回家
さっさと寝ろ	赶快睡觉
さっさと寝ろ	赶紧去继承鱼店吧洗个澡睡觉
さっさと封筒に入れろ	快装进信封
さっさと見切りをつけて	马上跟这种父母一刀两断
さっさと辞めてしまいたい	好想赶快辞职啊
さっと開いた	门一下拉开
さっと眺め	扫了一遍目录
さっと引き込んだ	马上又缩了回去
さっと周りを見て、	扫视了一下四周
ざっと見たけど	大致找了一下
さっぱり理解できず	里面的内容看得他云里雾里
さっぱりわからない	一无所知
さっぱりわからなかった	完全摸不着头绪
さっぱりわからんので気になってたんだ	我也弄不明白所以很好奇
さっぱりわかりません	我完全不明白
さらりと答えた	轻快地回答
しげしげと眺めた	凝视着
自信たっぷりにはいきれのさだろう	充满自信
しっかりしていた	语气很坚定
しっかりしていた	语气也很坚定
しっかりと後ろで縛れ	手也牢牢反绑上
しっかりとした相手と結婚して	何有可靠经济能力的对象结婚

しっかりとした経済力を持った	我希望成为独立自主又有经济能力的女人
しっかりとしたコンセプトの下に	先进理念的指导下
しっかりとした将来のプランが返ってくる	详实地回答将来的计划
しっかりとした治療	积极地接受治疗
しっかりと保っていた	外观却保持完好
しっかりと糊付けしてあるのは	发现封得很严实
しっかりね	多保重啊
しっかりやった	努力地念书
じっくり調べたけど	仔细检查
じっくりと見たことはないが	仔细看过
じっと敦也の顔を見つめてきた	目不转睛地望着
じっと彼のことを見つめていた	眼也不眨地望着他
じっとしているんだ	老实待着
じっとしてはいられない	就不能当没看见
じっと机の表面を見つめた	怔怔地做了好一会儿盯着办公室
じっと覗き込んだ	目不转睛地盯着
じっと浩介の目を見つめてきた	定定地望着
じっと見上げてた	她盯着这家店的招牌，目不转睛地看了好一会儿
じっと店を見つめていた	定定地望着杂货店
じっと見つめた後	盯着我们看克郎看了半天
じっと見つめて返してきた	定定地望着他
じっと向けてきた	定定地看着他
しどろもどろになりながら答えた	结结巴巴地回答了
しみじみとした口調で言った	感慨地说
じゃーん、と出して出した右手には	“锵”，伸出的手上
じゃらじゃら、という音がした	一阵哗啦哗啦的声音
しれっという	外岛平静地回答
じろじろ見なくても	盯着我们看

じろじろみるかな	盯着我们看
じろじろみるやつだったらどうする	盯着我们看
じろりと浩介をみて	锐利的目光望着浩介
しんと静まり返っていた	鸦雀无声
ずけずけと遠慮なく書ける	没有丝毫顾虑
すっかり大人びている	俨然已是大人的模样
すっかり元気になってるんだもの	整个人精神焕发
すっかり元気をなくしてしまった	整个人都垮了
すっかり年老いた館長が	院长已经老了
すっきりしました	觉得很痛快
すっと息を吸い込んでから	轻吸了一口气
すっぽりと記憶が抜け落ちている	她至今都无法记起
すとん、とやけに大きな音がし、	只听见咚的一声
すぱっと競技をやめたほうがいい	干脆放弃比赛
ずばりと意見をぶつけてくる	总是一针见血地抛出意见
ずばりと言われて	一针见血
ずらりと並んだパイプ	整齐地排列着
ぞくぞくした	都背上发寒
ぞくりとしたので	全身冷飕飕的
そっと開けて見下ろすと	悄悄推开窗往下望去
そっと開けてみた	轻轻地打开牛奶箱
そろそろ	快了
そろそろ家を買おうって話になってさ	该卖房的时候了
そろそろ裏口を開けるぞ	该把后门打开了
そろそろ音楽の道は	差不多该放弃音乐这条路了
そろそろクォーツに買い替えようかなと考 えた	捉摸着换快石英表
そろそろ高校受験のことを考えてくれない と	也该想想考大学的事了

そろそろどうかなと思って	我还以为你出了什么事儿呢
そろそろ二十年になるか	差不多快二十年了
そろそろ始めたいという	演出可以开始了
そろそろ店を畳んだらどうだ	差不多也该收店了吧
そろそろやばいなと思った	他觉得快要不妙了
たっぷりと残っていた白髪も	白发还很浓密
だんだんと真剣な内容が増えてきた	渐渐严肃的咨询多了起来
ちっ	噫
ちっと協力しろ	你就配合点吧
ちっと舌を鳴らした	咂了下嘴
ちゃんと、払えてるのかい	付得起吗
ちゃんと考えてある	我会好好考虑
ちゃんと考えている	好好考虑
ちゃんと考えている	这个问题我会好好考虑的
ちゃんと考えているから	好好考虑
ちゃんと考えてよ	好好想想吧
ちゃんと答えているし	详细地回答了我的问题
ちゃんとしていたら	要是你像样一点
ちゃんとデビューできている	风光出道了
ちゃんと封筒が入っていた	果然放了一封回信
ちょくちょく出てくる	频频出现
ちょこちょこっと演奏の真似事やって	匆匆把演出糊弄过去
ちょろちょろと周りを見回しながら歩いた	四下张望
ちらっと見ただけで	瞄一眼
ちらほらと目につくようになった	零星出现
ちらりと	瞥了一眼
ちらりと刑事の顔を見て	迅速瞥了刑警一眼
ドキドキした	心怦怦直跳
ドキドキしたが、今は慣れた	她心里怦怦直跳

どきどきしながら晴美は答えた	忐忑地回答
どきどきしながら読み始めた	忐忑不安地读了起来
どきりとした	心中一震
どきりとした。	浩介大吃一惊
どきりとするほど	令人吃惊
どたどたと駆け寄る足音がして	急促的脚步声响起
どっぷり浸かったら	那种今朝有酒今朝醉的日子过久了
どんと胸を突いてきた	砰地当胸一拳
どんどん入れ替わるように	一批批
にこにこ笑って頷いた	莞尔一笑
のっそりと戻ってきた	慢吞吞地回来
のほほんとしている	吊儿郎当
のろのろと起き上がった	慢吞吞地起身
のんびりしていいのか	混日子
のんびりしているわけ	混日子
のんびりとした口調	慢悠悠地说
ぱさり、と下に落ちる音がかすかに聞こえた	啪嗒一声，音乐地传来信封落地的声音
ぱさり、と何かが落ちた音	啪嗒一声，有什么东西掉在地上
ぱさり、と何かが落ちる音がした	啪
ぱさりと落ちる音が聞こえた	只听见啪嗒一声
ぱたん、と占める音も届いた	啪嗒一声
ぱたんと閉める音	啪嗒一声
ぱちぱちぱちと拍手してくれた	噼噼啪啪地鼓起掌来
はっきりいいます	老实跟你说吧
はっきりいうと	说白一点
はっきりいって	坦白说
はっきりいって	老实说
はっきりいって	坦白跟你讲
はっきりいって、不安	坦白地说

はっきり書いておられる	直率地说
はっきり答えてやれば	明白地跟她说
はっきりさせなきゃ	搞清楚
はっきりしているのは	唯一清楚的
はっきりとっておくが	老实地跟你讲
はっきりといわれて	直言不讳
はっきりと男に言えばいい	直接跟他讲明
はっきりと覚えていなかった	记不大清楚
はっきりと答えられない	明确地回答
はっきりとは覚えていない	记不清楚了
はっきりとわかった	清楚地知道这一点
はっと息を呑む気配が走った	似乎被噎住了
はっと息を呑んだ	晴美大吃一惊
はっとした	顿时吃了一惊
はっとした	她不由得大吃一惊
はっとした	晴美吃了一惊
はっとしたように動きを止めた	吃惊地僵住了
ぱっとしない街がねえ	不起眼的街道
はっとしました	我吃了一惊
はっとしました	我不禁心中一惊
バラバラで	内心很自我
ばらばらで	心已经疏远，演出也是乱唱一气
ばらばらになってしまうことです	分崩离析
ばりばりとがんばらなきゃ	要努力工作
びくびくと動かしながら	眉毛不住抽动
びくりとも動かさないのだ	一动也不能动了
びしゃりと閉じた	砰地关上了门
びっくり	吓了一跳
びっくりした	他打心底大吃一惊

びっくりしたわよ	吓了一跳
びっしょりで構内を不安そうに歩いている	满头大汗地进来
びっしりと並んでいる	密密麻麻写满了秀气的字
びっしりと文字が綴られている	密密麻麻写满了
びっしり並んでいた	整齐地排列着写满了
ひっそりと薄闇の中に佇んでいた	静静地立在夜色中
ひっそりと残っていた	依然保持着原样
ぴったりと閉じられている	盖得严严实实
ぴったりと閉じられている	后门关得紧紧的
ひらひらさせた	扬着信纸问
ひらひらさせた	他扬了扬信封
びりびりと破った	唰唰几下撕成碎片
ぴりりとドアを閉めた	砰的一生关上了门
ぴんときた	恍然大悟
ぴんときたらしかった	心里立刻有数了
ぴんとかない話だった	让人看不懂的字眼
ピンとかないんだよね	不敢相信
ぴんとかなかった	没反应过来
ふうっと息を吐いた	“呼”地松了口气
ふうっと息を吐いた	呼地吐出一口气
ふーっと長い息を吐いた	敦也“呼”地长出了一口气
ぶっきらぼうな口調	粗声粗气地问
ぶっきらぼうな口調でいった	店员口气生硬地说
ぶっきらぼうな口調だった	他的口气很生硬
ぶっきらぼうにいい放った	不容分说地下了结论
ふっと吐息をついた	妈妈桑呼地吐出一口气
ふっと含み笑いを漏らした	突然不出声地笑了
ぶつぶついいながら	抱怨
ぶつぶついつている	咕哝

ぷつんと音を立てて切れた	某根弦啪地断了
ふん、と鼻を鳴らし	说完哼了一声
ふん、と鼻を鳴らす音が聞こえた	哼了一声
ふんと強く鼻を鳴らした	敦也重重地哼了一声
ふんと鼻を鳴らし	冷哼一声
ふんと鼻を鳴らした	冷哼了一声
ふんと鼻を鳴らした	冷哼了一声
ふんと鼻を鳴らした	哼了一声
ふんと鼻を鳴らした	冷哼了一声
ふんと鼻を鳴らした	哼了一声
ふんと鼻を鳴らした	敦也见状哼了一声
ぺったりと固めてある	头发紧紧贴在头皮上
べつりと塗ったマヤの唇が歪んだ	涂得血红的嘴唇
ぼそぼそと話し始めた	嘀嘀咕咕地讨论
ぼそりといった	幸平突然冒出一句
ぼそりと答えた	含糊地回答
ほっとしています	总算放心了
ほっとしました	终于放心了
ほっとしました	让我松了一口气
ぼつりといった	冒出一句
ぼつりといった.	咕哝了一句
ぼつりと呟いた	幸平突然幽幽地说
ぼろぼろ出る	眼泪簌簌直掉
ぼんぼんと叩いた	砰砰地敲着咨询信
ぼんやりしていた	恍惚了好一会儿
ぼんやりと回想にふけっていると	贵之才回过神来正沉浸在回忆中
ぼんやりと壁の絵を眺めた	心不在焉地望着墙上的画
ぼんやりと画面を眺めていた彼女だったが	晴美心不在焉地看着画面
ぼんやりと考えた	茫然地想

ぼんやりと考えた	恍恍惚惚地想着
ぼんやりと考えていた	不经意间想到的
ぼんやりと考えながら	晴美朦胧地想着
ぼんやりとしていた	怔怔地做了好一会儿
ぼんやりと脳裏に浮かんできた	朦胧地浮现在他脑海中
無茶苦茶なことというなよ	异想天开的话
むっとした	觉得空气很闷
黙々と手を動かしている	默默地炒着菜
ゆっくり：ごゆっくり	请您自便
ゆっくりと歩いていた	慢慢地走着
ゆっくりと歩き始めた	慢慢往前走
ゆっくりと家の脇を通った	蹑手蹑脚地绕到房屋侧面
ゆっくりと頷いた	慢慢点头
ゆっくりと顔を上げた	她慢慢地抬起头
ゆっくりとかぶりを振った	缓缓摇头
ゆっくりと首を振った	缓缓摇头
ゆっくりと車を動かした	缓缓发动汽车
ゆっくりと貴之の方に顔を巡らせた	缓缓摇头望向贵之
ゆっくりと貴之の方に向いた	缓缓地望向贵之
ゆっくりと貴之の方に向けた	慢慢转向贵之
ゆっくりと立ち上がり	慢慢站起身
ゆっくりと近づいた	他慢慢走近
ゆっくりと近づいた	慢慢走近
ゆっくりと近づいていった	慢慢走过去
ゆっくりと近づいてくる	慢慢走了过来
ゆっくりと発進する	缓缓前进
ゆっくりと開いた	慢慢打开
ゆっくりと吹き始めた	徐徐吹奏起来
ゆっくりと吹き始めた	悠悠地吹奏起来

ゆっくりとペダルをこぎ始めた	徐徐踩下踏板
ゆっくりと瞬きしながら	缓缓眨了眨眼睛
ゆっくりと右手を上げた	慢慢站起身扬起右手
ゆっくりと店の前に寄せて停めた	徐徐吹奏起来停在店前
ゆっくり話せなかったので	好好聊几句
ゆっくり見ていってください	您尽管慢慢看
ゆったりとしたバラード調のメロディだ	流畅的叙事曲风格
ゆらゆらと頭を振った	轻轻摇了摇头

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々に多大な御支援を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

まず、指導教員である石川慎一郎先生には、神戸大学国際文化学研究科博士後期課程の研究生として入学した時から、4年間にわたり、研究活動全般において終始丁寧かつ熱心なご指導・ご鞭撻をいただきました。コーパス言語学をはじめ、言語研究・日本語学研究の面白さを教えてくださったとともに、研究者として、さらに人間としてあるべき姿、すばらしい人間性を示してくださいました。そして、研究遂行に際し激励くださったこと、辛抱強く付き合ってくださいましたことを心より深謝申し上げます。

次に、柏木治美先生、木原恵美子先生、グリア・ティモシー先生、朱春躍先生、大和知史先生には、集団指導をはじめ、多くの機会に貴重なコメントや助言をいただきました。そして、統計数理研究所の研究会、語彙研究会大会、計量国語学会では、発表の機会をいただき、統計数理研究所の前田忠彦先生には統計学、語彙研究会会長の田島毓堂先生には比較語彙研究学、計量国語学会会長の荻野綱男先生、国立国語研究所の山崎誠先生、丸山岳彦先生、名古屋工業大学の石川有香先生には、コーパス言語学の立場から専門的な御教示をいただきました。心より感謝いたします。

また、上述の語彙研究会より平成30年度「公益信託田島毓堂語彙研究基金」研究助成をいただきました。ご支援により、オノマトペの持つ言語特性の調査をすべて完了させることができました。また、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業により令和元年度「科学研究費補助金特別研究員奨励費」をいただきました。ご支援により、中日両言語におけるオノマトペの比較や中国人日本語学習者が実際に抱えている問題点の解明を行うことができました。これらの助成により本論文の完成度が高まりました。また、中国国家留学基金管理委員会及び文部科学省より国費奨学金をいただき、生活費を心配することなく、研究に専念することができました。誠にありがとうございました。

最後に、絶えずに励ましてくださった華中師範大学日本語学科の李俄憲先生、呂衛清先生、武漢大学の曾丹先生、研究室の皆様、日本語ひろばの宮武寿美雄先生、家族に感謝の意を表します。特に、両親と娘の愈希の笑顔は執筆の原動力となりました。

このように、本論文が完成することができたのは多くの方々の支えのおかげです。心から感謝いたします。